令和７年度　焼津市焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

【 意　匠 】

特-001	建築工事特記仕様書（１/９）
特-002	建築工事特記仕様書（２/９）
特-003	建築工事特記仕様書（３/９）
特-004	建築工事特記仕様書（４/９）
特-005	建築工事特記仕様書（５/９）
特-006	建築工事特記仕様書（６/９）
特-007	建築工事特記仕様書（７/９）
特-008	建築工事特記仕様書（８/９）
特-009	建築工事特記仕様書（９/９）
特-010	施工条件特記仕様書
A-001	敷地案内図
A-002	配置図
A-003	敷地求積図
A-004	求積図（建築面積・延床面積）
A-005	求積図（１階室面積）
A-006	地盤高さ算定図
A-007	仕上表１
A-008	仕上表２
A-009	仕上表３
A-010	仕上表４
A-011	標準詳細図１
A-012	標準詳細図２
A-013	標準詳細図３
A-014	１階平面図
A-015	ピット図・キャットウォーク階平面図
A-016	屋根伏図
A-017	立面図１
A-018	立面図２
A-019	断面図１
A-020	断面図２
A-021	平面詳細図１
A-022	平面詳細図２
A-023	平面詳細図３
A-024	平面詳細図４
A-025	平面詳細図５
A-026	平面詳細図６
A-027	平面詳細図７
A-028	平面詳細図８
A-029	平面詳細図９
A-030	平面詳細図１０
A-031	平面詳細図１１
A-032	平面詳細図１２
A-033	平面詳細図１３
A-034	平面詳細図１４
A-035	矩計図１
A-036	矩計図２
A-037	矩計図３
A-038	矩計図４
A-039	矩計図５
A-040	矩計図６
A-041	矩計図７
A-042	矩計図８
A-043	矩計図９
A-044	矩計図１０
A-045	矩計図１１
A-046	矩計図１２
A-047	矩計図１３
A-048	矩計図１４

A-049	矩計図１５
A-050	矩計図１６
A-051	矩計図１７
A-052	屋外階段詳細図
A-053	屋外点検ハッチ詳細図
A-054	展開図１
A-055	展開図２
A-056	展開図３
A-057	展開図４
A-058	展開図５
A-059	展開図６
A-060	展開図７
A-061	展開図８
A-062	展開図９
A-063	展開図１０
A-064	展開図１１
A-065	展開図１２
A-066	展開図１３
A-067	展開図１４
A-068	展開図１５
A-069	展開図１６
A-070	１階天井伏図
A-071	キャットウォーク階天井伏図
A-072	１階建具キープラン
A-073	キャットウォーク階建具キープラン
A-074	建具表１
A-075	建具表２
A-076	建具表３
A-077	建具表４
A-078	建具表５
A-079	建具表６
A-080	建具表７
A-081	建具表８
A-082	1階家具キープラン
A-083	家具図１
A-084	家具図２
A-085	家具図３
A-086	サインキープラン
A-087	サイン図
A-088	吊バトン暗幕特記仕様書
A-089	1階バトン取付平面図
A-090	1階暗幕取付平面図
A-091	キャットウォーク階暗幕取付平面図
A-092	単結図及び盤姿図
A-093	体育器具図(1)
A-094	体育器具図(2)
A-095	体育器具図(3)
A-096	ボルダリングウォール図
A-097	外壁アルミルーバー図
A-098	1階 体育室 床伏図
A-099	1階 体力測定室 床伏図
A-100	鋼製床断面詳細図
A-101	屋根詳細図(1)
A-102	屋根詳細図(2)
A-103	ｼｬﾜｰﾕﾆｯﾄ詳細図
A-104	可動間仕切り1階平面図(参考図)
A-105	可動間仕切り詳細図(参考図)
A-106	解体図(既存配置図)
A-107	解体図(屋外トイレ)
A-108	解体図(倉庫)

A-109	解体図(その他1)
A-110	解体図(その他2)
A-111	解体図(その他3)
A-112	日影図
A-113	平均地盤算定図
A-114	公図写
	外構
C-001	撤去・伐採平面図
C-002	撤去・伐採数量表
C-003	計画高さ平面図
C-004	植栽平面図
C-005	割付平面図
C-006	舗装・縁石平面図
C-007	施設平面図
C-008	詳細図-1
C-009	詳細図-2
C-010	詳細図-3
C-011	詳細図-4
C-012	詳細図-5
C-013	詳細図-6
C-014	詳細図-7
C-015	詳細図-8
C-016	詳細図-9
C-017	詳細図-10
C-018	詳細図-11
C-019	詳細図-12
C-020	詳細図-13
C-021	詳細図-14
C-022	撤去詳細図-1
C-023	撤去詳細図-2
C-024	土地利用計画平面図
C-025	緑化計画平面図
C-026	造成計画断面図
C-027	外構施設構造図(側溝展開図)
C-028	外構施設構造図(側溝・見切工)
C-029	外構施設構造図(集水桝)
C-030	防災施設構造図(地下式調整池)
C-031	防災施設構造図(余水吐・管理桝)
K-001	仮設計画図1(杭工事準備表層改良範囲)(残土仮置場)
K-002	仮設計画図2(土工事)
K-003	仮設計画図3(基礎工事)
K-004	仮設計画図4(鉄骨建方時　通路用埋戻し範囲図)
K-005	仮設計画図5(鉄骨工事)
K-006	仮設計画図6(屋根工事)
K-007	仮設計画図7(県道乗入改修)
K-008	概略工程表

【 構　造 】

S-001	構造設計特記仕様書
S-002	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)
S-003	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)
S-004	鉄骨構造標準図(1)
S-005	鉄骨構造標準図(2)
S-006	鉄骨構造標準図(3)
S-007	鉄骨梁貫通孔補強工法　OSリング工法設計施工標準図
S-008	S造向け 型枠用ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ SFﾃﾞｯｷ(ｾｰﾌﾃｨﾌﾗｯﾄ)設計・施工標準
S-009	ﾍﾞｰｽﾊﾟｯｸNT柱脚工法設計施工標準図1
S-010	ﾍﾞｰｽﾊﾟｯｸNT柱脚工法設計施工標準図2
S-011	ﾍﾞｰｽﾊﾟｯｸ柱脚工法設計施工標準図(Ⅱ型)
S-012	ﾍﾞｰｽﾊﾟｯｸ柱脚工法設計施工標準図(Ⅰ型)
S-013	ﾍﾞｰｽﾊﾟｯｸ柱脚工法設計施工標準図(円型)1
S-014	ﾍﾞｰｽﾊﾟｯｸ柱脚工法設計施工標準図(円型)2
S-015	ﾊﾟｲﾙｽﾀｯﾄﾞ工法 設計・施工 標準図
S-016	梁貫通孔補強材 ﾀﾞｲｱﾚﾝNS設計・施工標準仕様書
S-017	土質柱状図
S-018	杭伏図・基礎伏図
S-019	基礎ﾘｽﾄ・RC柱型ﾘｽﾄ
S-020	地中梁ﾘｽﾄ・地中小梁ﾘｽﾄ・ｽﾗﾌﾞﾘｽﾄ
S-021	補強筋・雑配筋図
S-022	基礎詳細図1
S-023	基礎詳細図2
S-024	R1階梁伏図・R1(上部)階梁伏図
S-025	ｷｬｯﾄｳｫｰｸ伏図・R2階梁伏図
S-026	軸組図1
S-027	軸組図2
S-028	鉄骨部材ﾘｽﾄ
S-029	鉄骨架構詳細図1
S-030	鉄骨架構詳細図2
S-031	鉄骨架構詳細図3

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号　大橋康孝

検印	総括	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和７年６月		関図 望月

設計 NO.

工事名　令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名　表　紙

縮尺　A1：N/S　A3：N/S

図面 NO.　A－０００

建築工事特記仕様書

第１　工事概要

1 工事名称　令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）
2 工事場所　焼津市焼津四丁目　地内
3 敷地面積　5,384.71 ㎡
4 都市計画　⊙ 都市計画区域内　・準都市計画区域内　・都市計画区域外
・線引　（⊙ 市街化区域　・市街化調整区域 ）　・非線引
5 用途地域　⊙ 第一種住居地域、第二種住居地域
6 防火地域　・防火地域　・準防火地域　⊙ 指定なし
7 その他の地域・地区　⊙ 風力係数算定のための地表面粗度区分　（・Ⅱ　⊙ Ⅲ）
⊙ 風圧力算定のための基準速度　Ｖo＝　32　m/s
・積雪荷重　H12建設省告示1455号における区域　別表（※24　・　）
・騒音規制法に基づく指定区域　（・１種　・２種　・３種　・４種）

8 建物概要

建物名称	構造・階数	工事種別	建築面積㎡	延べ面積㎡	備考
体育館棟	S造　平屋	新築	3,029.73	2,961.31	
自転車置場1			7.50	15.60	
自転車置場2			7.50	15.60	
計			3,044.73	2992.51	

9 工事内容
体育館棟及び自転車置場の新築工事
外構及び植栽工事(舗装工事含む)

第２　仕様

1 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和４年版」(以下「標準仕様書」という。)によるほか、下記仕様書のうち、○印を付いたものを適用する。
⊙ 土木工事共通仕様書
⊙ 建築工事標準図(令和４年版)（以下、標準詳細図という。）
⊙ 建築物解体工事共通仕様書(令和４年版)
⊙ 「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)令和４年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（以下「改修標準仕様書」という。）
⊙ 営繕工事写真撮影要領(令和3年版)、工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編(平成30年版)
2 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、それぞれの特記仕様書を適用する。
なお、電気設備工事の特記仕様書は（　）図、機械設備工事の特記仕様書は（　）図による。
3 設計図の内容に明記がない場合、又は相違ある場合は、原則として監督職員の指示によるほか、次の優先順位により判定する。
(1)質問回答書((2)から(6)までに対するもの)　(2)現場説明書　(3)特記仕様書
(4)別冊の図面　(5)設計書　(6)標準仕様書・改修標準仕様書
4 本特記仕様書の表記
(1)項目は、番号の前に○印の付いたものを適用する。
(2)特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は※印の付いたものを適用する。
○印と※印の付いた場合は、共に適用とし、適用範囲は図示とする。
(3)特記事項に記載の(，，)の表示番号は、「標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。
(4)[G] 印は「静岡県環境物品等の推進に関する基本方針」の公共工事に関わる特定調達品目を示す。
(5)受注者は南海トラフ地震に関連する情報（地震）が気象庁から出された場合には、工事中断の措置をとるものとし、これに伴う必要な補強・落下防止等の保全処置を講じなければならない。
上記事実が発生した場合は、焼津市建設工事請負契約約款第26条(臨機の措置)の規定による。
(6)標準仕様書で「特記がなければ」、以降に具体的な材料・品質性能・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令(条例を含む)の改正等により抵触する場合には、関係法令等の遵守(1.1.13)の規定を優先する。

第３　電子納品等

1 納品の仕様等は電子納品特記仕様書及び電子納品運用ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝによる。
2 貸与する設計図CADﾃﾞｰﾀの有無　※ 有り　・ 無し
3 貸与するCADﾃﾞｰﾀの使用範囲
当該工事のために必要な施工図及び完成図の作成の範囲で使用できる。

１章　各章共通事項

○ 1　工事実績情報ｼｽﾃﾑ（CORINS）への登録　(1.1.4)
受注時又は契約変更時に工事請負代金額500万円以上の工事について、工事実績情報ｼｽﾃﾑ(CORINS)に登録すること。また、契約変更により工事請負代金額が500万円未満になった場合は、すみやかに契約変更前の工事登録を削除すること。なお、契約金額の変更登録は、完成時のみとする。

○ 2　工事の一時中止　(1.1.9)
焼津市建設工事請負契約約款第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間中における工事現場の管理に関する計画書(以下「基本計画書」という。)を発注者に提出し、承諾を受けるものとする。なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、労務者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにする。
また、工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。

○ 3　各工事の施工計画　(1.2.2)
⊙ 仮設工事　⊙ 土工事　⊙ 地業工事　⊙ 鉄筋工事　⊙ ｺﾝｸﾘｰﾄ工事　⊙ 鉄骨工事
・ ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ　・ ALCﾊﾟﾈﾙ　⊙ 押出成形ｾﾒﾝﾄ板　⊙ 防水工事　・ 石工事
・ ﾀｲﾙ工事　⊙ 木工事　⊙ 屋根及びとい工事　⊙ 金属工事　⊙ 左官工事
⊙ 建具工事　・ ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ　⊙ 塗装工事　⊙ 内装工事　⊙ ﾕﾆｯﾄ及びその他　⊙ 排水工事
⊙ 舗装工事　⊙ 植栽工事　・ 解体工事

○ 4　施工図等の取扱い　(1.2.3)
施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

○ 5　設備工事との取合い　(1.2.3)
施工範囲　※ 工事区分表による　・
施工図　設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。

○ 6　電気保安技術者　(1.3.3)
※ 適用する

7　発生材の処理等　(1.3.11)
・ 引渡しを要するもの
・ 金属類　・ PCB含有物
・ 特別管理産業廃棄物
・ 廃石綿　・ 鉛含有物
・ 現場において再利用を図るもの
・

○ 8　産業廃棄物管理票
(財)日本産業廃棄物処理振興ｾﾝﾀｰ（http://www.jwnet.or.jp）が運営する「情報処理ｾﾝﾀｰの登録(電子ﾏﾆﾌｪｽﾄ)により行うこと。これにより難い場合は監督職員と協議する。

○ 9　建設副産物情報交換システム
本工事の情報を「建設副産物情報交換ｼｽﾃﾑ（COBRIS）」へ登録するものとし、総合施工計画書作成時、工事完了時及び登録情報に変更が生じた場合には、それぞれ速やかにﾃﾞｰﾀ入力を行う。また、同ｼｽﾃﾑにより、工事着手時に再生資源利用計画書、再生資源利用促進計画書及び建設副産物情報交換ｼｽﾃﾑ工事登録証明書を、工事完了時に同計画書の実施報告書（書式は同一）を作成し、監督職員に提出する。

○ 10　特定建設資材の処理
本工事は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」第9条による分別解体等実施義務の対象建設工事となることが想定されるため、同法に基づき分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施について適切な措置を講ずることとする。
工事契約後に明らかになったやむを得ない事情により、予定していた条件により難い場合は、監督職員と協議するものとする。
また、分別解体・再資源化等の完了時に、再資源化等が完了した年月日、再資源化等をした施設の名称及び所在地、再資源化等に要した費用を書面にて監督職員に報告する。
・ 分別解体等の方法（解体工事）

	工程	作業内容	分別解体等の方法
工程ごとの作業内容及び解体方法	(1)建築設備、内装等	建設設備、内装材の取り外し ・有　・無	※ 手作業 ・ 手作業・機械作業の併用 併用の場合の理由（　）
	(2)屋根ふき材	屋根ふき材の取り外し ・有　・無	※ 手作業 ・ 手作業・機械作業の併用 併用の場合の理由（　）
	(3)外装材、上部構造部材	外装材、上部構造の取壊し ・有　・無	・ 手作業・機械作業の併用
	(4)基礎、基礎ぐい	基礎、基礎ぐいの取壊し ・有　・無	・ 手作業・機械作業の併用
	(5)その他（　）	その他の取壊し ・有　・無	・ 手作業・機械作業の併用

⊙ 分別解体等の方法（新築、修繕、模様替え工事）

	工程	作業内容	分別解体等の方法
工程ごとの作業内容及び解体方法	(1)造成等	造成等の工事 ・有　・無	※ 手作業 ・ 手作業・機械作業の併用
	(2)基礎、基礎ぐい	基礎、基礎ぐいの工事 ・有　・無	※ 手作業 ・ 手作業・機械作業の併用
	(3)上部構造部材 外装	上部構造部材、外装の工事 ・有　・無	※ 手作業 ・ 手作業・機械作業の併用
	(4)屋根	屋根の工事 ・有　・無	※ 手作業 ・ 手作業・機械作業の併用
	(5)建築設備、内装等	建築設備、内装等の工事 ・有　・無	※ 手作業 ・ 手作業・機械作業の併用
	(6)その他（　）	その他の工事 ・有　・無	※ 手作業 ・ 手作業・機械作業の併用

・ 特定建設資材廃棄物の種類と再資源化等をする施設

特定建設資材廃棄物の種類	再資源化等をする施設の名称	所在地
・ ｺﾝｸﾘｰﾄ		
・ ｺﾝｸﾘｰﾄ及び鉄から成る建設資材		
・ 木材		
・ ｱｽﾌｧﾙﾄ、ｺﾝｸﾘｰﾄ		

通知に係る事項の説明時に上記と異なる施設(同種の再資源化等を行う施設に限る)を受注者が提示した場合は、当該施設に搬出することができる。ただし、当該施設への変更については設計変更の対象としない。

○ 11　環境への配慮　(1.4.1)
建築物内部に使用する材料等は、設計図書に所要の品質及び性能を有すると共に、次のアからエを満たすものとする。
ア　合板、木質系ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ、構造用ﾊﾟﾈﾙ、集成材、単板積層材、MDF、ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ、その他の木質建材、ｺﾙｸ樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗料は、ｱｾﾄｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ及びｽﾁﾚﾝを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
イ　接着剤及び塗料は、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ及びｽﾁﾚﾝﾝﾍﾞﾝゾンの含有量が少ない材料を使用する。
ウ　接着剤は、可塑性(ﾌﾀﾙ酸ｼﾞｰﾛｰﾌﾞﾁﾙ及びﾌﾀﾙ酸ｼﾞ-2-ｴﾁﾙﾍｷｼﾝを含有しない難揮発性の可塑剤を除く)が添加されていない材料を使用する。
エ　アの材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ｱｾﾄｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ及びｽﾁﾚﾝを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

○ 12　材料の品質等　(1.4.2)
(1)本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
(2)備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。
(3)標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
(4)本工事に使用する材料のうち(5)に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料(外部機関が発行する証明書の写し等)を監督職員に提出して承諾を受ける、ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。
①品質及び性能に関する試験データを整備していること。
②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。
③安定的な供給が可能であること。
④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。
⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。
(5)製造業者等に関する資料の提出を求める材料
⊙ 鉄骨柱下無収縮ﾓﾙﾀﾙ　⊙ 無収縮ｸﾞﾗｳﾄ材　・ 乾式保護材(防水立上り部)
・ 既調合ﾓﾙﾀﾙ(ﾀｲﾙ工事用)　・ 既調合目地材　⊙ ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ　・ 吸水調整材
⊙ 錠前類　⊙ ｸﾛｰｻﾞｰ類　⊙ 自動扉機構　⊙ 自閉式上吊り引き戸機構(手動開き式)
・ 重量ｼｬｯﾀｰ　・ 軽量ｼｬｯﾀｰ　・ ｵｰﾊﾞﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ　・ 防水剤
⊙ 現場発泡断熱材(特定ﾌﾛﾝによるものを除く)　・ ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ　・ 可動間仕切り
・ 移動間仕切り　・ ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ　・ 煙突用成形ﾗｲﾆﾝｸﾞ材　⊙ 天井点検口　⊙ 床点検口
・ ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ　・ 屋上緑化用ｼｽﾃﾑ　・ ﾄｯﾌﾟﾗｲﾄ　・ ｴﾎﾟｷｼ樹脂
・ ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　・ 鋳鉄製ふた

○ 13　材料の検査等　(1.4.4)
現場に搬入したすべての材料について、自主検査記録(任意様式)を提出すること。ただし、次表に掲げる材料については監督職員の検査を受ける。
なお、監督職員の検査の結果、合格した材料と同じ種別の材料は以後原則として抽出検査とする。
また、製造工場等における材料検査を行う工事材料は監督職員の指示による。

材料名称

仮設工事 ・ ・	防水工事 ⊙ 防水材 ⊙ 断熱材、接着剤 ⊙ ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・ ・	**塗装工事** ⊙ 塗料 ・ ・
土工事 ※ 埋め戻し、盛土材 ・ ・	石、ﾀｲﾙ工事 ・ 石材 ・ 取付金物 ・ ﾀｲﾙ ・ ﾀｲﾙ張付け用材料 ・ ・	**内装工事** ⊙ ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ ・ ｶｰﾍﾟｯﾄ ・ 合成樹脂塗床材 ⊙ ﾌｫｰﾘﾝｸﾞ ・ 畳 ⊙ せっこうﾎﾞｰﾄﾞ ⊙ 壁紙 ⊙ 断熱、防露材 ・ ・
地業工事 ・ 砕石 ※ 杭 ・ 杭施工混和材 ・ 溶接材料 ・ 杭頭補強筋 ・ 地盤改良材 ・ ・	木工事 ⊙ 木材 ・ 集成材 ・ ・ 屋根、とい工事 ⊙ 長尺金属板 ・ 折板 ・ 粘土瓦 ・ とい ・ ・	**ﾕﾆｯﾄ、その他工事** ・ ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ ・ 可動間仕切 ⊙ ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ ・ ・
鉄筋工事 ※ 鉄筋 ・ 溶接金網 ・ ｽﾘｰﾌﾞ補強筋(既製品) ・ ・	金属工事 ・ 金属製品 ⊙ 軽量鉄骨天井下地 ⊙ 軽量鉄骨壁下地 ・ あと施工ｱﾝｶｰ ・ ・	**排水工事** ・ 排水管 ・ 排水桝 ・ ・
ｺﾝｸﾘｰﾄ工事 ・ 型枠 ・ 特殊型枠(ﾌﾗｯﾄﾃﾞｯｷ他) ※ ｺﾝｸﾘｰﾄ ・ ｾﾒﾝﾄ ・ 骨材 ・ 水 ・ 混和材 ・ ・	左官工事 ・ ﾓﾙﾀﾙ ⊙ ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材 ・ 仕上塗材 ・ ﾛｯｸｳｰﾙ ・ ・ 建具工事 ⊙ ｱﾙﾐ製、鋼製建具 ⊙ 木製建具 ・ 建具用金物 ・ ｶﾞﾗｽ ・ ｼｬｯﾀｰ ・ ・	**舗装工事** ・ 路床 ・ 路盤材 ⊙ ｱｽﾌｧﾙﾄ ・ ｺﾝｸﾘｰﾄ ・ ﾌﾞﾛｯｸ系舗装材 ・ ・
鉄骨工事 ※ 鋼材 ⊙ 高力ﾎﾞﾙﾄ、普通ﾎﾞﾙﾄ ⊙ ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ ⊙ ｽﾀｯﾄﾞ ⊙ ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ ・ 溶接材料 ⊙ 耐火被覆材 ・ 溶融亜鉛めっき ・ ・	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事 ・ ・ ・	**植栽工事** ⊙ 樹木 ⊙ 芝、吹付けは種、地被類 ・ 支柱材 ・ 肥料、土壌改良剤 ・ ・
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ他工事 ・ ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ ・ ALCﾊﾟﾈﾙ ⊙ 押出成形ｾﾒﾝﾄ板 ・ ・ ・		

監督職員の検査を受けて使用すべきとされた材料であっても、設計図書に定める JIS又はJASのﾏｰｸ表示のある材料並びに規格、基準等の規格証明書が添付された材料で、監督職員の承諾を受けた場合は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとして、取り扱うことができる。

○ 14　地場産品
静岡県中小企業の受注者機会の増大による地域経済の活性化に関する条例に基づき地場産品の使用促進を図ることで地域経済の活性化に寄与することを目的とする。受注者は工事に使用する建設資材等について契約図書に規定する品質が規格値を満足した地場産品の優先使用に努めること。
「地場産品」とは「県産木材」及び「県産品」をいう。
「県産木材」とは「静岡県産材証明制度要綱」第２条に掲げるものをいう。
「県産品」とは建設資材又は製品等で、県内で最終工程が施されたものをいう。

○ 15　技能士
一級技能士又は単一等級の資格者を有する者の配置を適用する作業種別　(1.5.2)

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	⊙ とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	⊙ 鉄筋組立作業
ｺﾝｸﾘｰﾄ工事	型枠施工	⊙ 型枠工事作業
	ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送施工	⊙ ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事作業
鉄骨工事	鉄工	⊙ 構造物鉄工作業
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ、ALCﾊﾟﾈﾙ、押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事	ﾌﾞﾛｯｸ建築	⊙ ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業
	ｴｰｴﾙｼｰﾊﾟﾈﾙ施工	・ ｴｰｴﾙｼｰﾊﾟﾈﾙ工事作業
防水工事	防水施工	⊙ ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業 ⊙ ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・ ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ⊙ 合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・ 塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・ ｾﾒﾝﾄ系防水工事作業 ⊙ ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業 ・ 改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄｰﾁ工法防水工事作業 ・ FRP防水工事作業
石工事	石材施工	・ 石張り作業
ﾀｲﾙ工事	ﾀｲﾙ張り	⊙ ﾀｲﾙ張り作業
木工事	建築大工	⊙ 大工工事作業
屋根及びとい工事	建築板金	⊙ 内外装板金作業
	ｽﾚｰﾄ施工	・ ｽﾚｰﾄ工事作業
金属工事	内装仕上施工	⊙ 鋼製下地工事作業
	建築板金	⊙ 内外装板金作業
左官工事	左官	⊙ 左官作業
建具工事	ｻｯｼ施工	⊙ ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業
	ｶﾞﾗｽ施工	⊙ ｶﾞﾗｽ工事作業
	自動ﾄﾞｱ施工	・ 自動ﾄﾞｱ施工作業
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ施工	・ 金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業
	ｻｯｼ施工	・ ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業
	ｶﾞﾗｽ施工	・ ｶﾞﾗｽ工事作業
塗装工事	塗装	⊙ 建築塗装作業
内装工事	内装仕上施工	⊙ ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上げ工事作業 ・ ｶｰﾍﾟｯﾄ系床仕上げ工事作業 ⊙ ﾎﾞｰﾄﾞ仕上げ工事作業
	表装	⊙ 壁装作業
排水工事	配管	・ 建築配管作業
舗装工事	路面表示施工	⊙ 溶解ﾍﾟｲﾝﾄﾏｰｶｰ工事作業 ⊙ 加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｰｶｰ工事作業
植栽工事	造園	⊙ 造園工事作業

なお、県内に一級技能士が少ない作業職種は、予め監督職員と協議することができる。

○ 16　化学物質の濃度測定
測定対象室及び測定箇所数　(1.5.9)
測定対象室　※ 全ての居室、常時換気しない書庫、倉庫　・ 図示
測定箇所数　：

室の床面積A(m2)	A≦50	50＜A≦200	200＜A≦500	500＜A
測定箇所数	1	2	3	4

使用した材料、室の形状、換気設備等の仕様が類似しており、同様の測定結果となることが予想される複数の室については、監督職員と協議の上、そのうちの１室以上を測定する。
測定方法　※ ﾊﾟｯｼﾌﾞ採取による蒸気拡散式分析法　・ 厚生労働省の標準法
測定物質　ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ、ｽﾁﾚﾝ、ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝ

対象物質	厚生労働省の指針値（25℃の場合）
ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ	0.08ppm（ 100μg/m3）
ﾄﾙｴﾝ	0.07ppm（ 260μg/m3）
ｷｼﾚﾝ	0.05ppm（ 200μg/m3）
ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ	0.88ppm(3,800μg/m3)
ｽﾁﾚﾝ	0.05ppm（ 220μg/m3）
ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝ	0.04ppm（ 240μg/m3）

測定者　専門測定機関による測定　※ 現場作業員による測定　・
測定前準備　測定対象室を30分換気し、その後5時間閉鎖する。
測定時　測定前準備・測定時は換気設備又は空気調和設備を稼動させたまま行う。ただし、局所的な換気扇で常時稼動させないものは停止させたままとする。測定時間は、原則として24時間とする。ただし、24時間測定が行えない場合は8時間測定(10時30分～18時30分)とする。測定位置は、室中央付近の床から1.2m～1.5mの高さとする。
測定後　測定年月日、測定時刻、測定時の室温・湿度・天候、及び内装仕上げ工事の完了した年月日等を記載すること。

○ 17　検査　(1.6.1)(1.6.2)
※ 工事施工中における技術検査の実施回数等は監督職員の指示による。
○ 経年検査の実施　引渡しまたは　○ １年以内　・ ２年以内

○ 18　重機類
※ 低騒音型　：　・ 低振動型　：　・ 指定無し

○ 19　完成時の提出図書　(1.7.1)
完成図　2つ折製本　1部、縮小版（A3版）2つ折製本　2部
電子データ　JWW形式、PDF形式　2枚
施工図　2つ折製本　1部　その他監督職員の指示による

○ 20　設計GL
設計GL　※ 図示　・

○ 21　既存部の汚損等
工事施工に際し、既存部分を汚損又は損傷した場合は、構造、仕上げ共、既存にならい補修する。

○ 22　事故報告
工事施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督職員に通報するとともに、事故発生報告書を監督職員に速やかに提出すること。また建設工事事故報告ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽに登録すること。

○ 23　異常気象時の報告
異常気象時（大雨警報、暴風警報、大雪警報）及び震度4以上の地震発生時には、現場点検を行い速やかに監督職員に報告する。

○ 24　保険の加入期間
工事目的物及びｴ工事材料（支給材料を含む）等を火災保険、建設工事保険その他の保険に付することとし、保険加入期間は原則として、工事着工の時から工事完成期日後14日までとする。

○ 25　公共事業労務費調査に対する協力
受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、以下の各号に掲げる協力をしなければならない。また、工期経過後においても同様とする。
(1)調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をしなければならない。
(2)調査票等を提出した事業所を発注者が、事後に訪問して行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力しなければならない。
(3)正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台帳を調製・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行わなければならない。
(4)対象工事の一部について下請契約を締結する場合には、当該下請負工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）が前号と同様の義務を負う旨を定めなければならない。

２章　仮設工事

○ 1　足場その他　(2.2.4)
内部足場の種別　※ 脚立、足場板等　・
外部足場の種別　・ 枠組足場　⊙ くさび緊結式足場　・ 単管本足場
・ 仮設ｺﾝﾄﾞﾗ　・ 移動式足場　・
工事で設置する足場については、標準仕様書2.2.4(2)によるほか、「手すり先行工法等に関するｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ」（厚生労働省平成21年４月）により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立てや解体等の作業は「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置き方式、又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。
屋根工事及び小屋組の建方工事における墜落事故防止対策は、JIS A 8971(屋根工事用足場及び施工方法)の施工標準に基づく足場及び装備機材を設置する。
・ 外部足場の防護ｼｰﾄによる養生
・ 養生ﾈｯﾄ　⊙ 養生ｼｰﾄ(　⊙ Ⅰ類 ・ Ⅱ類)　・ ﾈｯﾄ状養生ｼｰﾄ(　・ Ⅰ類 ・ Ⅱ類)
・ 防音ｼｰﾄ　・ 防音ﾊﾟﾈﾙ　・

2　監督職員事務所　(2.3.1)
規模、仕様　⊙ 10㎡程度　・ 既存建物利用　・
備品等(標準仕様書によるほか下記による)
⊙ 机　⊙ 椅子　⊙ ｺﾞﾑ長靴　⊙ 雨がっぱ　⊙ 保安帽　⊙ 墜落制止用器具　⊙ 更衣ﾛｯｶｰ
以上は監督職員　人分
⊙ 書棚　⊙ 白板　⊙ 掛時計　⊙ 寒暖計　・ 懐中電灯　・ 受注者加入電話の子機　⊙ 消火器
⊙ 冷暖房機器　・ ﾊﾟｿｺﾝ　（ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ接続：　）
以上は各１ヶ

3　監理事務所
規模、仕様　⊙ 10㎡程度　・ 既存建物利用　・
備品等
⊙ 机　⊙ 椅子　⊙ ｺﾞﾑ長靴　⊙ 雨がっぱ　⊙ 保安帽　⊙ 墜落制止用器具　⊙ 更衣ﾛｯｶｰ
以上は　人分
⊙ 書棚　⊙ 白板　⊙ 掛時計　⊙ 寒暖計　・ 懐中電灯　・ 受注者加入電話の子機　⊙ 消火器
⊙ 冷暖房機器　・ ﾊﾟｿｺﾝ　（ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ接続：　）
以上は各１ヶ

○ 4　工事用水
構内既存の施設　⊙ 利用できる
※ 有償　・ 無償
※ 利用可能口径　φ　本
・ 利用できない

○ 5　工事用電力
構内既存の施設　⊙ 利用できる
※ 有償　・ 無償
※ 利用可能容量　w　回路
・ 利用できない

３章　土工事

○１　埋戻し及び盛土　(3.2.3)

材料および工法
※ 標準仕様書表3.2.1による

種別	適用場所	土質	受渡場所
⊙ A種	建物内外部		
⊙ B種	建物内外部		
・ C種			
・ D種			

○２　建設発生土の処理　(3.2.5)

○ 場外指定場所に搬出し、搬出後、監督職員へ搬出先の受入を証明する資料を提出する。
搬出場所　：大石建材（牧之原市静谷）
受入条件　：搬出場所条件による
処分費　：設計書による
仮置き場　：図面K-001による
土壌汚染のおそれ　○ 無　・ 有
該当有害物質：
分析調査　○ 無　・ 有
調査対象　※ 静岡県盛土等の規則に関する条例施行規則 別表第1の29物質
・ 場内指定場所に敷き均し
・ 図示　・
・ 場内指定場所に堆積
・ 図示　・
静岡県建設発生土マッチングアプリシステム等により他工事現場との調整を行うこと。
なお、受注者の提示する運搬距離、処分費及び整地費と異なる場合においても設計変更の対象としない。

○３　建設汚泥の処理

処理対象　・ 図示　・
処理方法　※ 再生資源化施設へ搬出　・
なお、「建設汚泥の再利用に関するｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ（平成18年6月12日国土交通省）」により建設汚泥の発生量の抑制に努めること。

４　設計地耐力

※ 図示　・

○５　山留め　(3.3.1)(3.3.3)

鋼矢板等の抜き後の処理　※ 直ちに砂等で充填する　・
山留めの残置　・ 有り　○ 無し
残置範囲　※ 図示　・

４章　地業工事

○１　支持地盤等　(3.2.1)(4.2.4)(4.3.4)(4.3.5)(4.4.4)(4.5.5)(4.5.6)

⊙ 杭基礎
支持層の位置及び土質（基礎ぐいの先端の位置含む）　※ 図示
・ 直接基礎
支持地盤の位置及び土質（基礎底部の位置含む）　※ 図示
試験掘り（根切り底の状態の確認等）　・ 行う　・ 行わない
位置等　・ 図示

・ 杭の載荷試験
載荷試験の方法　・ 鉛直載荷試験
・ 地盤工学会基準JGS（　　）による　・
・ 水平載荷試験
・ 地盤工学会基準JGS1831による　・
試験の位置、本数、載荷荷重　・ 図示による　・
報告書の記載事項　・

・ 地盤の載荷試験
載荷試験の方法　平板載荷試験　・ 地盤工学会基準JGS1521による　・
試験の位置、載荷荷重　・ 図示による　・
報告書の記載事項　・

○２　既製コンクリート杭地業　(4.2.2)(4.3.1)(4.3.3)～(4.3.6)(4.3.8)

種類　⊙ 遠心力高強度ﾌﾟﾚｽﾄﾚｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ杭（PHC杭）
・ ﾌﾟﾚｽﾄﾚｽﾄ鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ杭（PRC杭）
・ 外殻鋼管付きｺﾝｸﾘｰﾄ杭（SC杭）
鋼管材料　・ SKK400　・ SKK490　・
・

杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分（種別）、寸法、継ぎ手の個所数等

		種類 種別	ｺﾝｸﾘｰﾄ強度 (N/mm2)	杭径 (mm)	厚さ (mm)	杭長 (m)	継手 数	ｾｯﾄ 数	長期設計 支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭	C種	85	500φ	80	9	1	98	1,150	試験杭4ヶ所を兼ねる
	中杭									
	下杭	A種		5065φ	80	9				
本杭	上杭	C種	85	600φ	90	9	1	15	1,450	試験杭4ヶ所を兼ねる
	中杭									
	下杭	A種		6075φ	90	9				

杭先端部形状　⊙ 開放形　・ 半閉放形　・ 閉そく形　・
工法
・ ｾﾒﾝﾄﾐﾙｸ工法
試験杭　試験杭の位置　・ 図示　・
掘削深さ　・ 図示　・
杭の支持層への根入れ深さ　・ 図示　・
杭の精度　水平方向の位置ずれ　・ 杭径の1/4かつ100mm以下　・
建込み時の杭の鉛直度　・ 1/100以内　・
根固め液及び杭周固定液の管理試験　・ 標準仕様書4.3.4(6)(ﾂ)による　・
⊙ 特定埋込杭工法
・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で α=250を採用できる工法
⊙ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうち α、β、γ が下記の値を採用できる工法
α＝（　　）　β＝（　　）　γ＝（　　）
工法　⊙ ﾌﾟﾚﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ拡大根固め工法　・ 中掘り拡大根固め工法　・
杭周固定液　⊙ 使用する　・ 使用しない
試験杭　試験杭の位置　⊙ 図示　・
杭の支持層への根入れ長さ　※ 評定等の評価内容による
杭の精度　水平方向の位置ずれ　※ 評定等の評価内容による
建込み時の杭の鉛直度　※ 評定等の評価内容による
・ 杭の継手の工法　・ ｱｰｸ溶接継手
溶接材料　・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による・ 図示　・
⊙ 機械式継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法　※ 評定等を受けた工法
杭頭の処理等　・ 処理する　・ 処理しない
処理方法（切断に伴う補強方法含む）　・ 図示　・
杭頭の中詰め材料　⊙ 基礎のｺﾝｸﾘｰﾄと同調合のもの　・

3　鋼杭地業　(4.2.2)(4.3.8)(4.4.3)～(4.4.6)

鋼杭の材料　・
杭の種類、寸法、継手等

		種類	杭径 (mm)	板厚 (mm)	杭長 (m)	継手 数	ｾｯﾄ 数	長期設計 支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭								
	中杭								
	下杭								
本杭	上杭								
	中杭								
	下杭								

・ 特定埋込杭工法
・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で α=250を採用できる工法
・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうち α、β、γ が下記の値を採用できる工法
α＝（　　）　β＝（　　）　γ＝（　　）
工法　・
試験杭　試験杭の位置　・ 図示　・
杭の支持層への根入れ長さ　・ 評定等の評価内容による
杭の精度　水平方向の位置ずれ　・ 評定等の評価内容による
建込み時の杭の鉛直度　・ 評定等の評価内容による
・ 杭の継手の工法
・ ｱｰｸ溶接継手
形状　・ JIS A 5525による　・
溶接材料　・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・ 図示
・ 機械式継手
工法　※ 評定等を受けた工法
杭頭の処理等　・ 処理する　・ 処理しない
処理方法（切断に伴う補強方法含む）　・ 図示　・
杭頭の中詰め材料　・ 基礎のｺﾝｸﾘｰﾄと同調合のもの　・

4　場所打ちコンクリート杭地業　(4.2.2)(4.5.1)(4.5.4)～(4.5.6)

工法　・ ｱｰｽﾄﾞﾘﾙ工法
安定液　※ 使用する　・ 使用しない
・ ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ工法
孔内の水張り　・ 行う　・ 行わない
併用する工法　・ 場所打ち鋼管ｺﾝｸﾘｰﾄ杭工法
鋼管巻き材料　・ SKK400　・ SKK490
・ 拡底杭工法
安定液　※ 使用する　・ 使用しない
・

寸法等

	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (m)	ｾｯﾄ 数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭						
本杭						

試験杭　試験杭の位置　・ 図示　・
孔壁の保持状況（孔壁測定）
測定箇所　・ 試験杭（　）箇所及び本杭（　　）箇所　・
杭の支持層への根入れ長さ　・ 図示　・
杭の精度　水平方向の位置ずれ　・ 杭径の1/4かつ100mm以下　・ 評定等の評価内容による
建込み時の杭の鉛直度　・ 1/100以内　・ 評定等の評価内容による

鉄筋の種類

種類の記号	呼び径(mm)	備考
・ SD295		
・ SD345		

帯筋の加工及び組立　・ 図示　・
鉄筋の最小かぶり厚さ　・ 100mm　・
鉄筋かごの補強　・
組み立てた鉄筋の節ごとの継手　※ 重ね継手（重ね継手の長さ　・ 図示　・　　）
・
主筋の基礎底盤への定着長さ　・ 図示　・

ｾﾒﾝﾄの種類　※ 高炉ｾﾒﾝﾄB種[G]
ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度　・ 図示　・
ｺﾝｸﾘｰﾄの種類　・ A種　・ B種　・ 評定等の評価内容による
ｽﾗﾝﾌﾟ　※ 18cm　・ 21cm
構造体強度補正　※ 3N/mm2　・ 図示　・ 評定等の評価内容による

○５　砂利事業　(4.6.2)(4.6.3)

材料　⊙ 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ[G]　・ 切込砂利及び切込砕石
範囲　⊙ 基礎下、基礎梁下、土間ｽﾗﾌﾞ下、土間ｺﾝｸﾘｰﾄ下　・ 図示
厚さ　※ 60mm　⊙ 50mm（基礎梁下

○６　捨ｺﾝｸﾘｰﾄ地業　(4.6.4)

範囲　⊙ 基礎下、基礎梁下、土間ｽﾗﾌﾞ下　・ 図示
厚さ　※ 50mm　⊙ 90mm（基礎下）
設計基準強度　※ 18N/mm2　・
ｽﾗﾝﾌﾟ　※ 15cm又は18cm　・
ｺﾝｸﾘｰﾄの種類　※ 普通ｺﾝｸﾘｰﾄ　・

○７　床下防湿層　(4.6.2)(4.6.5)

材料　⊙ ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚さ0.15mm以上　・
範囲　⊙ 建物内の土間ｽﾗﾌﾞ及び土間ｺﾝｸﾘｰﾄ下（ﾋﾟｯﾄ下を除く）
砂利地業の上に直接施工する場合は、防湿層の下に目つぶし砂敷均し(t=30)

8　地盤改良工法

種類及び施工方法等　・ 図示による　・

５章　鉄筋工事

○１　鉄筋　(5.2.1)

鉄筋の種類等

種類の記号	呼び径（mm）	備考
⊙ SD295	⊙ D16以下	
⊙ SD345	⊙ D19以上	
⊙ SD390	⊙ D29以上	
・	・	

2　溶接金網　(5.2.2)

鉄線の形状等

種類	種類の記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径(mm)	使用箇所
・ 溶接金網			
・ 鉄筋格子			

○３　鉄筋の継手　(5.3.4)(5.5.3)(5.6.3)

鉄筋の継手の方法等

部位	継手の方法	呼び径(mm)
柱、梁の主筋	⊙ ｶﾞｽ圧接　・ 機械式継手 ・ 溶接接手　⊙ 重ね継手	
耐力壁の鉄筋	・ 重ね継手　・	
その他の鉄筋（　　）	⊙ 重ね継手　・	

継手位置　・ 図示　⊙ 各部配筋参考図による
柱及び梁主筋の重ね継手の長さ　・ 図示　⊙ 各部配筋参考図による
耐力壁の重ね継手の長さ　・ 図示　・

○４　鉄筋の定着　(5.3.4)

鉄筋の定着長さ　⊙ 図示　・
機械式定着工法　・ 適用する　⊙ 適用しない
適用場所　・ 図示　・
種類　・ 摩擦圧接接合　・ 螺ﾘﾌﾞﾗｯﾄ固定　・ 筋合ﾌﾟﾗｯﾄ固定　・
工法　※ 第三者機関の評定等を取得している工法とする
必要定着長さ　※ 評定等の評価内容による
補強筋形状　※ 評定等の評価内容による
かぶり著さ　※ 評定等の評価内容による
品質確認　※ 評定等の評価内容による
検査　※ 評定等の評価内容による

○５　鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）　(5.3.5)

最小かぶり厚さ　⊙ 図示　・
※目地底からの算出を行う
軽量ｺﾝｸﾘｰﾄを適用する場合　・ 有り　⊙ 無し
適用箇所　：
・ 最小かぶり厚さに加える厚さ(mm)：
耐久性上不利な箇所がある場合（塩害等を受けるおそれのある部分等）　・ 有り　⊙ 無し
適用箇所　：
・ 最小かぶり厚さに加える厚さ(mm)：

○６　各部配筋　(5.3.7)

直接基礎の配筋　・ 図示　・ 各部配筋参考図1.1による
基礎接合部の補強配筋　・ 図示　⊙ 各部配筋参考図1.2による
基礎梁主筋の継手、定着及び余長　⊙ 図示　⊙ 各部配筋参考図1.3による
基礎梁のあばら筋　⊙ 図示　⊙ 各部配筋参考図1.4による
柱主筋の継手、定着及び余長　⊙ 図示　⊙ 各部配筋参考図2.1による
帯筋組立の形及び割付け　⊙ 図示　⊙ 各部配筋参考図2.2による
柱の打増し補強　⊙ 図示　⊙ 各部配筋参考図2.3による
大梁主筋の継手、定着及び余長　・ 図示　・ 各部配筋参考図3.1による
あばら筋の組立の形及び割付け等　・ 図示　・ 各部配筋参考図3.2による
梁の打増し補強　・ 図示　・ 各部配筋参考図3.3による
小梁主筋の継手、定着及び余長　⊙ 図示　⊙ 各部配筋参考図3.4による
片持梁主筋の定着及び余長　⊙ 図示　⊙ 各部配筋参考図3.5による
壁の配筋　⊙ 図示　⊙ 各部配筋参考図4.1による
壁の継手及び定着　⊙ 図示　⊙ 各部配筋参考図4.2による
壁の交差部及び端部の配筋　⊙ 図示　⊙ 各部配筋参考図4.3による
壁の開口部補強　⊙ 図示　⊙ 各部配筋参考図4.4による
壁の打増し補強　・ 図示　・ 各部配筋参考図4.5による
ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄの配筋　⊙ 図示　・ 各部配筋参考図4.6による
ｽﾗﾌﾞの配筋　⊙ 図示　・ 各部配筋参考図5.1による
ｽﾗﾌﾞ筋の定着及び受け筋　・ 図示　⊙ 各部配筋参考図5.2による
片持ｽﾗﾌﾞの配筋　⊙ 図示　・ 各部配筋参考図5.3による
片持ｽﾗﾌﾞ先端に壁が付く場合の配筋　・ 図示　⊙ 各部配筋参考図5.4による
ｽﾗﾌﾞ開口部補強　⊙ 図示　⊙ 各部配筋参考図5.5による
出隅及び入隅部の補強配筋　・ 図示　・ 各部配筋参考図5.6による
ｽﾗﾌﾞの打継ぎ補強配筋等　⊙ 図示　・ 各部配筋参考図5.7による
段差のあるｽﾗﾌﾞの補強配筋　⊙ 図示　⊙ 各部配筋参考図5.8による
片持ｽﾗﾌﾞ形階段の配筋　・ 図示　・ 各部配筋参考図6.1による
二辺固定スラブ型階段の配筋　・ 図示　・ 各部配筋参考図6.2による
梁貫通孔の配筋　⊙ 図示　・ 各部配筋参考図7.1による
梁貫通孔の補強形式　⊙ 図示　・ 各部配筋参考図7.2による
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ帳壁との取合い　・ 図示　・ 各部配筋参考図7.3による
各部配筋参考図は標準仕様書の参考資料による。

○７　ガス圧接接手　(5.4.10)

圧接完了後の圧接部の試験　※ 超音波探傷試験
・ 引張試験
試験方法等　※ 標準仕様書5.4.10(ｲ)(b)①～⑥による
・

8　機械式継手　(5.5.3)(5.5.5)

適用箇所　※ 図示　・
H12建告第1463号に適合する性能　・ A級　・
種類　・ ねじ式鉄筋接手
充填方式　・ 無機ｸﾞﾗｳﾄ方式　・ 有機ｸﾞﾗｳﾄ方式
・ 端部ねじ加工継手
・ ﾓﾙﾀﾙ充填式継手
・
工法　※ 第三者機関の評定等を取得している工法
鉄筋相互のあき　※ 評定等の評価内容による
品質の確認　※ 評定等の評価内容による
検査　※ 評定等の評価内容による

施工完了後の継ぎ手部の試験
・ 外観試験
試験対象　※ 全数
試験項目　・ 評定等の評価内容による　・
試験方法　・ 評定等の評価内容による　・
・ 超音波測定試験
試験対象　・ 抜取り
ロット　・ 1組の作業班が1日に行った継ぎ手か所で最大200箇所程度とする
・
試験の個所数　1ロットに対して（　　）箇所
・ 全数
試験項目　※ 挿入長さ
試験方法　※ JIS Z 3064（鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用機械式継手の鉄筋挿入長さ超音波測定方法及び判定基準）による
不合格となった場合の措置　・

9　溶接継手　(5.6.3)(5.6.5)

適用箇所　・ 図示　・
H12建告第1463号に適合する性能　・ A級　・
溶接接手の工法　・ 図示　・
鉄筋相互のあき　・ 標準仕様書5.3.5(4)による　・ 評定書の評価内容による　・ 図示
施工完了後の溶接部の試験
・ 外観試験
試験対象　※ 全数
試験項目　・ 評定等の評価内容による　・
試験方法　・ 評定等の評価内容による　・
・ 超音波測定試験
試験対象　・ 抜取り
ロット　・ 1組の作業班が1日に行った継ぎ手か所で最大200箇所程度とする
・
試験の個所数　1ロットに対して（　　）箇所
・ 全数
試験項目　※ 内部欠陥の検出
試験方法　※ JIS Z 3063（鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準）による
不合格となった場合の措置　・

６章　コンクリート工事

○１　レディーミクストコンクリート製造工場

※ 品質管理監督検査合格工場（○適ﾏｰｸ取得工場）

○２　コンクリート種類　(6.2.1)

ｺﾝｸﾘｰﾄの種別
※ Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたｺﾝｸﾘｰﾄ）
・ Ⅱ類（JIS A 5308に適合したｺﾝｸﾘｰﾄ）

○３　コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度　(6.2.1～4)(6.3.2)(6.10.1～3)

普通ｺﾝｸﾘｰﾄ

設計基準強度 (N/mm2)	ｽﾗﾝﾌﾟ	気乾単位容積質量(t/m3)	適用所
⊙ 24	⊙ 18cm	2.3程度	基礎、基礎梁、スラブ
・ 21	・		
・	・		

★印は構造体強度補正値(S)を適用しない
構造体強度補正値　※ 標準仕様書表6.3.2による　・

軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ

設計基準強度 (N/mm2)	ｽﾗﾝﾌﾟ	気乾単位容積質量(t/m3)	種類	適用箇所
・	※ 21		・ 1種　・ 2種	
・				
・				

構造体強度補正値　※ 標準仕様書表6.3.2による　・

○４　セメント　(6.3.1)

種類
※ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ、高炉ｾﾒﾝﾄB種、ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種又はﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄA種
普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ、28日目で402J/g以下のものとする。
適用箇所　：
・ 高炉ｾﾒﾝﾄB種[G]
適用箇所　：
・ ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種[G]
適用箇所　：
・

○５　骨材　(6.3.1)

ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分　※ A　・ B

○６　混和材料　(6.3.1)

・ 混和剤
種類　※ 標準仕様書6.3.1(4)(a)による　・
・ 混和材
種類　※ 標準仕様書6.3.1(4)(b)による　・

7　寒中コンクリート　(6.11.1)(6.11.2)

適用期間　⊙ 図示
構造体強度補正値　⊙ 標準仕様書6.11.2(3)(ｱ)による　・ 積算温度による

8　暑中コンクリート　(6.12.2)

構造体強度補正値　※ 6N/mm2

9　マスコンクリート　(6.13.1)(6.13.2)

適用箇所　※ 図示による　・
ｾﾒﾝﾄの種類　・ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ　・ 中庸熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ　・ 低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ
・ 高炉ｾﾒﾝﾄB種[G]　・ ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種[G]　・ ｼﾘｶｾﾒﾝﾄ
・
混和材料　・ 混和剤
種類　※ 標準仕様書6.13.2(2)(ｱ)による　・
・ 混和材
種類　※ 標準仕様書6.13.2(2)(ｲ)による　・
ｽﾗﾝﾌﾟ　※ 15cm　・
構造体強度補正値　※ 標準仕様書表6.13.1による　・

10　無筋コンクリート　(6.14.1)

ｺﾝｸﾘｰﾄの種類　※ 普通ｺﾝｸﾘｰﾄ　・
ｾﾒﾝﾄの種類　※ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ、高炉ｾﾒﾝﾄA種、ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種又はﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄA種
・ 高炉ｾﾒﾝﾄB種[G]
・ ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種[G]
設計基準強度　※ 18N/mm2　・
ｽﾗﾝﾌﾟ　※ 15cm又は18cm　・
適用箇所　※ 標準仕様書6.14.1(4)(ｱ)～(ｶ)による　・

11　流動化コンクリート　(6.15.1)
適用箇所　・図示による　・

○12　打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地　(6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
打継ぎの位置　※標準仕様書6.6.4(1)による　・図示
目地寸法　※標準仕様書9.7.3(1)(ｱ)による　・図示
ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法　・図示

○13　構造体コンクリートの仕上り　(6.2.5)
合板せき板を用いるｺﾝｸﾘｰﾄの打放し仕上げ

種別	適用箇所
・A種	
⦿B種	腰壁
⦿C種	基礎・基礎梁

ｺﾝｸﾘｰﾄ仕上りの平たんさ

種別	適用箇所
⦿a種	腰壁
・b種	
・c種	

○14　打増し厚さ(打放し仕上げ部)　(6.8.1)
⦿打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
⦿20㎜　・
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・10㎜　・20㎜

○15　型枠　(6.8.2)
せき板の材料及び厚さ　・合板[G]　・
※12㎜　・
・断熱材を兼用した型枠材
使用箇所　・図示　・
・MCR工法用ｼｰﾄ
適用箇所　・図示　・
打増し厚さ　・20㎜　・
打増し範囲　・図示による　・
ｽﾘｰﾌﾞの材種・規格等　※図示　・

16　コンクリートの単位水量測定　(6.5.1)
実施要領　・図示　・

17　耐震スリット

方向	ﾀｲﾌﾟ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直方向	※完全(全貫通型)	・耐火型	・有り	
・水平方向	・	・非耐火型	・無し	

目地(目地材の材質は標準仕様書表9.7.1による)

目地	内壁	外壁
目地材	ｼｰﾘﾝｸﾞ材(見え掛かり部のみ)	ｼｰﾘﾝｸﾞ材(見え掛かり部のみ)
目地寸法(㎜)	・幅20×深さ10　・	・幅20×深さ10　・

施工箇所　※図示

○18　止水板
形式　・差込式　・据置式　・壁張り式
施工位置　※図示

７章　鉄骨工事

○1　鉄骨の製作工場　(7.1.3)
※建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場
(　M　)ｸﾞﾚｰﾄﾞ以上
・監督職員の承諾する製作工場

○2　鉄骨製作工場における施工管理技術者　(7.1.4)
※配置する　・配置しない

○3　鋼材　(7.2.1)(7.2.10)
種類等

種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格
SS400	小梁･間柱	⦿JISによる　・
STKR400	間柱･耐風梁	⦿JISによる　・
SN400	大梁	⦿JISによる　・
SN490	大梁	⦿JISによる　・
BCR295	柱	⦿JISによる　・
BCP325	柱	⦿JISによる　・

・板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験（適用箇所：　　）

○4　高力ボルト　(7.2.2)(7.3.2)(7.4.2)
ﾎﾞﾙﾄの種類　⦿ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ　・JIS形高力ﾎﾞﾙﾄ　・
ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄの間隔、ｹﾞｰｼﾞ等　⦿図示　・
摩擦面の処理方法　⦿標準仕様書7.4.2(1)による
・
▪すべり試験の実施
・すべり係数試験　・すべり耐力試験
すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.4.2(1)(ｲ)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

○5　普通ボルト
ﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄの材料　(7.2.3)(7.3.2)(7.3.8)
⦿標準仕様書7.2.3(JIS付属書品)又は次による
ﾎﾞﾙﾄの規格は、JIS B 1180とする
ﾎﾞﾙﾄの種類は、呼び径六角ﾎﾞﾙﾄ又は全ねじ六角ﾎﾞﾙﾄとし、材料は鋼とする
ﾎﾞﾙﾄの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ﾎﾞﾙﾄの軸径の最大寸法は、ﾎﾞﾙﾄ径の値以下とする
ﾅｯﾄの規格は、JIS B 1181とする
ﾅｯﾄの種類は、六角ﾅｯﾄ-Cとし、材料は鋼とする
・
座金　※JIS B 1256による
ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄの間隔、ｹﾞｰｼﾞ等　⦿図示による　・
母屋又は胴縁の取付けに使用するﾎﾞﾙﾄの孔径　※ねじの呼び径＋1.0㎜　・

○6　溶融亜鉛めっき高力ボルト　(7.3.2)(7.4.2)(7.12.5)
ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄの間隔、ｹﾞｰｼﾞ等　⦿図示による　・
摩擦面の処理方法　・ﾌﾞﾗｽﾄ処理（表面粗度50μmRz以上）　・りん酸塩処理　・
・すべり試験の実施
・すべり係数試験　・すべり耐力試験
すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(ｱ)又は(ｲ)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

○7　アンカーボルト　(7.2.4)(7.3.2)
⦿構造用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ
種類　・ABR400　・ABR490
・建方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ
種類　・SS400　・
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄのねじの公差域ｸﾗｽ及び仕上げの程度　※標準仕様書表7.2.3による
・
⦿標準仕様書7.2.4以外のｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ
適用箇所　⦿図示　・
種類　⦿SS400
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄのねじの公差域ｸﾗｽ及び仕上げの程度　※標準仕様書表7.2.3による
・
ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄの間隔、ｹﾞｰｼﾞ等　⦿図示　・

8　溶接材料　(7.2.5)
溶接材料　・標準仕様書7.2.5(1)(2)による。

○9　ターンバックル　(7.2.6)
種類
建築用ターンバックルボルト　※羽子板ボルト　・
建築用ターンバックル胴　※割枠式　・
ねじの呼び　⦿図示　・

○10　床構造用のデッキプレート　(7.2.7)(7.7.8)
材質、形状及び寸法

	適用箇所	材質、形状、寸法	備考
・ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ単独の構法			
・ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄとｺﾝｸﾘｰﾄとの合成ｽﾗﾌﾞとする構法			
・			

開口部補強要領(補強筋の定着長さ等を含む)　⦿図示による　・
鉄骨部材への溶接方法　⦿図示による　・
耐火認定　・有り　⦿無し
耐火時間　・図示による　・

○11　スタッド　(7.2.8)

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
⦿16	120	陸屋根
⦿19	120	陸屋根
・22		

○12　柱底均しモルタル　(7.2.9)
無収縮ﾓﾙﾀﾙとする場合の材料、調合等　※標準仕様書7.2.9(2)(ｱ)から(ｴ)による
・

○13　製作精度　(7.3.3)
鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則6［鉄骨精度検査基準］に加えて、次による
通しﾀﾞｲｱﾌﾗﾑの突合せ継手の食い違いの寸法　※H12建告第1464号第二号イ(2)による
・
ｱﾝﾀﾞｰｶｯﾄの寸法　※H12建告第1464号第二号イ(3)による　・
食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強ﾏﾆｭｱﾙ」による
・

14　仮組　(7.3.10)
仮組を行う範囲　・図示による　・

○15　溶接作業における技能資格者の技量付加試験　(7.6.3)
溶接作業者の技量付加試験　※行わない　・行う
試験の要領　・図示

○16　溶接接合　(7.6.4)(7.6.7)
開先の形状　⦿図示による　・
鋼製ｴﾝﾄﾞﾀﾌﾞを切断する部分
切断する箇所　⦿図示　・
切断範囲　⦿鋼製ｴﾝﾄﾞﾀﾌﾞ、裏当て金等は、梁ﾌﾗﾝｼﾞの端から5mm以下を残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をｱｰﾙ状に加工する。
・
切断面の仕上げ　⦿標準仕様書7.6.7(1)(ｶ)(b)②による　・
ｽｶﾗｯﾌﾟの形状　・図示　⦿ノンスカラップ工法を基本とする。
固形ﾌﾗｯｸｽﾀﾌﾞの使用
固形ﾌﾗｯｸｽﾀﾌﾞを使用する場合はAW検定技能会議の実施する認定試験の合格者若しくは、日本ｴﾝﾄﾞﾀﾌﾞ協会の実施する施工講習会受講者が施工すること。
低応力高ｻｲｸﾙ疲労をうける部位　・有り
位置　※図示　・

○17　入熱、パス間温度の溶接条件　(7.6.7)(7.6.10)
鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件　⦿図示　・
適用箇所　・図示　⦿柱、梁、ﾌﾞﾚｰｽのﾌﾗﾝｼﾞ端部の完全溶込み溶接部

○18　溶接部の試験　(7.6.12)
平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等
⦿「突合せ溶接継手の食い違い仕口のずれの検査・補強ﾏﾆｭｱﾙ」3.5.2　受入検査による
・抜き取り検査①　※抜き取り検査②
JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する試験方法等
⦿JASS 6　10.4［受入検査］e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、全て標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。
完全溶け込み部の超音波探傷試験
※行う　・行わない
⦿工場溶接の場合
AOQL(%)　※4.0　・2.5

節	・全て	・	・	・	・
検査水準	※第6水準	・	・	・	・

⦿工事現場溶接の場合　※全て

○19　錆止め塗装　(7.8.2、4)(18.3.2)
塗装の範囲
耐火被覆材の接着する面の塗装範囲　・図示　⦿耐火被覆面は錆止め塗装を行わない
耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲　⦿標準仕様書7.8.2(1)(ｱ)～(ｵ)による
塗料の種別
⦿下記以外の鉄鋼面は、18章[塗装工事]による
・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別
※A種
・耐火被覆材が溶接する面の塗料の種別
・

○20　耐火被覆　(7.9.2)～(7.9.8)
種類、材料、工法等

種別	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)
⦿耐火材吹付け	・乾式吹付けﾛｯｸｳｰﾙ		
	⦿半乾式吹付けﾛｯｸｳｰﾙ	1時間耐火	**図示**
	・湿式ﾛｯｸｳｰﾙ		
	・		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸ｶﾙｼｳﾑ板		
	・		
・耐火材巻付け	・高断熱ﾛｯｸｳｰﾙ		
	・		
・ﾗｽ張りﾓﾙﾀﾙ塗り	―		
・耐火塗料	・		

○21　アンカーボルトの設置等　(7.10.3)
構造用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの形状及び寸法
⦿図示による　・
構造用ｱﾝｶｰﾌﾚｰﾑの形状及び寸法
・図示による　・
建方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの形状及び寸法
・図示による　・
建方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの保持及び埋込み工法
種別　・A種　・B種
柱底均しﾓﾙﾀﾙの厚さ及び工法の種別
厚さ　・
種別　※A種　・B種

22　軽量形鋼構造　(7.11.2)
ﾎﾞﾙﾄの接合部　⦿普通ﾎﾞﾙﾄ接合　・

８章　コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1　補強コンクリートブロック造　(8.2.2)(8.2.3)(8.2.5)(8.2.7)(8.2.8)
ﾌﾞﾛｯｸの種類等

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓﾃﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
・				・無　・有		
・				・無　・有		
・				・無　・有		

ﾓﾙﾀﾙの調合（容積比）　※表8.2.1による　・ｾﾒﾝﾄ（　　）：砂（　　）
各部の配筋　※図示　・
目地仕上げ　・押し目地仕上げ　・化粧目地仕上げ
まぐさを受ける開口部両側のﾌﾞﾛｯｸのﾓﾙﾀﾙ又はｺﾝｸﾘｰﾄで充填する範囲　※図示

2　コンクリートブロック帳壁及び塀　(8.3.2)～(8.3.4)
ﾌﾞﾛｯｸの種類等

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓﾃﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
・				・無　・有		
・空洞ﾌﾞﾛｯｸC(16)				・無　・有		
・型枠状ﾌﾞﾛｯｸ 20				・無　・有		

ﾓﾙﾀﾙの調合（容積比）　※表8.2.1による　・ｾﾒﾝﾄ（　　）：砂（　　）
塀に用いるﾌﾞﾛｯｸの正味厚さ(mm)　塀の高さが2m以下　※120
2m越え　※150
壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状　※図示
各部の配筋　※図示

3　ALCパネル　(8.4.2)～(8.4.5)
ALCﾊﾟﾈﾙの区分等

区分			単位荷重(N/mm2) 正荷重	負荷重	厚さ(mm)	幅及び長さ	耐火時間(時間)	構法の種別
・外壁用	・一般 ・ｺｰﾅｰ	・平 ・意匠	・	・	・	図示による	・なし ・1	・A種　・B種
・間仕切壁用	・一般 ・ｺｰﾅｰ	・平 ・意匠	・	・	・	図示による	・なし ・1	・C種　・D種 ・E種
・屋根用	・一般 ・ｺｰﾅｰ	・平 ・意匠	・	・	・	図示による	・0.5	※F種
・床用	・一般 ・ｺｰﾅｰ	・平 ・意匠	・	・	・	図示による	・1 ・2	

ﾊﾟﾈﾙの相互の接合部に挿入する耐火目地材　・
外壁、屋根ﾊﾟﾈﾙの工法
１章　適用区分による風圧力の(　・1　・1.15　・1.3　)倍の耐風圧性能
外壁ﾊﾟﾈﾙ構法及び間仕切り壁ﾊﾟﾈﾙ構法における耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ﾊﾟﾈﾙ幅の最小限度を300㎜未満とする場合　・図示
目地幅(mm)
(ﾊﾟﾈﾙ短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切壁ﾊﾟﾈﾙの出隅及び入隅のﾊﾟﾈﾙ接合部並びにﾊﾟﾈﾙと他部材との取合い部)　※10～20　・
外壁、間仕切り壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填　・適用する　・適用しない

○4　押出成形セメント板(ECP)　(8.5.2)～(8.5.5)
ECPの種類等

ﾊﾟﾈﾙの種類	形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
⦿外壁ﾊﾟﾈﾙ	⦿ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ	・50　⦿60　・	⦿600 ⦿900	・A種 ⦿B種	
	⦿ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ	・50　⦿60			
	・ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ	・60			
・間仕切壁ﾊﾟﾈﾙ	・ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ	・50　・60　・		・B種 ・C種	
	・ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ	・50　・60			
	・ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ	・60			

外壁ﾊﾟﾈﾙの工法における耐風圧性能
１章　適用区分による風圧力の(　・1　・1.15　・1.3　)倍の耐風圧性能
外壁ﾊﾟﾈﾙ構法及び間仕切り壁ﾊﾟﾈﾙ構法における耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ﾊﾟﾈﾙ幅の最小限度を300㎜未満とする場合　・あり
ﾊﾟﾈﾙ相互の目地幅(mm)　・長辺（　　）　短辺（　　）
出隅及び入隅のﾊﾟﾈﾙ接合目地の目地幅(mm)　※15程度
耐火構造以外の目地及び隙間の処理　※ﾊﾟﾈﾙ製造所の仕様
やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出する。

		孔あけ及び欠き込みの大きさ	切断後のﾊﾟﾈﾙの残りの部分の幅
ﾊﾟﾈﾙに孔あけを設ける場合	短辺	ﾊﾟﾈﾙ幅の1/2以下、かつ、300mm以下	150mm以下
	長辺	500mm以下	300mm以下
ﾊﾟﾈﾙに欠き込みを設ける場合	短辺	ﾊﾟﾈﾙ幅の1/2以下、かつ、300mm以下	300mm以下
	長辺	500mm以下	300mm以下

９章　防水工事

1　アスファルト防水　(9.2.2)～(9.2.5)(表9.2.3)～(表9.2.9)
【屋根保護防水】
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材[G]	絶縁用ｼｰﾄ
・A-1			※ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚さ0.15mm以上又はﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/m2程度 ・
・A-2			
・A-3			
・B-1			
・B-2			
・AI-1		(種類) ※JIS A 9521に基づく押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材3種bA（ｽｷﾝ層付き） (厚さ)(mm) ・	※ﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/m2程度 ・
・AI-2			
・AI-3			
・BI-1			
・BI-2			

改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.3から表9.2.4による
・JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・非露出単層防水用　・非露出複層防水用
材料による区分　※R種
厚さ(mm以上)　：
部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.5から表9.2.8による
・JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・非露出単層防水用　・非露出複層防水用
材料による区分　※R種
厚さ(mm以上)　：
立上り部への断熱材及び絶縁ｼｰﾄ　※設置しない　・設置する
平場の保護ｺﾝｸﾘｰﾄの厚さ　こて仕上げ　※水下80mm以上
床ﾀｲﾙ張り　※水下60mm以上
立上りの保護工法
・乾式保護材（品質・性能、試験方法は別表による）
窯業系ﾊﾟﾈﾙⅠ類　厚さ(mm)　：
幅(mm)　：
・れんが押え
※JIS R 1250　・
・ｺﾝｸﾘｰﾄ押え
・ﾓﾙﾀﾙ押え(屋内)

【屋根露出防水】
防水層の種類

種別	施工箇所	断熱材[G]	仕上塗料 種類	使用量	高日射反射率防水の適用[G]
・D-1		／	・ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様 ・	※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様 ・	・適用する
・D-2		／			・適用する
・DI-1		9.2.2(9)による 種類　： 厚さ(mm)　：			・適用する
・DI-2					・適用する

改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.7から表9.2.8による
・JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・露出単層防水用　・露出複層防水用
材料による区分　※R種
厚さ(mm以上)　：
部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.7から表9.2.8による
・JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・露出単層防水用　・露出複層防水用
材料による区分　※R種
厚さ(mm以上)　：
絶縁断熱工法のﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置　※図示
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類　※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の指定　・
設置数量　※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の指定　・（　　）個

【屋内防水】
防水層の種類

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E-1		・E-2	

保護層　・設ける
※図示
・設けない
E-1の工程３を行う部位　※貯水槽、浴槽等常時水に接する部位　・
防水層の下地の立上り　※ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ 標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げ種別]のB種
・
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法　※ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 L-30×15×2.0mm
・
防水層の下地のﾓﾙﾀﾙ塗り　・適用する
施工範囲　※図示　・
・適用しない
屋上排水溝　※図示

2　改質アスファルトシート防水　(9.3.2)(9.3.3)(表9.3.1)～(表9.3.3)
【屋根露出防水】
防水層の種類

種別	施工箇所	断熱材[G]	防湿用ｼｰﾄ	仕上塗料 種類	使用量	高日射反射率防水の適用[G]
・AS-T1		／	／	・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様 ・	・適用する
・AS-T2						・適用する
・AS-T3						・適用する
・AS-T4						・適用する
・AS-J1						・適用する
・ASI-T1		標準仕様書9.3.2(3)(ｳ) 種類　： 厚さ(mm)　：	・設ける (改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様) ・設けない			・適用する
・ASI-J1						・適用する

改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による　・
・JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※R種
厚さ(mm以上)　：
粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.2から表9.3.3による
・JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※R種
厚さ(mm以上)　：

部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの種類及び厚さ
※ 標準仕様書表9.3.2から表9.3.3による
・JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※ R種
厚さ(mm以上)　：
立上り部の押さえ金物の材質、形状及び寸法　※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 L-30×15×2.0mm　・
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類　※ ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の指定　・
設置数量　※ ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の指定　・（　　）個

○3 合成高分子系ルーフィングシート防水　(9.4.2)～(9.4.4)(表9.4.1)～(表9.4.3)

防水層の種別

種別	施工箇所	可塑剤移行防止シートの材種	断熱材[G]	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水[G]
・S-F1				・ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様	※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様	・適用する
⊙ S-F2	屋根					・適用する
・S-M1				・ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様	※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様	・適用する
・S-M2						・適用する
・SI-F1			標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(b)(種類)・(厚さ)・	・ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様	※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様	・適用する
・SI-F2						・適用する
・SI-M1			標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(a)(種類)・(厚さ)・	・ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様	※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様	・適用する
・SI-M2		※ 発泡ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝｼｰﾄ・				・適用する

S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様　※ 非歩行仕様　・軽歩行仕様
SI-M1及びSI-M2における防湿用フィルム　・設置する　・設置しない

【屋内防水】
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場の保護ﾓﾙﾀﾙ塗厚	保護層 立上がり部の保護ﾓﾙﾀﾙ塗厚
・S-C1	・	・	※ 7mm以下・

平場のモルタル床塗りにおける目地の目地群および種類
目地割　※ 目地割2m2程度、最大目地間隔3m程度　・
目地の種類　※ 押し目地
合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※ 標準仕様書表9.4.1から表9.4.3による
・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
種類　：
厚さ(mm以上)　：
固定金具の材質、形状及び寸法
※ 厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ｽﾃﾝﾚｽ鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの
・
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類　※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様　・
設置数量　※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様　・
接着工法の場合のﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ部材下地の目地処理
・行う
・図示　・
・行わない
ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ部材の入隅部の増張り（種別S-F1、SI-F1の場合）
・行う
・図示　・
・行わない
機械的固定工法の場合の一般部のﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの張付け
1章 適用区分による風圧力の　・1　・　　）倍の風圧力に対応した工法

○4 塗膜防水　(9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)

防水層の種別

種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用料	保護層	高日射反射率防水[G]
・X-1		・主材料の製造所の仕様・	※ 主材料の製造所の仕様・		・適用する
⊙ X-2		⊙ 主材料の製造所の仕様・	※ 主材料の製造所の仕様・		・適用する
・Y-1	※ 地下外壁防水・				
・Y-2	※ 屋内防水			・適用する・適用しない	

ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水Y-1脱気装置の種類及び設置数量
種類　※ 主材料の製造所の仕様　・
設置数量　※ 主材料の製造所の仕様　・（　　）個

5 ケイ酸質系塗布防水　(9.6.4)(表9.6.1)

防水層の下地
壁　※ ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ（表6.2.4　B種）　・
天井　※ ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ（表6.2.4　B種）　・
下地処理
ｺﾝｸﾘｰﾄの打継ぎ箇所の処理
※ 打継ぎ部分に対し、幅30mm程度の目地棒を用いる。目地棒の除去後、水洗い清掃し、ｹｲ酸質系塗布防水材の製造所の仕様により、ｽﾗﾘｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙを充填する。
・図示
・
標準仕様書9.6.4(2)の(ｲ)(ﾀ)以外の下地処理
・図示　・

○6 シーリング　(9.7.2)(9.7.3)(9.7.5)(表9.7.1)

下表以外は、標準仕様書表9.7.1による。
ただし、外壁ﾀｲﾙ接着剤張り目地の場合のｼｰﾘﾝｸﾞは11章に、ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ目地の場合のｼｰﾘﾝｸﾞは17章による

施工箇所	ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類(記号)
コンクリート目地、耐震スリット、ECP取合	PU-2
サッシ廻り、防水取合	MS-2
ガラス廻り、水廻り	SR-1

仕上げを行わない施工箇所　・図示　・
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の目地寸法
打継ぎ目地　※ 幅20mm×深さ10mm以上　・
ひび割れ誘発目地　※ 幅20mm×深さ10mm以上　・
ｶﾞﾗｽ回り目地　※ 幅 5mm×深さ 5mm以上　・
その他の箇所　※ 幅10mm×深さ10mm以上　・
接着試験　※ する
※ 簡易接着性試験　・引張接着性試験
・しない

10章 石工事

1 施工　(10.1.3)

石材の割付け　・図示

2 石材等　(10.2.1)(10.2.3)(表10.2.1)(表10.2.2)

天然石

施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げの種類	備考
・床石		・図示・			

ｼﾞｪｯﾄﾊﾞｰﾅｰ仕上げのﾊﾞﾌ仕上げの有無　・あり　・なし

ﾃﾗｿﾞﾌﾞﾛｯｸ

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上面による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考
	※ 大理石・花こう岩	※ 1.5～12	・平もの・役もの	・片面・両面			

ﾃﾗｿﾞﾀｲﾙ

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考
	※ 大理石・花こう岩	※ 1.5～12 0	・300型・400型			

その他の材料
取付け用ﾓﾙﾀﾙ　※ 専門工事業者の指定する製品　・
既調合の目地ﾓﾙﾀﾙ　※ 専門工事業者の指定する製品　・
浸透性吸水防止材　※ 専門工事業者の指定する製品　・
石裏面処理材　※ 専門工事業者の指定する製品　・
裏打ち処理材　※ 専門工事業者の指定する製品　・
ﾄﾞﾚﾝﾊﾟｲﾌﾟの材質　※ 樹脂ﾈｯﾄ性ﾊﾟｲﾌﾟ　ｸﾛｽﾒｯｼｭ巻き 25～36φ　・
金物の固定に使用する充填材料等　※ 専門工事業者の指定する製品　・

3 外壁湿式工法　(10.2.2)(10.2.3)(10.3.2)(10.3.3)

受金物
材質　※ SUS304　・
形状及び寸法　・L-75×75×6(mm)の加工（長さ　・100mm・150mm）・
ｱﾝｶｰの材質及び寸法
材質　※ SS400
寸法　・
あと施工ｱﾝｶｰの材質及び寸法等
種類　・
材質　・
寸法　・
ﾄﾞﾚﾝﾊﾟｲﾌﾟ
・設ける
位置　・図示
・設けない
石裏面処理　・適用する　・しない
裏打ち処理　・適用する　・しない
下地ごしらえ　※ あと施工ｱﾝｶｰ・横筋流し工法　・　あと施工ｱﾝｶｰ工法　・流し筋工法

目地
一般目地

種別	目地幅(mm)	深さ(mm)	種類
・目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
・既調合の目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
※ ｼｰﾘﾝｸﾞ材	・	・	※　標準仕様書9.7.1による　・

伸縮調整目地
位置　・図示
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類　※ 標準仕様書表9.7.1による　・
目地寸法　※ 幅・深さとも10mm以上　・図示

4 内壁空積工法　(10.2.2)(10.4.2)(10.4.3)

受金物
材質　※ SUS304　・
形状及び寸法　・L-75×75×6(mm)の加工（長さ　・100mm・150mm）・
ｱﾝｶｰの材質及び寸法
材質　※ SS400
寸法　・
あと施工ｱﾝｶｰの材質及び寸法等
種類　・
材質　・
寸法　・
石裏面処理　・適用する　・しない
裏打ち処理　・適用する　・しない
下地ごしらえ　※ あと施工ｱﾝｶｰ・横筋流し工法
・あと施工ｱﾝｶｰ工法

一般目地

	目地幅(mm)	深さ(mm)	種類
・目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
・既調合の目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
・ｼｰﾘﾝｸﾞ材	・	・	※　標準仕様書9.7.1による　・

伸縮調整目地
位置　・6m程度　・
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類　※ 標準仕様書表9.7.1による　・
目地寸法　・

5 外壁乾式工法　(10.2.2)(10.5.2)(10.5.3)(表10.2.4)

乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
※ 標準仕様書表10.2.4による
方式　・ｽﾗｲﾄﾞ方式　・ﾛｯｷﾝｸﾞ方式
・
あと施工ｱﾝｶｰの材質及び寸法等
種類　・
材質　・
寸法　・
だぼ穴の位置　※ 標準仕様書10.5.2(2)(ｱ)による　・図示
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法
1章 適用区分による風圧力の（　※ 1　・1.15　・1.3　）倍の風圧力に対応した工法
ｼｰﾘﾝｸﾞ材
種類　※ 標準仕様書9.7.1による　・
目地幅及び深さ　・

6 床及び階段の石張り　(10.6.2)(10.6.3)

浸透性吸水防止材
床石張り　・適用する　・適用しない
石裏面処理
床石張り　・適用する　・適用しない
階段張り　・適用する　・適用しない
裏打ち処理
床石張り　・適用する　・適用しない
一般目地

	目地幅(mm)	深さ(mm)	種類
・目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
・既調合の目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
・ｼｰﾘﾝｸﾞ材	・	・	※ 標準仕様書9.7.1による　・

伸縮調整目地
位置　・標準仕様書10.6.2(5)(ｲ)(a)による　・図示
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類　※ 標準仕様書表9.7.1による　・
目地寸法　※ 幅・深さとも10mm以上　・図示

7 笠木、甲板等の石張り　(10.2.2)(10.7.1)(10.7.2)

取付工法　・湿式工法　・乾式工法
特殊部位用金物
材質　※ SUS304
寸法等
引金物　※ 標準仕様書表10.2.3による　・
だぼ　※ 標準仕様書表10.2.3による　・
かすがい　※ 標準仕様書表10.2.3による　・
受金物　※ 標準仕様書10.2.2(1)(ｲ)による　・
乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
ファスナー　※ 標準仕様書表10.2.4に準ずる
方式　・ｽﾗｲﾄﾞ方式　・ﾛｯｷﾝｸﾞ方式
・図示
あと施工ｱﾝｶｰの材質及び寸法等
種類　・
材質　・
寸法　・
石裏面処理　・適用する　・適用しない
乾式工法の場合の取り付け代　※ 70mm程度
石材の裏面の補強用ﾓﾙﾀﾙ　・適用しろ　・適用しない
一般目地

	目地幅(mm)	深さ(mm)	種類
・目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
・既調合の目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
・ｼｰﾘﾝｸﾞ材	・	・	※ 標準仕様書9.7.1による　・

伸縮調整目地
位置　・標準仕様書10.6.2(5)(ｲ)(a)による　・図示
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類　※ 標準仕様書表9.7.1による　・
目地寸法　・図示

11章 タイル工事

○1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地　(11.1.3)(表11.1.1)

位置　※ 標準仕様書表11.1.1による　・図示
目地寸法　・図示

○2 見本焼き、試験施工　(11.1.4)

見本焼き　・行う
施工箇所　・
⊙ 行わない
試験張り　・行う（範囲、仕様等は図示による）　⊙ 行わない

3 セメントモルタルによるタイル張り　(11.2.2)(11.2.3)(11.2.6)(11.2.7)

ﾀｲﾙの形状、寸法等

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	再生材の適用[G]	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施釉	無釉	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
既製調合ﾓﾙﾀﾙ（品質・性能、試験方法は別表による）
ﾓﾙﾀﾙ下地としたﾀｲﾙ工事に使用する張付け用ﾓﾙﾀﾙとして、ｾﾒﾝﾄ、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
既製調合目地材（品質・性能、試験方法は別表による）
下地ﾓﾙﾀﾙ塗りを行うｺﾝｸﾘｰﾄ素地面の処理　・目荒し工法(高圧洗浄)
・MCR工法
・
壁ﾀｲﾙ張りの工法
内外装ﾀｲﾙ　・密着張り　・改良圧着張り
内装ﾀｲﾙ以外のﾕﾆｯﾄﾀｲﾙ　・ﾏｽｸ張り　・ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ張り

4 有機系接着剤によるタイル張り　(11.3.2)～(11.3.6)

ﾀｲﾙの形状、寸法等

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	再生材の適用[G]	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施釉	無釉	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	薄型
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
内装ﾀｲﾙ接着剤張りの接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆　・

目地のｼｰﾘﾝｸﾞ材
打継ぎ目地　※ ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・
ひび割れ誘発目地　※ ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・
伸縮調整目地　※ 変成ｼﾘｺｰﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・
・
下地調整材塗りを行うｺﾝｸﾘｰﾄ素地面の下地処理
※ 目荒し工法(高圧洗浄)　・MCR工法　・
外装タイルの目地詰め　・行う　・行わない

12章 木工事

○1 施工一般　(12.2.1)

材料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※ F☆☆☆☆又は標準仕様書12.2.1(1)(ﾀ)(b)による
・

○2 製材[G]　(12.2.1)(12.4.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

県内産木材の適用がない場合でも可能な範囲で県内産木材の使用に努めること
報告：静岡県産材証明制度の「県産材販売管理票」により報告すること
・合法的に生産された木材を使用すること。
報告：木材・木製品の合法性、持続可能性の証明のためのｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ(平成18年2月15日林野庁作成)に準拠した証明書により報告すること
造作材の材質の品質の基準　※ A種　・B種

・JAS 1083-5 製材-第5部に基づく下地用製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※ 2級　・	※ A種　・B種　・		・有　・無
		※ 2級　・	※ A種　・B種　・		・有　・無
		※ 2級　・	※ A種　・B種　・		・有　・無

県産木材の適用　・適用する　・適用しない

・JAS 1083-2 製材-第2部に基づく造作用製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
見掛面	9 x 100　18 x 100 35 x 100	※ 上小節・	※ A種　・B種　・		・有　・無
見掛面以外		※ 小節以上・	※ A種　・B種　・		・有　・無
		※ 2級	※ A種　・B種　・		・有　・無

県産木材の適用　・適用する　・適用しない

・JAS 1083-6 製材－第6部に基づく広葉樹製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※ 1等　・	※ 10%以下・A種　・B種		・有　・無
		※ 1等　・	※ 10%以下・A種　・B種		・有　・無

県産木材の適用　・適用する　・適用しない

・JAS 1083(製材)以外の製材

施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
		(　　)造作材の場合 ※ A種　・B種	・適用する・適用しない	※ A種・B種	・有　・無
		(　　)造作材の場合 ※ A種　・B種	・適用する・適用しない	※ A種・B種	・有　・無
		(　　)造作材の場合 ※ A種　・B種	・適用する・適用しない	※ A種・B種	・有　・無

県産木材の適用　・適用する　・適用しない

3 造作用集成材[G]　(12.2.1)

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法(mm)	見付け材面	見付け材面の品質	間伐材等の適用
					※ 1等　・2等	・有　・無
					※ 1等　・2等	・有　・無
					※ 1等　・2等	・有　・無

県産木材の適用　・適用する　・適用しない

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面	見付け材面の品質	間伐材等の適用
		化粧薄板：芯材：				※ 1等・2等	・有・無
		化粧薄板：芯材：				※ 1等・2等	・有・無
		化粧薄板：芯材：				※ 1等・2等	・有・無

県産木材の適用　・適用する　・適用しない

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	材種名	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※ 15%以下　・	・有　・無
				※ 15%以下　・	・有　・無
				※ 15%以下　・	・有　・無

県産木材の適用　・適用する　・適用しない

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	材種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：				※ 15%以下・	・有・無
	化粧薄板：芯材：				※ 15%以下・	・有・無
	化粧薄板：芯材：				※ 15%以下・	・有・無

県産木材の適用　・適用する　・適用しない

4 造作用単板積層材[G]　(12.2.1)

・JAS 0701に基づく造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
				・適用する・適用しない	・有・無
				・	・有・無

県産木材の適用　・適用する　・適用しない

・JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質	含水率	防虫処理	間伐材等の適用
			※ 14%以下	・適用する ・適用しない	・有 ・無
			※ 14%以下	・適用する ・適用しない	・有 ・無

県産木材の適用　・適用する　・適用しない

・JAS 3079に基づく直交集成板[G]

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能(使用環境)	樹種名	寸法(mm)	間伐材等の適用
							・有 ・無
							・有 ・無
							・有 ・無

○5　合板等　(12.2.1)

⊙「合板の日本農林規格」による普通合板[G]

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質		防虫処理	間伐材等の適用
壁	※ 5.5 ⊙ 12		※ 1類 ・2類	広葉樹　※ 2等以上 針葉樹　※ C-D以上	・1等 ・	・適用する ・適用しない	・有 ・無

県産木材の適用　・適用する　○ 適用しない

⊙「合板の日本農林規格」による構造用合板[G]

施工箇所	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ(mm)	防虫処理	強度等級	防虫処理	間伐材等の適用
壁下地 床下地	※ 2級以上 ・1級		※ 1類 ・特類	※ C-D以上 ・	※ 12 ⊙ 9 ⊙ 15	・有 ・無	・有 (　　) ・無	・適用する ・適用しない	・有 ・無

県産木材の適用　・適用する　○ 適用しない

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			・1類　・特類	・適用する ・適用しない	・有 ・無

県産木材の適用　・適用する　・適用しない

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	防虫処理
			・1類　・2類	・適用する ・適用しない
			・1類　・2類	
			・1類　・2類	

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
		・1類　・2類			・適用する ・適用しない
		・1類　・2類			
		・1類　・2類			

・ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ[G]

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)
		※ 13タイプ ・	※ P又はM ・		※ 15 ・
		※ 13タイプ ・	※ P又はM ・		※ 15 ・

・JAS 0360 に基づく構造用ﾊﾟﾈﾙ

施工箇所	寸法(mm)

・MDF[G]

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

○6　接合具等　(12.2.2)

造作材の化粧面釘打ち　※ 隠し釘打ち　・つぶし頭釘打ち　・釘頭潰し

諸金物　※ かすがい、座金、箱金物、短冊金物

(標準仕様書表12.2.3～表12.2.5に示す程度の市販品　表14.2.2のF種程度)

・

○7　接着剤　(12.2.2)(12.2.3)

接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量　※ F☆☆☆☆　・

8　防腐・防蟻処理　(12.3.1)(12.3.2)

・防腐、防蟻処理を省略できる樹種による製材

適用部位　：

・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
	・K2　・K3　・K4
	・K2　・K3　・K4
	・K2　・K3　・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※ 薬剤の製造所の仕様による ・	※ JIS K 1571に適合または同等品
	・	

・薬剤の接着材への混入による防腐、防蟻処理

適用部位　：

・合板等の加圧注入処理の適用

適用部位　：

9　内部間仕切軸組及び床組み　(12.4.1)

・間仕切軸組に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）

※ 杉または桧

県産材の適用　・適用する　・適用しない

・床組みに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）

※ 杉または桧

県産材の適用　・適用する　・適用しない

○10　窓、出入口その他　(12.5.1)

・窓、出入口その他に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）

※ 吊元枠、水摺かりの下枠及び敷居はひのき、その他は杉又は桧

県産材の適用　・適用する　○ 適用しない

11　床板張り　(12.6.1)

・縁甲板及びあがりかまちに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）

※ 桧

県産材の適用　・適用する　・適用しない

12　壁及び天井下地　(12.7.1)

・壁胴縁、野縁受桟、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）

※ 桧

県産材の適用　・適用する　・適用しない

13章　屋根及びとい工事

○1　長尺金属板葺　(13.2.2)(12.2.3)(表13.2.1)(表13.2.2)

施工箇所	板及びｼｰﾄの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	※ JIS G 3322の屋根用 着色　⊙ 有　・ 無 ・	・5類(AZ150) ・	・0.4 ⊙ 0.5	・心木なし瓦棒葺 ・立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺 ⊙ かん合式瓦棒葺	

下葺材料　・ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄｰﾌｨﾝｸﾞ940

・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄｰﾌｨﾝｸﾞ下葺材

・一般ﾀｲﾌﾟ　・複層材ﾀｲﾌﾟ　・粘着層付ﾀｲﾌﾟ

横葺きの場合のけらば納め　・つかみ込め納め　・けらば包み納め

工法　1章 適用区分による風圧力の(　※ 1　・1.15　・1.3　)倍の風圧力に対応した工法

耐雪性能に対応した工法の適用　・適用する　・　適用しない

折半のけらば納め　※ けらば包みによる方法

雪止め　・設置する

形状及び施工箇所　・図示

・設置しない

2　折板葺　(13.3.2)(13.3.3)

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分		耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
		山高	山ﾋﾟｯﾁ					
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形			(　　)種	※ 鋼板製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製		・有 ・無	・30分 ・無
	・			・	・			

※ JIS A 6514 のうち5.3 及び5.4 は適用しない

材料

折板の材質の種類　・JIS G 3322の屋根用

着色　・有　・無

・

塗装の耐久性の種類、めっき付着量　・5類(AZ150)　・

断熱材張り　・行う

断熱材の種別　：

厚さ(mm)　：

防火性能　：

工法　1章 適用区分による風圧力の(　※ 1　・1.15　・1.3　)倍の風圧力に対応した工法

耐雪性能に対応した工法の適用　・適用する　・　適用しない

折半のけらば納め　※ けらば包みによる方法

雪止め　・設置する(図示)

形状及び施工箇所　・図示

・設置しない

3　粘土瓦葺　(13.4.2)(13.4.3)

施工箇所	種類			産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
	製法による区分	形状による区分	寸法による区分			
						・適用する ・適用しない
						・適用する ・適用しない

棟瓦の防災瓦の使用　・適用する　・適用しない

JIS A 5208に基づく凍害試験等　・行う　・行わない

瓦桟木　材質　※ 杉　・

寸法　※ 幅21×高さ15(mm)以上　・

棟補強用心材　材質　※ 杉　・

寸法　※ 幅40×高さ30(mm)以上　・

瓦緊結用釘及びねじ

種類　：

径　：

長さ　：

棟補強等に使用する金物等

材質　・ステンレス製　・溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製

形状、寸法及び留付け方法　※ 図示による

工法　1章 適用区分による風圧力の(　※ 1　・1.15　・1.3　)倍の風圧力に対応した工法

風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法等　※ 図示

瓦桟木の留付け工法　※ 図示　・

棟の工法　※ 7寸丸伏せ棟又はP型用冠瓦伏せ棟　・のし積み棟　・

面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合　・ﾓﾙﾀﾙ　・瓦葺き用しっくい

○4　とい　(13.5.2)(13.5.3)(表13.5.4)

といその他の材種　・配管用鋼管

・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管

⊙ ﾀｰﾌﾟﾄﾞﾚﾝ

・表面処理鋼板

表面及び裏面の塗膜の種類　⊙ アルミ

という受金物　材種　※ 標準仕様書13.5.2による(溶融亜鉛めっきを行ったもの)

・

形状　※ 市販品（とい径100以下）

・25x4.5（とい径100を超えるもの）

・

取付間隔　※ 標準仕様書13.5.2による　・

足金物　材種　※ 標準仕様書13.5.2による(溶融亜鉛めっきを行ったもの)

・

形状　※ 市販品

取付間隔　※ 標準仕様書13.5.2による　・

多雪地域　・適用する　・適用しない

防露材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆　・

鋼管製といの防露巻き　※ 標準仕様書表13.5.4による　・

ﾀｰﾌﾟﾄﾞﾚﾝの材種その他

種別		呼び	施工箇所
・ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ ねじ込み式	・80　・100　・125　・150	
⊙ ろく屋根用横形Ⅰ型	※ ねじ込み式	・80　⊙ 100　・125　・150	陸屋根
・ﾊﾞﾙｺﾆｰ中継用	・ねじ込み式	・50　・80　・100	
	・差し込み式	・50　・75　・100	
・ﾊﾞﾙｺﾆｰ	・ねじ込み式	・50　・80　・100	
	・差し込み式	・50　・75　・100	

14章　金属工事

1　アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理　(14.2.1)(表 14.2.1)

種別	色合い等	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）

陽極酸化皮膜の着色方法　※ 二次電解着色　・三次電解着色

○2　鉄鋼の亜鉛めっき　(14.2.2)(表14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、ﾀﾗｯﾌﾟ以外）
⊙ 溶融亜鉛めっき	⊙ A種	屋外階段、メンテナンスバルコニー
	・B種	
	・C種	
・電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

○3　軽量鉄骨天井下地　(14.4.2)～(14.4.4)(表14.4.1)

特定天井　・有（仕様、位置は図示による）　⊙ 無し

野縁等の種類

屋外　※ 25形　・19形

屋内　※ 19形　・25形

屋外の形式及び寸法

野縁受、吊りﾎﾞﾙﾄ及びｲﾝｻｰﾄの間隔　⊙ 図示

周辺部の煙からの間隔　⊙ 図示

野縁の間隔　⊙ 図示

・吊りﾎﾞﾙﾄの間隔が900mmを超える場合

補強方法　※ 図示　・

・天井のふところが3.0mを超える場合

補強方法　※ 図示　・

・天井下地材における耐震性を考慮した補強

補強箇所　・図示　・

補強方法　※ 図示　・

耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

屋外の軒天上、ピロティ天井の工法

1章 適用区分による風圧力の(　※ 1　・1.15　・1.3　)倍の風圧力に対応した工法

○4　軽量鉄骨壁下地　(14.5.3)(表14.5.1)

ｽﾀｯﾄﾞ、ﾗﾝﾅの種類　※ 標準仕様書表14.5.1によるｽﾀｯﾄﾞの高さによる区分に応じた種類

・図示

・

ｽﾀｯﾄﾞの高さが5.0mを超える場合　※ 図示　・

出入口及びこれに準ずる開口部の補強　※ 標準仕様書14.5.4(5)による　・図示

5　金属成形板張り　(14.6.2)(14.6.3)(表 14.2.1)

種別	製法	形状	板幅(mm)	板厚(mm)	表面処理	
					種別	色合い等
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ	・押出し ・ｺｰﾙ ・ﾌﾟﾚｽ ・	ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形 ﾊﾟﾈﾙ形				
・						

取付け用下地　※ 標準仕様書14.4による　・図示

伸縮調整継手　・設ける

施工箇所　・図示　・

・設けない

屋外の軒天上、ピロティ天井の工法

1章 適用区分による風圧力の(　※ 1　・1.15　・1.3　)倍の風圧力に対応した工法

○6　アルミニウム製笠木　(14.7.2)(14.7.3)(表 14.2.1)(表 14.7.1)

種類　・250形　⊙ 300形　・350形

表面処理

種別（　　）種

色合等　・標準色(　　)　・特注色(　　)

笠木の固定金具の工法等

1章 適用区分による風圧力の(　※ 1　・1.15　・1.3　)倍の風圧力に対応した工法

7　エキスパンションジョイント金物

材種	ｸﾘｱﾗﾝｽ(mm)	耐火性能	備考
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	・50　・100	・有り　(　　)	
・ｽﾃﾝﾚｽ製	・150	・無し	

15章　左官工事

○1　モルタル塗り　(15.3.2)(15.3.5)

ﾓﾙﾀﾙ　・現場調合材料　・既調合材料(　　)

既製目地材　⊙ 設ける

施工箇所　：

形状　※ 図示　・

・設けない

床目地　⊙ 設ける

種類　※ 押し目地　・

目地剤　※ 2m2程度（最大目地間隔3m程度）　・

・設けない

屋外ﾀｲﾙ張り下地、屋内の吹抜け部分等のﾀｲﾙ張りの下地ﾓﾙﾀﾙ塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験

・適用する　・適用しない

防水剤　品質・性能、試験方法は別表による

2　ラス系下地　(15.2.4)

ﾗｽ系下地

・二層下地通気構法

・単層下地通気構法

換気口部の防水処理　※ 公共建築木造工事標準仕様書11.4.3(2)(ｲ)　・

・直張りﾗｽﾓﾙﾀﾙ下地

・直張りﾗｽｼｰﾄﾓﾙﾀﾙ下地

・耐力壁、防火構造、準防火構造等の指定

ﾗｽの材料

種類及び記号　：

単位面積当たりの質量：

ﾗｽｼｰﾄの材料

ﾗｽ目による区分　※ M　・

山高、山ピッチ、質量及び溶接区分による区分　・LS4(建築基準法に基づく耐力壁)

・

ｽﾃｰﾌﾟﾙの形状及び寸法：

直張りﾗｽｼｰﾄﾓﾙﾀﾙ下地で建築基準法に基づく耐力壁のﾗｽｼｰﾄの施工：

3　せっこうボード、その他のボード下地　(15.2.5)

せっこうﾎﾞｰﾄﾞ及びせっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞの種類及び厚さ

種類　・GB-R　・GB-L　・

厚さ(mm)　：

木質系ｾﾒﾝﾄ板の種類及び厚さ

種類　・

厚さ(mm)　：

4　こまい下地　(15.2.6)

建築基準法に基づく耐力壁の指定　・あり　・なし

5　木ずり下地　(15.2.7)

木ずり用小幅板の種類　※ 杉(芯去り材)　・

6　仕上塗材仕上げ　(15.6.2)

内装仕上げに用いる素材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆

仕上塗材の種類

・薄付け仕上塗材

種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
・			・適用する	
・			・適用する	

・厚付け仕上塗材

種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	吸放湿性	上塗り	防火材料
・			・適用する	・適用する	
・			・適用する	・適用する	

・複層仕上塗材

種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料
・			樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候型 1種 ・耐候型 2種 ・耐候型 3種	
・					

・軽量骨材仕上塗材

種類(呼び名)	防火材料
・	
・	

7　マスチック塗材塗り　(15.7.2)

種別　・A種　・B種

8　ロックウール吹付け　(15.12.2)(15.12.3)

ﾛｯｸｳｰﾙのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆　・

接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆　・

仕上げ吹付け厚さ(mm)　・図示　・25　・

9　しっくい塗り　(15.10.2)(15.10.3)(15.10.4)

しっくい　・既調合材料

色しっくい　・適用する　・適用しない

・現場調合材料

下地　・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ　・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ　・ﾓﾙﾀﾙ塗り　・木ずり

・こまい土壁塗り　・下塗りをせっこうﾌﾟﾗｽﾀｰとし上塗りに使用する場合

・

既調合しっくいの調合　・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ下地

※ 標準仕様書表15.10.1

・ﾓﾙﾀﾙ塗り下地

※ 標準仕様書表15.10.2

・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ下地

※ 製造所の仕様による

現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚　・木ずり下地

※ 標準仕様書表15.10.3

・せっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ下地、こまい下地

※ 標準仕様書表15.10.4

既調合しっくいの上塗り仕上げ工法　・なで切り仕上げ　・ﾊﾟﾀｰﾝ仕上げ

10　こまい壁塗り　(15.11.2)～(15.11.5)(15.11.7)(15.11.8)
のり　・土壁用ののり
※ つのまた　・ふのり　・ぎんなんそう　・粉末海藻　・
・砂壁用ののり
・つのまた　※ふのり　・こんにゃくのり　・にかわ　・合成樹脂系混和材
色土　・土物仕上げに用いる色土の種類(　　)
・大津仕上げに用いる色土の種類(　　)
色砂の種類　・天然砂と岩石の砕砂　・人工的に着色、製造したもの
下塗りの調合　※標準仕様書表15.11.2　・
塗厚　※標準仕様書表15.11.8による
・建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合(　　)
・
こまい壁の工程　※A種　・B種
こまい壁塗りの上塗りとする土物仕上げの工法の種類
・土物仕上げ工法
・水ごね土物1工法　・水ごね土物2工法　・のりさし土物工法　・のりごね土物工法
・砂壁仕上げ工法
・切返し仕上げ工法
こまい壁塗りの上塗りとする大津仕上げの工法の種類
・普通大津仕上げ工法　・大津みがき仕上げ工法
ちりじゃくり
・図示

16章　建具工事

○1　防火戸　(16.1.3)
⊙ 建具表による　・

2　見本の製作等　(16.1.4)
建具見本の製作　・行う
建具符号　:
・行わない
建具見本の目的等　・
特殊な建具の仮組　・行う
建具符号　:
・行わない

3　防犯建物部品　(16.1.6)
・適用する
・建具表による
・適用しない

○4　アルミニウム製建具　(16.2.2)(16.2.4)(16.2.5)(表14.2.1)(表16.2.1)(表16.2.2)
性能値等
耐風圧性の等級　⊙ S-5
建具符号　⊙ 建具表による　・
気密性の等級　⊙ A-3
建具符号　⊙ 建具表による　・
水密性の等級　⊙ W-4
建具符号　⊙ 建具表による　・
外部に面する建具の種別　・A種
建具符号　・建具表による　・
⊙ B種
建具符号　⊙ 建具表による　・
・C種
建具符号　・建具表による　・
・D種
建具符号　・建具表による　・
・E種
枠見込寸法　⊙ 建具表による　・
防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
遮音性の等級　・
建具符号　・建具表による　・
断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ[G]
断熱性の等級　・
建具符号　・建具表による　・
材料
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　※ SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI
ｽﾃﾝﾚｽ製のくつずりの仕上げ　※ HL
形状および仕上げ
表面処理
外部に面する建具
種別　・BB-1　・BB-2　⊙ BA-1　(表14.2.1)
着色　⊙ 標準色　・特注色
屋内の建具
種別　・BC-1　・BC-2　(表14.2.1)
着色　・標準色　・特注色
結露水の処理方法　・水貯め式　⊙ 排水式
工法
水切り、ぜん板　※ 図示
木下地の場合の内付け家具　・適用しない　・適用する

○5　網戸等　(16.2.3)

種類	材質	線径	網目
⊙ 防虫網	※ 合成樹脂製 ・ｶﾞﾗｽ繊維入り合成樹脂製 ・ｽﾃﾝﾚｽ (SUS316) 製	※ 0.25mm以上 ・	・16ﾒｯｼｭ～18ﾒｯｼｭ
・防鳥網	ｽﾃﾝﾚｽ (SUS304) 線材	1.5mm	網目寸法　15mm

6　樹脂製建具　(16.2.5)(16.3.2)～(16.3.5)(表16.3.1)
性能値等
耐風圧性の等級　・
気密性の等級　・
水密性の等級　・
外部に面する建具の種別　・A種
建具符号　・建具表による　・
・B種
建具符号　・建具表による　・
・C種
建具符号　・建具表による　・
・D種
建具符号　・建具表による　・
・E種
防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
遮音性の等級　・T-1　・T-2
建具符号　・建具表による　・
断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ[G]
断熱性の等級　・H-4　・H-5　・H-6
建具符号　・建具表による　・
外部に面する建具の日射熱取得性の等級　・
枠の見込寸法　・建具表による　・

材料
ｶﾞﾗｽ　※ 複層ガラス(組合せは建具表による)　・
ｽﾃﾝﾚｽ製くつずり　※ HL
形状および仕上げ
鋼板類の厚さ　※ 標準仕様書表16.4.2による
・
使用箇所　・
標準形鋼製建具の形式及び寸法　※ 建具表による

○7　鋼製建具　(16.2.2)(16.4.2)～(16.4.6)(表16.4.2)
性能値等
簡易気密型ﾄﾞｱｾｯﾄ　⊙ 適用する
建具符号　⊙ 建具表による
・適用しない
外部に面する鋼製建具の耐風圧性
耐風圧性の等級　⊙ S-5
防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
遮音性の等級　・
建具符号　・建具表による　・
断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ[G]
断熱性の等級　・
建具符号　・建具表による　・
耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
材料
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　※ SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI
ｽﾃﾝﾚｽ製のくつずりの仕上げ　※ HL
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ
※ 標準仕様書表16.4.2による
・
使用箇所　・
標準型鋼製建具の形式及び寸法　※ 建具表による

○8　鋼製軽量建具　(16.2.2)(16.5.2)～(16.5.6)
性能値等
簡易気密型ﾄﾞｱｾｯﾄ　⊙ 適用する
建具符号　⊙ 建具表による
・適用しない
防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
遮音性の等級　・
建具符号　・建具表による　・
断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ[G]
断熱性の等級　・
建具符号　・建具表による　・
耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
材料
鋼板　・亜鉛めっき鋼板　・ﾋﾞﾆﾙ被覆鋼板　⊙ ｶﾗｰ鋼板　・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　・SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI　・
召合わせ、縦小口包み板の性質　※ 鋼板
ｽﾃﾝﾚｽ製のくつずりの仕上げ　※ HL
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ(mm)　※ 標準仕様書表16.5.1による
・
使用箇所　・
標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法 ※ 建具表による

9　ステンレス製建具　(16.2.2)(16.6.2)～(16.6.5)
性能値等
簡易気密型ﾄﾞｱｾｯﾄ　・適用する
建具符号　・建具表による
・適用しない
外部に面する鋼製建具の耐風圧性
耐風圧性の等級　・
防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
遮音性の等級　・
建具符号　・建具表による　・
断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ[G]
断熱性の等級　・
建具符号　・建具表による　・
耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
材料
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　・SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI　・
ｽﾃﾝﾚｽ製のくつずりの仕上げ　※ HL
形状及び仕上げ
表面仕上げ　※ HL　・鏡面仕上げ
工法
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板の曲げ加工　※ 普通曲げ　・角出し曲げ

○10　木製建具　(16.7.2)～(16.7.4)
建具材の加工、組立時の含水率　※ A種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆

⊙ ﾌﾗｯｼｭ戸
表面材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量等　※ 標準仕様書16.7.2(2)(イ)(a)による
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等		備考
⊙ 普通合板[G]	表面の樹種　⊙ しな 板面の品質　※ 広葉樹 1 等 接着の程度　・1類　・2類		
・天然木 化粧合板[G]	樹種名　・ 接着の程度　・1類　・2類		
・特殊加工化粧合板[G]	化粧加工の方法 ・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・ｽﾘｴｽﾃﾙ化粧合板 ・ﾒﾗﾐﾝ化粧合板　・ 接着の程度　・1類　・2類		
・MDF[G]			

表面板の厚さ　※ 表16.7.6による　・
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用　・適用する　・適用しない
・かまち戸
かまち樹種　・
鏡板樹種　・
見込み寸法　※ 36mm　・建具表による
・ふすま
張りの種別　・Ⅰ類　・Ⅱ類
上張り(押入等の裏側以外)　・鳥の子　・新鳥の子又はﾋﾞﾆﾙ紙程度
縁仕上　・塗り縁　・生地縁(素地)　・生地縁(ｳﾚﾀﾝｸﾘｱｰ塗装)
見込み寸法　※ 19.5mm　・建具表による　・
・紙張り障子
見込み寸法　※ 30mm　・建具表による　・
枠、くつずりの材料　・建具表による　・

○11　建具用金物　(16.8.2)(16.8.3)(表16.8.1)～(表16.8.5)
金物の種類及び見え掛り部の材質等
※ 標準仕様書表16.8.1による適用は建具表による　・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※ 標準仕様書表16.8.2による　・建具表による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※ 標準仕様書表16.8.3による　・建具表による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※ 標準仕様書表16.8.4による　・建具表による
木製建具に使用する戸車及びﾚｰﾙ　※ 標準仕様書表16.8.5による　・建具表による
握り玉及びﾊﾟﾆｯｸﾄﾞｱ、押板類、ｸﾚｾﾝﾄの取付位置　・建具表による　・
ｼﾘﾝﾀﾞ箱錠及びｼﾘﾝﾀﾞ本締り錠(品質・性能、試験方法は別表による)
ﾀｰｺﾞｾﾞ類(品質・性能、試験方法は別表による)

○12　鍵　(16.8.4)
ﾏｽﾀｰｷｰ　⊙ 製作する
⊙ ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾏｽﾀｰ　・ｺﾝｽﾄﾗﾀｼｮﾝ　・逆ﾏｽﾀｰ
・製作しない
その他の鍵の製作本数　※ 各室3本1組(室名札付き)
鍵箱　※ 有(鋼製市販品)　・無

○13　自動ドア開閉装置　(16.9.2)(16.9.3)
戸の開閉方式　⊙ 建具表による　・
引き戸用駆動装置
性能値　※ 標準仕様書表16.9.1による
防錆　・適用する　・適用しない
・以下による
種類・開閉方式　:
耐電圧　:
温度上昇　:
耐久性(ｻｲｸﾙ)　:
防錆　:
電源　:
車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置
性能値　※ 標準仕様書表16.9.2による
防錆　・適用する　・適用しない
・以下による
耐電圧　:
温度上昇　:
耐久性(ｻｲｸﾙ)　:
防錆　:
電源　:
引き戸用検出装置
性能値　※ 標準仕様書表16.9.3による
防錆　・適用する　・適用しない
・以下による
耐電圧　:
防錆　:
防滴　:
電源　:
引き戸用検出装置の種類(標準仕様書表16.9.4)
・建具表による
ﾀｯﾁｽｲｯﾁの種類　・無線式ﾀｯﾁｽｲｯﾁ　・光線式ﾀｯﾁｽｲｯﾁ
車椅子使用者用便房ｽｲｯﾁの種類　・大型押しﾎﾞﾀﾝｽｲｯﾁ　・非接触ｽｲｯﾁ
速結防止措置　・行う　・行わない

○14　自閉式上吊り引戸装置　(16.10.3)(表16.10.1)
性能値等　※ 標準仕様書表16.10.1による
・以下による
手動開き力　:
手動閉じ力　:
閉じ速度の調整　:
制動区間　:
開閉繰返し　:
耐衝撃性　:

15　重量シャッター　(16.11.2)(16.11.3)
ｼｬｯﾀｰの種類　・管理用ｼｬｯﾀｰ　・外壁用防火ｼｬｯﾀｰ　・屋内用防火ｼｬｯﾀｰ　・防煙ｼｬｯﾀｰ
外壁開口部に設ける重量ｼｬｯﾀｰの耐風圧強度(pa)　・
開閉方式の種類　※ 電動式(手動併用)　・手動式
安全装置
電動式ｼｬｯﾀｰの急降下制御装置、急降下停止装置
設置箇所　・建具表による
電動式ｼｬｯﾀｰの障害物監視装置　・設ける
設置箇所　・建具表による
・設けない
屋内用防火ｼｬｯﾀｰ若しくは防煙ｼｬｯﾀｰの危害防止装置　・設ける
設置箇所　・建具表による
・設けない
管理用ｼｬｯﾀｰのｼｬｯﾀｰｹｰｽ　・設ける　・設けない
ｽﾗｯﾄ及びｼｬｯﾀｰｹｰｽ用鋼板
鋼板の種類　・JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板鋼帯)
めっきの付着量　※ Z12またはF12
ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、まぐさ、雨掛かりに用いる座板及び座板ｶﾊﾞｰ、雨掛かりに用いるｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ類の蓋の材質
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　※SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI　・

16　軽量シャッター　(16.12.2)(16.12.3)(16.12.4)
開閉方式の種類　※ 手動式　・電動式(手動併用)
耐風圧強度(pa)　・
安全装置
電動ｼｬｯﾀｰの障害物感知装置
設置箇所　・建具表による
ｽﾗｯﾄの材質の種類　・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
めっきの付着量　※ Z06またはF06　・
・JIS G 3322(塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑｰ亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)
めっきの付着量　※ AZ90　・
ｽﾗｯﾄの形状　・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ形　・ｵｰﾊﾞｰﾗｯﾌﾟﾋﾝｸﾞ形

17　オーバーヘッドドア　(16.13.2)(16.13.3)

ｾｸｼｮﾝ材料による区分	風圧力による強さの区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙの材料
※ ｽﾁｰﾙﾀｲﾌﾟ ・ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ ・ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ	・50 ・75 ・100 ・125	※ ﾊﾞﾗﾝｽ式 ・ﾁｪｰﾝ式 ・電動式	・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ形 ・ﾛｰﾍｯﾄﾞ形 ・ﾊｲﾘﾌﾄ形 ・ﾊﾞｰﾃｶﾙ形	※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板

電動式ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱの障害物感知装置　※ 設ける
設置箇所　・建具表による
・設けない

○18　ガラス　(9.7)(16.14.2)～(16.14.4)(図16.14.1)
⊙ ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽの品種及び厚さの呼びによる種類　※ 建具表による
⊙ 型板ｶﾞﾗｽの厚さによる種類　※ 建具表による
⊙ 網入板ｶﾞﾗｽ及び線入板ｶﾞﾗｽの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
※ 建具表による　・
・合わせｶﾞﾗｽ
材料板ｶﾞﾗｽの種類及び厚さの組合せ並びに合わせｶﾞﾗｽの合計厚さ
※ 建具表による　・
落球衝撃はく離特性並びにｼｮｯﾄﾊﾞｯｸ衝撃特性による種類
・Ⅰ類　・Ⅱ-1類　・Ⅱ-2類　・Ⅲ類
⊙ 強化ｶﾞﾗｽ
形状による種類、材料板ｶﾞﾗｽの種類による名称　※ 建具表による　・
破片の状態及びｼｮｯﾄﾊﾞｯｸ衝撃特性による種類　・Ⅰ類　・Ⅲ類
・熱線吸収板ｶﾞﾗｽ
板ｶﾞﾗｽによる種類、厚さによる種類　※ 建具表による　・
性能による種類　・1種　・2種
⊙ 複層ｶﾞﾗｽ
材料板ｶﾞﾗｽの種類及び厚さの組合せ並びに複層ｶﾞﾗｽの厚さ　※ 建具表による　・
断熱性による区分　・T1　⊙ T2　・T3　・T4　・T5　・T6
日射取得性、日射遮蔽性による区分　・G　・S
乾燥気体の種類　・空気　・ｱﾙｺﾞﾝ
・熱線反射ｶﾞﾗｽ
材料板ｶﾞﾗｽの種類及び厚さによる種類　※ 建具表による　・
日射遮蔽性による区分　・1種　・2種　・3種
耐久性による区分(日射遮蔽性による区分が2種の場合)　・A類　・B類
・倍強化ｶﾞﾗｽ
材料板ｶﾞﾗｽの種類及び厚さによる種類　※ 建具表による　・
ｶﾞﾗｽの留め材及び溝の大きさ　(16.14.2)(表9.7.1)

建具の種類	ｶﾞﾗｽ留め材	ｶﾞﾗｽ溝の大きさ(mm)
ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	⊙ ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾁｬﾝﾈﾙ ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
鋼製及び鋼製軽量	⊙ ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
ｽﾃﾝﾚｽ製	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
樹脂製	・ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾁｬﾝﾈﾙ ・	※ 建具の製造所の仕様による ・

耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

19　ガラスブロック　(16.14.5)

呼び寸法(mm)	厚さ(mm)	色調	目地幅(mm)	伸縮調整目地位置(mm)	防火性能
・160×160	・95　・				
・200×200	・95　・				

壁用金属枠及び補強材　※ 図示
力骨
材質　※ ｽﾃﾝﾚｽ鋼 (SUS304)
寸法　※ 径5.5mm
形状　※ はしご形状複筋及び単筋
化粧目地ﾓﾙﾀﾙの色　・白　・ｸﾞﾚｰ
ｼｰﾘﾝｸﾞの種類　・SR-1　・PS-1
金属製化粧ｶﾊﾞｰ
材質　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製
寸法　※ 図示　・
形状　※ 図示　・
木下地の場合のﾌﾝｷｰ等の取り付け間隔　・図示
目地部の横力骨の納まり　※ ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ製造所の仕様による　・図示　・
工法　1章 適用区分による風圧力の(　・1　・1.15　・1.3　)倍の風圧力に対応した工法

20　ガラス用フィルム

種類	記号		性能等
	内貼り用	外貼り用	
・日射調整ﾌｨﾙﾑ	・SC-1	・SC-2	日射遮蔽性能による区分 ・A　・B　・C　・D　・E
・低放射ﾌｨﾙﾑ	・LE		熱貫流率による区分 ・A　・B　・C　・D
・衝撃破壊対応ｶﾞﾗｽ飛散防止ﾌｨﾙﾑ	・GI-1	・GI-2	
・相関変位破壊対応ｶﾞﾗｽ飛散防止ﾌｨﾙﾑ	・GD-1	・GD-1	
・ｶﾞﾗｽ貫通防止ﾌｨﾙﾑ	・SF		

品質　JIS A 5759による。

17章　カーテンウォール工事

1　取付方法、性能等　(17.1.3)
取付け形態による分類
・層間方式　・柱、梁方式　・方位方式　・ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ方式　・
性能

水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性	耐温度差性(℃)
				・30分 ・1時間	・80 ・70 ・60

耐風圧性　1章 適用区分による風圧力(・1　・1.15　・1.3　)倍の風圧力に対応した工法
主要部材の耐風圧性能(ｶﾞﾗｽを除く)

支点間距離(h)	耐風圧性能
4m 以下	・たわみ量が±(1/150)×hかつ絶対量 20mm 以下であること ・
4m を超える	・

耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
性能の確認方法及び判定方法
※ 性能の確認及び判定方法が確認できる資料を提出し、監督職員の承諾を受ける

2　メタルカーテンウォール　(17.2.2)(17.2.3)(17.2.5)(17.2.6)
金属系材料の種類　・ｱﾙﾐﾆｳﾑ材　・鋼材　・ｽﾃﾝﾚｽ鋼材
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類(目地等)
種類及び寸法等　※ 図示
ｶﾞﾗｽの取付け材料　・ｼｰﾘﾝｸﾞ
種類　・SR-1　・SR-1
・構造用ｶﾞｽｹｯﾄ
形状・寸法等　※ 図示
断熱材[G]
種類及び範囲　※ 図示
形状及び仕上げ
製品の寸法許容差　※ 標準仕様書表17.2.1による
見え掛かり部の仕上げ
(ｱﾙﾐﾆｳﾑ材の場合)
規格等　標準仕様書16.2.3による
種別　・　(標準仕様書14.2.1)
着色　・標準色　・特注色
(鋼材及びｽﾃﾝﾚｽ鋼材の場合)
・
ｶﾞﾗｽ溝の寸法、形状　※ ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙの製造所の仕様　・
取付け
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
鉛直方向　※ ±10mm　・
水平方向　※ ±25mm　・
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅　※ ±3mm　・
目地の心の通り　※ 0～2mm　・
目地の両面の段差　※ 0～2mm　・
各階の基準墨から各部材までの距離　※ ±3mm　・
耐火処理
適用部位、材料等　※ 図示
ｶﾞﾗｽの取付け材料
ｶﾞﾗｽの取付け材料がｼｰﾘﾝｸﾞの場合のｶﾞﾗｽの支持方法　※ 4辺支持

3　PCカーテンウォール　(17.3.2)～(17.3.5)(表17.3.1)(表17.3.2)
材料
ｺﾝｸﾘｰﾄ
種類　・普通ｺﾝｸﾘｰﾄ　・軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ1種　・
品質
設計基準強度Fc　※ 30N/mm2　・
ｽﾗﾝﾌﾟ　※ 12cm
気乾単位容積質量　・普通ｺﾝｸﾘｰﾄの場合 2.1t/m3を超え2.5t/m3以下
・軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの場合 1.8t/m3～2.1t/m3
・
単位水量の最大値　※ 185kg/m2　・
鉄筋
種類の記号　※ SD295A
補強鉄線
径 (mm)　・3.2　・4.0　・5.0　・6.0
網目寸法　・
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類(目地等)
種類及び寸法等　※ 図示
ｶﾞﾗｽの取付材料
・構造ｶﾞｽｹｯﾄ
形状・寸法等　・図示
耐火処理
適用部位、材料等　※ 図示
断熱材[G]
種類　・
先付けの材料
・表面仕上材
・ｾﾗﾐｯｸﾀｲﾙ　・石材
・建具枠
・ｺﾞﾝﾄﾞﾗ用ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ
形状及び仕上げ
製品の見え掛り部の寸法許容差
辺長
※ ±3mm
対角線長の差
※ 0～5mm
板厚
※ ±2mm
開口部内法寸法
※ ±2mm
ねじれ、反り
※ 0～5mm
曲がり
※ 0～3mm
面の凹凸
※ 0～3mm
先付け金物の位置
※ 0～5mm
PCｶｰﾃﾝｳｫｰﾙの仕上げ
・
構造ｶﾞｽｹｯﾄを用いる場合のｱﾝｶｰ溝の寸法及び寸法許容差(mm)
※ 図示
製作
PC版の配筋　※ 図示
取付け
躯体付け金物の取付けの寸法許容差
鉛直方向　※ ±10mm
水平方向　※ ±25mm
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅　※ ±5mm
目地の心の通り　※ 0～3mm
目地両側の段差　※ 0～4mm
各階の基準墨から各部位までの距離　※ ±5mm
ｶﾞﾗｽの取付け方法
・ｶﾞﾗｽの取付材が構造用ｶﾞｽｹｯﾄで複層ｶﾞﾗｽ等を使用する場合は排水機能の設置及びガラスの封着処理の強化を行う

18章　塗装工事

○1　材料　(18.1.3)
屋内で使用する塗料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※ F☆☆☆☆
防火材料　※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・次の箇所を除き防火材料とする
箇所　・

○2　素地ごしらえ　(18.2.2)～(18.2.7)

	下地面等	種別
本部	不透明塗料塗りの場合	※ A種　・B種
	透明塗料塗りの場合	※ B種　・A種
鉄鋼面	DP	※ B種　・A種　・C種
	DP以外	※ C種　・A種　・B種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
ﾓﾙﾀﾙ面及びせっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ面		※ B種　・A種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面(DP以外)及びALCﾊﾟﾈﾙ面		※ B種　・A種
押出成形ｾﾒﾝﾄ板面		※ B種　・A種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面(DP面)		・B種　※ A種
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面及び	目地：継目処理工法	※ A種　・B種
その他ﾎﾞｰﾄﾞ類	目地：継目処理工法以外	※ B種　・A種

○3　錆止め塗料塗り　(18.3.2)(18.3.3)

下地面等	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの工程
鉄鋼面	SOP	A種	見え掛かり：A種 見え隠れ　：B種
	DP	C種及びD種	標準仕様書表18.3.4
	EP-G	※ B種　・A種	見え掛かり：A種 見え隠れ　：B種
亜鉛めっき鋼面	SOP	※ A種　・B種	鋼製建具等：A種 上記以外　：B種
	DP	B種	標準仕様書表18.3.6
	EP-G	C種及びD種	鋼製建具等：A種 上記以外　：B種

○4　塗装　(18.4.1)～(18.12.2)

塗装		種別	塗料の種類	高日射反射率塗料[G]
⊙ 合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り(SOP)	木部屋外	※ A種　・B種	―	―
	木部屋内	※ B種　・A種	―	―
	鉄鋼面	※ B種　・A種	―	・適用する
	亜鉛めっき鋼面	―	―	・適用する
・ｸﾘｱﾗｯｶｰ塗り(CL)		※ B種　・A種	―	―
・ｱｸﾘﾙ樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)		※ B種　・A種	―	―
⊙ 耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	―	上塗塗料の等級　・	・適用する
	亜鉛めっき鋼面	―	上塗塗料の等級　・	・適用する
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	⊙ A種　・B種 ・C種	―	―
⊙ つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 ﾓﾙﾀﾙ面 ﾌﾟﾗｽﾀｰ面 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面 その他のﾎﾞｰﾄﾞ面等	※ B種　・A種	―	―
	屋内の鉄鋼面 鉄鋼面	※ B種　・A種	―	―
	亜鉛めっき面	―	―	―
・合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP)		※ B種　・A種	―	―
・ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾆｽ塗り(UC)		※ B種　・A種	―	―
・ｽﾃｲﾝ塗り		・ﾋﾟｸﾞﾒﾝﾄｽﾃｲﾝ塗り ・ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り(OS)	―	―
⊙ 木材保護塗料塗り(WP)		※ B種　・A種	―	―

高日射反射率塗装[G]を適用する場合の適用箇所は屋上、屋根面の金属面とする。
ｸﾘｱﾗｯｶｰ塗A種の工程2の適用　・適用しない
・適用する
着色剤　・溶剤系着色剤　・油性染色着色剤
ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾆｽ塗の工程1の着色の適用　・適用する　・適用しない
・防塵用塗料塗り
材質　水性ｱｸﾘﾙ系樹脂塗料
※ 標準色　・
仕上種別　ｺｰﾃｨﾝｸﾞ(ｺｰﾗｰ刷毛塗り)
塗布量　主剤2回塗とし、総塗布量は0.25kg/m2以上とする。
・金属製屋根面に塗装する場合の塗料はJIS K 5675に適合する資材とする。種別、工程及び塗付量は図示による。

19章　内装工事

○1　接着剤　(19.2.2)
ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ、ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ、ｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ用接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆
施工箇所の下地がｾﾒﾝﾄ系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別　・図示

2　下地の工法　(19.2.3)
標準仕様書19.2.3(1)(ｱ)～(ｳ)以外の下地の工法・図示

○3　ビニル床シート[G]　(19.2.2)(19.2.3)

種類の記号	色柄	厚さ(mm)	備考
※ FS(複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ)	⊙ 無地 ⊙ ﾏｰﾌﾞﾙ柄 ⊙ 柄物	※ 2.0 ⊙ 2.5	

接合部の処理　※ 熱溶接工法

○4　ビニル床タイル[G]　(19.2.2)

種類の記号	色柄	寸法 (mm)	厚さ(mm)	備考
・TT(単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地	・300×300	※ 2.0	
⊙ FT(複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	⊙ 柄物	・450×450	・2.5	
※ KT(ｺﾝﾎﾟｼｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)		⊙ 500×500	⊙ 3.0	
⊙ FOA(置式きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)			⊙ 5.0	
・FOB(薄型置き敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)				

○5　特殊機能床　(19.2.2)
・帯電防止床ｼｰﾄ
種類　:
性能　:
厚さ(mm)　:
⊙ 帯電防止床ﾀｲﾙ
種類　: FOA
性能　: 帯電防止
寸法　: 500×500
厚さ(mm)　: 5.0
・視覚障害者用床ﾀｲﾙ
視覚障害者誘導用ﾌﾞﾛｯｸ等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による
種類　:
形状　:
・耐動荷重性床ｼｰﾄ
種類　:
厚さ(mm)　:
⊙ 防滑性床ｼｰﾄ
種類　: FS
厚さ(mm)　: 2.0　2.5
・防滑性床ﾀｲﾙ
種類　:
寸法　:
厚さ(mm)　:

○6　ビニル幅木　(19.2.2)
種類　・硬質　⊙ 軟質
高さ(mm)　※ 60　・75　・100
厚さ(mm)　※ 1.5以上　・

7　ゴム床タイル　(19.2.2)
種類　・単層品　・積層品
色柄　・
厚さ(mm)　・3.0　・4.5　・6.0　・9.0
寸法(mm)　・

8　カーペット敷き　(19.3.2)(19.3.3)(表19.3.1)(表19.3.2)
・織じゅうたん

織り方	ﾊﾟｲﾙ形状
・ｳｪｯﾄﾝｶｰﾍﾟｯﾄ ・ﾀﾌﾃｯﾄﾞﾌｪｰｽｶｰﾍﾟｯﾄ ・ｱｷｽﾐﾝｽﾀｰｶｰﾍﾟｯﾄ	・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ ・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ ・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用

色柄　※ 模様の無い無地　・
ﾊﾟｲﾙ糸の種類等　※ 無地の織りじゅうたんの種別
・A種　・B種　・C種
・
帯電性　・適用する　・適用しない
織りじゅうたんの接合方法　※ ﾋｰﾄｼｰﾄﾞ工法　・つづり縫い
下敷き材　※ 反毛ﾌｪﾙﾄ(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ 8mm
・
・ﾀﾌﾃｯﾄﾞｶｰﾍﾟｯﾄ

ﾊﾟｲﾙ形状	ﾊﾟｲﾙ長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ	・5～7　・	・全面接着工法 ・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法	・適用する ・適用しない	
・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	・4～6　・			
・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・			

下敷き材(ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法の場合)　※ 反毛ﾌｪﾙﾄ(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ8mm
・
ﾀﾌﾃｯﾄﾞｶｰﾍﾟｯﾄ用接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆
・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ

ﾊﾟｲﾙの形状	種類	施工箇所	寸法(mm)	総厚さ(mm)	備考
※ ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	※ 第一種 ・第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	
・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ	・第一種 ・第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	
・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・第一種 ・第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	

ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ用接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆
ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄの敷き方
平場　※ 市松敷き　・模様流し　・
階段部分　※ 模様流し　・市松敷き　・
見切り、押え金物
材質　:
種類　:
形状等　※ 図示

9　合成樹脂塗床　(19.4.2)(19.4.3)(表19.4.4)(表19.4.5)～(表19.4.8)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			※ 平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床		・薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			※ 平滑仕上げ

塗床材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆

○10　フローリング張り　(19.5.2)～(19.5.6)(表19.5.1)～(表19.5.6)
ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量等　※ 標準仕様書19.5.2(2)による　・
各工法に使用する接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量　※ F☆☆☆☆
・単層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ (ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ1等)
工法　・釘留め工法
・根太張り　・直張り
・接着工法
樹種　※ なら　・
間伐材の適用　・適用する　・適用しない
・単層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ (ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ1等)
樹種　※ なら　・
厚さ　・
大きさ　・
間伐材の適用　・適用する　・適用しない
・複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ
工法　・釘留め工法
・根太張り　・直張り
・接着工法
樹種　※ なら　・
種別　・A種　・B種　・C種
間伐材の適用　・適用する　・適用しない
接着工法の場合の裏面緩衝材　※ 合成樹脂発泡ｼｰﾄ　・

11　畳敷き　(19.6.2)(表19.6.1)
種別　・A種　・B種　・C種　・D種(畳床KT-　・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・K　・N　)
下地の種類　・標準仕様書表12.6.1による床組み
・ｽﾀﾘｽﾚﾝﾌｫｰﾑ床下地(ﾉﾝﾌﾛﾝ[G])　・
・衝撃緩和型畳　畳表(JIS A 5902)　・C1　・C2
畳表及び畳床にはﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ｱｾﾄｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ及びｽﾁﾚﾝを発散しないか、発散がきわめて少ない材料を使用したものとする。

○12　せっこうボードその他ボード及び合板張り　(19.7.2)(19.7.3)(表19.7.1)

種類等	厚さ(mm)、規格等
木質系セメント板[G]	
⊙ 木毛ｾﾒﾝﾄ板 ・硬質(HW)　・中質(MW)　・普通(NW)	※ 図示　・15　・20　・25
・木片ｾﾒﾝﾄ板 ・硬質(HF)　・普通(NF)	※ 図示　・12　・15　・18　・21　・30
繊維強化ｾﾒﾝﾄ板	
⊙ けい酸ｶﾙｼｳﾑ板(ﾀｲﾌﾟ2)　普通ﾎﾞｰﾄﾞ0.8FK	※ 図示　・6　・8
火山性ｶﾞﾗｽ質複層板	
・火山性ｶﾞﾗｽ質複層板 種類　※ 図示	※ 図示
繊維板[G]	
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ(MDF)	※ 図示　・3　・7　・9　・12
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ	※ 図示　・2.5　・3.5　・5　・7
・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(無処理) ・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・未研磨板(RN) ・研磨板(RS) ・内装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(DI) ・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(処理) ・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・未研磨板(RN) ・研磨板(RS) ・外装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(DE)	
・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ ・A級ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ(A-IB) ・天井仕上げ材 ・内装仕上げ材	※ 図示　・9　・12　・15　・18
ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ[G]	
・単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・無研磨板(VN) ・研磨板(VS)	※ 図示　・10　・12　・15　・18
・化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・単板オーバーレイ(DV) ・ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸオーバーレイ(DO) ・塗装(DC)	※ 図示　・10(難燃)　・12(難燃)
吸音材料	
⊙ ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板(DR) ⊙ ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ ⊙ 凹凸ﾀｲﾌﾟ	⊙ 9(不燃)　・12(不燃) ・15(不燃)　・18(不燃)
・ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ(1号)	※ 図示　・25
・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ(32K)	・25(ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包み)
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	
⊙ せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R)	※ 12.5(不燃)　・15(不燃)
⊙ ｼｰｼﾞﾝｸﾞせっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-S)	⊙ 12.5　:　・不燃　⊙ 準不燃
・強化石膏ボード(GB-F)	・12.5(不燃)　・15(不燃)
⊙ 化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-D)	・木目 12.5(不燃) 幅440mm程度 模様　:　・柾目　・板目 専用下地材有り ⊙ 四角凹 9.5(不燃)
・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ(GB-L)	・9.5
・不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-NC) ・化粧無し(下地張り用) ・化粧有り(ﾗﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様)	・9.5(不燃)
合板類	
・普通合板[G] 裏面の樹種名　: 板面品質　: 防虫処理　・行う　・行わない	※ 図示　・
・天然木化粧合板[G] 化粧版の樹種名　: 防虫処理　・行う　・行わない	※ 図示　・
・特殊加工化粧合板[G] 化粧加工の方法 ・オーバーレイ　・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・塗装 表面性能　・ 防虫処理　・行う　・行わない	※ 図示　・

天井のﾎﾞｰﾄﾞ類(ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板を除く)の重ね張りを行う場合　※ 図示
合板類の張付け　・A種　・B種
せっこうﾎﾞｰﾄﾞの目地工法等　※ 仕上表による
突付け工法及び目隠し工法のｴｯｼﾞの種類　・ﾍﾞﾍﾞﾙｴｯｼﾞ　・ｽｸｴｱｴｯｼﾞ
天井又は壁に使用する合板は、関係法令により求められる場合のみ、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする。

○13　壁紙張り　(19.8.2)(18.8.3)
ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆　・

施工箇所	壁紙の種類						防火種別	備考
	紙	繊維	塩化ﾋﾞﾆﾙﾌﾟﾗｽﾁｯｸ		無機質	その他		
	・	・	・	・	⊙	・	⊙ 不燃　・準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃	

ﾓﾙﾀﾙ、ﾌﾟﾗｽﾀｰ面の素地ごしらえ　※ B種　・A種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面の素地ごしらえ　※ B種　・A種
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、けい酸ｶﾙｼｳﾑ板面の素地ごしらえ　※ B種　・A種

○14　断熱材[G]　(19.9.2)～(19.9.4)
ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材、保温材又は接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆
開口部等補修のための張付け用の接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆
・断熱材打込み工法

種類	厚さ(mm)	施工箇所
・ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材　:	・	
⊙ 押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材 (ｽｷﾝ層なし) ・2種bA　⊙ 3種bA　・3種bC　・3種bD	⊙ 25	
・硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材　:	・	
・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材　:	・	

⊙ 断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　※ A種1　・A種1H
吹付け厚さ(mm)　⊙ 25
施工箇所　⊙ 図示
(品質、性能、試験方法は別表による)

20章　ユニット及びその他工事

1　フリーアクセスフロア　(20.2.2)

施工箇所	工法	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重(N)	表面仕上材	備考
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ	

寸法精度
※ 標準仕様書20.2.2(2)(ｵ)(a)～(c)による　・
・以下による
ﾊﾟﾈﾙ長さの寸法精度　:
ﾊﾟﾈﾙの平面形状(角度)の寸法精度　:
ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱの高さの寸法精度　:
帯電防止性能　・評価値(U)≧0.6以上　・評価値(U)≧1.2以上
感電防止性能　漏えい抵抗(R)≧1×10^6Ω
(品質・性能、試験方法は別表による)

2　可動間仕切　(20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類 ｽﾀｯﾄﾞ	ﾊﾟﾈﾙ	ﾊﾟﾈﾙ表面仕上げ	遮音性(db/500Hz)	防火性能
・ｽﾀｯﾄﾞ式(内臓) ・ｽﾀｯﾄﾞ式(露出) ・ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式 ・ﾊﾟﾈﾙ式			・ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付又は ｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・壁紙張り	・0　・12 ・20　・28 ・36	・不燃

ﾊﾟﾈﾙ内に取付ける建具　・あり
※ 図示　・
・なし
ﾊﾟﾈﾙに取り付ける家具のﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上げ材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。
ﾊﾟﾈﾙ材料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放出量　※ F☆☆☆☆

○ 3　移動間仕切　(20.2.4)

走行方向	操作方法による種類	ﾊﾟﾈﾙ圧接装置の操作方法	総厚さ(mm)	ﾊﾟﾈﾙ表面材 材質	ﾊﾟﾈﾙ表面材 仕上げ	遮音性(db/500Hz)
・平行方向移動式 ◉ 二方向移動式	◉ 手動式 ・電動式 ・部分電動式	・ﾌﾟｯｼｭ式 ◉ ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・		・鋼板 ◉ 鋼板蜂巣芯入 石膏板	・焼付塗装 ◉ 壁紙張り ・	・36未満 ◉ 36以上

ﾊﾟﾈﾙ表面仕上げ材の壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による。
ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙの取付け下地の補強
※ 取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する
・図示
ﾊﾟﾈﾙをﾗﾝﾅに取り付ける部品
※ ﾗﾝﾅに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの
・
ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙ及びﾗﾝﾅ
※ ﾊﾟﾈﾙ重量の5倍の荷重を、ﾊﾟﾈﾙ1枚に使用するﾗﾝﾅ数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの
・
(品質・性能は別表による)

○ 4　トイレブース　(20.2.5)

表面材の材料	脚部 種類	脚部 材質
◉ ﾒﾗﾐﾝ樹脂系化粧板 ・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧板 ・	◉ 幅木ﾀｲﾌﾟ ・	◉ 製造所の仕様による ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製

(品質・性能、試験方法は別表による)

5　手すり　(20.2.6)

材料の種類及び仕上げ
・SUS304
表面処理　※ HL程度　・
・鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき
表面処理(標準仕様書表14.2.2による種別)　・
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ
表面処理(標準仕様書表14.2.1による種別)　・
色合等　・標準色　:　・特注色　:
手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
・集成材 材種　:	・ｸﾘｱﾗｯｶｰ ・	・35程度 ・45程度 ・		
・ﾋﾞﾆﾙ製ﾊﾝﾄﾞﾚｰﾙ		・35程度 ・45程度 ・		

6　階段滑り止め　(20.2.7)

材種　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・黄銅製押出型材　・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製押出型材　・
形状　※ ﾀｲﾔ型(ﾀｲﾔの材質：ｺﾞﾑ又は合成樹脂)　・ﾀｲﾔﾚｽ型
端部の形状　・ﾌﾗｯﾄｺﾝﾄﾞあり　・ﾌﾗｯﾄｺﾝﾄﾞなし
寸法(幅)　・35mm程度　・40mm程度　・50mm程度
取付け工法　※ 接着工法　・埋め込み工法

○ 7　黒板及びホワイトボード　(20.2.9)

・黒板
区分　※ 焼き付け
種類　・鋼製黒板　・ほうろう黒板　・
色　※ 緑　・
◉ ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ

○ 8　鏡　(20.2.10)

取付箇所　: 便所
寸法(mm)　◉ 図示　・
厚さ(mm)　※ 5　・

○ 9　表示　(20.2.11)

衝突防止表示
◉ 設置する
設置場所　※ 図示　・
形状・寸法　◉ 30φ　・
材質　◉ ｽﾃﾝﾚｽ製　・
・設置しない

誘導標識、非常用進入口等の表示
※ 消防法に適合する市販品
室名札、ﾋﾟｸﾄｸﾞﾗﾌ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
(案内用図記号は[JIS Z 8210]による)
※ 図示

○ 10　タラップ　(20.2.12)

材質及び仕上げ　・SUS304
スリップ止め加工　※ あり　・なし
◉ 鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき
※ 標準仕様書表14.2.2による種別
※ C種　・

11　煙突ﾗｲﾆﾝｸﾞ　(20.2.13)

適用安全使用温度　・
工法　※ 鋼製ｴﾝﾄﾞ煙突(煙突用成形ﾗｲﾆﾝｸﾞ材)　・

○ 12　ブラインド　(20.2.14)

形式	操作方法	操作方法の種類	ｽﾗｯﾄの種類	ｽﾗｯﾄ幅(mm)	ﾎﾞｯｸｽ・ｼｰﾙの材種	幅・高さ・取付箇所
◉ 横形	・電動	―				
	◉ 手動	※ ｷﾞﾔ式 ・ｺｰﾄﾞ式 ・操作棒式	※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製[G] ・	・25 ・	※ 鋼製 ・	※ 図示 ・
・縦形	・電動	―				
	・手動	※ 1本操作ｺｰﾄﾞ式 ・2本操作ｺｰﾄﾞ式	・ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ ・ｸﾛｽｽﾗｯﾄ	・80 ・100	・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	※ 図示 ・

縦型ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞのｽﾗｯﾄの材質
・ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ　焼付け塗装仕上げ
・ｸﾛｽｽﾗｯﾄ　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は[G]とする。

○ 13　ロールスクリーン　(20.2.15)

操作方法	ｽｸﾘｰﾝの材質	その他の材料	幅・高さ、取付箇所	品質
・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式 ◉ ｺｰﾄﾞ式 ・電動式	◉ ｶﾞﾗｽ繊維製 ・合成、天然繊維製 ・木製	※ 製造所の仕様	◉ 図示	・

14　カーテン　(20.2.16)

形式	開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・ｼﾝｸﾞﾙ ・ﾀﾞﾌﾞﾙ	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・ﾌﾗﾝｽひだ ・箱ひだ、片ひだ ・ﾌﾟﾚｰﾝひだ	・図示	

生地の仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの
ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は[G]とする。
暗幕ｶｰﾃﾝの両端、上部及び召合せの重なり　※ 300mm以上　・

○ 15　カーテンレール　(20.2.16)

材料による区分　※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ又はｱﾙﾐﾆｳﾑ合金の押出成型材
・ｽﾃﾝﾚｽ製
強さによる区分　※ 10-30　・
仕上げ　※ ｱﾙﾏｲﾄ　・
形状　※ 角形　・

○ 16　ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ及びｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ

溝型x深さ(mm)　・90x150　・120x80　・120x150　・150x80　◉ 図示
材種　・集成材
仕上げ　:
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製　押出し型材(市販品)
標準仕様書14.2.1による種別　・BC-1種　・BC-2種
色合い　・標準色　:　・特注色　:
・鋼製
仕上げ　:

○ 17　天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・	◉ 450×450 ・600×600	◉ 一般形	・屋内外用 ◉ 屋内用	◉ 額縁ﾀｲﾌﾟ ◉ 目地ﾀｲﾌﾟ	◉ 額縁ﾀｲﾌﾟ ◉ 目地ﾀｲﾌﾟ
		・気密形			

(品質・性能、試験方法は別表による)

○ 18　床点検口

材種	寸法	形式		備考
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ◉ ｽﾃﾝﾚｽ製 ・鋼製	・450×450 ◉ 600×600 ・	・一般形 ◉ 密閉形	・屋内外用 ◉ 屋内用	・鍵付き

密閉形とはﾎﾞﾙﾄ、ﾅｯﾄ等ﾒｶﾆｽﾞﾑ構造にﾊﾟﾂｷﾝを装着したものとする。
(品質・性能、試験方法は別表とする)

19　耐震ｽﾘｯﾄ

方向	幅(mm)	ﾀｲﾌﾟ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直	・25 ・	・完全(全貫通型) ・	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	
・水平	・25 ・				

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材(見え掛かり部のみ) ・	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材(見え掛かり部のみ) ・ｼｰﾘﾝｸﾞ材(内外共)
目地寸法	・ｽﾀｯﾄ幅×深さ10 ・	・ｽﾀｯﾄ幅×深さ10 ・

目地材の材質は標準仕様書表9.7.1による

20　止水板

形式　・差込式　・据置式　・壁張り式
施工箇所　・図示

21　エキスパンションジョイント金物

建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。

22　くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ﾋﾞﾆﾙ又はｺﾞﾑ製 ・硬質ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304)製 ・	・ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304)製 ・硬質ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ・	

○ 23　流し台ユニット

材種	寸法(mm) W	D	H	備考
◉ 流し台	◉ 1200 ・1500 ・1800	◉ 550 ・600 ・650	◉ 800 ・850	市販品 ﾄﾗｯﾌﾟ付き 天板ｽﾃﾝﾚｽ製
・ｺﾝﾛ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 ﾊﾞｯｸｶﾞｰﾄﾞ有り 天板ｽﾃﾝﾚｽ
・つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	―	―	市販品 ｽﾃﾝﾚｽ製 ・1段式　・

品質・性能　外観は、JIS A 4420「ｷｯﾁﾝ設備の構成材」の4.1による。
構成材は、JIS A 4420の8により試験を行ったとき、表1の規定による。
形状　※ 図示

24　旗竿

材種	形式	高さ(m)	操作方法	固定方法	備考
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	・ﾃｰﾊﾟｰ式 ・同一断面式		・ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・ﾛｰﾌﾟ式	・埋込式 ・ﾍﾞｰｽ式 ・ﾊﾞﾝﾄﾞ式	

25　旗竿受金物

・ｽﾃﾝﾚｽ製(SUS304)　・

26　車止めさく

形式		材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(m)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式	・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・	・ ・	・GL＋700 ・
・				

27　フェンス

ﾌｪﾝｽの種類　・ﾋﾞﾆﾙ被覆ｴｷｽﾊﾟﾝﾄﾞﾌｪﾝｽ　・樹脂塗装ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ　・鋼管ﾌｪﾝｽ　・ｱﾙﾐﾌｪﾝｽ
高さ　・図示

28　プレキャストコンクリート　(20.3.3)(20.3.4)

ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度
※ 水ｾﾒﾝﾄ比55%以下、単位ｾﾒﾝﾄ量の最小値300kg/m3を満足する調合強度
・図示
配筋
※ 配筋を定めた計算書を監督職員に提出する
・図示
取付け方法
※ 図示

29　間知石及びｺﾝｸﾘｰﾄ間知ﾌﾞﾛｯｸ積み

	種別	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩			
・ｺﾝｸﾘｰﾄ間知ﾌﾞﾛｯｸ			・A ・B	

積み方　※ 谷積み　・布積み
目塗り　・図示
伸縮調整目地
材種　・図示
厚さ　・図示

30　鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	JISによる種類		
・鋼製書架	JIS S 1039の規格による	・1種	・2種	・3種
・鋼製物品棚		・4種	・5種	・6種

31　屋内掲示板

枠の材質　※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製　・
表面の材質　※ 塩ﾋﾞ発泡ｼｰﾄ張り　・

32　洗面カウンター

材種　・ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板張り(芯材：集成材)　・
奥行き(mm)　・約450　・約600

33　防煙垂れ壁

・固定式

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
※ 網入り磨き板ｶﾞﾗｽ ・線入り磨き板ｶﾞﾗｽ	※ 6.8 ・	※ 500 ・	ｱﾙﾐ製枠付き

・可動式

種類	材質	高さ(mm)	備考
・垂直降下式(巻取り型)	・不燃布(不燃認定品)	・500 ・800 ・	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ ※ 固定式(壁埋込型) ・可動式(天井収納型)
・回転降下式	鋼板製又はｱﾙﾐ製	・500 ・800	表面仕上げ ※ 天井材張り ・

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置(埋込型)

34　屋外掲示板

照明器具　※ 有り　・無し
施錠　※ 有り　・無し
製造所　・

35　収納家具

合板類、MDF及びﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量　※ F☆☆☆☆
材質、形状、寸法　※ 図示

21章　排水工事

1　屋外雨水排水　(21.2.1)(21.2.2)(表21.2.1)(表21.2.2)

材料

材種	管の種類	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ管	※ 外圧管(1種) ・	・B形管 ・	※ 図示　・	
・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	・RF-VP[G] ・RS-VU[G]		※ 図示　・	
	・VP		※ 図示　・	
	・VU		※ 図示　・	

基床の厚さ及び種類　・図示
硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管の継手に用いる材料　※ 接着剤
側塊の形状及び寸法　・図示
排水桝の種類　・図示
砂地業に用いる材料　・ｼﾙﾄ　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料　・再生ｱｽﾌｧﾙﾄﾗﾝ[G]　・切込砕利又は切込砕石
・現場打ちの場合のｺﾝｸﾘｰﾄ材料
設計基準強度(N/mm2)　※ #
ｽﾗﾝﾌﾟ(cm)　※ 15又は18
・現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号　※ SD295A
・排水桝が現場打の場合の足掛け金物
※ 標準仕様書21.2.2(6)(ｵ)
材質　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・鋼製　・合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層に用いる材料　・
砂を用いる場合の粒度試験　・行う　・行わない

埋戻し用材料　・A種　※ B種　・C種　・D種

2　鋳鉄製ふた　(21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製 ﾏﾝﾎｰﾙふた	・水封形 ・簡易密閉形(ﾊﾟｯｷﾝ式) ・密閉形(ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾟｯｷﾝ式) ・中ふた付き密閉形(ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾟｯｷﾝ式) ・	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による

○ 3　グレーチング　(21.2.1)

材質	形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき(付着量)	上面形状
・鋼製	・受枠付き、ﾎﾞﾙﾄ固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・桝ふた用 ・U字溝用	・歩行用	・細目 ・	・ (　　)	・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目	・ (　　)	・平形 ・
○ ｽﾃﾝﾚｽ製	○ 受枠付き、ﾎﾞﾙﾄ固定 ・	・溝ふた(横断用) ○ 溝ふた(側溝用) ○ 桝ふた用 ・U字溝用	・歩行用	―	―	・凹凸形 ・
			○ T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	―	―	・平形 ・

(品質・性能、試験方法は別表による)

4　街きょ、縁石及び側溝　(21.3.1)(21.3.2)(表21.3.1)

街きょ、縁石、側溝

種類	形状、寸法
・縁石	・図示　・
・L形側溝	・図示　・
・U形側溝	・図示　・
・U形側溝ふた	・図示　・
・	・図示　・

地業の材料　・ｼﾙﾄ　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料　・再生ｱｽﾌｧﾙﾄﾗﾝ[G]　・切込砕利又は切込砕石
砂利地業の厚さ(mm)　※ 100　・図示
・現場打ちの場合のｺﾝｸﾘｰﾄ材料
設計基準強度(N/mm2)　※ 18
ｽﾗﾝﾌﾟ(cm)　※ 15又は18
・現場打の場合の鉄筋
種類の記号　※ SD295
凍上抑制層に用いる材料　・
砂を用いる場合の粒度試験　・行う　・行わない

5　埋戻し土　(21.2.1)

※ B種

22章　舗装工事

1　路床　(22.2.2)(22.2.3)(22.2.4)(22.2.5)(表22.2.1)

路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種　・B種　・C種　・D種 ・建設汚泥から再生した処理土[G]	・図示 ・
・凍上抑制層	・再生ｱｽﾌｧﾙﾄﾗﾝ[G] ・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ ・切込み砂利 ・砂(標準仕様書表21.2.2による)	・図示 ・
・ﾌｨﾙﾀｰ層	標準仕様書22.2.3(3)	・図示 ・

(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験)　・行う　・行わない
・路床安定処理
安定処理の方法　・置き換え工法　・安定処理工法
路床安定化処理用添加材料
種類　・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ
・高炉ｾﾒﾝﾄB種[G]
・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種
・生石灰　(　　)　・消石灰　(　　)
・特号　・1号
・消石灰
・特号　・1号
添加量(kg/m3)　・
CBR　※ 3以上　・
・ｼﾞｵﾃｷｽﾀｲﾙ
単位面積質量(g/m2)　・60g/mm2以上
厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
透水係数　・1.5×10^-1cm/sec以上　・
試験
路床土の支持力比(CBR)試験　・行う　・行わない
路床締固め度の試験　・行う　・行わない
現場CBR試験　・行う　・行わない

2 路盤 (22.3.2)(22.3.3)(表22.3.1)

路盤の厚さ ・図示

路盤材料(標準仕様書表22.3.1による種別)

・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ

・粒度調整砕石

・再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ[G]

・再生粒度調整砕石[G]

・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ鉄鋼ｽﾗｸﾞ[G]

・粒度調整鉄鋼ｽﾗｸﾞ[G]

・水硬性粒度調整鉄鋼ｽﾗｸﾞ[G]

3 アスファルト舗装 (22.4.2)～(22.4.6)(表22.4.4)

ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装の構成及び厚さ ※ 図示

材料

ｱｽﾌｧﾙﾄ ・再生ｱｽﾌｧﾙﾄ[G]

標準仕様書表22.4.1による種類 ・60～80 ・80～100

・ｽﾄﾚｰﾄｱｽﾌｧﾙﾄ

骨材 ・道路用砕石

・ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ再生骨材[G]

加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の種類 ・密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13)

・細粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13)

・密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13F)

舗装の平たん性 ※ 通行の支障となる水溜まりを生じない程度

・

試験

ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない

4 コンクリート舗装 (22.5.2)～(22.5.4)(22.5.6)(表22.5.1)(表22.5.3)

ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装の構成及び厚さ

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装	車路及び駐車場	・図示	・図示
	歩行者用通路	・図示	※70

材料

ｺﾝｸﾘｰﾄ ※ 普通ｺﾝｸﾘｰﾄ、標準仕様書表22.5.1による

・以下による

ｺﾝｸﾘｰﾄの種類 ・

設計基準強度(N/mm2) ・

所定のｽﾗﾝﾌﾟ(cm) ※8 ・

粗骨材の最大寸法(mm) ・

早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・使用する ・使用しない

注入目地材料 ※ 低弾性ﾀｲﾌﾟ ・高弾性ﾀｲﾌﾟ

目地

※ 標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による ・図示

・以下による

種類 ・

間隔 ・ m以内毎

構造 ・図示

舗装の平たん性 ※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度

・

5 カラー舗装 (22.6.2)(22.6.3)(22.6.4)

・加熱系ｶﾗｰ舗装

構成・厚さ ・図示

加熱系混合物の結合材 ・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物

・石油樹脂系混合物

顔料添加量(%) :

添加剤

着色骨材 :

自然石 :

・常温系ｶﾗｰ舗装

工法 ・ｺｰﾄ工法

配合その他 :

・塗布工法

配合その他 :

着色部の下部 ・ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装

・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装

・

舗装の平たん性 ※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度

・

6 透水性アスファルト舗装 (22.7.2)(22.7.3)(22.7.6)

舗装の構成 ・図示 ・

材料

骨材 ・道路用砕石

・ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ再生骨材[G]

標準仕様書表22.4.1による種類 ・60～80 ・80～100

舗装の平坦性 ※ 著しい不陸がないもの

試験

開粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない

7 ブロック系舗装 (22.8.2)(22.8.3)

・ｺﾝｸﾘｰﾄ平板舗装[G]

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
・普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)	・300角 ・	※60	※ 砂 ・ﾓﾙﾀﾙ	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

ｸｯｼｮﾝ材 ※ 砂 ・空練りﾓﾙﾀﾙ

普通平板は[G](再生材料を用いた舗装用ﾌﾞﾛｯｸ)、透水平板は[G](透水性ｺﾝｸﾘｰﾄ)とする。

仕上り面の平たん性 ※ 歩行に支障となる段差がないものとし、ｺﾝｸﾘｰﾄ平板間の段差は3mm以内

・

・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装[G]

種類	部位	形状・寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm2)	備考
・普通ﾌﾞﾛｯｸ(N) ・透水性ﾌﾞﾛｯｸ(P) ・保水性ﾌﾞﾛｯｸ(M)	車路	・図示 ・	※80 ・	※5.0 ・	表面加工 ・ ・
・普通ﾌﾞﾛｯｸ(N) ・透水性ﾌﾞﾛｯｸ(P) ・保水性ﾌﾞﾛｯｸ(M)	歩行者用通路	・図示 ・	※60 ・	※3.0 ・	表面加工 ・ ・

ｸｯｼｮﾝ材 ※ 砂 ・空練りﾓﾙﾀﾙ

歩行者用通路に使用する普通ﾌﾞﾛｯｸは[G](再生材を用いた舗装用ﾌﾞﾛｯｸ)、透水性ﾌﾞﾛｯｸは[G](透水性ｺﾝｸﾘｰﾄ)とする。

仕上り面の平たん性 ※ 歩行に支障となる段差がないものとし、ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ間の段差は3mm以内

・

・舗石舗装

種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	貼り方	基層	基層の厚さ(mm)
※小舗石(花こう岩)	・割石	・80	・うろこ張り	・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装	※70 ・
・	・図示	・	・	・ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装	※50 ・

ｸｯｼｮﾝ材 ※ 砂 ・空練りﾓﾙﾀﾙ

仕上り面の平たん性 ※ 歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内

・ｼﾞｵﾃｸｽﾀｲﾙ

単位面積質量 ・60g/m2以上 ・

厚さ(mm) ・0.5～1.0 ・

引張強さ ・98N/5cm(10kgf/5cm)以上 ・

透水係数 ・1.5×10^{-1}cm/sec以上 ・

8 砂利敷き (22.9.2)

種別

・A種 (施工範囲 : ・図示 ・通路 ・)

・B種 (施工範囲 : ・図示 ・建物周囲その他 ・)

9 路面表示用塗料

路面表示用塗料はJIS K 5665による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
※3種1号	溶融	粉体状	・白	・150	・1.0
・1種[G]	常温	液状	・	・100	・
・2種[G]	加熱				

低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料[G]

23章 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確認等 (23.1.3)

土壌の水素ｲｵﾝ濃度指数(pH)試験 ・行う ・行わない

水溶性塩類(EC)の試験 ・行う ・行わない

2 植栽基盤の整備 (23.2.2)(23.2.4)

樹木の植栽基盤の整備 ・適用する ・適用しない

植栽	工法	有効土層の厚さ(mm)	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 ※100 ・120 ・150 樹高7m以上～12m未満 ※80 ・100 樹高3m以上～7m未満 ※60 ・80 樹高3m未満 ※50 ・60	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※B種 ・	※20 ・	・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備 ・設ける

※ 図示 ・

・設けない

3 植込み用土 (23.2.3)

※ 現場発生土の良質土 ・客土

4 土壌改良材 (23.2.3)

種類及び指定量等

・ﾊﾞｰｸ堆肥[G]

施工箇所 ※ 植栽範囲 ・図示

使用量(植栽基盤面積1m2あたり) ・50L ・

・汚泥発酵肥料(下水汚泥ｺﾝﾎﾟｽﾄ)

施工箇所 ※ 植栽範囲 ・図示

使用量(植栽基盤面積1m2あたり) ・10L ・

材料 「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする

・

5 樹木 (23.3.2)

樹種、寸法、株立数等 ※ 図示

6 支柱 (23.3.2)(23.3.3)

支柱材 ※ 丸太(間伐材)[G] ・真竹 ・

防腐処理方法 ※ 加圧式防腐処理丸太材 ・

形式 ・図示

7 幹巻き用材料 (23.3.2)

材料 ※ 幹巻き用ﾃｰﾌﾟ ・わら及びこも

8 芝 (23.4.2)(23.4.3)

種類 ※ ｺｳﾗｲｼﾊﾞ ・ﾉｼﾊﾞ ・

芝張りの工法

平地 ※ 目地張り ・べた張り

法面 ・目地張り ※ べた張り法面

9 吹付けは種 (23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量(g/m2)	備考
※洋芝類(採取後2年以内)	※発芽率80%以上		
・			

10 地被類 (23.4.2)

樹種	ｺﾝﾃﾅ径	単位面積当たりのｺﾝﾃﾅ数	芽立数
・	・	・	・
・	・	・	・

11 新植、芝等の枯保証、移植樹木の枯損処置 (23.3.4)(23.3.6)(23.4.7)

新植樹木(芝張り、吹付けは種及び地被類を含む)の枯補償の期間

※ 引渡しの日から1年 ・無し

移植樹木の枯損処置を行う期間

※ 引渡しの日から1年 ・無し

12 屋上緑化[G]

植栽基盤及び材料 (23.5.2)～(23.5.4)

・屋上緑化ｼｽﾃﾑ

土壌層の厚さ ・図示 ・

排水層 ・軽量骨材

層の厚さ :

・板状成形品

植込み用土 ※ 改良土 ・人工軽量土

樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等 ※ 図示

見切り材、舗装材、水抜き管、ﾏﾙﾁﾝｸﾞ材など ※ 図示

(品質・性能、試験方法は別表による)

支柱 ・設置する

形式 ・図示

・設置しない

かん水装置 ・設置する

種類 ・図示 ・

・設置しない

工法 「屋根ふき材及び屋外に目する張壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」(平成12年5月31日 建設省告示第1458号)に基づく風圧力に対応した工法

・図示 ・

施 工 条 件 特 記 仕 様 書

下記項目のうち適用項目〇印該当欄は、当該工事に関する施工条件として明示するものである。
なお、明示事項に変更が生じた場合は、監督職員に報告し、協議するものとする。

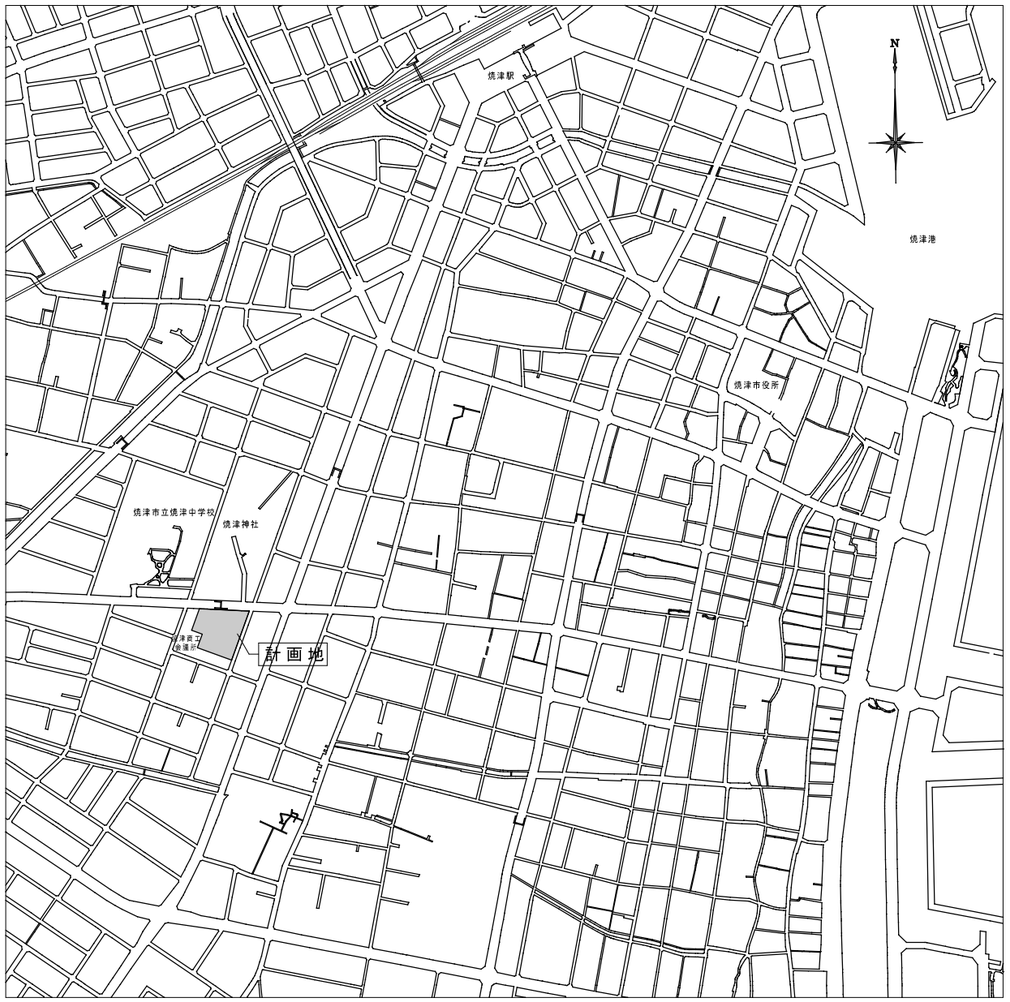
		明示項目	適用項目	明示が必要な場合	明示事項	内容
1 工程関係	1	関連工事との調整	〇	他の工事の開始又は完了の時期により、当該工事の施工時期、全体工期等に影響がある場合	影響を受ける部分	全て
					影響を受ける工事内容	全て
					関連する工事内容	別途発注予定の令和７年度焼津体育館建設工事（電気設備工事、機械設備工事、太陽光設備工事）（債務負担）
					関連する工事の開始又は完了の時期	全工程
	2	施工時期、時間の制限	〇	施工時期、施工時間及び施工方法が制限される場合	制限される施工内容	工事車両の出入り
					制限される施工時期・施工時間	近隣の学校の生徒、児童の登校時間（午前8時ころ）を避けること
					制限される施工方法	現場入場口について、敷き鉄板にて養生の際は、防滑処理、段差処理を施し歩行者の安全に配慮した施工方法とすること。
	3	関係機関等との協議		当該工事の関係機関等との協議に未成立のものがある場合	制約を受ける内容	
					協議内容	
					協議成立見込時期	
				関係機関、自治体等との協議の結果、特定の条件が付され当該工事の工程に影響がある場合	影響を受ける部分	
					影響を受ける内容	
	4	地下埋設物及び埋蔵文化財の事前調査		工事着手前に地下埋設物及び埋蔵文化財等の事前調査を必要とする場合	調査項目	
					調査期間	
				地下埋設物等の移設が予定されている場合	移設期間	
	5	作業不能日数			休日日数以外の作業不能日数	
	6	指定部分		工事の規模（範囲）及び工期について指定した部分がある場合	当該工事の規模（範囲）	
					当該工事の工期	現場説明書による。
2 用地関係	1	仮用地等として官有地の提供	〇	施工のための仮用地等として施工者に、官有地等を使用させる場合	場所・範囲	K-001　仮設計画図Ｉによる
					時間・時期	K-008　概略工程表による
					使用条件	使用にあたり、近隣施設へ配慮すること、左折入場とすること
					復旧方法	現状復旧
3 公害関係	1	公害防止（騒音、振動、粉塵、排出ガス等防止）	〇	工事に伴う公害防止のため、施工方法、建設機械・設備、作業時間等の指定が必要な場合	施工方法、建設機械・設備、作業時間	低騒音型、低振動型建設機械の指定に関する規定及び排出ガス対策型建設機械指定要領に基づき指定される建設機械・設備を使用するものとする。
	2	騒音、振動、地盤沈下、地下水枯渇等の防止調査		工事の施工に伴って発生する騒音、振動、地盤沈下、地下水の枯渇等が予測される場合	事前・事後調査の区分	
					調査時期	
					未然に防止するための必要な調査方法	
					未然に防止するための必要な調査範囲	
	3	電波障害等に起因する事業損失防止調査		電波障害等に起因する事業損失が懸念される場合	事前・事後調査の区分	
					調査時期	
					未然に防止するための必要な調査方法	
					未然に防止するための必要な調査範囲	
4 安全対策関係	1	交通安全施設		交通安全施設等を指定する場合	指定の内容	
					指定の期間	
	2	近接施工		鉄道、ガス、電気、電話、水道等の施設と近接する工事において施工方法等に制限がある場合	制限される施工方法	
					制限される作業時間帯	
	3	落石、雪崩、土砂崩落の防護施設		落石、雪崩、土砂崩落に対する防護施設が必要な場合	防護施設の内容	
	4	交通誘導警備員の配置	〇	交通誘導警備員の配置を指定する場合	延べ人数	交通誘導警備員Ａ　　交通誘導警備員Ｂ　555人（建設地）375人135人（残土置場）
					配置時間	交通誘導警備員Ａ　　交通誘導警備員Ｂ　8時～17時まで（8時間）
	5	有毒ガス及び酸素欠乏等の対策		有毒ガス及び酸素欠乏対策として、換気設備が必要な場合	換気設備等の内容	
5 工事用道路関係	1	一般道の使用		搬入経路、使用時間、使用時間帯等に制限がある場合	制限される工事用資機材の搬入経路	
					制限される使用期間	
					制限される使用時間帯	
				搬入、搬出路の使用中及び使用後の処置が必要である場合	使用中・使用後の処置内容	
	2	仮道路		仮道路を設置する場合	仮設道路の仕様	
					安全施設等の設置期間	
					工事終了後の措置	

		明示項目	適用項目	明示が必要な場合	明示事項	内容
6 仮設備関係	1	仮設備（仮土留、仮橋、足場等）		仮設物を他の工事に引き渡す場合及び引き継いで使用する場合	仮設備の内容	
					仮設備の期間	
					仮設備の条件	
				仮設備の構造、工法及びその施工範囲を指定する場合	仮設備の種類	工事特記仕様書、図示による。
					仮設備の構造、施工方法、施工範囲	図示による。
				仮設備の設計条件を指定する場合	設計条件の内容	図示による。
7 建設副産物関係	1	建設発生土の搬出	〇	建設発生土が発生する場合	受入場所及び仮置き場所までの距離	工事特記仕様書による。
					処分又は保管条件	工事特記仕様書による。
	2	建設副産物の利用		現場内での再利用又は減量化が必要な場合	現場内利用の内容	
					減量化の内容	
	3	建設副産物及び建設廃棄物の処理	〇	建設副産物及び建設廃棄物が発生する場合	処理方法、処理場所等の処理条件	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律その他関係法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い適切に処理する。
				再資源化処理施設又は最終処分場を指定する場合	受入場所、距離等の処理条件	建設廃棄物の種類　数量　処理等施設の名称　片道運搬距離　受入条件等
8 工事支障物件等	1	工事支障物件協議		地上、地下等における占用物件の有無及び占用物件等で工事支障物が存在する場合	支障物件名、管理者名等	支障物件名　管理者名　支障物件の位置 支障物件の移設時期　工事方法　防護
				地上、地下等の占用物件に係る工事期間と重複して施工する場合	工事内容	
					工事期間	
9 排水関係	1	排水処理	〇	排水の工法、排水処理の方法及び排水の放流先等を指定する場合	排水工法、排水処理の方法等	排水工法　排水処理の方法　放流先 設計書による　直接排水　水路 予定される排水量　排水の水質基準　放流費用
	2	水替・流入防止施設	〇	水替・流入防止施設が必要な場合	施設の内容	設計書による
					設置期間	設計書による
10 薬液注入関係	1	薬液注入		薬液注入を行う場合	設計条件、施工工法等	設計条件　施工工法　材料種類 施工範囲　削孔数量及び延長　注入量及び注入圧
				周辺環境に与える影響の調査が必要な場合	周辺環境調査の内容	
11 その他	1	工事現場発生品		工事現場発生品がある場合	品名・数量、現場内での再使用の有無引渡場所	工事特記仕様書による。
	2	支給品及び貸与品		支給材料及び貸与品がある場合	品名・数量・品質	
					規格又は性能	
					引渡場所・引渡期間	
	3	関連機関との近接協議			近接協議に係る条件及び内容	
	4	架設工法		架設工法を指定する場合	施工方法	
					施工条件	
	5	工事用水、電力	〇	工事用水を指定する場合	工事用水の内容	工事特記仕様書による。
			〇	工事電力を指定する場合	工事電力の内容	工事特記仕様書による。
	6	新技術・新工法・特許工法		新技術・新工法・特許工法を指定する場合	工法の内容	
	7	部分使用		部分使用を行う必要がある場合	部分使用箇所	
					部分使用時期	
	8	週休２日工事	〇		対象期間の協議時期	契約後、速やかに協議する。
	9	仮囲い、交通誘導警備員等	〇	大幅に仕様、数量等が変更となる場合	対応方法	変更対応の要否について、監督員と協議すること。

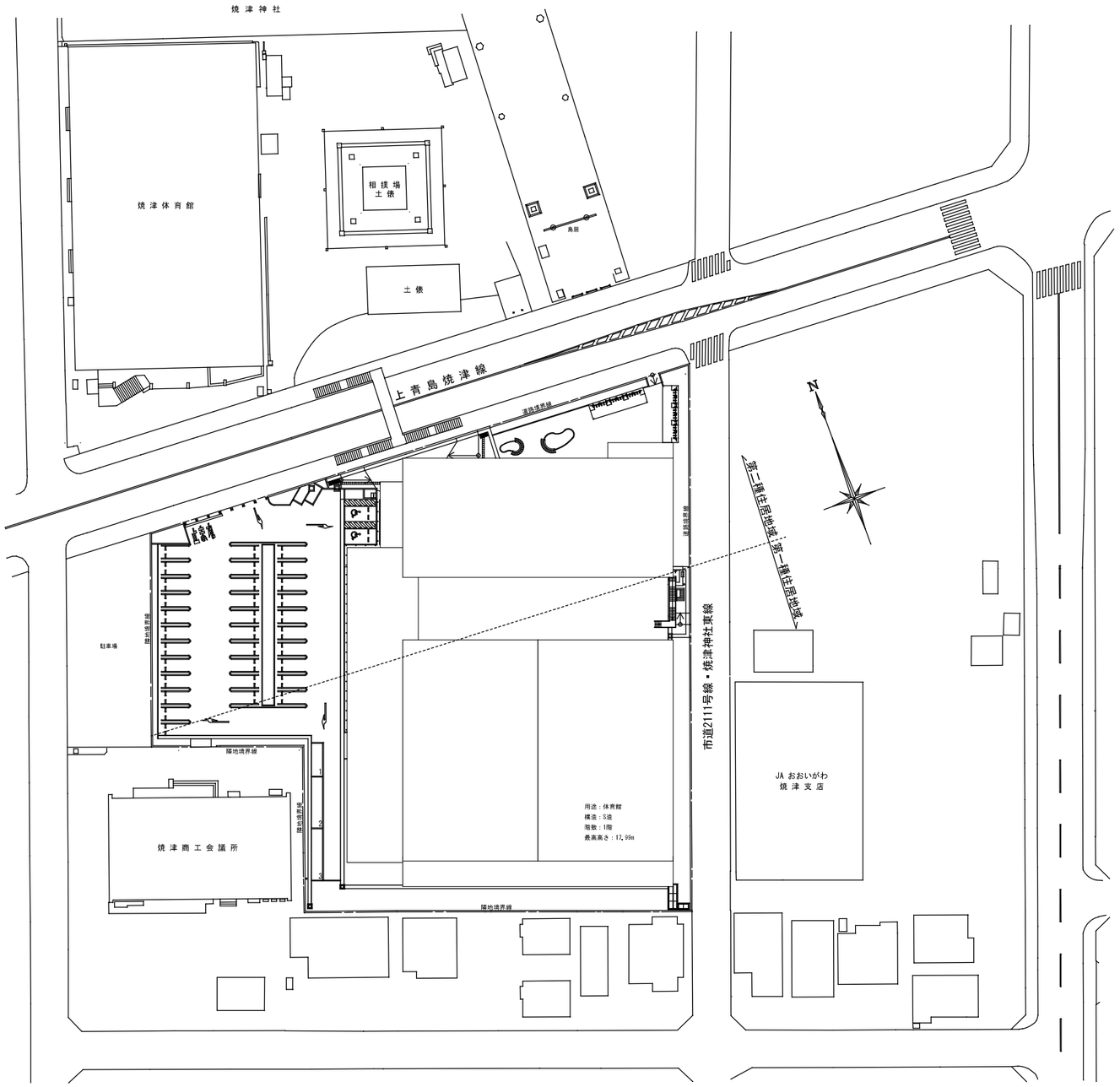
焼津市 都市政策部 公共建築課	㈱　高橋茂弥建築設計事務所	一級建築士登録　第343672号	検図	作図	日付 令和7年6月	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担））	施工条件特記仕様書	図番 特-010

建築敷地概要

所在地	静岡県焼津市焼津四丁目 地内
敷地面積	5,384.71 ㎡(第1種住居地域 2,762.88㎡、第2種住居地域 2,621.83㎡)
区域区分	都市計画区域、市街化区域
用途地域	第一種住居地域、第二種住居地域
容積率	200%
建蔽率	60%(角地加算＋10%)
前面道路	上青島焼津線(15.0m)、焼津神社東線(6.0m)
防火地域	指定なし
日影規制	平均地盤からの高さ4.0m 10m以内 4h 10m超え 2.5h



案内図 S=1/5,000



全体配置図 S=1/400

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 敷地案内図	縮尺 A1：1/2500,1/200 A3：1/5000,1/400
	日付 令和７年６月		製図 望月				図面NO. A－００１

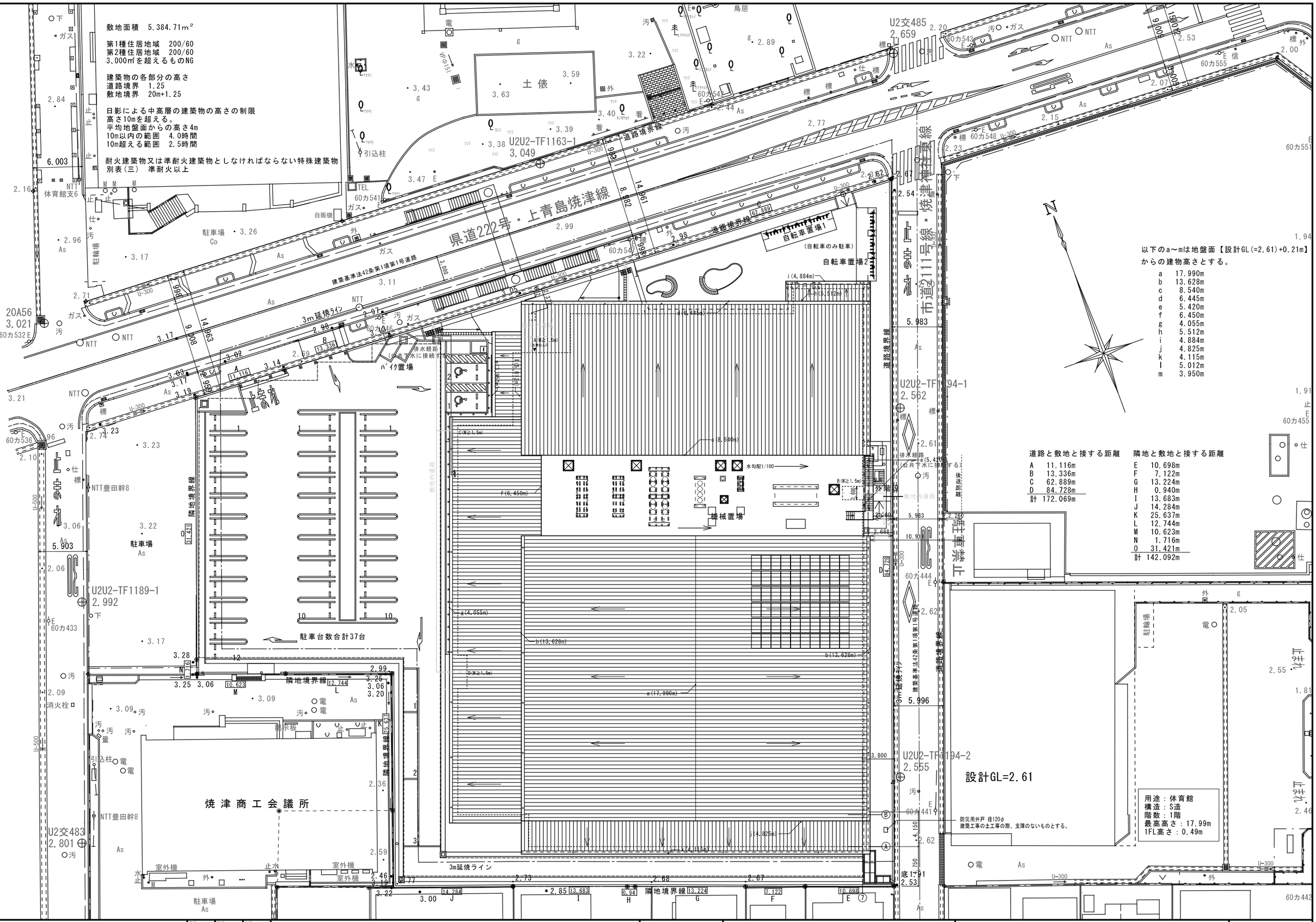
敷地面積　5,384.71m²

第1種住居地域　200/60
第2種住居地域　200/60
3,000㎡を超えるものNG

建築物の各部分の高さ
道路境界　1.25
敷地境界　20m+1.25

日影による中高層の建築物の高さの制限
高さ10mを超える。
平均地盤面からの高さ4m
10m以内の範囲　4.0時間
10m超える範囲　2.5時間

耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない特殊建築物
別表(三)　準耐火以上



以下のa～mは地盤面【設計GL(=2.61)+0.21m】からの建物高さとする。

a	17.990m
b	13.628m
c	8.540m
d	6.445m
e	5.420m
f	6.450m
g	4.055m
h	5.512m
i	4.884m
j	4.825m
k	4.115m
l	5.012m
m	3.950m

道路と敷地と接する距離

A	11.116m
B	13.336m
C	62.889m
D	84.728m
計	172.069m

隣地と敷地と接する距離

E	10.698m
F	7.122m
G	13.224m
H	0.940m
I	13.683m
J	14.284m
K	25.637m
L	12.744m
M	10.623m
N	1.716m
O	31.421m
計	142.092m

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋
	日付 令和7年6月	図図 望月	

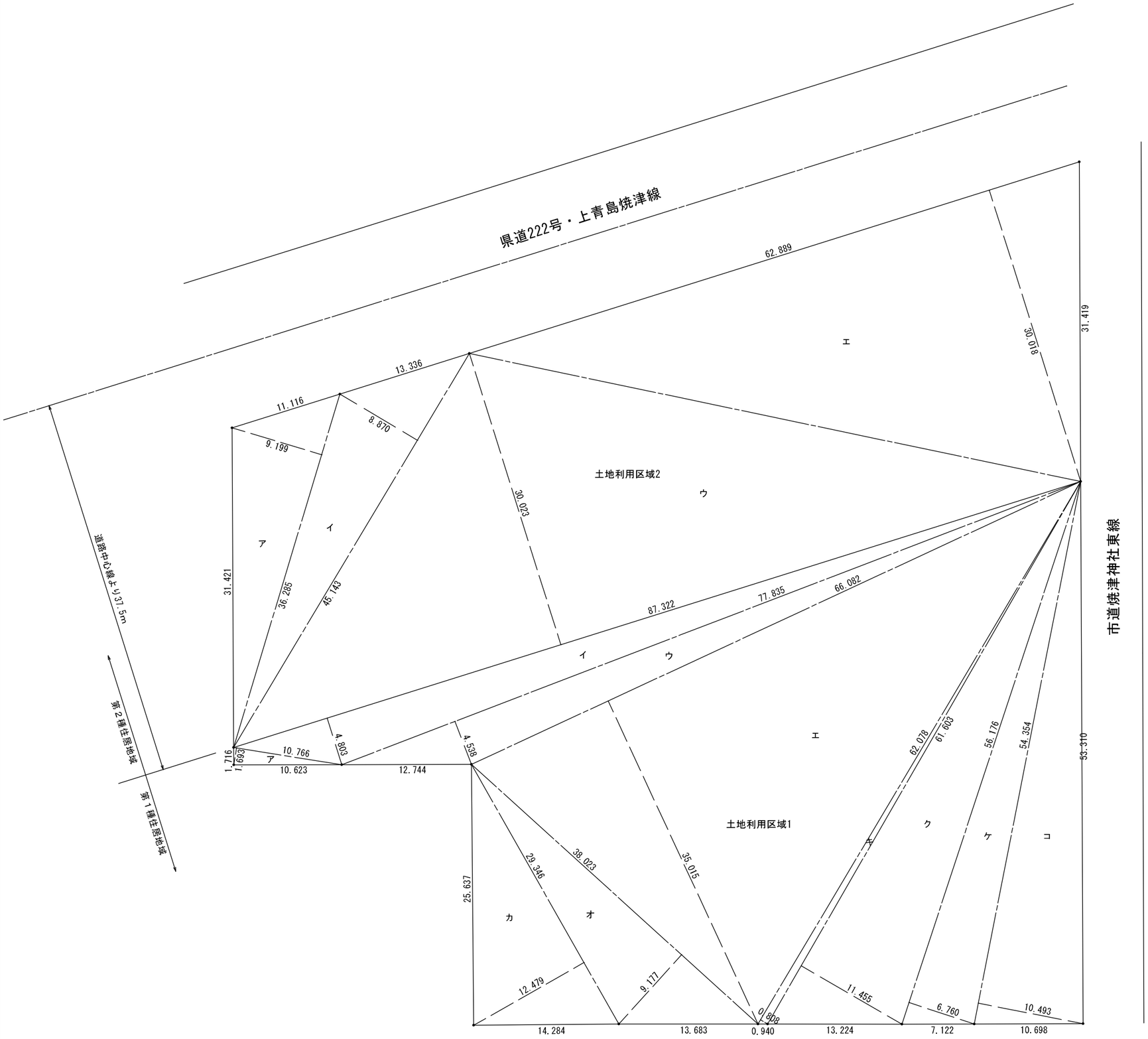
設計 NO.

工事名：令和7年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名：配置図

縮尺：A1：1/200　A3：1/400

図面 NO.：A－002



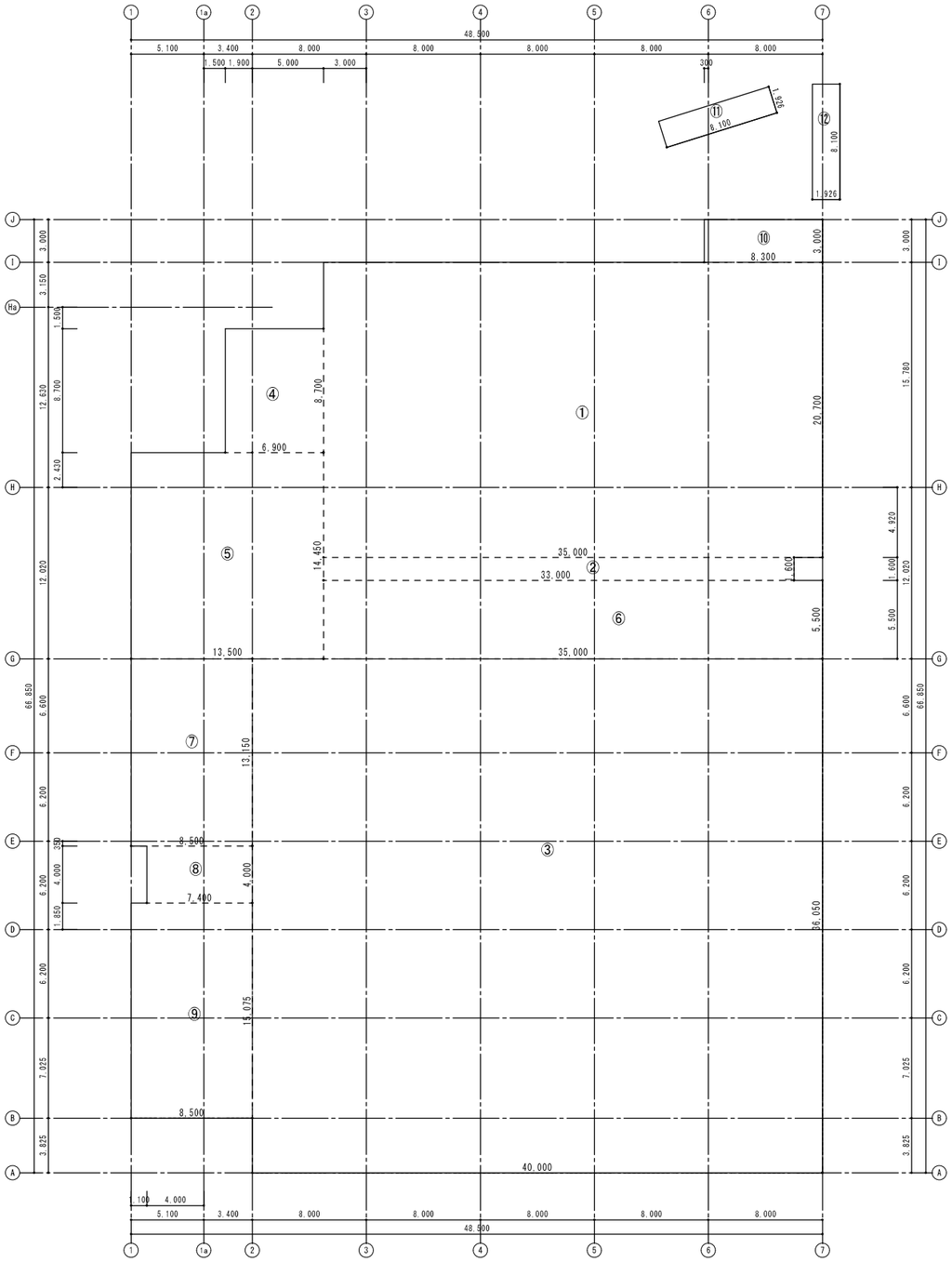
求積表

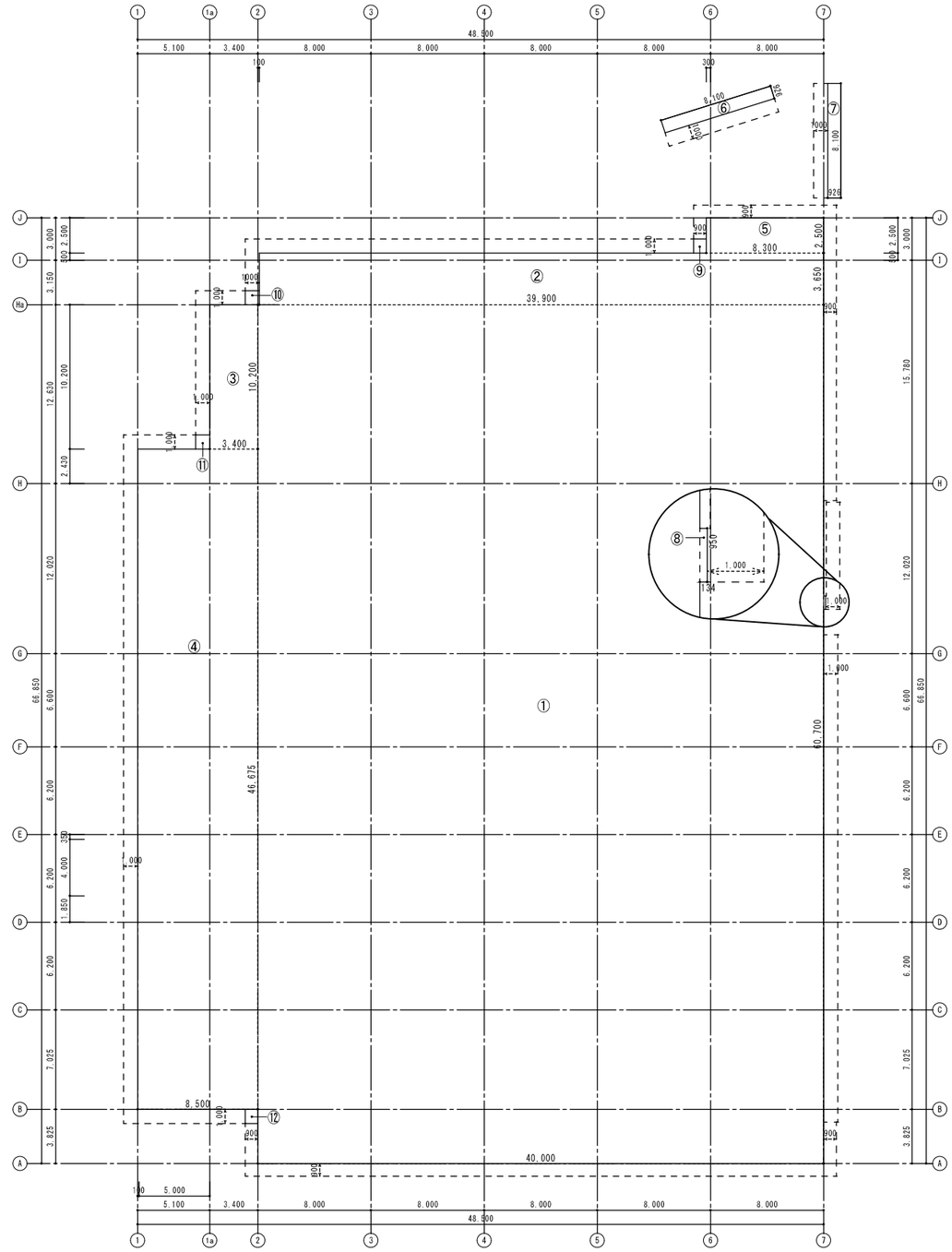
地　番	土地利用区域1（第１種住居地域）		
符　号	底　辺	高　さ	倍　面　積
ア	10.766	1.693	18.226838
イ	87.322	4.803	419.407566
ウ	77.835	4.538	353.215230
エ	66.082	35.015	2313.861230
オ	38.023	9.177	348.937071
カ	29.346	12.479	366.208734
キ	62.078	0.808	50.159024
ク	61.603	11.455	705.662365
ケ	56.176	6.760	379.749760
コ	54.354	10.493	570.336522
		合　計	5525.764340
		合　計　面　積	2762.8821700
		地　積	2762.88　㎡

地　番	土地利用区域2（第２種住居地域）		
符　号	底　辺	高　さ	倍　面　積
ア	36.285	9.199	333.785715
イ	45.143	8.870	400.418410
ウ	87.322	30.023	2621.668406
エ	62.889	30.018	1887.802002
		合　計	5243.674533
		合　計　面　積	2621.8372665
		地　積	2621.83　㎡

総合計面積	5384.71　㎡

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343622号　大橋康孝	検印 大橋	監督 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 敷地求積図	縮尺 A1：1/200 A3：1/400	図面 NO. A－００３
	日付 令和７年６月		製図 望月					

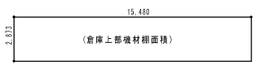




【倉庫2内の倉庫上部境材棚、床面積の考え方について】

倉庫上部境材棚の部分の水平投影面積は、
その存する階の床面積の1/2未満であること。(法第92条、令第2条第1項第8号)

①2,992.51(全体床面積)/2=1,496.255㎡(を超す場合、面積に算入する)
②2.873*15.480=44.47㎡(倉庫上部境材棚部分の面積)



②は①の1/2以下のため倉庫上部境材棚部分の面積は面積に含まないものとする。

1階床面積求積表

屋内外	No.	算定式				小計(㎡)
屋内	1	35.000	×	20.700	= 724.50000	2961.31750
	2	33.000	×	1.600	= 52.80000	
	3	40.000	×	36.050	= 1442.00000	
	4	6.900	×	8.700	= 60.03000	
	5	13.500	×	14.450	= 195.07500	
	6	35.000	×	5.500	= 192.50000	
	7	8.500	×	13.150	= 111.77500	
	8	7.400	×	4.000	= 29.60000	
	9	8.500	×	15.075	= 128.13750	
	10	8.300	×	3.000	= 24.90000	
屋外	11	1.926	×	8.100	= 15.60060	31.20120
	12	1.926	×	8.100	= 15.60060	
合計						2992.51870

延床面積 2992.51 ㎡

※合計は小数点第3位を切り捨て

建築面積求積表

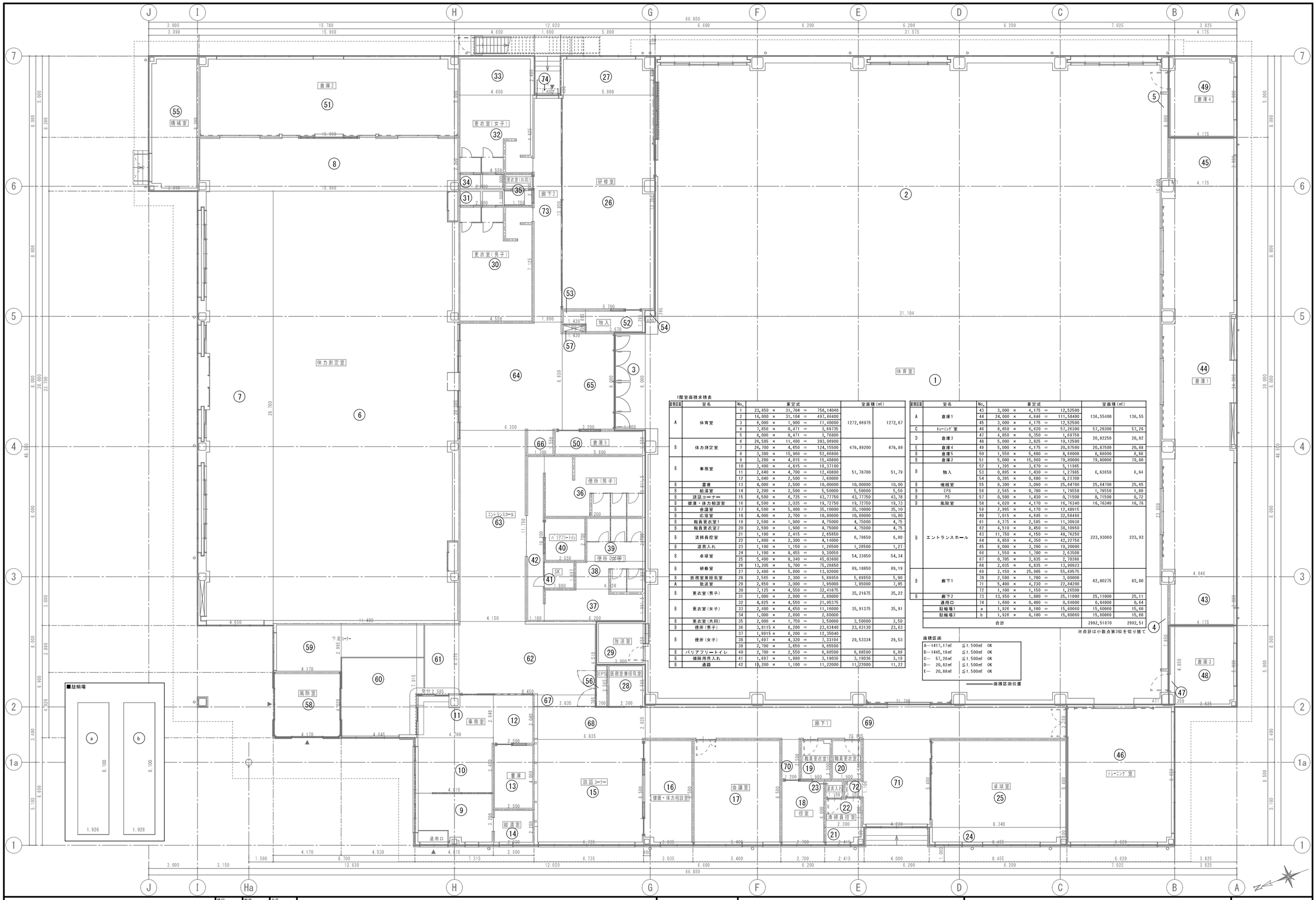
No.	算定式				小計(㎡)
1	40.000	×	60.700	= 2428.00000	3044.73100
2	39.900	×	3.650	= 145.63500	
3	3.400	×	10.200	= 34.68000	
4	8.500	×	46.675	= 396.73750	
5	8.300	×	2.500	= 20.75000	
6	0.926	×	8.100	= 7.50060	
7	0.926	×	8.100	= 7.50060	
8	0.134	×	0.950	= 0.12730	
9	0.900	×	1.000	= 0.90000	
10	1.000	×	1.000	= 1.00000	
11	1.000	×	1.000	= 1.00000	
12	0.900	×	1.000	= 0.90000	
合計					3044.73100

建築面積 3044.73 ㎡

※合計は小数点第3位を切り捨て

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	組長 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和7年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 求積図(建築面積・延床面積)
	日付 令和7年6月		製図 望月			縮尺 A1:1/200 A3:1/400

図面NO. A－004



1階室面積求積表

建築区画	室名	No.	算定式	室面積(㎡)	
A	体育室	1	23.850 × 31.704 = 756.14040	1272.66975	1272.67
		2	16.000 × 31.104 = 497.66400		
		3	6.000 × 1.900 = 11.40000		
		4	7.850 × 0.471 = 3.69735		
		5	8.000 × 0.471 = 3.76800		
B	体力測定室	6	26.585 × 11.400 = 303.06900	479.89200	479.89
		7	26.700 × 4.650 = 124.15500		
		8	3.300 × 15.960 = 52.66800		
B	事務室	9	3.200 × 4.815 = 15.40800	51.78700	51.79
		10	3.400 × 4.815 = 16.37100		
		11	2.640 × 4.700 = 12.40800		
		12	3.040 × 2.500 = 7.60000		
B	書庫	13	4.000 × 2.500 = 10.00000	10.00000	10.00
B	給湯室	14	2.200 × 2.500 = 5.50000	5.50000	5.50
B	談話コーナー	15	6.500 × 6.735 = 43.77750	43.77750	43.78
B	健康・体力相談室	16	6.500 × 3.035 = 19.72750	19.72750	19.73
B	会議室	17	6.500 × 5.400 = 35.10000	35.10000	35.10
B	応接室	18	4.000 × 2.700 = 10.80000	10.80000	10.80
B	職員更衣室1	19	2.500 × 1.900 = 4.75000	4.75000	4.75
B	職員更衣室2	20	2.500 × 1.900 = 4.75000	4.75000	4.75
B	清掃員控室	21	1.100 × 2.415 = 2.65650	6.79650	6.80
		22	1.800 × 2.300 = 4.14000		
B	道具入れ	23	1.100 × 1.150 = 1.26500	1.26500	1.27
B	卓球室	24	1.100 × 8.455 = 9.30050	54.33650	54.34
		25	5.400 × 8.340 = 45.03600		
B	研修室	26	13.205 × 5.700 = 75.28850	89.18850	89.19
		27	2.400 × 5.800 = 13.92000		
B	医務室兼授乳室	28	2.565 × 2.300 = 5.89950	5.89950	5.90
A	放送室	29	2.650 × 3.000 = 7.95000	7.95000	7.95
B	更衣室(男子)	30	7.125 × 4.550 = 32.41875	35.21875	35.22
		31	1.000 × 2.800 = 2.80000		
B	更衣室(女子)	32	4.825 × 4.550 = 21.95375	35.91375	35.91
		33	2.400 × 4.650 = 11.16000		
		34	1.000 × 2.800 = 2.80000		
B	更衣室(共同)	35	2.000 × 1.750 = 3.50000	3.50000	3.50
B	便所(男子)	36	3.8115 × 6.200 = 23.63440	23.63130	23.63
B	便所(女子)	37	1.9915 × 6.200 = 12.35040	29.53334	29.53
		38	1.697 × 4.320 = 7.33104		
		39	2.700 × 3.650 = 9.85500		
B	バリアフリートイレ	40	2.700 × 2.550 = 6.88500	6.88500	6.89
B	掃除用具入れ	41	1.697 × 1.880 = 3.19036	3.19036	3.19
B	通路	42	10.200 × 1.100 = 11.22000	11.22000	11.22

建築区画	室名	No.	算定式	室面積(㎡)	
A	倉庫1	43	3.000 × 4.175 = 12.52500	136.55400	136.55
		44	24.000 × 4.646 = 111.50400		
		45	3.000 × 4.175 = 12.52500		
C	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ室	46	8.650 × 6.620 = 57.26300	57.26300	57.26
D	倉庫3	47	4.850 × 0.350 = 1.69750	20.82250	20.82
		48	5.000 × 3.825 = 19.12500		
E	倉庫4	49	5.000 × 4.175 = 20.87500	20.87500	20.88
B	倉庫5	50	1.550 × 5.600 = 8.68000	8.68000	8.68
B	倉庫2	51	5.000 × 15.960 = 79.80000	79.80000	79.80
B	物入	52	1.395 × 3.670 = 5.11965	6.63650	6.64
		53	0.895 × 1.430 = 1.27985		
		54	0.395 × 0.600 = 0.23700		
B	機械室	55	8.300 × 3.090 = 25.64700	25.64700	25.65
B	EPS	56	2.565 × 0.700 = 1.79550	1.79550	1.80
B	PS	57	0.500 × 1.430 = 0.71500	0.71500	0.72
B	風除室	58	4.020 × 4.170 = 16.76340	16.76340	16.76
B	エントランスホール	59	2.995 × 4.170 = 12.48915	223.93060	223.93
		60	7.015 × 4.645 = 32.58468		
		61	4.375 × 2.585 = 11.30938		
		62	4.510 × 8.450 = 38.10950		
		63	11.750 × 4.150 = 48.76250		
		64	6.650 × 6.350 = 42.22750		
		65	6.000 × 3.200 = 19.20000		
		66	1.550 × 1.700 = 2.63500		
		67	0.705 × 3.835 = 2.70368		
		68	2.035 × 6.835 = 13.90923		
B	廊下1	69	2.150 × 25.905 = 55.69575	82.80275	82.80
		70	2.500 × 1.200 = 3.00000		
		71	5.400 × 4.230 = 22.84200		
		72	1.100 × 1.150 = 1.26500		
B	廊下2	73	13.950 × 1.800 = 25.11000	25.11000	25.11
	通用口	74	1.600 × 0.400 = 0.64000	0.64000	0.64
	駐輪場1	a	1.926 × 8.100 = 15.60060	15.60060	15.60
	駐輪場2	b	1.926 × 8.100 = 15.60060	15.60060	15.60
合計				2992.51870	2992.51

※合計は小数点第3位を切り捨て

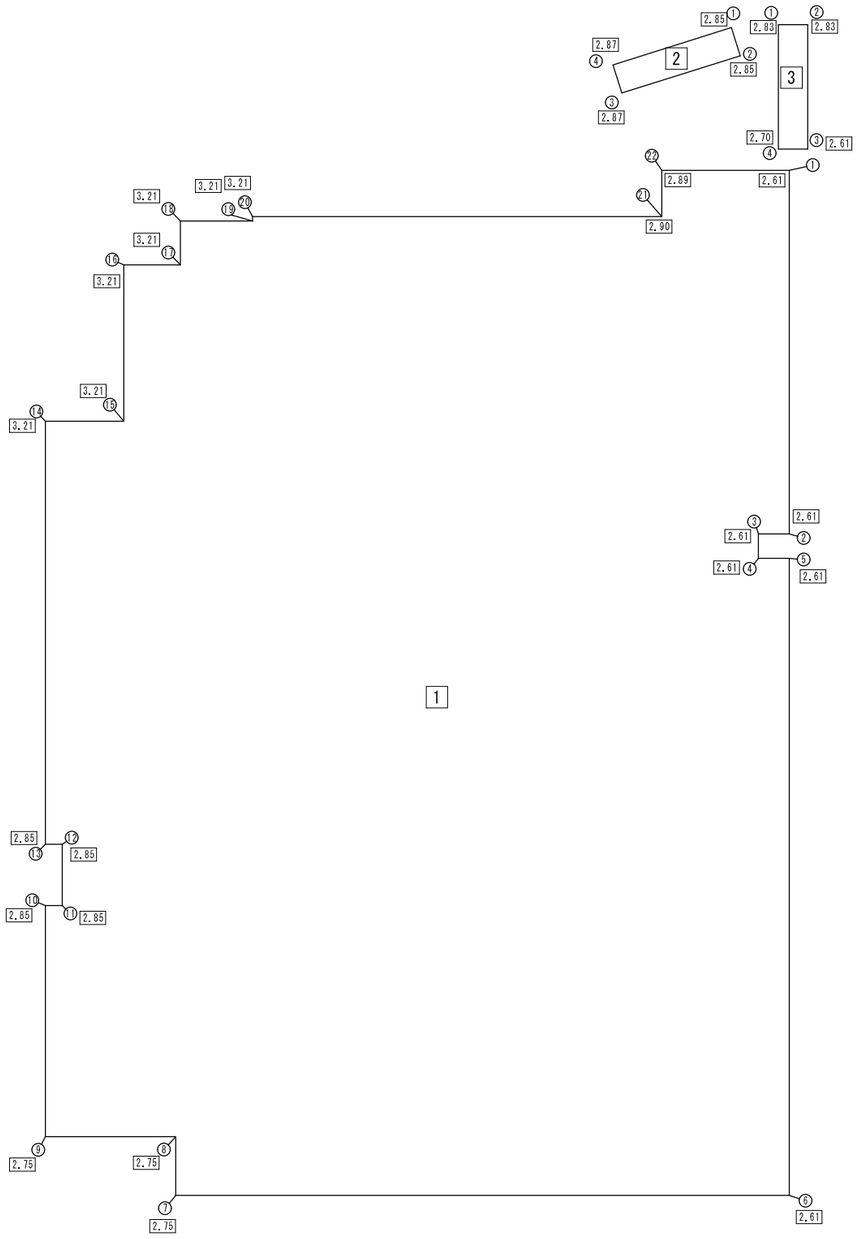
面積区画

A…1417.17㎡ ≦1,500㎡ OK
B…1445.18㎡ ≦1,500㎡ OK
C… 57.26㎡ ≦1,500㎡ OK
D… 20.82㎡ ≦1,500㎡ OK
E… 20.88㎡ ≦1,500㎡ OK

面積区画位置

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検図 大橋	組織 大橋	主任 大橋	設計NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)
	日付 令和７年６月		製図 望月		

図面名	縮尺	図面NO.
求積図(1階室面積)	A1：1/100 A3：1/200	A－005



1.体育館

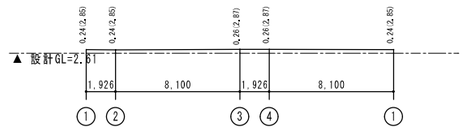
範囲	面積計算					辺長
① － ②	0.00	×	23.700	＝	0.000	23.700
② － ③	0.00	×	2.000	＝	0.000	2.000
③ － ④	0.00	×	1.600	＝	0.000	1.600
④ － ⑤	0.00	×	2.000	＝	0.000	2.000
⑤ － ⑥	0.00	×	41.550	＝	0.000	41.550
⑥ － ⑦	(0.00+0.14)	×	40.000/2	＝	2.800	40.000
⑦ － ⑧	0.14	×	3.825	＝	0.536	3.825
⑧ － ⑨	0.14	×	8.500	＝	1.190	8.500
⑨ － ⑩	(0.14+0.24)	×	15.075/2	＝	2.864	15.075
⑩ － ⑪	0.24	×	1.100	＝	0.264	1.100
⑪ － ⑫	0.24	×	4.000	＝	0.960	4.000
⑫ － ⑬	0.24	×	1.100	＝	0.264	1.100
⑬ － ⑭	(0.24+0.60)	×	27.600/2	＝	11.592	27.600
⑭ － ⑮	0.6	×	5.100	＝	3.060	5.100
⑮ － ⑯	0.6	×	10.200	＝	6.120	10.200
⑯ － ⑰	0.6	×	3.700	＝	2.220	3.700
⑰ － ⑱	0.6	×	2.850	＝	1.710	2.850
⑲ － ⑲	0.6	×	4.700	＝	2.820	4.700
⑲ － ⑳	0.6	×	0.300	＝	0.180	0.300
⑳ － ㉑	(0.6+0.29)	×	26.700/2	＝	11.882	26.700
㉑ － ㉒	(0.29+0.28)	×	3.000/2	＝	0.855	3.000
㉒ － ①	(0.28+0.00)	×	8.300/2	＝	1.162	8.300
合計					50.479	236.900
面積÷周長					0.213081	
地盤面					設計GL + 0.21m	

※設計GL=2.61

2.駐輪場1

範囲	面積計算					辺長
① － ②	0.24	×	1.926	＝	0.462	1.926
② － ③	(0.24+0.26)	×	8.100/2	＝	2.025	8.100
③ － ④	0.26	×	1.926	＝	0.501	1.926
④ － ①	(0.26+0.24)	×	8.100/2	＝	2.025	8.100
合計					5.013	20.052
面積÷周長					0.250000	
地盤面					設計GL + 0.25m	

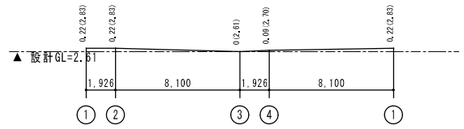
※設計GL=2.61

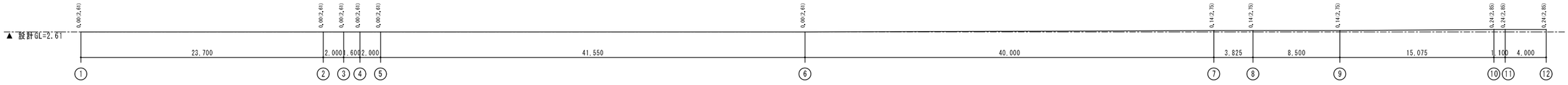


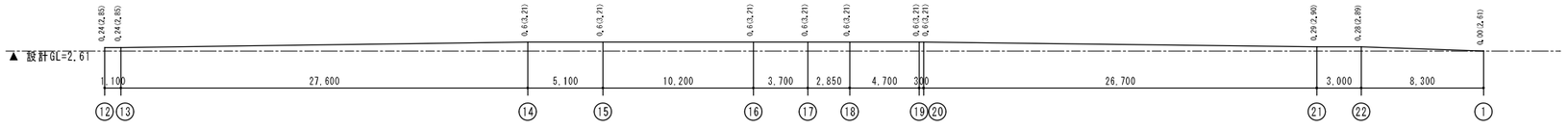
3.駐輪場2

範囲	面積計算					辺長
① － ②	0.22	×	1.926	＝	0.424	1.926
② － ③	(0.22+0)	×	8.100/2	＝	0.891	8.100
③ － ④	(0+0.09)	×	1.926/2	＝	0.087	1.926
④ － ①	(0.09+0.22)	×	8.100/2	＝	1.256	8.100
合計					2.657	20.052
面積÷周長					0.132500	
地盤面					設計GL + 0.13m	

※設計GL=2.61







株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	組長 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 地盤高さ算定図	縮尺 A1：1/200 A3：1/400	図面 NO. A－００６
	日付 令和７年６月		図面 望月				

屋根	完全嵌合式瓦棒葺き	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t=0.5
	屋根30分耐火構造	押出発泡ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝ板 2種bA t=50×2
		細木太木二層式木毛ｾﾒﾝﾄ板 t=40
	軒樋:落ち葉除け付属	
陸屋根	S-F2	屋根30分耐火構造
	塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂系ｼｰﾄ防水工法t＝2.0	ﾋﾞｭｰﾄｯﾌﾟ同等品VT-U920
	接着工法	
笠木	ｱﾙﾐ製笠木W200	
	ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金押出形材	ﾄｯﾌﾟﾗｲﾝ同等品
	表面仕上:陽極酸化皮膜	
軒天井	(屋外)高耐食軽量鉄骨天井下地25形	1.0m未満
	けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透張 EP-G	
東西ﾒﾝﾃﾅﾝｽﾊﾞﾙｺﾆｰ	H-150×150×7×10	溶融亜鉛ﾒｯｷ
	ｴｷｽﾊﾟﾝﾄﾞﾒﾀﾙ	溶融亜鉛ﾒｯｷ
ｱﾙﾐﾙｰﾊﾞｰ	40×40 @250木目調ｼｰﾄ	SHS-4040
東面L=6120	100×40ﾀﾞﾌﾞﾙ @250木目調ｼｰﾄ	SHS-1040
西面L=5820	下地ｱﾙﾐｽﾄﾘﾝｶﾞｰ	ｽﾄﾘﾝｶﾞｰ取付金物溶融亜鉛ﾒｯｷ

ﾊﾄ小屋1	外形W980×D980×H1045	ﾊﾄｺｯﾄ V-Ⅰ同等品
FRP製ﾕﾆｯﾄ	有効600×600	
ﾊﾄ小屋2	外形W1280×D1190×H960	ﾊﾄｺｯﾄ V-Ⅱ同等品
FRP製ﾕﾆｯﾄ	有効900×900	
ﾊﾄ小屋3	外形W1270×D1190×H1065	ﾊﾄｺｯﾄ VH-Ⅱ同等品
FRP製ﾕﾆｯﾄ	有効900×900	
空調屋外機基礎	ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水 X-2(密着工法)	
ｷｭｰﾋﾞｸﾙ基礎		
樋	金属板屋根部	ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金押出形材 140･165φ
		ｱﾙﾄｲ同等品
	陸屋根部	RD横引き用
南北壁面ﾙｰﾊﾞｰ		
ｱﾙﾐﾙｰﾊﾞｰ	30×150 @100 木目調ｼｰﾄ	SHS-3015
	下地ｱﾙﾐｽﾄﾘﾝｶﾞｰ	ｽﾄﾘﾝｶﾞｰ取付金物L-50×50×4溶融亜鉛ﾒｯｷ

外壁	押出成形ｾﾒﾝﾄ板 t=60 縦張	外壁60分耐火構造(鉄骨耐火被覆1時間)
	ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ	耐候性塗塗料(DP)
	ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ	耐候性塗塗料(DP)
	ﾚｰﾙﾌｧｽﾅｰ	耐候性塗塗料(DP)
	ｳｯﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ	ｺﾝｸﾘｰﾄ保護塗料
	ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t=0.4	
	ｱﾙﾐ形材木質樹脂 30×140@100 縦格子	L50*50*6下地亜鉛ﾒｯｷ処理
ｱﾙﾐ製庇	ｱﾙﾐ製庇	EVFN-600D同等
	M10先付ﾎﾞﾙﾄ@300	
複層ｶﾞﾗｽ	t=4.0+A12+Low-E4.0	Low-Eｶﾞﾗｽは日射遮蔽型とする。
	t=5.0+A12+Low-E5.0	ｶﾞﾗｽは学校強化とする。
屋根点検ﾊﾞﾙｺﾆｰ		
	手摺:L-50×50×6	溶融亜鉛ﾒｯｷ
	支柱:L-100×100×6	溶融亜鉛ﾒｯｷ
	ﾀﾗｯﾌﾟ:16φW375 @300	溶融亜鉛ﾒｯｷ
	床:ｴｷｽﾊﾟﾝﾄﾞﾒﾀﾙ2.3T/W3.0 JISXS33	溶融亜鉛ﾒｯｷ

ｱﾙﾐｻｯｼ	見込み70
MTG-70R同等品	一般ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ(ｼﾙﾊﾞｰ)指詰防止
	ｱﾙﾐ水切
	網戸ｻﾗﾝﾈｯﾄ
腰壁	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し保護塗料
ｱﾝﾃﾅ取付部材	H-150×150
	溶融亜鉛ﾒｯｷ
鉄骨外階段	側桁:PL-38 W300
溶融亜鉛ﾒｯｷ	手摺:FB-38×9
	支柱:FB-38×12 亜鉛ﾒｯｷﾎﾞﾙﾄ固定
	手摺子:9φ
	進入防止扉門錠

※ﾒﾝﾃﾅﾝｽﾊﾞﾙｺﾆｰ、ｷｬｯﾄｳｫｰｸ手摺等は、端部及び角部は面取りを施すこと。
面取り幅等は監督員と協議すること。

屋根		FP030RF-1945(2)	屋根30分	
押出成形ｾﾒﾝﾄ板 t=60	ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ、ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ	縦張FP060NE-9035	非耐力壁外壁1時間	
	ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ	横張FP060NE-9036	非耐力壁外壁1時間	
押出成形ｾﾒﾝﾄ板	吹付ﾛｯｸｳｰﾙ合成被覆(鋼管柱)	FP060CN-0538-2	柱1時間	耐火被覆25mm以上
押出成形ｾﾒﾝﾄ板 ※1	吹付ﾛｯｸｳｰﾙ合成被覆(鉄骨柱)	FP060CN-9200	柱1時間	耐火被覆30mm以上
押出成形ｾﾒﾝﾄ板	吹付ﾛｯｸｳｰﾙ合成被覆(鉄骨梁)	FP060BM-0366-3	梁1時間	耐火被覆25mm以上
押出成形ｾﾒﾝﾄ板 ※2	吹付ﾛｯｸｳｰﾙ合成被覆(鉄骨梁)	FP060BM-9171	梁1時間	耐火被覆30mm以上
	吹付ﾛｯｸｳｰﾙ耐火被覆(柱)	FP060CN-9460	柱1時間	
	吹付ﾛｯｸｳｰﾙ耐火被覆(梁)	FP060BM-9408	梁1時間	
丸柱	鉄骨部耐火塗料	FP060CN-0252	柱1時間	
GB-R-Ht=12.5+GB-F12.5 両面張り(LGS下地)		FP060NP-0448(1)	非耐力壁間仕切壁1時間	
GB-Ft=21.0+GB-Ft=21.0 片面張り(LGS下地)		FP060NP-0189	非耐力壁間仕切壁1時間	

※1 鉄骨柱300×300×9mm以上の許容範囲にないもの

※2 鉄骨梁H-250×125×6×9mm以上の許容範囲にないもの

GB-R t=9.5	準不燃	QM-9828
GB-St=12.5	準不燃	QM-0898
GB-R t=12.5	不燃	NM-8619
GB-F t=12.5・21	不燃	NM-8615
GB-R-H t=12.5	不燃	NM-6945
けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0 8.0	不燃	NM-3522
化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0	不燃	NM-4487
不燃化粧板t=3.0	不燃	NM-2183
耐擦傷性不燃化粧板 t=6.0	不燃	NM-5603(1)
木毛ｾﾒﾝﾄ板t=25	準不燃	QM-9020
有孔ｹｲｶﾙ板t=6.0 8.0	不燃	NM-4518
GB-D t=9.5	準不燃	QM-0524
吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ t＝9.5 四角凹	不燃	NM-4244(1)
DRt=9.0	不燃	NM-8599
難燃ｼﾅ合板t=9.0 12.0	難燃	RM-0029

石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	GB-R
ｼｰｼﾞﾝｸﾞ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	GB-S
繊維強化石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	GB-F
普通硬質石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	GB-R-H
化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	GB-D
岩綿吸音板	DR
耐候性塗塗料	DP
つや有り合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ	EP-G
木材保護塗料	WP

難燃材料でした内装の仕上げに準ずる仕上げを定める件
平成12年5月31日建設省告示第1439号
第２-二-ロ
木材等の厚さが10mm未満の場合にあっては、難燃材料の壁に直接取り付けること。
GB-Rt=9.5+杉羽目板本実加工t＝9
GB-Rt=12.5+ｼﾅ合板t＝9
※上記目的は、消防法 屋内消火栓設備設置緩和、難燃材料取扱いについて
令和6年6月27日志太消防本部 予防課 協議済です。

※使用する材料は全て規制対象外（F☆☆☆☆）とする

建築基準関係規定
1 消防法
誘導標識・消火器・自動火災報知設備・消防機関へ通報する火災通報設備
ガス給湯器（給湯能力100号、ガス消費量91.9kW）
2 屋外広告物法
該当なし
3 港湾法
該当なし
4 高圧ガス保安法
該当なし
5 ガス事業法
該当なし
6 駐車場法
※駐車場法の規程に基づき通路・駐車樹を配置
7 水道法
該当なし
8 下水道法
該当なし
9 宅地造成等規制法
該当なし
10 流通業務市街地の整備に関する法律
該当なし
11 化石油ガスの保全の確認及び取引の適正化に関する法律
該当なし
12 都市計画法
※焼津市都市計画課と協議した結果、土地利用協議のみで開発許可は不要
13 特定空港周辺航空機騒音対策特別措置法
該当なし
14 自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律
該当なし
15 浄化槽法
該当なし
16 特定都市河川浸水被害対策法
※特定都市河川流域外のため非該当

1		床		幅木	壁		仕上	天井					
室名	居室	下地	仕上	仕上　高さ	軽量鉄骨下地			軽量鉄骨下地	ふところ	仕上	廻縁	天井高	備考
事務室	○	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10 超高強度軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ製 置敷式溝配線 ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ H=40	FOA 置敷ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ t=5.0 帯電防止	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	柱型 65形 @450 100形 @450	柱型 GB-Rt=12.5+12.5 GB-Rt=12.5+12.5	 不燃認定ﾋﾞﾆﾙ無地壁紙 不燃認定ﾋﾞﾆﾙ無地壁紙	下地張あり	1.5m未満 ～ 1.5m以上3.0m未満	DRt=9.0+GB-Rt＝9.5	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,700	受付ｶｳﾝﾀｰW2375+1900H1000 予定ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞW1800*H900 ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞW1810*H2050 W1770*H2050 W1850*H1150
通用口		ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ 薄張物下地	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.5 防滑性	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5	不燃認定ﾋﾞﾆﾙ無地壁紙	下地張あり	1.5m未満	DRt=9.0+GB-Rt＝9.5	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,700	ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞW1830*H2850 框：ｽﾃﾝﾚｽ沓吊W40
作業ｽﾍﾟｰｽ		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 防汚性 防滑性	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	柱型 65形 @450 100形 @450	柱型 GB-Rt=12.5+12.5 GB-Rt=12.5+12.5	不燃認定ﾋﾞﾆﾙ無地壁紙	下地張あり	1.5m未満 ～ 1.5m以上3.0m未満	DRt=9.0+GB-Rt＝9.5	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,700	ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞW930*H2050
打合せ		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 防汚性 防滑性	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5	不燃認定ﾋﾞﾆﾙ無地壁紙	下地張あり	1.5m以上3.0m未満	DRt=9.0+GB-Rt＝9.5	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,700	
給湯室		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 防汚性 防滑性	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	100形 @450	GB-St=12.5 突付	化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6 不燃認定ﾋﾞﾆﾙ無地壁紙	下地張なし	1.5m未満	GB-Dt＝9.5ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	ｽﾃﾝﾚｽ流しW1200 食器戸棚W1500*H1800
書庫		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 ﾌﾟﾚｰﾝ	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5 突付	素地	下地張なし	1.5m未満 ～ 1.5m以上3.0m未満	GB-Dt＝9.5ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	
健康･体力相談室	○	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 ﾏｰﾌﾞﾙ	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	柱型 65形 @450 100形 @450	柱型 GB-Rt=12.5+12.5 GB-Rt=12.5+12.5	 EP-G EP-G	下地張なし	1.5m未満 ～ 1.5m以上3.0m未満	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t＝9.5 四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･Dﾌﾟﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,700	ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞW2080*H2740
会議室	○	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FT 複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ t=3.0 木目調	木製幅木 桧 100 18×100 WP	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5 GB-Rt=12.5+12.5 突付	不燃認定ﾋﾞﾆﾙ無地壁紙 化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0木目調 ｱﾙﾐｼﾞｮｲﾅｰ	下地張あり	1.5m未満 ～ 1.5m以上3.0m未満	DRt=9.0+GB-Rt＝9.5	25×25 WP	2,700	ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞW2980*H2740 W1070*H2740
応接室	○	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 ﾐｽﾄ	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5	EP-G	下地張なし	1.5m未満	GB-Dt＝9.5 四角凹	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞW2630*H2740
清掃員控室	○	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 ﾌﾟﾚｰﾝ	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	柱型 65形 @450 100形 @450	 GB-Rt=12.5+12.5 GB-Rt=12.5+12.5	 EP-G EP-G	下地張なし	1.5m未満	GB-Dt＝9.5ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞW1800*H2740
道具入れ		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 ﾌﾟﾚｰﾝ	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5 突付	素地	下地張なし	1.5m未満	GB-Dt＝9.5ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	
職員更衣室1･2		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 ﾌﾟﾚｰﾝ	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5	EP-G	下地張なし	1.5m以上3.0m未満	GB-Dt＝9.5ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	
卓球室	○	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	屋内ｽﾎﾟｰﾂ用高弾性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=6.2	木製幅木 桧 100 18×100 WP	柱型 65形 @450 100形 @450	 GB-Rt=12.5+12.5 GB-Rt=12.5+12.5 GB-Rt=12.5	 H2700以上 EP-G H2700以下 化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0突付	下地張なし	1.5m未満	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t＝9.5 四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･Dﾌﾟﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	3,400	ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞW1750*H2740 W1820*H2740
ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ室	○	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	屋内ｽﾎﾟｰﾂ用高弾性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=6.2	木製幅木 桧 100 18×100 WP	柱型 65形 @450 100形 @450	 GB-Rt=12.5+12.5 GB-Rt=12.5+12.5	 EP-G EP-G	下地張なし	1.5m未満	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t＝9.5 四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･Dﾌﾟﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	3,000	ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞW1820*H2740 W1790*H2740 W2880*H2740 W1870*H2740 W2810*H2740
研修室	○	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FT 複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ t=3.0 木目調	木製幅木 桧 100 18×100 WP	柱型 65形 @450 100形 @450	 GB-Rt=12.5+12.5 GB-Rt=12.5+12.5 GB-Rt=12.5+12.5 GB-Rt=12.5+12.5 突付	 EP-G EP-G 不燃認定ﾋﾞﾆﾙ無地壁紙 化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0木目調 ｱﾙﾐｼﾞｮｲﾅｰ	下地張あり	1.5m未満	DRt=9.0+GB-Rt＝9.5	木製廻縁 25×25 杉 WP塗	2,700	ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞW2170*H2740 W900*H2850
物入		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 ﾌﾟﾚｰﾝ	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	100形 @450 65形 @450	GB-Rt=12.5+12.5 GB-R-Ht=12.5+GB-Ft=12.5 GB-Rt=12.5+12.5	EP-G EP-G	下地張なし	1.5m未満	GB-Dt＝9.5ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,700	

※火気使用室なし

2		床		幅木		壁		仕上	天井					
室名	居室	下地	仕上	仕上	高さ	軽量鉄骨下地			軽量鉄骨下地	ふところ	仕上	廻縁	天井高	備考
更衣室(共同)		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	HS 発泡複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.8	ﾋﾞﾆﾙ幅木	60	100形 @450	GB-Rt=12.5+GB-St=12.5突付	化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6	下地張なし	1.5m未満	GB-Dt＝9.5ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	US (0812) 脱衣棚W850*D340*H1500
更衣室(女子)		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	HS 発泡複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.8	ﾋﾞﾆﾙ幅木	60	100形 @450 100形 @450	GB-Rt=12.5+GB-St=12.5突付 GB-St=12.5 突付	化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6 化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6	下地張なし	1.5m未満	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t＝9.5 四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･Dﾌﾟﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	ﾏｰﾌﾞﾗｲﾄｶｳﾝﾀｰW1700 鏡W1700*H1000
脱衣室		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	HS 発泡複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.8	ﾋﾞﾆﾙ幅木	60	100形 @450 100形 @450	GB-Rt=12.5+GB-St=12.5突付 GB-St=12.5 突付	化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6 化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6	下地張なし	1.5m未満	けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0 EP-G	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,400	US (0812) 脱衣棚W850*D340*H1500
更衣室(男子)		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	HS 発泡複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.8	ﾋﾞﾆﾙ幅木	60	100形 @450 100形 @450	GB-Rt=12.5+GB-St=12.5突付 GB-St=12.5 突付	化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6 化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6	下地張なし	1.5m未満	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t＝9.5 四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･Dﾌﾟﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	ﾏｰﾌﾞﾗｲﾄｶｳﾝﾀｰW1700 鏡W1700*H1000
脱衣室		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	HS 発泡複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.8	ﾋﾞﾆﾙ幅木	60	100形 @450 100形 @450	GB-Rt=12.5+GB-St=12.5突付 GB-St=12.5 突付	化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6 化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6	下地張なし	1.5m未満	けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0 EP-G	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,400	US (0812) 脱衣棚W850*D340*H1500
倉庫5		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 ﾌﾟﾚｰﾝ	ﾋﾞﾆﾙ幅木	60	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5 突付	素地	下地張なし	1.5m未満	GB-Dt＝9.5ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	
便所(男子)		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 超防汚性 防滑性 汚垂石 磁器質ﾀｲﾙ 施釉･研磨	ﾋﾞﾆﾙ幅木	60	100形 @450	GB-Rt=12.5+GB-St=12.5突付 GB-St=12.5 突付 GB-Rt=12.5+12.5	化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6 化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6 EP-G	下地張なし	1.5m未満	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t＝9.5 四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･Dﾌﾟﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	ﾏｰﾌﾞﾗｲﾄｶｳﾝﾀｰW2550 鏡W2550*H1000 小便器手摺樹脂被覆34φ L型手摺樹脂被覆34φ
便所(女子)		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 超防汚性 防滑性	ﾋﾞﾆﾙ幅木	60	100形 @450	GB-Rt=12.5+GB-St=12.5突付 GB-St=12.5 突付 GB-Rt=12.5+12.5	化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6 化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6 EP-G	下地張なし	1.5m未満	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t＝9.5 四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･Dﾌﾟﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	ﾏｰﾌﾞﾗｲﾄｶｳﾝﾀｰW3400 鏡W3400*H1000 ｶｳﾝﾀｰW2500*D300*t40 鏡W2500*H1000 L型手摺樹脂被覆34φ
ﾊﾟｳﾀﾞｰｺｰﾅｰ		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 超防汚性 防滑性	ﾋﾞﾆﾙ幅木	60	100形 @450	GB-Rt=12.5+GB-St=12.5突付 GB-St=12.5 突付 GB-Rt=12.5+12.5	化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6 化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6 EP-G	下地張なし	1.5m未満	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t＝9.5 四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･Dﾌﾟﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	鏡W2000*H1000 ｶｳﾝﾀｰW1976*D300*t40
ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰﾄｲﾚ		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 超防汚性 防滑性	ﾋﾞﾆﾙ幅木	60	100形 @450	GB-Rt=12.5+GB-St=12.5突付 GB-St=12.5 突付	化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6 化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6	下地張なし	1.5m未満	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t＝9.5 四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･Dﾌﾟﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	
掃除用具入れ		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 防汚性 防滑性	ﾋﾞﾆﾙ幅木	60	100形 @450	GB-St=12.5 突付	化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透 目地ｼｰﾙ処理6×6	下地張なし	1.5m未満	GB-Dt＝9.5ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	清掃用具吊金物S字ﾌｯｸ
医務室兼授乳室	○	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	HS 発泡複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.8	ﾋﾞﾆﾙ幅木	60	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5	EP-G	下地張なし	1.5m未満	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t＝9.5 四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･Dﾌﾟﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,500	ｽﾃﾝﾚｽ流しW=1200
倉庫1		鋼製根太 鋼製大引 ｽﾁｰﾙ製支持脚＠900 ﾎｰﾙｱﾝｶｰ止 Ｈ=700	TS 単層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 高耐動荷重 針葉樹構造用合板t=15 + 構造用ﾗﾜﾝ合板t=15 捨張			柱型 65形 @450 100形 @450	木毛ｾﾒﾝﾄ板t=25 木毛ｾﾒﾝﾄ板t=25		下地張なし	1.5m未満	GB-Dt＝9.5ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	3,000	
倉庫3･4		鋼製根太 鋼製大引 ｽﾁｰﾙ製支持脚＠900 ﾎｰﾙｱﾝｶｰ止 Ｈ=700	TS 単層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 高耐動荷重 針葉樹構造用合板t=15 + 構造用ﾗﾜﾝ合板t=15 捨張			柱型 65形 @450 100形 @450	木毛ｾﾒﾝﾄ板t=25 木毛ｾﾒﾝﾄ板t=25		下地張なし	1.5m未満	GB-Dt＝9.5ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	3,000	
放送室	○	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 ﾏｰﾌﾞﾙ	木製幅木 桧 12×100 WP	100	100形 @450 胴縁杉 21×40 @450	GB-R-Ht=12.5+GB-Ft=12.5 有孔ｹｲｶﾙ板t=6.0 寒冷紗貼+ｸﾞﾗｽｳｰﾙt=20 32kg/m3	EP-G	下地張なし	1.5m未満	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t＝9.5 四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･Dﾌﾟﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等	木製廻縁 25×25 杉 WP塗	2,500	
体育室	○	鋼製根太 鋼製大引 ｽﾁｰﾙ製支持脚＠900 ﾎｰﾙｱﾝｶｰ止 Ｈ=700	屋内ｽﾎﾟｰﾂ用高弾性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=6.2 構造用ﾗﾜﾝ合板t=15 捨張+ 針葉樹構造用合板t=15	木製幅木 桧 18×150 WP	150	柱型 65形 @450 65形 @450 65形 @450 65形 @450 100形 @450 100形 @450 胴縁杉 21×40 @450	構造用合板(2類)t＝12.0 構造用合板(2類)t＝9.0+GB-Rt=9.5突付 GB-Rt=12.5+12.5 構造用合板(2類)t＝12.0 構造用合板(2類)t＝12.0 構造用合板(2類)t＝12.0 有孔ｹｲｶﾙ板t=8.0 寒冷紗貼+ｸﾞﾗｽｳｰﾙt=20 32kg/m3	難燃ｼﾅ合板t=9 WP H4000以下 杉羽目板本実加工t＝9 WP 横張W100 輻射ﾊﾟﾈﾙ EP-G H4000以上 難燃ｼﾅ合板t=12 WP 難燃ｼﾅ合板t=12 WP 杉縦格子 35×100@200 WP EP-G			鉄骨大梁小梁ﾌﾞﾚｰｽ EP-G 屋根野地板:表し 屋根母屋:錆止め(ｸﾞﾚｰ)表し		最高部 16,950 平均天井高 14,850	ｷｬｯﾄｳｫｰｸ 吊ﾊﾞﾄﾝ 電動暗幕 手動暗幕 防球ﾈｯﾄ 各種目競技基礎 ｺｰﾄﾗｲﾝ 収納ﾍﾞﾝﾁ

※火気使用室なし

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号 大橋康孝

検印	総括	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和７年６月		製図 望月

設計 NO.

工事名: 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名: 仕上表3

縮尺

図面 NO. Ａ－００９

3		床		幅木	壁		仕上	天井					
室名	居室	下地	仕上	仕上　高さ	軽量鉄骨下地			軽量鉄骨下地	ふところ	仕上	廻縁	天井高	備考
体力測定室	○	鋼製根太 鋼製大引 ｽﾁｰﾙ製支持脚＠900 ﾎｰﾙｱﾝｶｰ止 H＝700	大型積層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=18 隠し特殊張工法 (表面単板ｶﾊﾞ6mm挽板) 工場塗装7回+現場水性ｳﾚﾀﾝ2液1回塗装 針葉樹構造用合板t=15	木製幅木 桧 100 18×100 WP	柱型 65形 @450 木下地 杉:90×90 間柱杉:45×90@450 胴縁杉 21×40 @450 100形 @450 65形 @450	構造用合板(2類)t＝9.0 構造用合板(2類)t＝9.0+GB-Rt=9.5突付 GB-Rt=9.5 構造用合板(2類)t＝9.0+GB-Rt=9.5突付 GB-Rt=9.5 構造用合板(2類)t＝9.0	難燃ｼﾅ合板t=9 WP H4000以下 杉羽目板本実加工t＝9 WP 縦張W100 H4000以上 EP-G H4000以下 杉羽目板本実加工t＝9 WP 縦張W100 H4000以上 EP-G 屋内空調機 ｼﾅ合板＝5.5 WP 桧縦格子35*43@85 WP	下地張あり	1.5m未満 ～ 1.5m以上3.0m未満	DRt=9.0+GB-Rt＝9.5 天然木ﾙｰﾊﾞｰ嵌合式直付け30×100 WP WOODNUM同等	木製廻縁 25×25 杉 WP塗	5,000	手動暗幕 ｺｰﾄﾗｲﾝ 姿見W1800*H1700 移動間仕切りH5000 収納ﾍﾞﾝﾁ
倉庫2 上部機材置場		鋼製根太 鋼製大引 ｽﾁｰﾙ製支持脚＠900 ﾎｰﾙｱﾝｶｰ止 H＝700	TS 単層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 高耐動荷重 針葉樹構造用合板t=15 + 構造用ﾗﾜﾝ合板t=15 捨張 有孔鋼製床板W=200 H=40ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ丸穴 ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付(ﾊﾟﾜｰﾌﾛｱｰ同等)		柱型 65形 @450 100形 @450 柱、梁、小梁	木毛ｾﾒﾝﾄ板t=25 木毛ｾﾒﾝﾄ板t=25 鉄骨部	EP-G	下地張なし	1.5m未満	GB-Dt＝9.5ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	3,800	鉄骨製:上部棚 ｱﾙﾐ製梯子 鋼製ｽﾃｯﾌﾟ(取外可)
機械室		ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ 直均仕上			柱型 65形 @450 100形 @450	木毛ｾﾒﾝﾄ板t=25 木毛ｾﾒﾝﾄ板t=25				屋根野地板:表し			
風除室		ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ 直均仕上	擬石平板 600×300	ﾃﾗｿﾞﾌﾞﾛｯｸt=25 25	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5 突付	不燃化粧板t=3.0	下地張あり	1.5m未満	DRt=9.0+GB-Rt＝9.5	木製廻縁 25×25 杉 WP塗	2,880	
ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 防汚性 防滑性	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5 GB-Rt=12.5+12.5 突付	EP-G 耐擦傷性不燃化粧板 t=6.0	下地張あり	1.5m未満	DRt=9.0+GB-Rt＝9.5 天然木ﾙｰﾊﾞｰ嵌合式直付け30×100 @200 WP WOODNUM同等	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	3,000	木製桧ﾍﾞﾝﾁ
下足ｺｰﾅｰ		ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ 直均仕上 ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	擬石平板 600×300 ｽﾃﾝﾚｽ沓摺W45 FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 防汚性 防滑性	ﾃﾗｿﾞﾌﾞﾛｯｸt=25 60 ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5	EP-G	下地張あり	1.5m未満	DRt=9.0+GB-Rt＝9.5	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	3,000	ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞW2420*H2850 W1810*H2740
廊下1		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 防汚性 防滑性	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5	EP-G	下地張なし	1.5m以上3.0m未満	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t＝9.5 四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･Dﾌﾟﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,700	
廊下2		ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	FS 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 防汚性 防滑性	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5	EP-G	下地張なし	1.5m未満	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t＝9.5 四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･Dﾌﾟﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	2,700	木製桧ﾍﾞﾝﾁ
談話ｺｰﾅｰ	○	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ ｾﾒﾝﾄ系 t＝10	KS ｸｯｼｮﾝﾌﾛｱ t=4.5 木目調	ﾋﾞﾆﾙ幅木 60	100形 @450	GB-Rt=12.5+12.5 突付	耐擦傷性不燃化粧板 t=6.0	下地張あり	1.5m未満	DRt=9.0+GB-Rt＝9.5		平均天井高 3,640	ﾎﾞﾙﾀﾞﾘﾝｸﾞW5400*H2000 ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞW2020*H2740 W1990*H2740

※火気使用室なし

※1 使用する材料は全て規制対象外(F☆☆☆☆)とする。

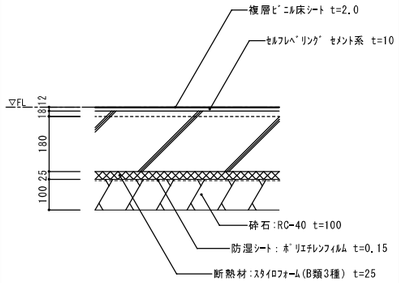
※2 ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄは多湿部として扱うものとする。

共通	土間下		壁		天井			備考
	断熱材	ｽﾀｲﾛﾌｫｰﾑ板 t=25 B類3種	外壁	高性能ｸﾞﾗｽｳｰﾙt＝100 密度24kg/m3	屋根	母屋	押出発泡ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝ板2種bA t=50×2(t=100)	
	防湿ｼｰﾄ	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ t=0.15			設備ｽﾍﾟｰｽ屋根	天井裏	吹付硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ A種1 t=60	

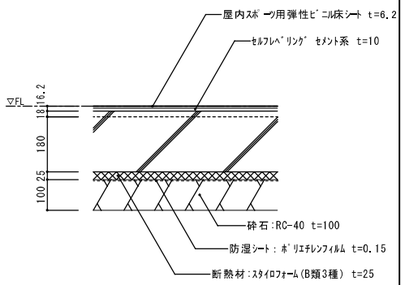
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大 橋 康 孝	検印 大 橋 / 総括 大 橋 / 主任 大 橋 日付 令和７年６月 / 製図 望 月	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 仕上表4　縮尺	図面 NO. Ａ－０１０

床

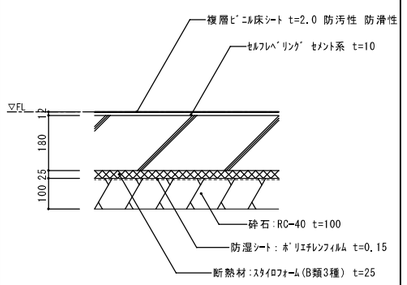
ビニル床シート



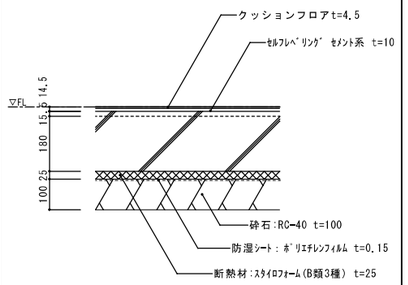
ビニル床シート



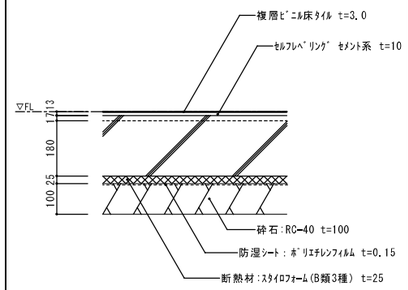
ビニル床シート



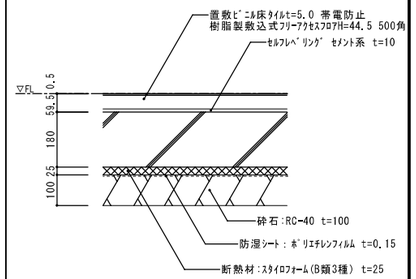
ビニル床シート



ビニル床タイル

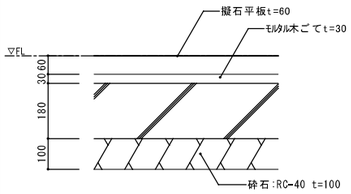


ビニル床タイル

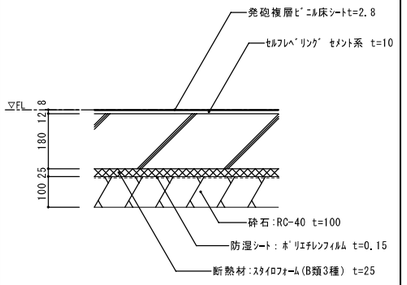


床

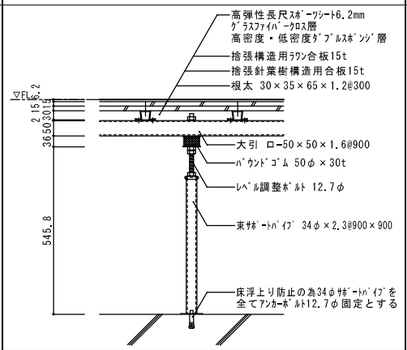
平板



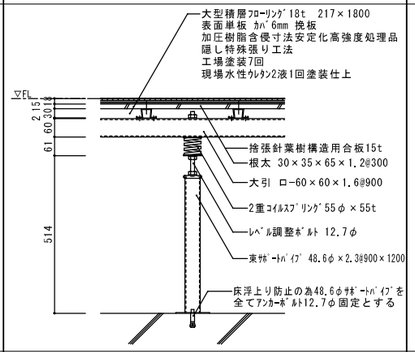
ビニル床シート



ビニル床シート

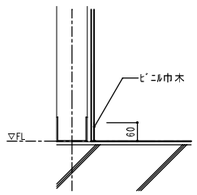


フローリング

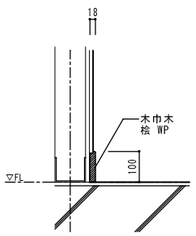


巾木

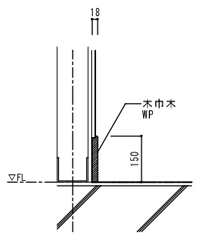
ビニル巾木 H=60



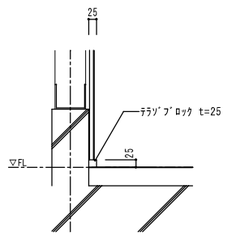
木製巾木 桧



木製巾木 桧



テラゾブロック t=25

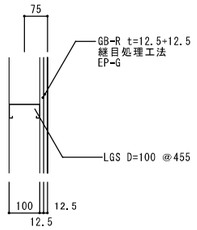


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 標準詳細図1
	日付 令和７年６月	製図 望月				縮尺 A1：1/10 A3：1/20

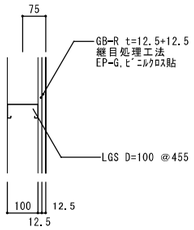
図面NO. A－０１１

内壁

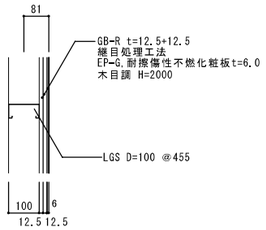
GB-R t=12.5+12.5
EP-G



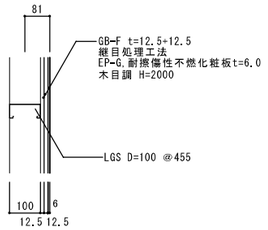
GB-R t=12.5+12.5
EP-G,ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ貼



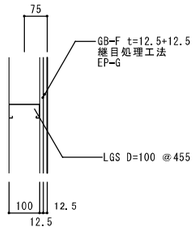
GB-R t=12.5+12.5
EP-G,耐擦傷性不燃化粧板t=6.0 木目調 H=2000



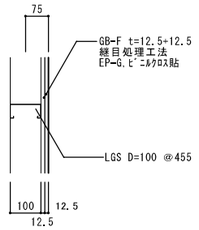
GB-F t=12.5+12.5
EP-G,耐擦傷性不燃化粧板t=6.0 木目調 H=2000



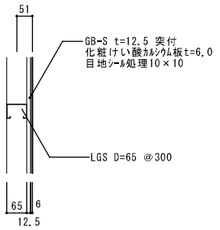
GB-F t=12.5+12.5
EP-G



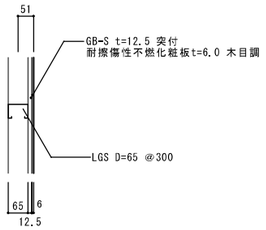
GB-F t=12.5+12.5
EP-G,ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ貼



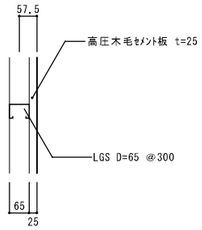
GB-S t=12.5
化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0 目地ｼｰﾙ処理10×10



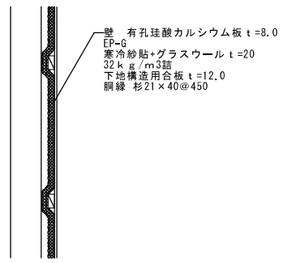
GB-S t=12.5
耐擦傷性不燃化粧板t=6.0 木目調



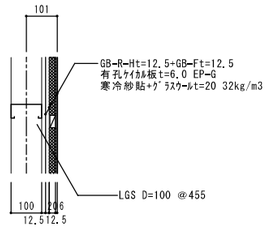
高圧木毛ｾﾒﾝﾄ板 t=25
素地のまま



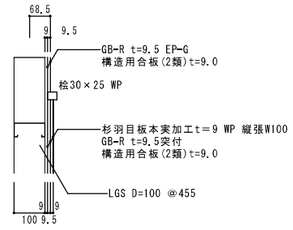
有孔珪酸カルシウム板ｔ=8.0 EP-G
寒冷紗貼+グラスウールｔ=20 32ｋｇ/m3詰



GB-R-Ht=12.5+GB-Ft=12.5
有孔ｹｲｶﾙ板t=6.0 EP-G

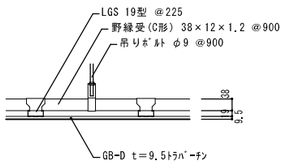


GB-R t=9.5突付
杉羽目板本実加工ｔ＝9 WP 縦張W100

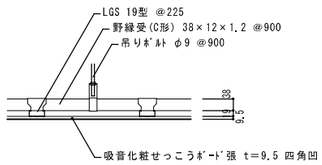


天井

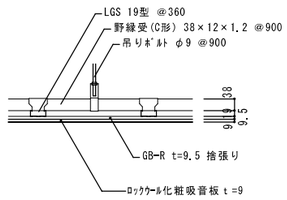
石膏ﾎﾞｰﾄﾞ



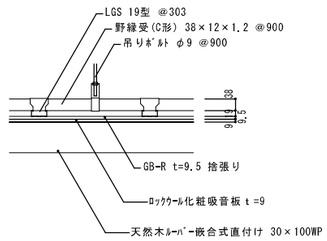
吸音化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ



ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板

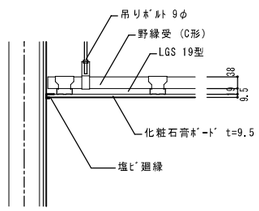


ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板 天然木ﾙｰﾊﾞｰ嵌合式直付け

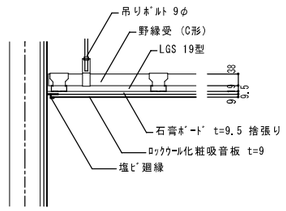


廻縁

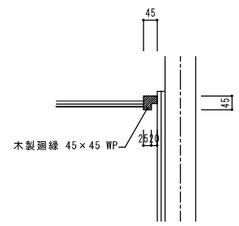
塩化ﾋﾞﾆﾙ製



塩化ﾋﾞﾆﾙ製



木製 桧

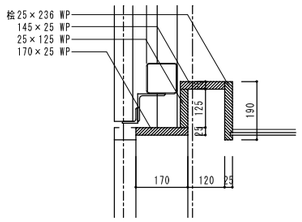


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	組長 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 標準詳細図2
	日付 令和７年６月	製図 望月				縮尺 A1：1/10 A3：1/20

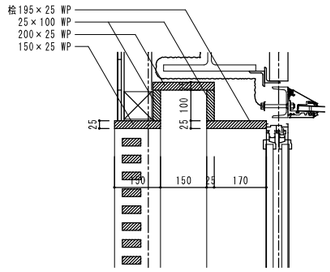
図面NO. A－０１２

内壁

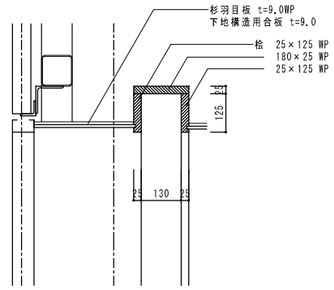
カーテンボックス(談話コーナー)



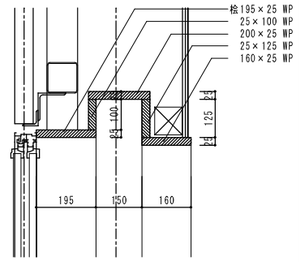
カーテンボックス(体育室)



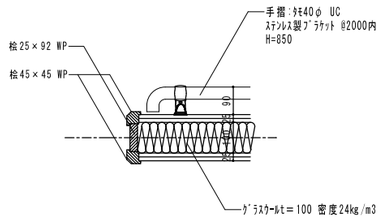
カーテンボックス(体力測定室)



カーテンボックス(体力測定室)

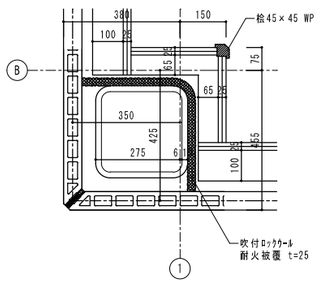


壁見切り(便所)

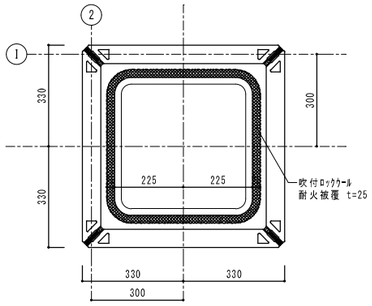


内壁

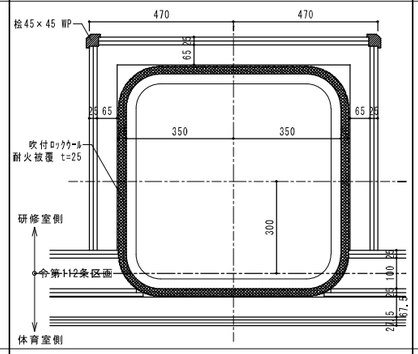
外壁隅出部



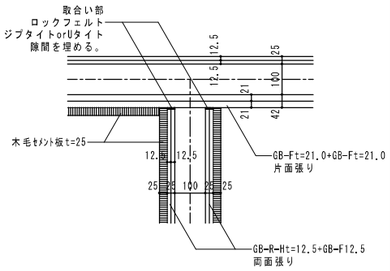
外部独立柱部(ピロティ)



令第112条区画壁



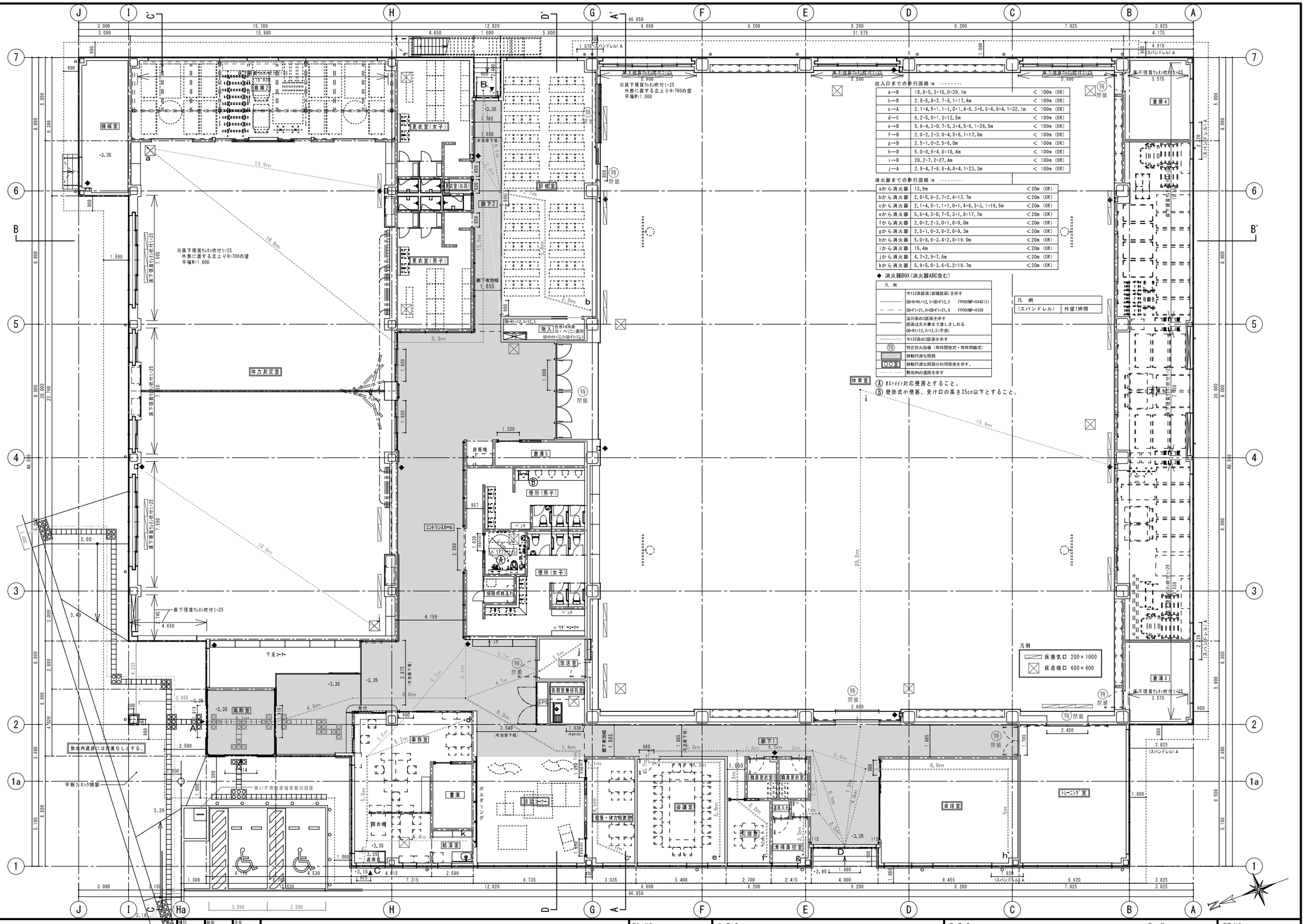
令第112条区画壁　　非耐力壁間仕切壁1時間



天井

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検図 大橋	管理 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)
	日付 令和７年６月	図面 望月			

図面名 標準詳細図3	縮尺 A1：1/10 A3：1/20	図面NO. A－０１３



出入口までの歩行距離:m --------

a→B	18.8+5.3+15.0=39.1m	< 100m (OK)
b→B	2.8+5.8+2.7+6.1=17.4m	< 100m (OK)
c→A	2.1+4.5+1.1+1.0+1.4+6.3+6.8+4.8+4.1=32.1m	< 100m (OK)
d→C	6.2+5.0+1.3=12.5m	< 100m (OK)
e→D	5.6+4.3+0.7+5.3+4.5+6.1=26.5m	< 100m (OK)
f→D	2.0-2.2+3.0+4.5+6.1=17.8m	< 100m (OK)
g→D	2.5+1.0+2.5=6.0m	< 100m (OK)
h→D	5.0+8.6+4.8=18.4m	< 100m (OK)
i→D	20.2+7.2=27.4m	< 100m (OK)
j→A	2.9+4.7+6.8+4.8+4.1=23.3m	< 100m (OK)

消火器までの歩行距離:m --------

aから消火器	13.9m	<20m (OK)
bから消火器	2.8+5.8-2.7+2.4=13.7m	<20m (OK)
cから消火器	2.1+4.5-1.1+1.0+1.4+6.3+3.1=19.5m	<20m (OK)
eから消火器	5.6+4.3+0.7+5.3+1.8=17.7m	<20m (OK)
fから消火器	2.0+2.2-3.0+1.8=9.0m	<20m (OK)
gから消火器	2.5+1.0+3.8+2.0=9.3m	<20m (OK)
hから消火器	5.0+8.6-3.4+2.0=19.0m	<20m (OK)
iから消火器	15.4m	<20m (OK)
jから消火器	4.7+2.9=7.6m	<20m (OK)
kから消火器	5.9+5.0-3.6+5.2=19.7m	<20m (OK)

◆ 消火器BOX(消火器ABC含む)

凡 例

	令112条区画(面積区画)を示す GB-R-Rt=12.5+GB-F12.5　FP060NP-0448(1) GB-Ft=21.0+GB-Ft=21.0　FP060NP-0189
	法35条の3区画を示す 仮囲は天井裏まで達しさしめる GB-Rt=12.5+12.5(不燃)
	令126条の3区画を示す
特	特定防火設備(常時閉鎖式・常時閉鎖式)
	移動円滑化経路
○○室	移動円滑化経路の利用居室を示す。
	敷地内の通路を示す

凡 例

(スパンドレル)	外壁1時間

休育室

Ⓐ オストメイト対応便房とすること。
Ⓑ 壁掛式小便器、受け口の高さ35cm以下とすること。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	作図 大橋	照査 大橋	主任 大橋
	日付 令和7年6月	図面 望月	

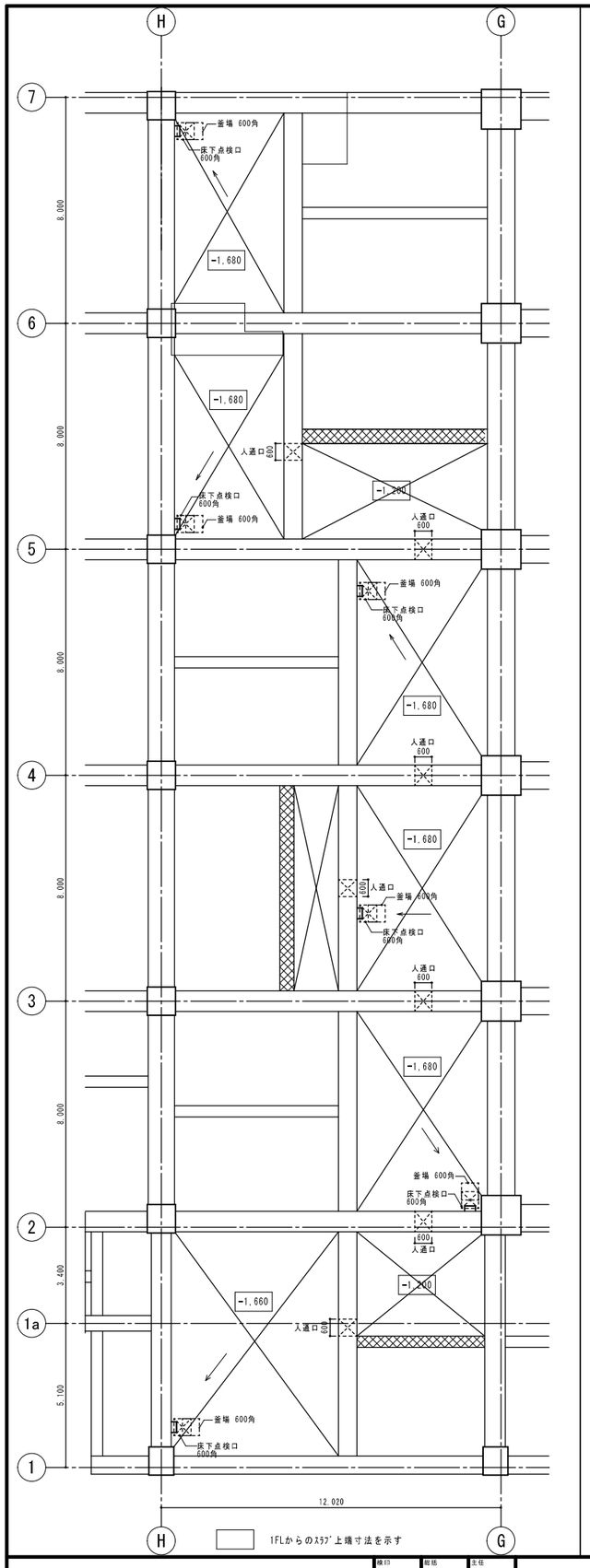
設計 NO.

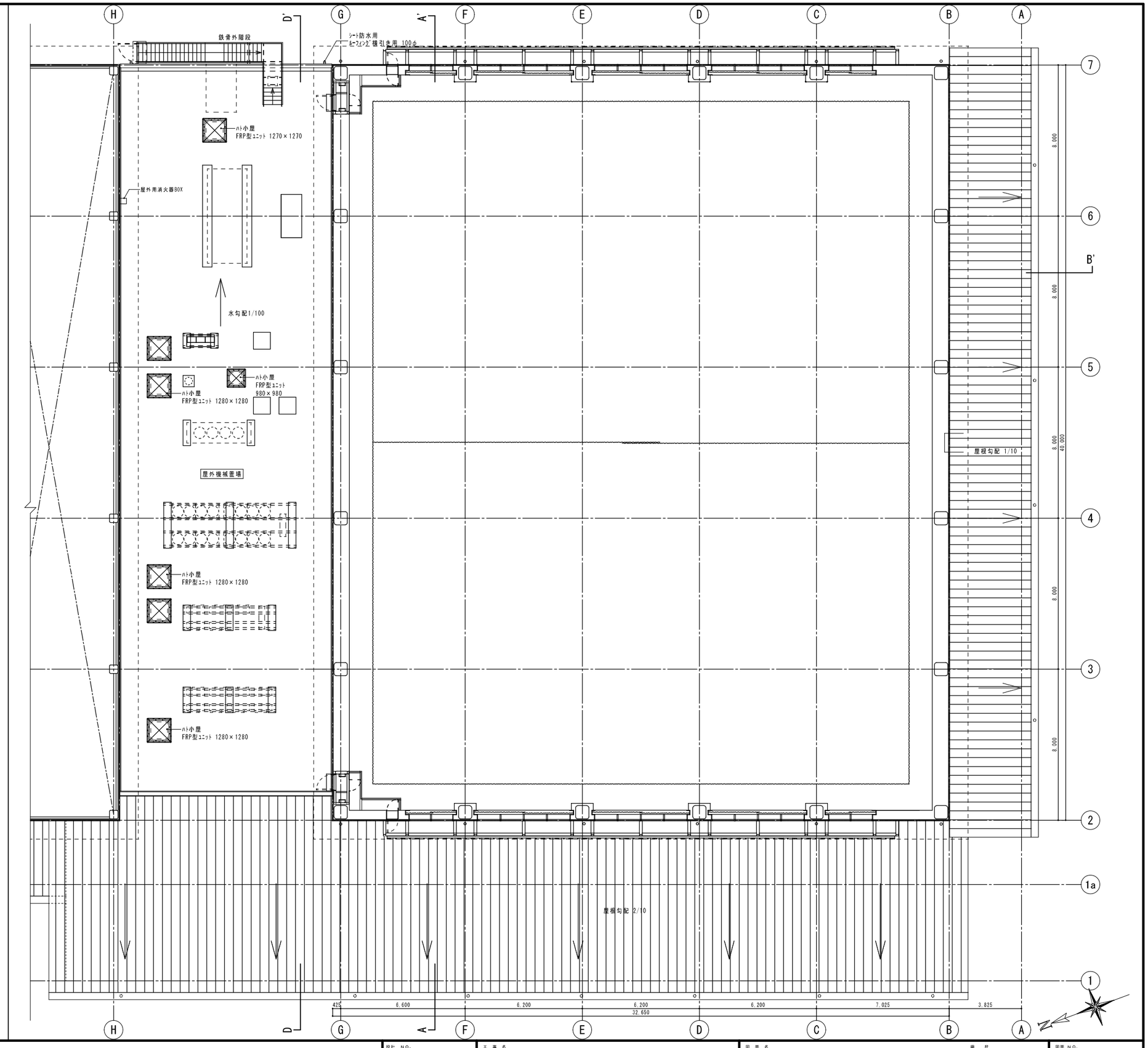
工事名: 令和7年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名: 1階平面図

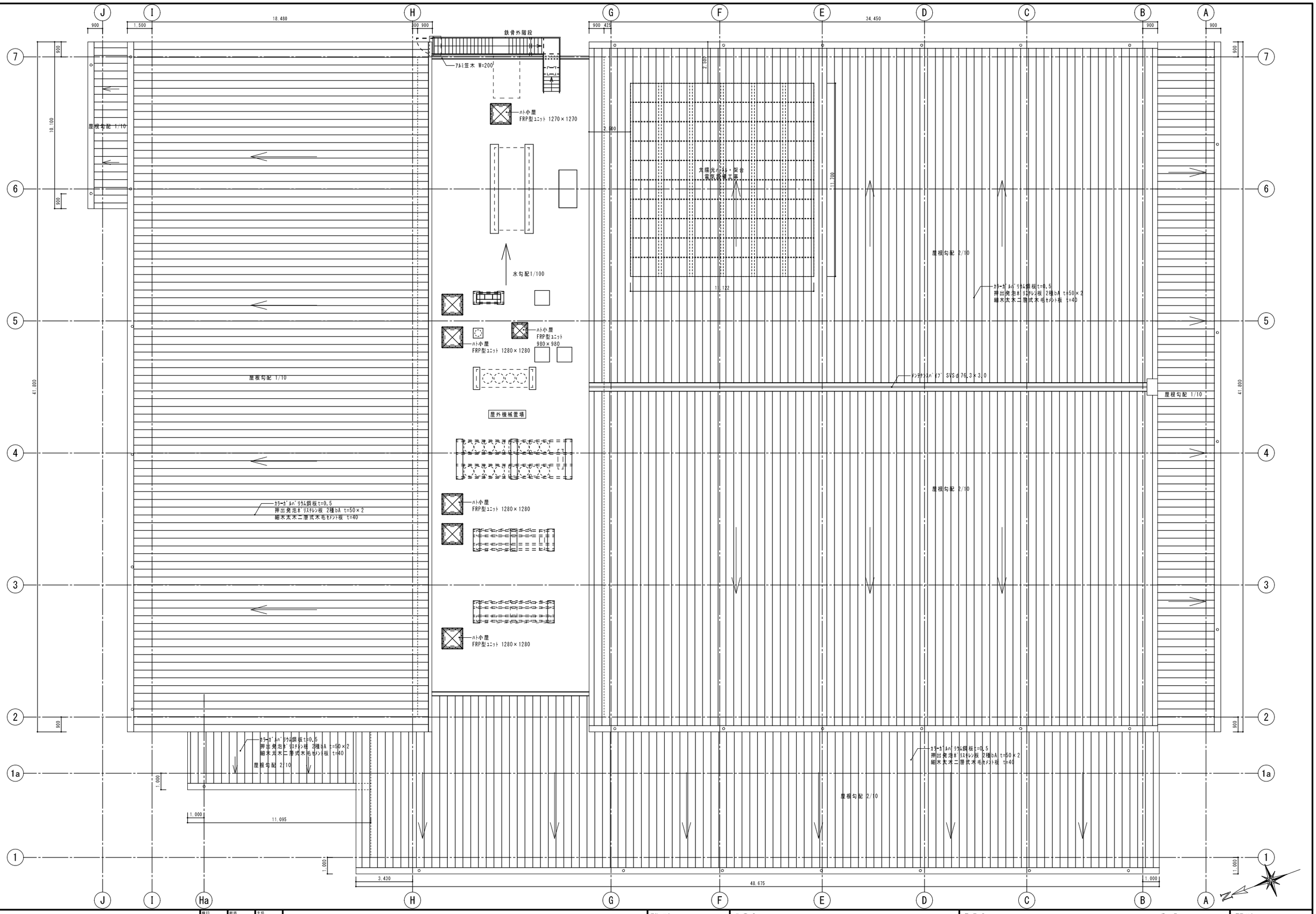
縮尺: A1：1/100　A3：1/200

図面 NO.: A－014

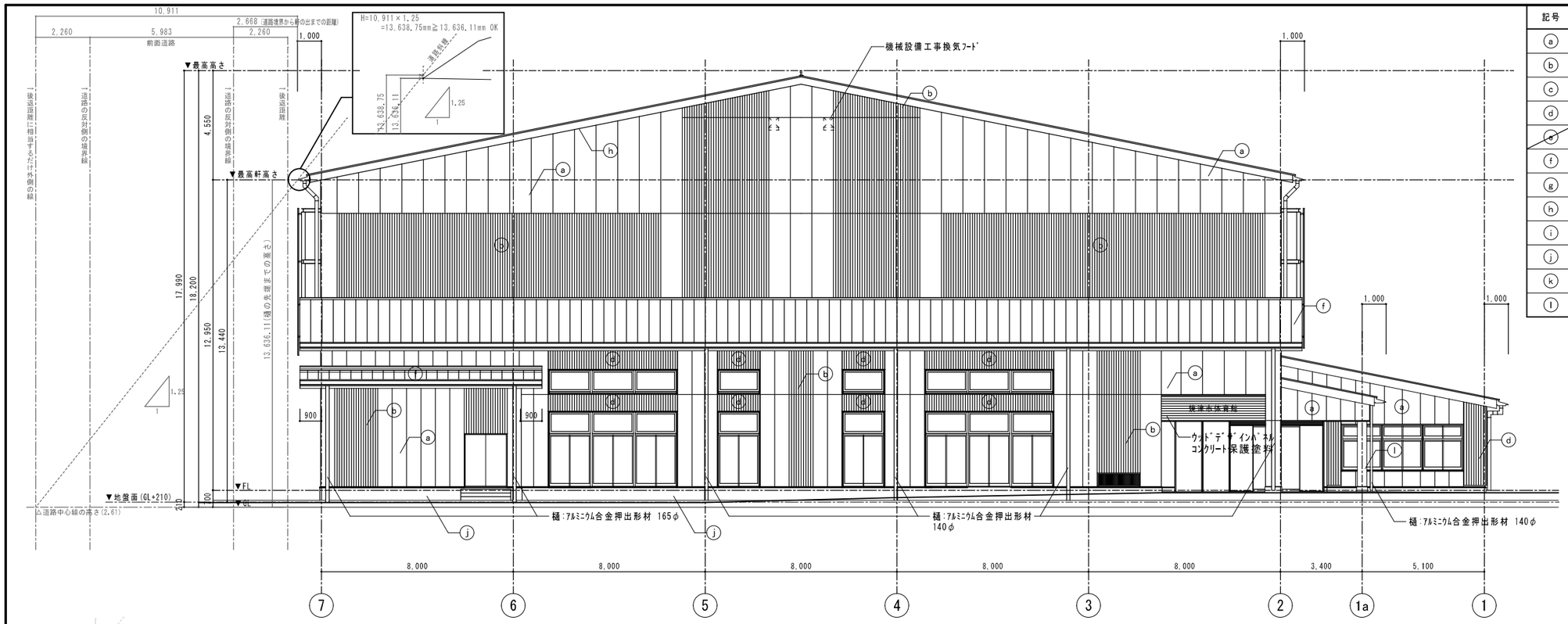




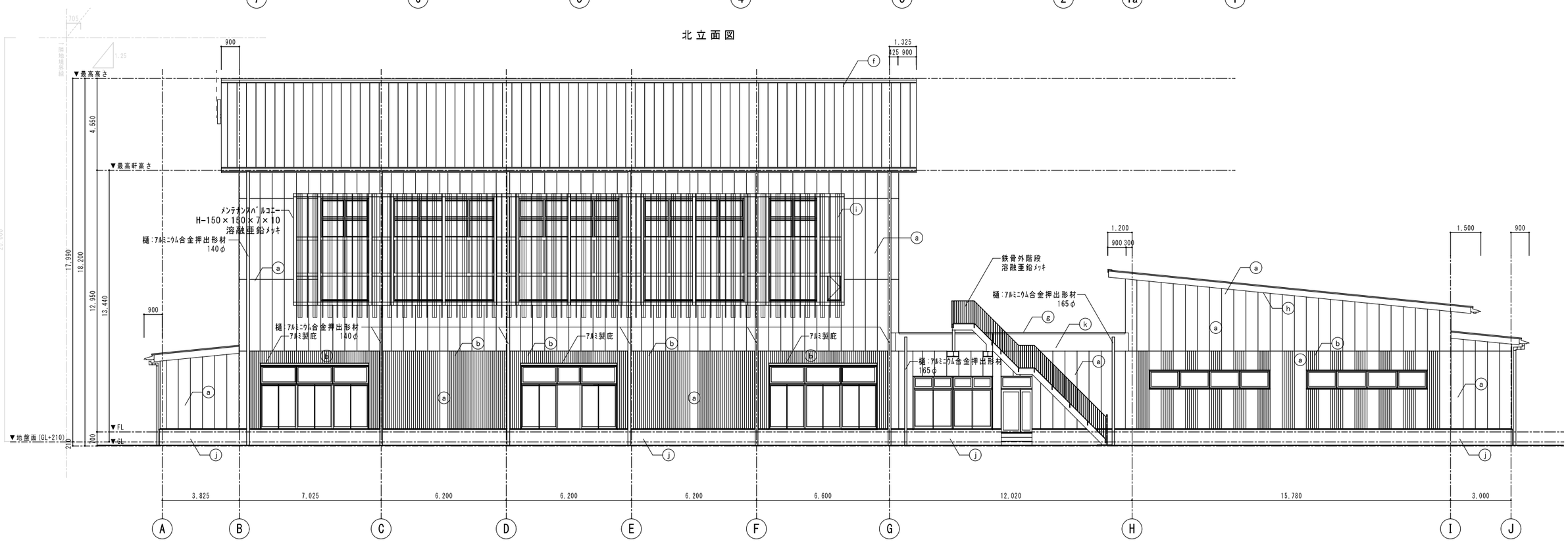
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	組織 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 ピット図・キャットウォーク階平面図	縮尺 A1：1/100 A3：1/200
	日付 令和７年６月		図面 望月				図面 NO. A－015



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	組織 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 屋根伏図	縮尺 A1：1/100 A3：1/200	図面 NO. A－016
	日付 令和７年６月		図面 望月					



北立面図



東立面図

記号		仕上
a	外壁	押出成形ｾﾒﾝﾄ板 t=60 ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ 縦張 耐候性塗塗料(DP)
b	外壁	押出成形ｾﾒﾝﾄ板 t=60 ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ 縦張 耐候性塗塗料(DP)
c	外壁	押出成形ｾﾒﾝﾄ板 t=60 ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ 横張 耐候性塗塗料(DP)
d	外壁	ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4
e	格子	ｱﾙﾐ形材30×150@100木目調ｼｰﾄ 縦格子取付金物L-50×50×4溶融亜鉛ﾒｯｷ
f	屋根	完全嵌合式瓦棒葺き ｶﾗｰﾊﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t=0.5
g	屋上笠木	ｱﾙﾐ製笠木W200 ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金押出形材 表面仕上：陽極酸化皮膜
h	軒天井	軽量鉄骨天井下地25形 けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0目透張 EP-G
i	格子	ｱﾙﾐ形材40×40 @250・100×40ﾀﾞﾌﾞﾙ @250木目調ｼｰﾄ取付金物溶融亜鉛ﾒｯｷ
j	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し	保護塗料
k	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し	耐候性塗塗料(DP)
l	鉄骨柱	耐火塗料

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号 大橋康孝

検印	組長	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和7年6月		関図 望月

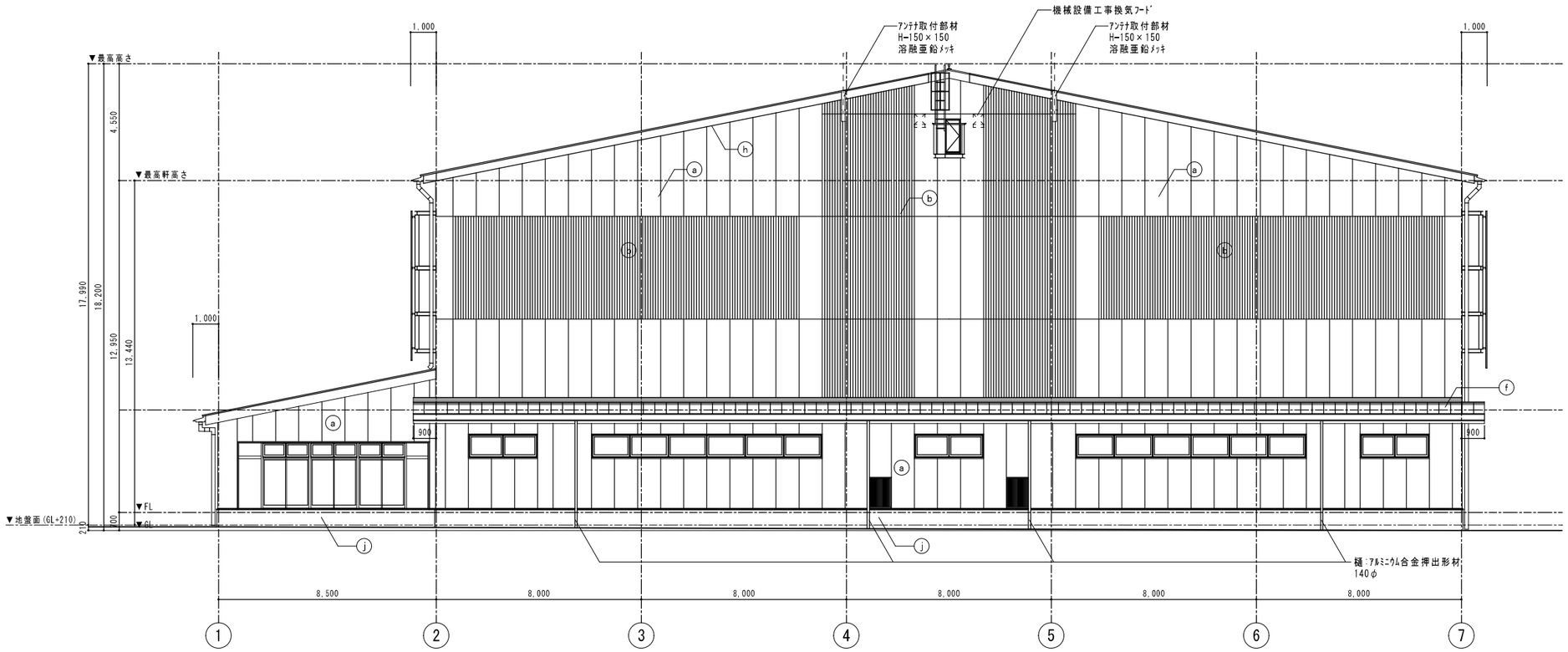
設計 NO.

工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

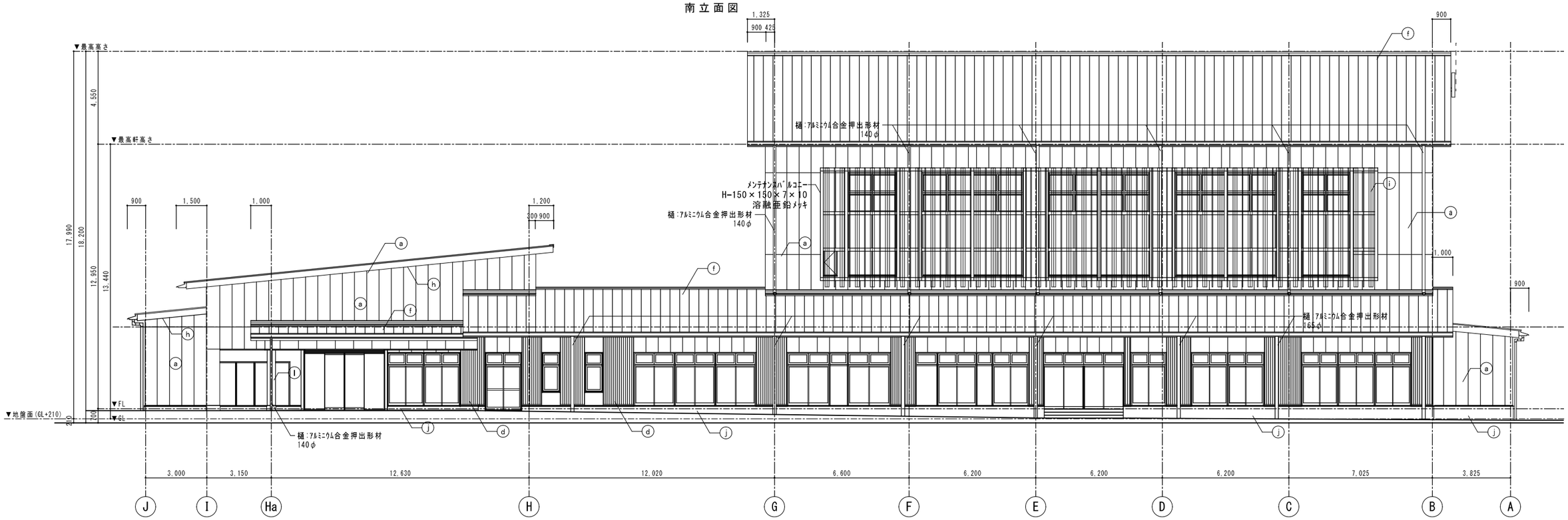
図面名 立面図1

縮尺 A1：1/100 A3：1/200

図面 NO. A－017



南立面図



西立面図

記号		仕上
a	外壁	押出成形セメント板 t=60 フラットパネル 縦張 耐候性塗塗料(DP)
b	外壁	押出成形セメント板 t=60 デザインパネル 縦張 耐候性塗塗料(DP)
c	外壁	押出成形セメント板 t=60 デザインパネル 横張 耐候性塗塗料(DP)
d	外壁	ガルバリウム鋼板 t=0.4
e	格子	アルミ形材30×150@100木目調シート 縦格子取付金物L-50×50×4溶融亜鉛メッキ
f	屋根	完全嵌合式瓦棒葺き カラーガルバリウム鋼板t=0.5
g	屋上笠木	アルミ製笠木W200 アルミニウム合金押出形材 表面仕上：陽極酸化皮膜
h	軒天井	軽量鉄骨天井下地25形 けい酸カルシウム板t=6.0目透張 EP-G
i	格子	アルミ形材40×40 @250・100×40ダブル @250木目調シート取付金物溶融亜鉛メッキ
j	コンクリート打放し	保護塗料
k	コンクリート打放し	耐候性塗塗料(DP)
l	鉄骨柱	耐火塗料

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	製図 大橋	照査 大橋	主任 大橋
	日付 令和７年６月		関図 望月

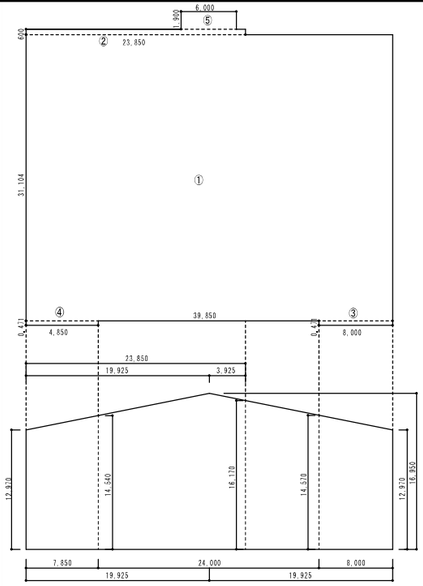
設計 NO.

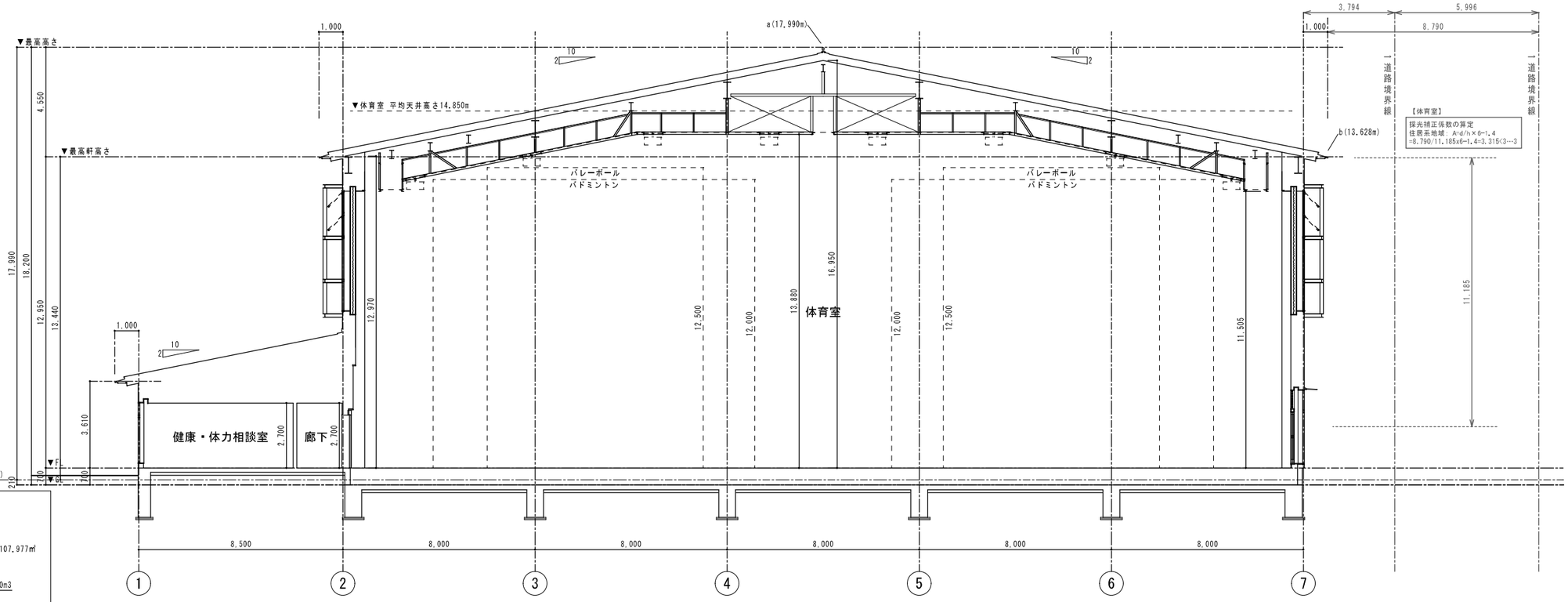
工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

図面名 立面図2

縮尺 A1：1/100 A3：1/200

図面 NO. A－０１８





A−A´ 断面図

【体育室 平均天井高】

1: 1,272.670㎡(体育室床面積)

2:

① ((12.970+16.950)×19.925/2) ×2=596.156㎡
596.156×31.104=18,542.836m3

②(12.970+16.950)×19.925/2=298.078㎡
(16.170+16.950)×3.925/2=64.998㎡
298.078+64.998=363.076㎡
363.076×0.600=217.846m3

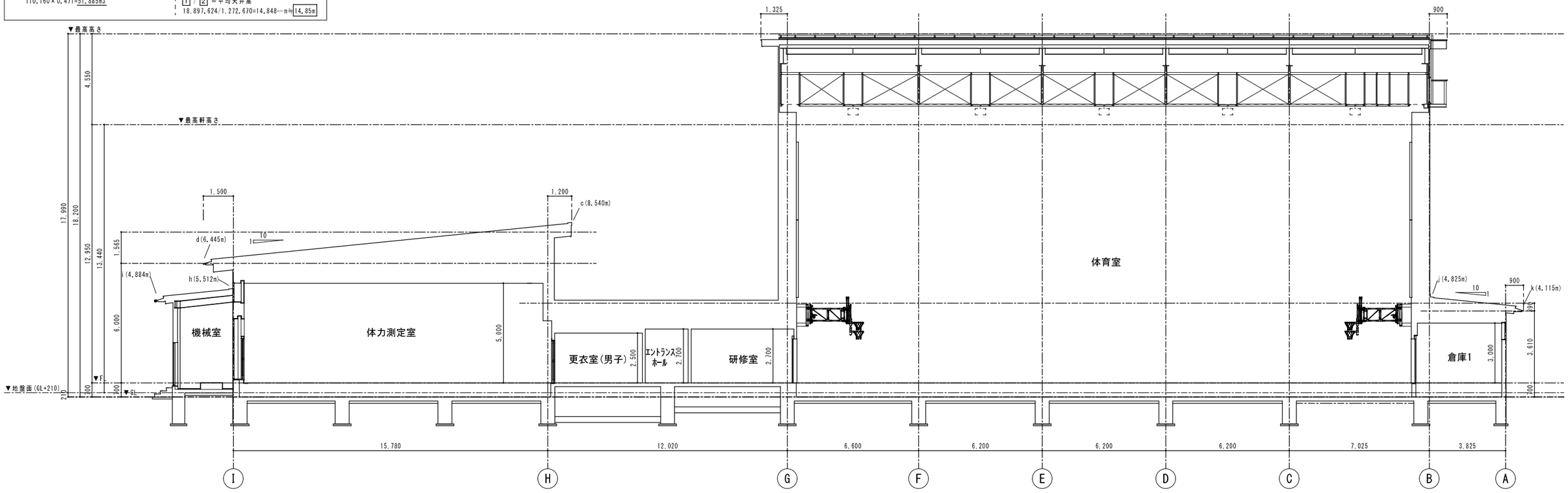
③(12.970+14.570)×8.000/2=110.160㎡
110.160×0.471=51.885m3

④(12.970+14.540)×7.850/2=107.977㎡
107.977×0.471=50.857m3

⑤1.900×6.000×3.000=34.200m3

①〜⑤合計
18,897.624m3

1 / 2 =平均天井高
18,897.624/1,272.670=14.848…m≒14.85m

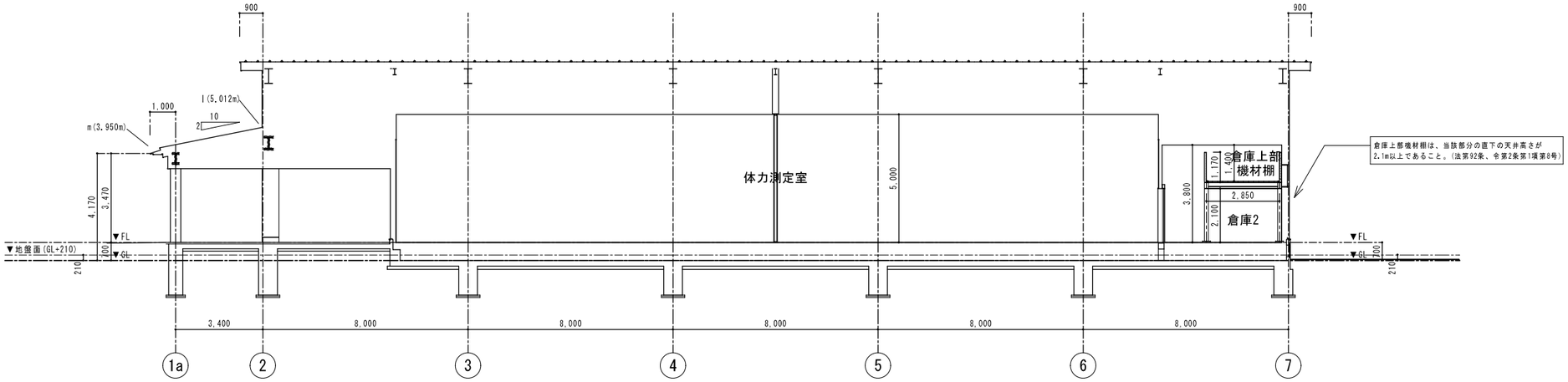


B−B´ 断面図

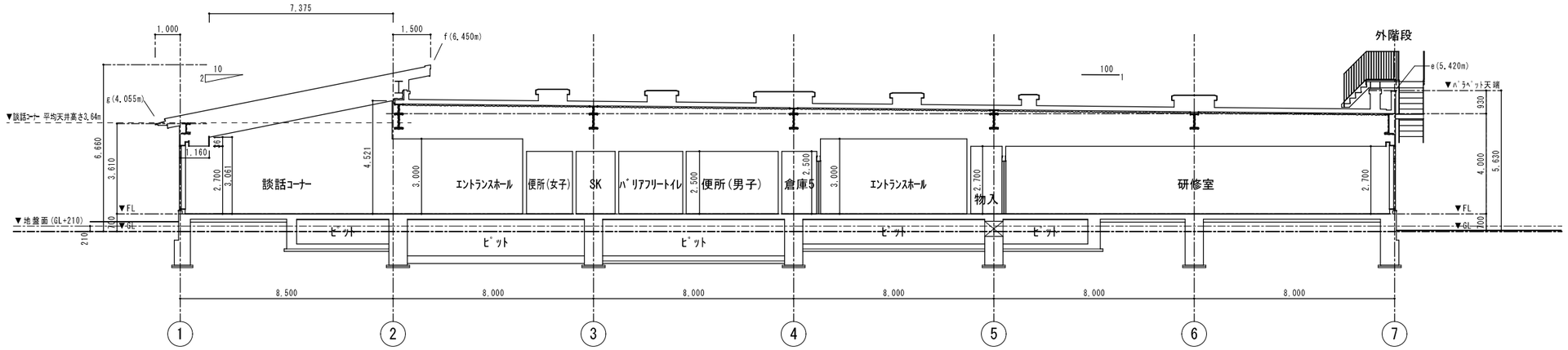
※a〜mは平均地盤面【設計GL(=2.61)+0.21m】からの建物高さとする。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	組長 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 断面図1
	日付 令和７年６月		図面 望月			縮尺 A1 : 1/100 A3 : 1/200

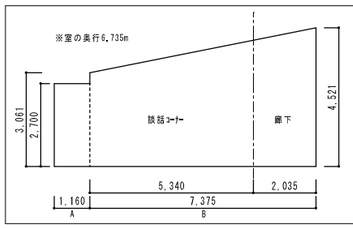
図面 NO. A−０１９



C-C´ 断面図



D-D´ 断面図

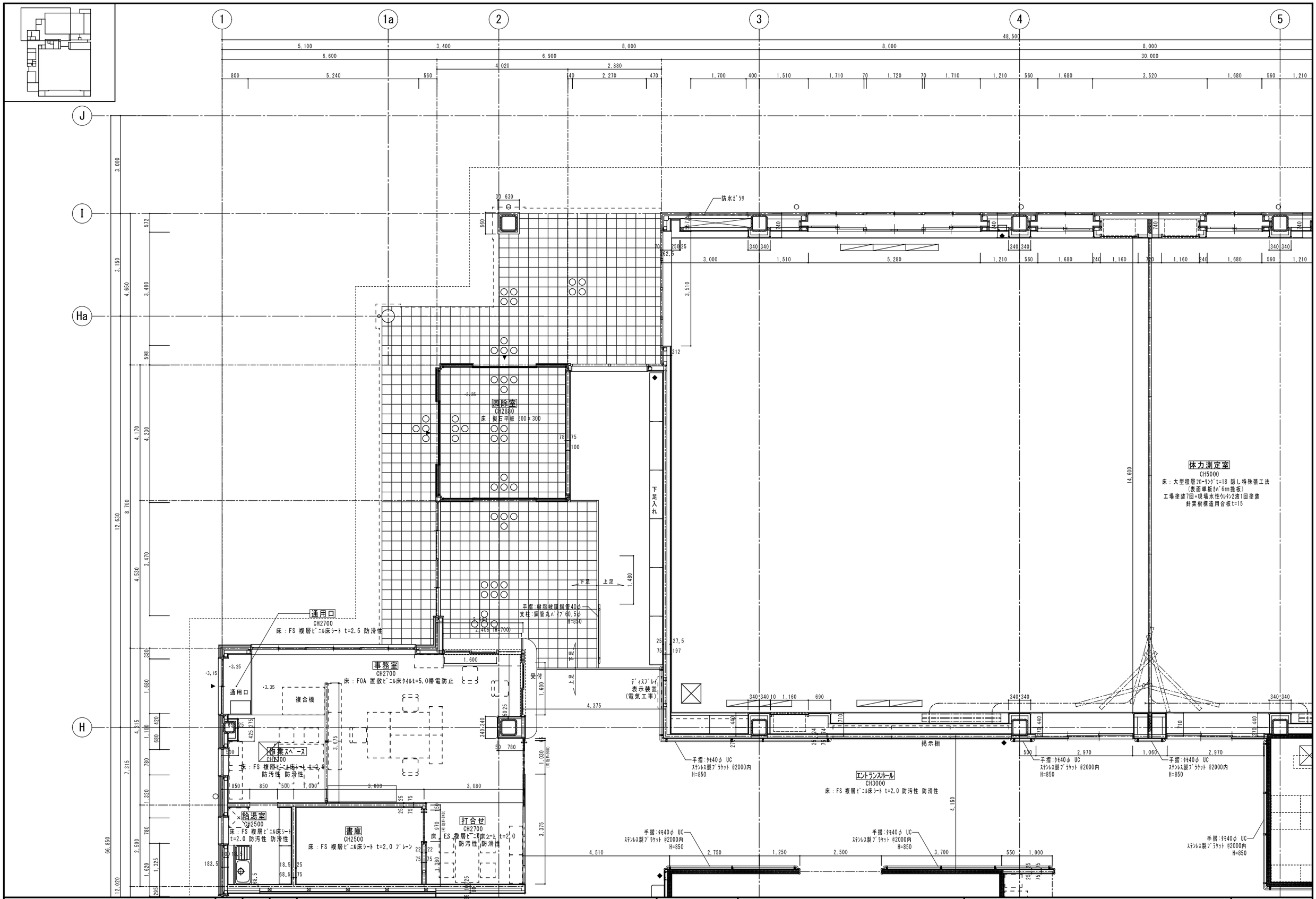


【談話ｺｰﾅｰ 平均天井高】
①8.535×6.735=57.480(床面積)

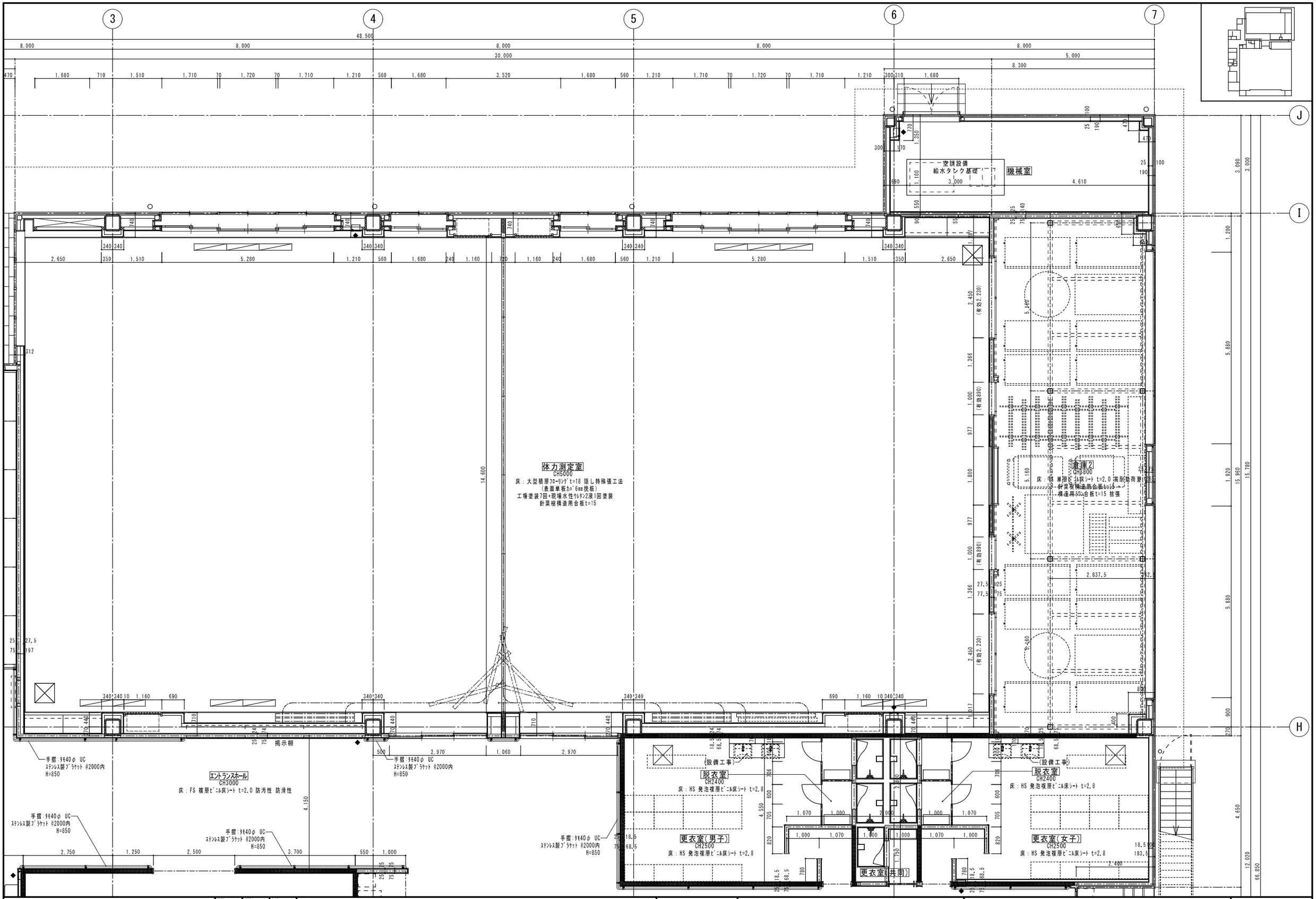
②A:1.160×6.735×2.700=21.094m3
B:5.340+2.035=7.375m
(3.061+4.521×7.375/2)=27.958㎡
27.958×6.735=188.297m3
A+B
21.094+188.297=209.391m3(容積)
②/①＝平均天井高
209.391/57.480＝3.643…m≒3.64m

※a～mは平均地盤面【設計GL(=2.61)+0.21m】からの建物高さとする。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	組織 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 断面図2	縮尺 A1：1/100 A3：1/200
	日付 令和７年６月		図面 望月				図面 NO. A－０２０

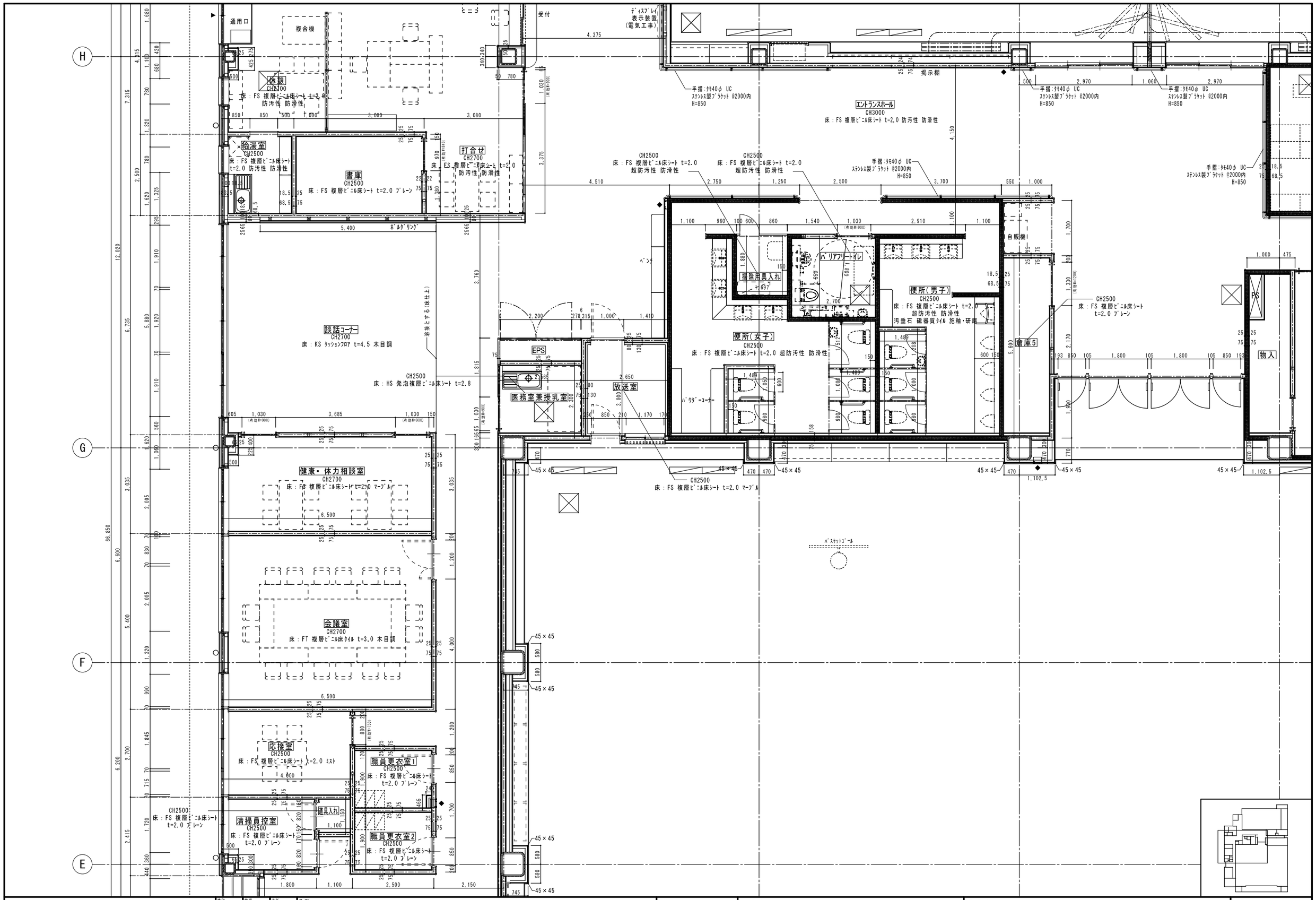


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋 日付 令和7年6月	組長 大橋 製図 望月	主任 大橋	凡例 ◆ 消火器BOX　床下点検口(600角)　床換気口 200×1000	設計 NO.
工事名 令和7年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 平面詳細図1	縮尺 A1：1/100 A3：1/200	図面 NO. A－021		



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検図 大橋	総括 大橋	主任 大橋	凡例 ◆ 消火器BOX 床下点検口（600角） 床換気口 200×1000	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 平面詳細図2
	日付 令和７年６月		図面 望月				縮尺 A1：1/100 A3：1/200

図面 NO. A－０２２



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号 大橋康孝

検印	校閲	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和7年6月		図面 望月

凡例
◆ 消火器BOX
床下点検口(600角)
床換気口 200×1000

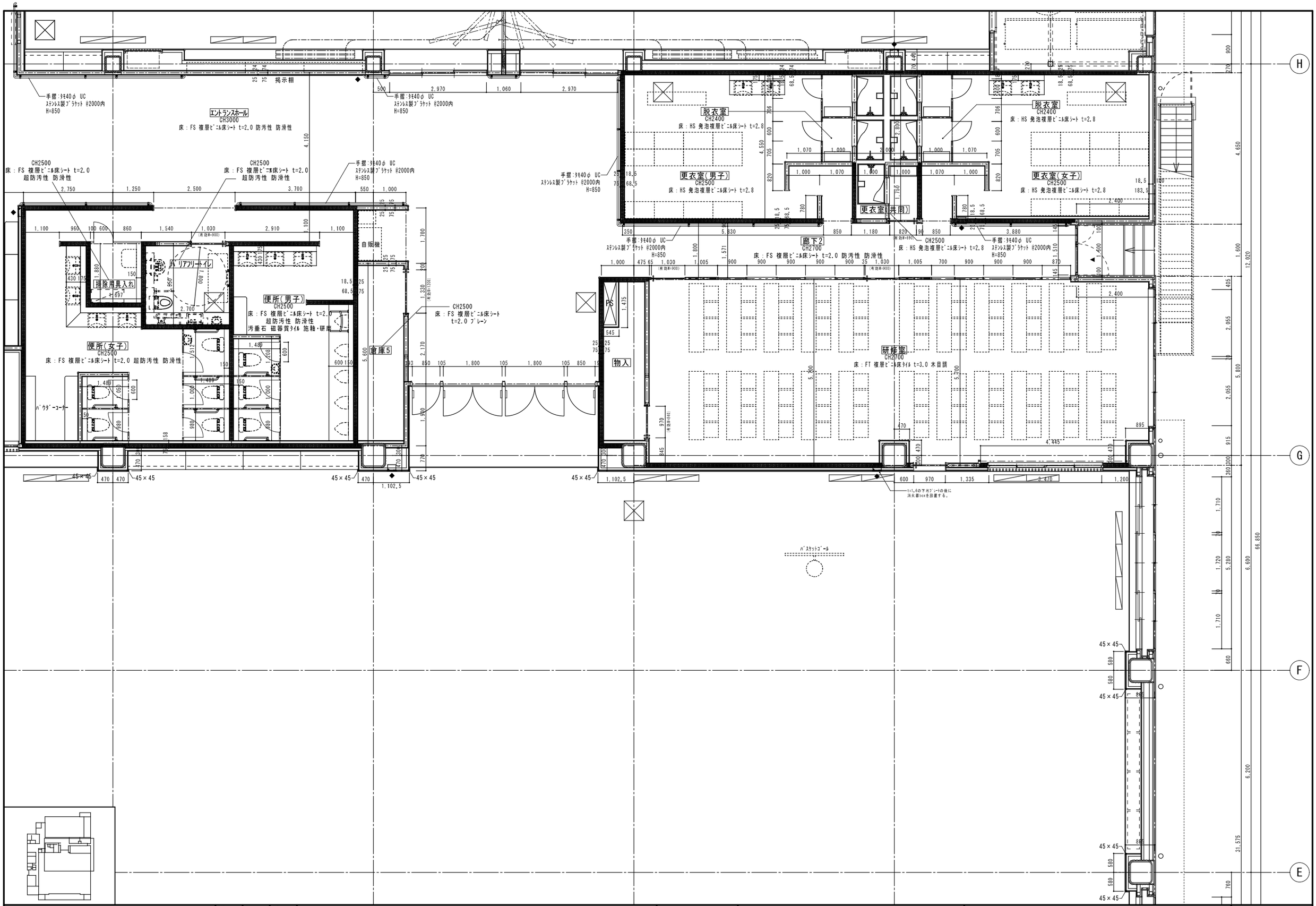
設計 NO.

工事名 令和7年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名 平面詳細図3

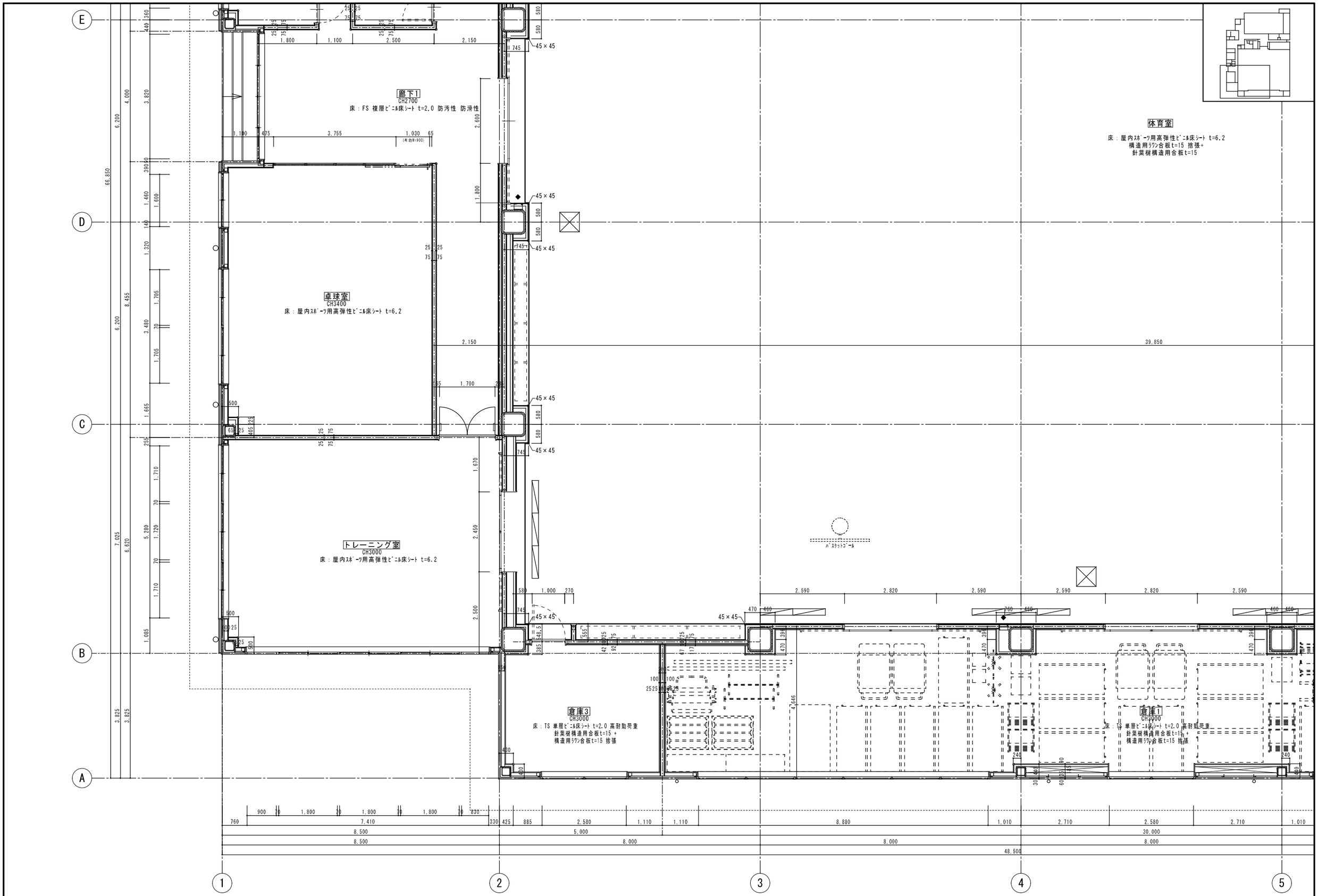
縮尺 A1：1/100 A3：1/200

図面NO. A－023



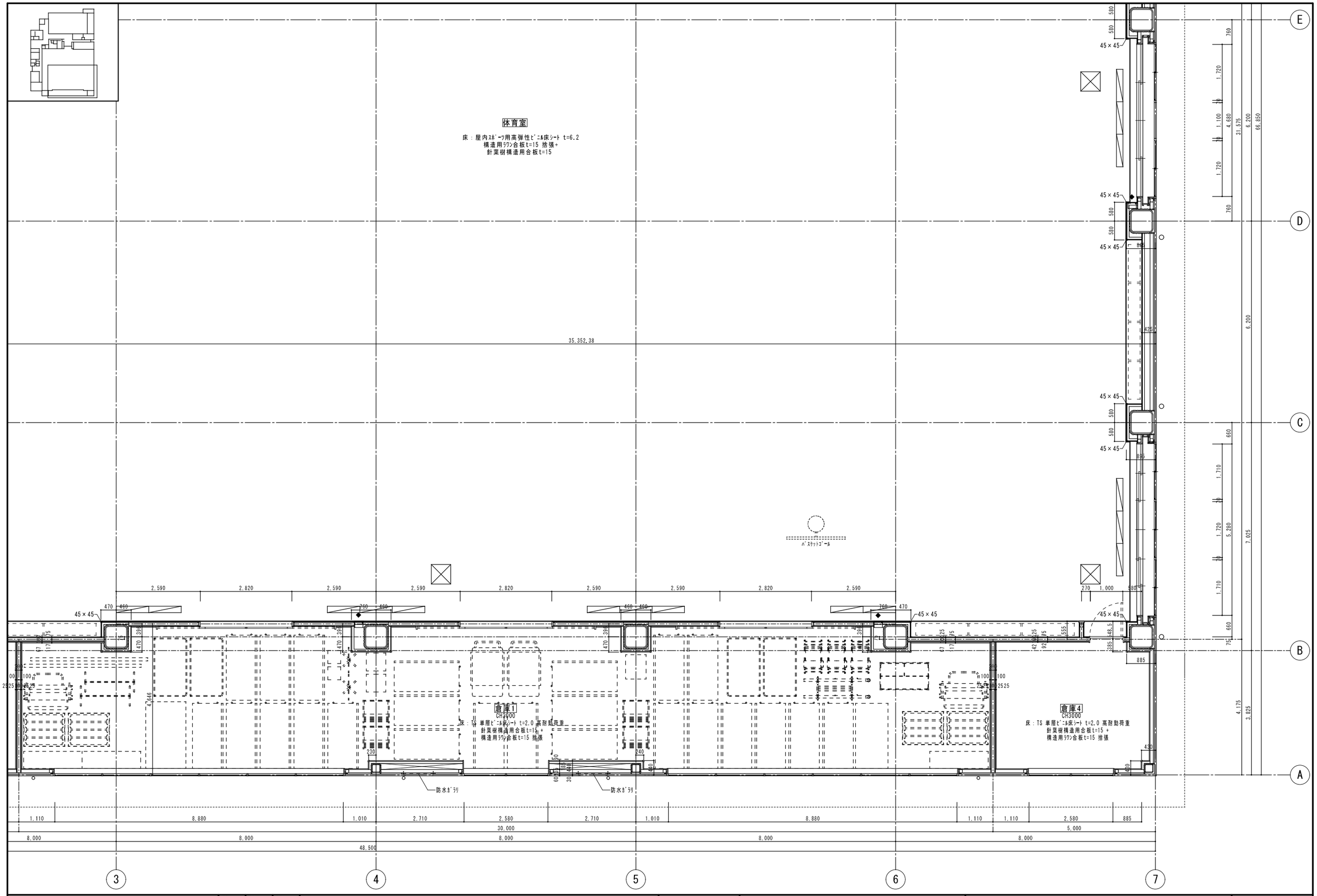
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	凡例 ◆ 消火器BOX　床下点検口(600角)　床換気口 200×1000	設計 NO.
	日付 令和7年6月		製図 望月		

工事名	図面名	縮尺	図面NO.
令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	平面詳細図4	A1：1/100 A3：1/200	A－０２４



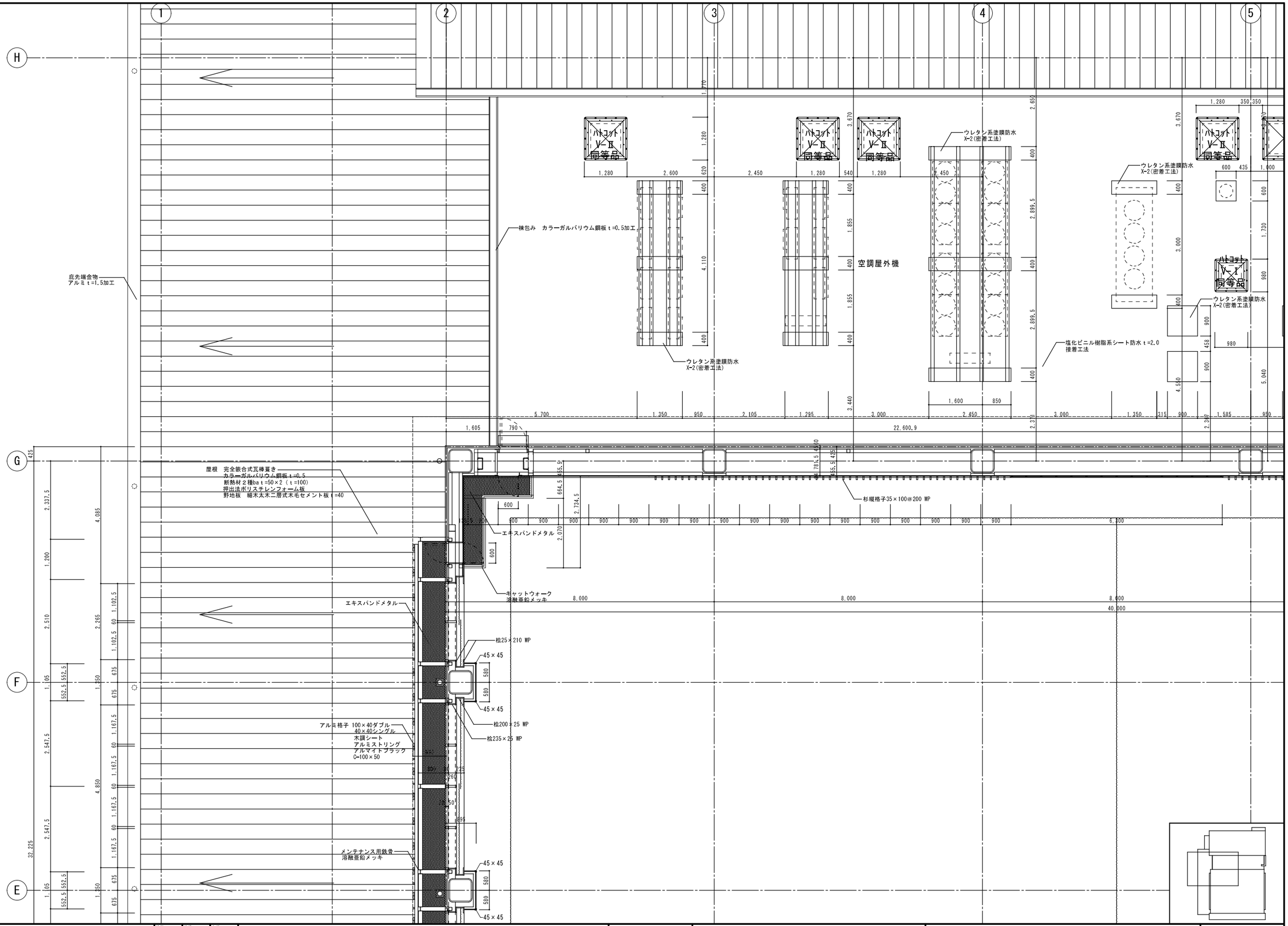
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	所長 大橋	主任 大橋	凡例 ◆ 消火器BOX　床下点検口(600角)　床換気口 200×1000	設計 NO.
	日付 令和7年6月	図面 望月			

工事名	図面名	縮尺	図面 NO.
令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	平面詳細図5	A1：1/100 A3：1/200	A－０２５



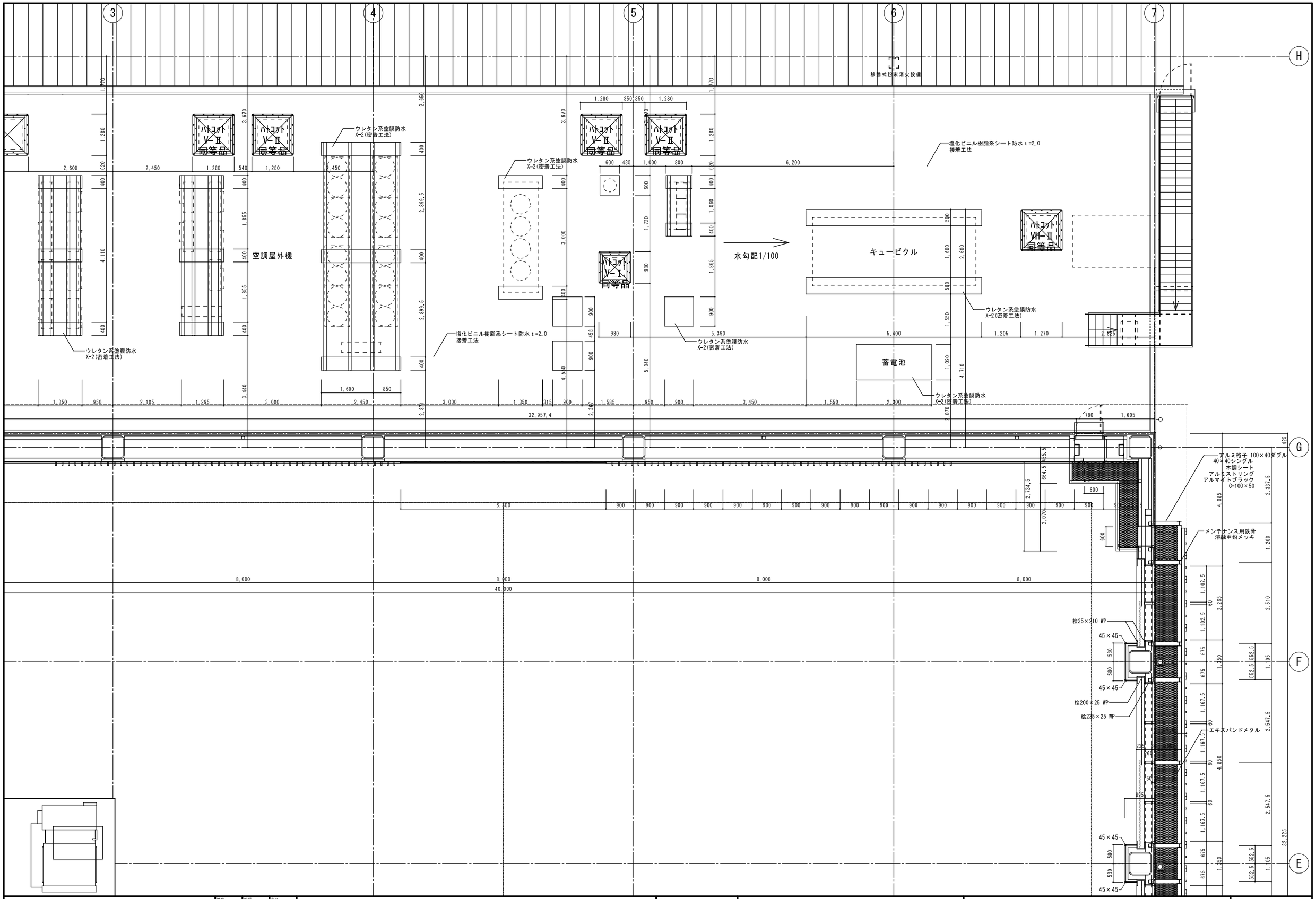
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	凡例 ◆ 消火器BOX　床下点検口(600角)　床換気口 200×1000	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 平面詳細図6
	日付 令和７年６月		製図 望月				縮尺 A1：1/100 A3：1/200

図面NO. A－０２６

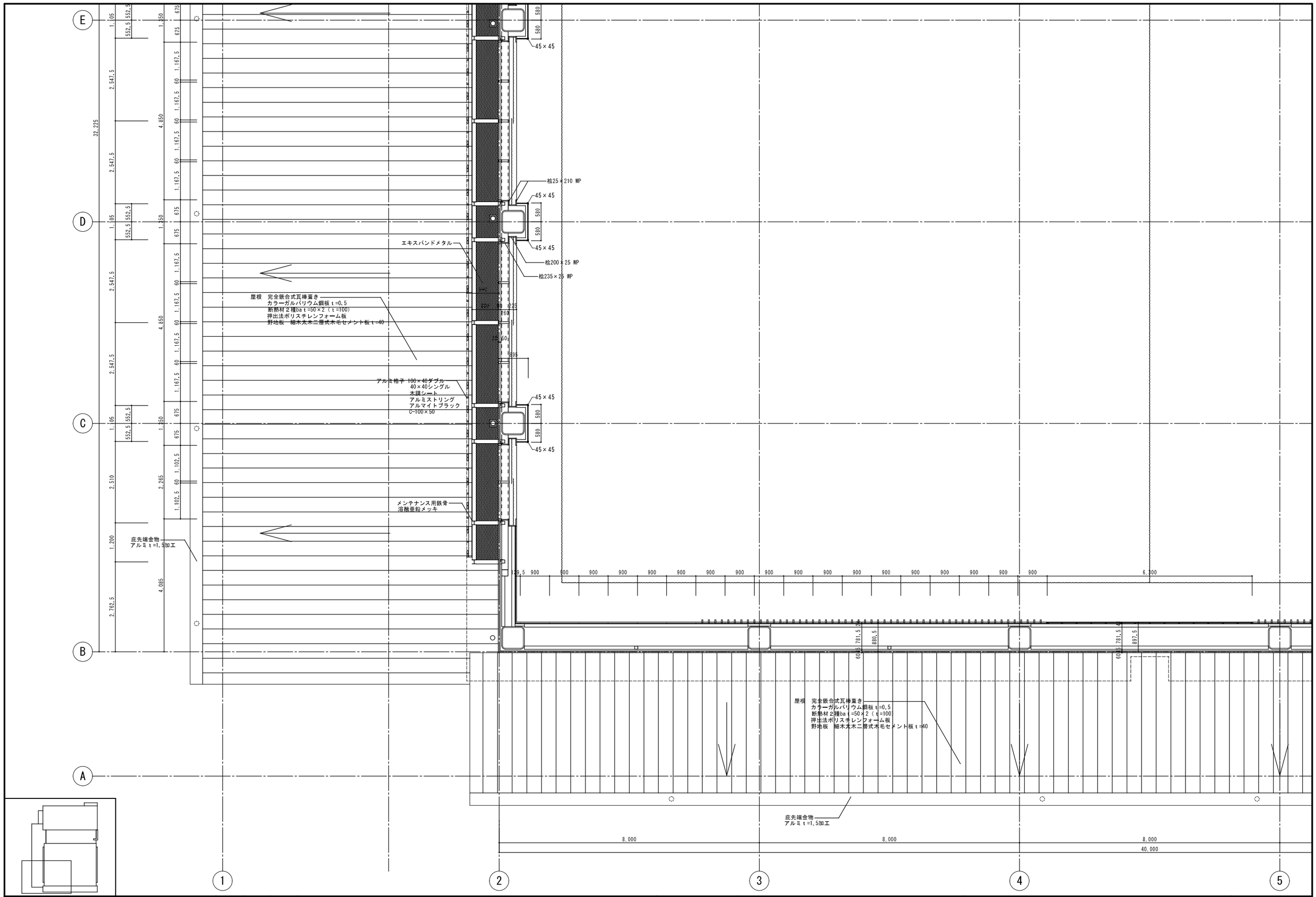


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 平面詳細図7
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/100 A3：1/200

図面 NO. A－０２７

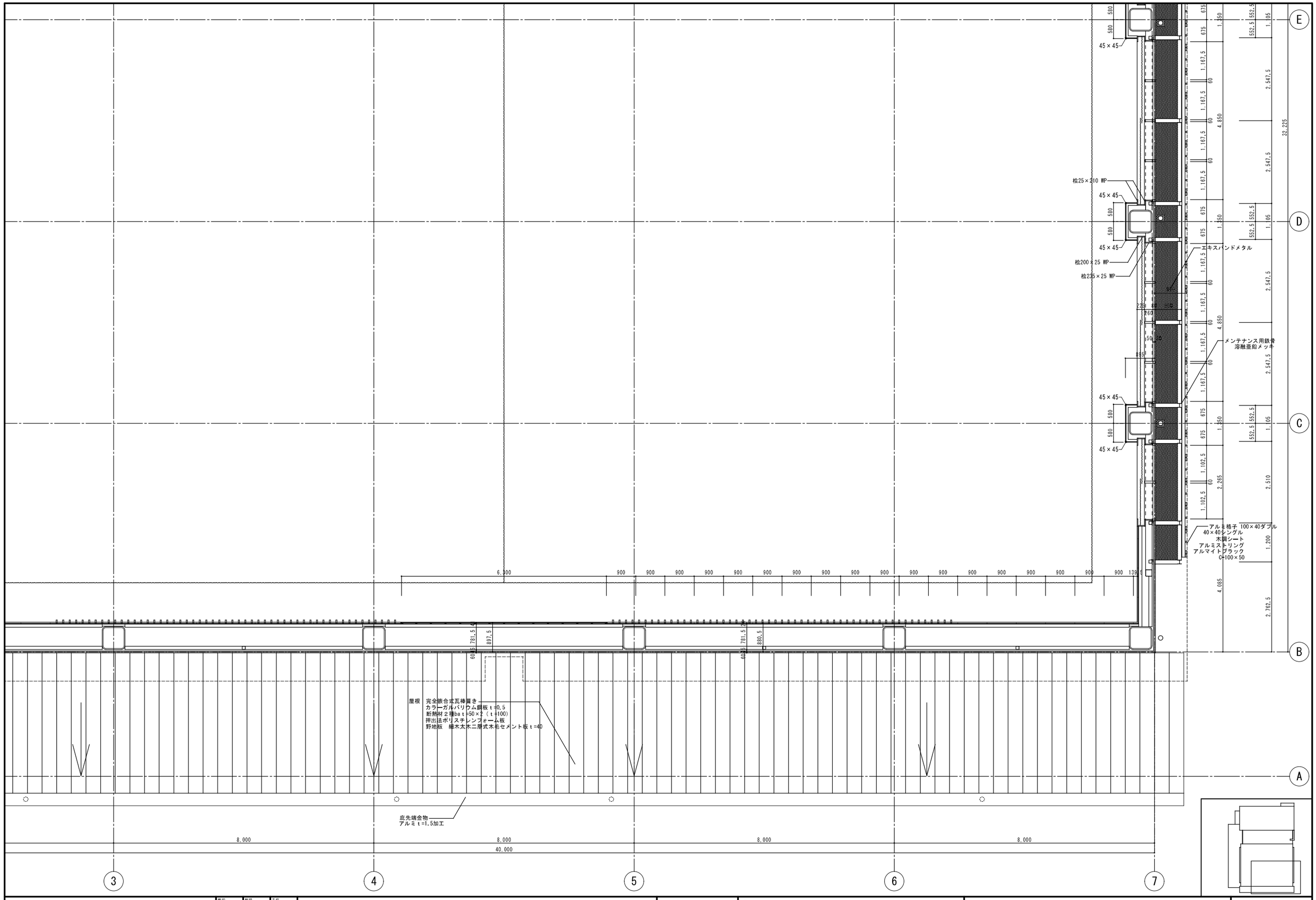


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343622号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 平面詳細図8	縮尺 A1：1/100 A3：1/200
	日付 令和７年６月	製図 望月					図面 NO. A－０２８

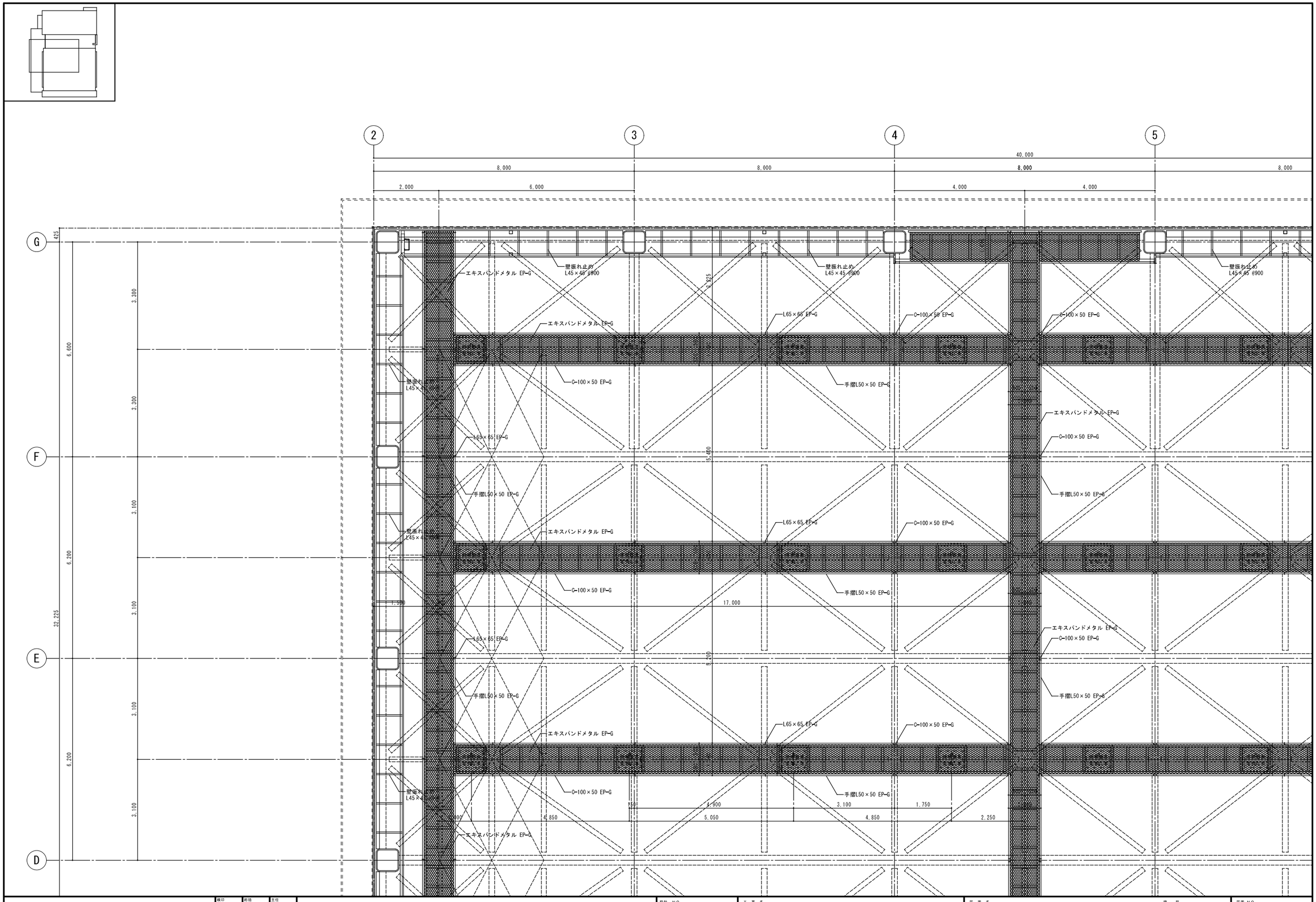


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 平面詳細図9
	日付 令和７年６月	製図 望月				縮尺 A1：1/100 A3：1/200

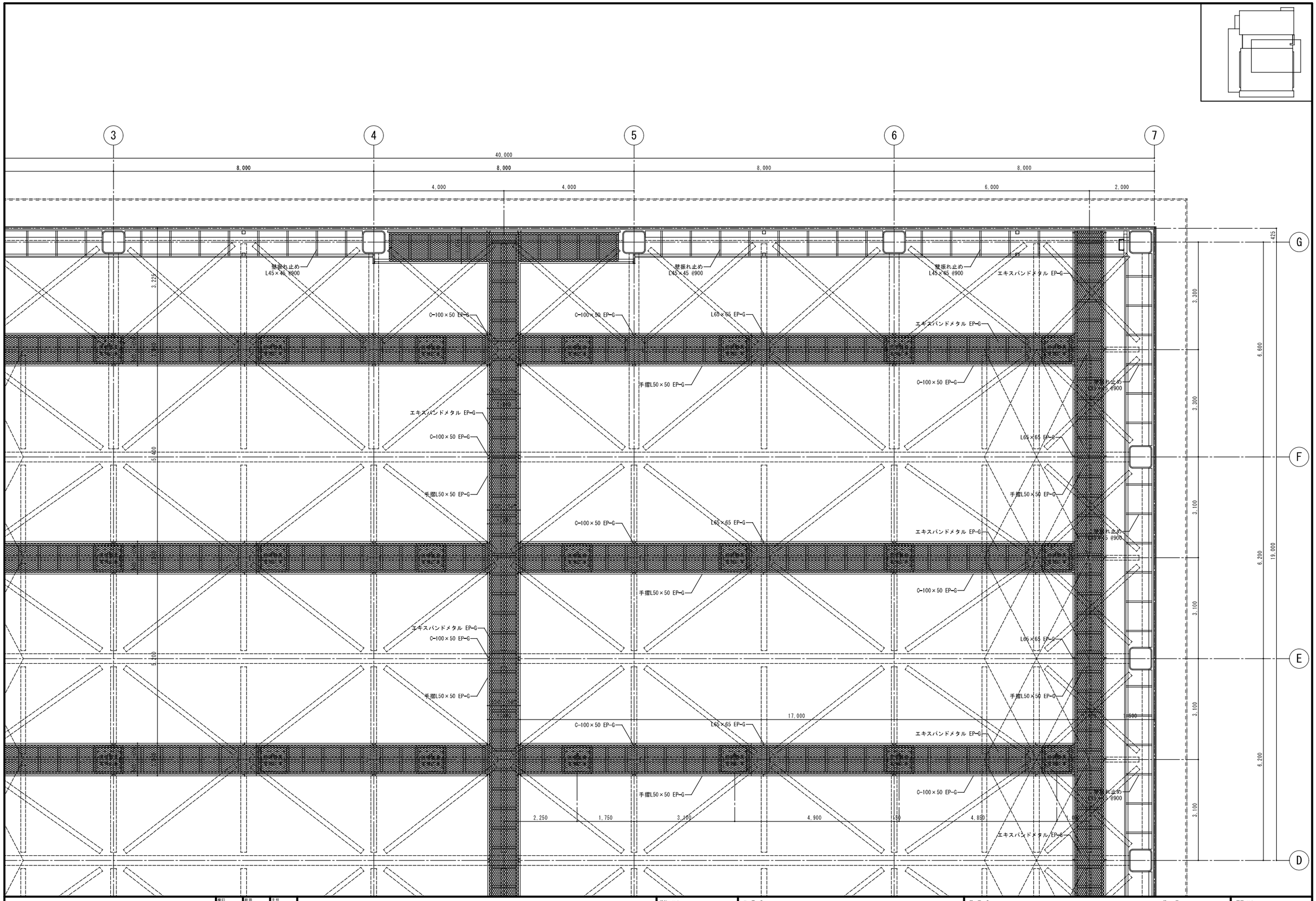
図面 NO. A－０２９



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	照査 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 平面詳細図10	縮尺 A1：1/100 A3：1/200
	日付 令和７年６月		製図 望月				図面NO. A－０３０

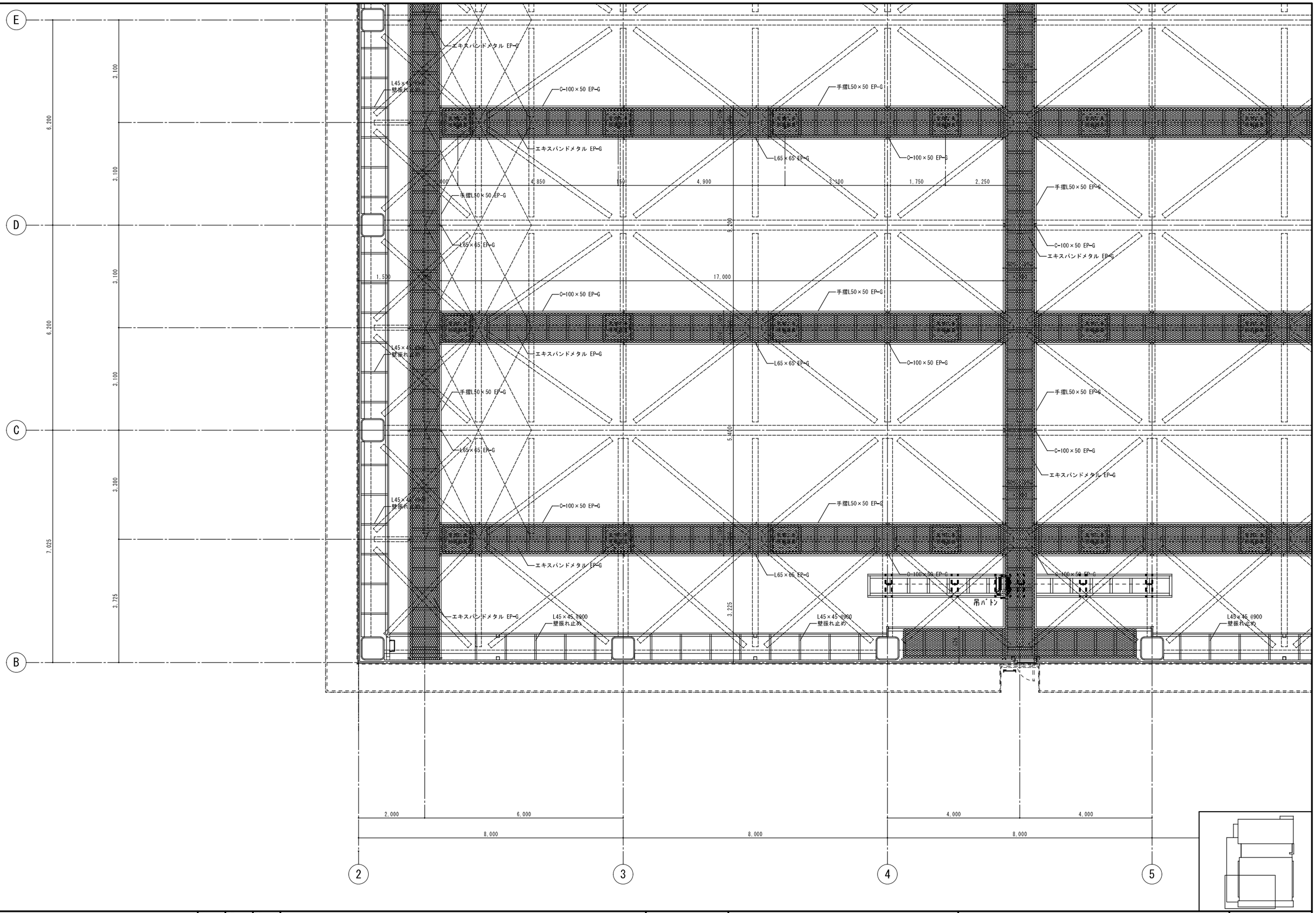


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検図 大橋 日付 令和７年６月	終格 大橋 製図 望月	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 平面詳細図７	縮尺 A1：1/100 A3：1/200	図面 NO. A－０３１



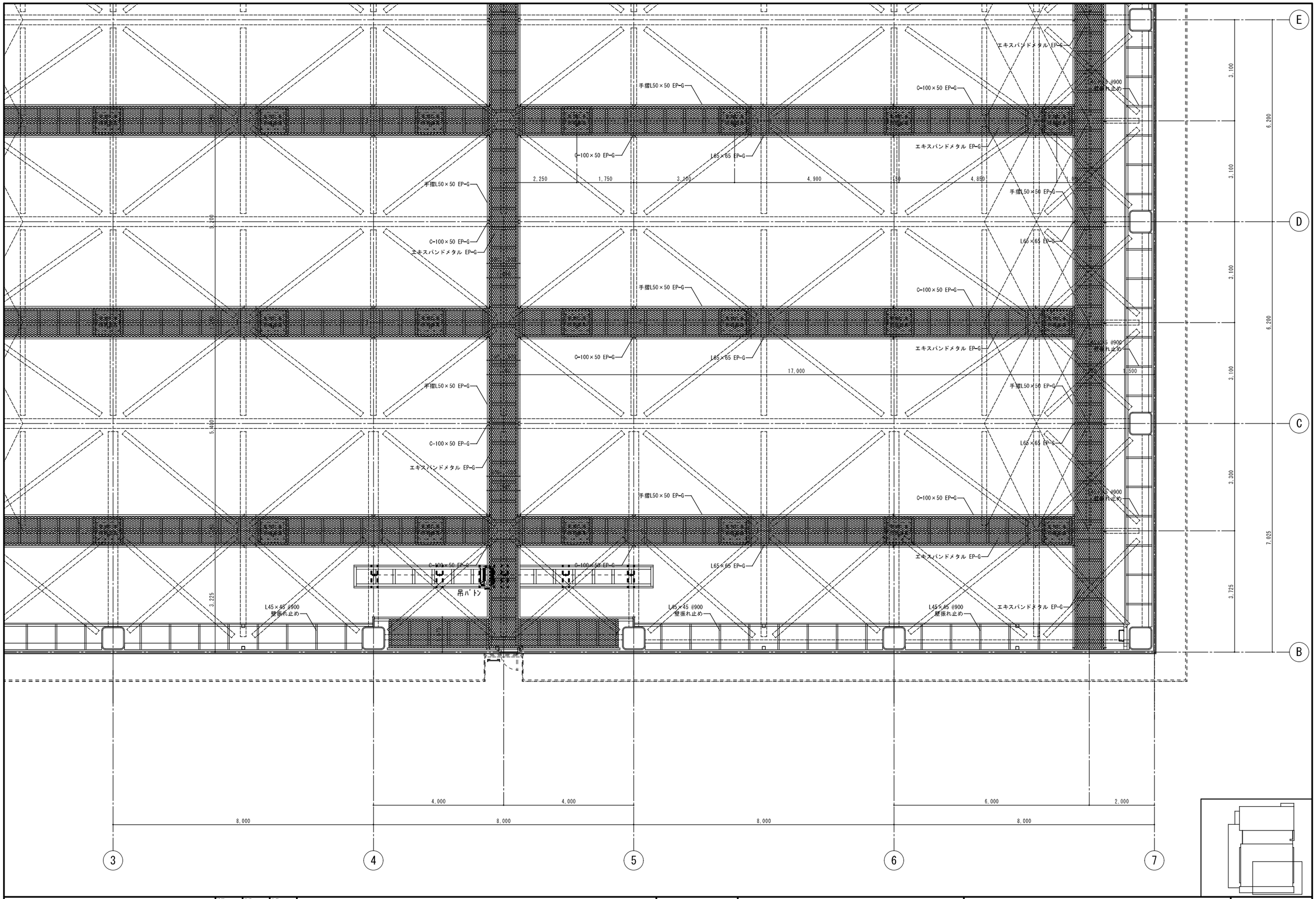
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	設計 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 平面詳細図8
	日付 令和７年６月		状況 望月			縮尺 A1：1/100 A3：1/200

図面 NO. A－０３２

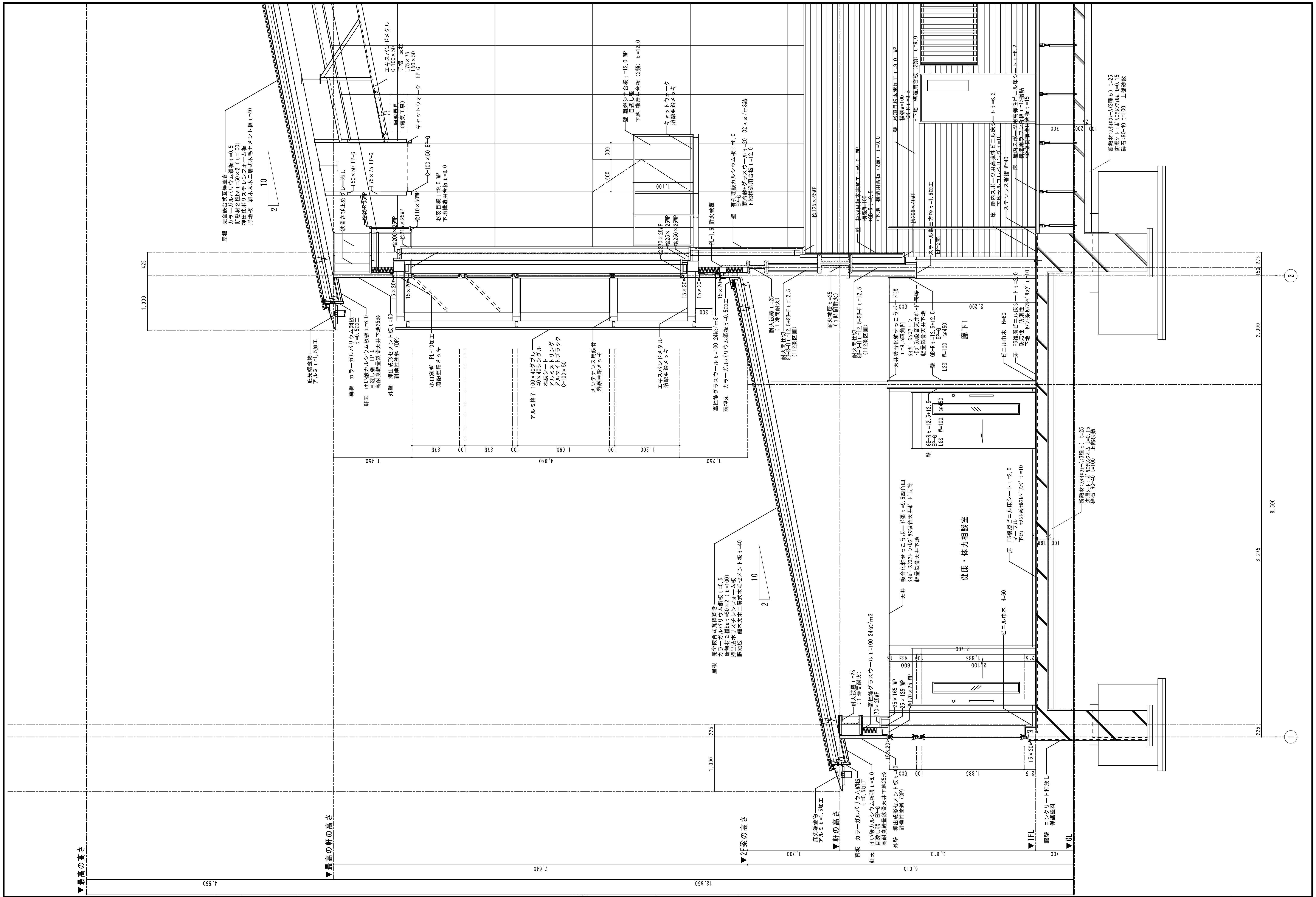


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 平面詳細図9
	日付 令和７年６月	製図 望月				縮尺 A1：1/100 A3：1/200

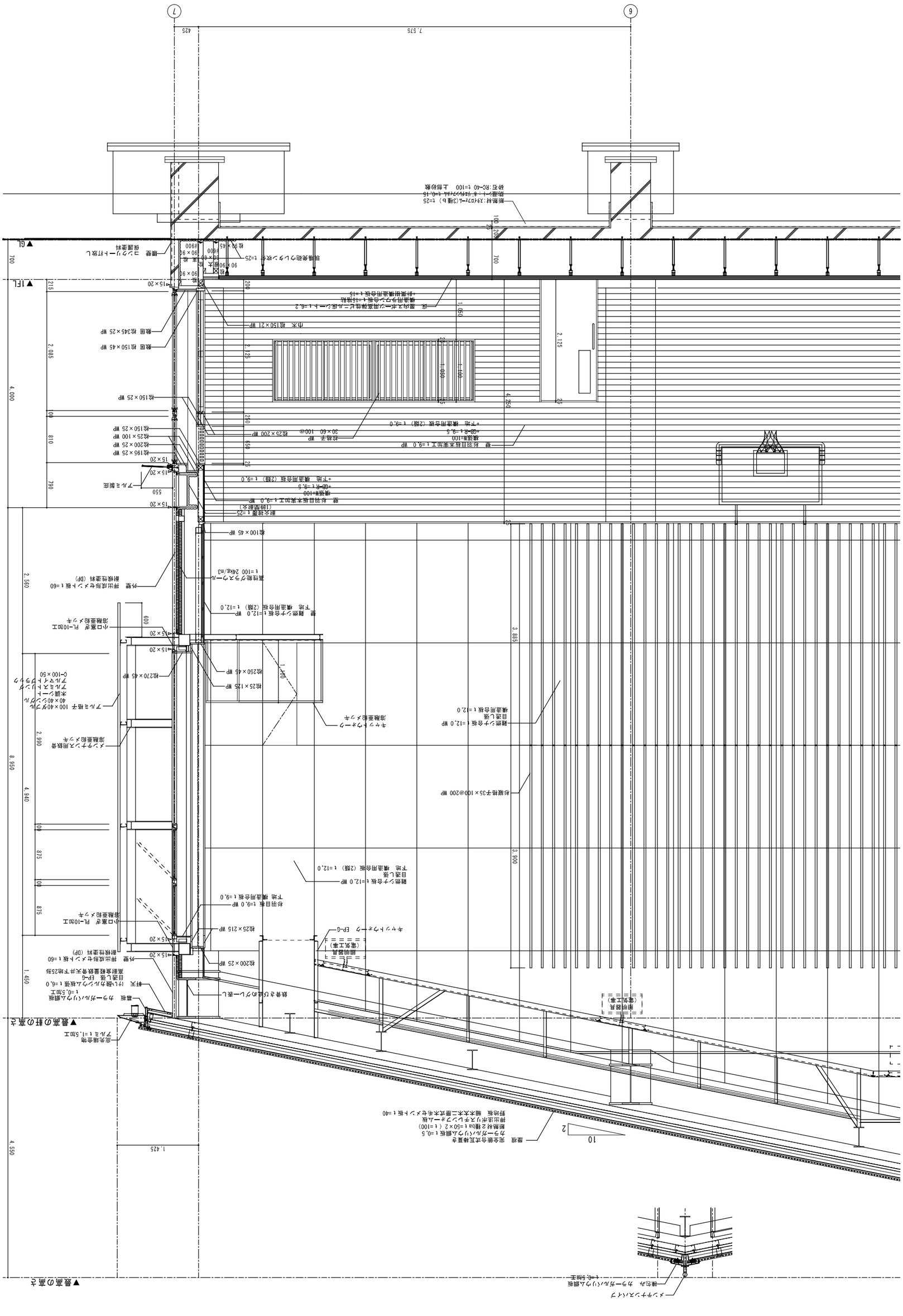
図面 NO. A－０３３



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検図 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 平面詳細図10	縮尺 A1：1/100 A3：1/200
	日付 令和７年６月		対図 望月				図面 NO. A－０３４



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋 / 総括 大橋 / 主任 大橋 日付 令和7年6月 / 製図 望月	設計NO.	工事名 令和7年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 矩計図1	縮尺 A1：1/30 A3：1/60	図面NO. A－035



図面 NO. A－036

縮尺 A1：1/30 A3：1/60

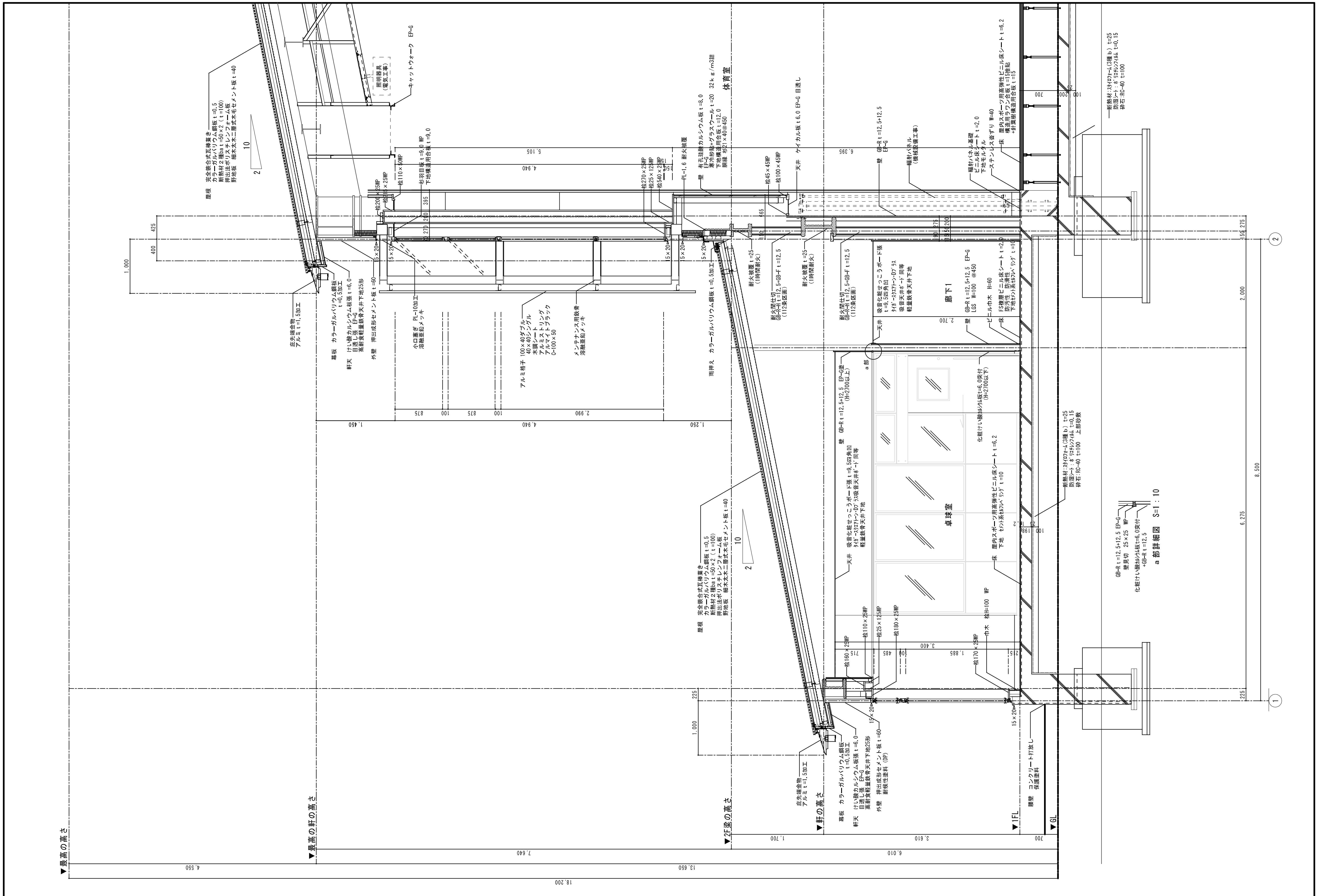
図面名 矩計図2

工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

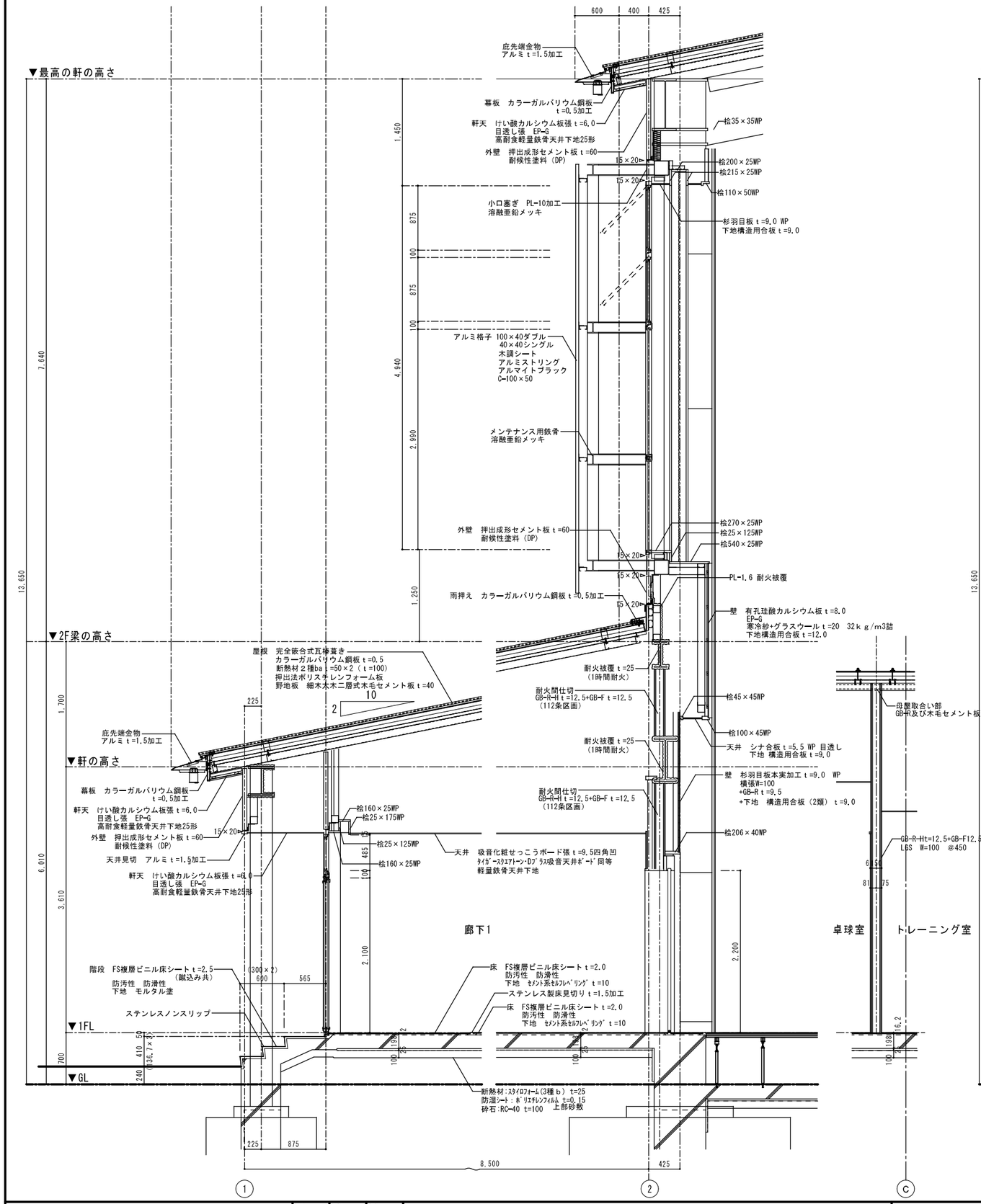
設計 NO.

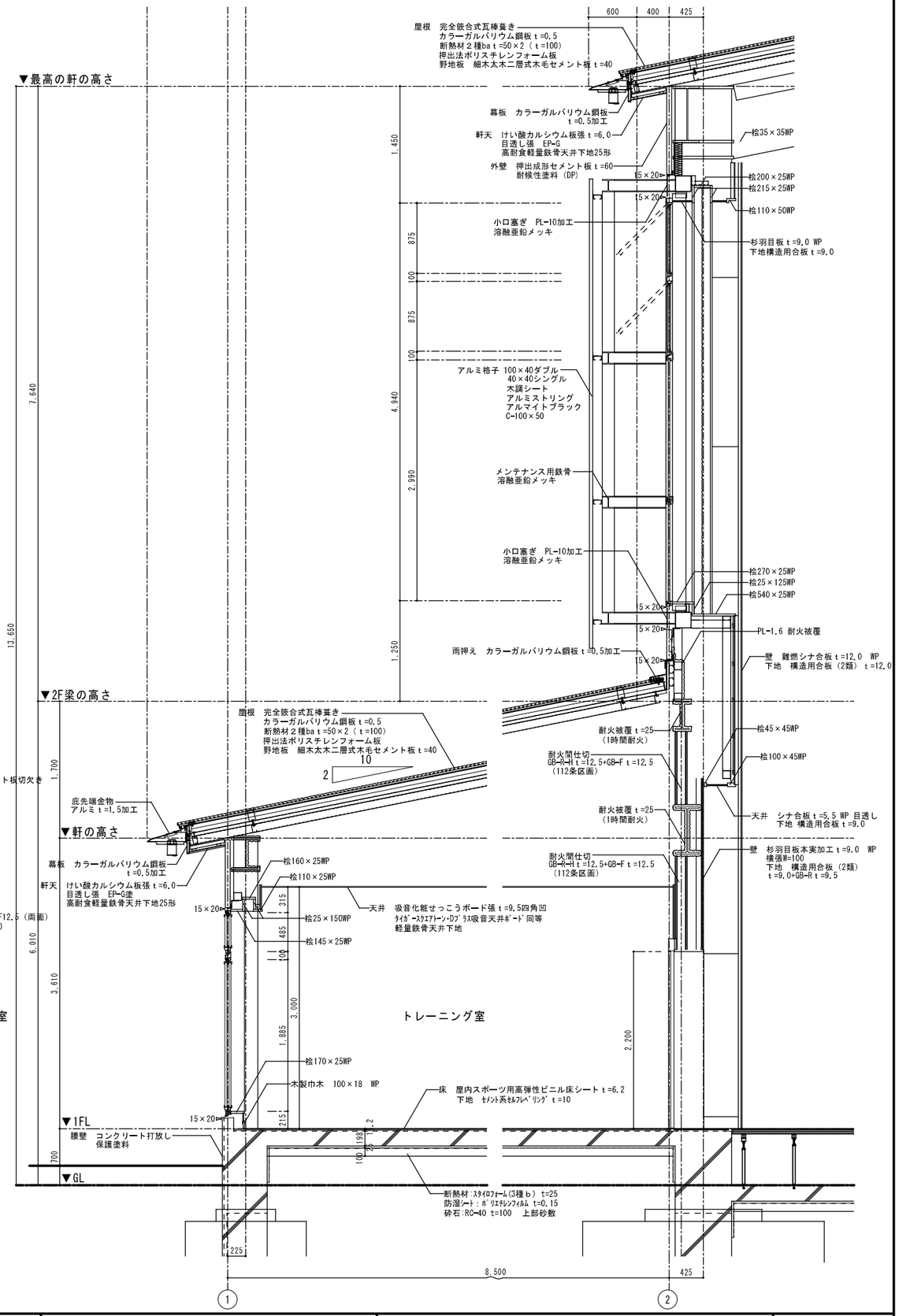
機関	大橋	担当	大橋
日付	令和7年6月	検図	月

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第43617号 大橋康孝



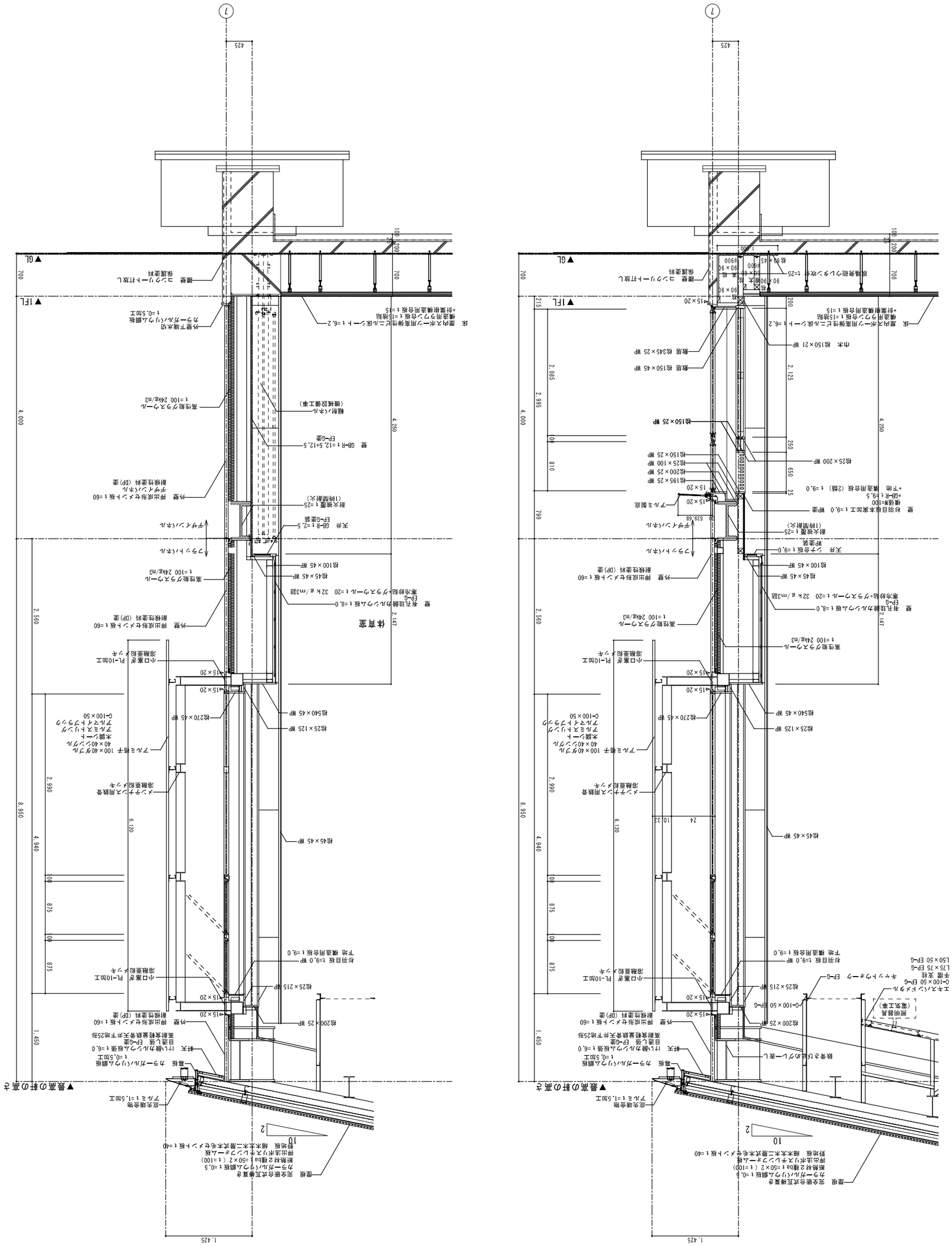
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋 日付 令和7年6月	総括 大橋	主任 大橋 製図 望月	設計 NO.	工事名 令和7年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 矩計図3	縮尺 A1：1/30 A3：1/60	図面NO. A－037

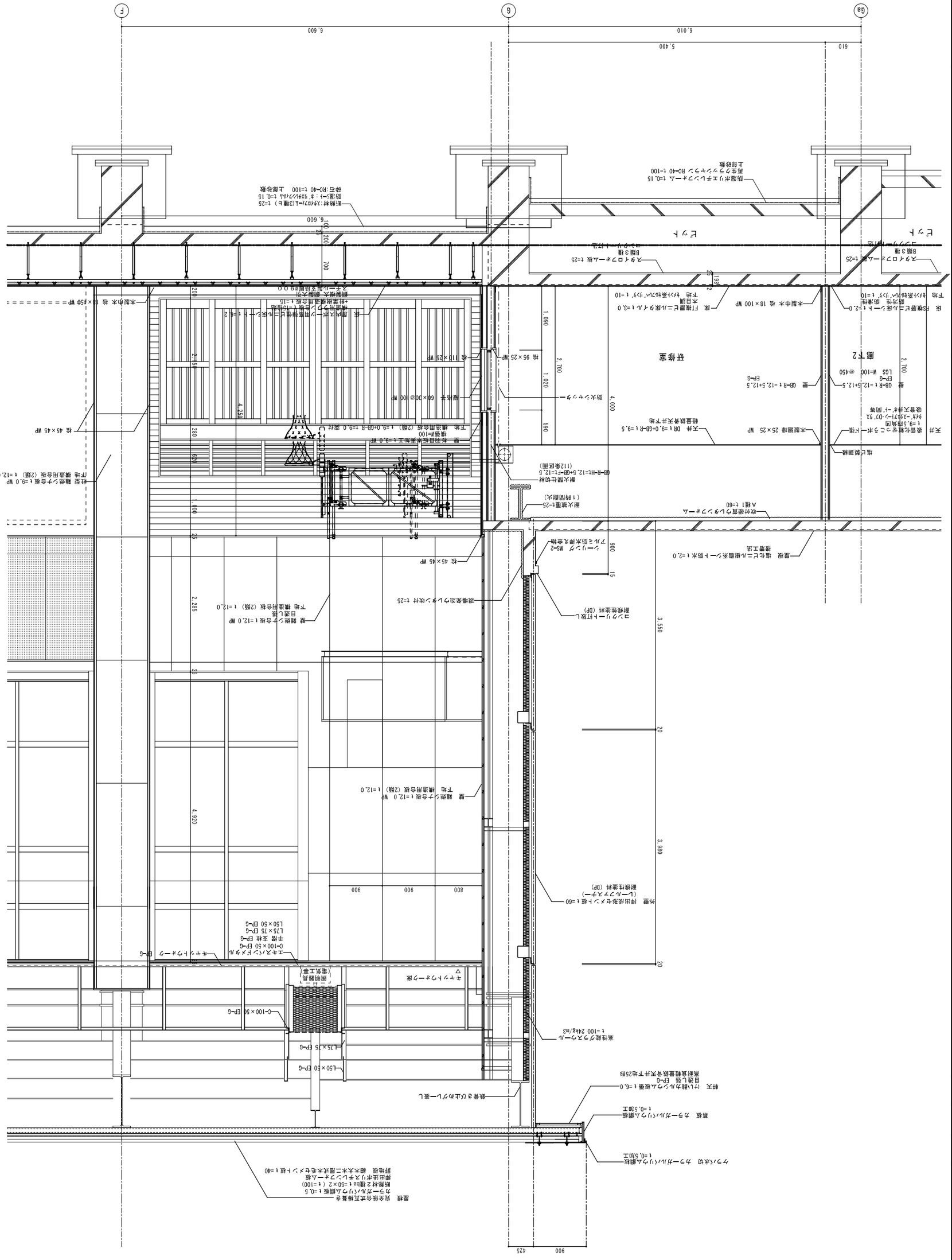




株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	監理 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 短計図4
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/30 A3：1/60

図面 NO. A－038


体育室
▼最高の軒の高さ
▼1FL
▼GL
屋根　完全樹脂含浸瓦棒葺き
カラーガルバリウム鋼板 t=0.5
野地板 2種ba t=50×2 (t=100)
野出法木リブキレンワクオーム板
野地板　風木太木三層式太木モルタル板 t=40
10
2
1.425
425
7

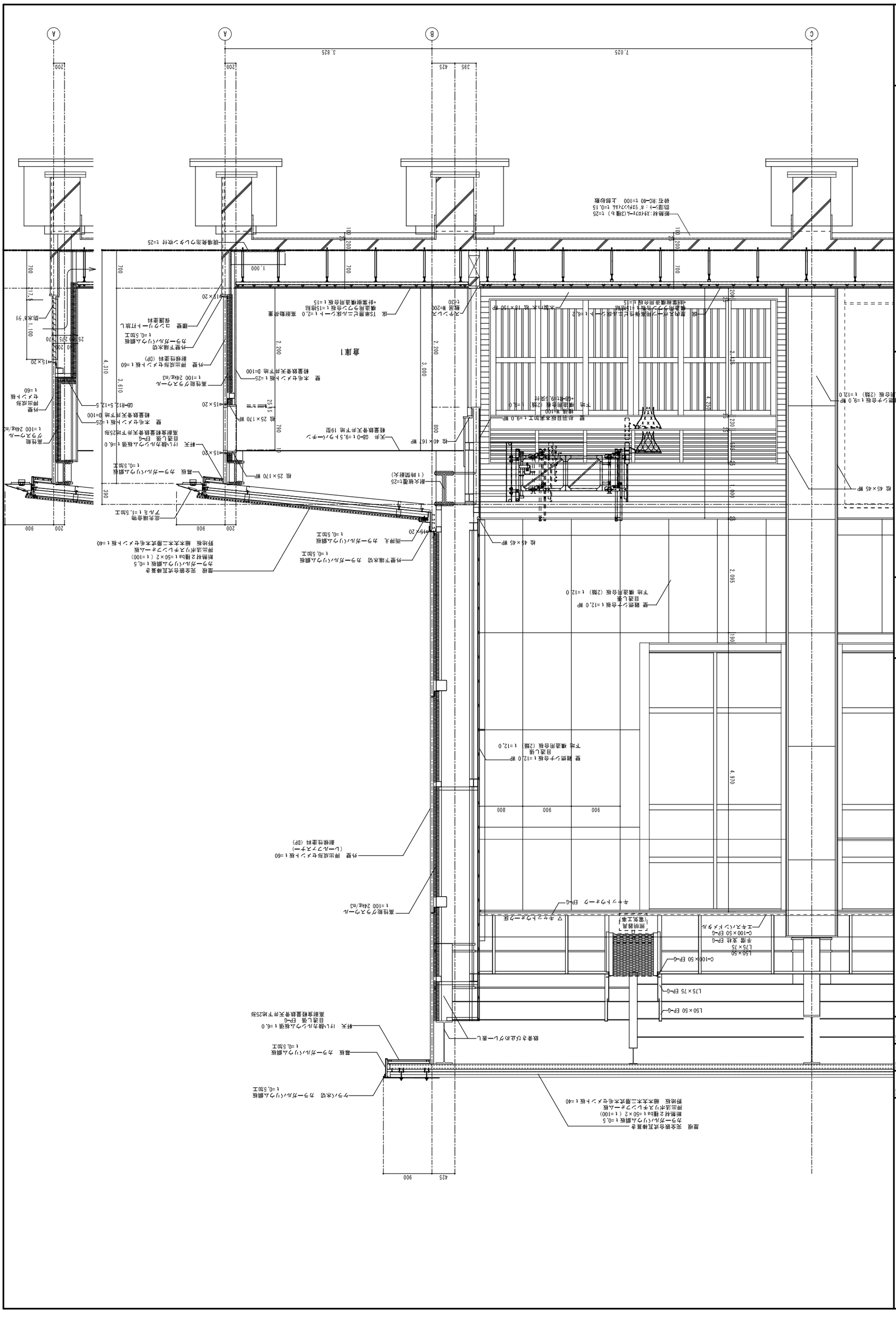


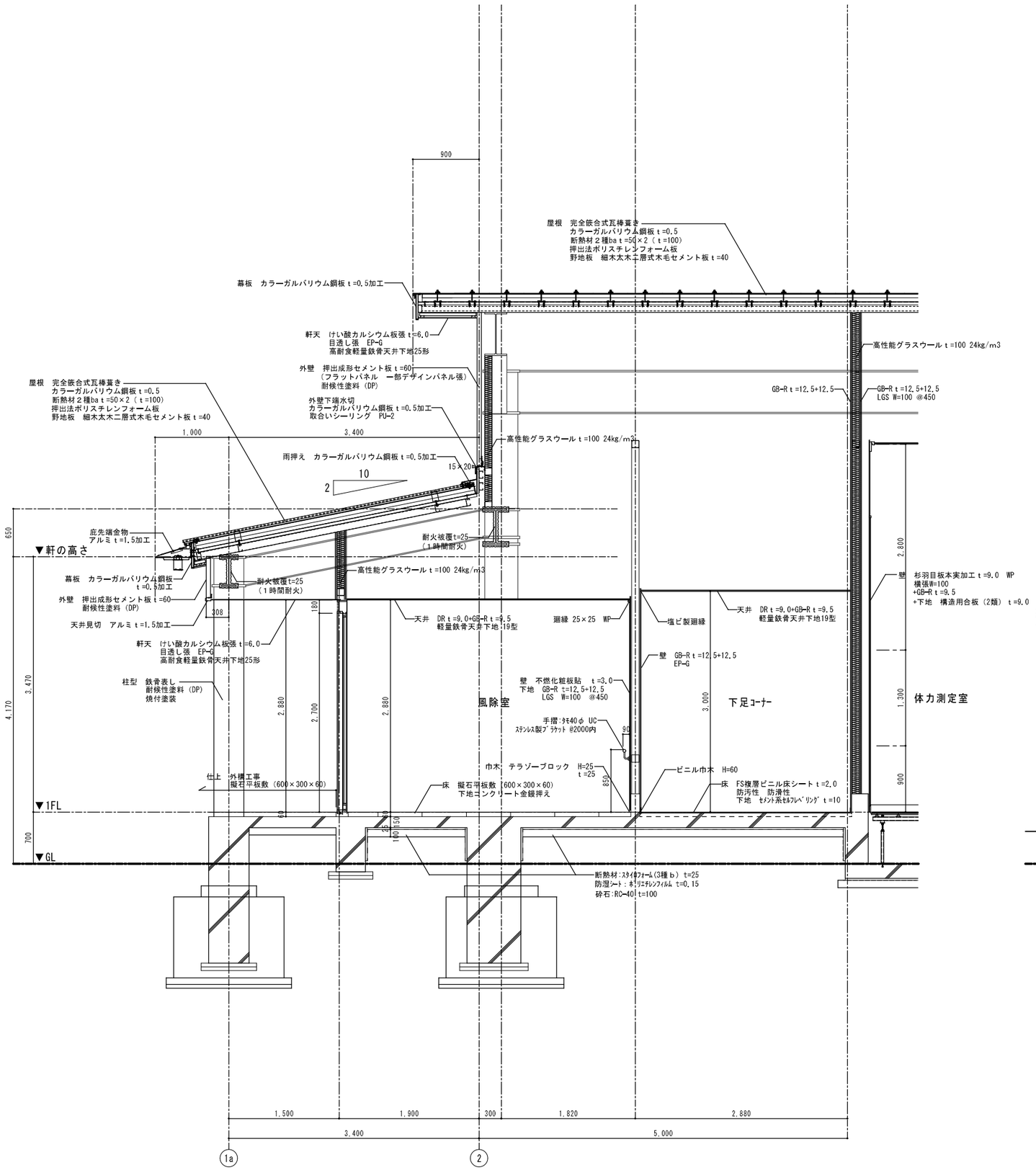
工事名	令和7年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）
図面名	矩計図 6
縮尺	A1：1/30 A3：1/60
図面 NO.	A－040

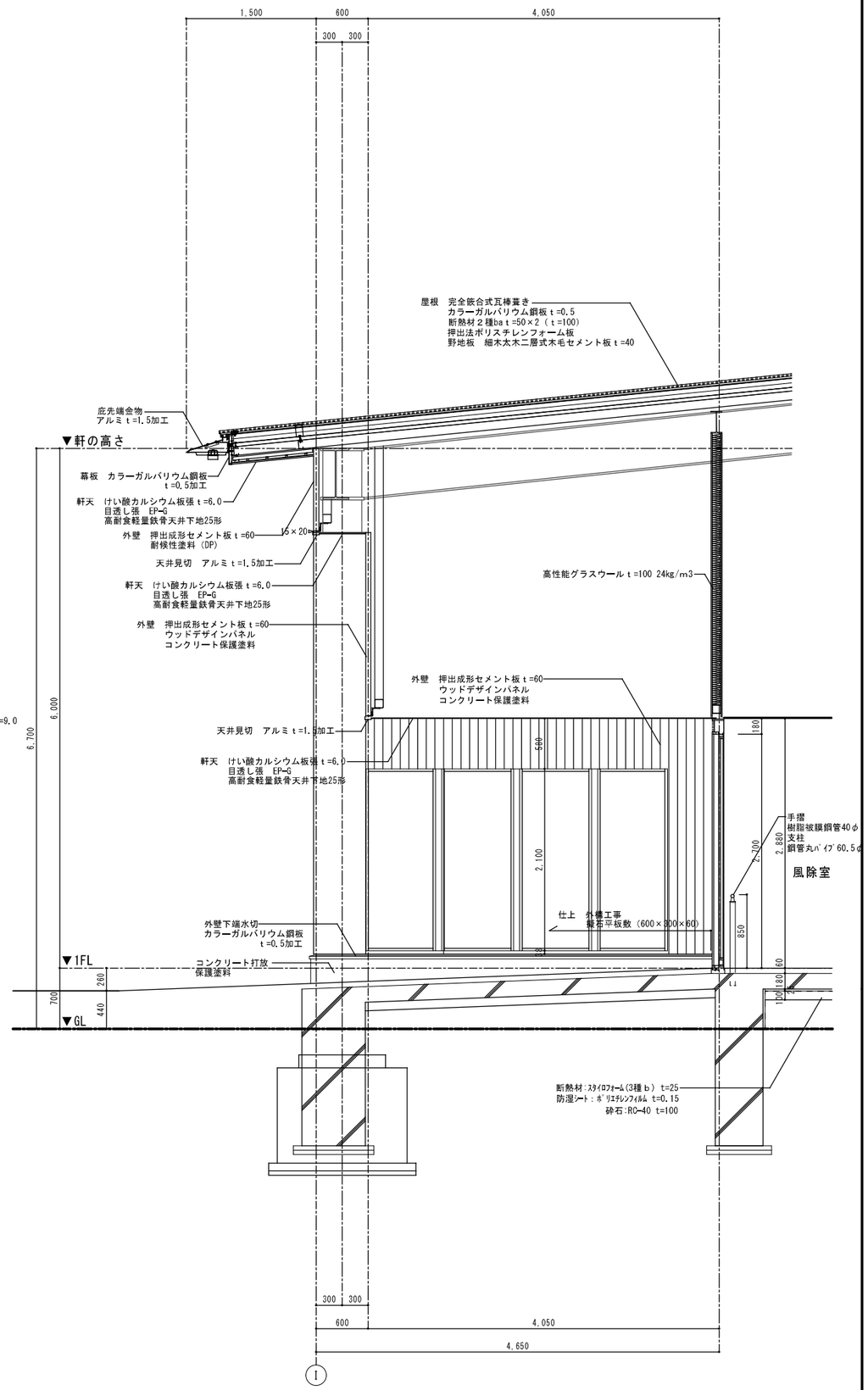
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第34872号　大橋康孝

設計	監理	主任
大橋	大橋	大橋
日付	検図	検図
令和7年6月		望月

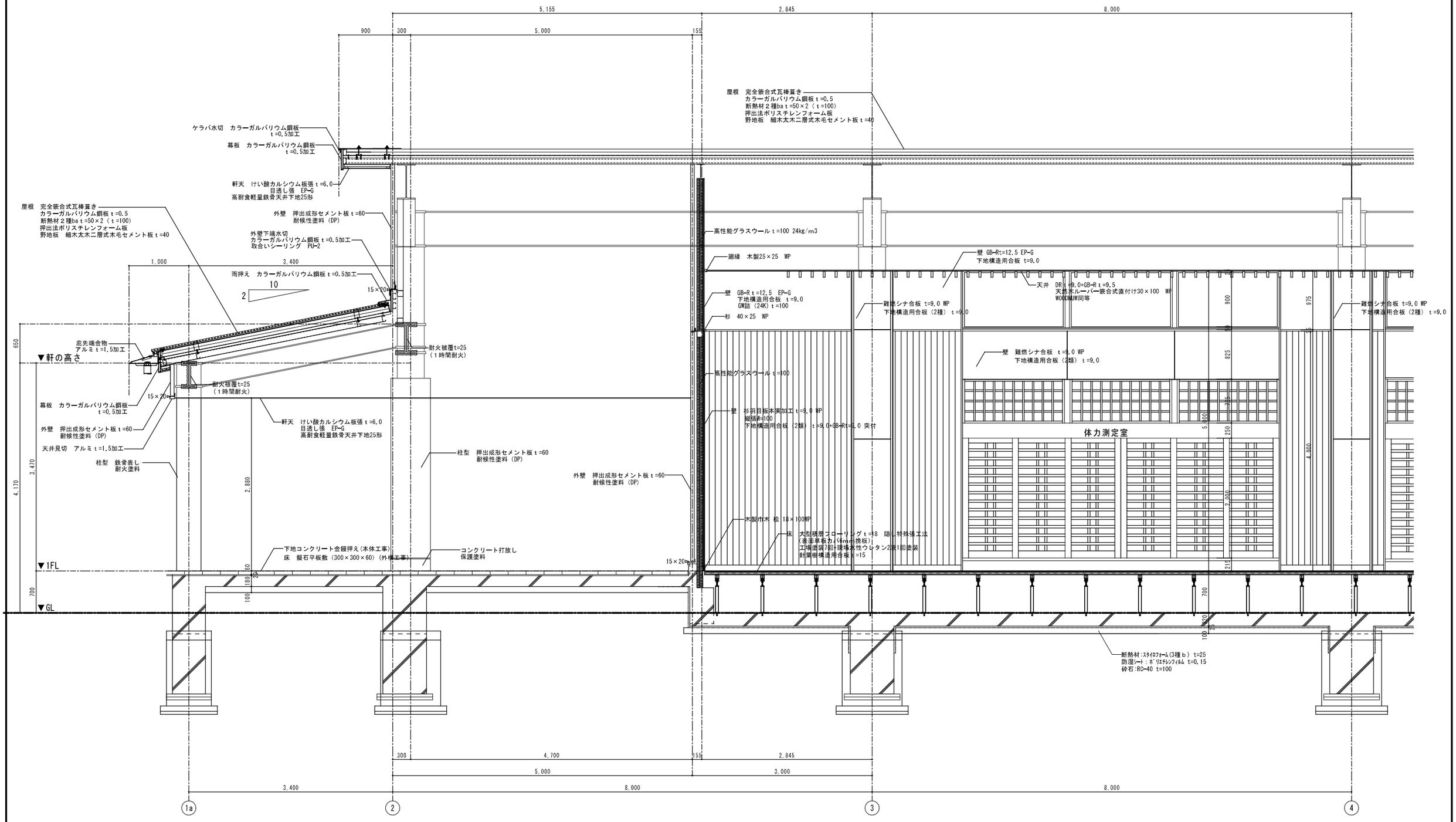
図面 NO.


倉庫1
屋根 完全断合式瓦棒葺き
カラーガルバリウム鋼板 t=0.5
断熱材2種b t=50×2 (t=100)
押出法ポリスチレンフォーム板
野地板 縦木太木二層式木毛セメント板 t=40
ケラバ木切 カラーガルバリウム鋼板
t=0.5加工
軒天 けい酸カルシウム板張 t=6.0
目透し張 EP-G
高耐久軽量鉄骨天井下地25形
鉄骨さび止めクレー塗し
幕板 カラーガルバリウム鋼板
t=0.5加工
L50×50 EP-G
L75×75 EP-G
C-100×50 EP-G
L50×50
L75×75
手摺 笠柱 EP-G
C-100×50 EP-G
ヒキスバシドスタル
「照明器具」
(電気工事)
マキシドウォーク EP-G
キャットウォーク EP-G
高性能グラスウール
t=100 24kg/m3
外壁 押出成形セメント板 t=60
(レーヨンスタッコ)
耐候性塗料 (DP)
900 900 800
4,970
豊 鋼製シャッター板 t=12.0 MP
目透し張
下地 構造用合板 (2類) t=12.0
425 900
屋根 完全断合式瓦棒葺き
カラーガルバリウム鋼板 t=0.5
断熱材2種b t=50×2 (t=100)
押出法ポリスチレンフォーム板
野地板 縦木太木二層式木毛セメント板 t=40
外壁下端水切 カラーガルバリウム鋼板
t=0.5加工
雨押え カラーガルバリウム鋼板
t=0.5加工
アルミ t=1.5加工
鉄骨端金物
軒天 けい酸カルシウム板張 t=6.0
目透し張 EP-G
高耐久軽量鉄骨天井下地25形
木毛セメント板 t=25
豊 木毛セメント板 t=25
軽量鉄骨天井下地 D=100
外壁 押出成形セメント板 t=60
耐候性塗料 (DP)
外壁下端水切
カラーガルバリウム鋼板
t=0.5加工
鋼製 (2類) t=12.0
豊 鋼製シャッター板 t=9.0 MP
豊 鋼製シャッター板 t=12.0 MP
下地 構造用合板 (2類) t=9.0
+GB-R12.5×2.5
GB-R12.5+12.5
外壁 押出成形セメント板 t=60
耐候性塗料 (DP)
外壁下端水切
カラーガルバリウム鋼板
t=0.5加工
屋根 完全断合式瓦棒葺き
カラーガルバリウム鋼板 t=0.5
断熱材2種b t=50×2 (t=100)
押出法ポリスチレンフォーム板
野地板 縦木太木二層式木毛セメント板 t=40
現場発泡ウレタン吹付 t=25
防湿シート:ポリエチレンフィルム t=0.15
砕石:RC-40 t=100 上部砂敷
7,025
3,825
395 425
200 200
A1:1/30
A3:1/60
A-041
矩計図7
令和7年度 焼津体育館建設工事(建築工事(建築工事負担)
高橋茂弥建築設計事務所
大橋 孝
大橋 康
大橋 望
令和7年6月

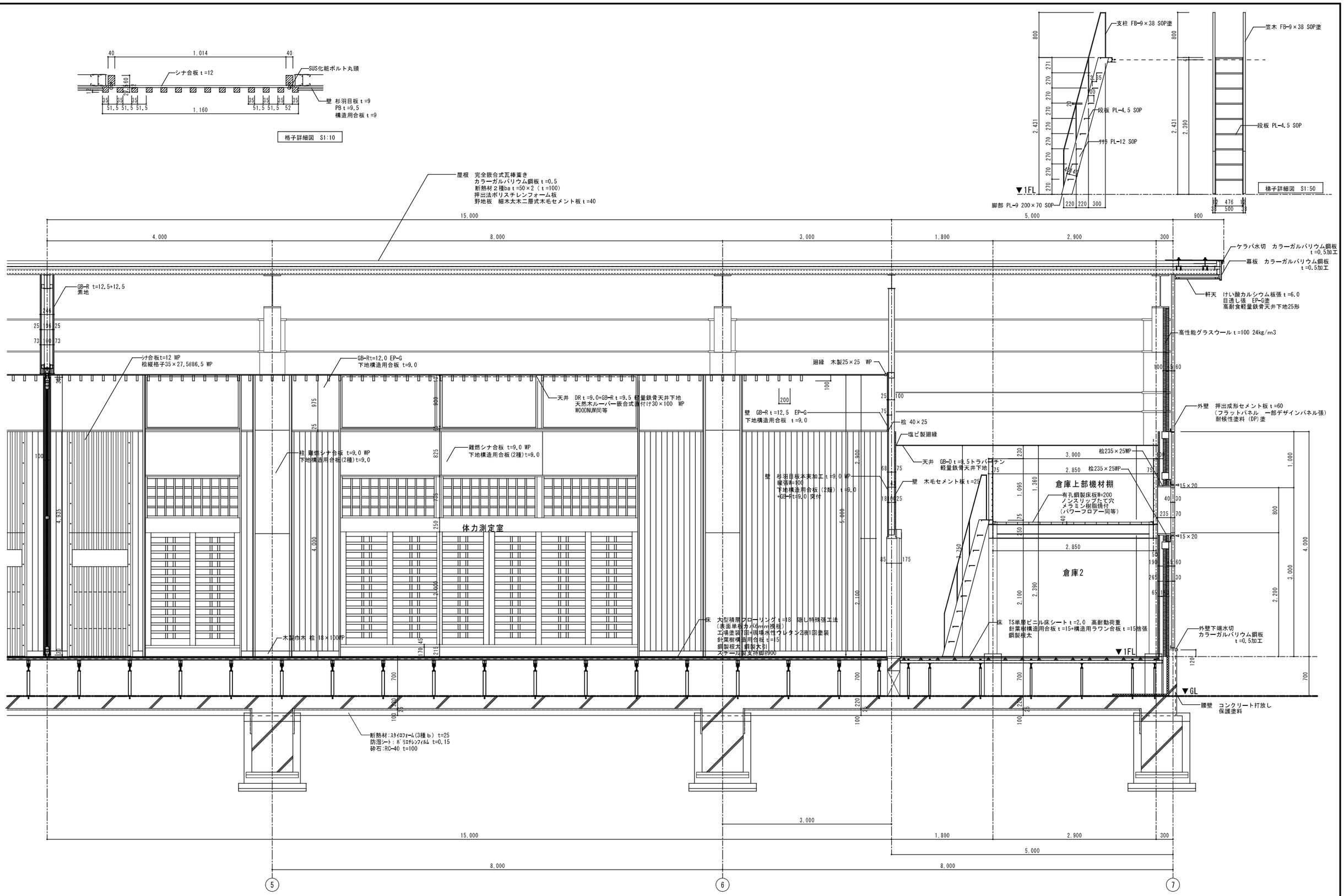




株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	製図 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名　令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）
	日付 令和７年６月	製図 望月			図面名　矩計図８　縮尺 A1：1/30 A3：1/60　図面NO. A－０４２

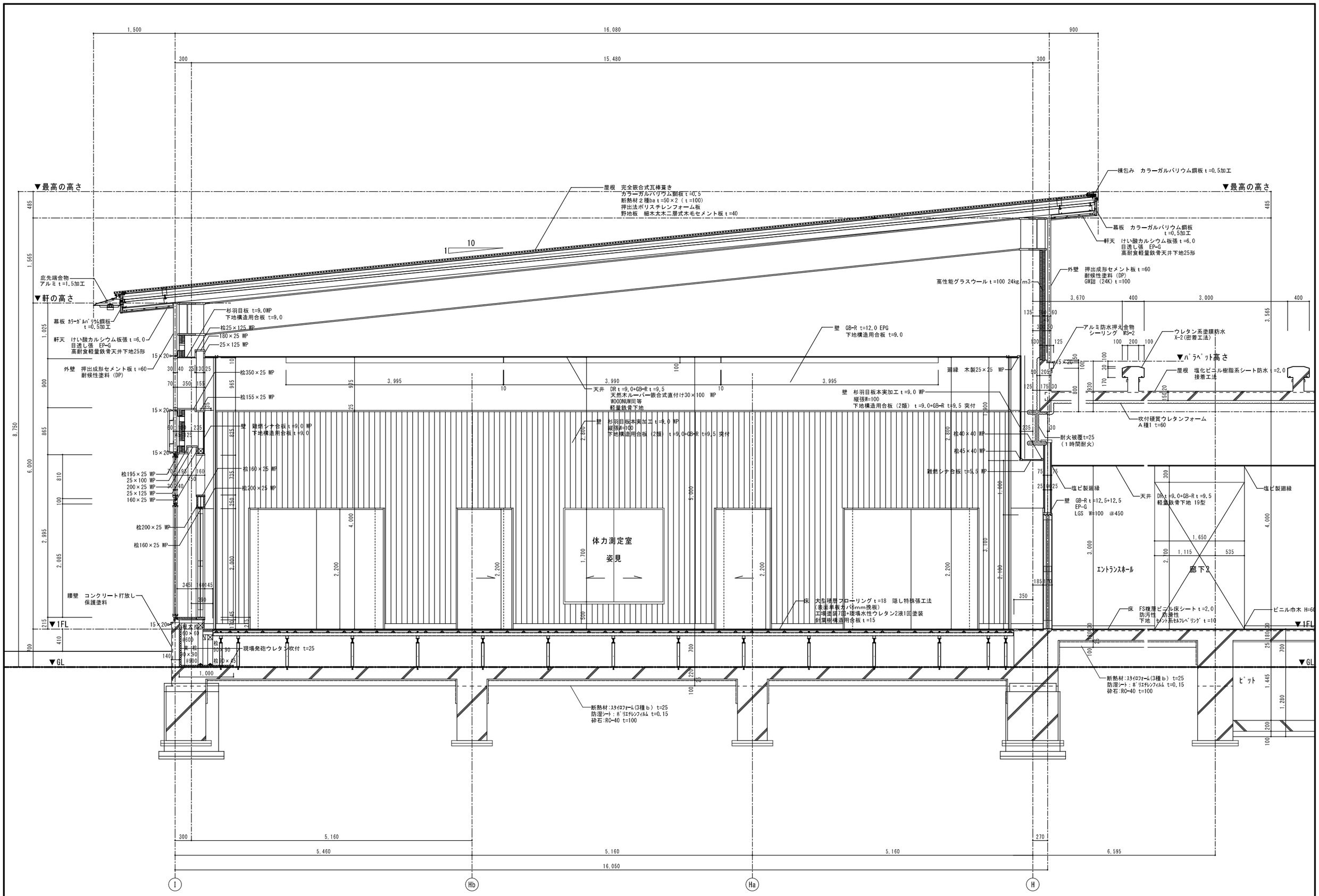


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 矩計図９	図面NO. A－０４３
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/30 A3：1/60	

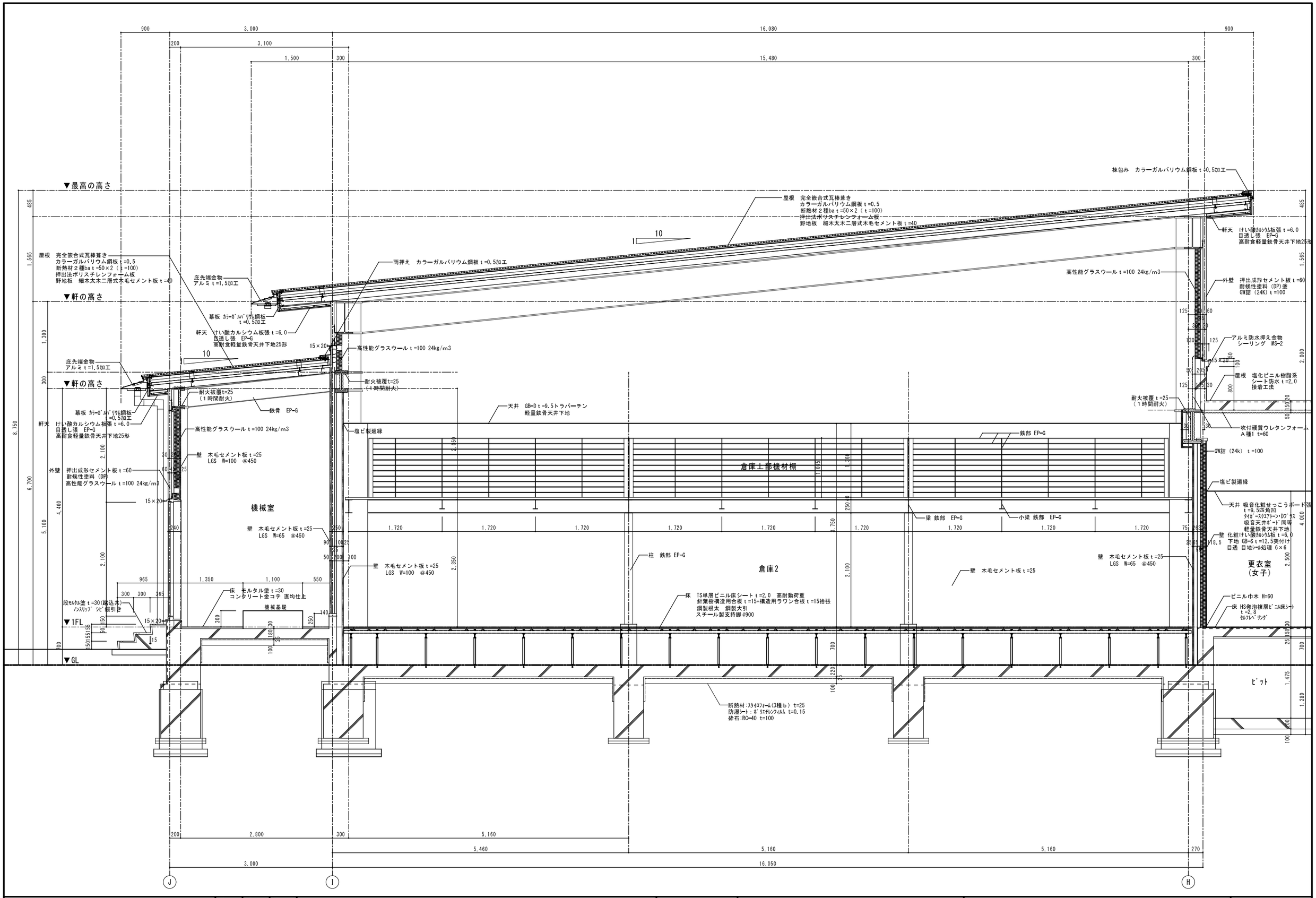


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	部長 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 矩計図10
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/30 A3：1/60

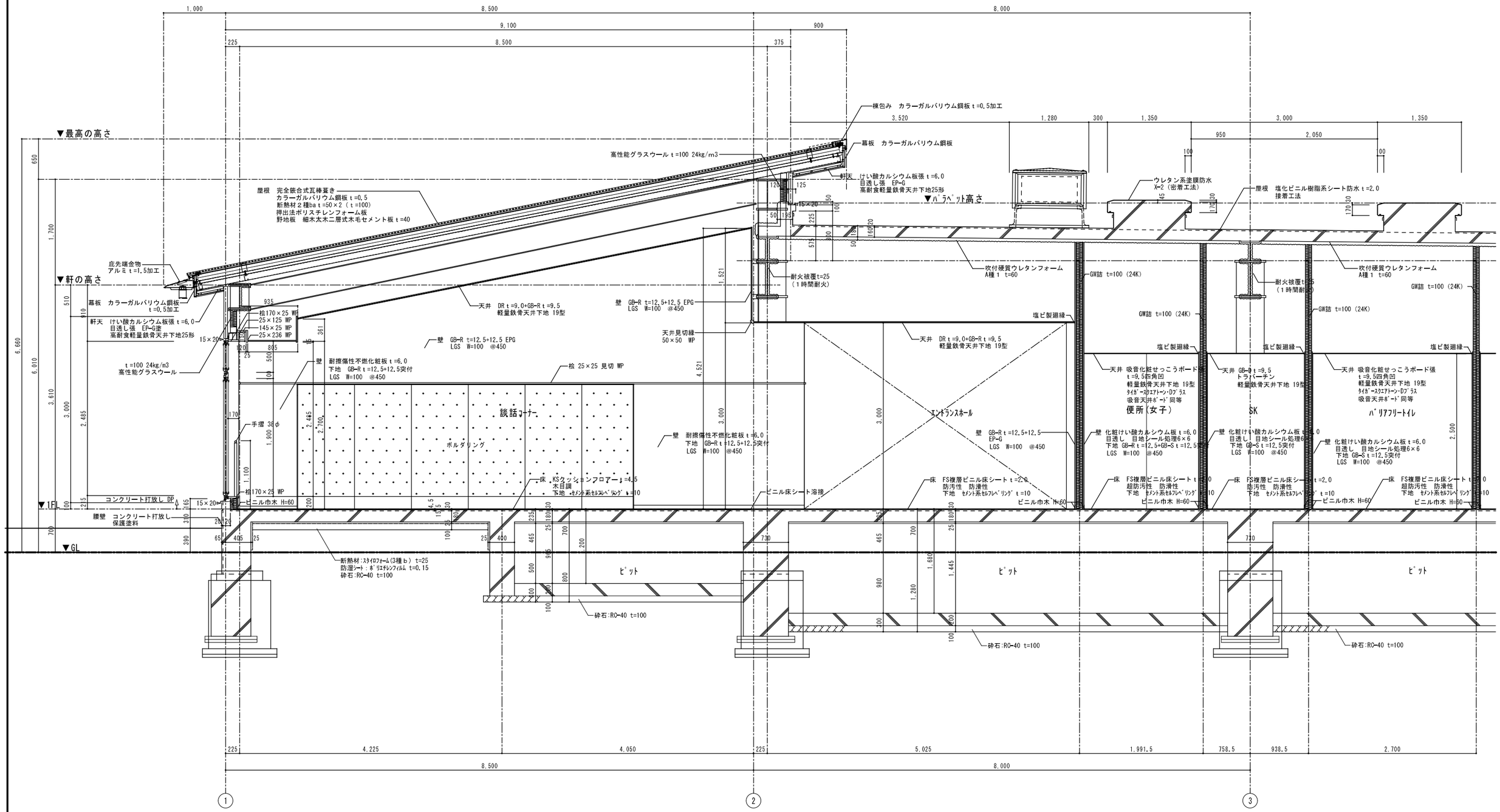
図面 NO. A－044



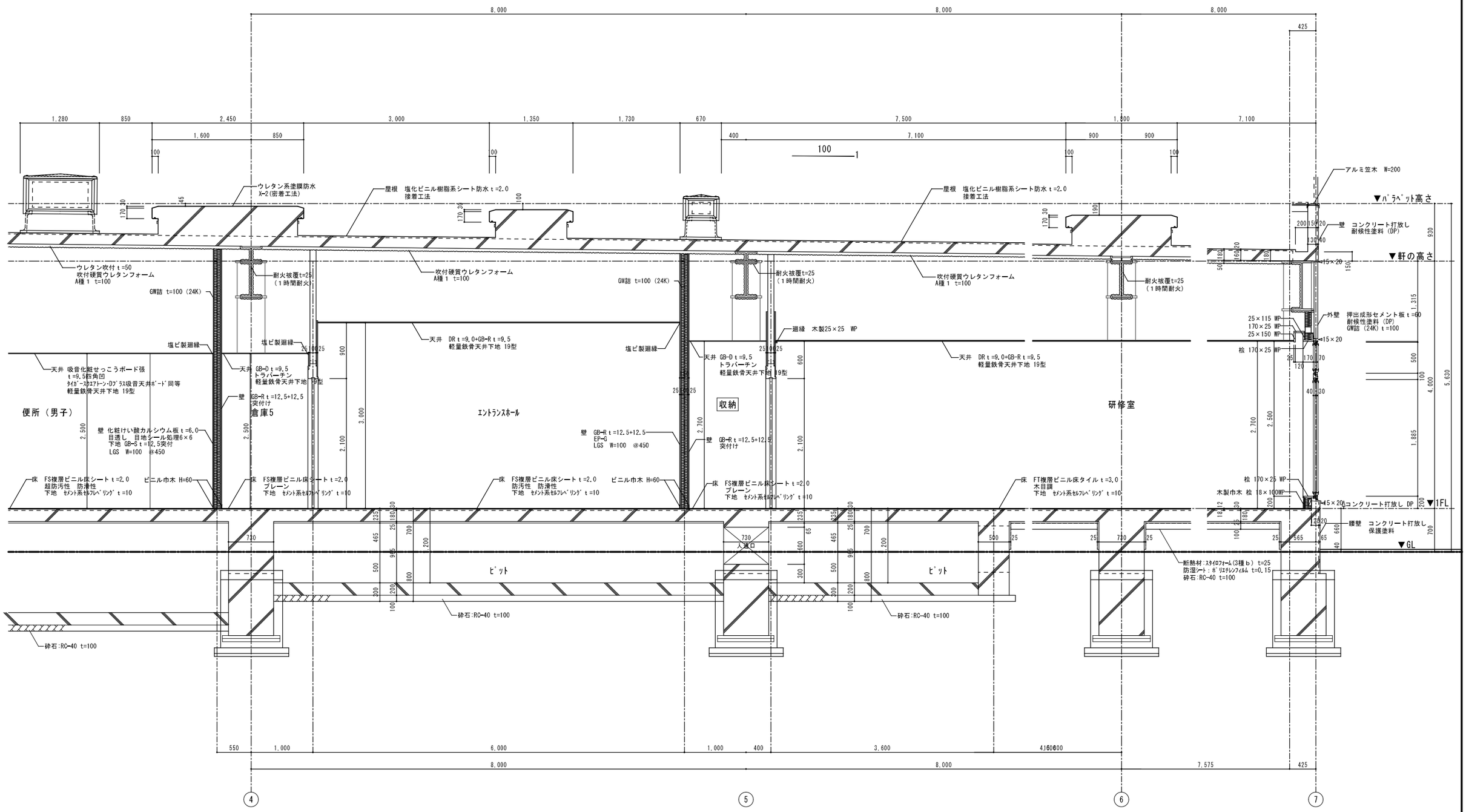
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋 / 組長 大橋 / 主任 大橋 日付 令和７年６月 / 製図 望月	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）
図面名 矩計図１１	縮尺 A1：1/30　A3：1/60	図面 NO. A－０４５	



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和7年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 矩計図12	縮尺 A1:1/30 A3:1/60
	日付 令和7年6月	設図 望月					図面NO. A－046

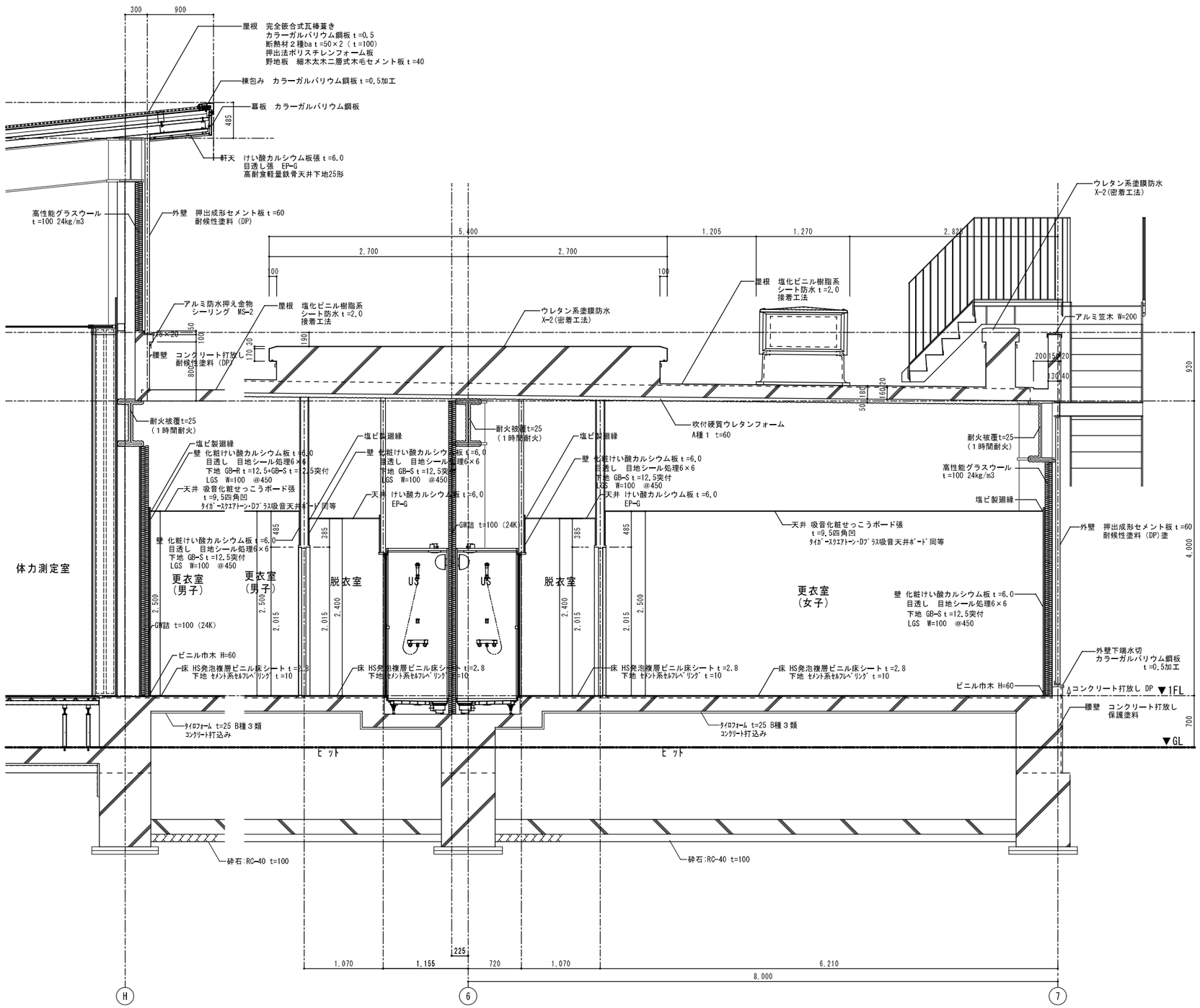


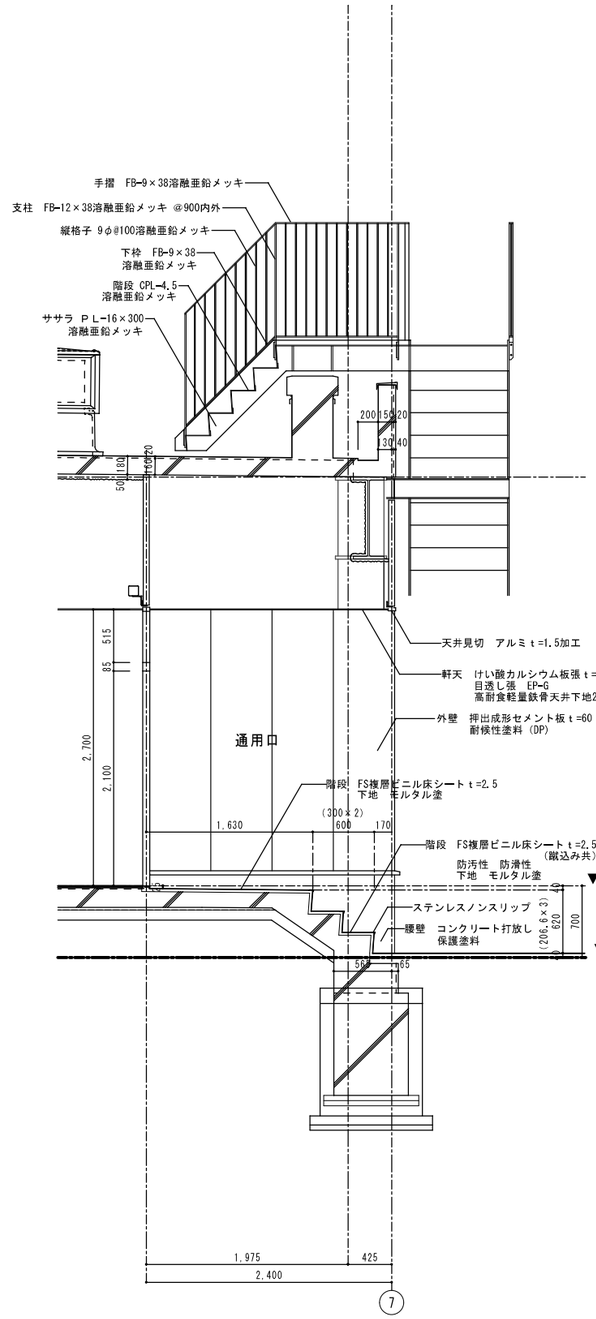
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	組長 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 矩計図13	縮尺 A1：1/30 A3：1/60
	日付 令和７年６月	図面 望月					図面 NO. A－047



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋　監督 大橋　主任 大橋 日付 令和７年６月　図面 望月	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

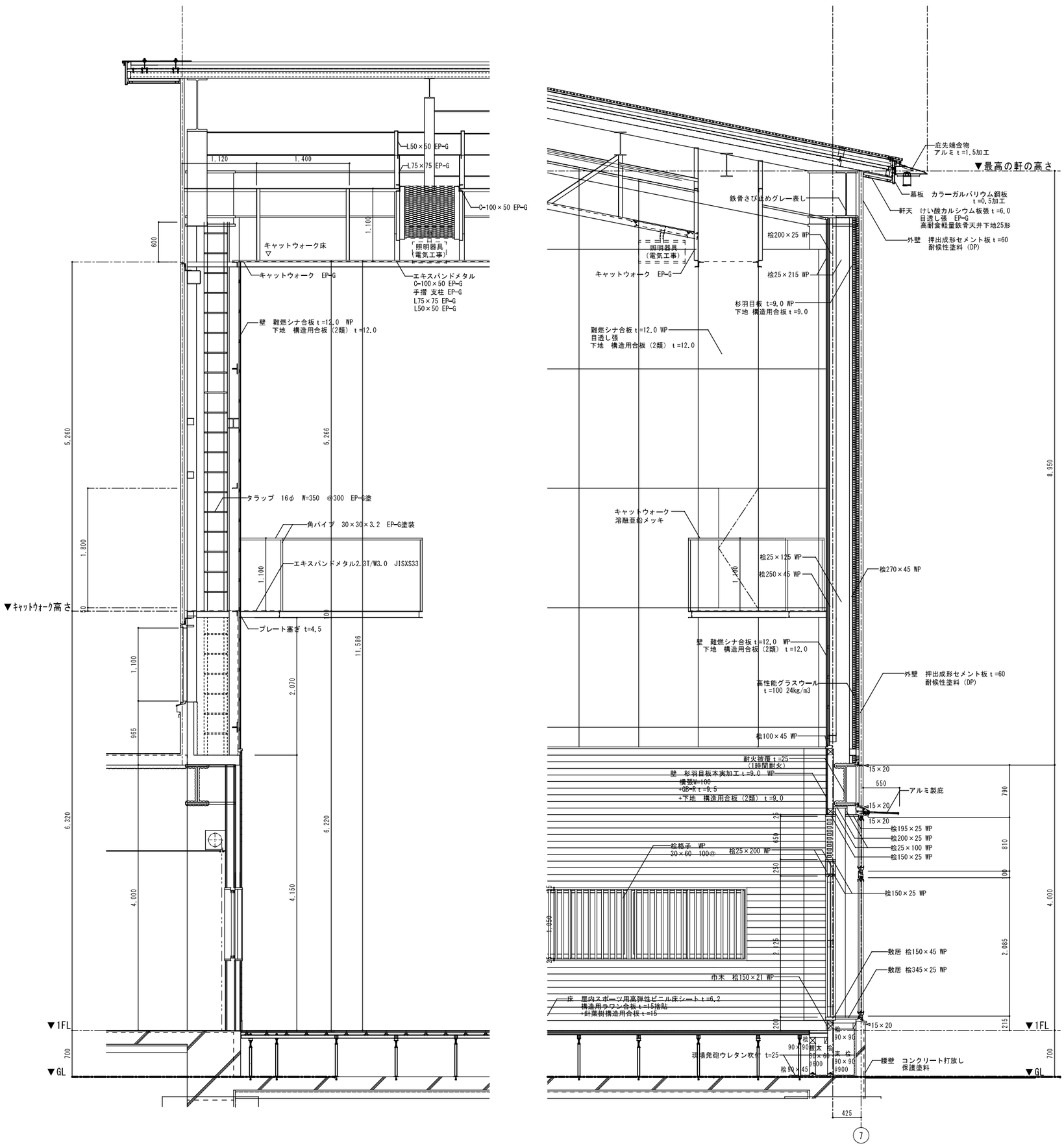
図面名 矩計図14	縮尺 A1：1/30　A3：1/60	図面 NO. A－０４８

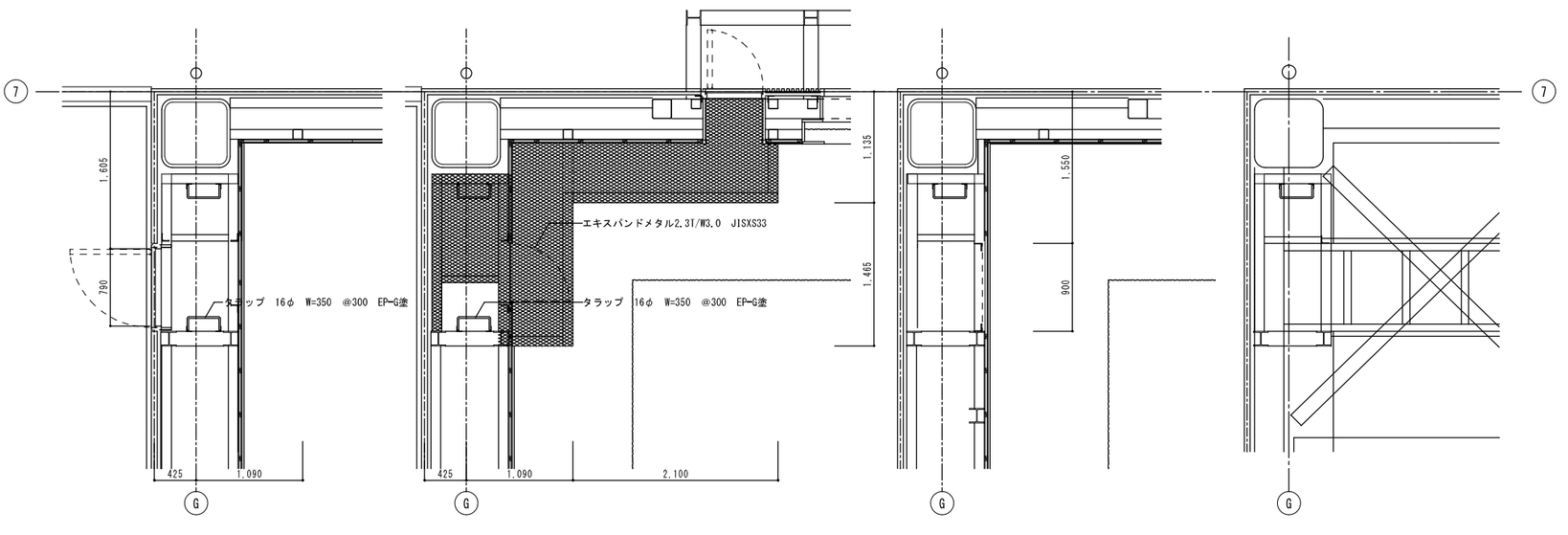




株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 矩計図15
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/30 A3：1/60

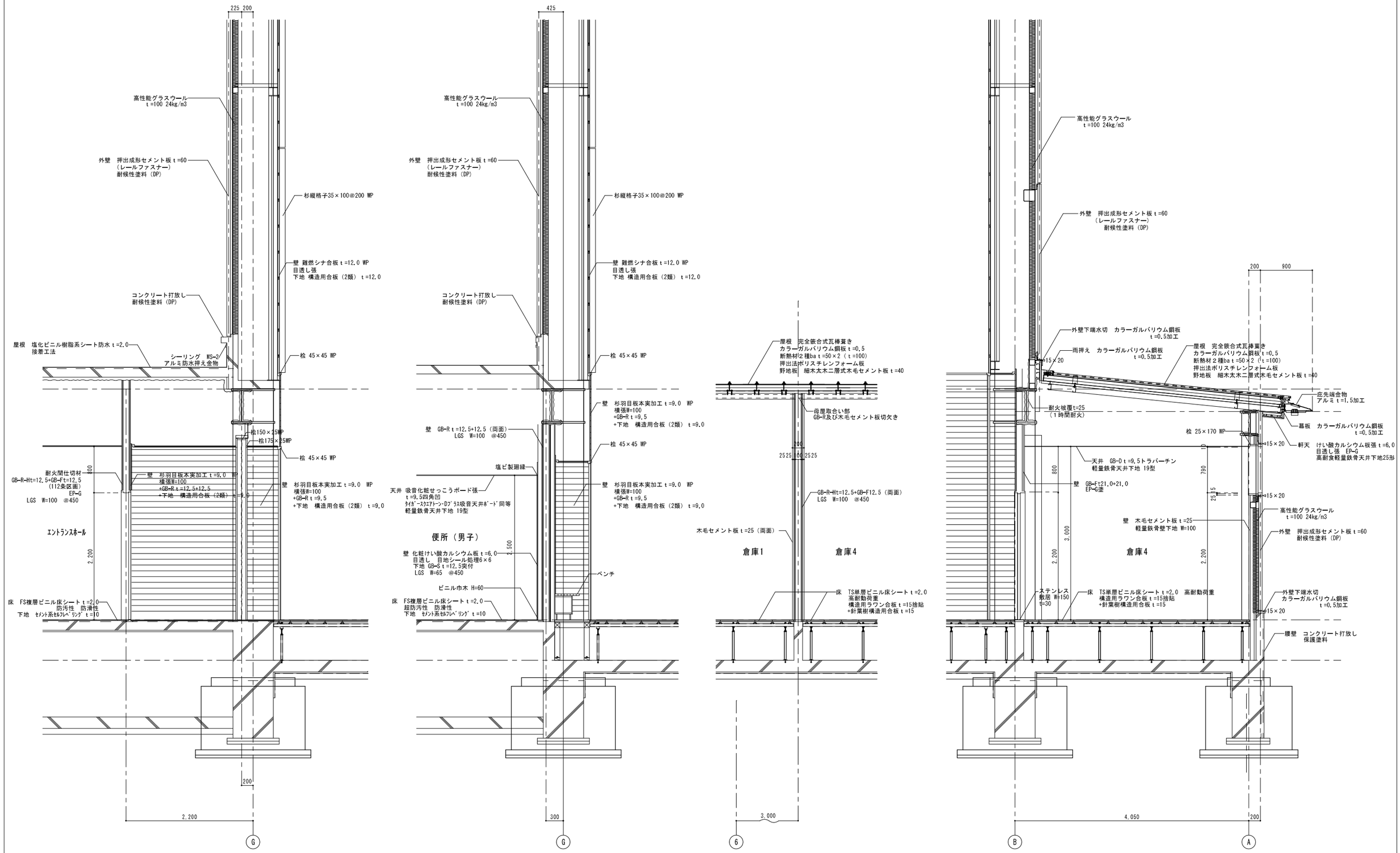
図面 NO. A－０４９



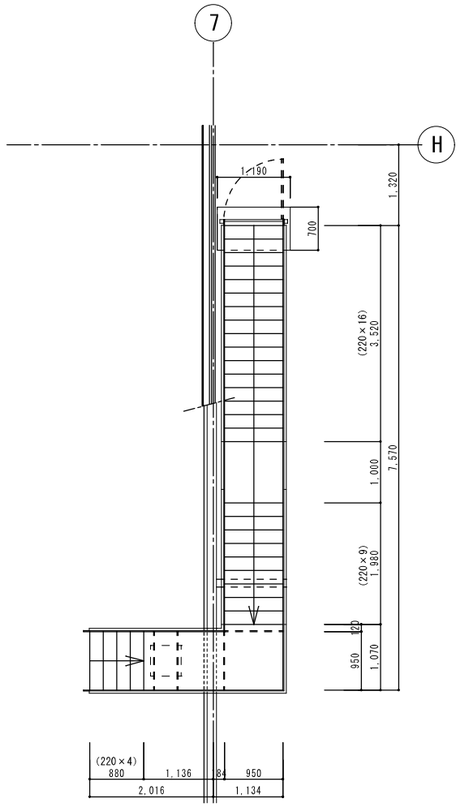


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第143072号 大橋 康孝

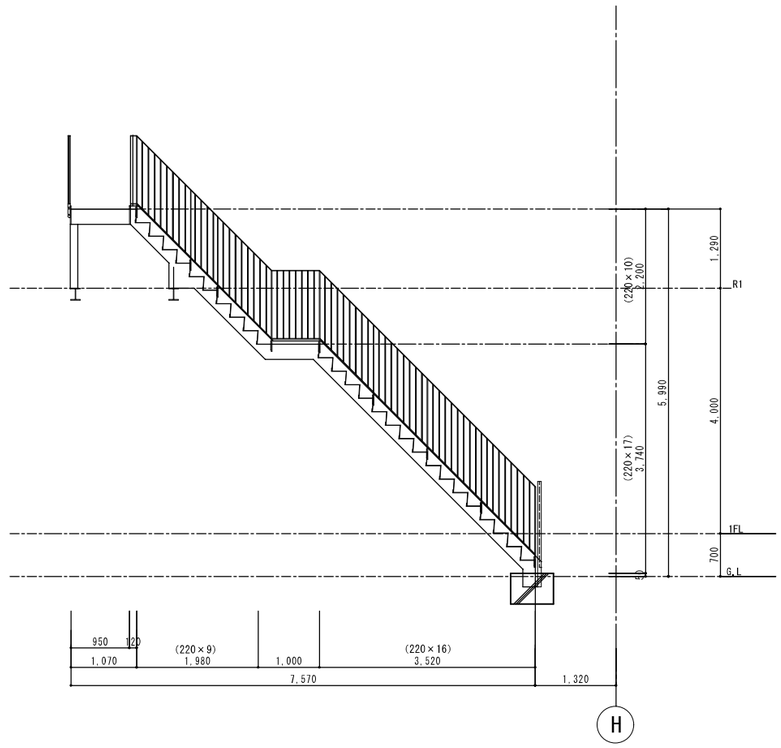
設計	大橋
監理	大橋
作図	大橋
日付	令和7年9月
縮尺	A1:1/30 A3:1/60
工事名	令和7年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)
図面名	矩計図16
図面No.	A-050



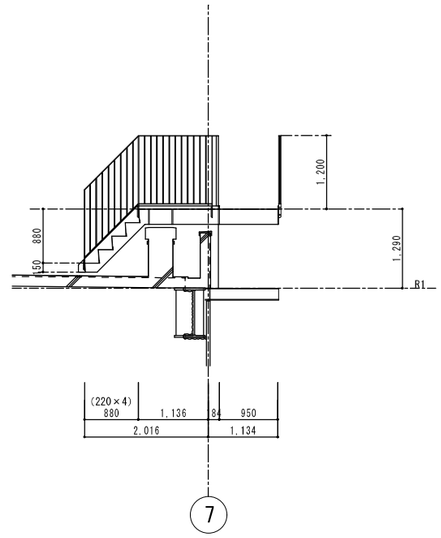
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 矩計図17	縮尺 A1：1/30 A3：1/60
	日付 令和７年６月		製図 望月				図面 NO. A－051

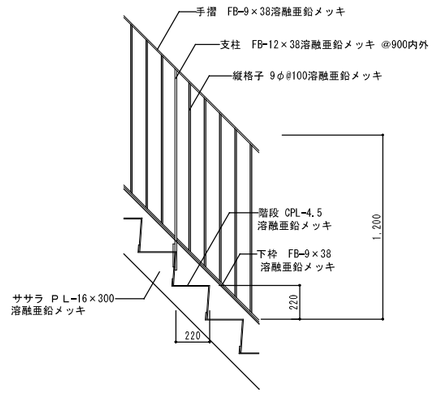


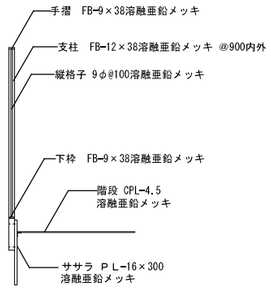
平面詳細図　S=1：50



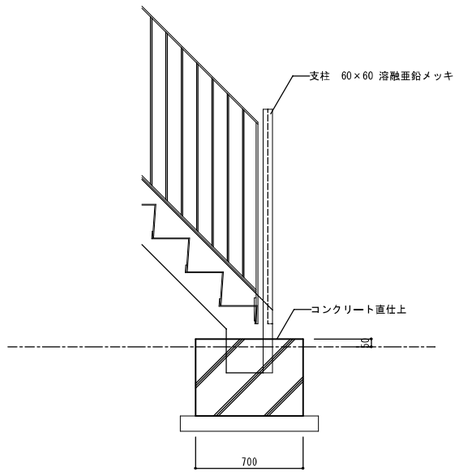
断面詳細図　S=1：50

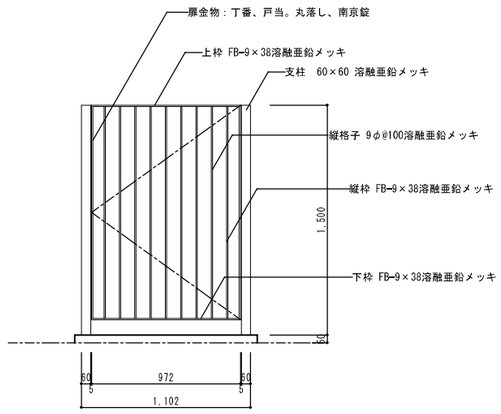






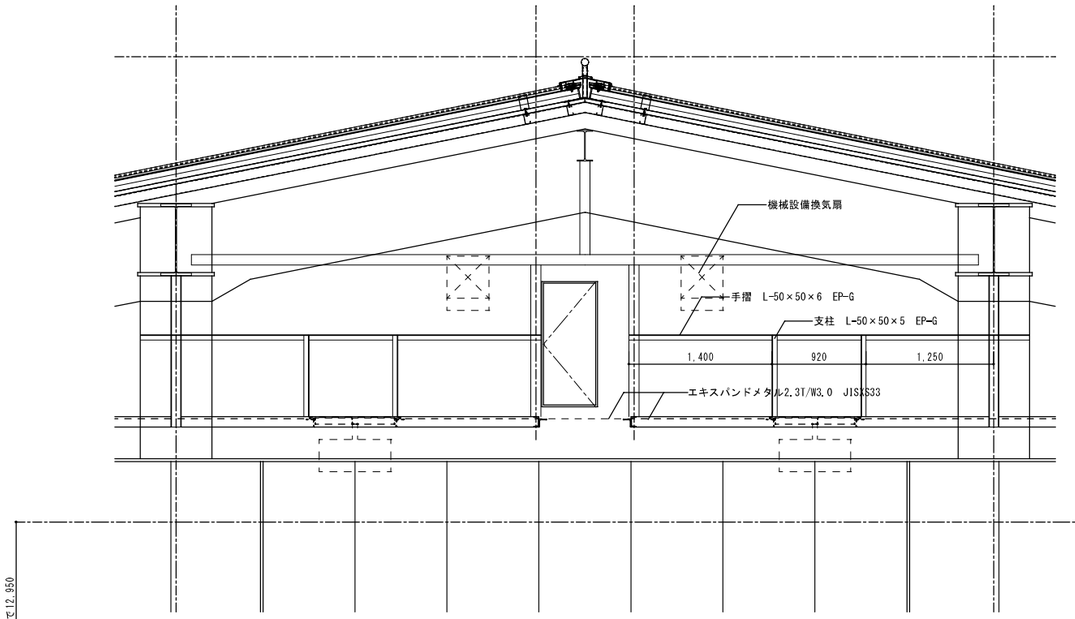
階段部分詳細図　S=1：20

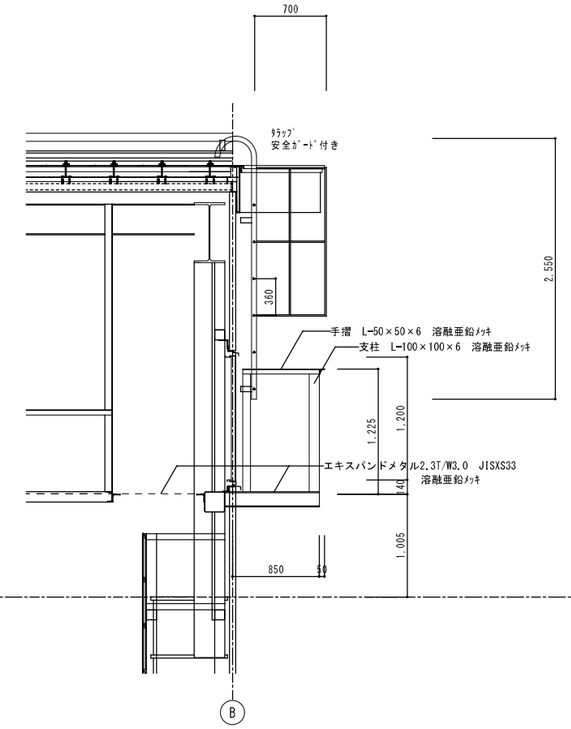


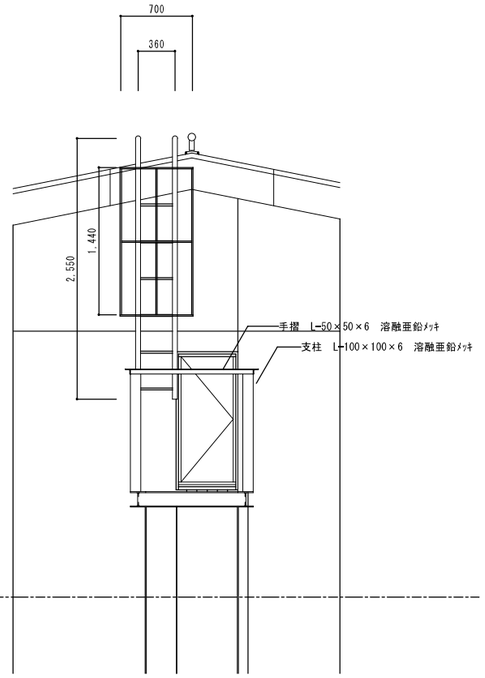


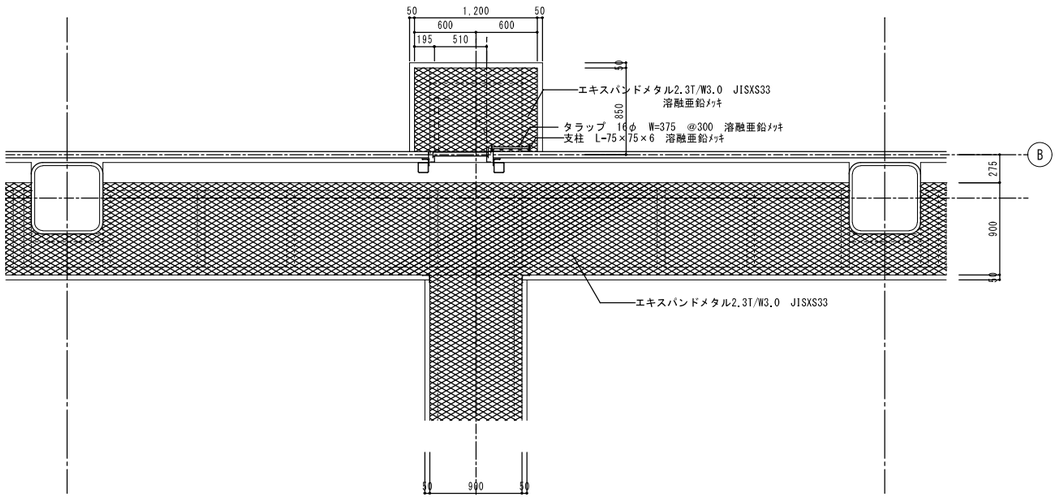
扉部分詳細図　S=1：20

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第34567号　大橋康孝	検印 大橋	組長 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 屋外階段詳細図	縮尺 A1：1/50,1/20 A3：1/100,1/40	図面 NO. Ａ－０５２
	日付 令和７年６月		製図 望月					

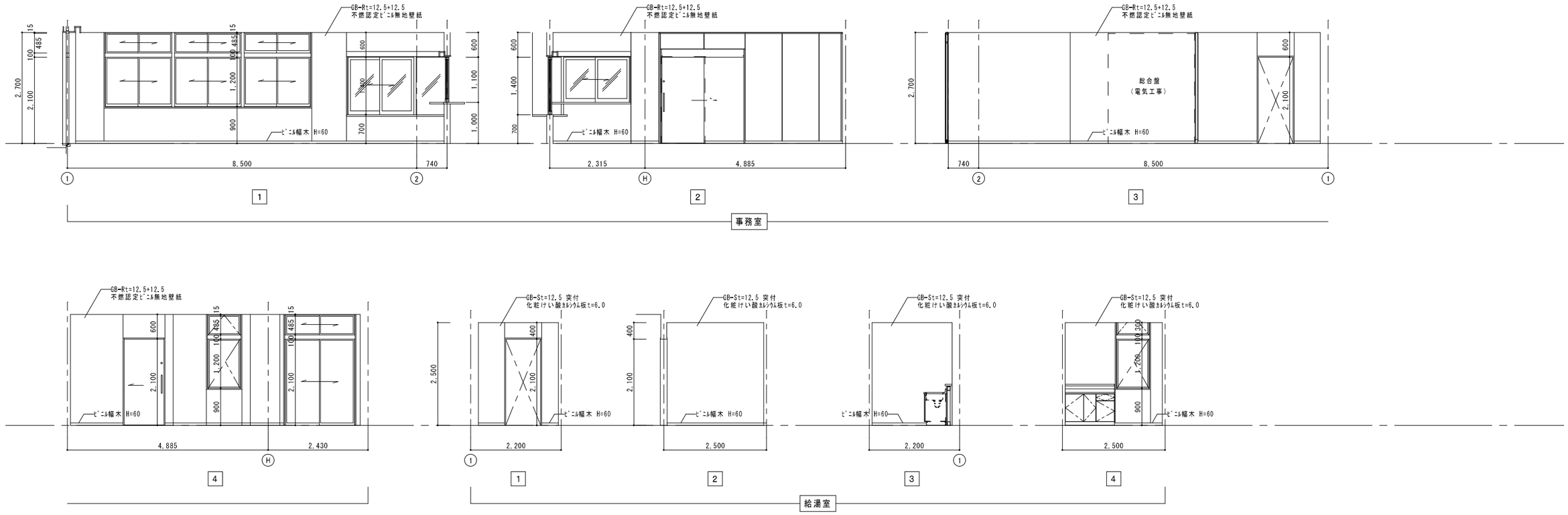


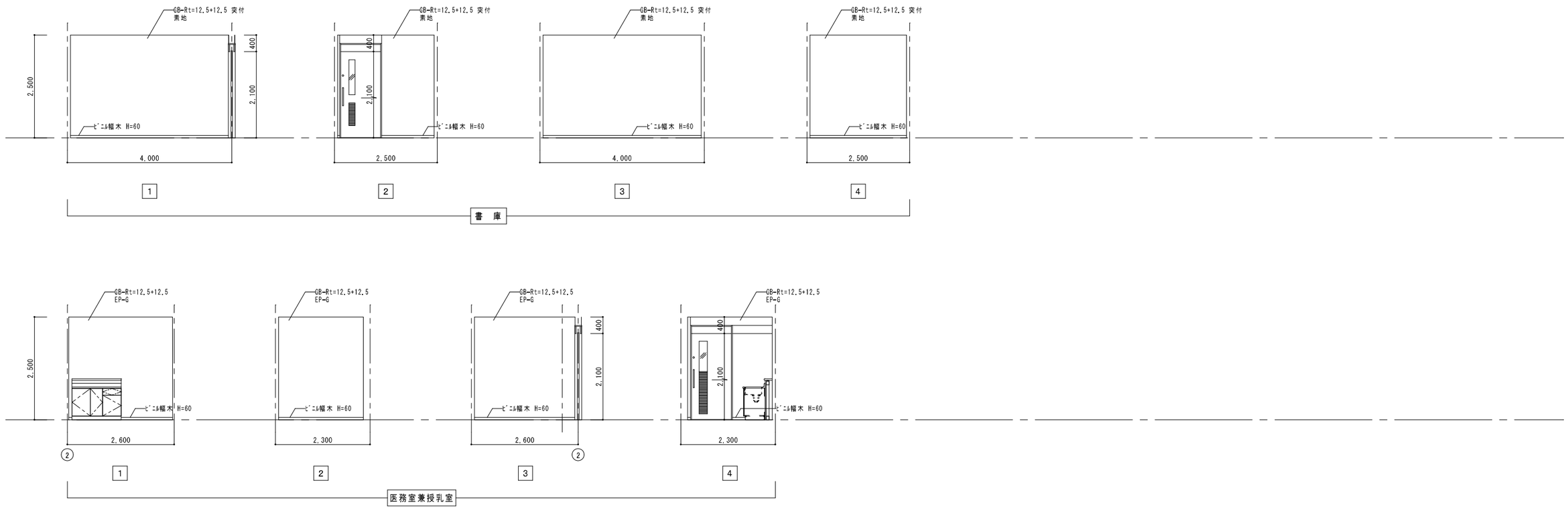






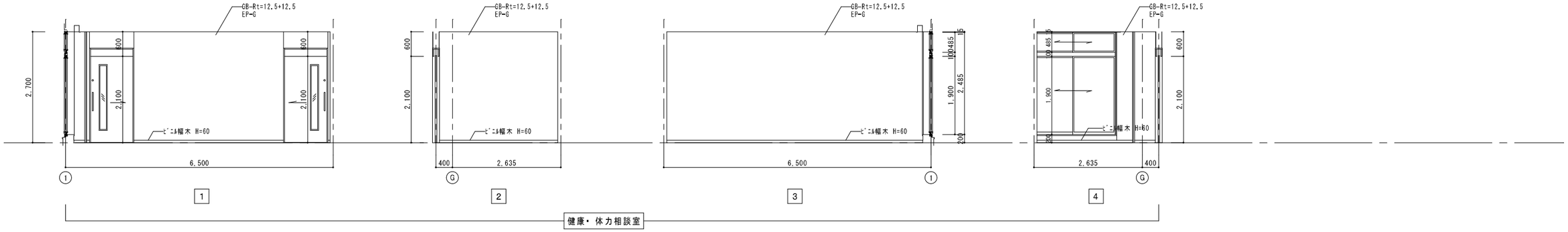
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検図 大橋	照査 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 屋外点検ハッチ詳細図　縮尺 A1：1/30 A3：1/60
	日付 令和７年６月		製図 望月			図面 NO. A－０５３

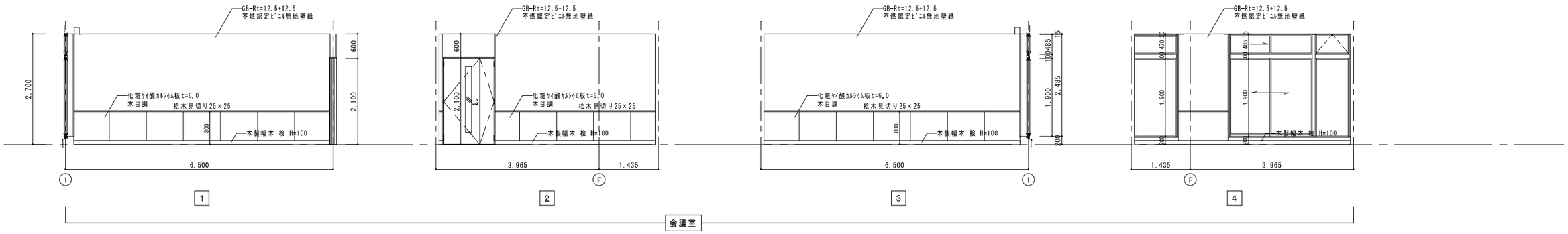


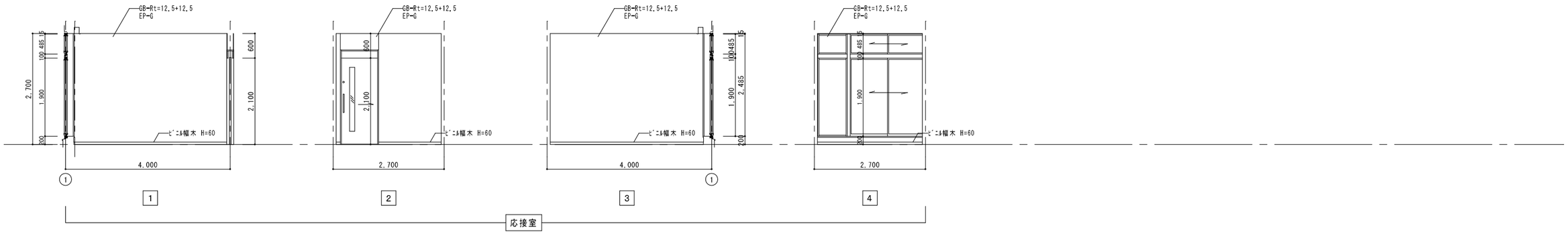


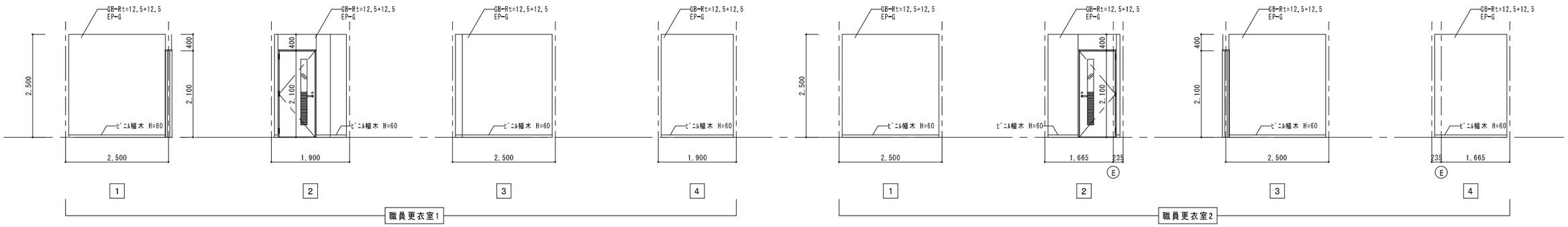
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 展開図1
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図面NO. A－０５４



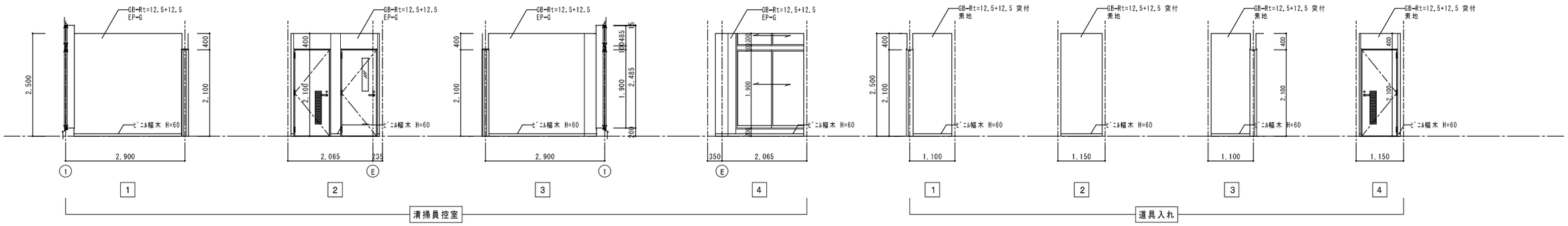


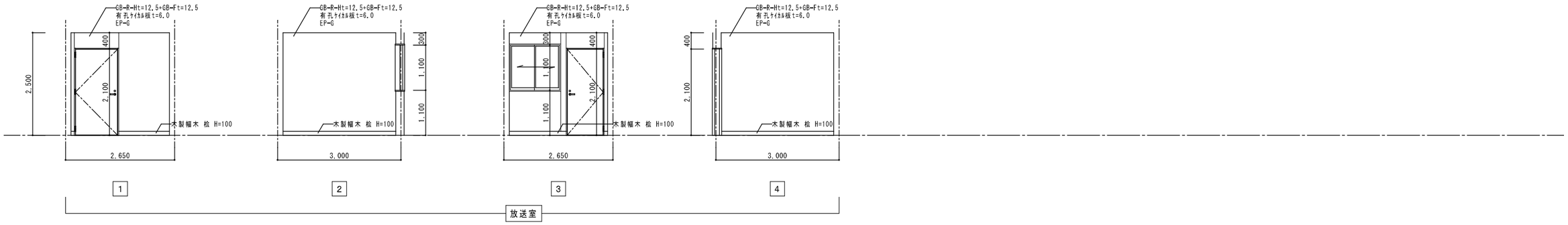


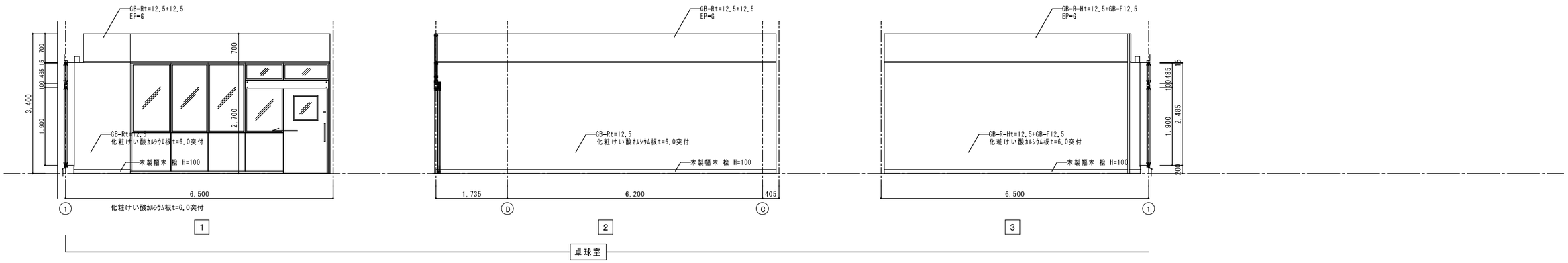


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343622号 大橋康孝	検印 大橋	起案 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 展開図2
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図面NO. A－０５５

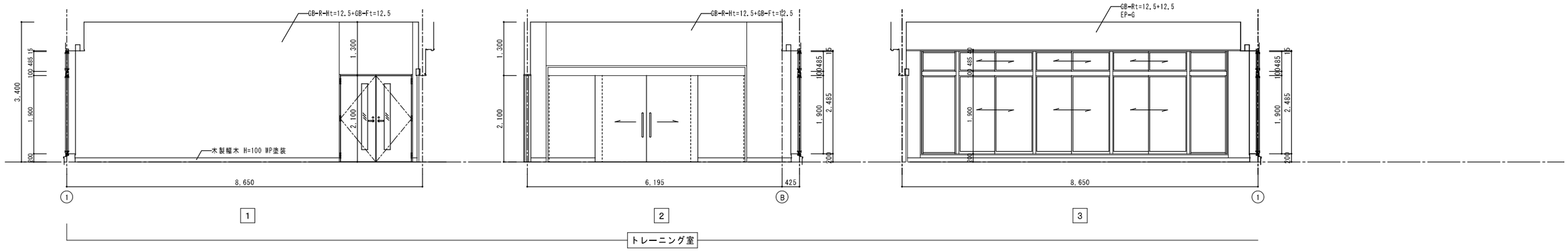


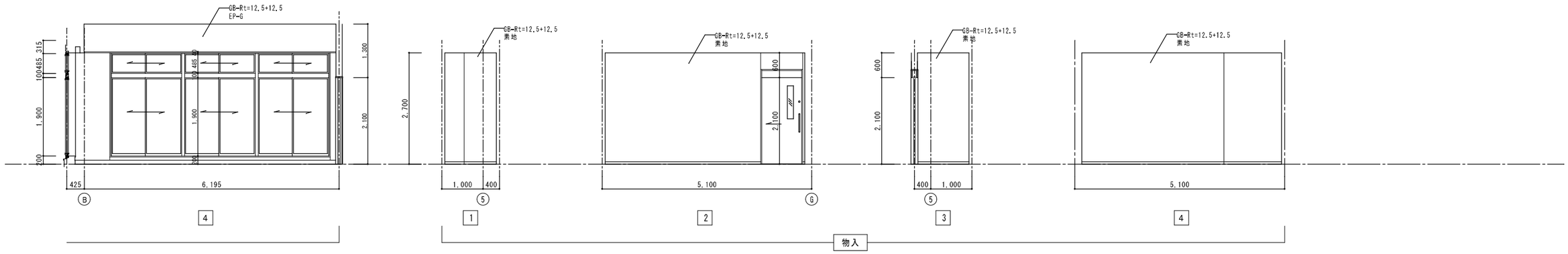


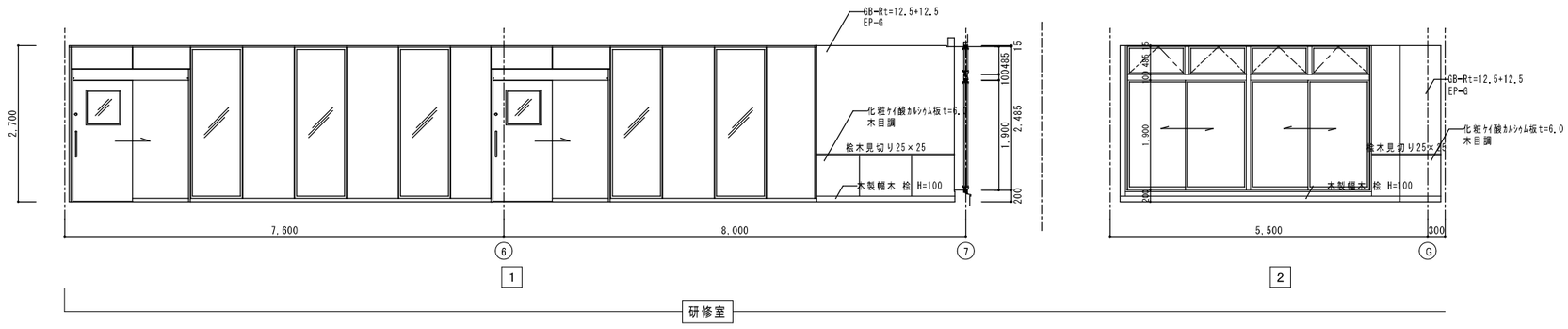


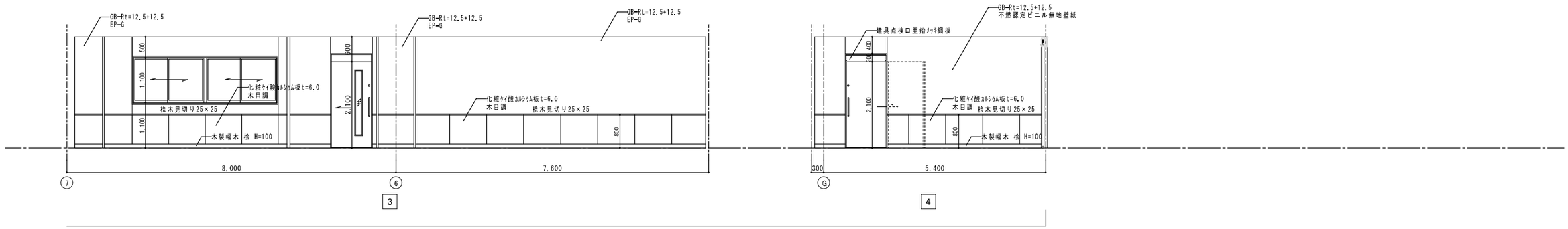
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 展開図3
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図面 NO. A－０５６



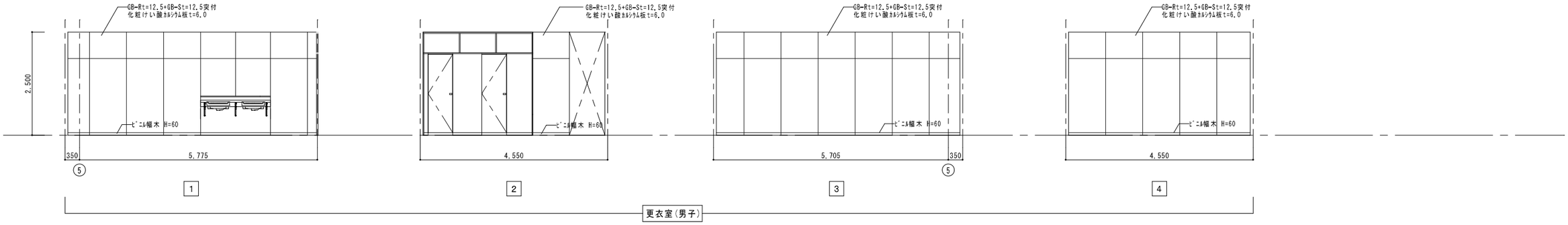


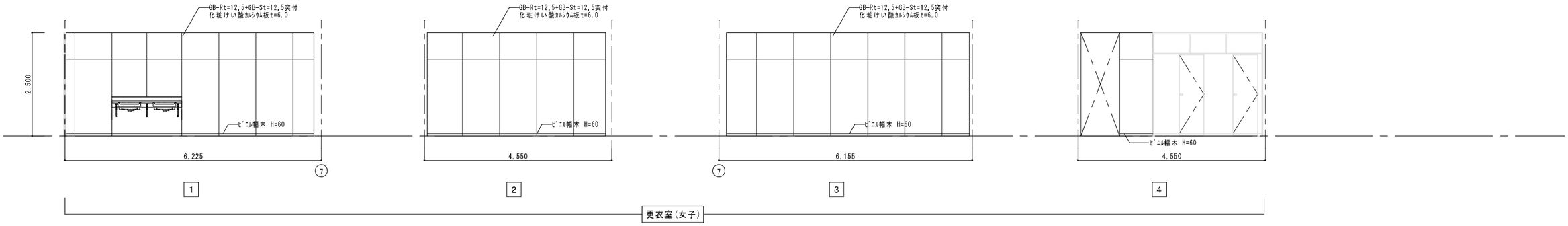


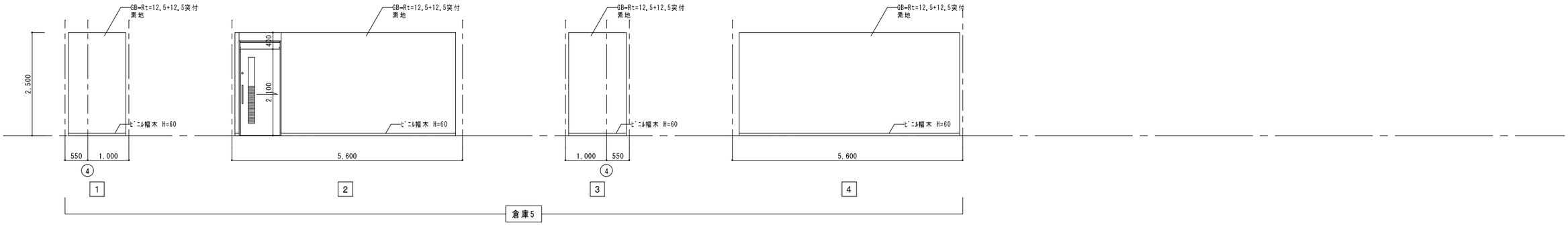


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	校閲 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 展開図4
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図面NO. A－057

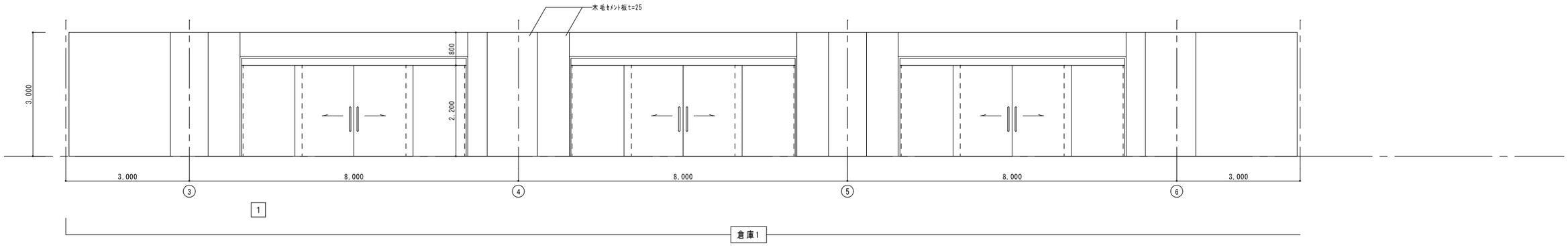


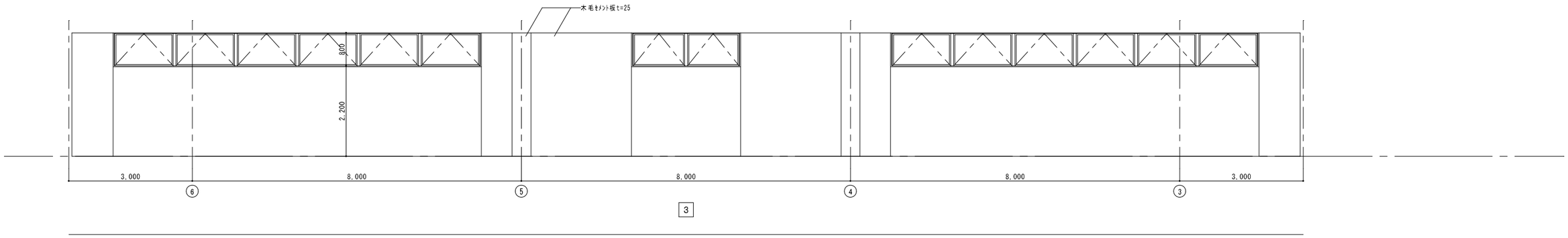




株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	担当 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 展開図5
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100

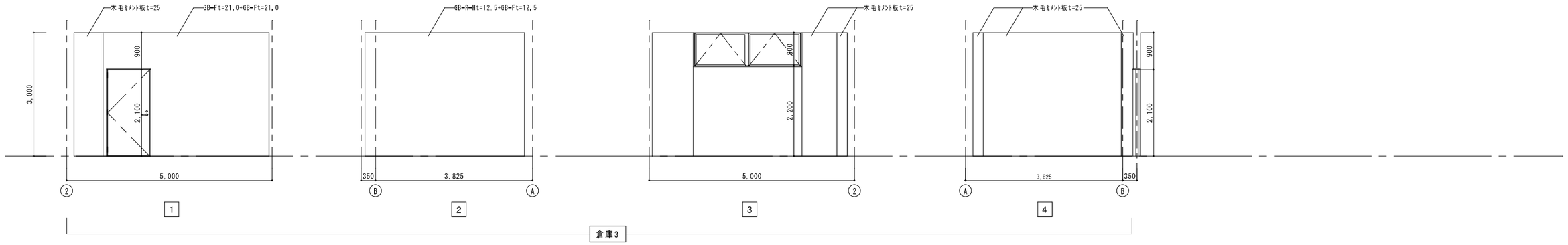
図面 NO. A－０５８

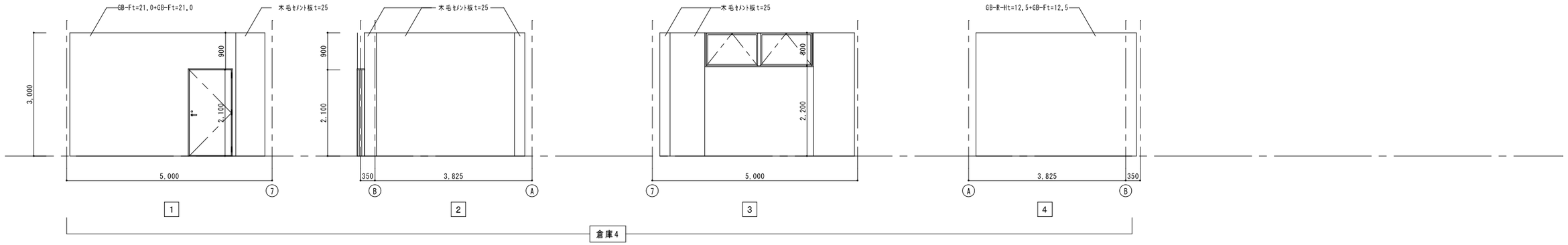


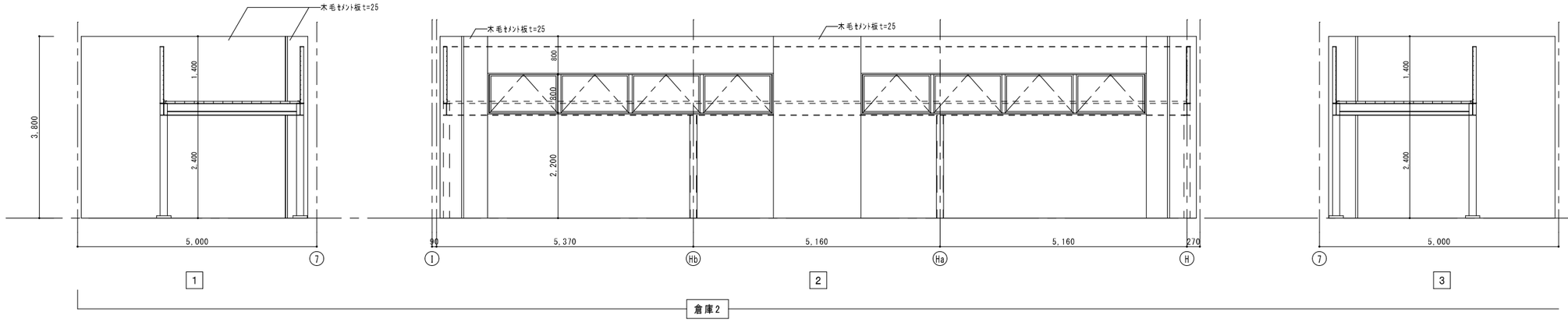


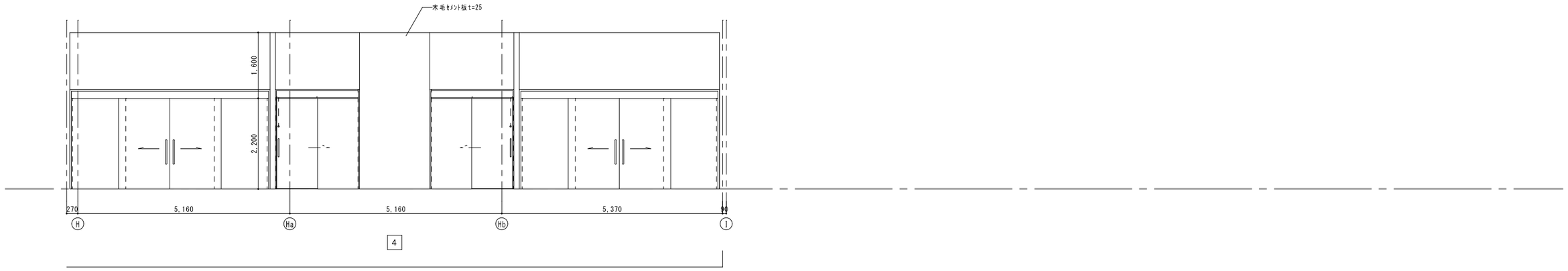
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	担当 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 展開図6
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図面NO. A－０５９



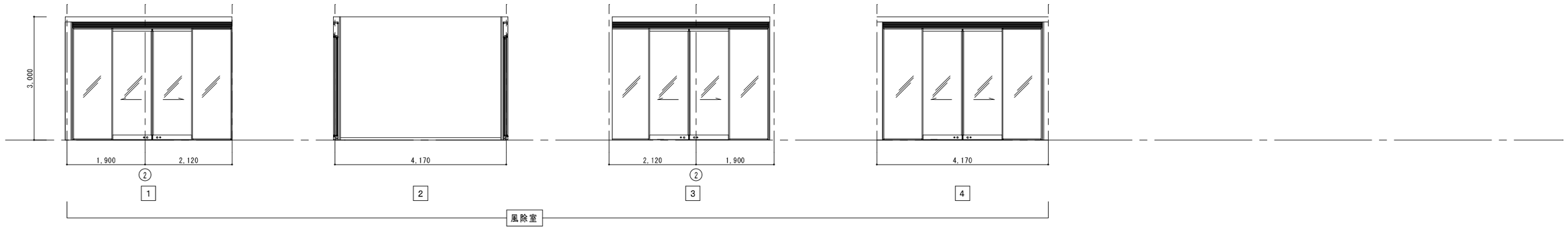


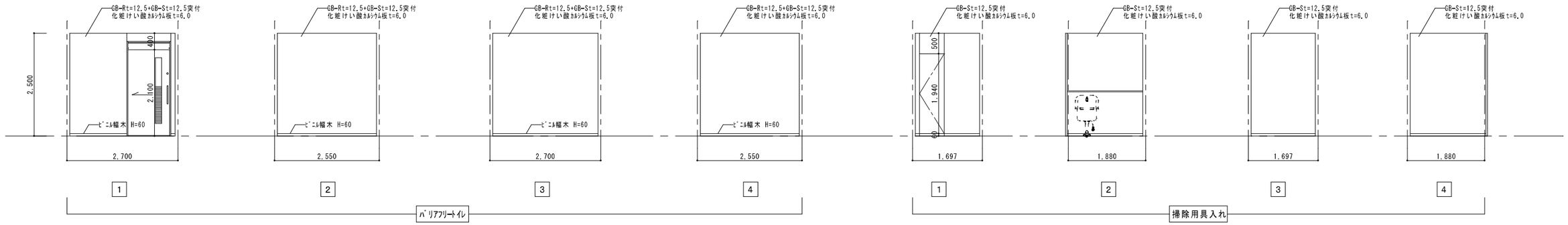


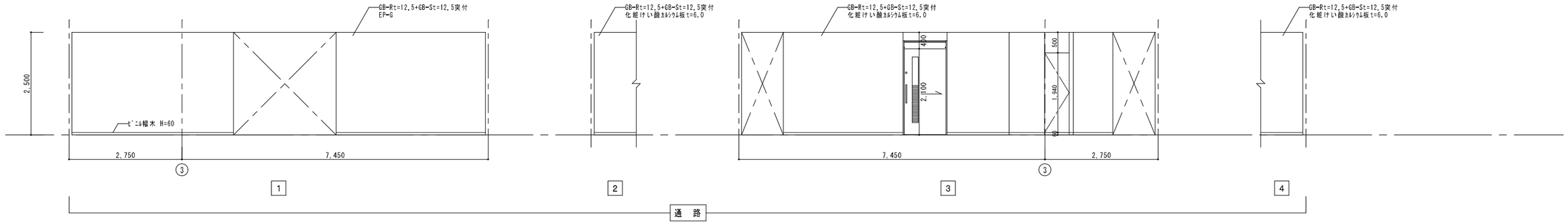


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 展開図7
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図面 NO. A－０６０

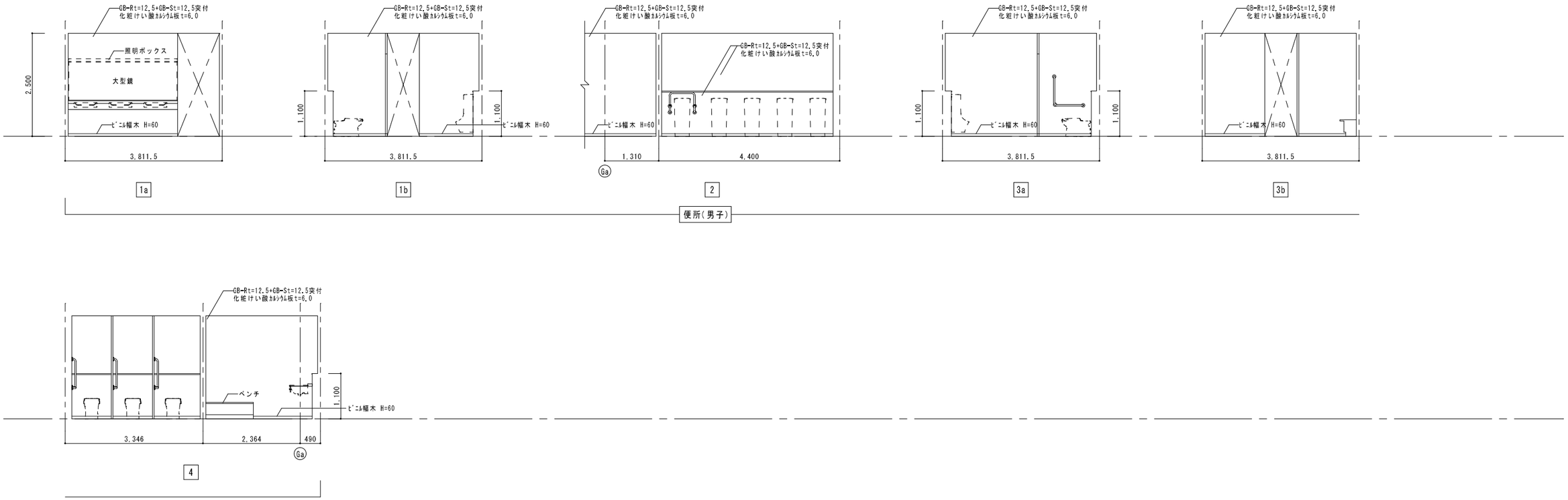


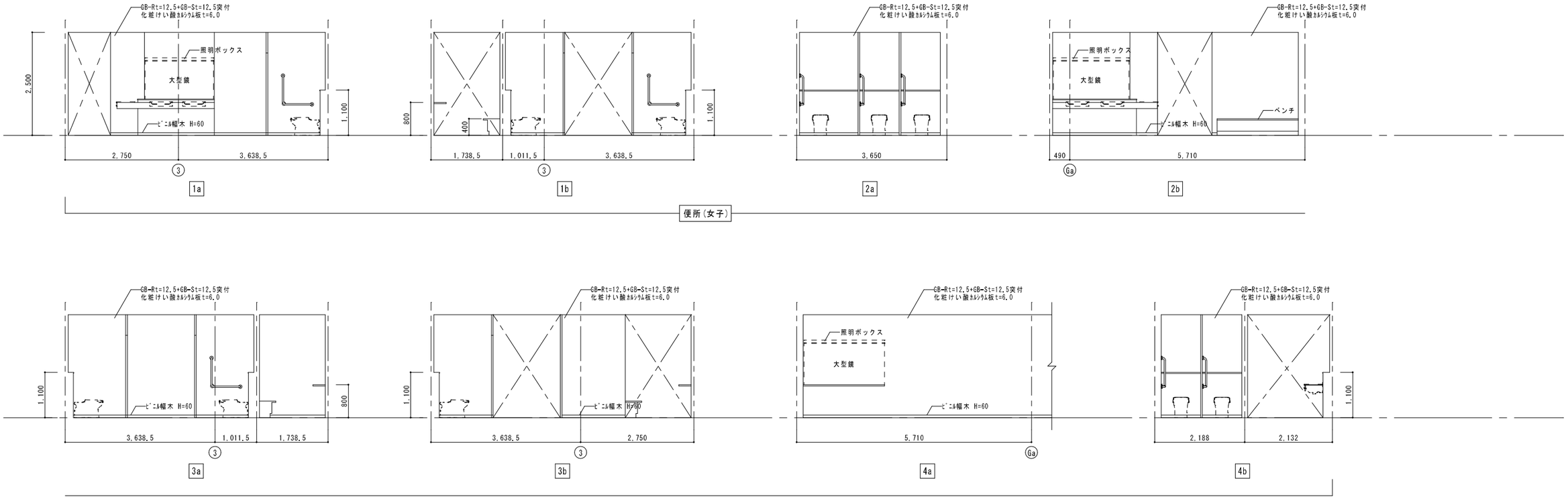




株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 展開図8
	日付 令和７年６月		其図 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100

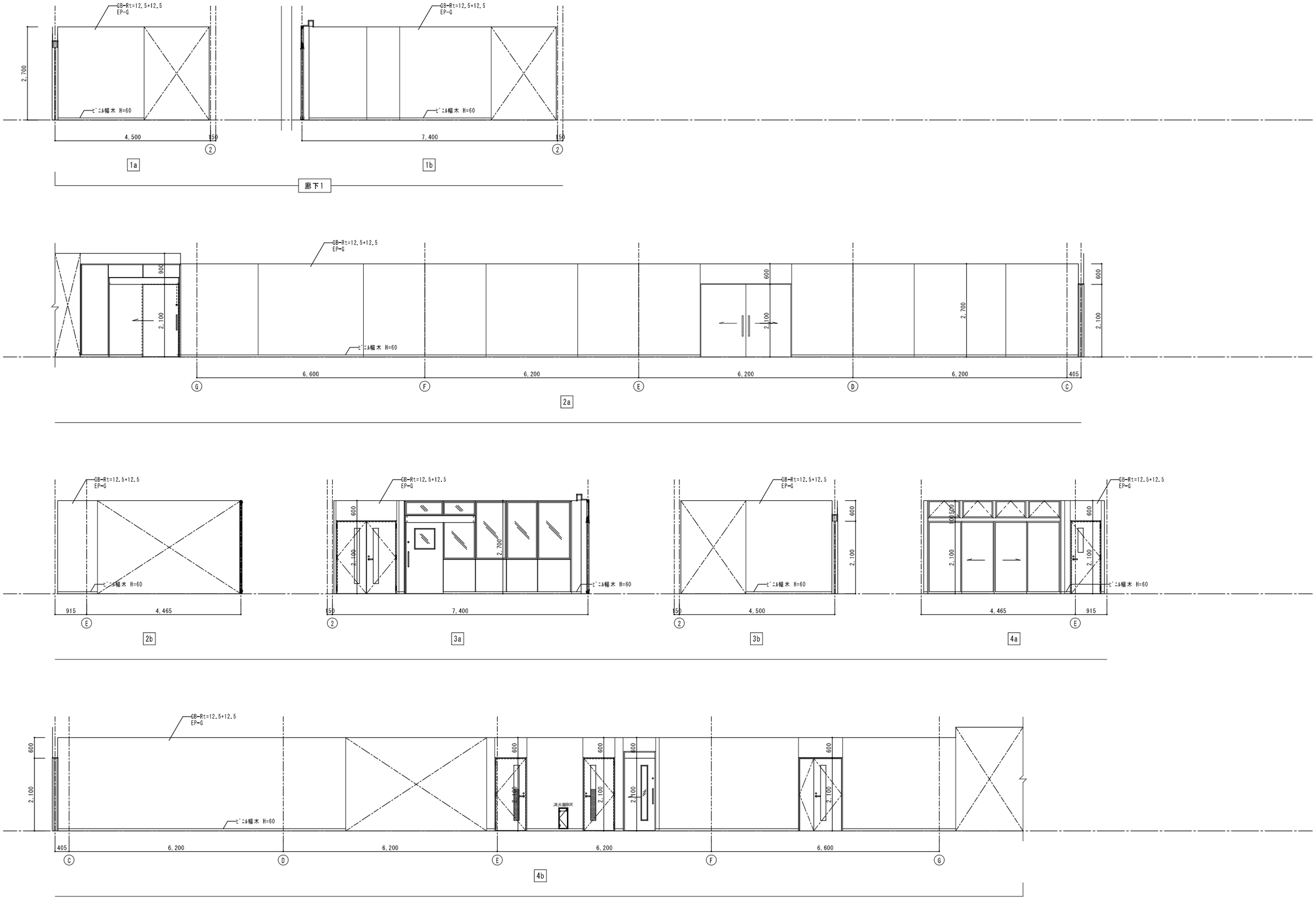
図面 NO. A－０６１



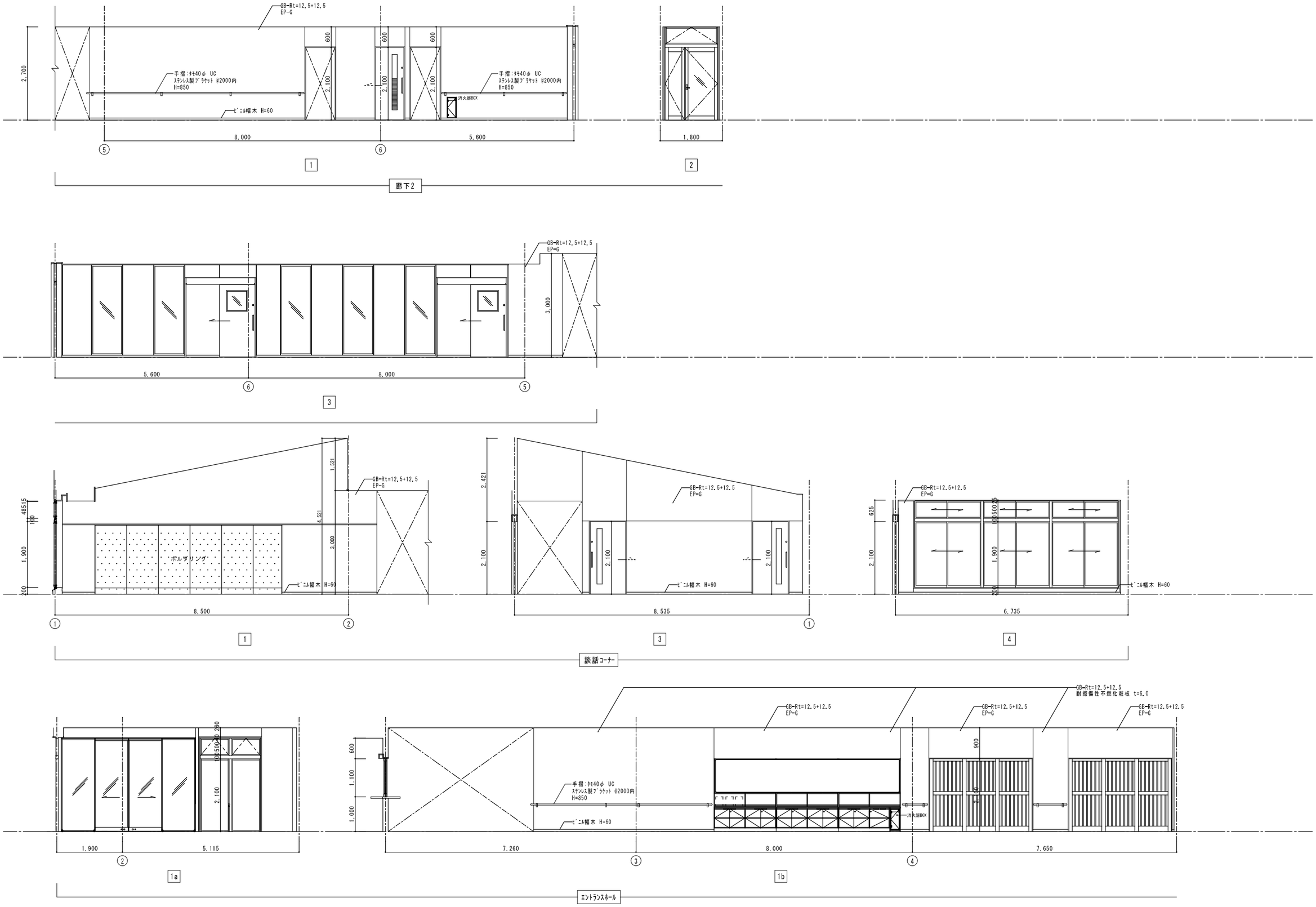


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	担当 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 展開図9
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図面NO. A－０６２

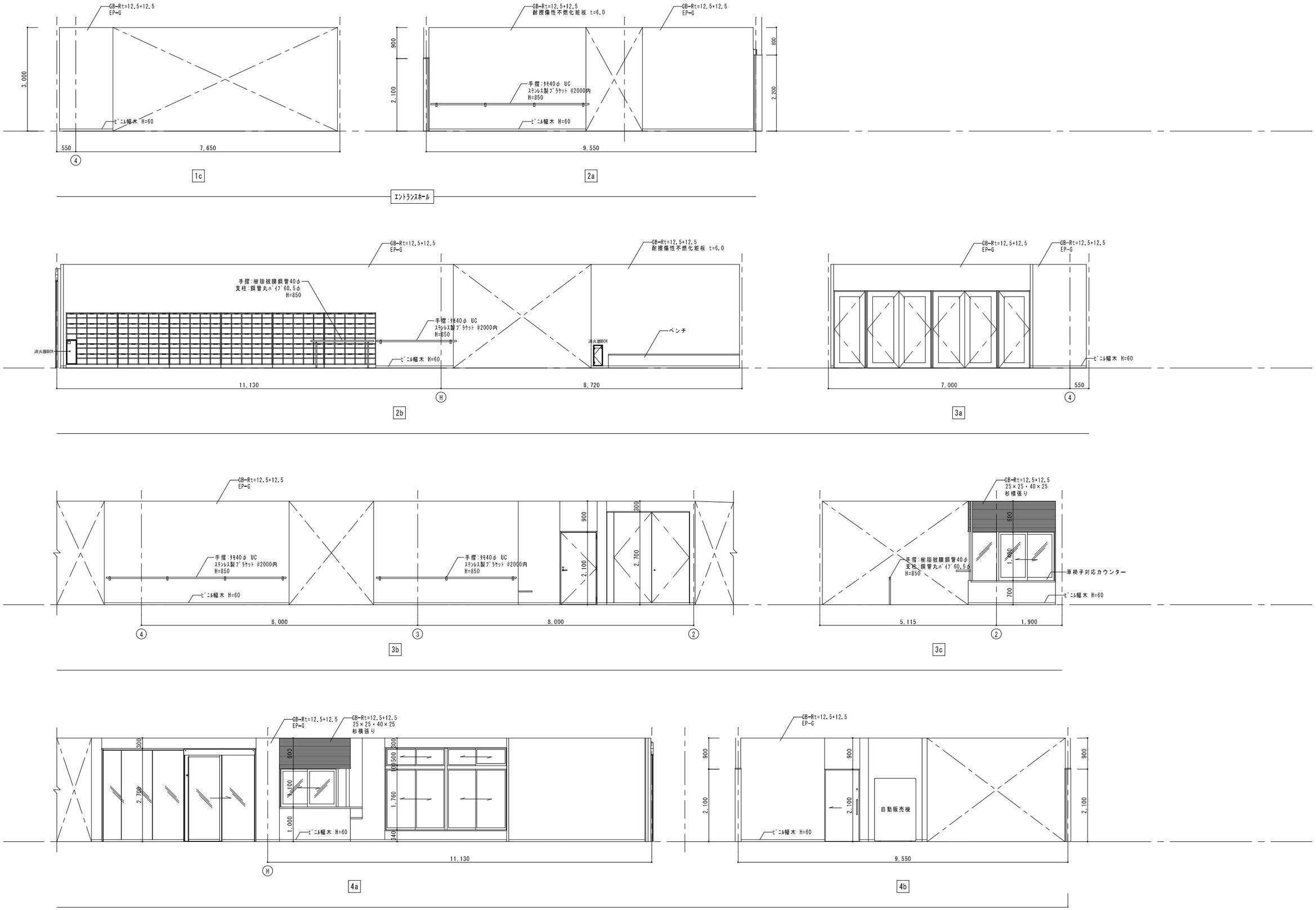


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	監督 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 展開図10	縮尺 A1：1/50 A3：1/100	図面 NO. A－０６３
	日付 令和７年６月		図面 望月					



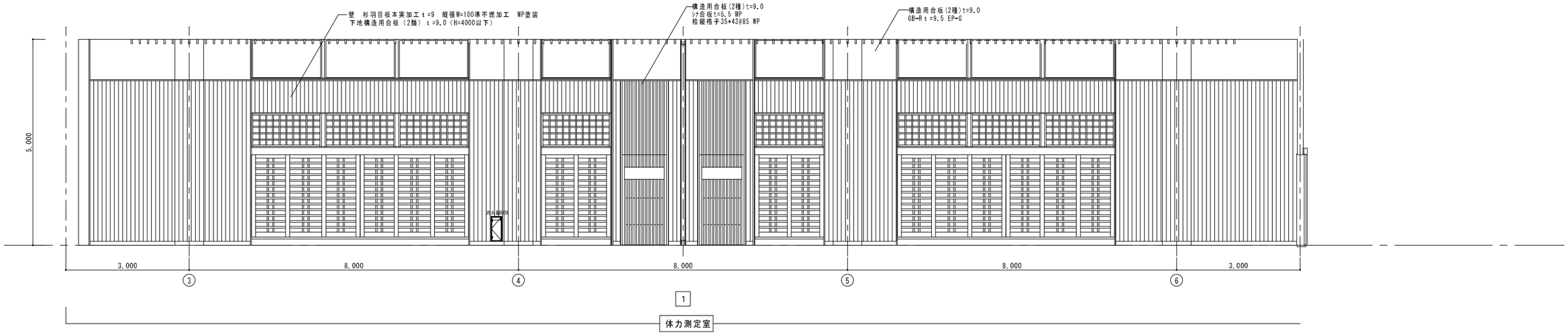
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	担当 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 展開図11
	日付 令和７年６月		賀田 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100

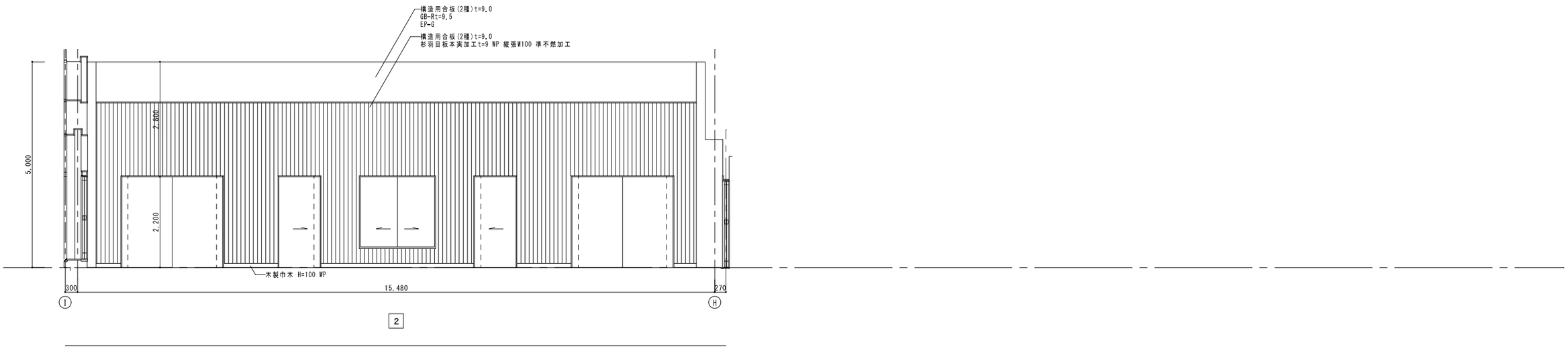
図面NO. A－064



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	設計 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 展開図12
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100

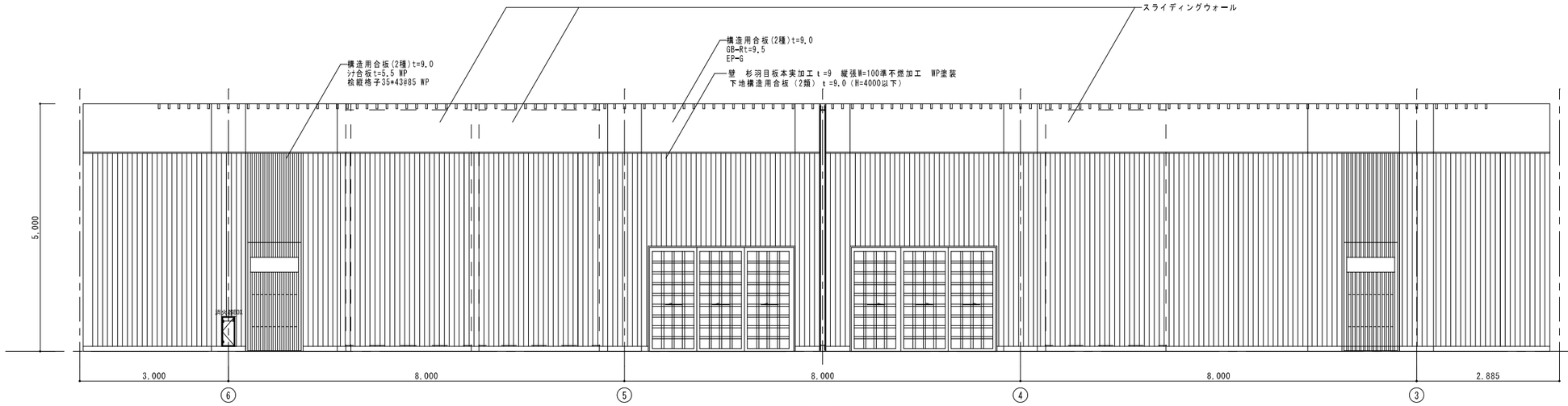
図面 NO. A－065

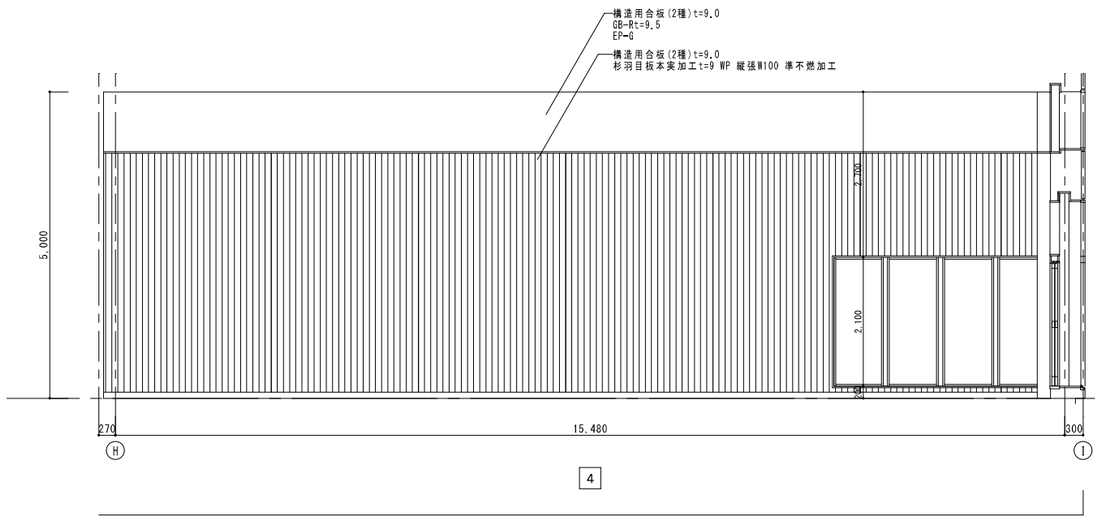


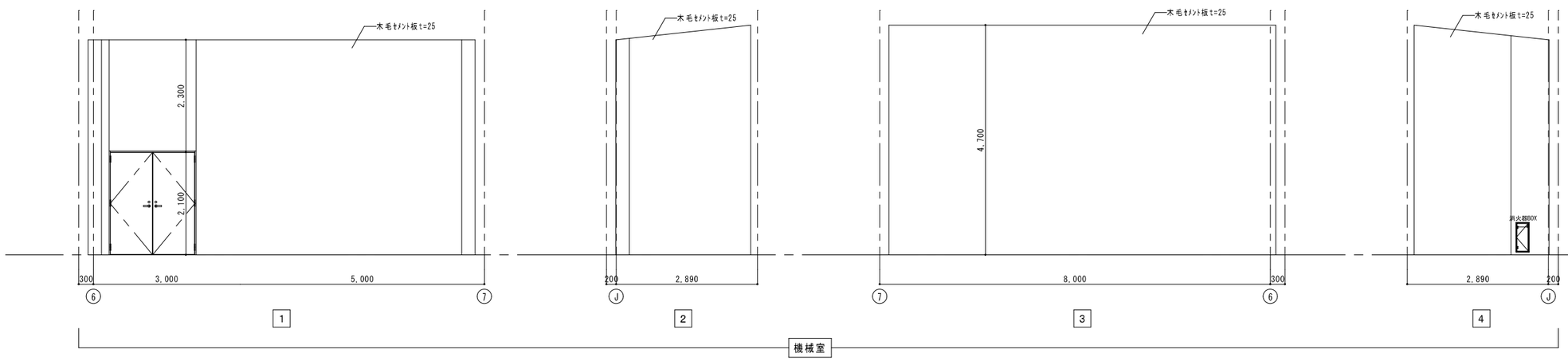


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 展開図13
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図面NO. A－０６６

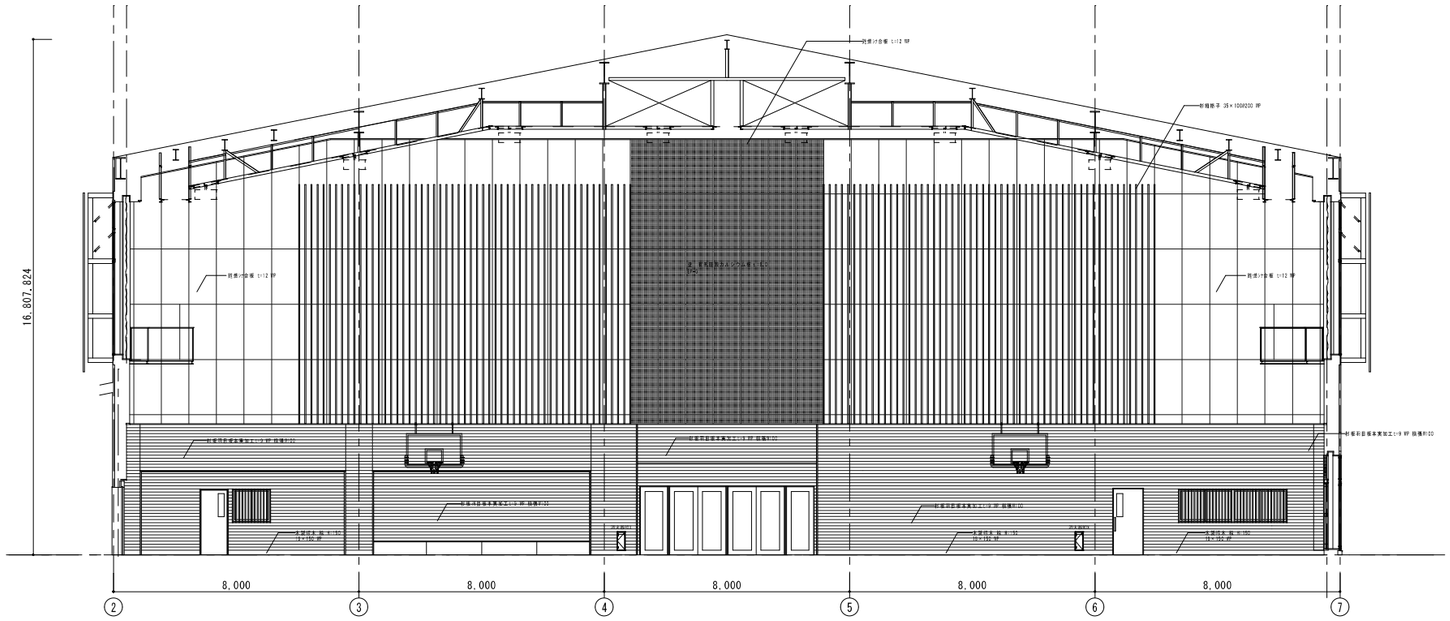






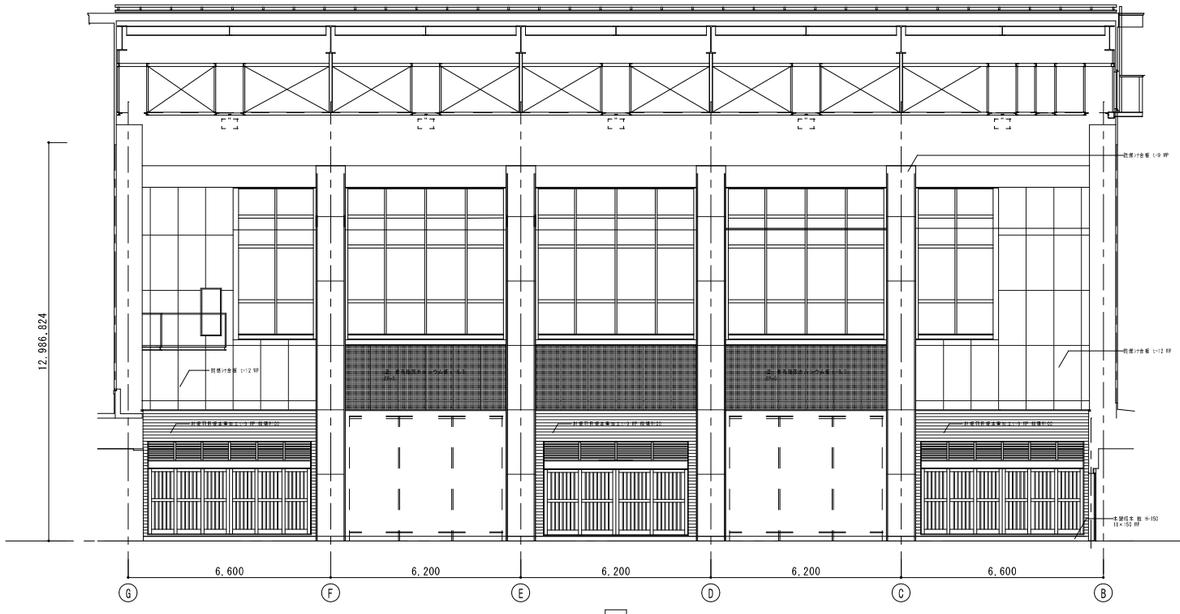
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 展開図14
	日付 令和７年６月	製図 望月				縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図面 NO. A－０６７



1

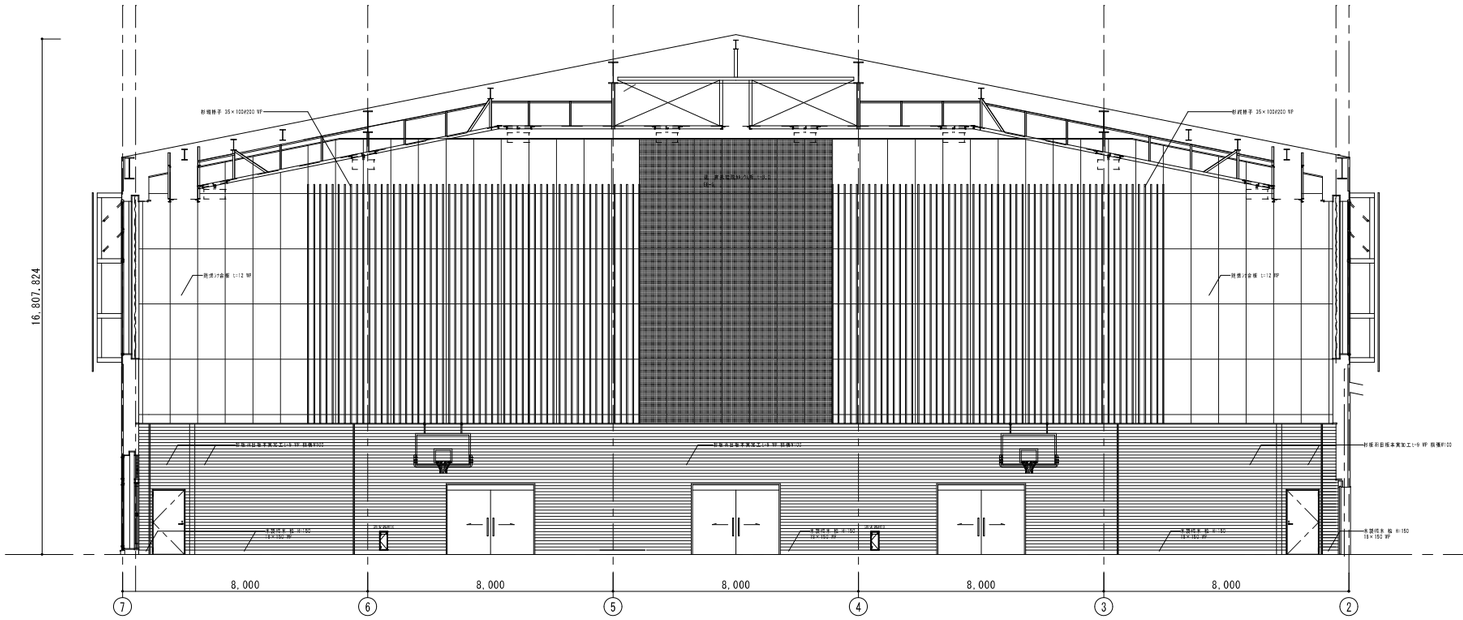
体育室



2

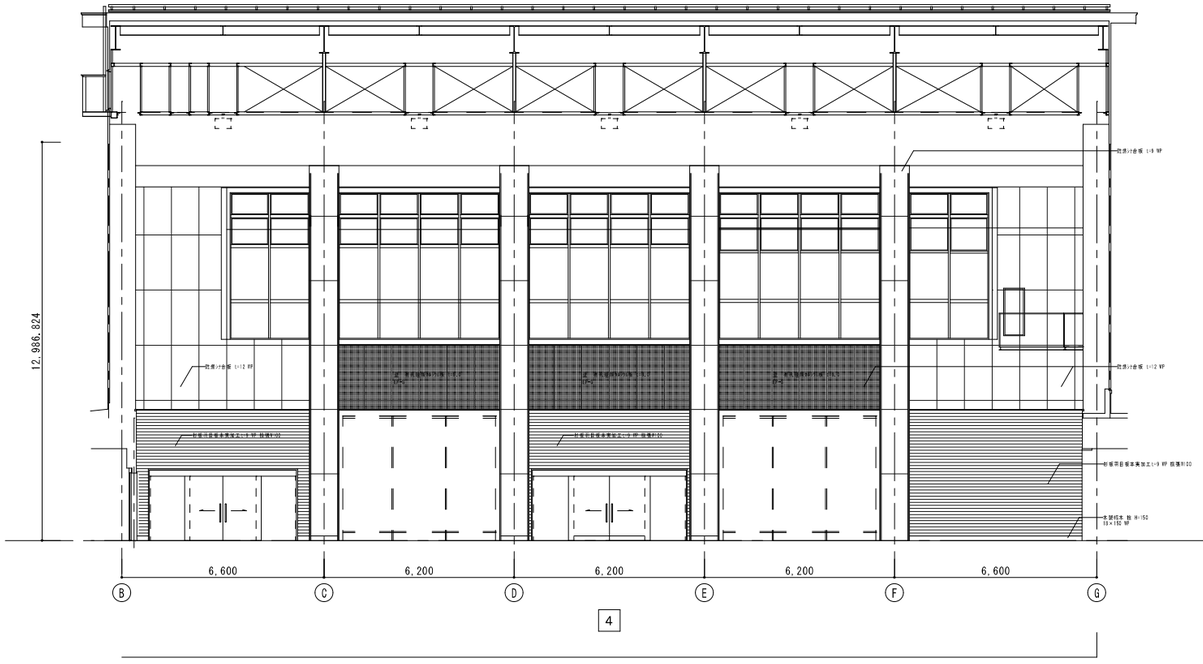
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	起筆 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 展開図15
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/100 A3：1/200

図面NO. A－０６８



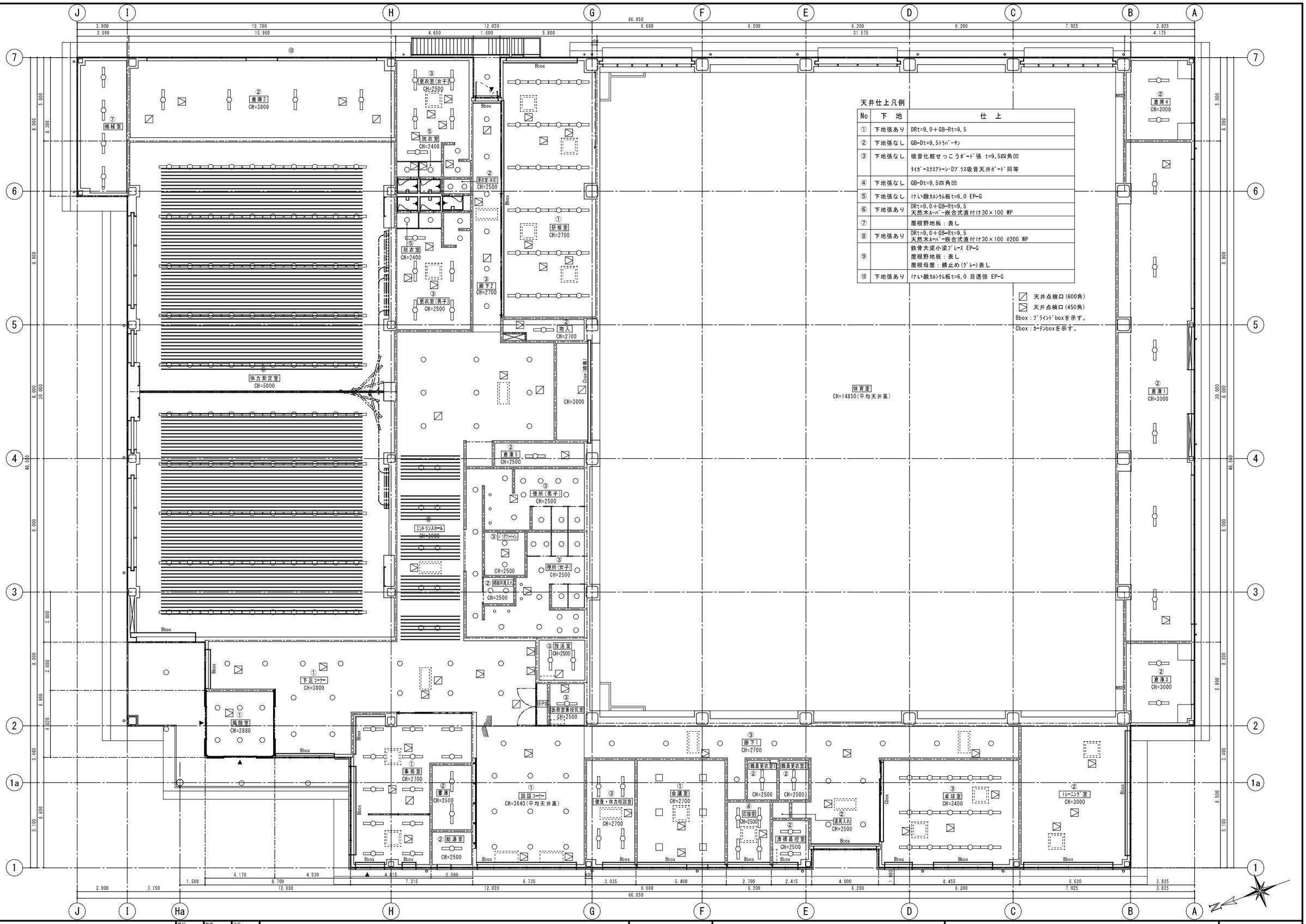
3

体育室



4

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋 / 総括 大橋 / 主任 大橋 日付 令和7年6月 / 製図 望月	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 展開図16	縮尺 A1：1/100 A3：1/200	図面 NO. A－０６９



天井仕上凡例

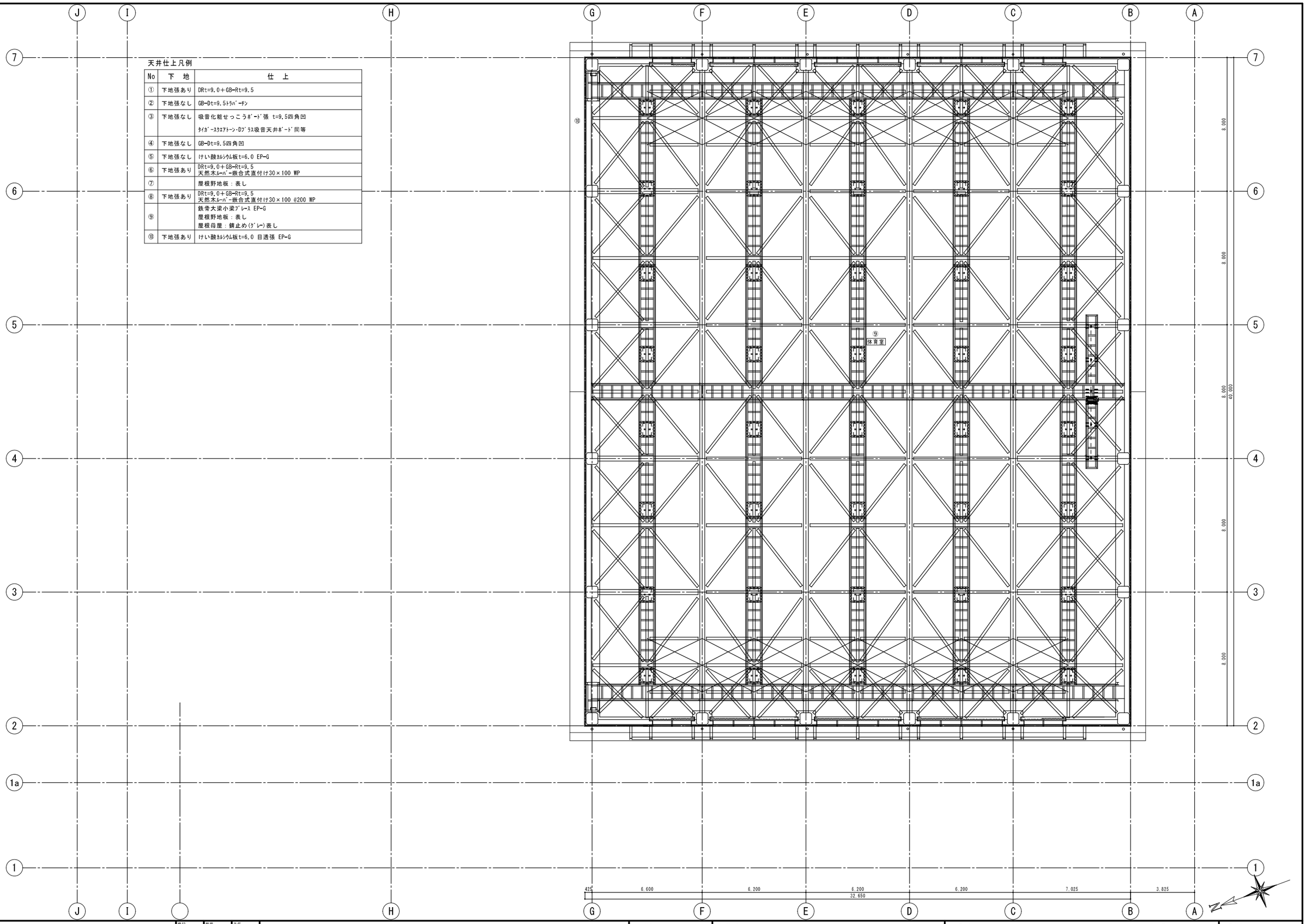
No	下　地	仕　上
①	下地張あり	DRt=9.0＋GB-Rt=9.5
②	下地張なし	GB-Dt=9.5ﾄﾗﾝﾊﾟｰﾁﾝ
③	下地張なし	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t=9.5四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･ｸﾞﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等
④	下地張なし	GB-Dt=9.5四角凹
⑤	下地張なし	けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0 EP-G
⑥	下地張あり	DRt=9.0＋GB-Rt=9.5 天然木ﾙｰﾊﾞｰ嵌合式直付け30×100 WP
⑦		屋根野地板：表し
⑧	下地張あり	DRt=9.0＋GB-Rt=9.5 天然木ﾙｰﾊﾞｰ嵌合式直付け30×100 @200 WP
⑨		鉄骨大梁小梁ﾌﾞﾚｰｽ EP-G 屋根野地板：表し 屋根母屋：錆止め(ｸﾞﾚｰ)表し
⑩	下地張あり	けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0 目透張 EP-G

天井点検口(600角)
天井点検口(450角)
Bbox：ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞboxを示す。
Cbox：ｶｰﾃﾝboxを示す。

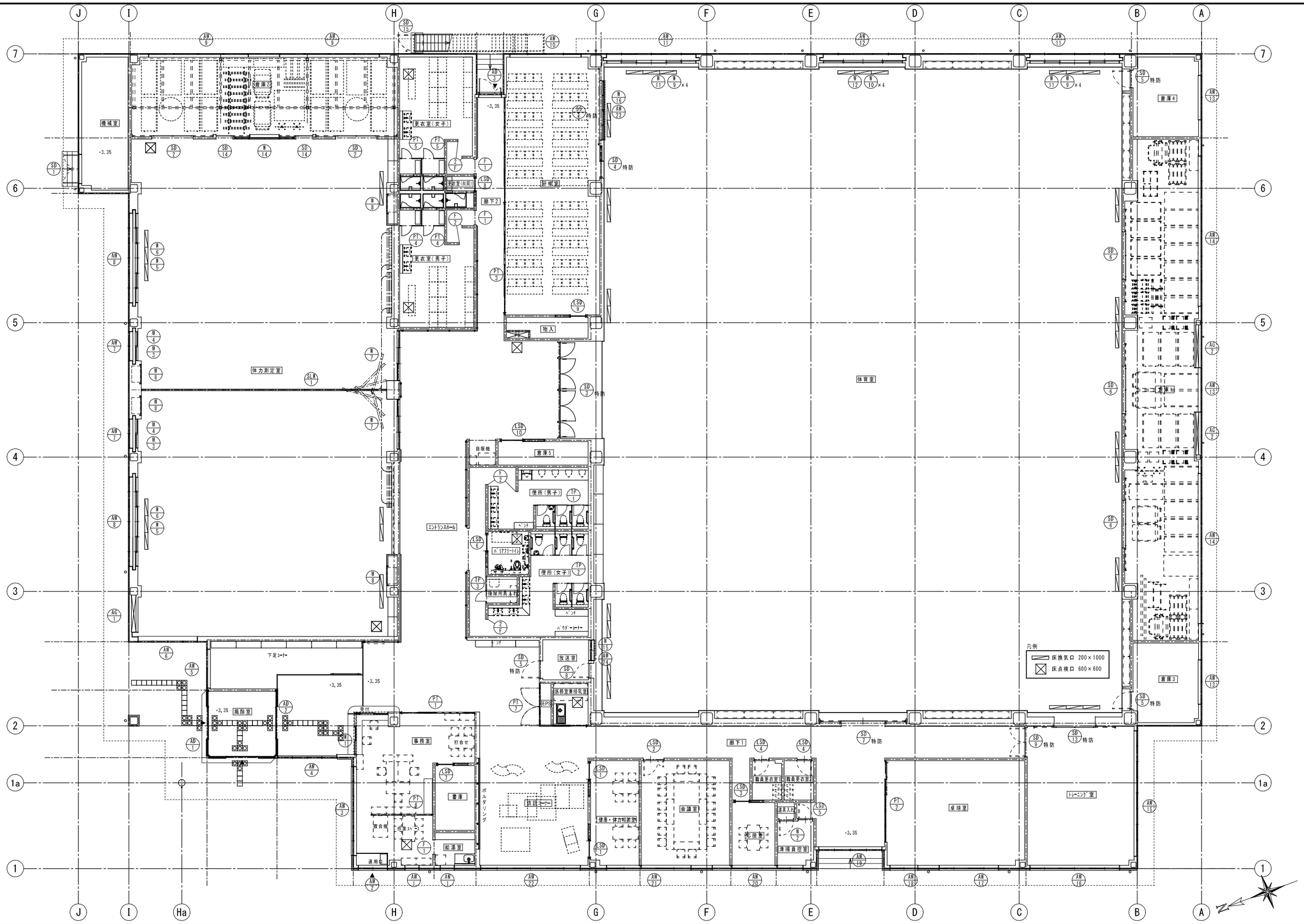
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	組織 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 1階天井伏図	図面 NO. A－070
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/100 A3：1/200	

天井仕上凡例

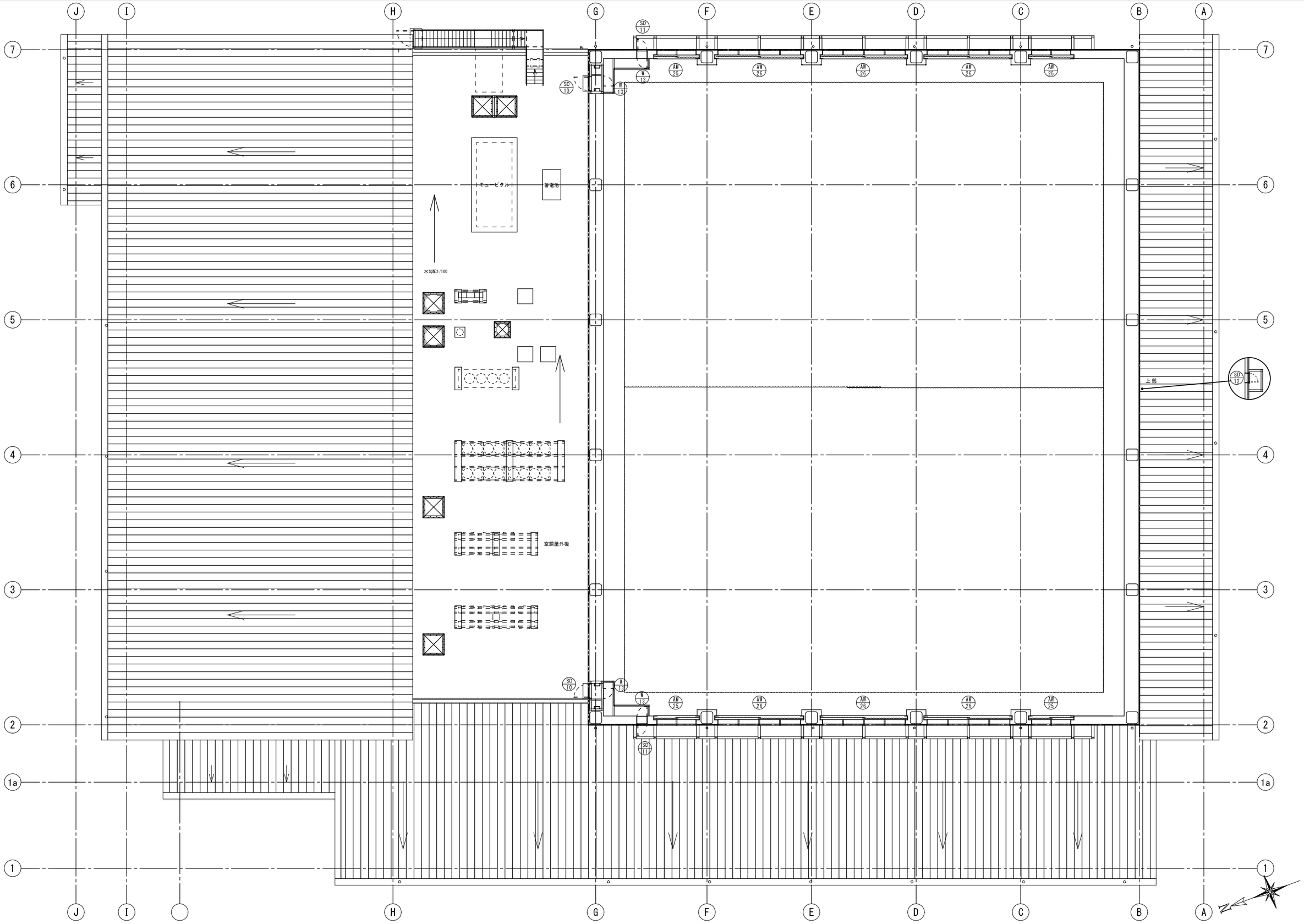
No	下　地	仕　上
①	下地張あり	DRt=9.0＋GB-Rt=9.5
②	下地張なし	GB-Dt=9.5ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ
③	下地張なし	吸音化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ張 t=9.5四角凹 ﾀｲｶﾞｰｽｸｴｱﾄｰﾝ･Dﾌﾟﾗｽ吸音天井ﾎﾞｰﾄﾞ同等
④	下地張なし	GB-Dt=9.5四角凹
⑤	下地張なし	けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0 EP-G
⑥	下地張あり	DRt=9.0＋GB-Rt=9.5 天然木ﾙｰﾊﾞｰ嵌合式直付け30×100 WP
⑦		屋根野地板：表し
⑧	下地張あり	DRt=9.0＋GB-Rt=9.5 天然木ﾙｰﾊﾞｰ嵌合式直付け30×100 @200 WP
⑨		鉄骨大梁小梁ﾌﾞﾚｰｽ EP-G 屋根野地板：表し 屋根母屋：錆止め(ｸﾞﾚｰ)表し
⑩	下地張あり	けい酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0 目透張 EP-G



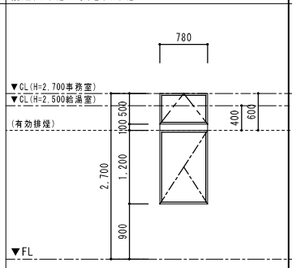
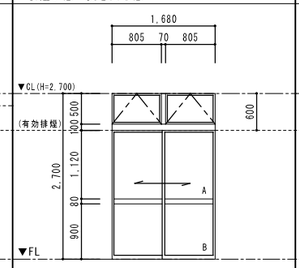
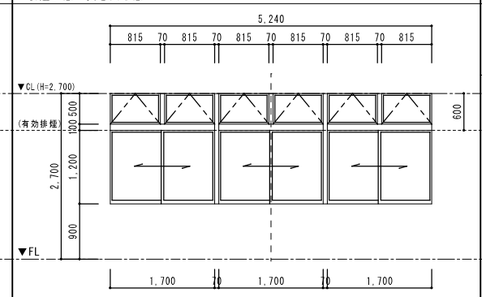
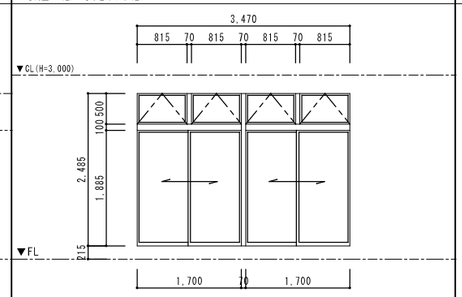
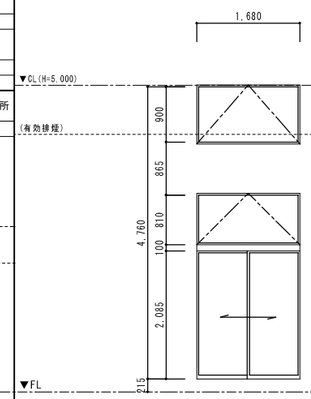
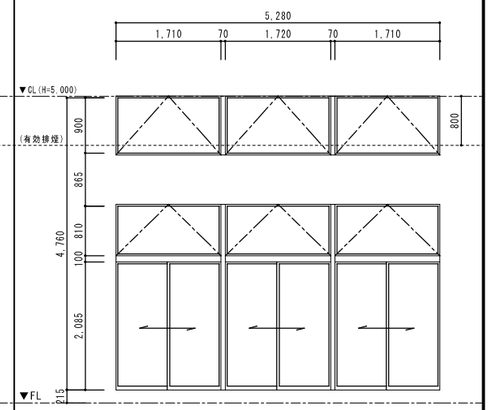
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 キャットウォーク階天井伏図	縮尺 A1：1/100 A3：1/200	図面NO. A－071
	日付 令和７年６月		製図 望月					

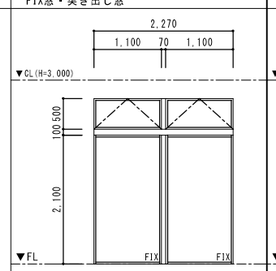
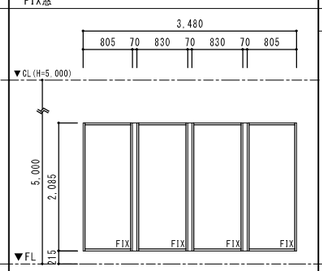
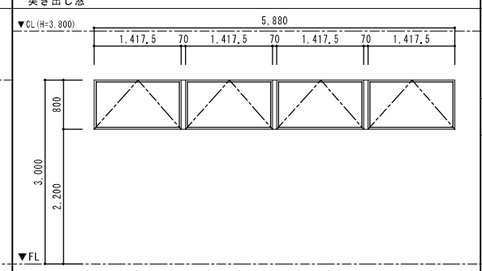
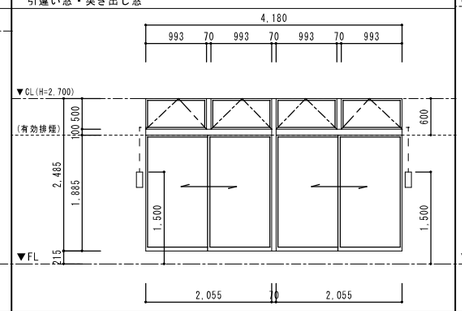


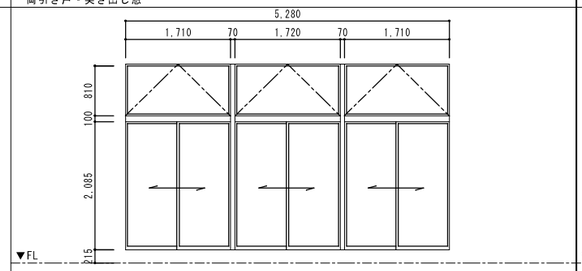
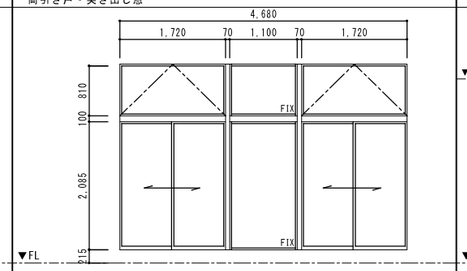
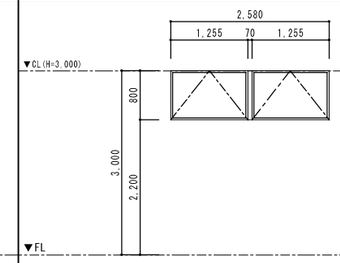
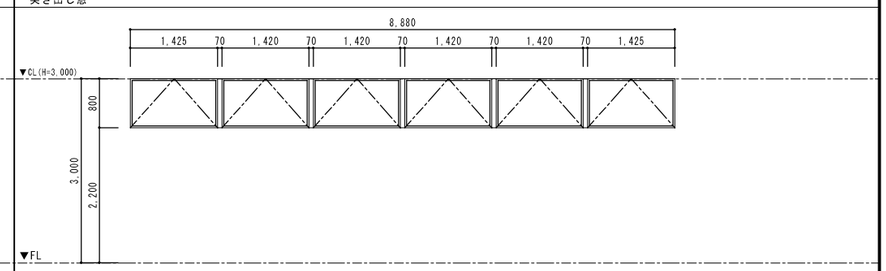
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 1階建具キープラン	図面 NO. A－072
	日付 令和７年６月	図面 望月				縮尺 A1：1/100 A3：1/200	



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 キャットウォーク階建具キープラン	縮尺 A1：1/100 A3：1/200
	日付 令和７年６月		製図 望月				図面 NO. A－０７３

符号	AR 1 給湯室,事務室	AR 2 事務室	AR 3 事務室	AR 4 ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ(上足ｽﾍﾟｰｽ)	AR 7 体力測定室	AR 8 体力測定室
	2 ヶ所	1 ヶ所	1 ヶ所	1 ヶ所	2 ヶ所	2 ヶ所
形式	縦に出し窓・突き出し窓	引違い窓・突き出し窓	引違い窓・突き出し窓	引違い窓・突き出し窓	引違い窓・突き出し窓	引違い窓・突き出し窓
姿図						
材種	ｱﾙﾐ	ｱﾙﾐ	ｱﾙﾐ	ｱﾙﾐ		
枠・(扉) 見込	70	70	70	70		
額縁・(材種)	桧	桧	桧	桧		
水切 見込	ｱﾙﾐ水切	ｱﾙﾐ水切	ｱﾙﾐ水切	ｱﾙﾐ水切		
ガラリ	―	―	―	―		
ガラス	複層ｶﾞﾗｽ(B):学校強化型4+A12+Low-E 学校強化4	複層ｶﾞﾗｽ(A):学校強化4+A12+Low-E 学校強化4 複層ｶﾞﾗｽ(B):学校強化型4+A12+Low-E 学校強化4	複層ｶﾞﾗｽ(A):学校強化4+A12+Low-E 学校強化4	複層ｶﾞﾗｽ(A):学校強化4+A12+Low-E 学校強化4		
付属金物	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸		
防火戸・エアタイト	―	―	―	―		
備考	ｵﾍﾞﾚｰﾀｰ過廻防止機能 ﾜﾝﾀｯﾁ隠蔽、指詰め防止	ｵﾍﾞﾚｰﾀｰ過廻防止機能 隠蔽、指詰め防止	ｵﾍﾞﾚｰﾀｰ過廻防止機能 隠蔽、指詰め防止	ｵﾍﾞﾚｰﾀｰ過廻防止機能 隠蔽、指詰め防止		

符号	AR 5 ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ(上足ｽﾍﾟｰｽ)	AR 6 体力測定室	AR 9 倉庫2	AR 10 研修室
	1 ヶ所	1 ヶ所	2 ヶ所	1 ヶ所
形式	FIX窓・突き出し窓	FIX窓	突き出し窓	引違い窓・突き出し窓
姿図				
材種	ｱﾙﾐ	ｱﾙﾐ	ｱﾙﾐ	ｱﾙﾐ
枠 見込	70	70	70	70
額縁・(材種)	桧	桧	桧	桧
水切 見込	ｱﾙﾐ水切	ｱﾙﾐ水切	ｱﾙﾐ水切	ｱﾙﾐ水切
ガラリ	―	―	―	―
ガラス	複層ｶﾞﾗｽ(A):学校強化4+A12+Low-E 学校強化4	複層ｶﾞﾗｽ(A):学校強化4+A12+Low-E 学校強化4	単板ｶﾞﾗｽ(E):学校強化型4	複層ｶﾞﾗｽ(A):学校強化4+A12+Low-E 学校強化4
付属金物	標準金物一式 網戸	標準金物一式	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸
防火戸・エアタイト	―	―	―	―
備考	ｵﾍﾞﾚｰﾀｰ過廻防止機能 突出し 隠蔽		ｵﾍﾞﾚｰﾀｰ過廻防止機能 ﾜﾝﾀｯﾁ隠蔽	ｵﾍﾞﾚｰﾀｰ過廻防止機能 隠蔽、指詰め防止

符号	AR 11 体育室	AR 12 体育室	AR 13 倉庫1,3,4	AR 14 倉庫1
	2 ヶ所	1 ヶ所	3 ヶ所	2 ヶ所
形式	両引き戸・突き出し窓	両引き戸・突き出し窓	突き出し窓	突き出し窓
姿図				
材種	ｱﾙﾐ	ｱﾙﾐ	ｱﾙﾐ	ｱﾙﾐ
枠 見込	70	70	70	70
額縁・(材種)	桧	桧		
水切 見込	ｱﾙﾐ水切	ｱﾙﾐ水切	ｱﾙﾐ水切	ｱﾙﾐ水切
ガラリ	―	―	―	―
ガラス	複層ｶﾞﾗｽ(A):学校強化4+A12+Low-E 学校強化4	複層ｶﾞﾗｽ(A):学校強化4+A12+Low-E 学校強化4	単板ｶﾞﾗｽ(E):学校強化型4	単板ｶﾞﾗｽ(E):学校強化型4
付属金物	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸
防火戸・エアタイト	―	―	―	―
備考	ｵﾍﾞﾚｰﾀｰ過廻防止機能 ﾜﾝﾀｯﾁ隠蔽、指詰め防止	ｵﾍﾞﾚｰﾀｰ過廻防止機能 ﾜﾝﾀｯﾁ隠蔽、指詰め防止	ｵﾍﾞﾚｰﾀｰ過廻防止機能 ﾜﾝﾀｯﾁ隠蔽	ｵﾍﾞﾚｰﾀｰ過廻防止機能 ﾜﾝﾀｯﾁ隠蔽

■ 共通事項
（1）建具寸法は製作にあたって再度現場調整する。

（2）アルミニウム建具の仕様は、特記仕様書および共通仕様書によるほか下記による。
1．耐風圧性
・S-5
2．気密性
・A-3
3．水密性
・W-4
4．遮音等級
*
5．表面処理
・BA-I（無着色陽極酸化塗装複合皮膜）

■ ガラス凡例
・複層ガラス(A):学校強化4 +A12+Low-E 学校強化4
・複層ガラス(B):学校強化型4+A12+Low-E学校強化4
・複層ガラス(C):学校強化4 +A12+学校強化4
・単板ガラス(D):学校強化4
・単板ガラス(E):学校強化型4
・複層ガラス(F):学校強化4+A6+強化8
・複層ガラス(G):学校強化5+A12+Low-E 学校強化5
※Low-Eガラスは日射遮蔽型とする。

■ その他凡例
・P:アルミパネル
・—・—:ステンレス下枠t=1.5
・－－－－:アルミ額縁
・－ － －:アルミアングル

■ 特記事項（特記無き限り、建具の仕様は下記による。）

・アルミサッシの外部に面する引違い、片引きサッシは開放制限金物を取付けること。	・Low-Eガラスは、日射遮蔽型とする。	・ｵﾍﾞﾚｰﾀｰﾊﾝﾄﾞﾙは空回り防止付きとする。
・建具金物は原則としてステンレス製とし、見本品提示の上現場決定とする。	・ガラス厚は、強度計算を行い決定すること。	
・SD、LSDの吞摺はSUS HL仕上とする。	・滑出し窓含む全ての窓に網戸を後付けできるよう、レールを設けること。	
・排煙窓のオペレータは全て隠蔽式とする。	・滑出し窓は開口制限ストッパーを設けること。	
・ドアクローザーはパラレルタイプとする。防火戸はストッパーなし、その他はストッパーありとする。	・SP、LSD、TPの焼付塗装は指定色とする。	
・特記なき限り、シリンダー錠は片面シリンダー、片面サムターンを原則とする。	・間仕切り壁取合い部はアルミ塞ぎとする。（区画部はスチール塞ぎとする）	
・戸当たりは床付型を原則とし、外部に接する扉はあおり止め付きとする。	・アルミサッシグレードはMTG-70R同等品とする。	
・方立に壁取合い金物がある場合、方立を補強すること。	・外壁胴縁部の建具廻りはﾛｯｸｳｰﾙ充填とする。	
・ガラリの開口率は35%程度とする。（吸気量計算の上、ガラリ寸法を決定すること。）	・開口角度は45° とする。	

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号 大橋康孝

検印	監督	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和7年6月		図面 望月

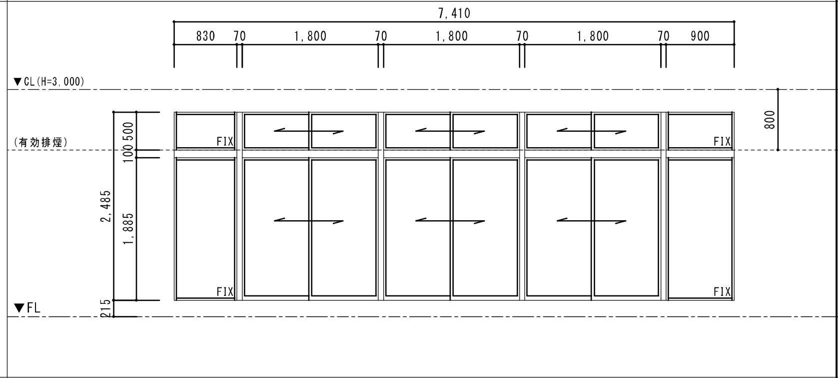
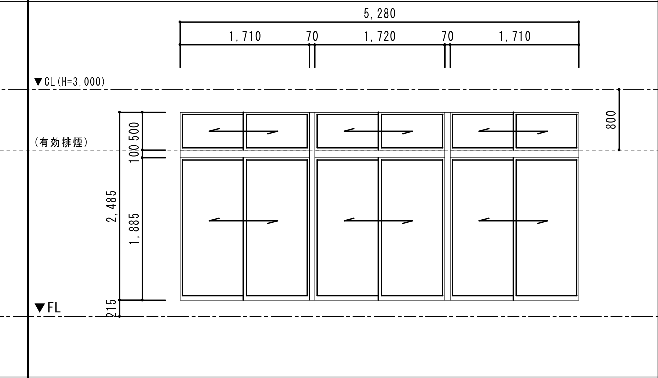
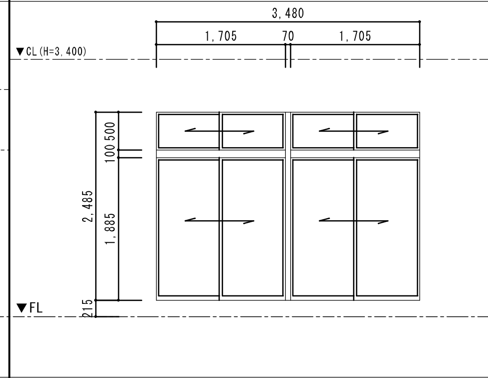
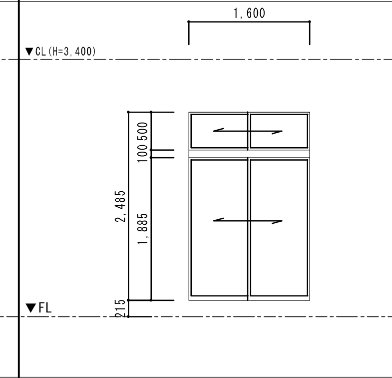
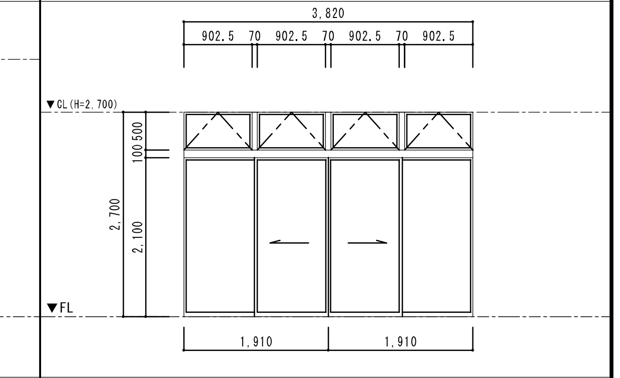
設計 NO.

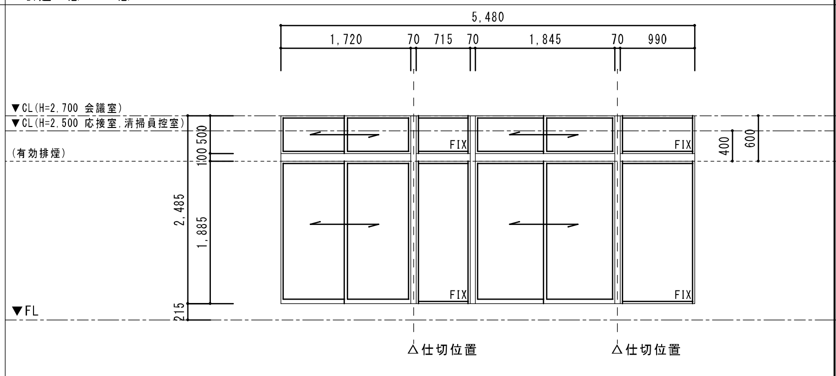
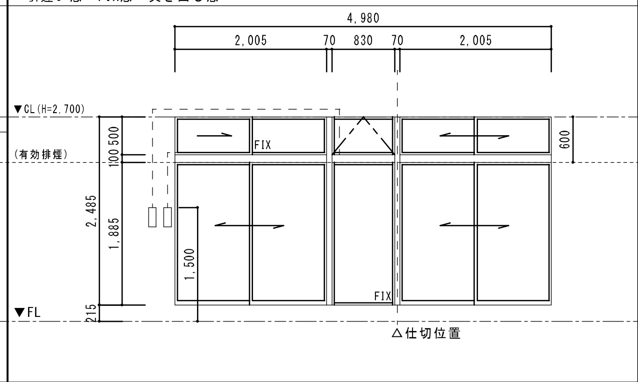
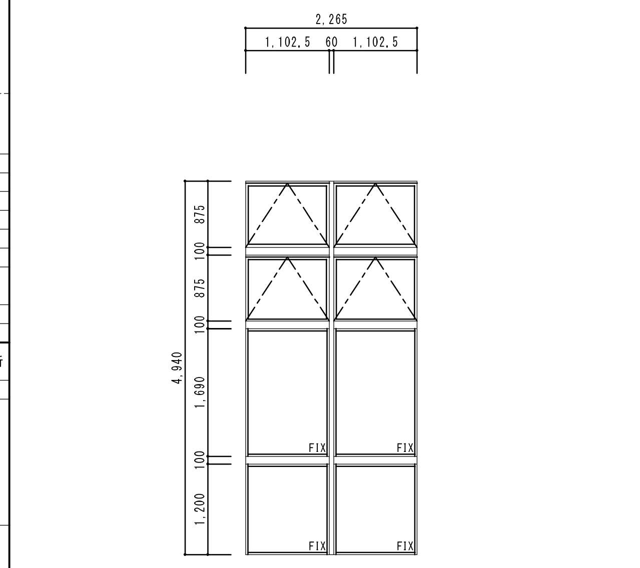
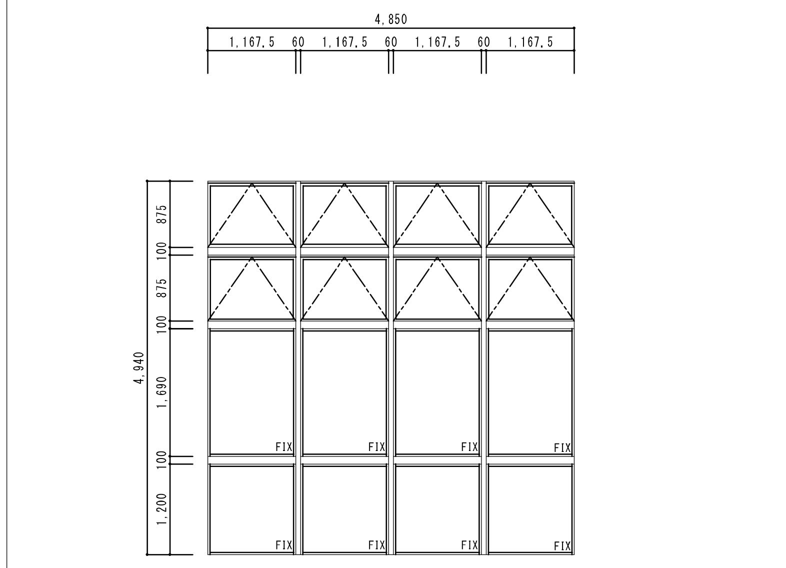
工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

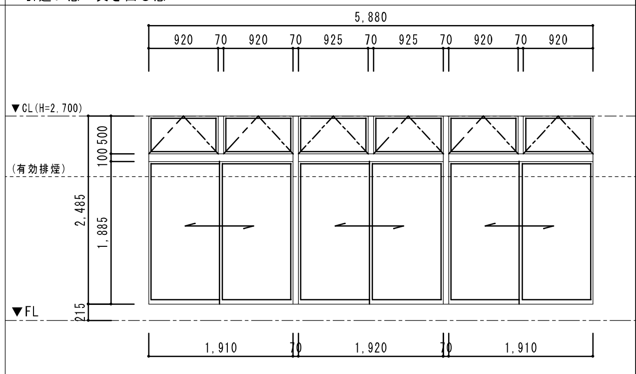
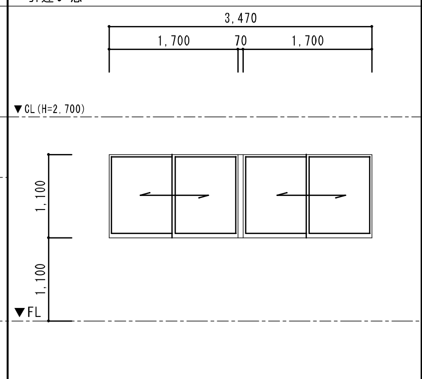
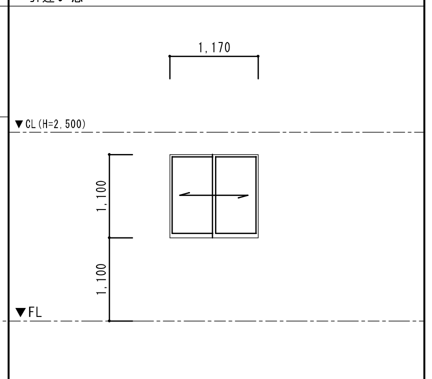
図面名 建具表１

縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図面 NO. A－０７４

符 号	AW 15 トレーニング室 1 ヶ所	AW 16 トレーニング室 1 ヶ所	AW 17 卓球室 1 ヶ所	AW 18 卓球室 1 ヶ所	AW 19 廊下 1 ヶ所
形 式	引違い窓・FIX窓	引違い窓・FIX窓	引違い窓	引違い窓	両引き戸・突き出し窓
姿 図					
材種	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
枠 見込	70	70	70	70	70
額縁・(材種)	桧	桧	桧	桧	桧
水 切 見込	アルミ水切	アルミ水切	アルミ水切	アルミ水切	アルミ水切
ガ ラ リ	ー	ー	ー	ー	ー
ガ ラ ス	複層ガラス(A)：学校強化4＋A12＋Low-E 学校強化4	複層ガラス(A)：学校強化4＋A12＋Low-E 学校強化4	複層ガラス(A)：学校強化4＋A12＋Low-E 学校強化4	複層ガラス(A)：学校強化4＋A12＋Low-E 学校強化4	複層ガラス(A)：学校強化4＋A12＋Low-E 学校強化4
付属金物	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸
防火戸・エアタイト	ー	ー	ー	ー	ー
備 考	指詰め防止	指詰め防止	指詰め防止	指詰め防止	オペレーター過廻防止機能 突出しワンタッチ隠蔽、指詰め防止

符 号	AW 20 清掃員控室、応接室、会議室 1 ヶ所	AW 21 会議室、健康・体力相談室 1 ヶ所	AW 25 体育室 4 ヶ所	AW 26 体育室 6 ヶ所
形 式	引違い窓・FIX窓	引違い窓・FIX窓・突き出し窓	FIX窓・突き出し窓	FIX窓・突き出し窓
姿 図			 ・アルミサッシグレードはNL-R同等品とする。	 ・アルミサッシグレードはNL-R同等品とする。
材種	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
枠 見込	70	70	70 方建 170×70	70 方建 170×70
額縁・(材種)	桧	桧	桧	桧
水 切 見込	アルミ水切	アルミ水切	アルミ水切	アルミ水切
ガ ラ リ	ー	ー	ー	ー
ガ ラ ス	複層ガラス(A)：学校強化4＋A12＋Low-E 学校強化4	複層ガラス(A)：学校強化4＋A12＋Low-E 学校強化4	上段2段 複層ガラス(A)：学校強化4+A12+Low-E 学校強化4、下段FIX 複層ガラス(G)：学校強化5+A12+Low-E 学校強化5	上段2段 複層ガラス(A)：学校強化4+A12+Low-E 学校強化4、下段FIX 複層ガラス(G)：学校強化5+A12+Low-E 学校強化5
付属金物	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸
防火戸・エアタイト	ー	ー	ー	ー
備 考	指詰め防止	オペレーター過廻防止機能 突出しワンタッチ隠蔽、指詰め防止	オペレーター過廻防止機能 突出しワンタッチ隠蔽	オペレーター過廻防止機能 突出しワンタッチ隠蔽

符 号	AW 22 談話コーナー 1 ヶ所	AW 23 研修室 1 ヶ所	AW 24 放送室 1 ヶ所
形 式	引違い窓・突き出し窓	引違い窓	引違い窓
姿 図			
材種	アルミ	アルミ	アルミ
枠 見込	70	70	70
額縁・(材種)	桧	桧	桧
水 切 見込	アルミ水切	アルミ水切	アルミ水切
ガ ラ リ	ー	ー	ー
ガ ラ ス	複層ガラス(A)：学校強化4＋A12＋Low-E 学校強化4	複層ガラス(F)：学校強化4＋A6＋強化8	単板ガラス(E)：学校強化4
付属金物	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸	標準金物一式 網戸
防火戸・エアタイト	ー	ー	ー
備 考	オペレーター過廻防止機能 突出しワンタッチ隠蔽、指詰め防止	指詰め防止　遮音等級T-2	指詰め防止

■ 共通事項
（1）建具寸法は製作にあたって再度現場調整する。

（2）アルミニウム建具の仕様は、特記仕様書および共通仕様書によるほか下記による。
1. 耐風圧性
・S-5
2. 気密性
・A-3
3. 水密性
・W-4
4. 遮音等級
*
5. 表面処理
・BA-1（無着色陽極酸化塗装複合皮膜）

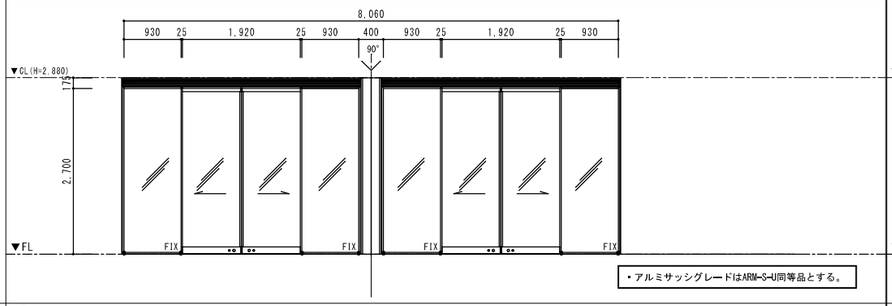
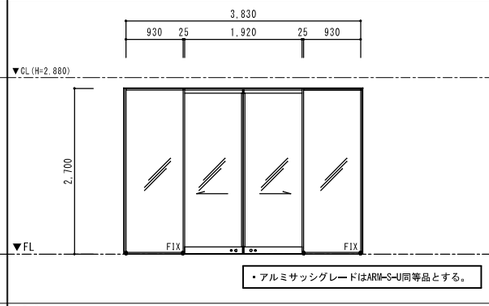
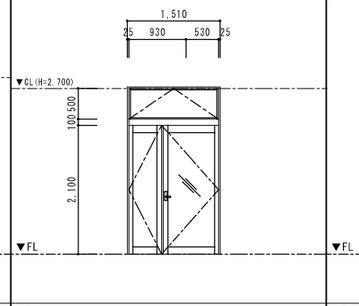
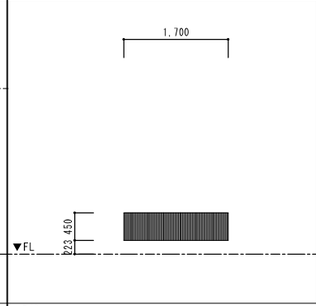
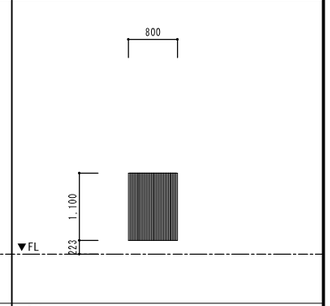
■ ガラス凡例
・複層ガラス(A)：学校強化4　＋A12＋Low-E 学校強化4
・複層ガラス(B)：学校強化型4＋A12＋Low-E学校強化4
・複層ガラス(C)：学校強化4　＋A12＋学校強化4
・単板ガラス(D)：学校強化4
・単板ガラス(E)：学校強化型4
・複層ガラス(F)：学校強化4＋A6＋強化8
・複層ガラス(G)：学校強化5＋A12＋Low-E 学校強化5
※Low-Eガラスは日射遮蔽型とする。

■ その他凡例
・P：アルミパネル
・—-—：ステンレス下枠t=1.5
・-----：アルミ額縁
・- — -：アルミアングル

■ 特記事項（特記無き限り、建具の仕様は下記による。）

・アルミサッシの外部に面する引違い、片引きサッシは開放制限金物を取付けること。	・Low-Eガラスは、日射遮蔽型とする。	・オペレーターハンドルは空回り防止付きとする。
・建具金物は原則としてステンレス製とし、見本品提示の上現場決定とする。	・ガラス厚は、強度計算を行い決定すること。	
・SD、LSDの沓摺はSUS　HL仕上とする。	・滑出し窓含む全ての窓に網戸を後付けできるよう、レールを設けること。	
・排煙窓のオペレータは全て隠蔽式とする。	・滑出し窓は開口制限ストッパーを設けること。	
・ドアクローザーはパラレルタイプとする。防火戸はストッパーなし、その他はストッパーありとする。	・SP、LSD、TPの焼付塗装は指定色とする。	
・特記なき限り、シリンダー錠は片面シリンダー、片面サムターンを原則とする。	・間仕切り壁取合い部はアルミ塞ぎとする。（区画部はスチール塞ぎとする）	
・戸当たりは床付型を原則とし、外部に接する扉はあおり止め付きとする。	・アルミサッシグレードはMTG-70R同等品とする。	
・方立に壁取合い金物がある場合、方立を補強すること。	・外壁胴縁部の建具廻りはロックウール充填とする。	
・ガラリの開口率は35%程度とする。（吸気量計算の上、ガラリ寸法を決定すること。）	・開口角度は45°とする。	

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋 日付 令和7年6月	総括 大橋	主任 大橋 製図 望月	設計 NO.	工事名 令和7年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 建具表２	縮尺 A1：1/50 A3：1/100	図面NO. A－075

符号	AD 1 風除室	1 ヶ所	AD 2 風除室	1 ヶ所	AD 3 ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ	1 ヶ所	AG 1 体力測定室	1 ヶ所	AG 2 倉庫1	2 ヶ所
形式	引分け 上框隠蔽型(ｵｰﾄﾄﾞｱ)・FIX		引分け 上隠蔽型(ｵｰﾄﾄﾞｱ)・FIX		親子扉・FIX窓・突き出し窓		防水ｶﾞﾗﾘ		防水ｶﾞﾗﾘ	
姿図										
材種	ｱﾙﾐ		ｱﾙﾐ		ｱﾙﾐ		ｱﾙﾐ		ｱﾙﾐ	
枠 見込	75		75		70		70		70	
額縁・(材種)										
水切 見込					ｽﾃﾝﾚｽ沓摺					
ガラリ	ー		ー		ー					
ガラス	複層ｶﾞﾗｽ(G)：学校強化5＋A12＋Low-E 学校強化5		複層ｶﾞﾗｽ(G)：学校強化5＋A12＋Low-E 学校強化5		複層ｶﾞﾗｽ(A)：学校強化4＋A12＋Low-E 学校強化4		ー		ー	
付属金物	標準金物一式		標準金物一式		標準金物一式		標準金物一式　有効開口率70%		標準金物一式　有効開口率70%	
防火戸・エアタイト	ー		ー		ー					
備考	光線反射ｽｲｯﾁ、補助赤外線ｾﾝｻｰ、ｽﾃﾝﾚｽ衝突防止ﾏｰｸ		光線反射ｽｲｯﾁ、補助赤外線ｾﾝｻｰ、ｽﾃﾝﾚｽ衝突防止ﾏｰｸ		ｵﾍﾞﾚｰﾀｰ過巡防止機能 ﾜﾝﾀｯﾁ隠蔽		防虫金網		防虫金網	

■ 共通事項
（1）建具寸法は製作にあたって再度現場調整する。

（2）アルミニウム建具の仕様は、特記仕様書および共通仕様書によるほか下記による。
1．耐風圧性
・S-5
2．気密性
・A-3
3．水密性
・W-4
4．遮音等級
*
5．表面処理
・BA-I（無着色陽極酸化塗装複合皮膜）

■ ガラス凡例
・複層ガラス(A)：学校強化4　＋A12＋Low-E 学校強化4
・複層ガラス(B)：学校強化型4＋A12＋Low-E学校強化4
・複層ガラス(C)：学校強化4　＋A12＋学校強化4
・単板ガラス(D)：学校強化4
・単板ガラス(E)：学校強化型4
・複層ガラス(F)：学校強化4＋A6＋強化8
・複層ガラス(G)：学校強化5＋A12＋Low-E 学校強化5
※Low-Eガラスは日射遮蔽型とする。

■ その他凡例
・P：アルミパネル
・—·—·—：ステンレス下枠t=1.5
・－－－－：アルミ額縁
・－ － －：アルミアングル

■ 特記事項（特記無き限り、建具の仕様は下記による。）

・アルミサッシの外部に面する引違い、片引きサッシは開放制限金物を取付けること。	・Low-Eガラスは、日射遮蔽型とする。	・ｵﾍﾞﾚｰﾀｰﾊﾝﾄﾞﾙは空回り防止付きとする。
・建具金物は原則としてステンレス製とし、見本品提示の上現場決定とする。	・ガラス厚は、強度計算を行い決定すること。	
・ＳＤ、ＬＳＤの沓摺はＳＵＳ　ＨＬ仕上とする。	・滑出し窓含む全ての窓に網戸を後付けできるよう、ﾚｰﾙを設けること。	
・排煙窓のオペレータは全て隠蔽式とする。	・滑出し窓は開口制限ストッパーを設けること。	
・ドアクローザーはパラレルタイプとする。防火戸はストッパーなし、その他はストッパーありとする。	・SP、LSD、TPの焼付塗装は指定色とする。	
・特記なき限り、シリンダー錠は片面シリンダー、片面サムターンを原則とする。	・間仕切り壁取合い部はアルミ塞ぎとする。（区画部はスチール塞ぎとする）	
・戸当たりは床付型を原則とし、外部に接する扉はあおり止め付きとする。	・アルミサッシグレードはMTG-70R同等品とする。	
・方立に壁取合い金物がある場合、方立を補強すること。	・外壁胴縁部の建具廻りはﾛｯｸｳｰﾙ充填とする。	
・ガラリの開口率は35%程度とする。（吸気量計算の上、ガラリ寸法を決定すること。）	・開口角度は45°とする。	

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号　大橋康孝

検印	監理	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和７年６月	契印 望月	

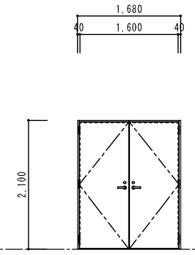
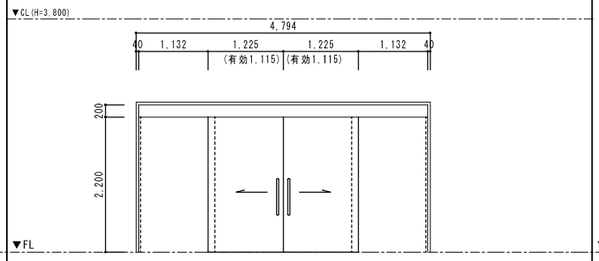
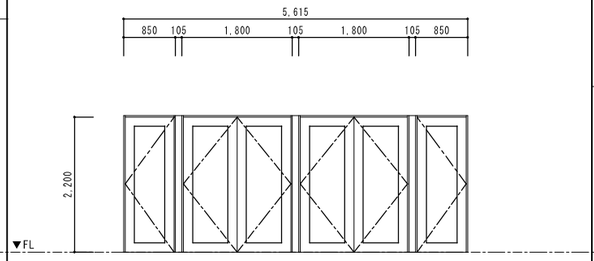
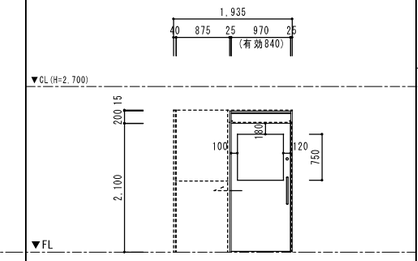
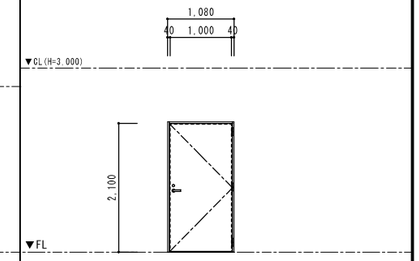
設計 NO.

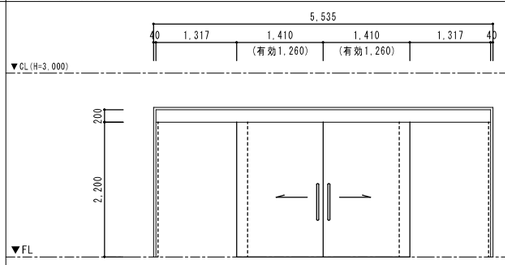
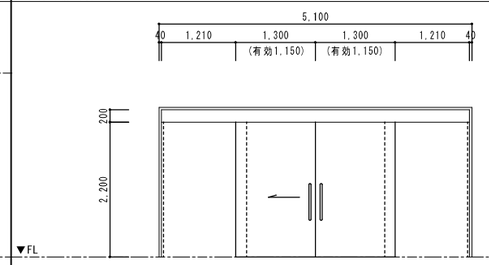
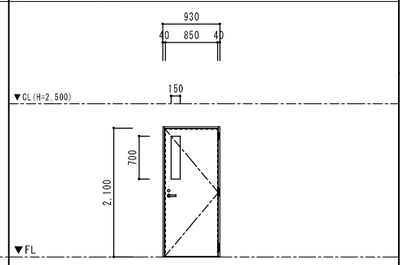
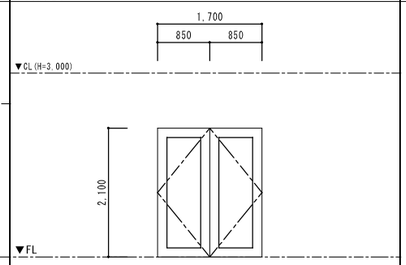
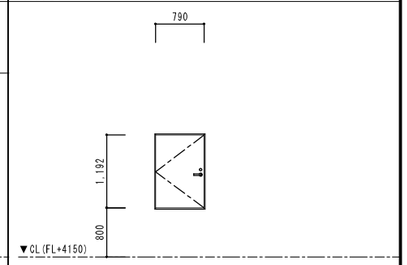
工事名　令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

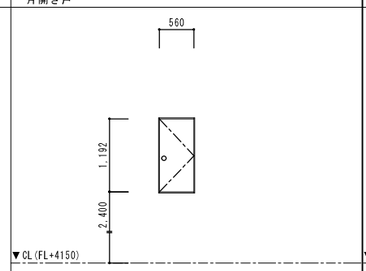
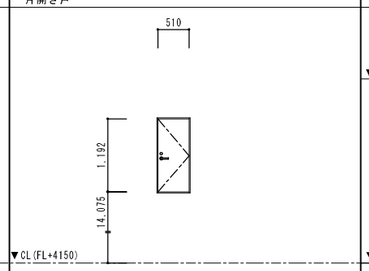
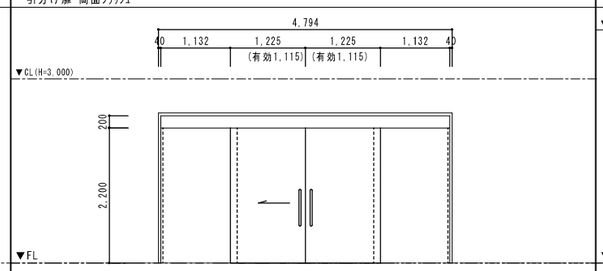
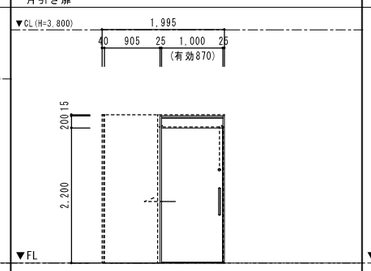
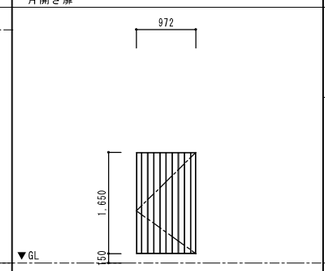
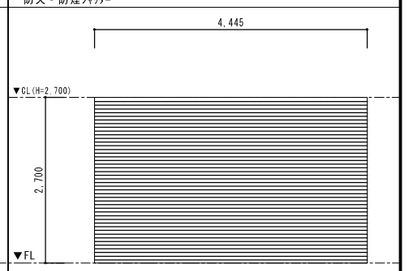
図面名　建具表３

縮尺　A1：1/50　A3：1/100

図面 NO.　Ａ－０７６

符号	SD 1 機械室	1 ヶ所	SD 2 倉庫2	2 ヶ所	SD 3 体育室	1 ヶ所	SD 4 研修室	1 ヶ所	SD 5 倉庫3,倉庫4,放送室	3 ヶ所
形式	両開き扉 両面ﾌﾗｯｼｭ		引分け扉 両面ﾌﾗｯｼｭ		片開き扉+両開き扉		片引き扉		片開き扉 両面ﾌﾗｯｼｭ	
姿図					 構造仕様:大臣認定(EA-0169) 閉鎖性能:昭和48年告示第2563号 第1・一		 構造仕様:大臣認定(EA-0369) 閉鎖性能:昭和48年告示第2563号 第1・一		 構造仕様:H12年告示1369号 第1・五 閉鎖性能:昭和48年告示第2563号 第1・一	
見込	40		40		40		40		40	
材種	ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ	
仕上	焼付塗装		焼付塗装		焼付塗装		焼付塗装		焼付塗装	
ガラス	―		―		耐熱強化ｶﾞﾗｽ 8mm		耐熱板ｶﾞﾗｽ ﾌｧｲｱﾗｲﾄﾈｵ ｸﾘｱ		―	
付属金物	水切り(枠)ｽﾃﾝﾚｽ1.5t、沓摺(ｴｱﾀｲﾄ型)ｽﾃﾝﾚｽ1.5t、丁番、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ錠、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ(ｽﾄｯﾌﾟ付き)、戸当たり		額縁 ｽﾁｰﾙ1.6t、ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙ、引戸鎌錠、引(押)棒、引き戸ｸﾛｰｻﾞ		沓摺(ﾁｬﾝﾈﾙ型)ｽﾃﾝﾚｽ1.5t、丁番、ﾌﾟｯｼｭﾌﾟﾙ錠、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ(ｽﾄｯﾌﾟ無)、戸当たり		鎌錠、引(押)棒、標準金具ｾｯﾄ、制動装置(制動装置本体)、煙感連動装置(全開ﾚﾘｰｽﾞ)		丁番、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ錠、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ(ｽﾄｯﾌﾟ無)、戸当り	
防火戸・エアタイト	SAT		―		特定防火設備(常時閉鎖)		特定防火設備(常時閉鎖)		特定防火設備(常時閉鎖)	
備考	―									

符号	SD 6 倉庫1	3 ヶ所	SD 7 体育室	1 ヶ所	SD 8 放送室	1 ヶ所	SD 9 ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ室	1 ヶ所	SD 10 体育室	2 ヶ所
形式	引分け扉 両面ﾌﾗｯｼｭ		引分け扉 両面ﾌﾗｯｼｭ		片開き扉 両面ﾌﾗｯｼｭ		両開き戸		片開き戸	
姿図			 構造仕様:H12年告示1369号 第1・五 閉鎖性能:昭和48年告示第2563号 第1・一				 構造仕様:大臣認定(EA-0169) 閉鎖性能:昭和48年告示第2563号 第1・一			
見込	40		40		40		40		40	
材種	ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ	
仕上	焼付塗装		焼付塗装		焼付塗装		焼付塗装		焼付塗装	
ガラス	―		―		強化ｶﾞﾗｽ t=4		耐熱強化ｶﾞﾗｽ 8mm		―	
付属金物	ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙ、引戸鎌錠、引(押)棒、引き戸ｸﾛｰｻﾞ		ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙ、引(押)棒、引き戸ｸﾛｰｻﾞ		丁番、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ錠、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ(ｽﾄｯﾌﾟ付)、戸当り		沓摺(ﾁｬﾝﾈﾙ型)ｽﾃﾝﾚｽ1.5t、丁番、ﾌﾟｯｼｭﾌﾟﾙ錠、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ(ｽﾄｯﾌﾟ無) 戸当たり		水切り(枠)ｽﾃﾝﾚｽ1.5t、沓摺(ｴｱﾀｲﾄ型)ｽﾃﾝﾚｽ1.5t、丁番、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ錠、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ(ｽﾄｯﾌﾟ付き)、戸当たり	
防火戸・エアタイト	―		特定防火設備(常時閉鎖)		SAT		特定防火設備(常時閉鎖)		SAT	
備考					―				―	

符号	SD 11 体育室	2 ヶ所	SD 12 体育室	1 ヶ所	SD 13 ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ室	1 ヶ所	SD 14 倉庫2	2 ヶ所	SD 15 屋外階段	1 ヶ所	SS 1 研修室	1 ヶ所
形式	片開き戸		片開き戸		引分け扉 両面ﾌﾗｯｼｭ		片引き扉		片開き扉		防火・防煙ｼｬｯﾀｰ	
姿図					 構造仕様:H12年告示1369号 第1・五 閉鎖性能:昭和48年告示第2563号 第1・一						 構造仕様:H12年告示1369号 第1・五 閉鎖性能:昭和48年告示第2563号 第1・二	
見込	40		40		40		40					
材種	ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ		ｽﾁｰﾙ	
仕上	焼付塗装		焼付塗装		焼付塗装		焼付塗装		溶融亜鉛ﾒｯｷ		SOP・錆止塗装	
ガラス	―		―		―		―		―		―	
付属金物	水切り(枠)ｽﾃﾝﾚｽ1.5t、沓摺(ｴｱﾀｲﾄ型)ｽﾃﾝﾚｽ1.5t、ｵｰﾄﾋﾝｼﾞ、ｹｰｽﾊﾝﾄﾞﾙ		水切り(枠)ｽﾃﾝﾚｽ1.5t、沓摺(ｴｱﾀｲﾄ型)ｽﾃﾝﾚｽ1.5t、丁番、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ錠、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ(ｽﾄｯﾌﾟ付き)、戸当たり		ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙ、引(押)棒、引き戸ｸﾛｰｻﾞ		ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙ、引戸鎌錠、引(押)棒、引き戸ｸﾛｰｻﾞ		標準金物一式		標準金物一式、急降下停止装置、煙感連動装置一式、避難時停止装置 ｼｬｯﾀｰ電動式 二次側配線	
防火戸・エアタイト	SAT		SAT		特定防火設備(常時閉鎖)		―		―		特定防火設備(遮煙)(随時閉鎖)	
備考	―		―								ｽﾗｯﾄt=1.6	

■ 共通事項
（1）建具寸法は製作にあたって再度現場調整する。

（2）アルミニウム建具の仕様は、特記仕様書および共通仕様書によるほか下記による。
1．耐風圧性
・S-5
2．気密性
・A-3
3．水密性
・W-4
4．遮音等級
*
5．表面処理
・BA-1（無着色陽極酸化塗装複合皮膜）

■ ガラス凡例
・複層ガラス(A)：学校強化4 ＋A12＋Low-E 学校強化4
・複層ガラス(B)：学校強化型4＋A12＋Low-E学校強化4
・複層ガラス(C)：学校強化4 ＋A12＋学校強化4
・単板ガラス(D)：学校強化4
・単板ガラス(E)：学校強化型4
※Low-Eガラスは日射遮蔽型とする。

■ その他凡例
・P：アルミパネル
・—・—：ステンレス下枠t=1.5
・－－－－：アルミ額縁
・－ － －：アルミアングル

■ 特記事項（特記無き限り、建具の仕様は下記による。）

・アルミサッシの外部に面する引違い、片引きサッシは開放制限金物を取付けること。	・Low-Eガラスは、日射遮蔽型とする。	・ｵﾍﾞﾚｰﾀｰﾊﾝﾄﾞﾙは空回り防止付きとする。
・建具金物は原則としてステンレス製とし、見本品提示の上現場決定とする。	・ガラス厚は、強度計算を行い決定すること。	
・SD、LSDの沓摺はSUS HL仕上とする。	・滑出し窓含む全ての窓に網戸を後付けできるよう、レールを設けること。	
・排煙窓のオペレータは全て隠蔽式とする。	・滑出し窓は開口制限ストッパーを設けること。	
・ドアクローザーはパラレルタイプとする。防火戸はストッパーなし、その他はストッパーありとする。	・SP、LSD、TPの焼付塗装は指定色とする。	
・特記なき限り、シリンダー錠は片面シリンダー、片面サムターンを原則とする。	・間仕切り壁取合い部はアルミ塞ぎとする。（区画部はスチール塞ぎとする）	
・戸当たりは床付型を原則とし、外部に接する扉はあおり止め付きとする。		
・方立に壁取合い金物がある場合、方立を補強すること。	・外壁胴縁部の建具廻りはﾛｯｸｳｰﾙ充填とする。	
・ガラリの開口率は35%程度とする。（吸気量計算の上、ガラリ寸法を決定すること。）	・開口角度は45°とする。	

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343622号 大橋康孝

検印	監督	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和7年6月		図図 望月

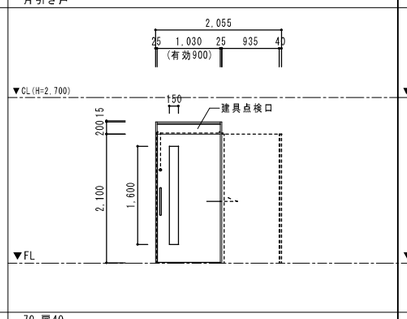
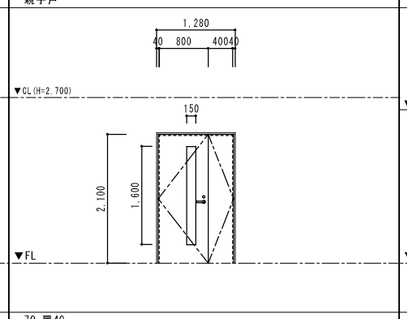
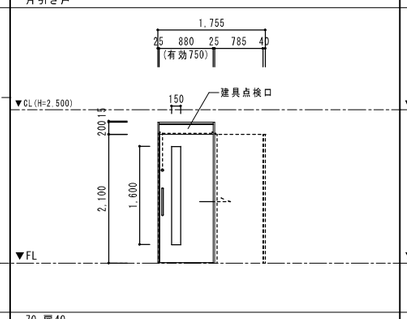
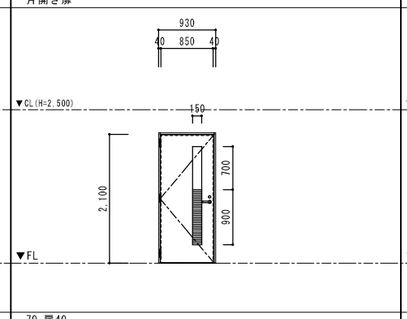
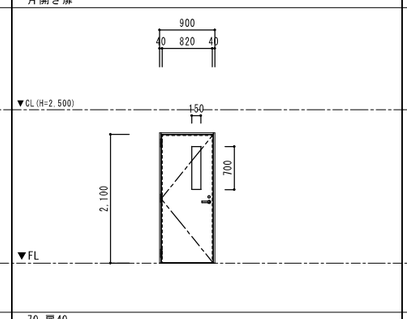
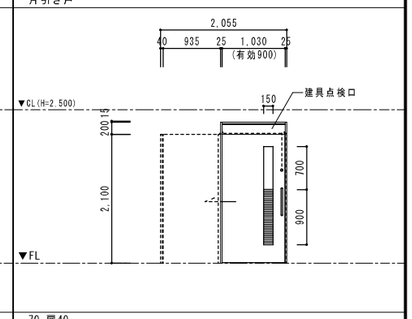
設計 NO.

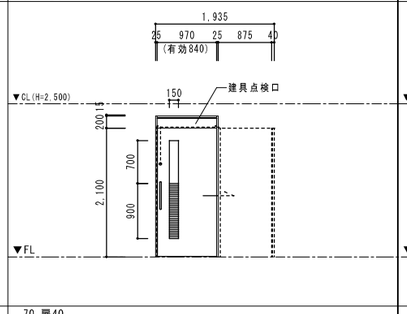
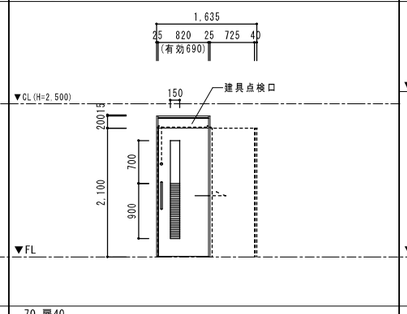
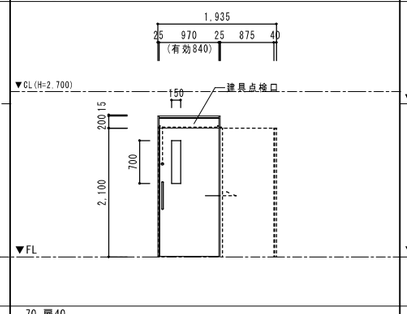
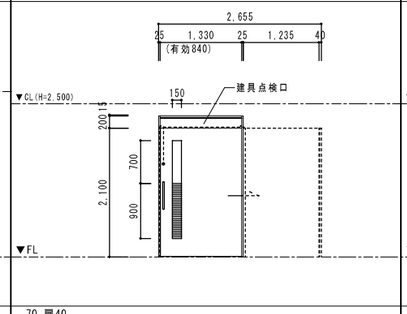
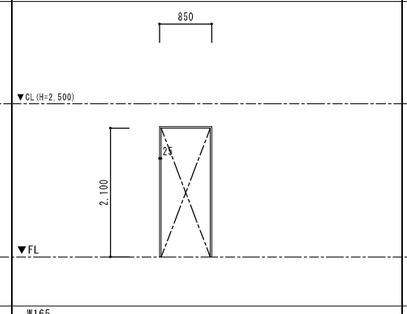
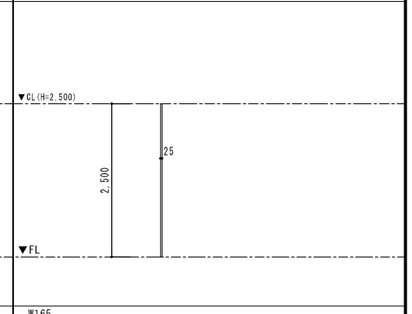
工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名 建具表４

縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図面 NO. A－０７７

符号	LSD 1 健康・体力相談室	LSD 2 会議室	LSD 3 応接室	LSD 4 職員更衣室1,職員更衣室2	LSD 5 清掃員控室	LSD 6 ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰﾄｲﾚ
	2 ヶ所	1 ヶ所	1 ヶ所	2 ヶ所	1 ヶ所	1 ヶ所
形式	片引き戸	親子戸	片引き戸	片開き扉	片開き扉	片引き戸
姿図						
見込	70 扉40	70 扉40	70 扉40	70 扉40	70 扉40	70 扉40
材種	冷間圧延鋼板	冷間圧延鋼板	冷間圧延鋼板	冷間圧延鋼板	冷間圧延鋼板	冷間圧延鋼板
仕上	焼付塗装 指定色	焼付塗装 指定色	焼付塗装 指定色	焼付塗装 指定色	焼付塗装 指定色	焼付塗装 指定色
	表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板　芯材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板　心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板　芯材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板　心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板　心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板　芯材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ
ガラス	学校強化4	学校強化4	学校強化4	学校強化4	学校強化4	学校強化4
付属金物	ｱﾙﾐｼｰﾙ、引戸錠、ｴｱﾌﾞﾚｰｷ、ｽﾃﾝﾚｽ引手	鍵付きﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、戸当り	ｱﾙﾐｼｰﾙ、引戸錠、ｴｱﾌﾞﾚｰｷ、ｽﾃﾝﾚｽ引手	鍵付きﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、戸当り	鍵付きﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、戸当り	ｱﾙﾐｼｰﾙ、引戸錠、ｴｱﾌﾞﾚｰｷ、ｽﾃﾝﾚｽ引手
防火戸・エアタイト	－	－	－	－	－	－
備考	指はさみ防止ｽﾄｯﾊﾟｰ		指はさみ防止ｽﾄｯﾊﾟｰ	ｱﾙﾐｶﾞﾗﾘ(焼付塗装)		指はさみ防止ｽﾄｯﾊﾟｰ　ｱﾙﾐｶﾞﾗﾘ(焼付塗装)

符号	LSD 7 書庫	LSD 8 更衣室(共同)	LSD 9 物入	LSD 10 倉庫5	F 1 給湯室、更衣室(男子)、更衣室(女)	F 2 便所(男子)、便所(女子)、更衣室(男子)、更衣室(女)
	1 ヶ所	1 ヶ所	1 ヶ所	1 ヶ所	3 ヶ所	7 ヶ所
形式	片引き戸	片引き戸	片引き戸	片引き戸		
姿図						
見込	70 扉40	70 扉40	70 扉40	70 扉40	W165	W165
材種	冷間圧延鋼板	冷間圧延鋼板	冷間圧延鋼板	冷間圧延鋼板	ｽﾁｰﾙ	ｽﾁｰﾙ
仕上	焼付塗装 指定色	焼付塗装 指定色	焼付塗装 指定色	焼付塗装 指定色	焼付塗装	焼付塗装
	表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板　芯材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板　芯材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板　芯材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板　芯材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ		
ガラス	学校強化4	学校強化4	学校強化4	学校強化4	―	―
付属金物	ｱﾙﾐｼｰﾙ、引戸錠、ｴｱﾌﾞﾚｰｷ、ｽﾃﾝﾚｽ引手	ｱﾙﾐｼｰﾙ、引戸錠、ｴｱﾌﾞﾚｰｷ、ｽﾃﾝﾚｽ引手	ｱﾙﾐｼｰﾙ、引戸錠、ｴｱﾌﾞﾚｰｷ、ｽﾃﾝﾚｽ引手	ｱﾙﾐｼｰﾙ、引戸錠、ｴｱﾌﾞﾚｰｷ、ｽﾃﾝﾚｽ引手		
防火戸・エアタイト	－	－	－	－	－	－
備考	指はさみ防止ｽﾄｯﾊﾟｰ　ｱﾙﾐｶﾞﾗﾘ(焼付塗装)	指はさみ防止ｽﾄｯﾊﾟｰ　ｱﾙﾐｶﾞﾗﾘ(焼付塗装)	指はさみ防止ｽﾄｯﾊﾟｰ	指はさみ防止ｽﾄｯﾊﾟｰ　ｱﾙﾐｶﾞﾗﾘ(焼付塗装)		

■ 共通事項
（1）建具寸法は製作にあたって再度現場調整する。

（2）アルミニウム建具の仕様は、特記仕様書および共通仕様書によるほか下記による。
1．耐風圧性
・S-5
2．気密性
・A-3
3．水密性
・W-4
4．遮音等級
*
5．表面処理
・BA-1（無着色陽極酸化塗装複合皮膜）

■ ガラス凡例
・複層ガラス(A)：学校強化4　＋A12＋Low-E 学校強化4
・複層ガラス(B)：学校強化型4＋A12＋Low-E学校強化4
・複層ガラス(C)：学校強化4　＋A12＋学校強化4
・単板ガラス(D)：学校強化4
・単板ガラス(E)：学校強化型4
※Low-Eガラスは日射遮蔽型とする。

■ その他凡例
・P：アルミパネル
・—·—：ステンレス下枠t=1.5
・－－－－：アルミ額縁
・－ － －：アルミアングル

■ 特記事項（特記無き限り、建具の仕様は下記による。）

・アルミサッシの外部に面する引違い、片引きサッシは開放制限金物を取付けること。	・Low-Eガラスは、日射遮蔽型とする。	・ﾎﾟﾚｰﾀｰﾊﾝﾄﾞﾙは空回り防止付きとする。
・建具金物は原則としてステンレス製とし、見本品提示の上現場決定とする。	・ガラス厚は、強度計算を行い決定すること。	
・ＳＤ、ＬＳＤの吝嗇はＳＵＳ　ＨＬ仕上とする。	・滑出し窓含む全ての窓に網戸を後付けできるよう、レールを設けること。	
・排煙窓のオペレータは全て隠蔽式とする。	・滑出し窓は開口制限ストッパーを設けること。	
・ドアクローザーはパラレルタイプとする。防火戸はストッパーなし、その他はストッパーありとする。	・SP、LSD、TPの焼付塗装は指定色とする。	
・特記なき限り、シリンダー錠は片面シリンダー、片面サムターンを原則とする。	・間仕切り壁取合い部はアルミ塞ぎとする。（区画部はスチール塞ぎとする）	
・戸当たりは床付型を原則とし、外部に接する扉はあおり止め付きとする。		
・方立に壁取合い金物がある場合、方立を補強すること。	・外壁胴縁部の建具廻りはﾛｯｸｳｰﾙ充填とする。	
・ガラリの開口率は35%程度とする。（吸気量計算の上、ガラリ寸法を決定すること。）	・開口角度は45°とする。	

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号　大橋康孝

検印	監督	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和７年６月		図面 望月

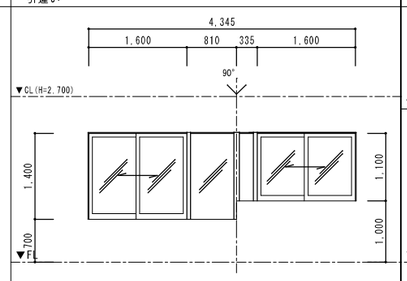
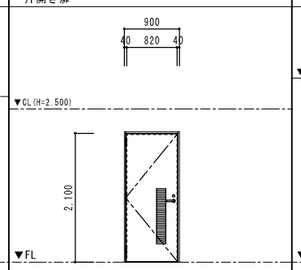
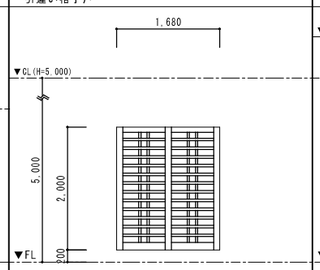
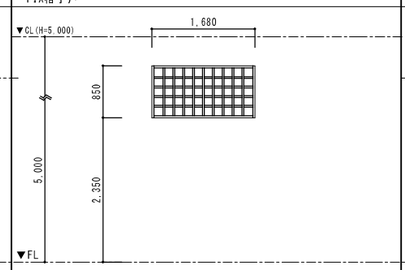
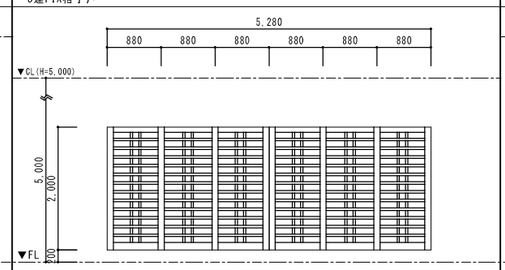
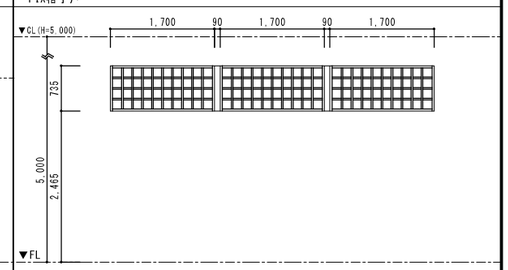
設計 NO.

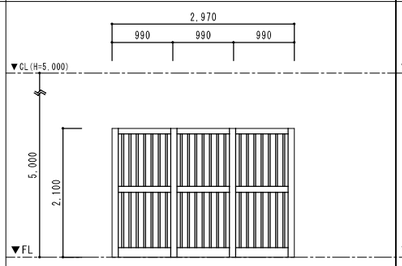
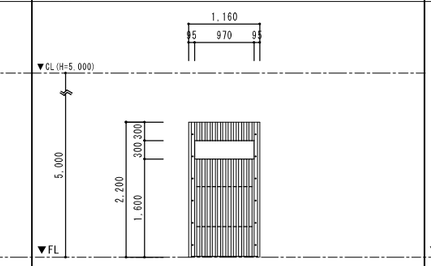
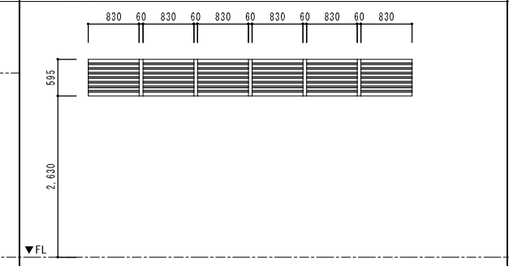
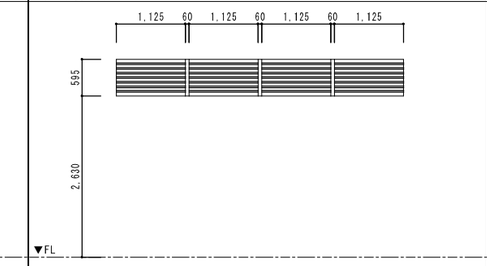
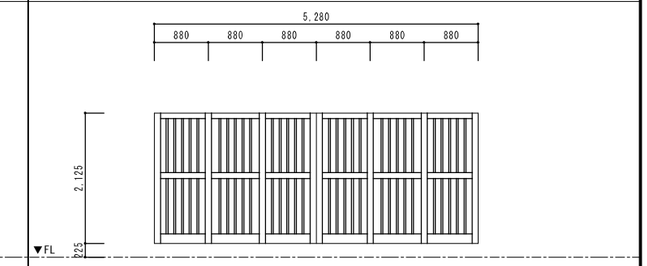
工事名　令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

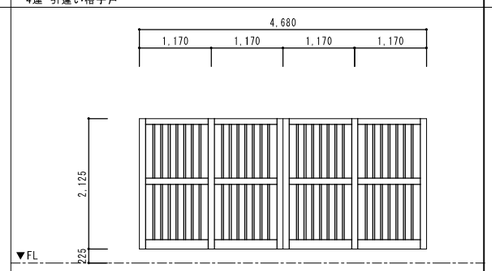
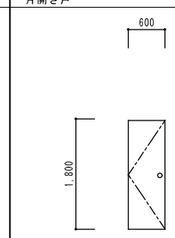
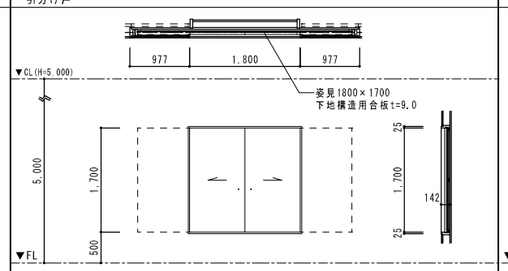
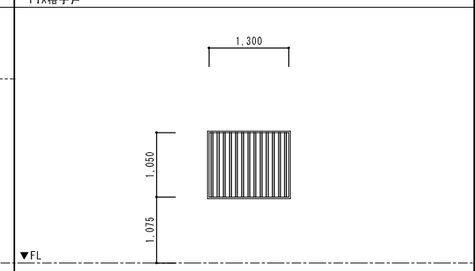
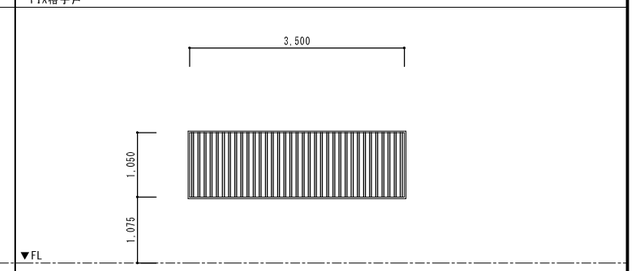
図面名　建具表５

縮尺　A1：1/50　A3：1/100

図面 NO.　Ａ－０７８

符号	W1 事務室 1ヶ所	W2 道具入れ 1ヶ所	W3 体力測定室 2ヶ所	W4 体力測定室 2ヶ所	W5 体力測定室 2ヶ所	W6 体力測定室 2ヶ所
形式	引違い	片開き扉	引違い格子戸	FIX格子戸	3連FIX格子戸	FIX格子戸
姿図						
見込	36	40	40	40	40	40
材種	桧	ｼﾅ合板ﾌﾗｯｼｭ	ｼﾅ合板ﾌﾗｯｼｭ	桧	桧	桧
仕上	WP	WP	WP	WP	WP	WP
ガラス	学校強化4	―	―	―	―	―
付属金物	標準金物一式、戸車、ﾚｰﾙ、ﾈｼﾞ締り錠	標準金物一式、丁番、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｶﾞﾗﾘ	標準金物一式、掘込引手、指詰め防止		標準金物一式、掘込引手、指詰め防止	
防火戸・エアタイト	―	―	―	―	―	―
備考						

符号	W7 体力測定室 2ヶ所	W8 体力測定室 4ヶ所	W9 体育室 2ヶ所	W10 体育室 1ヶ所	W11 体育室 2ヶ所
形式	3連 引違い格子戸	空調用扉	ﾗﾝﾏ木製ｶﾞﾗﾘ	ﾗﾝﾏ木製ｶﾞﾗﾘ	6連 引違い格子戸
姿図					
見込	40	40	40	40	40
材種	桧	ｼﾅ合板 t=5.5＋構造用合板 t=8.0 43×35格子			桧
仕上	WP	WP			WP
ガラス	学校強化4	―	―	―	―
付属金物	標準金物一式、掘込引手、指詰め防止				標準金物一式、掘込引手、指詰め防止
防火戸・エアタイト	―	―	―	―	―
備考					

符号	W12 体育室 1ヶ所	W13 体育室 4ヶ所	W14 体力測定室 1ヶ所	W15 体育室(放送室) 1ヶ所	W16 体育室(研修室) 1ヶ所
形式	4連 引違い格子戸	片開き戸	引分け戸	FIX格子戸	FIX格子戸
姿図					
見込	40		30	40	40
材種	桧	ｼﾅ合板 t=12.0 ﾌﾗｯｼｭ ｳﾗ合板 t=5.5	ｼﾅ合板 t=12.0 ﾌﾗｯｼｭ ｳﾗ合板 t=5.5	桧	桧
仕上	WP	WP	WP	WP	WP
ガラス	―			―	―
付属金物	標準金物一式、掘込引手、指詰め防止	ｹｰｽﾊﾝﾄﾞﾙ、ﾄﾞｱｾﾝｻﾞ			
防火戸・エアタイト	―			―	―
備考					

■ 共通事項

（1）建具寸法は製作にあたって再度現場調整する。

（2）アルミニウム建具の仕様は、特記仕様書および共通仕様書によるほか下記による。

1．耐風圧性
・S-5
2．気密性
・A-3
3．水密性
・W-4
4．遮音等級
*
5．表面処理
・BA-I（無着色陽極酸化塗装複合皮膜）

■ ガラス凡例

・複層ガラス(A)：学校強化4 ＋A12＋Low-E 学校強化4
・複層ガラス(B)：学校強化型4＋A12＋Low-E学校強化4
・複層ガラス(C)：学校強化4 ＋A12＋学校強化4
・単板ガラス(D)：学校強化4
・単板ガラス(E)：学校強化型4
※Low-Eガラスは日射遮蔽型とする。

■ その他凡例

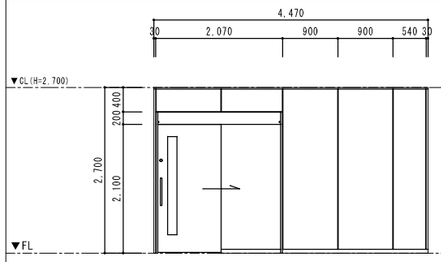
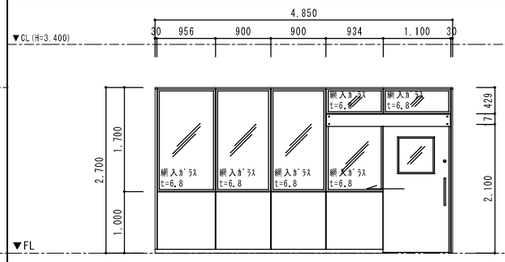
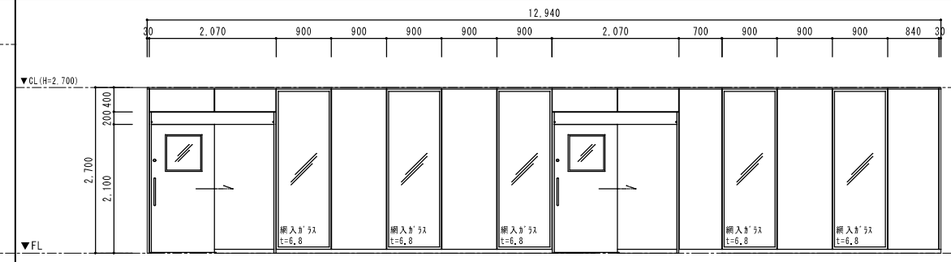
・P：アルミパネル
・—·—：ステンレス下枠t=1.5
・———：アルミ額縁
・— — —：アルミアングル

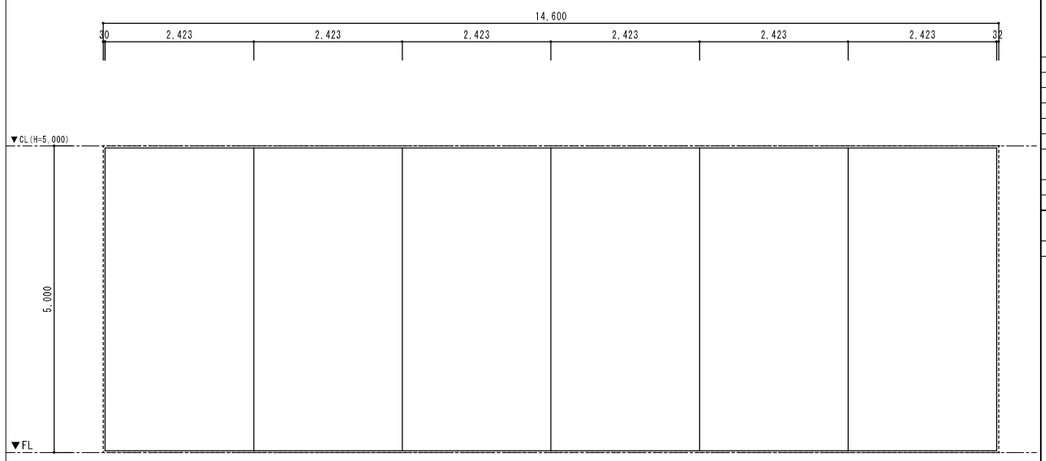
■ 特記事項（特記無き限り、建具の仕様は下記による。）

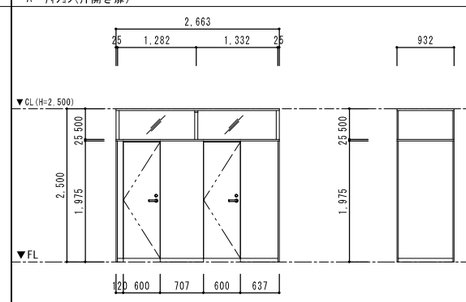
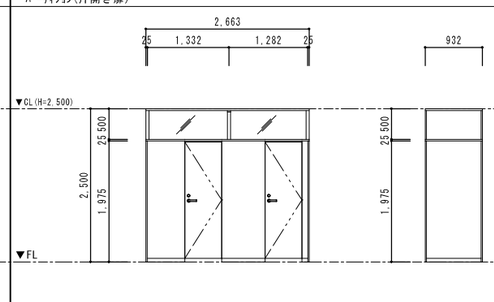
・アルミサッシの外部に面する引違い、片引きサッシは開放制限金物を取付けること。	・Low-Eガラスは、日射遮蔽型とする。	・ﾎﾟﾚｰﾀｰﾊﾝﾄﾞﾙは空回り防止付きとする。
・建具金物は原則としてステンレス製とし、見本品提示の上現場決定とする。	・ガラス厚は、強度計算を行い決定すること。	
・ＳＤ、ＬＳＤの吝摺はＳＵＳ　ＨＬ仕上とする。	・滑出し窓含む全ての窓に網戸を後付けできるよう、レールを設けること。	
・排煙窓のオペレータは全て隠蔽式とする。	・滑出し窓は開口制限ストッパーを設けること。	
・ドアクローザーはパラレルタイプとする。防火戸はストッパーなし、その他はストッパーありとする。	・SP、LSD、TPの焼付塗装は指定色とする。	
・特記なき限り、シリンダー錠は片面シリンダー、片面サムターンを原則とする。	・間仕切り壁取合い部はアルミ塞ぎとする。（区画部はスチール塞ぎとする）	
・戸当たりは床付型を原則とし、外部に接する扉はあおり止め付きとする。		
・方立に壁取合い金物がある場合、方立を補強すること。	・外壁胴縁部の建具廻りはﾛｯｸｳｰﾙ充填とする。	
・ガラリの開口率は35%程度とする。（吸気量計算の上、ガラリ寸法を決定すること。）	・開口角度は45°とする。	

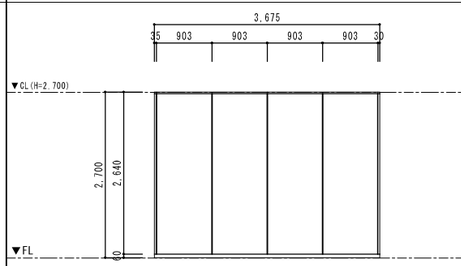
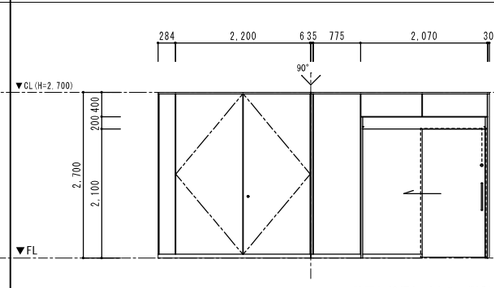
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検図 大橋	監督 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 建具表６
	日付 令和７年６月		図面 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図面 NO. A－０７９

符号	PT 1 事務室	1 ヶ所	PT 2 卓球室	1 ヶ所	PT 3 研修室	1 ヶ所
形式	パーティション(片引き戸・FIX窓)		パーティション(片引き戸・FIX窓)		パーティション(片引き戸・FIX窓)	
姿図						
見込	70 扉32		70 扉32		70 扉32	
骨材	冷間圧延鋼板		冷間圧延鋼板		冷間圧延鋼板	
仕上	焼付塗装 指定色		焼付塗装 指定色		焼付塗装 指定色	
	表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板 (扉：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ 裏打材:PB12.5)		表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板 (扉：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ 裏打材:PB12.5)		表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板 (扉：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ 裏打材:PB12.5)	
ガラス	学校強化4		学校強化4・網入りガラスt=6.8		学校強化4・網入りガラスt=6.8	
付属金物	ｱﾙﾐｼｰﾙ、引戸錠、ｴｱﾌﾞﾚｰｷ、ｽﾃﾝﾚｽ引手		ｱﾙﾐｼｰﾙ、引戸錠、ｴｱﾌﾞﾚｰｷ、ｽﾃﾝﾚｽ引手		ｱﾙﾐｼｰﾙ、引戸錠、ｴｱﾌﾞﾚｰｷ、ｽﾃﾝﾚｽ引手	
防火戸・エアタイト	―		―		―	
備考	指はさみ防止ｽﾄｯﾊﾟｰ ﾄﾞｱ内蔵引込ﾀｲﾌﾟ		指はさみ防止ｽﾄｯﾊﾟｰ ﾄﾞｱ内蔵引込ﾀｲﾌﾟ		指はさみ防止ｽﾄｯﾊﾟｰ ﾄﾞｱ内蔵引込ﾀｲﾌﾟ	

符号	SLR 1 体力測定室	1 ヶ所
形式	パーティション	
姿図		
見込	100	
材種	ｱﾙﾐ押出成形*ﾎﾞｰﾄﾞ下地 表面材 繊維混入せっこう板 t=8 GW32K50mm充填	
仕上	ｸﾛｽ貼	
ガラス	―	
付属金物	ﾚｰﾙ ｽﾁｰﾙ ｱﾙﾐ押出成形材 ｽﾁｰﾙ戸当たり ｶｰﾌﾞﾚｰﾙとする	
防火戸・エアタイト	―	
備考	遮音仕様	

符号	PT 4 更衣室(男子)	1 ヶ所	PT 5 更衣室(女子)	1 ヶ所
形式	ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ(片開き扉)		ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ(片開き扉)	
姿図				
材種	芯材 ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ		芯材 ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	
仕上	高圧ﾒﾗﾐﾝ化粧板		高圧ﾒﾗﾐﾝ化粧板	
窓				
開戸・引戸	高圧ﾒﾗﾐﾝ化粧板		高圧ﾒﾗﾐﾝ化粧板	
ガラス	学校強化4		学校強化4	
付属金物	標準金物一式、ｽﾃﾝﾚｽ巾木、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、ｱﾙﾐ笠木、ｽﾃﾝﾚｽ製戸当帽子掛け ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠		標準金物一式、ｽﾃﾝﾚｽ巾木、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、ｱﾙﾐ笠木、ｽﾃﾝﾚｽ製戸当帽子掛け ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠	
防火戸・エアタイト	―		―	
備考				

符号	PT 6 事務室	1 ヶ所	PT 7 医務室兼授乳室、EPS	1 ヶ所
形式	パーティション			
姿図				
			壁面化粧鋼板パネル W2519.6×H2700×D55	
見込	70		70 扉40	
材種	ｽﾁｰﾙ		冷間圧延鋼板	
仕上	焼付塗装		焼付塗装 指定色	
	表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板 (裏打材:PB12.5)		表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板 芯材：せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	
開戸・引戸	―			
ガラス	―		表面材：亜鉛ﾒｯｷ鋼板	
付属金物	標準金物一式		ｱﾙﾐｼｰﾙ、引戸錠、ｴｱﾌﾞﾚｰｷ、ｽﾃﾝﾚｽ引手	
防火戸・エアタイト	―		―	
備考			指はさみ防止ｽﾄｯﾊﾟｰ ﾄﾞｱ内蔵引込ﾀｲﾌﾟ 枠無し点検ﾄﾞｱ	

■ 共通事項
（1）建具寸法は製作にあたって再度現場調整する。

（2）アルミニウム建具の仕様は、特記仕様書および共通仕様書によるほか下記による。
1．耐風圧性
・S-5
2．気密性
・A-3
3．水密性
・W-4
4．遮音等級
*
5．表面処理
・BA-1（無着色陽極酸化塗装複合皮膜）

■ ガラス凡例
・複層ガラス(A)：学校強化4 ＋A12＋Low-E 学校強化4
・複層ガラス(B)：学校強化型4＋A12＋Low-E学校強化4
・複層ガラス(C)：学校強化4 ＋A12＋学校強化4
・単板ガラス(D)：学校強化4
・単板ガラス(E)：学校強化型4
※Low-Eガラスは日射遮蔽型とする。

■ その他凡例
・P：アルミパネル
・—·—：ステンレス下枠t=1.5
・－－－－：アルミ額縁
・－ － －：アルミアングル

■ 特記事項（特記無き限り、建具の仕様は下記による。）

・アルミサッシの外部に面する引違い、片引きサッシは開放制限金物を取付けること。	・Low-Eガラスは、日射遮蔽型とする。	・ｵﾍﾟﾚｰﾀｰﾊﾝﾄﾞﾙは空回り防止付きとする。
・建具金物は原則としてステンレス製とし、見本品提示の上現場決定とする。	・ガラス厚は、強度計算を行い決定すること。	
・SD、LSDの音層はSUS HL仕上とする。	・滑出し窓含む全ての窓に網戸を後付けできるよう、レールを設けること。	
・排煙窓のオペレータは全て隠蔽式とする。	・滑出し窓は開口制限ストッパーを設けること。	
・ドアクローザーはパラレルタイプとする。防火戸はストッパーなし、その他はストッパーありとする。	・SP、LSD、TPの焼付塗装は指定色とする。	
・特記なき限り、シリンダー錠は片面シリンダー、片面サムターンを原則とする。	・間仕切り壁取合い部はアルミ塞ぎとする。（区画部はスチール塞ぎとする）	
・戸当たりは床付型を原則とし、外部に接する扉はあおり止め付きとする。		
・方立に壁取合い金物がある場合、方立を補強すること。	・外壁胴縁部の建具廻りはﾛｯｸｳｰﾙ充填とする。	
・ガラリの開口率は35%程度とする。（吸気量計算の上、ガラリ寸法を決定すること。）	・開口角度は45° とする。	

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343622号 大橋康孝

検印	監督	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和７年６月		図面 望月

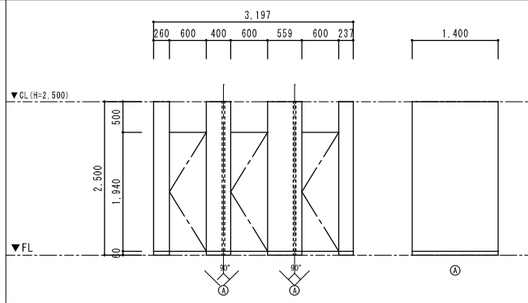
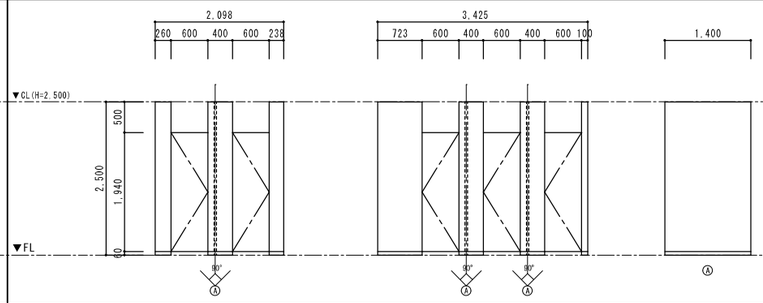
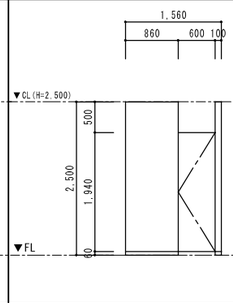
設計 NO.

工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

図面名 建具表７

縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図面 NO. A－０８０

符号	TP 1 便所(男子) 1 ヶ所	TP 2 便所(女子) 1 ヶ所	TP 3 便所(SK) 1 ヶ所	
形式	トイレブース	トイレブース	トイレブース	
姿図				
骨材	芯材 ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	芯材 ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	芯材 ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	
パネル	高圧ﾒﾗﾐﾝ化粧板	高圧ﾒﾗﾐﾝ化粧板	高圧ﾒﾗﾐﾝ化粧板	
窓	―	―	―	
開戸・引戸	高圧ﾒﾗﾐﾝ化粧板 見込40	高圧ﾒﾗﾐﾝ化粧板 見込40	高圧ﾒﾗﾐﾝ化粧板 見込40	
ガラス	―	―	―	
付属金物	標準金物一式、ｽﾃﾝﾚｽ巾木、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、ｱﾙﾐ笠木、ｽﾃﾝﾚｽ製戸当帽子掛け	標準金物一式、ｽﾃﾝﾚｽ巾木、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、ｱﾙﾐ笠木、ｽﾃﾝﾚｽ製戸当帽子掛け	標準金物一式、ｽﾃﾝﾚｽ巾木、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、ｱﾙﾐ笠木、ｽﾃﾝﾚｽ製戸当帽子掛け	
防火戸・エアタイト	―	―	―	
備考	表示付ｽﾗｲﾄﾞﾗｯﾁ錠	表示付ｽﾗｲﾄﾞﾗｯﾁ錠	表示付ｽﾗｲﾄﾞﾗｯﾁ錠	

■ ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ一覧

・ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ	W2,420×H2,850	(数量 1)
・ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ	W1,810×H2,740	(数量 2)
・事務室	W1,850×H1,150	(数量 1)
・事務室	W1,810×H2,050	(数量 2)
・事務室	W1,770×H2,050	(数量 1)
・事務室	W1,830×H2,850	(数量 1)
・事務室	W930×H2,050	(数量 1)
・談話ｺｰﾅｰ	W2,020×H2,740	(数量 2)
・談話ｺｰﾅｰ	W1,990×H2,740	(数量 1)
・会議室、健康・体力相談室	W2,080×H2,740	(数量 1)
・会議室、健康・体力相談室	W2,980×H2,740	(数量 1)
・清掃員控室、控室、会議室	W1,070×H2,740	(数量 1)
・清掃員控室、控室、会議室	W2,630×H2,740	(数量 1)
・清掃員控室、控室、会議室	W1,800×H2,740	(数量 1)
・廊下1	W2,020×H2,850	(数量 2)
・廊下2	W1,660×H2,850	(数量 1)
・卓球室	W1,750×H2,740	(数量 1)
・卓球室	W1,820×H2,740	(数量 2)
・ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ室	W1,820×H2,740	(数量 2)
・ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ室	W1,790×H2,740	(数量 1)
・ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ室	W2,880×H2,740	(数量 1)
・ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ室	W1,870×H2,740	(数量 1)
・ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ室	W2,810×H2,740	(数量 1)
・研修室	W2,170×H2,740	(数量 2)
・研修室	W900×H2,850	(数量 5)

■ 共通事項

（1）建具寸法は製作にあたって再度現場調整する。

（2）アルミニウム建具の仕様は、特記仕様書および共通仕様書によるほか下記による。

1．耐風圧性
・S-5
2．気密性
・A-3
3．水密性
・W-4
4．遮音等級
＊
5．表面処理
・BA-I（無着色陽極酸化塗装複合皮膜）

■ ガラス凡例

・複層ガラス(A)：学校強化4 ＋A12＋Low-E 学校強化4
・複層ガラス(B)：学校強化型4＋A12＋Low-E学校強化4
・複層ガラス(C)：学校強化4 ＋A12＋学校強化4
・単板ガラス(D)：学校強化4
・単板ガラス(E)：学校強化型4
※Low-Eガラスは日射遮蔽型とする。

■ その他凡例

・P：アルミパネル
・—・—：ステンレス下枠t=1.5
・－－－－：アルミ額縁
・－ － －：アルミアングル

■ 特記事項（特記無き限り、建具の仕様は下記による。）

・アルミサッシの外部に面する引違い、片引きサッシは開放制限金物を取付けること。	・Low-Eガラスは、日射遮蔽型とする。	・ｵﾍﾟﾚｰﾀｰﾊﾝﾄﾞﾙは空回り防止付きとする。
・建具金物は原則としてステンレス製とし、見本品提示の上現場決定とする。	・ガラス厚は、強度計算を行い決定すること。	
・ＳＤ、ＬＳＤの吝摺はＳＵＳ ＨＬ仕上とする。	・滑出し窓含む全ての窓に網戸を後付けできるよう、ﾚｰﾙを設けること。	
・排煙窓のオペレータは全て隠蔽式とする。	・滑出し窓は開口制限ストッパーを設けること。	
・ドアクローザーはパラレルタイプとする。防火戸はストッパーなし、その他はストッパーありとする。	・SP、LSD、TPの焼付塗装は指定色とする。	
・特記なき限り、シリンダー錠は片面シリンダー、片面サムターンを原則とする。	・間仕切り壁取合い部はアルミ塞ぎとする。（区画部はスチール塞ぎとする）	
・戸当たりは床付型を原則とし、外部に接する扉はあおり止め付きとする。		
・方立に壁取合い金物がある場合、方立を補強すること。	・外壁開縁部の建具廻りはﾛｯｸｳｰﾙ充填とする。	
・ガラリの開口率は35%程度とする。（吸気量計算の上、ガラリ寸法を決定すること。）	・開口角度は45°とする。	

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号 大橋康孝

検印	総括	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和７年６月	製図 望月	

設計 NO.

工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

図面名 建具表８

縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図面 NO. Ａ－０８１

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	担当 大橋	主任 大橋
	日付 令和７年６月	製図 望月	

設計 NO.

工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

図面名 １Ｆ家具キープラン

縮尺 A1：1/100 A3：1/200

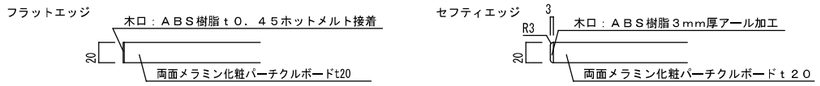
図面 NO. Ａ－０８２

家具共通仕様書　「 図面中に特記なき所は下記の仕様とする。」

1 主材料　ホルムアルデヒド及びＶＯＣの低減効果と抗菌機能を持った可視光増感型触媒を工業的に配合した両面メラミン化粧パーチクルボード)厚さ２０mmを使用する。
上記、両面メラミン化粧パーチクルボードの表面はメラミン含浸紙使用し、鉛筆硬度にて ９Ｈ 以上のものとする。
現品サンプルによるスクラッチテストを行い承認を得ること。

2 木口処理　化粧パーチクルボードの切断木口はＡＢＳ樹脂による木口材をホットメルト系接着剤(Ｆ☆☆☆☆)を用い、曲線部も含め専用機械にて接着する。
木口材はフラットエッジ(ｔ０．４５mm)、セフティエッジ(ｔ３mm)を用い、防湿のため床、壁に接する部位も同処理を行う

【接合部詳細図】



3 裏板　ポリ合板ｔ４mmを使用し、たわみの出ないよう片面フラッシュ等により補強する。

4 扉　開き扉、引戸共に主材の両面メラミン化粧パーチクルボードｔ２０mmを使用し、開き扉はその周囲をセフティエッジ貼りとする。

5 引戸　下レールは面付きの樹脂性レールとし、上下調整機能付の戸車を使用する。
上レールも樹脂製とし、耐震倒れ止め機能を持った、スライドガイドを使用する。

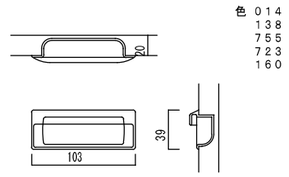
6 耐震開き止め　開き扉、引戸共に下端がＦＬ＋１５００mm以上に位置するものは、耐震開き止め金具を組込み、内容物の落下防止策とする。

7 抽斗　強度を高めるため、ベアリングを組み入れたスチール側板を用い、底板にはｔ１５mmの両面メラミン化粧パーチクルボードを使用する。
但し、抽斗有効寸法を守るためＭＤＦ製側板、底板はｔ４を用いる場合もある。
前板は開き扉同様、四周をセフティエッジ貼りとする。

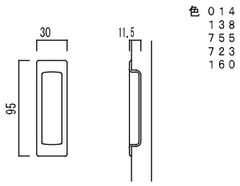
9 棚板受け　安全で外れにくいネジ込み式で、錆びにくいステンレス製ダボを使用する。棚板は、外れ止めの為のダボ受けシャクリ加工をする。
図示する箇所はロック機能を持ったセフティ棚受けを使用する。

8 特記事項　製作はＩＳＯ９００１取得工場かつ日本家具保証協会認定工場とし、その管理下で施工を行う。
製作にあたり品質証明書及び、材料、接着材の安全データシートを提出し承認を受けて製造する。
・安全性を考慮し、全ての家具は耐震固定することとする。（上下左右の連結及び必要箇所を壁または床に固定すること。）
・主材料以外の集成材、合板、接着剤なども環境に配慮し、Ｆ－☆☆☆☆適合品を使用することとする。

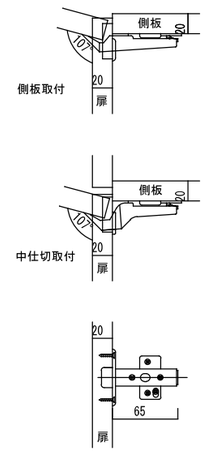
【把手（抗菌性ＡＢＳ成形品）詳細図】　Ｓ＝１／３



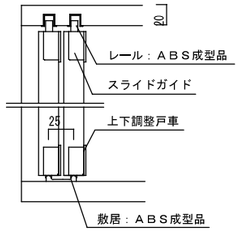
【引手（抗菌性ＡＢＳ成形品）詳細図】　Ｓ＝１／３



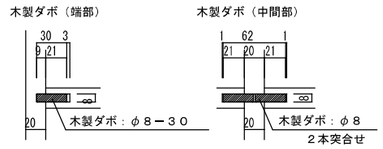
【蝶番詳細図】　Ｓ＝１／３



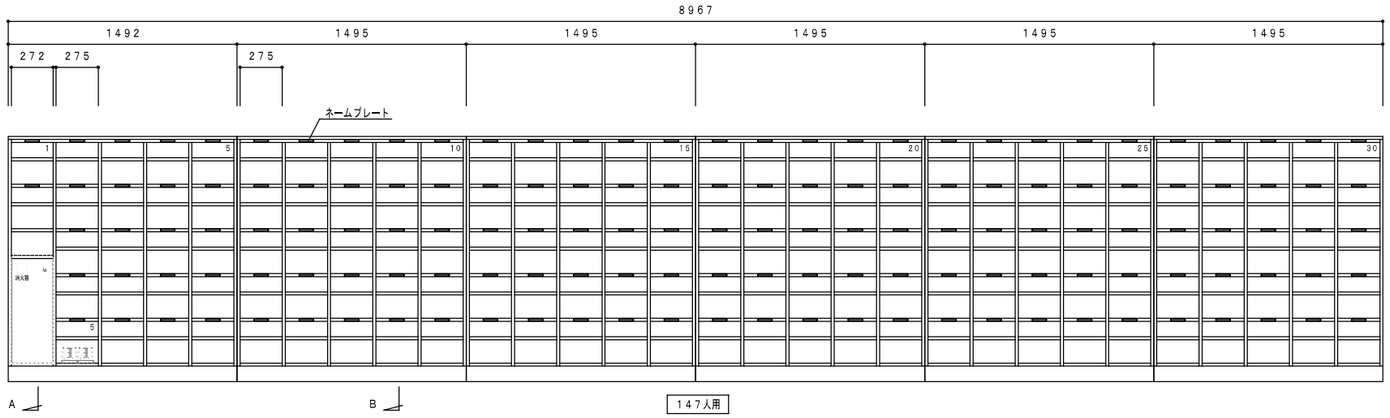
【引戸詳細図】　Ｓ＝１／３

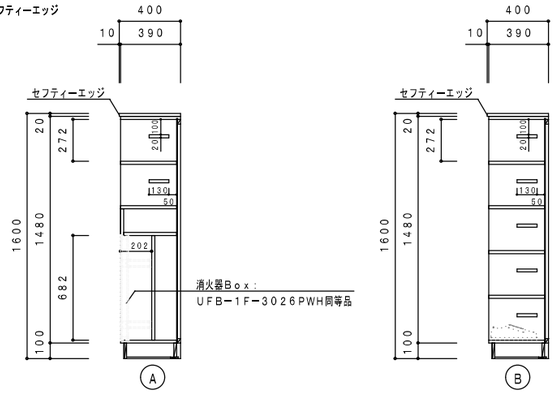


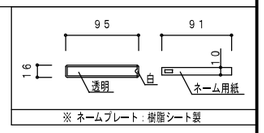
【接合部詳細図】　Ｓ＝１／３



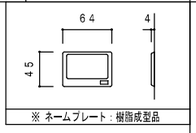
Ｆ－１　下足入れ　１Ｆ　下足コーナー　１ヶ所

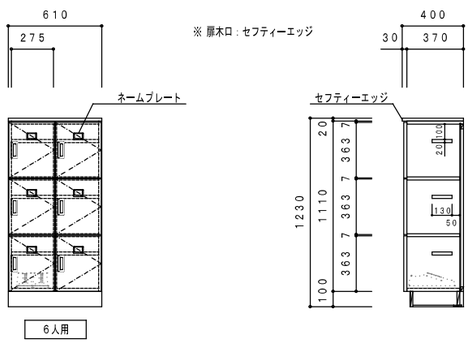




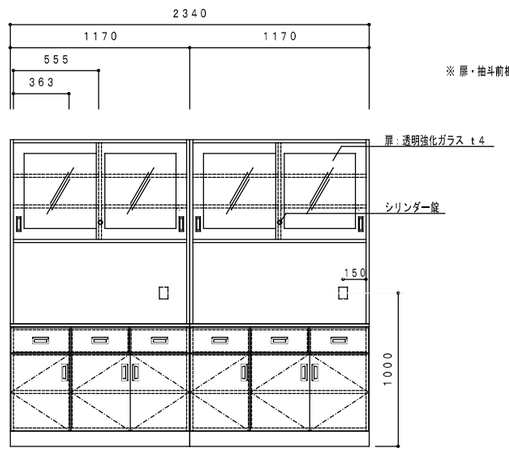


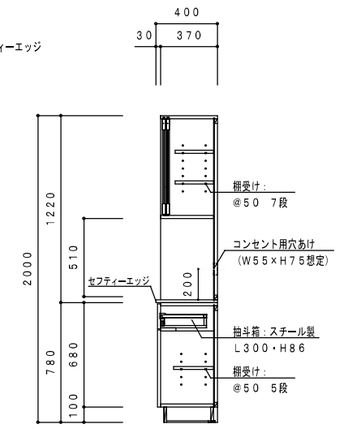
Ｆ－２　下足入れ　１Ｆ　通用口　１ヶ所



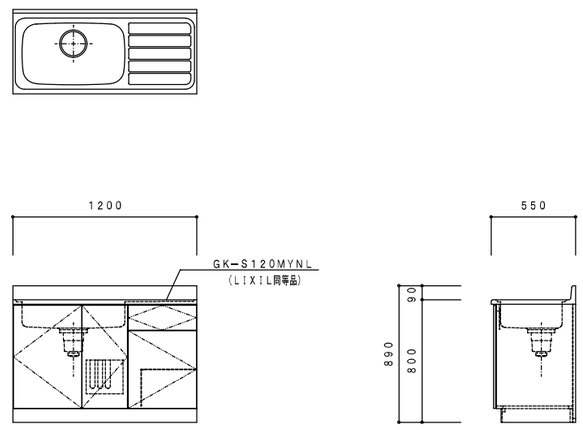


Ｆ－３　食器戸棚　１Ｆ　給湯室　１ヶ所





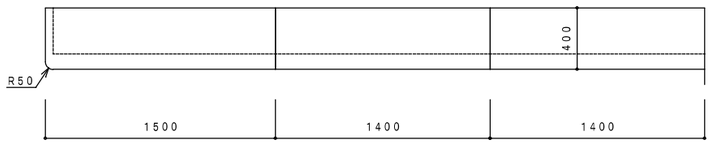
Ｆ－４　ミニキッチン　１Ｆ　給湯室　１ヶ所



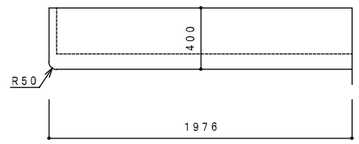
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所　一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋 / 総括 大橋	主任 大橋	日付 令和７年６月 / 製図 望月
設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 家具図１	縮尺 A1：1/20 A3：1/40
図面 NO. A－０８３			

F－5　ベンチ　1F　各室　3ヶ所

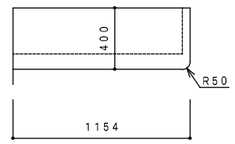
	部屋名	箇所
a	エントランスホール	1
b	便所（女子）パウダーコーナー	1
d	便所（男子）	1



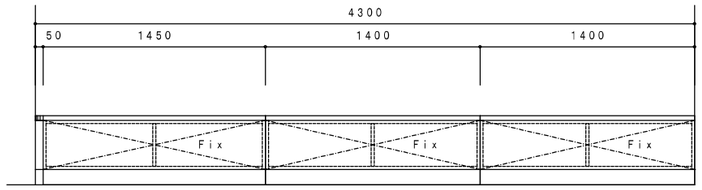
F－5a



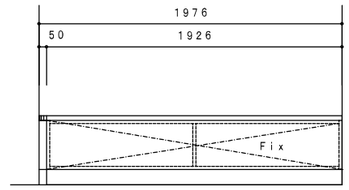
F－5b



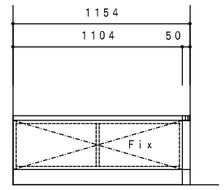
F－5c



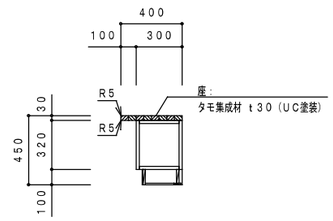
F－5a



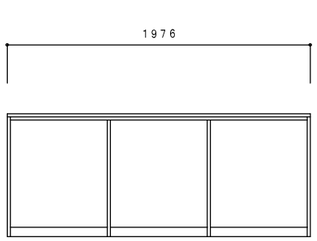
F－5b

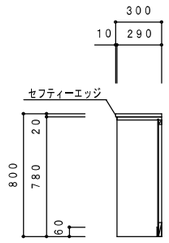


F－5c

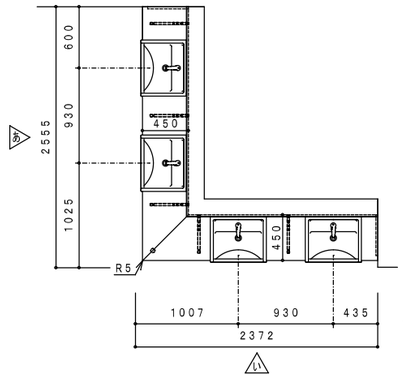


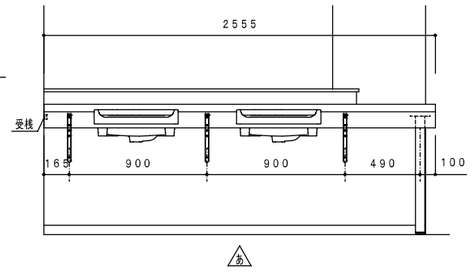
F－6　カウンター　1F　便所（女子）パウダーコーナー　1ヶ所

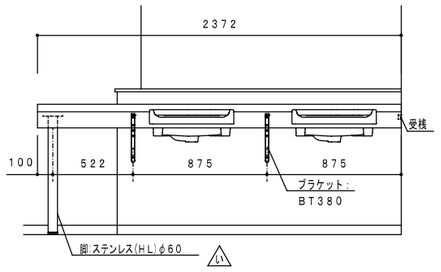


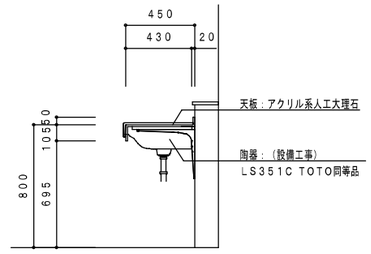


F－7a　手洗い　1F　便所（女子）　1ヶ所



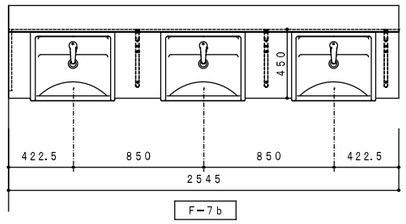




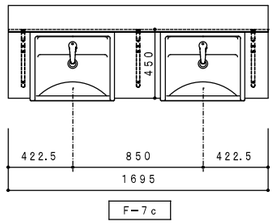


F－7b・c　手洗い　1F　各室　3ヶ所

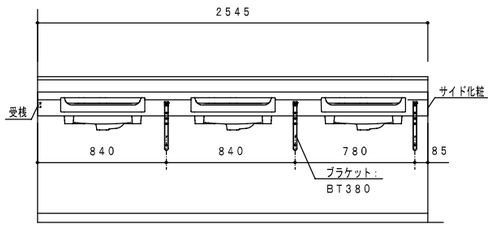
	部屋名	箇所
b	男子（便所）	1
c	更衣室（男子）	1
c	更衣室（女子）	1



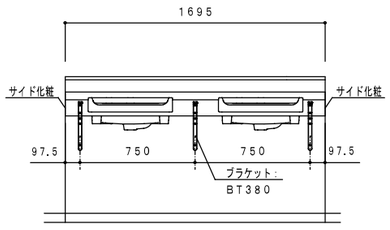
F－7b



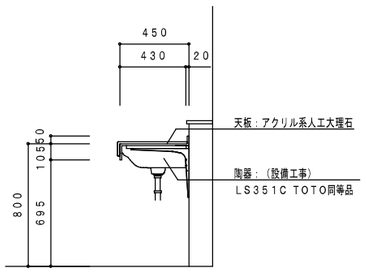
F－7c



F－7b

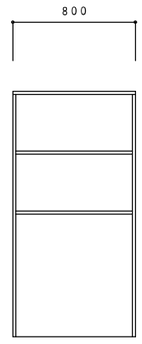


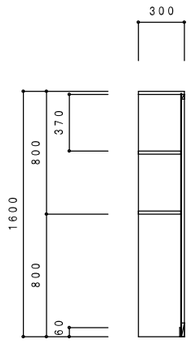
F－7c



F－8　脱衣棚　1F　各室　5ヶ所

部屋名	箇所
脱衣室	4
更衣室（共同）	1





株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋
	日付 令和7年6月		製図 望月

設計 NO.

工事名：令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

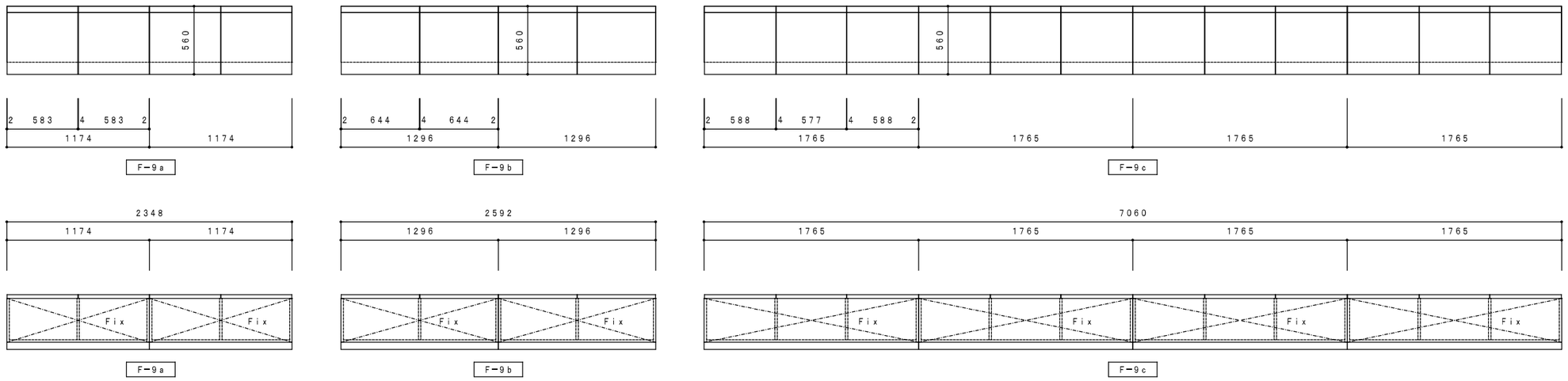
図面名：家具図２

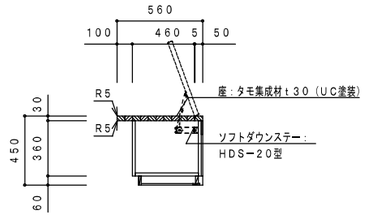
縮尺：A1：1/20　A3：1/40

図面 NO.：A－０８４

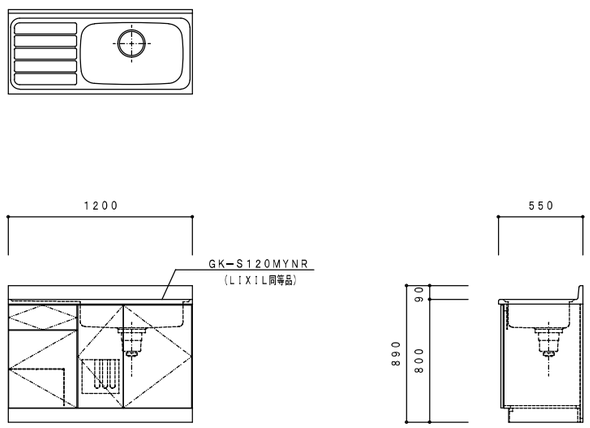
F－9	ベンチ	1F　各室	3ヶ所

	部屋名	箇所
a	体力測定室	1
b	体力測定室	2
c	体育室	1



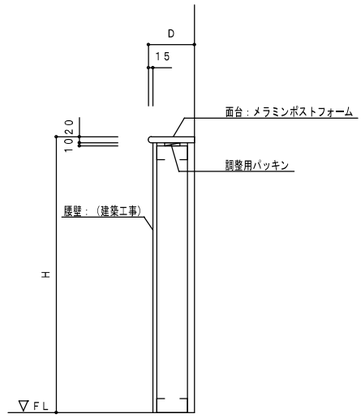


F－10	ミニキッチン	1F　医務室兼授乳室	1ヶ所

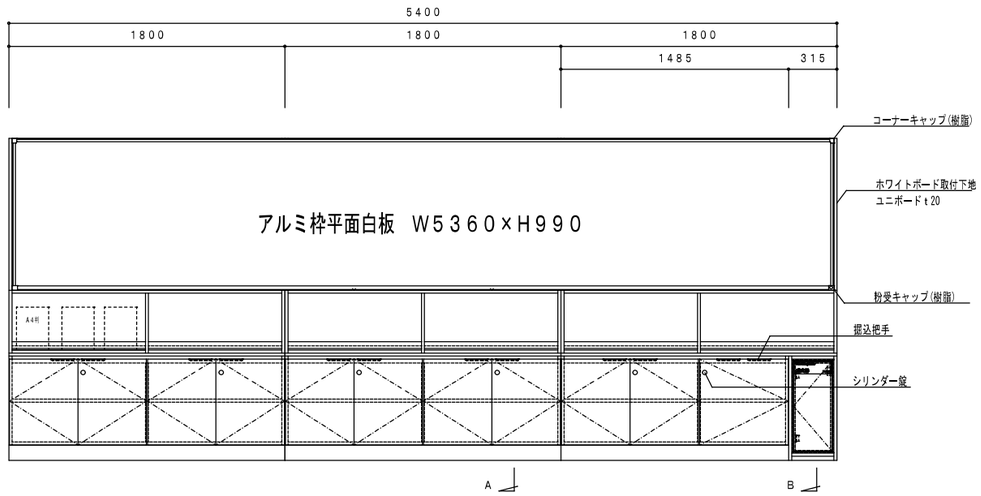


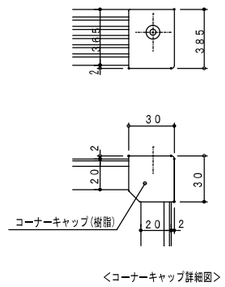
L－1～10	ライニング面台	1F　各室	15ヶ所

記号	部屋名	W	D	箇所
L－1	給湯室	1200	170	1
L－2	医務室兼授乳室	1200	170	1
L－3	便所（女子）	2050／1867	170	1
L－4	便所（女子）	960	150	2
L－5	便所（女子）	960／1423	150	3
L－6	便所（男子）	960／1119	150	3
L－7	便所（男子）	4173	150	1
L－8	便所（男子）	2545	170	1
L－9	更衣室（男子）	1695	150	1
L－10	更衣室（女子）	1695	150	1

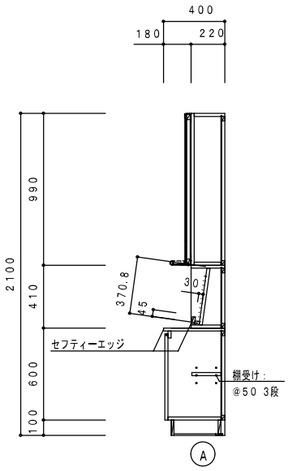


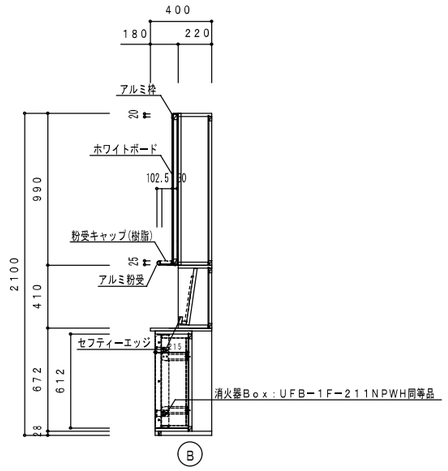
F－11	収納戸棚	1F　エントランスホール	1ヶ所





<コーナーキャップ詳細図>





株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号　大橋康孝

設計	監修	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和7年6月		製図 望月

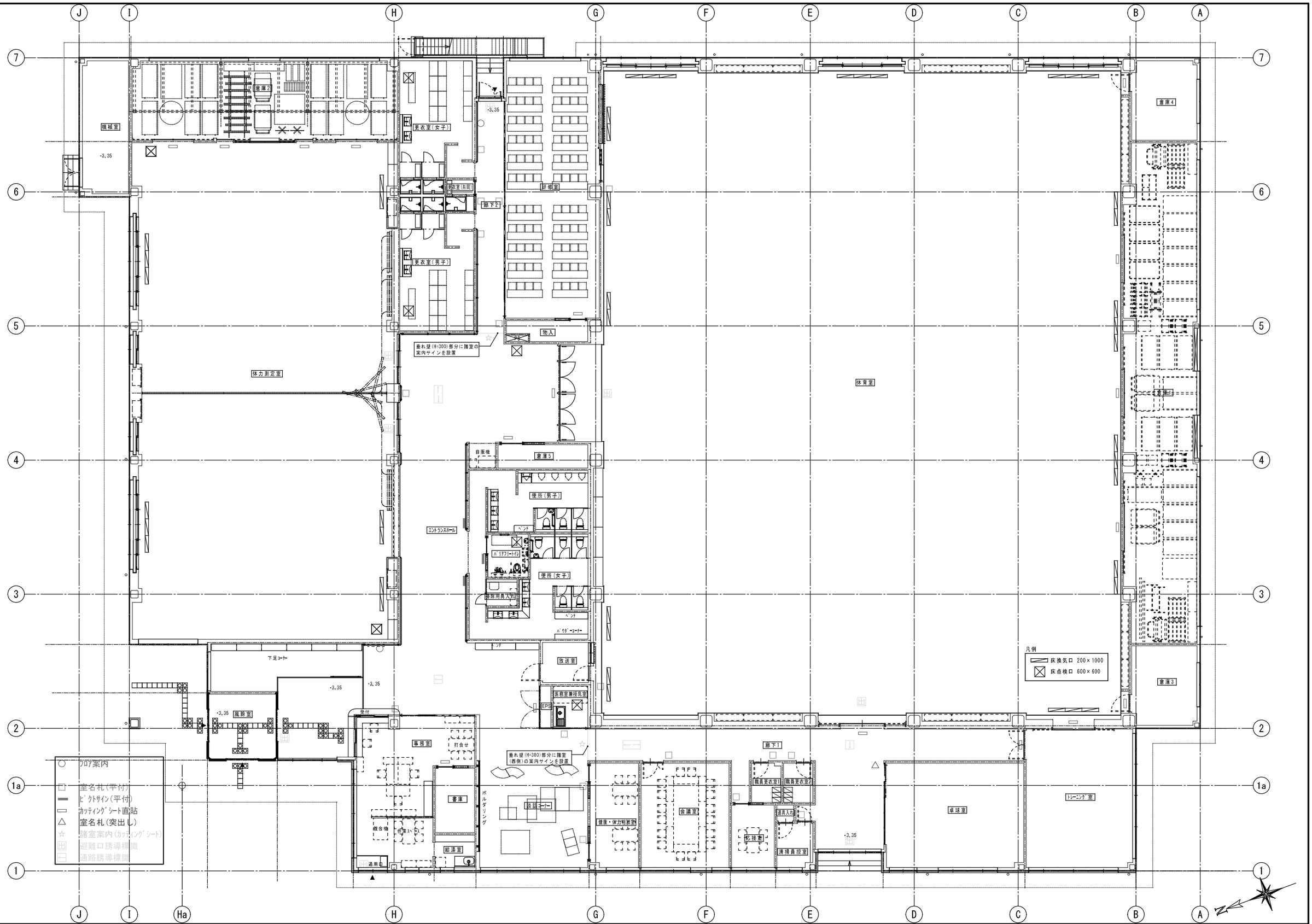
設計 NO.

工事名　令和7年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

図面名　家具図3

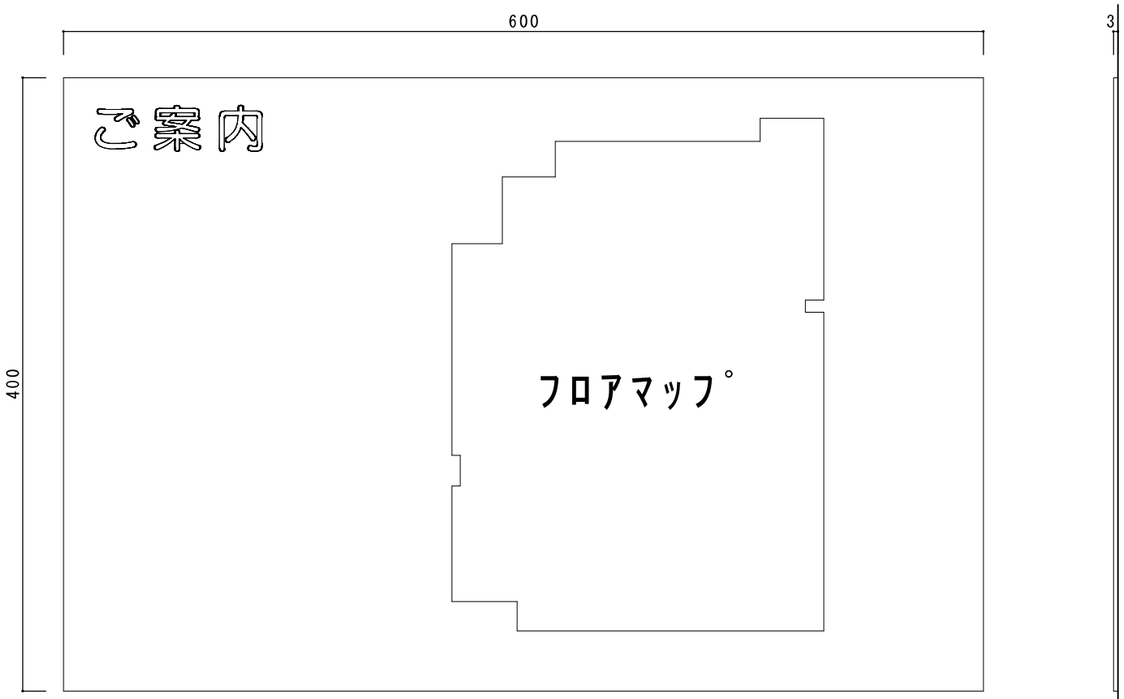
縮尺　A1：1/20　A3：1/40

図面 NO.　A－085



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検図 大橋	組織 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和7年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 サインキープラン	図面NO. A－086
	日付 令和7年6月	製図 望月				縮尺 A1：1/100 A3：1/200	

フロア案内板　2か所　S=1:2



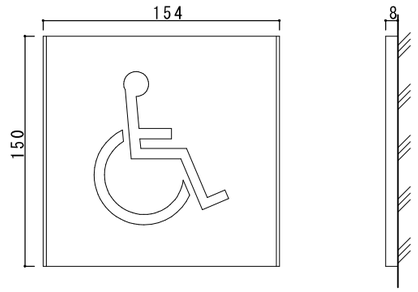
表示板：アルミ複合板 3t
表　示：ｲﾝｸｼﾞｪｯﾄｼｰﾄ出力巻込貼
両面テープ接着

室名札(平付)　17か所　S=1:2

フレーム：アルミ押出材形材、アルミアルマイト仕上
プレート：アルミ押出材形材、アルミアルマイト仕上
表示面　：アルミ、アルマイト仕上(250×60)
表　　示：カッティングシート切り文字貼

【諸室】
体力測定室、事務室、研修室、健康・体力相談室、放送室
医務室兼授乳室、会議室、控室、職員更衣室1、職員更衣室2、
清掃員控室、更衣室(男子)、更衣室(女子)、更衣室(共同)

ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ(平付)　3か所　S=1:2



フレーム：アルミ押出材形材、アルミアルマイト仕上
プレート：アルミ押出材形材、アルミアルマイト仕上

表示面　：アルミ、アルマイト仕上(150×150)
表　　示：カッティングシート切り文字貼

【諸室】
便所(男子)、便所(女子)、ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰﾄｲﾚ

諸室案内(ｶｯﾃｨﾝｸﾞｼｰﾄ)　2か所　S=1:4

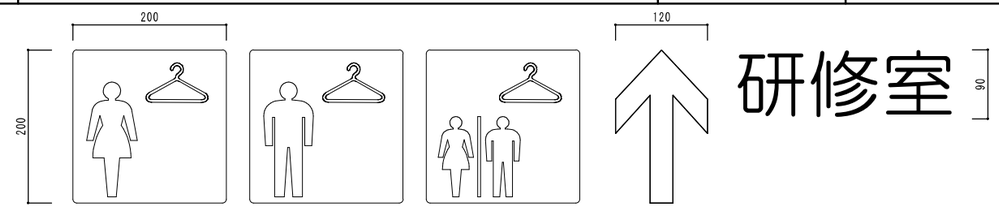


表　　示：カッティングシート切り文字直貼

室名表示(ｶｯﾃｨﾝｸﾞｼｰﾄ直貼り)　13か所　S=1:1

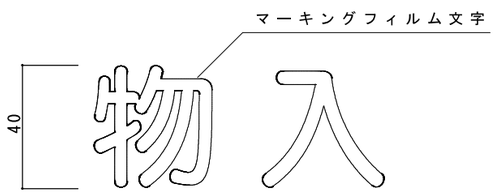
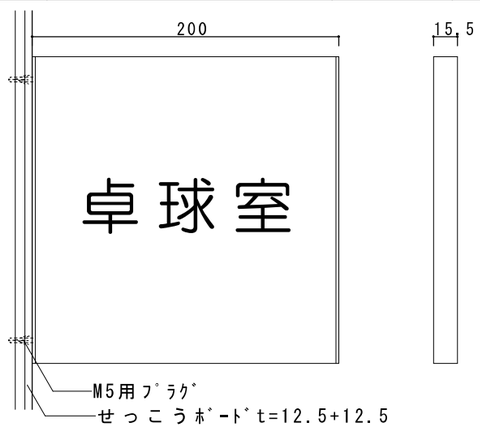


表　　示：カッティングシート切り文字直貼

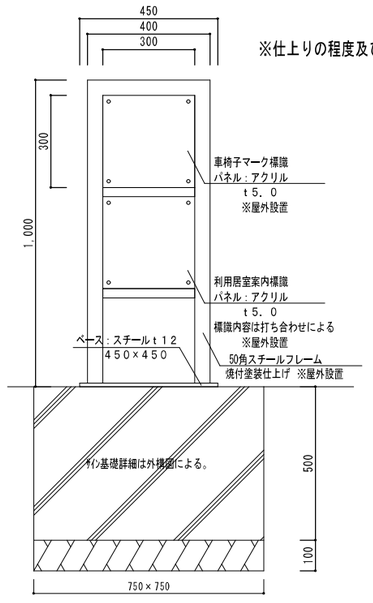
【諸室】
体育室、倉庫1、倉庫2、倉庫3、倉庫4、倉庫5、
物入、EPS

室名札(突出し)　1か所　S=1:2



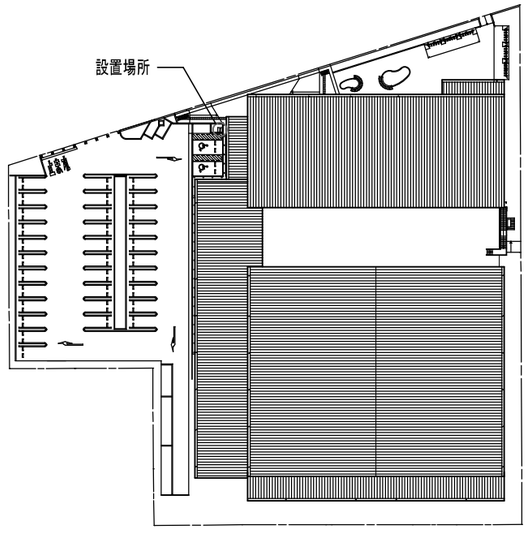
【諸室】
卓球室

優先駐車場ｻｲﾝ　1か所　S=1:10



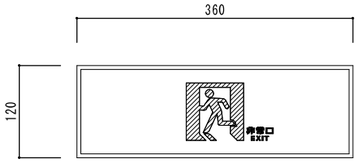
※仕上りの程度及び取付方法は監督と協議の上決定すること。

イメージ



配置ﾌﾟﾗﾝ

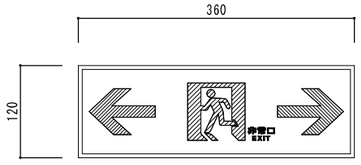
【誘導標識】避難口　4か所　S=1:4



※緑地に白絵文字

蓄光硬質塩化ビニール　t=1.2

【誘導標識】通路　2か所　S=1:4



※白地に緑絵文字

蓄光硬質塩化ビニール　t=1.2

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	照査 大橋	主任 大橋	設計NO.	工事名 令和7年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)
	日付 令和7年6月	図面 望月			

図面名	縮尺	図面NO.
サイン図	A1：1/100 A3：1/200	A－087

特記仕様書：特記事項

1．工事概要

本設計図書に基づき舞台機構工事及び、これに伴う設備工事を行うものとし、必要な機器・資材及び労務の一切を含むものとする。

2．施工範囲

前項の装置を入念に据え付けた後、充分な作動試験及び調整を施した上で検収を受け、同時に操作方法並びに安全対策等を詳細に説明の上引渡す。

3．施工基準

本工事は仕様書並びに設計図に基づき、監督員の指示のもとに施工する。舞台の安全性に留意し法規に準拠するのは勿論のこと、設計図書に明記されていない事項でも安全上必要と思われるものは施工図を作成し、監督員の承諾を受けた後に、製作並びに施工する。

4．保証期間および保守点検

本設備の保証期間は、引渡し日より１年間とし、保証期間内に生じた製作・施工上の欠陥による故障・破損については速やかに無償修理を行う。保証範囲等詳細は舞台機構メーカーの提出する保証書による事とする。

5．施工・専門工事会社

本工事における舞台機構設備の製作・施工会社は、本設備と同等程度以上の舞台機構の施工実績を十分に有し、「機械器具設置業・電気工事業・内装仕上工事業」について建設業許可を有する舞台機構メーカーとする。

6．舞台機構共通仕様

電動機

ＪＩＳ規格合格品とし、振動の少ない構造とし使用目的に応じた出力を有する容量の物を使用する。０．７５ｋｗモーター以上はＩＥ３（高効率）構造の物を使用する。

減速機

セルフロック機能（※１）を有するウォーム減速機とする。ウォーム軸は機械構造用熱処理（45C）を用い、加工を行うこと。ウォームホイルはアルミ青銅を使用し、全て精密に機械切りした上、鋳鉄製ギヤケース内で潤滑油に浸透させながら回転するものとする。

※１セルフロック機能・・入力軸（ウォーム軸）から出力軸（ウォームホイル）を回すことは出来るが、逆に出力軸から入力軸を回そうとしてもブレーキがかかった様に回せません。万が一モーターのブレーキが故障したり動力伝達のベルト等が切れたとしても吊物が落下することは無い構造。

制動機

直流電磁コイルを使用し、鉄心の電磁用により運転時に解放する一方、停止時は電流遮断と同時に強力な発条でブレーキホイルを拘束することにより行われるものとする。
ブレーキ付きモーター又はブレーキ付き減速機を使用する場合は付属ブレーキの仕様によることができる。

巻取ドラム

使用ワイヤーロープ直径の３０倍以上の直径を有する良質な鋳鉄製又は鋼鉄製とし、ロープ溝はワイヤーロープの径に適するものとし精密な機械仕上を施す。

滑車

使用ワイヤーロープ直径の２５倍以上の直径を有する鋳鉄製、鋼製又は合成樹脂製とし、軸部はベアリング入りとする。
但し、接触面がシーブの１／４以下の場合や、安全上支障のない場合は、Ｄ／ｄを適切な範囲で軽減できるものとする。
（Ｄ：ピッチ径　ｄ：ロープ径）

吊物用パイプ

構造用炭素鋼鋼管または合成被覆樹脂管を使用する。
各々の継目には３００ｍｍ以上の継手鋼管を挿入し、接続する。
両端にはキャップを取付け、操作上の安全を図る。

機械台

電動機・減速機・制動機・シーブ（滑車）・その他の部品は、一般構造用形鋼・鋼管・鋼板等によって強固に製作された機械台の上に精密に組み立てる。

ワイヤーロープ

不反発性品で、使用目的に適した品質・線数・より等とし、各吊り荷重及び磨耗に充分耐え得るもので、平均吊荷重の１０倍以上の破断荷重を有するＪＩＳ規格品又は同等品を使用する。

リミット装置

巻き上げ減速軸より歯付きベルトを経て、回転式リミットスイッチにセットされたマイクロスイッチを動作、上限・下限停止指令を正確に行える構造として調整が容易に出来ることとする。

吊物制御盤

各装置の使用目的に応じた配線用遮断器・電磁接触器・補助継電器・シーケンサー・端子台等を鉄板製取付け板に組み立て、電動機の起動・停止等を正確に作動させるものとする。昇降（開閉）装置で万が一リミット装置等の故障により、設定した停止位置で止まらなかった場合の安全性確保のためタイマーカウントアップ機能を設ける。
（昇降又は開閉時に必要以上の時間で停止しない場合強制的に装置を停止させる機能）

吊物操作盤

電動装置の操作を安全かつ正確に作動させるため、吊物等の目視確認が出来る場所に設置し、操作に必要なタッチパネルを組込み、安全かつ正確に操作ができる配列とする。舞台機構の用途によって１系列のみの運転もしくは多系列同時運転が可能な構造とする。

カーテンレール

幕開閉が円滑に行えること。ランナーはナイロン製とし軽量で且つ強固な構造とし開閉時に騒音が生じない構造とする。

工　事　区　分　表

項　　目	建築工事		電気設備工事	その他・備品工事	備　考
	建築工事	舞台設備工事			
ブドウ棚工事	○				
搬入・点検口、タラップ工事	○				
吊物マシン及び滑車等製作及び取付工事		○			
暗幕製作及び取付工事		○			
吊物制御操作製作及び取付工事		○			
一次側電源供給接続工事			○		
二次側電気配管配線工事及び結線・調整		○			
（注　意　事　項）					
１、据付工事に要する仮設足場及び養生	○	○※			※移動足場
２、据付工事に要する基本墨だし（通り芯）工事	○				
３、据付工事に要する搬入経路の確保	○				
４、据付工事に要する材料置場の確保	○				
５、据付工事に関する安全確保（ガードマン配置等）	○				

塗装

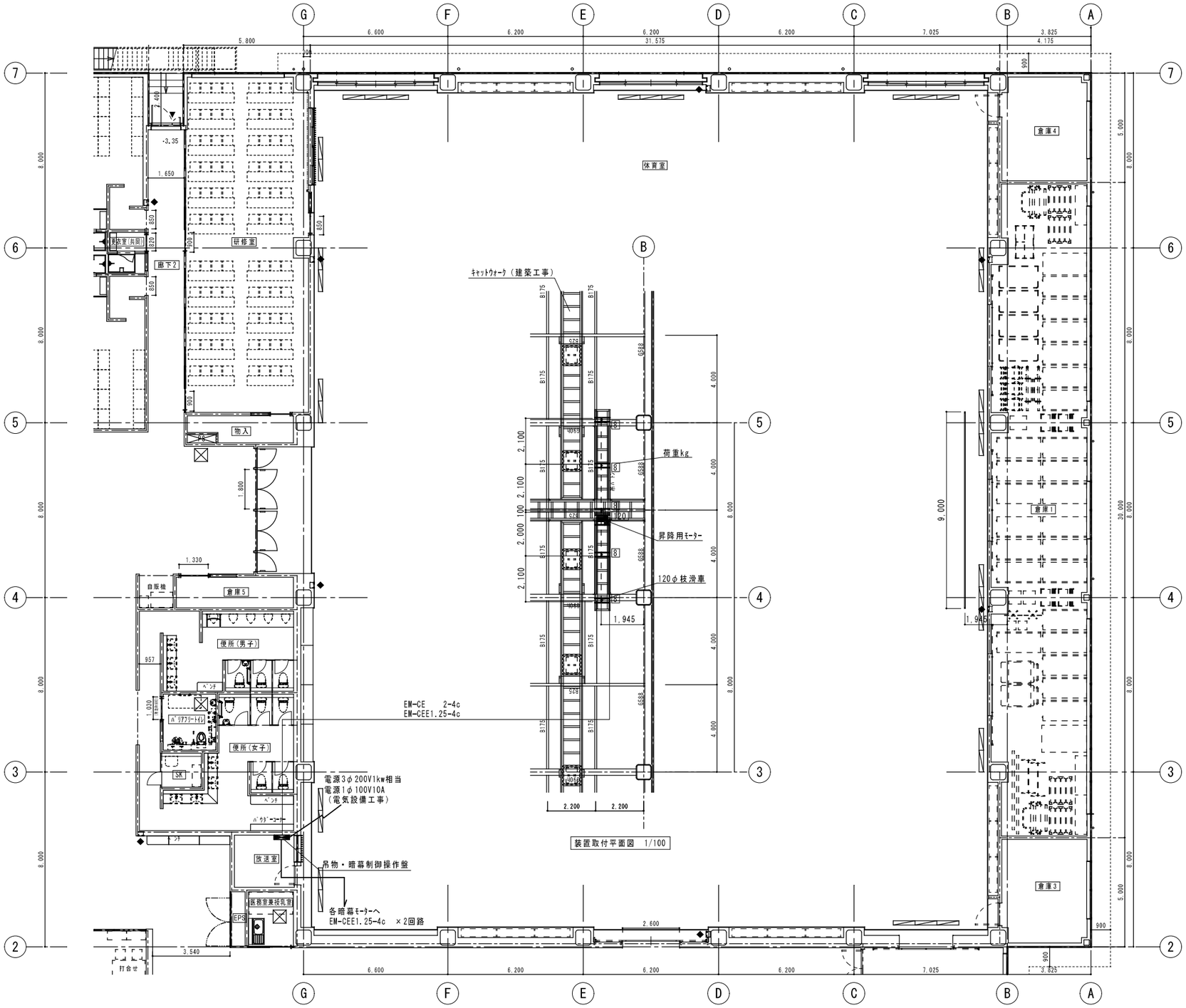
鋼材部品の塗装は特に記載がない限り素材の表面の汚れ、錆、その他附着物を除去し、錆止めペイント塗りの上、調合ペイントを塗る。ホルムアルデヒド放散等級：Ｆ☆☆☆☆を使用する。

舞台幕類

各幕の布地は関連法令に基づく防炎加工を施し、防炎認定ラベルを幕裾端部に取り付けする。
又各々の重量に従って吊テープ及び補強テープを、充分な強度及びピッチで縫製する。

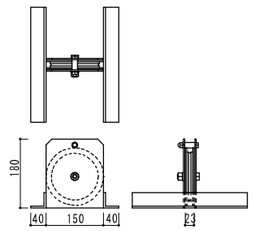
規格・その他

本工事に使用する機器・材料・部品等の適用基準は以下の通りとする。
・懸垂物安全指針・同解説（ＢＣＪ　２－００５５）
・吊物機構安全指針・同解説（ＪＡＴＥＴ　Ｍ－６０３０－３）
・劇場等演出空間電気設備指針（ＪＥＳＣ　Ｅ　０００２（２０１４））
・日本工業規格（ＪＩＳ）
その他、電気用品安全法・建築基準法・消防法等関連法令に適合したものとする。



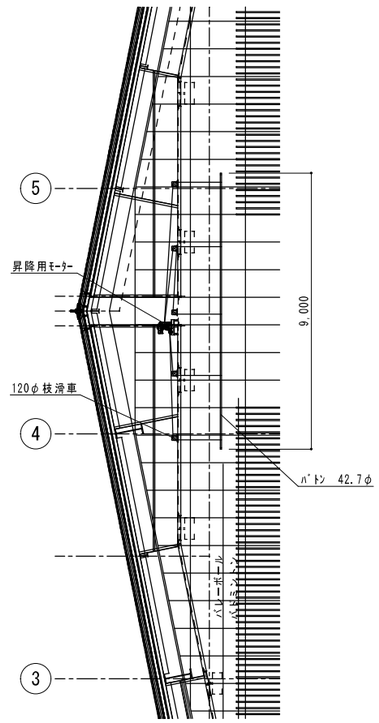
バトン取付平面図 1/100

装置取付平面図 1/100

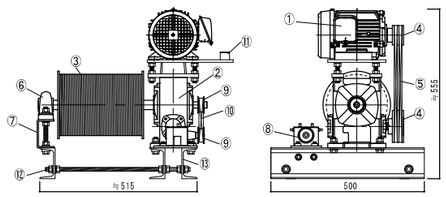


120φ枝滑車

※部材は黒塗装



装置取付正面図 1/100



昇降用モーター

記号	名称
①	モーター
②	減速機
③	ワイヤー巻取ドラム
④	Vプーリー
⑤	プーリーベルト
⑥	ピロブロック
⑦	ピロブロック受台
⑧	リミットスイッチ
⑨	歯付プーリー
⑩	タイミングベルト
⑪	端子台
⑫	ボルト・ナット
⑬	マシン用ベース鋼材

ダブルナット施工・落下防止ワイヤー取付（落下防止対策）

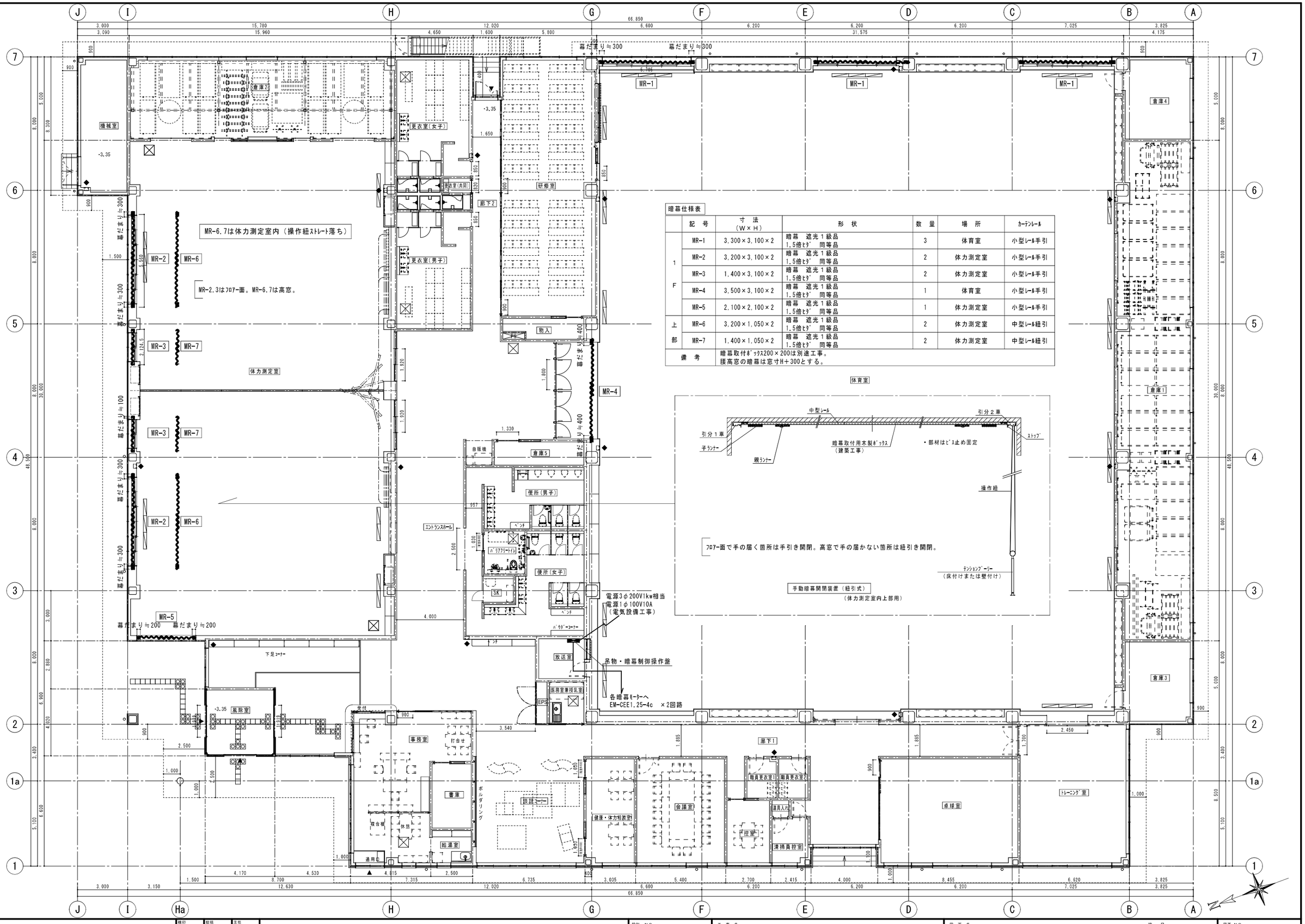
仕様表

	名称	寸法(W×H)	数量	操作方式	吊点	吊物装置仕様	棚上荷重	棚上 パトン自重	棚上 吊荷重	速度 (m/min)
1	美術バトン	L-9,000	1 吊	電動昇降	5	3φ200v0.75kwブレーキ付モーターウォーム減速 ワイヤー直巻式 枝滑車120φ ワイヤー4mm 42.7φパイプ ポリエチレンライニング仕上げ	160	30	120	10
備考	電気1次側の配管配線工事は電気設備工事。 装置受け材は建築工事。						合計310kg 吊荷重にてモーター選定			

棚上荷重・・電動装置、滑車の重量
パトン自重・・吊パイプの重量
吊荷重・・旗、看板等の吊物の許容荷重

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋 / 照査 大橋 / 主任 大橋 / 日付 令和7年6月 / 図面 望月	設計 NO.	工事名 令和7年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

図面名	縮尺	図面 NO.
1階バトン取付平面図	A1：1/100 A3：1/200	A－089

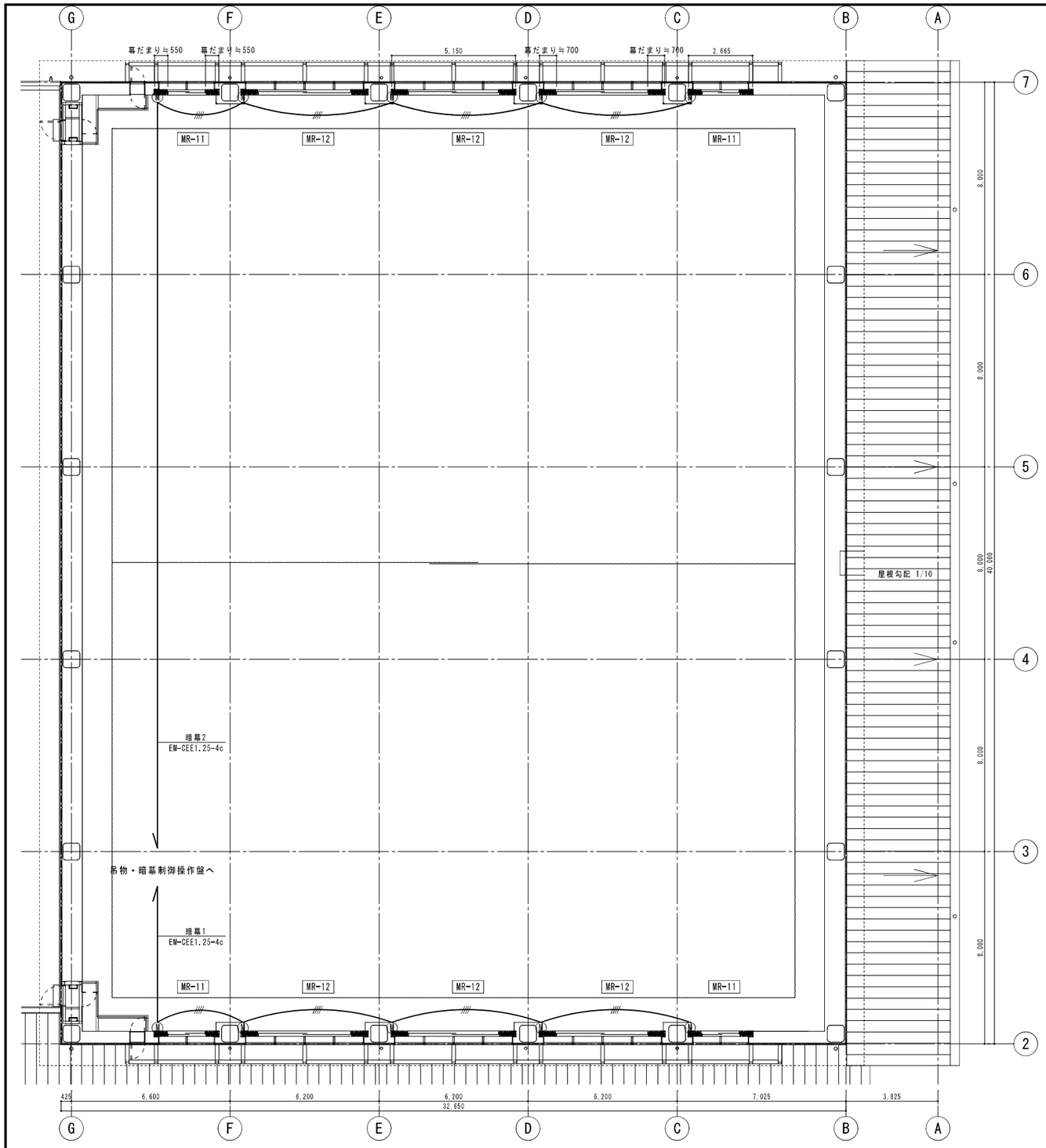


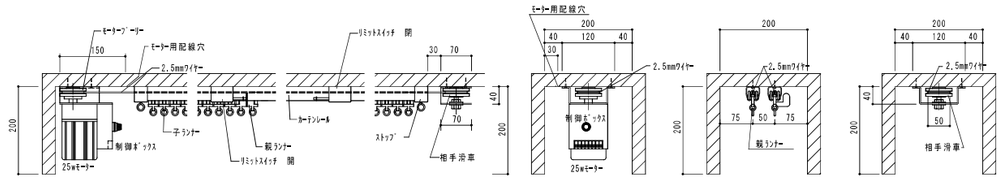
暗幕仕様表

	記号	寸法（W×H）	形状	数量	場所	カーテンレール
1F	MR-1	3,300×3,100×2	暗幕　遮光１級品 1.5倍ヒダ　同等品	3	体育室	小型レール手引
	MR-2	3,200×3,100×2	暗幕　遮光１級品 1.5倍ヒダ　同等品	2	体力測定室	小型レール手引
	MR-3	1,400×3,100×2	暗幕　遮光１級品 1.5倍ヒダ　同等品	2	体力測定室	小型レール手引
	MR-4	3,500×3,100×2	暗幕　遮光１級品 1.5倍ヒダ　同等品	1	体育室	小型レール手引
	MR-5	2,100×2,100×2	暗幕　遮光１級品 1.5倍ヒダ　同等品	1	体力測定室	小型レール手引
上部	MR-6	3,200×1,050×2	暗幕　遮光１級品 1.5倍ヒダ　同等品	2	体力測定室	中型レール紐引
	MR-7	1,400×1,050×2	暗幕　遮光１級品 1.5倍ヒダ　同等品	2	体力測定室	中型レール紐引
備考		暗幕取付ボックス200×200は別途工事。 腰高窓の暗幕は窓寸H＋300とする。				

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第243672号　大橋康孝	検図 大橋	監督 大橋	主任 大橋	設計NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）
	日付 令和７年６月	製図 望月			

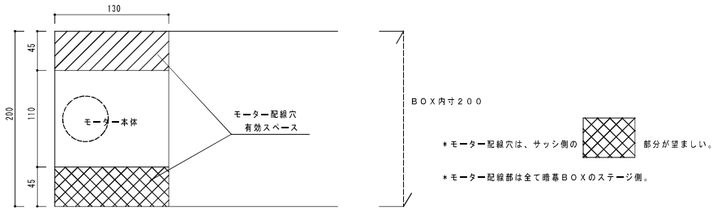
図面名 1階暗幕取付平面図	縮尺 A1：1/100 A3：1/200	図面NO. A－090





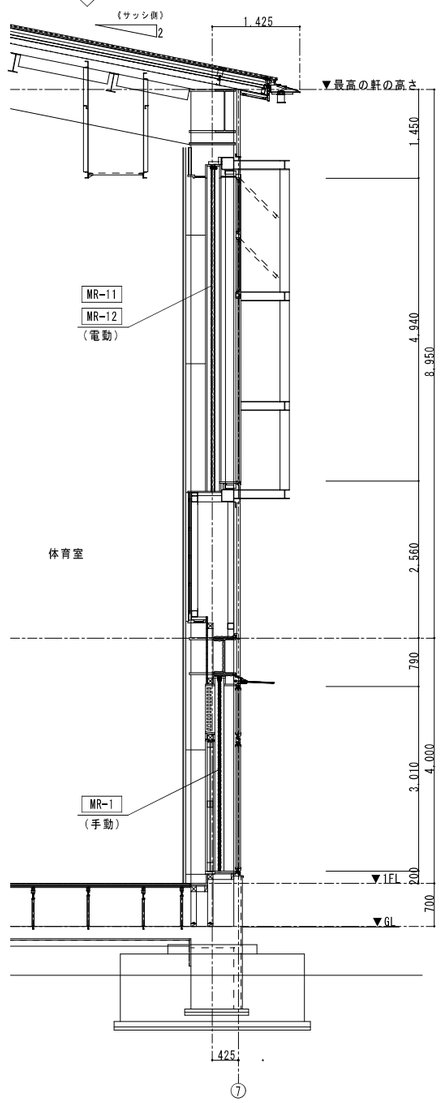
２５Ｗモーター仕様　暗幕電動開閉装置　断面詳細図　S=1/7

＊電気配線工事はボックスの配線用穴まで入線の事。



＊モーター配線穴は、サッシ側の　　部分が望ましい。

＊モーター配線部は全て暗幕ＢＯＸのステージ側。



暗幕仕様表

	記　号	寸　法 （Ｗ×Ｈ）	形　状	数　量	場　所	ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ
上部	MR-11	2,000×5,300×2	暗幕　遮光１級品 1.5倍ﾋﾀﾞ　同等品	4	体育室	大型ﾚｰﾙ電動
	MR-12	3,200×5,300×2	暗幕　遮光１級品 1.5倍ﾋﾀﾞ　同等品	6	体育室	大型ﾚｰﾙ電動
備　考		暗幕取付ﾎﾞｯｸｽ200×200は建築工事。　電気１次側の配管配線工事は電気設備工事。 腰高窓の暗幕は窓寸Ｈ＋300とする。				

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号　大橋康孝

検印	製図	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和７年６月		製図 望月

設計 NO.

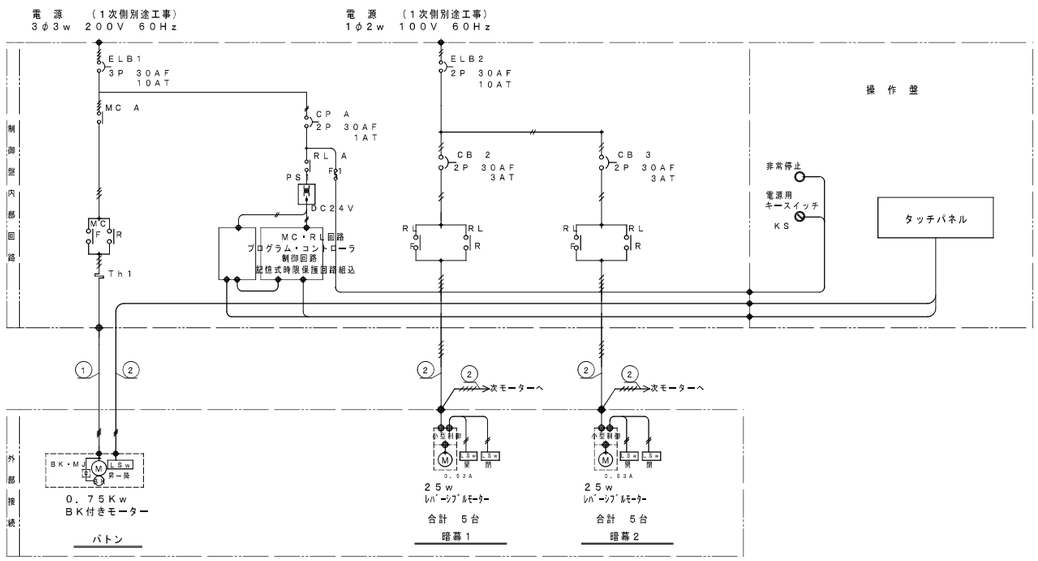
工事名　令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

図面名　キャットウォーク階暗幕取付平面図

縮尺　A1：1/100　A3：1/200

図面 NO.　Ａ－０９１

電　気　系　統　図



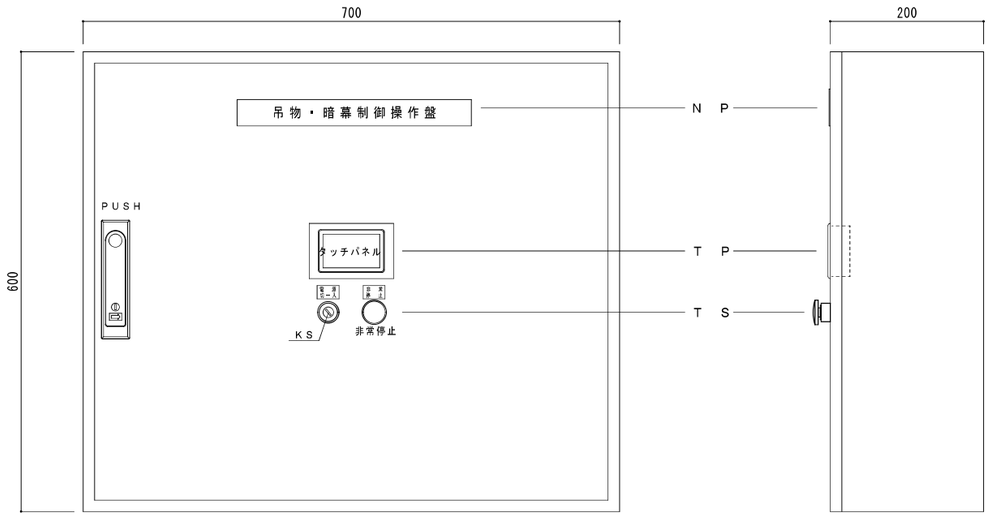
システム内容

- ＊　キースイッチ式電源入切。
- ＊　液晶パネルによるタッチ式動作。
- ＊　非常停止ボタンによる電源カット。
- ＊　停止スイッチによる自在停止。
- ＊　リミットスイッチによる上限（開）、下限（閉）の自動停止。
- ＊　記憶式カウンタータイマー回路による時限保護。（電源カット）
- ＊　暗幕は一斉作動スイッチを設ける。

電気配線種別

①　EM－CE　2^{B}　－4C×1
②　EM－CEE　1．25^{B}　－4C×1

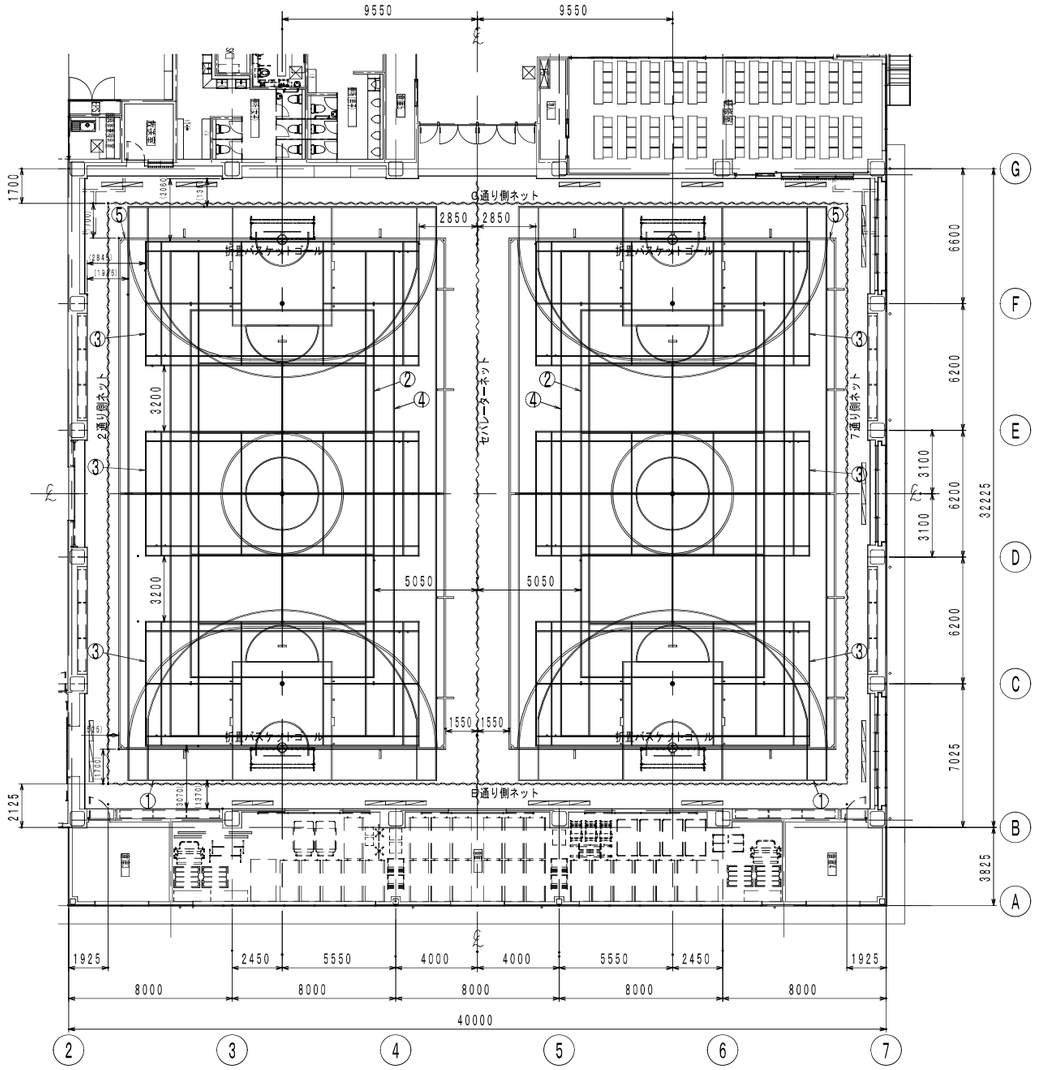
＊　電気配線配管の１次側は別途工事。（電気設備工事）



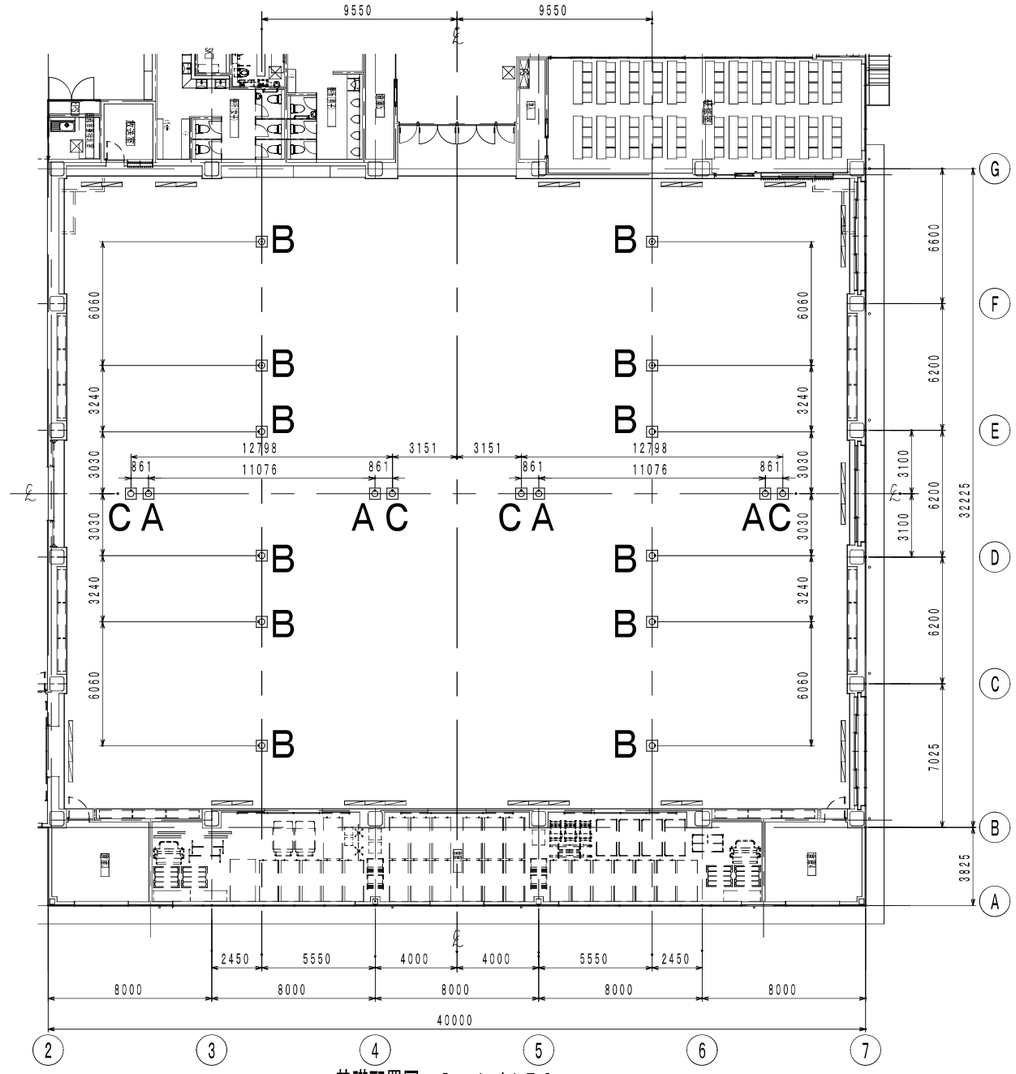
吊物・暗幕制御操作盤
取付け姿図　S＝1／4

盤ボックス　：　日東S20－76
　　W　H　D
　　700×600×200
色　：　2．5Y9／1
N　P　：　ネームプレート
T　P　：　タッチパネル
T　S　：　非常停止
K　S　：　キー式スイッチ（電源入切用）
※放送室内に取付

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	監督 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 単結図及び盤姿図　縮尺 A1：1/6 A3：1/12	図面NO. A－092
	日付 令和７年６月		新図 望月				



器具・コートライン配置図　S=1/150

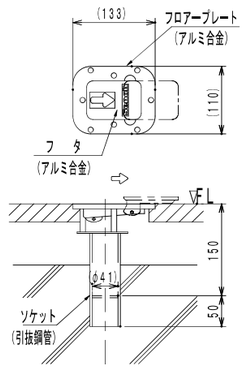


基礎配置図　S=1/150

コートライン内訳表				
記号	種　別	寸　法	面数	備　考
1	バスケットボールコート	28000×15000	2面	実線　ライン幅50mm
2	バレーボールコート（6人制）	18000×　9000	2面	実線　ライン幅50mm
3	バドミントンコート	13400×　6100	6面	実線　ライン幅40mm
4	テニスコート	23770×10970	2面	実線　ライン幅50mm
5	ハンドボールコート	25000×16000	2面	実線　ライン幅50mm

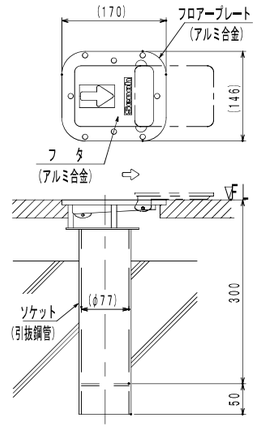
KD054000　床金具AS型φ40用

板張床用　（バドミントン用）S=1/5



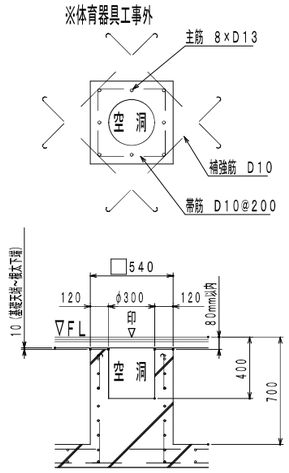
KD014000　床金具AS型φ76用

板張床用　（バレーボール・テニス用）S=1/5



基礎詳細S=1/20

※体育器具工事外



基礎内訳表		
A	バレーボール用基礎	4個
B	バドミントン用基礎	12個
C	テニス用基礎	4個
合　計		8個

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	監督 大橋	主任 大橋
	日付 令和7年6月		製図 望月

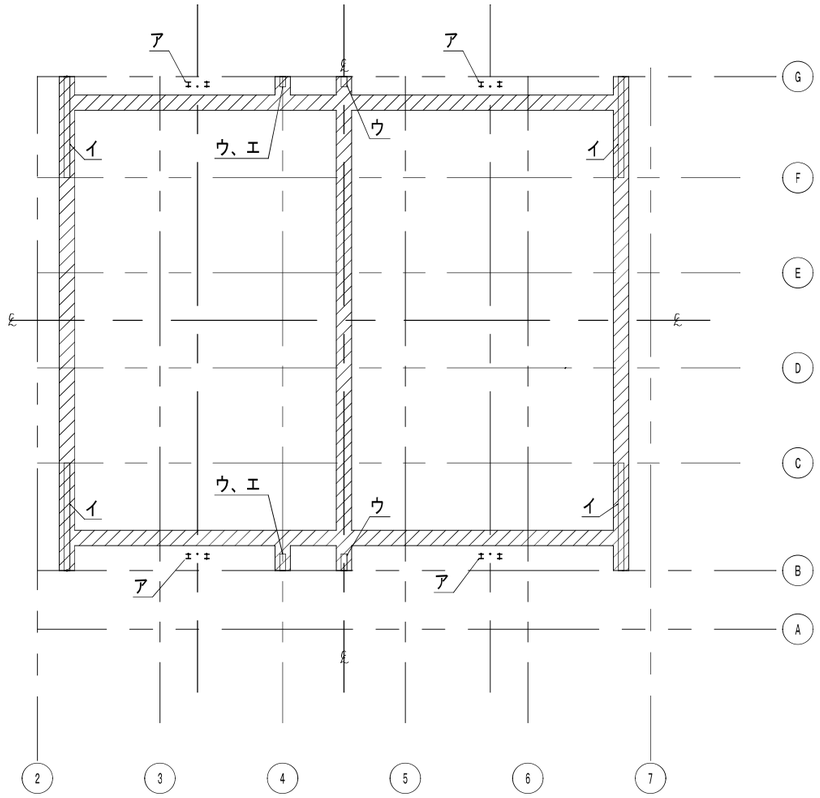
設計 NO.

工事名　令和7年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

図面名　体育器具図(1)

縮尺　A1：1/150　A3：1/300

図面 NO.　A－093



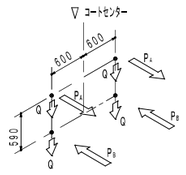
補強鉄骨伏図　S=1/200

ー鉄骨補強内訳ー

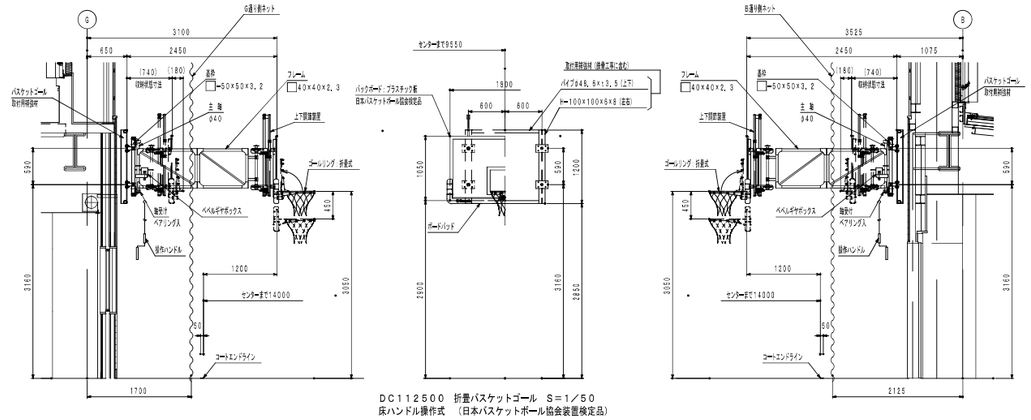
ア：折畳バスケットゴール取付用補強材・・・H－100×100×6×8（左右）
パイプφ48．6×t3．5（上下）　ーーー4ヵ所
イ：防球ネット取付用補強材【A】・・・H－250×125×6×9ーーー4カ所
ウ：防球ネット取付用補強材【B】・・・H－250×125×6×9ーーー4カ所
エ：防球ネット取付用補強材【C】・・・H－250×125×6×9ーーー2カ所

※取付用補強材は鉄骨工事に含む。

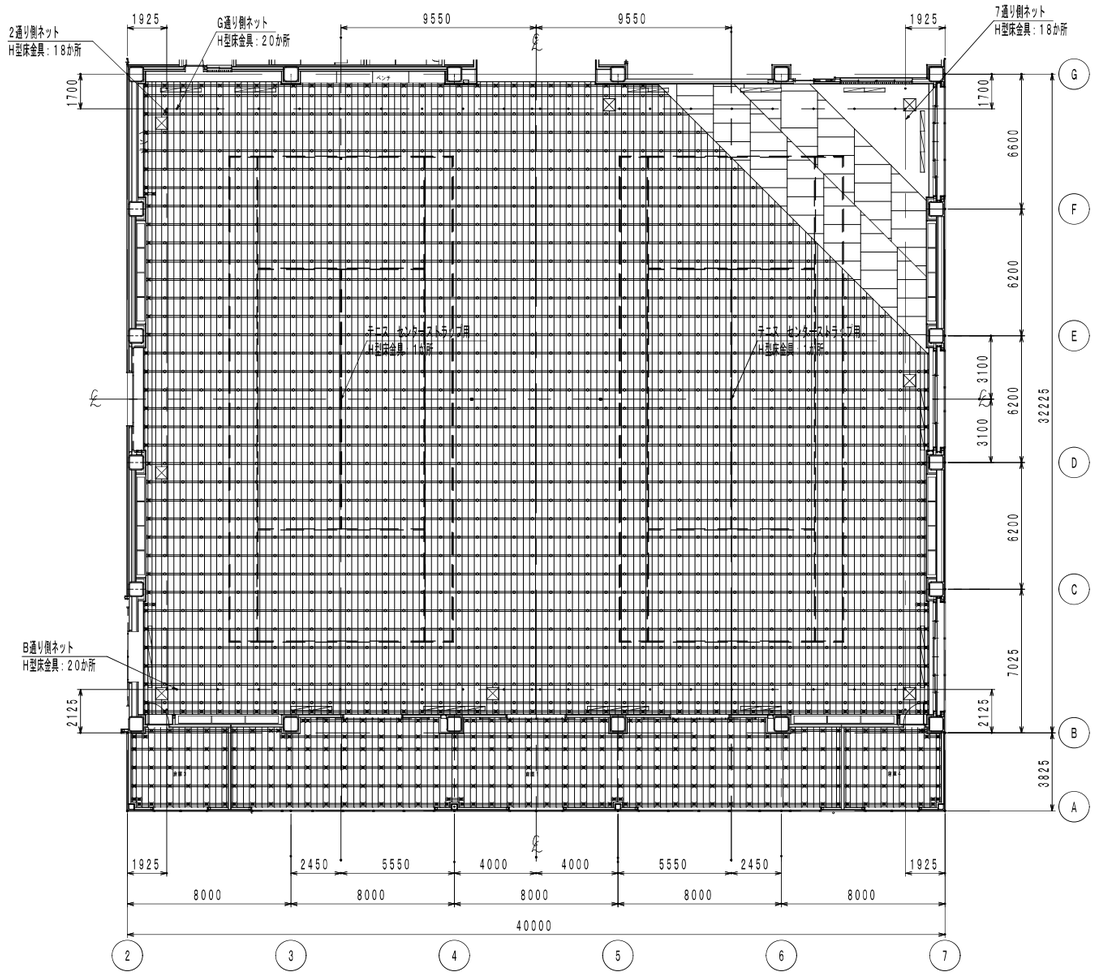
・・・体育器具との干渉を防ぐ為、斜線部範囲内に照明等を取付無い事。



全重量：約230kg
リング先端にかかる短期荷重：約1．50kN
P_A：取付上部にかかる引張荷重
短期（使用時）　―――　約7．21kN
P_B：取付下部にかかる圧縮荷重（－P_A）
短期（使用時）　―――　約7．21kN
Q　：取付下部にかかる垂直荷重
短期（使用時）　―――　約0．94kN

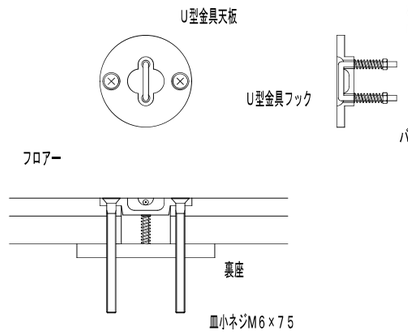


DC112500　折畳バスケットゴール　S=1/50
床ハンドル操作式　（日本バスケットボール協会装置検定品）

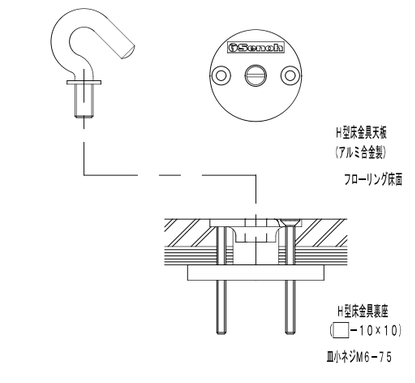


H型床金具配置図　S=1/150

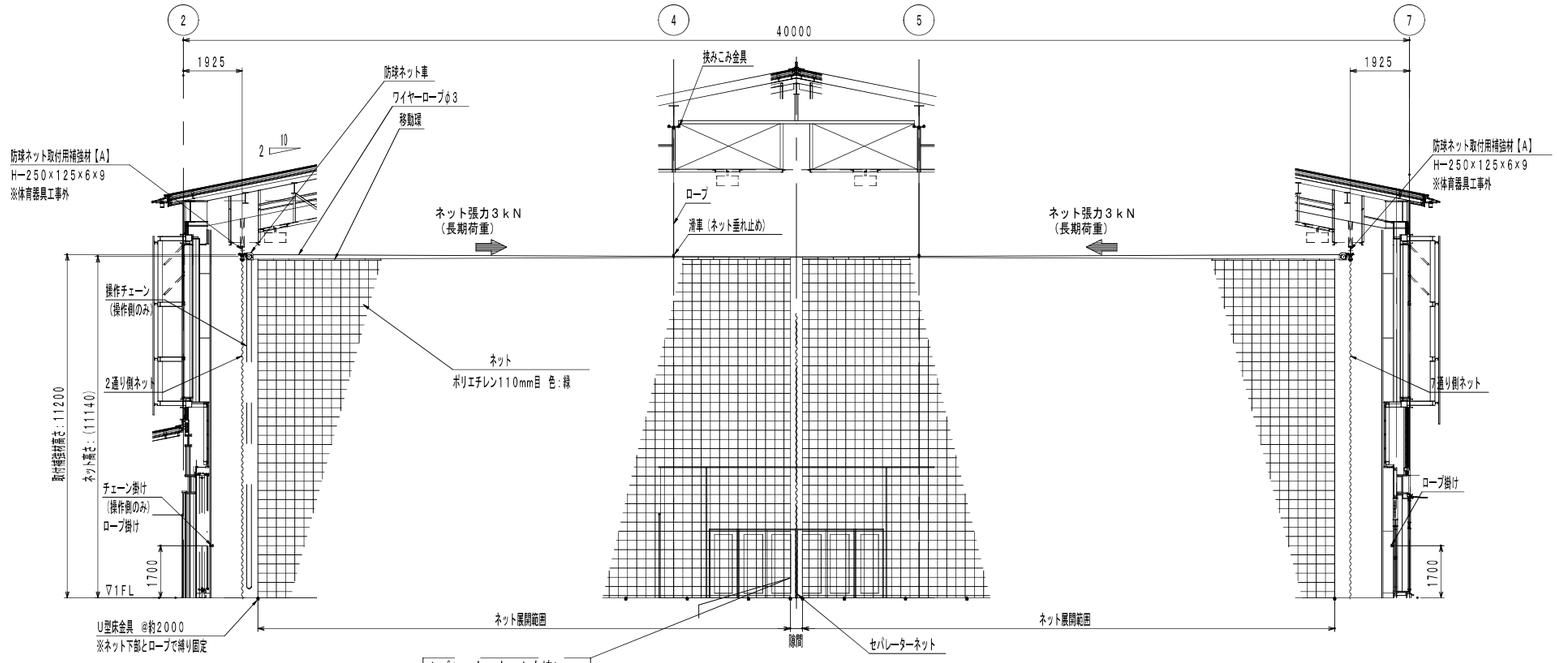
KH010000　防球ネット用U型金具　S=1/2
※G，B，2，7通り側ネットに使用



KZ022000　H型床金具　フック付
振動床用（テニス センターストラップ用）　S=1/2

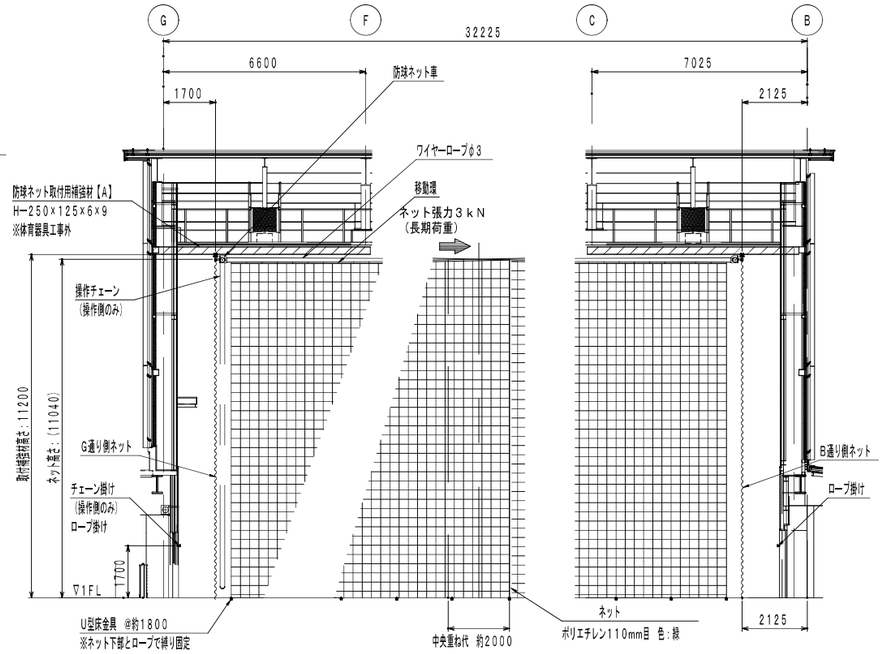


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	製図 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和7年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 体育器具図(2)　縮尺 A1：1/200 A3：1/400
	日付 令和7年6月		製図 望月			図面 NO. A－094

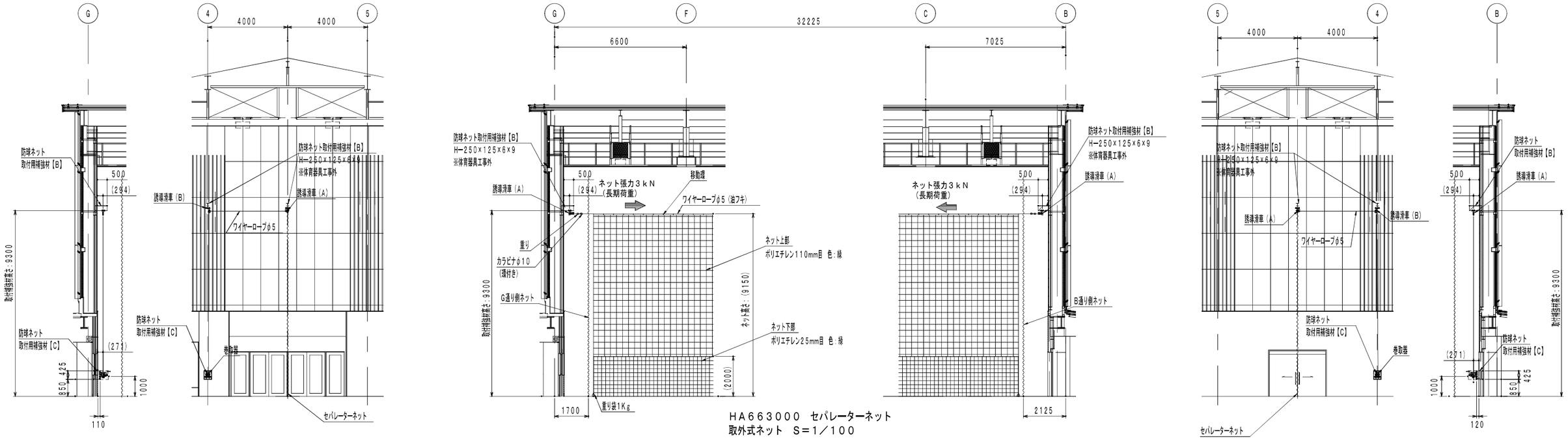


セパレーターネットを境に
ネットを二分割。

HA131000 G通り側、B通り側ネット
両開きチェーン操作式 S＝1／100



HA131100 2通り側、7通り側ネット
両開きチェーン操作式 S＝1／100

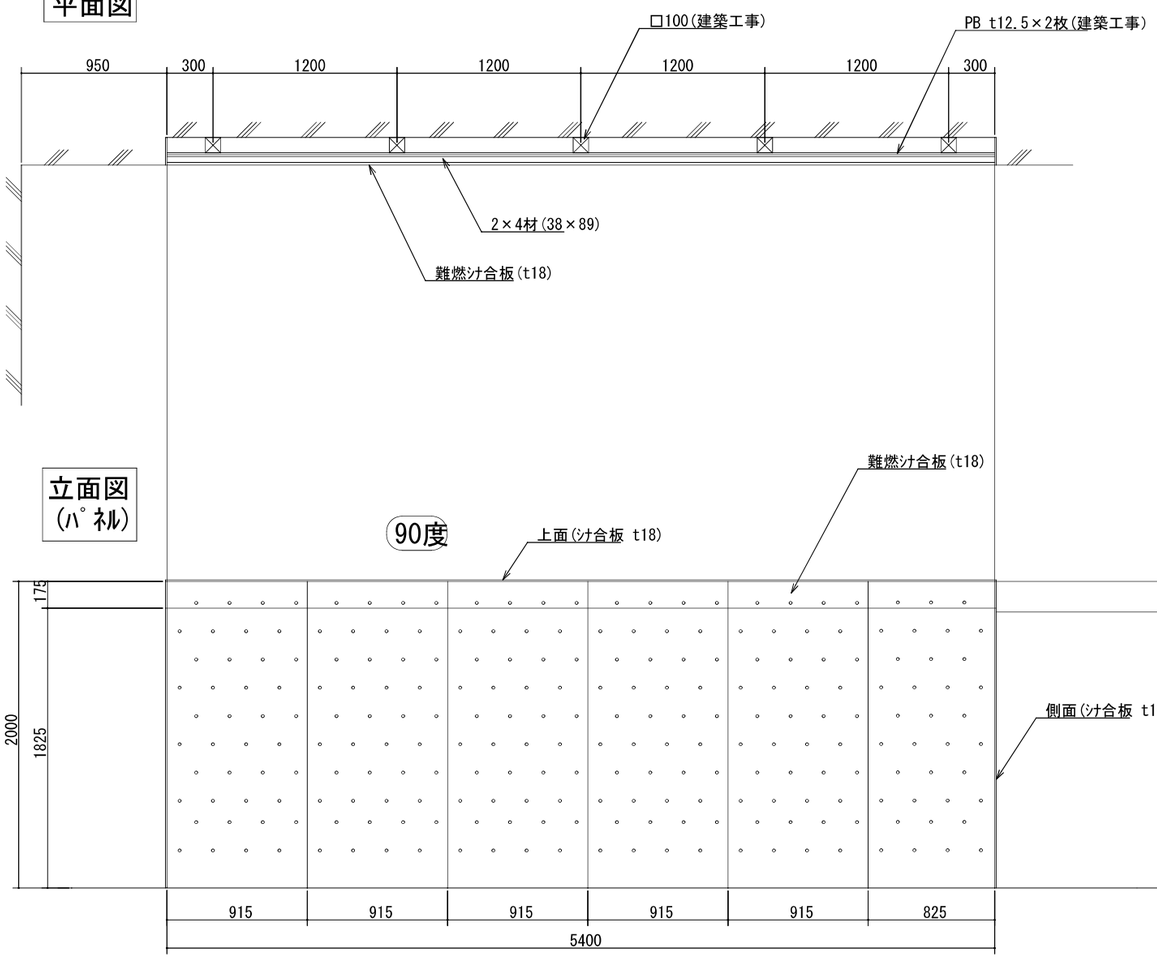


HA663000 セパレーターネット
取外式ネット S＝1／100

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	監督 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和7年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 体育器具図(3)
	日付 令和7年6月		製図 望月			縮尺 A1：1/100 A3：1/200

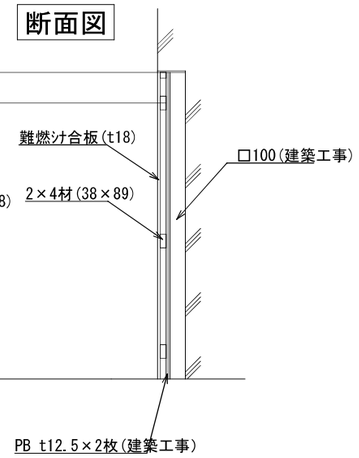
図面NO. A−095

平面図

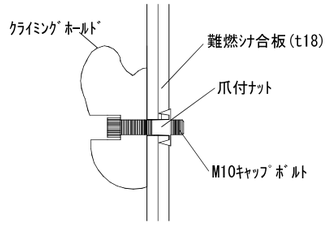


立面図(ﾊﾟﾈﾙ)

断面図



クライミングホールド詳細図



※ﾊﾟﾈﾙの裏にﾎﾞﾙﾄが出るため、ｸﾘｱﾗﾝｽ45mm見る

― 仕様―

●ﾎﾞﾙﾀﾞﾘﾝｸﾞｳｫｰﾙ下地
□100〔建築工事〕
PB t12.5〔建築工事〕
木材2×4(38×89)
●仕上げ
難燃ｼﾅ合板915×1825×t18
ﾎｰﾙﾄﾞ HRT・UNDER BLUE HOLD
安全基準(EN12572)に基づき施工

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋
	日付 令和7年6月	製図 望月	

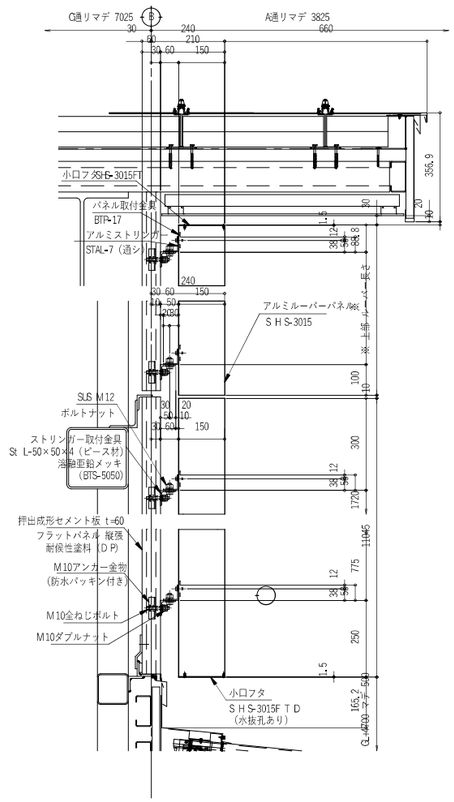
設計 NO.

工事名: 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

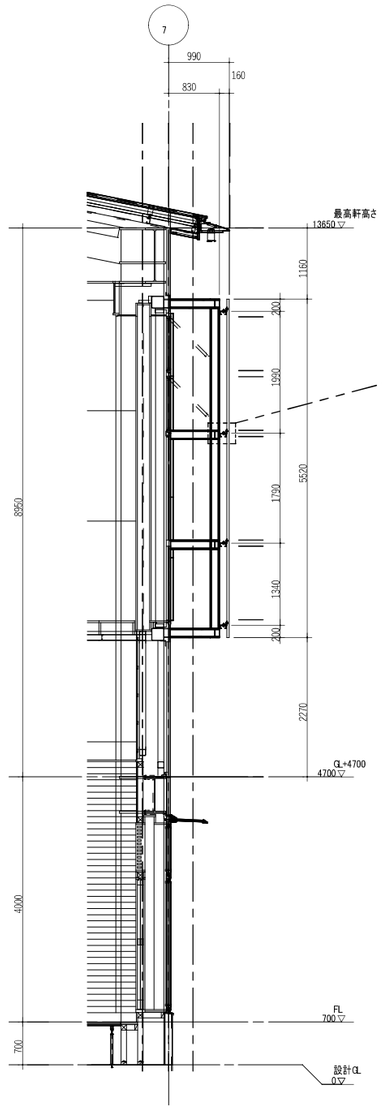
図面名: ﾎﾞﾙﾀﾞﾘﾝｸﾞｳｫｰﾙ図

縮尺: A1: 1/20　A3: 1/40

図面 NO. A－０９６

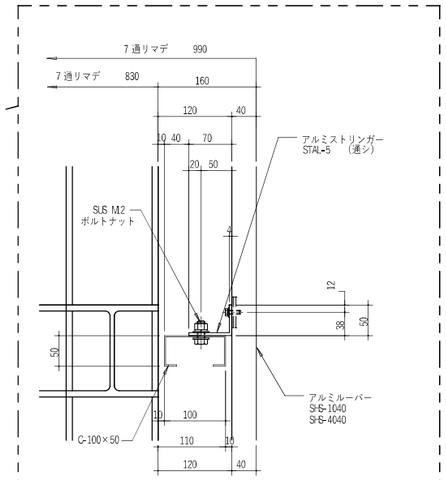


断面詳細図　S=1/10



断面図　S=1/50

パターンピッチ　@ 741



部分詳細図　S=1/5

＜使用製品＞

アルミルーバー　（開口率 約 32.4 %）

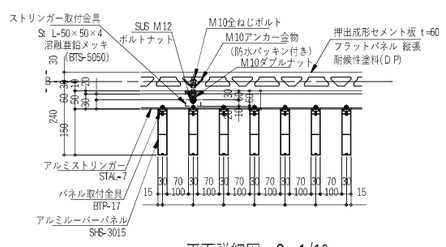
SHS-1040　・　SHS-4040

参考仕上げ：木目調シート（ WE-5135 ）

アルミストリンガー

STAL-5

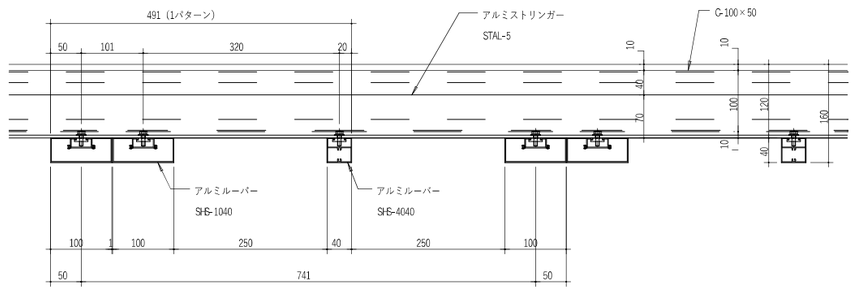
参考仕上げ：アルマイト　ブラック　（ RB-1N ）



平面詳細図　S=1/10

製品仕上

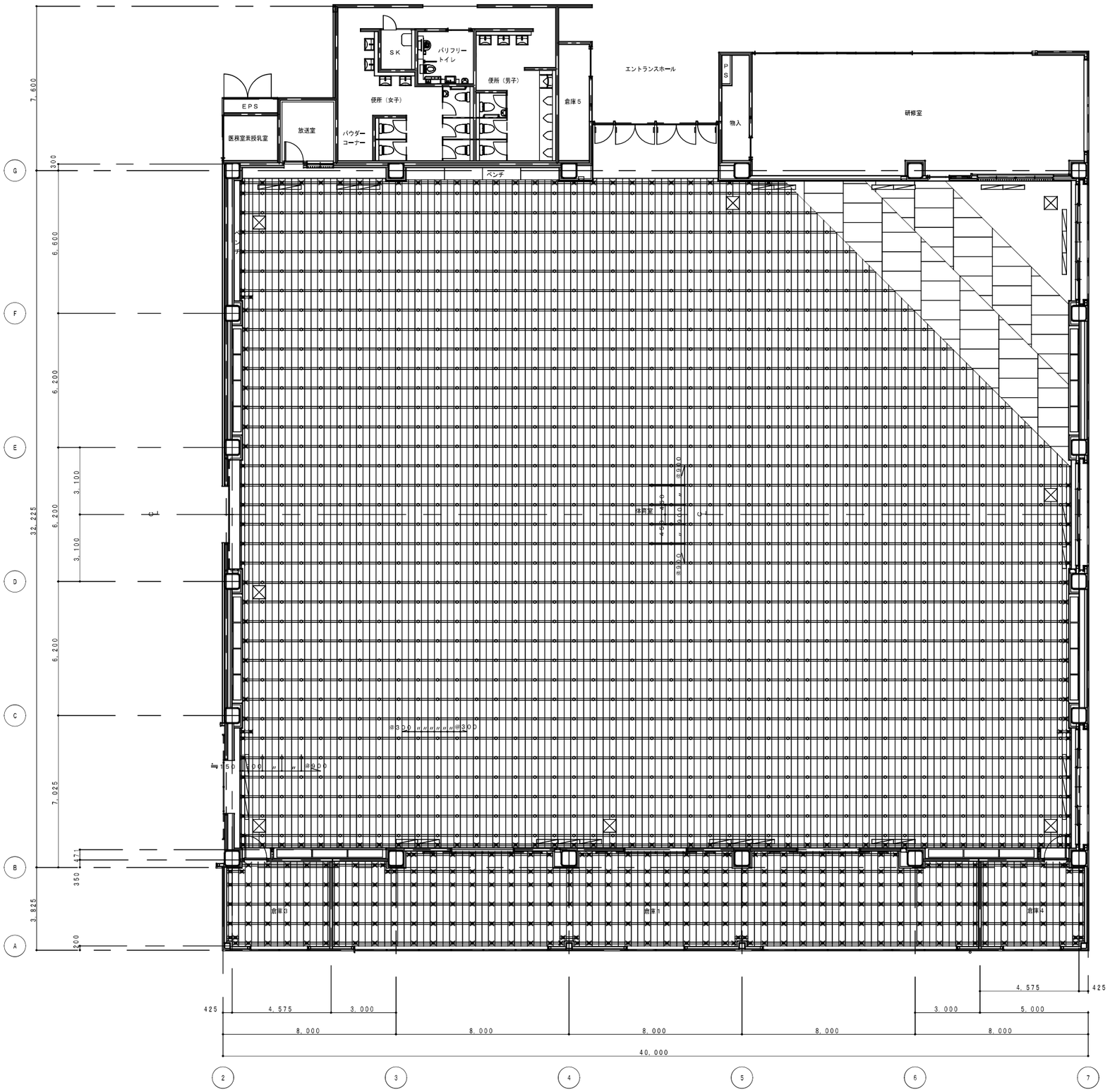
部材名	製品記号	仕上
・アルミルーバーパネル	SHS-3015 @100	木目調シート：WE
・アルミストリンガー	STAL-7	焼付塗装：WE近似単色
・小口フタ	SHS-3015FT、SHS-3015FTD	〃



平面詳細図　S=1/5

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋 / 監督 大橋	主任 大橋	設計 NO.
	日付 令和7年6月	製図 望月	

工事名	図面名	縮尺	図面 NO.
令和7年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	外壁アルミルーバー図	A1：1/50 A3：1/50×50.0%	A－097



1階　体育室　床伏図　　S＝1／100

体育室　鋼製床仕様　H＝７００

床仕上材：高弾性長尺スポーツシート６．２mm
グラスファイバークロス層
高密度・低密度ダブルスポンジ層

捨張構造用ラワン合板１５ｔ　Ｆ☆☆☆☆

捨張針葉樹構造用合板１５ｔ　Ｆ☆☆☆☆

根太　３０×３５×６５×１．２@３００

大引　ロー５０×５０×１．６@９００

バウンドゴム　５０φ×３０ｔ

周囲バウンドゴム無し

束サポートパイプ　３４φ×２．３
@９００×９００

床浮上り防止の為３４φサポートパイプを
全てアンカーボルト１２．７φ固定とする

床換気口（アルミ）
２００×１０００
スライド式、メッシュ付き
２連×７ヶ所　３連×６ヶ所　合計３２台

床下点検口　アルミ枠
６００×６００　８ヶ所

倉庫１．３．４　鋼製床仕様　H＝７００

床仕上材：単層ビニル床シート２．０mm

捨張構造用ラワン合板１５ｔ　Ｆ☆☆☆☆

捨張針葉樹構造用合板１５ｔ　Ｆ☆☆☆☆

根太　３０×３５×６５×１．２@３００

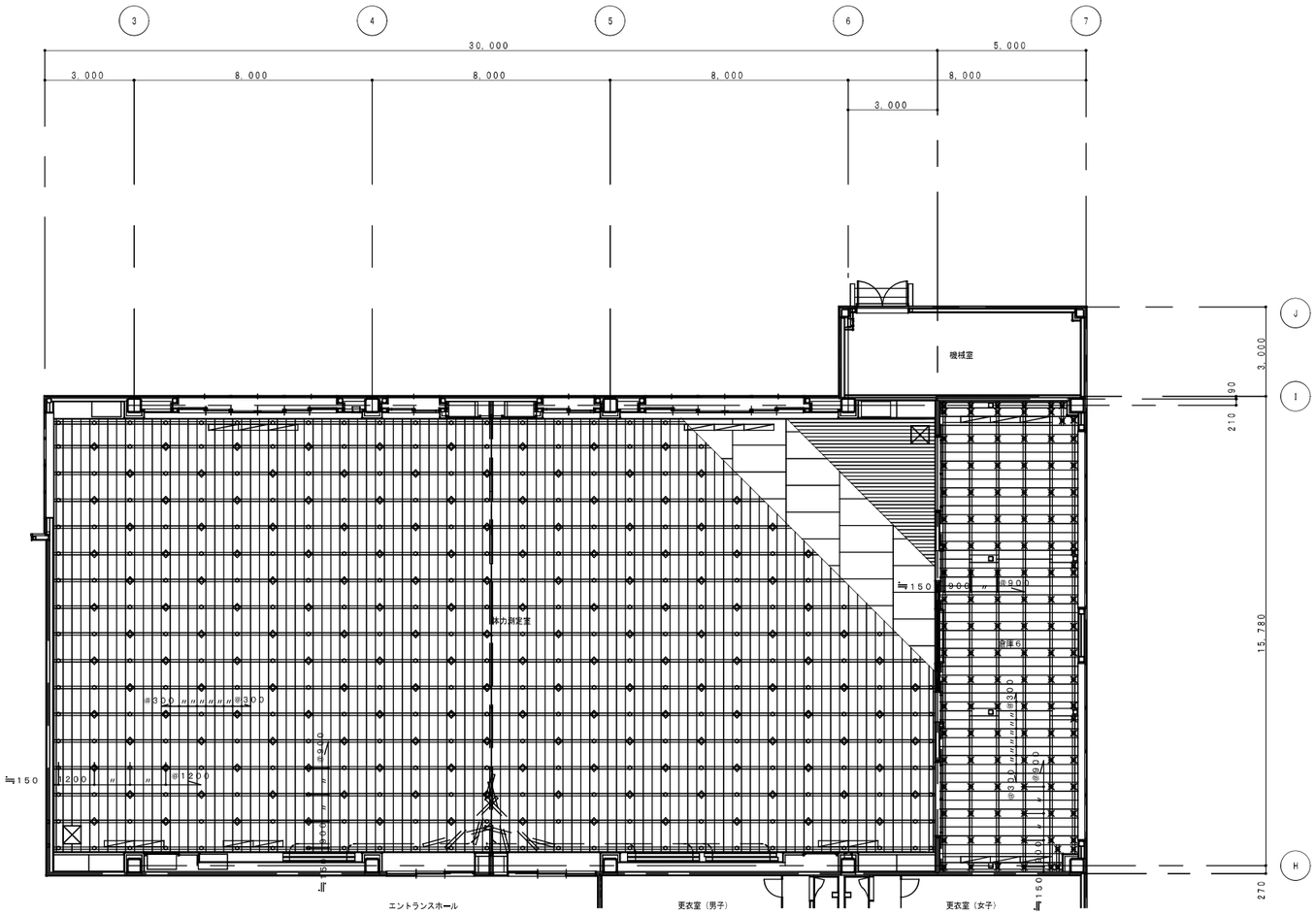
大引　ロー５０×５０×１．６@９００

バウンドゴム無し

束サポートパイプ　３４φ×２．３
@９００×９００

床浮上り防止の為３４φサポートパイプを
全てアンカーボルト１２．７φ固定とする

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 1階 体育室 床伏図	縮尺 A1：1/100 A3：1/200
	日付 令和７年６月		製図 望月				図面 NO. A－０９８



体力測定室　鋼製床仕様　Ｈ＝７００

大型積層フローリング１８ｔ　２１７×１８００
表面単板　カバ6mm　投板
加圧樹脂含浸寸法安定化高強度処理品
捨し特殊張り工法
工場塗装７回
現場水性ウレタン２液１回塗装仕上
捨張針葉樹構造用合板１５ｔ　Ｆ☆☆☆☆
根太　３０×３５×６５×１．２@３００
大引　ロー６０×６０×１．６@９００
○ バウンドゴム　５０φ×３０ｔ
◆ ２重コイルスプリング　５５φ×５５ｔ
束サポートパイプ　４８．６φ×２．３
@９００×１２００
床浮上り防止の為４８．６φサポートパイプを
全てアンカーボルト１２．７φ固定とする

床換気口（アルミ）
２００×１０００
スライド式、メッシュ付き
２連×３ヶ所　３連×２ヶ所　合計１２台

床下点検口　アルミ枠
６００×６００　２ヶ所

倉庫６　鋼製床仕様　Ｈ＝７００

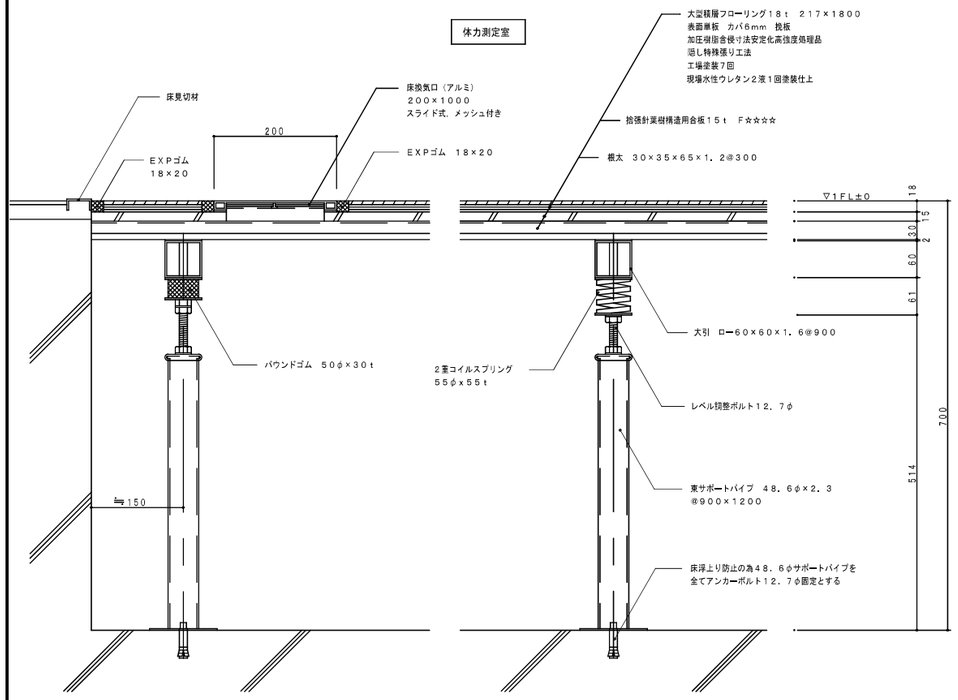
床仕上材：単層ビニル床シート２．０mm
捨張構造用ラワン合板１５ｔ　Ｆ☆☆☆☆
捨張針葉樹構造用合板１５ｔ　Ｆ☆☆☆☆
根太　３０×３５×６５×１．２@３００
大引　ロー５０×５０×１．６@９００
バウンドゴム無し
束サポートパイプ　３４φ×２．３
@９００×９００
床浮上り防止の為３４φサポートパイプを
全てアンカーボルト１２．７φ固定とする

床換気口（アルミ）
２００×１０００
スライド式、メッシュ付き
３連×２ヶ所　合計６台

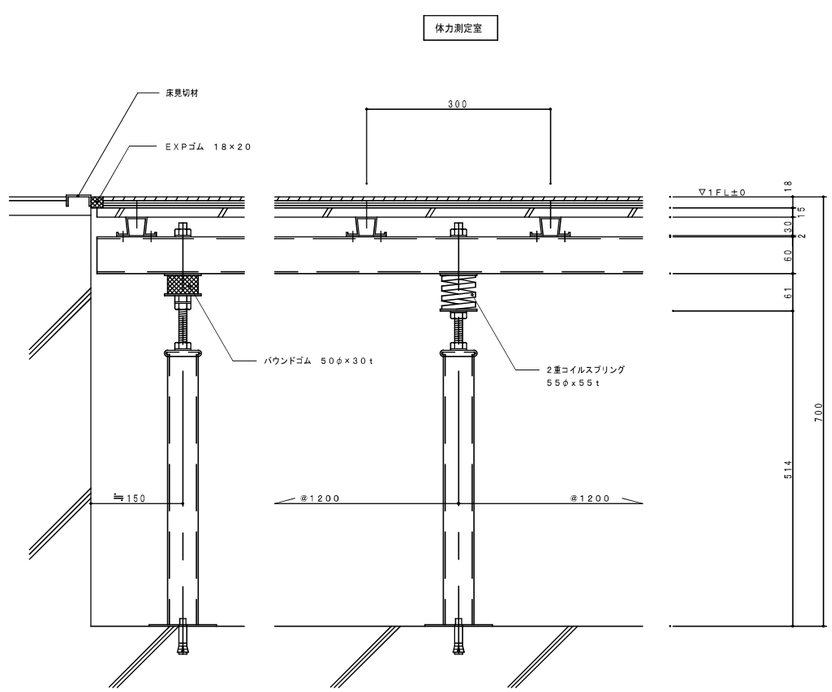
１階　体力測定室　床伏図　　Ｓ＝１／１００

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 1階 体力測定室床伏図
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/100 A3：1/200

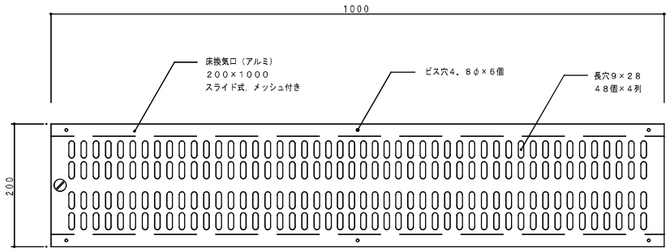
図面 NO. Ａ－０９９



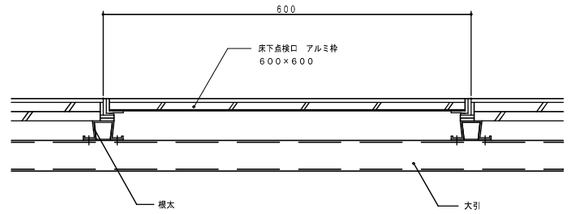
体力測定室　床換気口廻り　断面詳細図　　S＝1／5



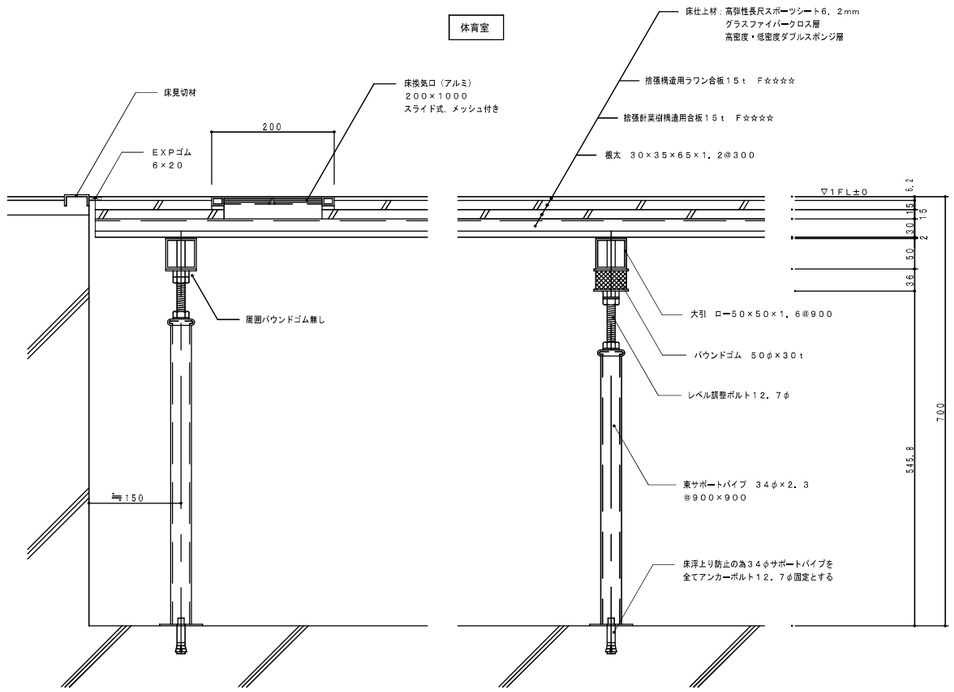
体力測定室　床見切廻り　断面詳細図　　S＝1／5



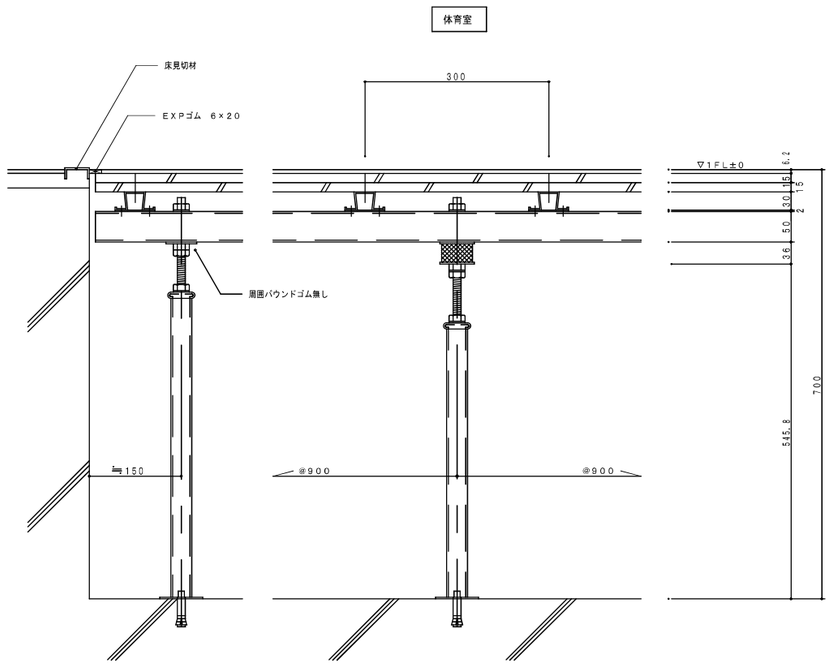
床換気口　平面詳細図　　S＝1／5



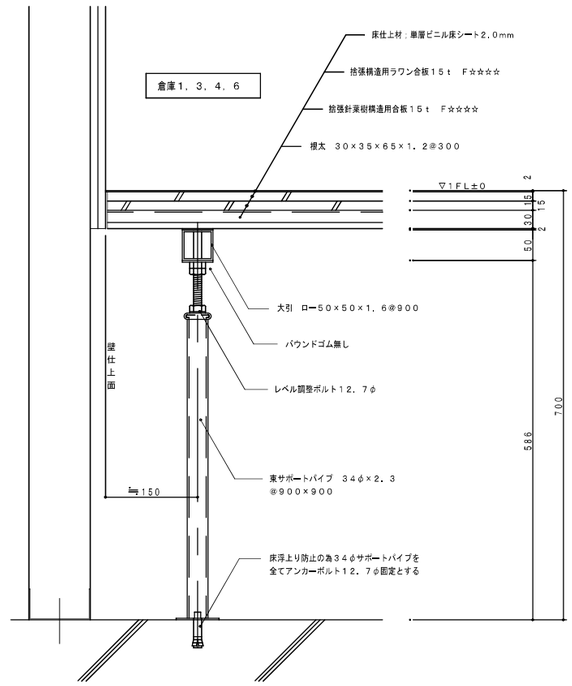
床下点検口　断面詳細図　　S＝1／5



体育室　床換気口廻り　断面詳細図　　S＝1／5



体育室　床見切廻り　断面詳細図　　S＝1／5



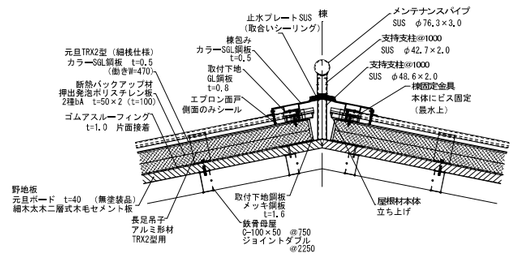
倉庫1，3，4，6　断面詳細図　　S＝1／5

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	製図 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和7年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 鋼製床断面詳細図
	日付 令和7年6月		製図 望月			縮尺 A1：1/5 A3：1/10

図面NO. A－100

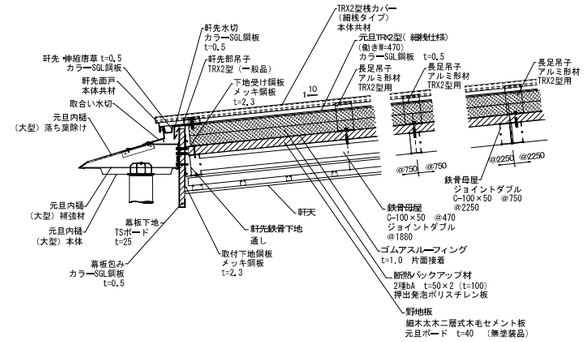
棟詳細 S=1/15

棟部分詳細



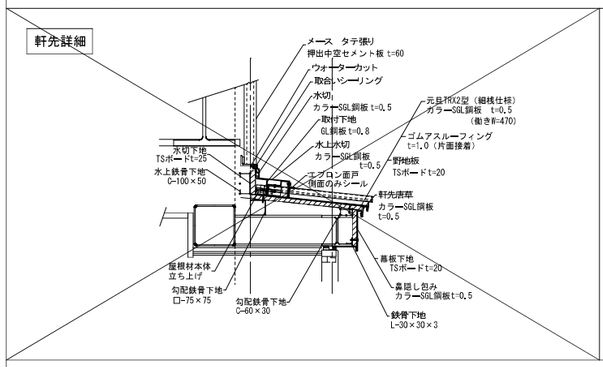
体力測定室屋根軒先 S=1/15

軒先詳細 1/10屋根（体力測定室軒先）

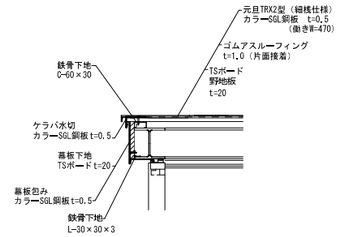


小庇詳細 S=1/15

軒先詳細

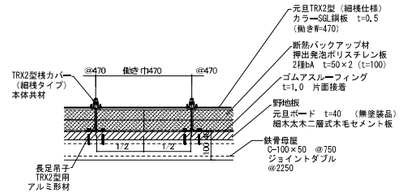


ケラバ詳細

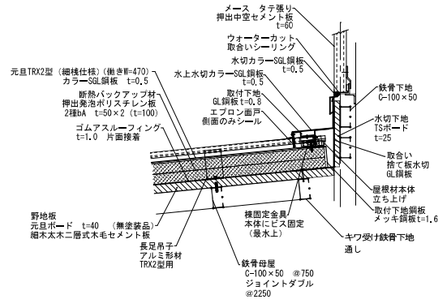


一般断面、屋根外壁取合い詳細 S=1/15

一般断面詳細

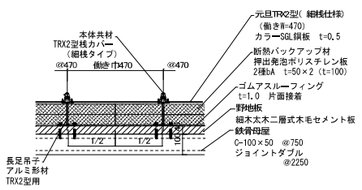


水上壁取合い詳細

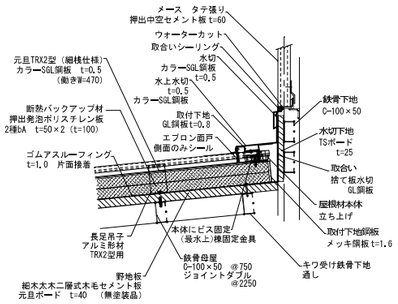


一般断面、屋根外壁取合い詳細 S=1/15

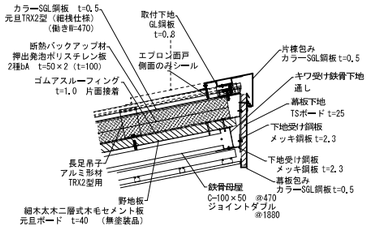
一般断面詳細



水上壁取合い

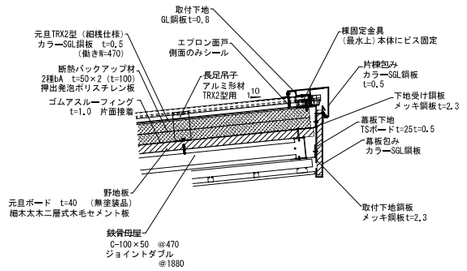


水上棟詳細 1/20屋根

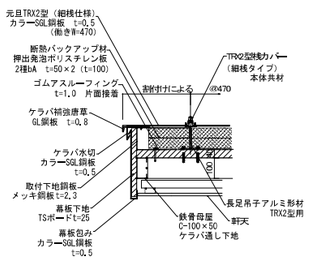


片棟部分詳細 S=1/15

水上片棟詳細 1/10屋根（体力測定室水上）



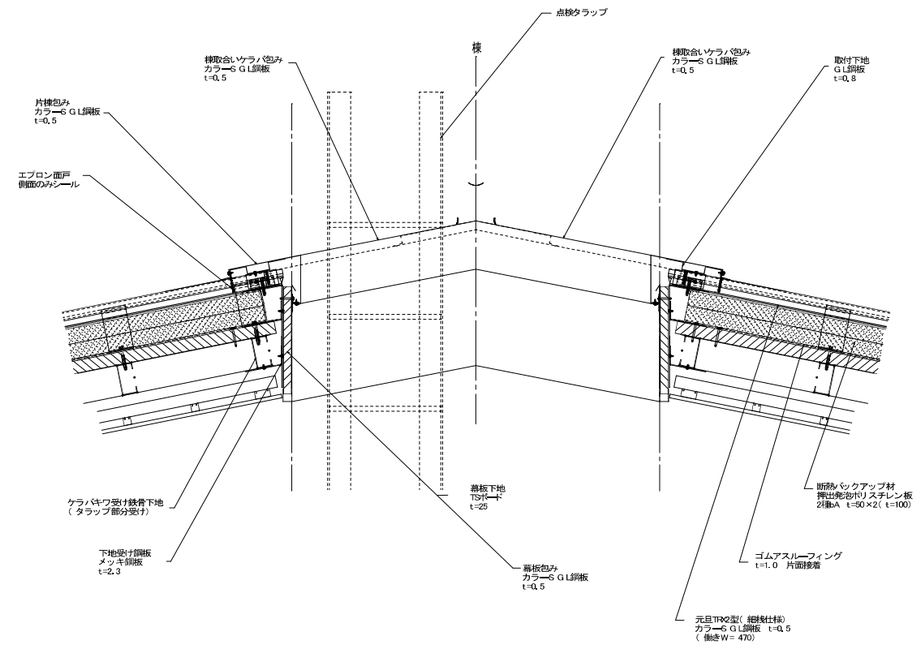
ケラバ詳細

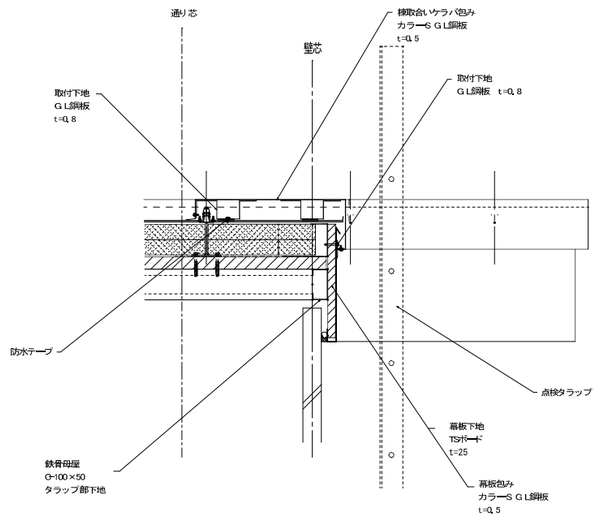


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 屋根詳細図（１） 縮尺 A1：1/15 A3：1/30
	日付 令和７年６月	製図 望月				図面 NO. A－１０１

タラップ部分詳細

S=1/10



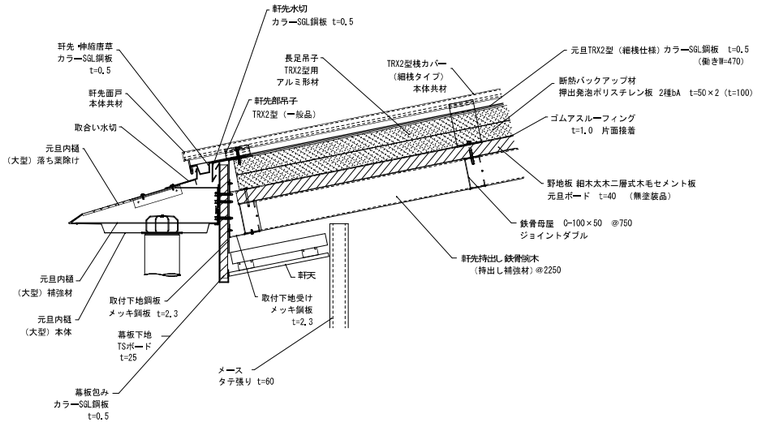


2/10軒先、ケラバ詳細

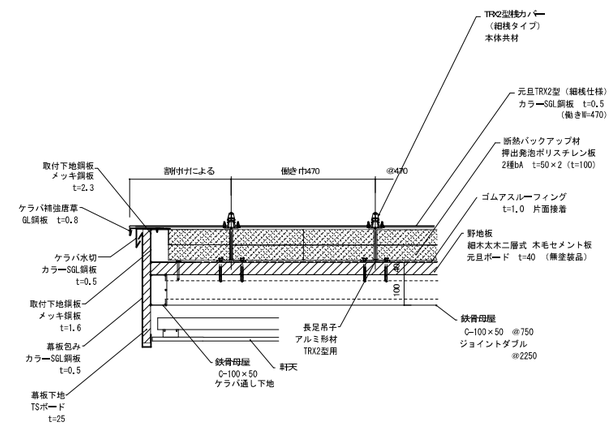
S=1/10

軒先詳細

2/10屋根
（本体屋根軒先）

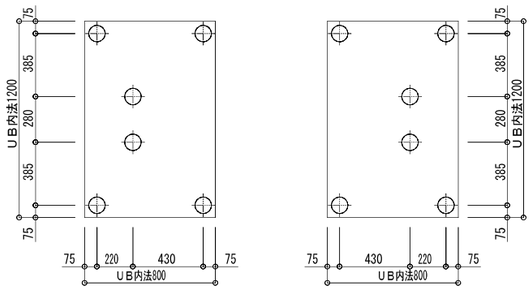


ケラバ詳細



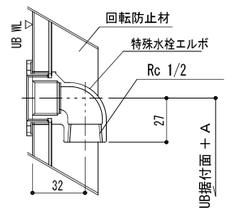
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 屋根詳細図（２） 縮尺 A1：1/10 A3：1/20
	日付 令和７年６月		製図 望月			図面NO. A－１０２

JSV0812UL			コロガシ　●は、基本仕様からの変更箇所	
名　称	仕様・寸法	色・柄	特記事項	備　考
天井パネル	化粧鋼板複合パネル（抗菌防カビ仕様・モール式） 点検口□４５０（絞り点検口・落下防止用紐付 石膏ボード２枚貼り）	ホワイト		
壁パネル	ＨＱパネル	ベーシスホワイト		
床パネル	ＦＲＰ　カラリ床（単色）	ホワイト（＃ＮＷ１）		
ドア枠	アルミアルマイト処理	アイボリー	（付枠用取付ネジＵＢ支給、 ネジ取付および付枠別途）	
ドアパネル	折戸　ドア脱着機構付　面材：型板ステレン板 Ｗ＝８００（有効開口幅　６７１mm）	アイボリー　面材：半透明		
シャワー水栓	ＴＢＶ０３４３３Ｊ型　壁付サーモスタットシャワー金具 （スパウトＬ＝７０）			
シャワーヘッド	スプレーシャワー　ホース：Ｌ＝１６００	ヘッド：ホワイトグレー　ホース：シルバー		
シャワーハンガー	ＴＨ５５６Ｆ６型	ホワイト		
照明	半球形照明（ＬＥＤランプ） 消費電力９Ｗ以下　６０Ｗ相当　電球色 ＶＶＦ１．６φ×２Ｃ　Ｌ＝２．０m付		（壁穴加工なし）（以降接続別途）	
ジョイントボックス	エコノミージョイント　ＷＪ３１０７相当品		（ジョイントボックスま での配線及びジョイント ボックス内の結線別途）	
● 換気扇	AC100V 消費電力:10/12W (50/60HZ) カバー（抗菌・防カビ仕様）		（以降接続別途）	IKJC5
給水エルボ （シャワー用）	青銅鋳物製　接続口　Ｒｃ１／２		（以降接続別途）	
給湯エルボ （シャワー用）	青銅鋳物製　接続口　Ｒｃ１／２		（以降接続別途）	
排水トラップ	ＡＢＳ樹脂　封水深５０mm　接続口　ＶＰ５０受口 ヘアーキャッチャー付　高圧洗浄対応		（以降接続別途）	
タオル掛け	ステンレスパイプ　φ１３　Ｌ＝３００	ホワイト（＃ＮＷ１）		

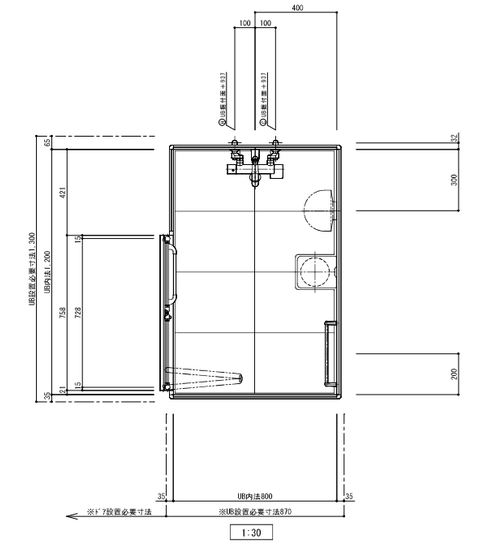


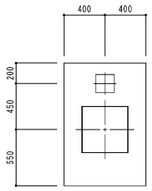
ドア位置Ａ、Ｂタイプ　　ドア位置Ｃ、Ｄタイプ

床支持位置図

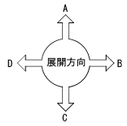


名称	Ａ寸法
シャワー用給水エルボ	937
シャワー用給湯エルボ	937



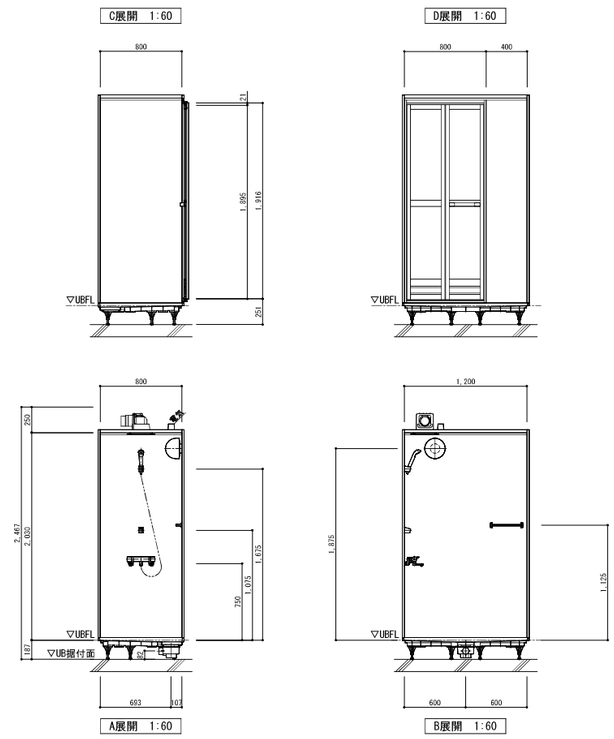


天井伏図　1:60

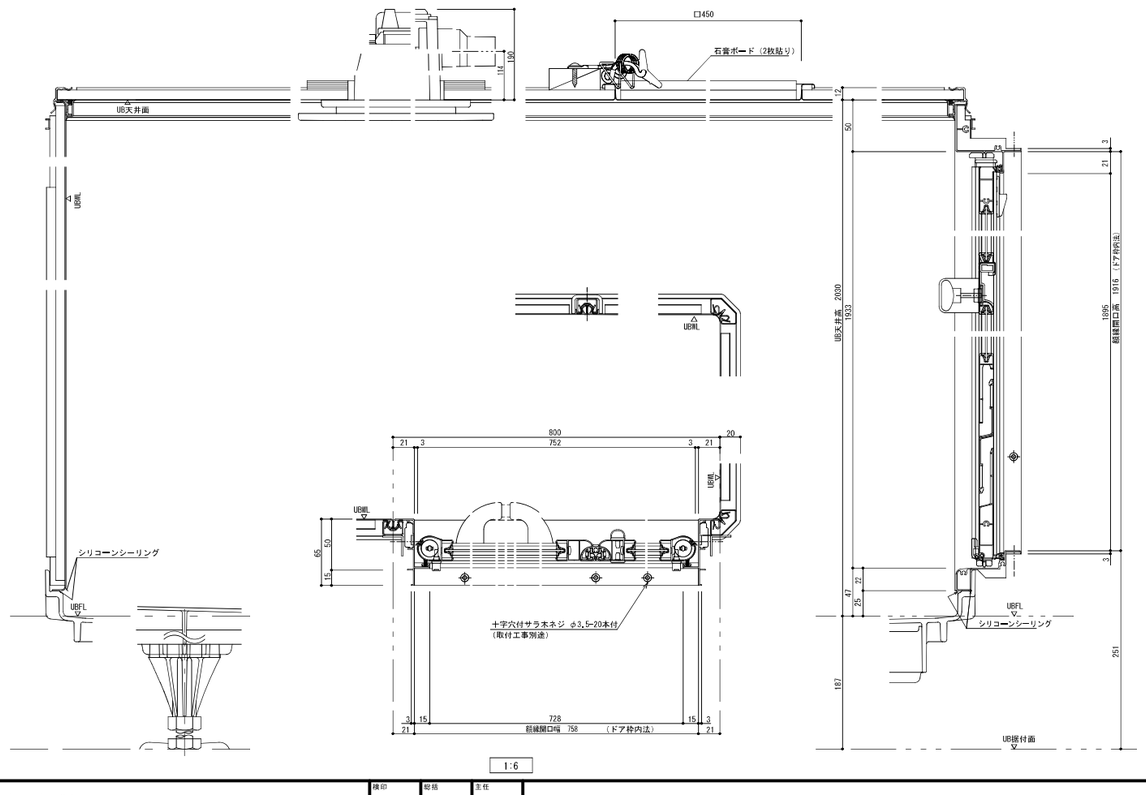


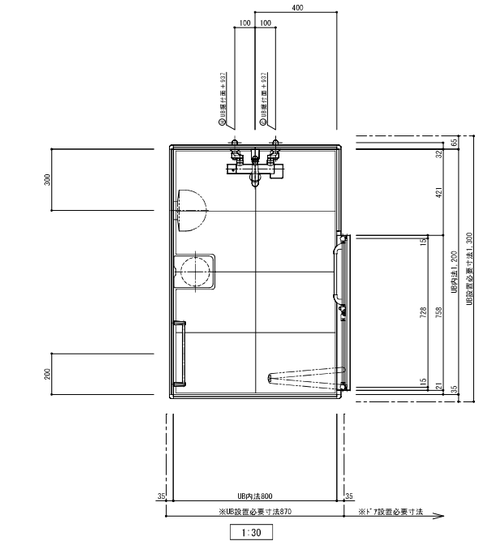
※ＵＢ設置必要寸法に
ドア設置必要寸法は含んでいません。

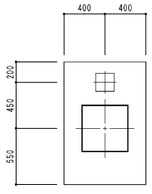
ドア納まりについての詳細は必ず
矩計図をご確認ください。



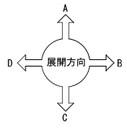
＊UB据付高さ調整範囲　187～227mm





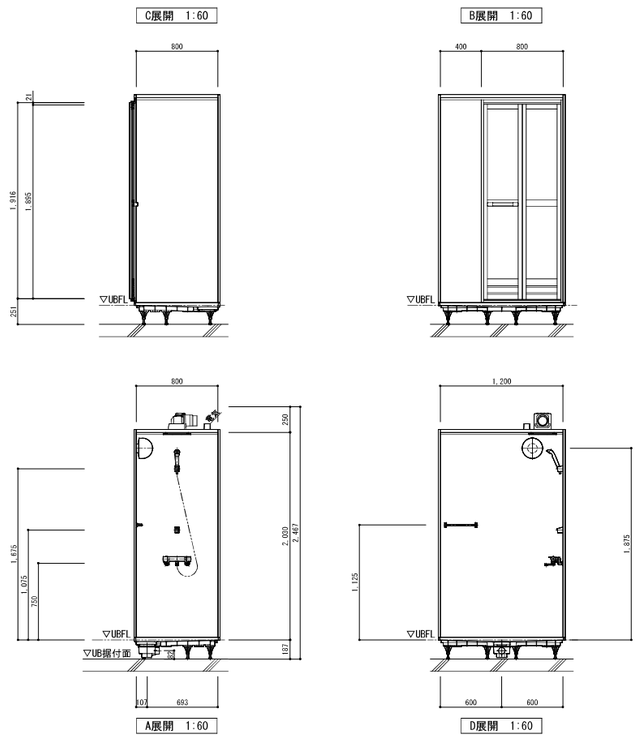


天井伏図　1:60



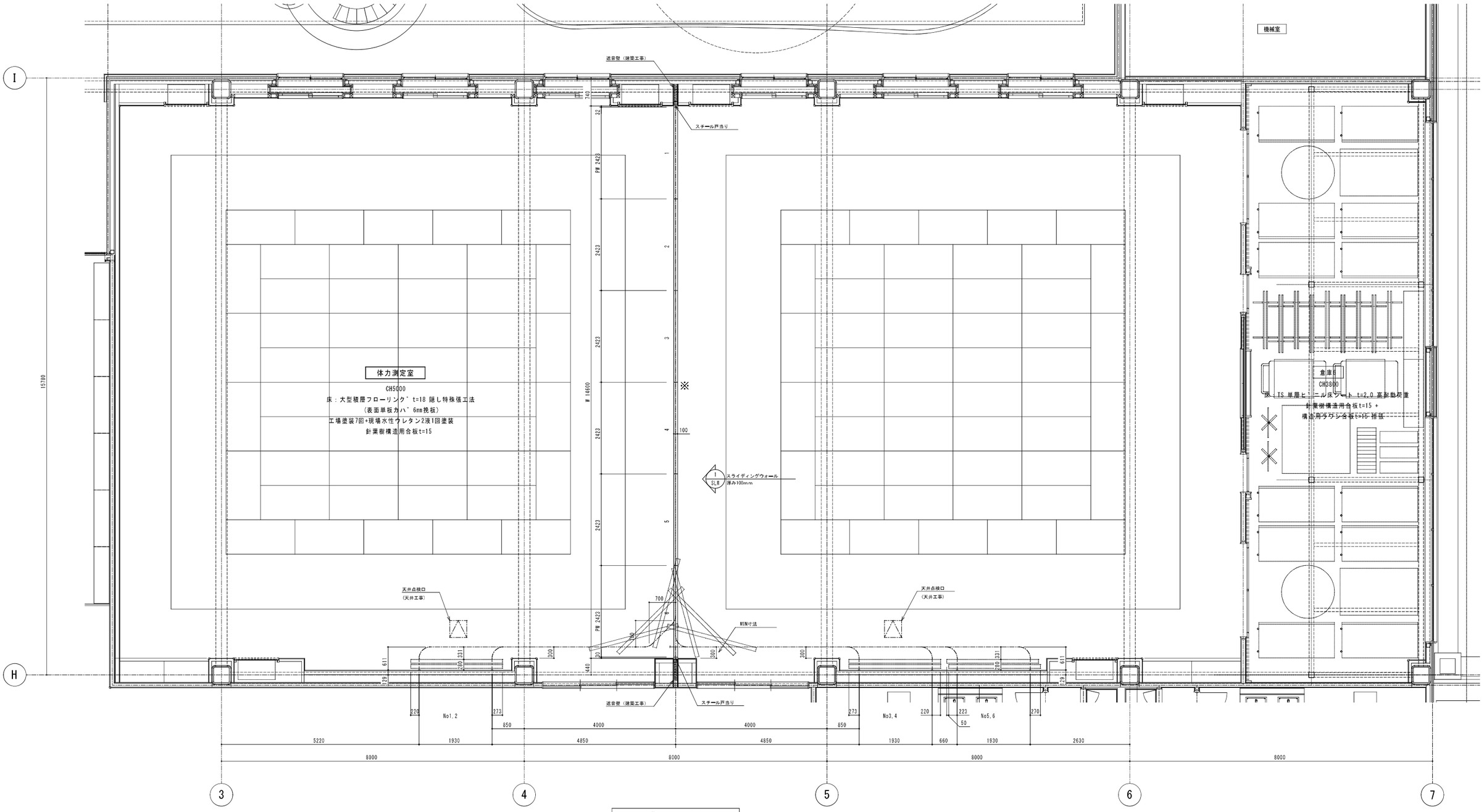
※ＵＢ設置必要寸法に
ドア設置必要寸法は含んでいません。

ドア納まりについての詳細は必ず
矩計図をご確認ください。



＊UB据付高さ調整範囲　187～227mm

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	監督 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 シャワーユニット詳細図	縮尺 図示	図面 NO. A－１０３
	日付 令和７年６月		図面 望月					

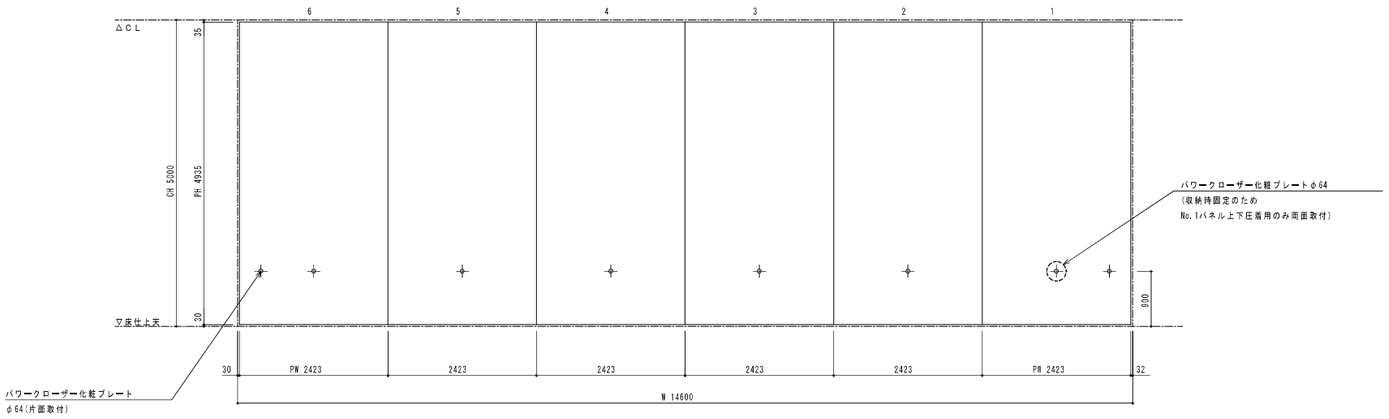


1階平面図 S=1:50

※印 パワークローザー化粧プレート取付側

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	経緯 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 可動間仕切り1階平面図（参考図）	図面NO. A－１０４
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100	

スライディングウォール厚み100mm
パネル重量 約680kg／枚

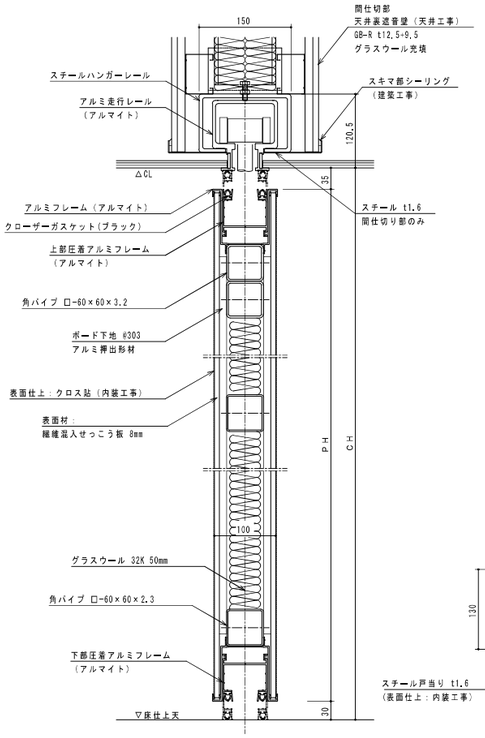


展開図 S=1:50

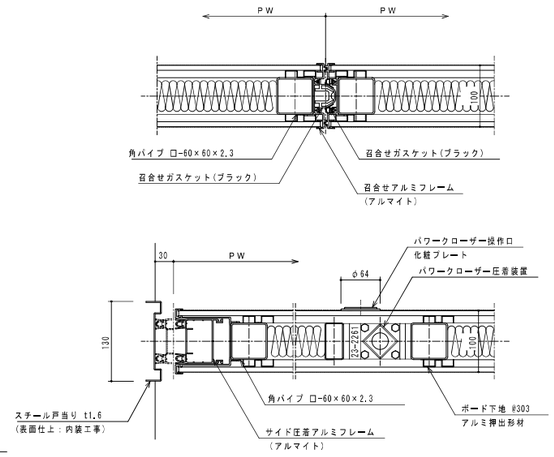
厚み100mm
（遮音仕様）

1
SLW

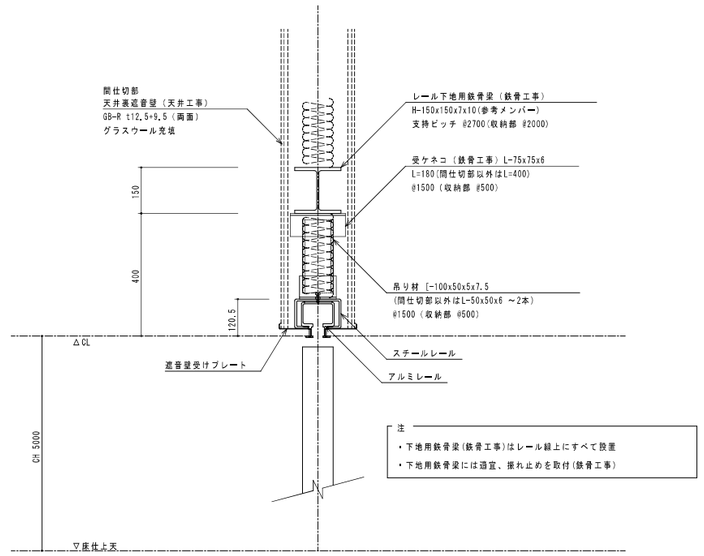
レール仕様	レール	スチール、アルミ押出型材(アルマイト処理)合成ハンガーレール
		コーナー部 Rレール
ランナー仕様	走行輪	多軸多輪(3軸6輪)
	吊ボルト	M 24
パネル仕様	表面仕上	クロス貼(内装工事)
	表面材	繊維混入せっこう板 8mm
	充填材	グラスウール 32K 50mm
	骨組	鉄骨造
	フレーム	アルミ押出形材（アルマイト処理）
	召合せ	固定ゴムハメ合
	壁面シールド	機械駆動式
	上部シールド	機械駆動式
	下部シールド	機械駆動式



縦断面詳細図 S=1:5



横断面詳細図 S=1:5



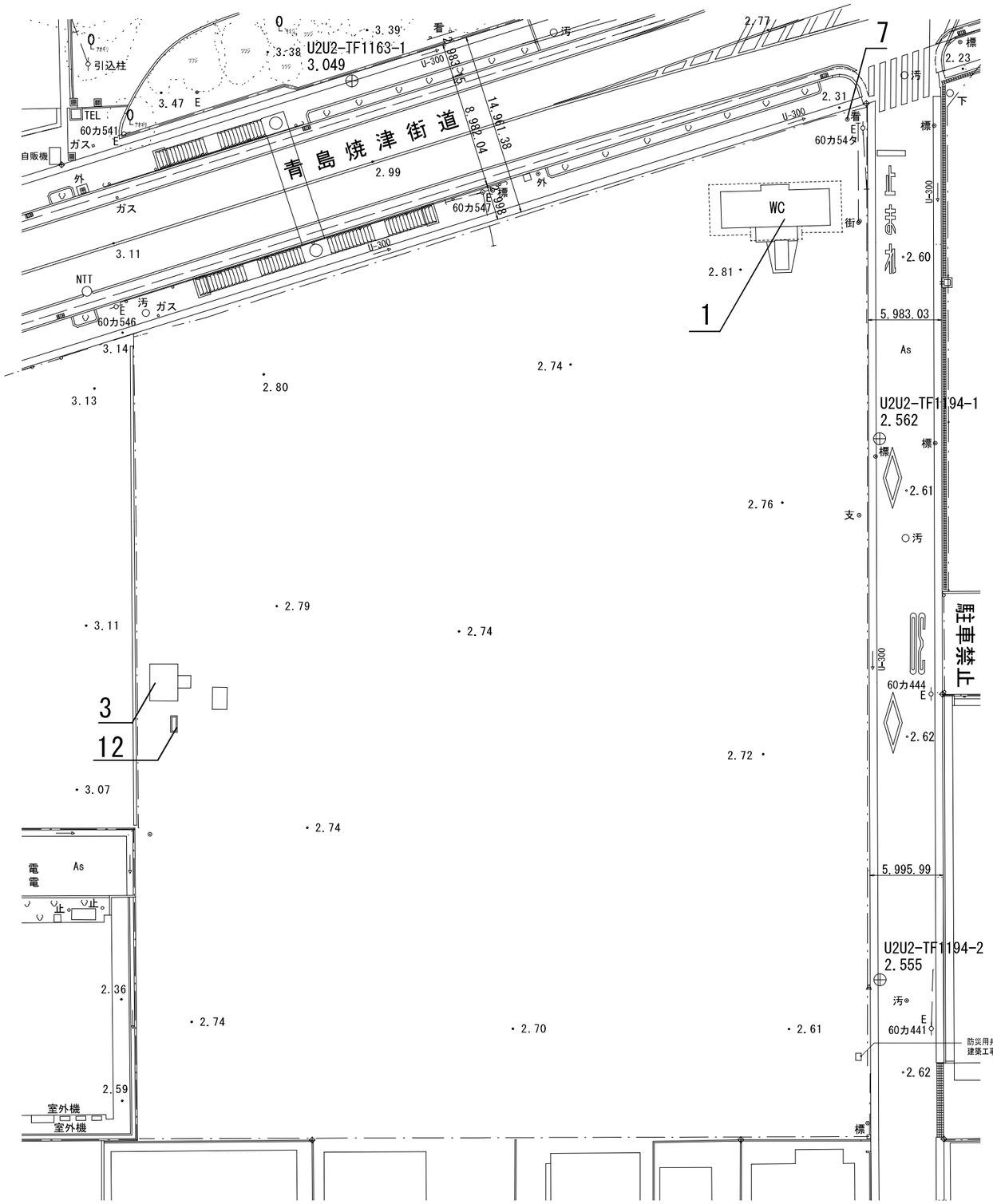
（参考図）

レール取付断面図 S=1:10

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 可動間仕切り詳細図(参考図)	図面NO. A－１０５
	日付 令和7年6月		製図 望月			縮尺 A1：1/5,10 A3：1/10,20	

既存解体図

S=1:200



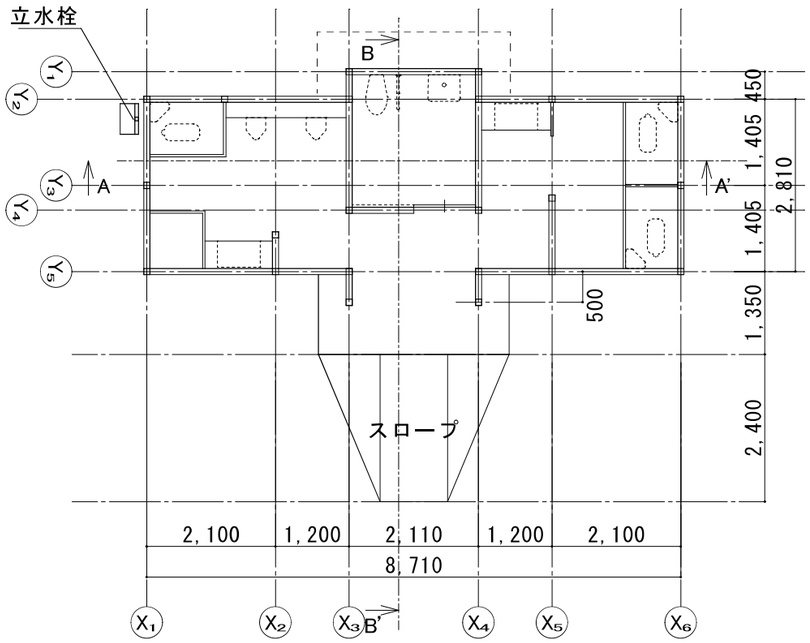
既存解体リスト

番号	種別	基数
1	屋外トイレ	1
2	倉庫1	1
3	倉庫2	1
4	ネットポール	1
5	門柱	1
6	掲揚台	1
7	鋼製看板	1
8	引き込み柱（RC製） 電気BOX	1
9	引き込み柱（鋼製）	1
10	引き込み柱（RC製） 照明灯操作盤	1
11	夜間照明灯	4
12	ブロック積み	1

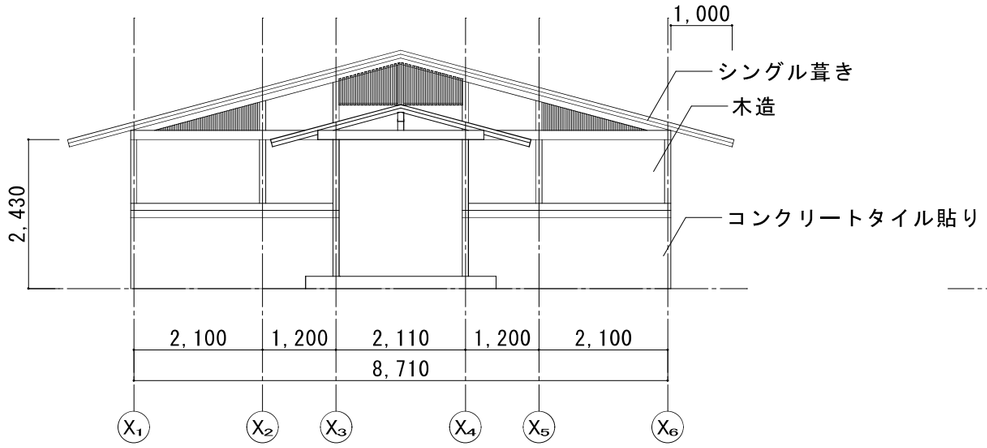
※既存解体物は参考とし現地確認を行うこと

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 解体図（既存配置図）	縮尺 A1：1/200 A3：1/400	図面 NO. A－１０６
	日付 令和7年6月		設図 望月					

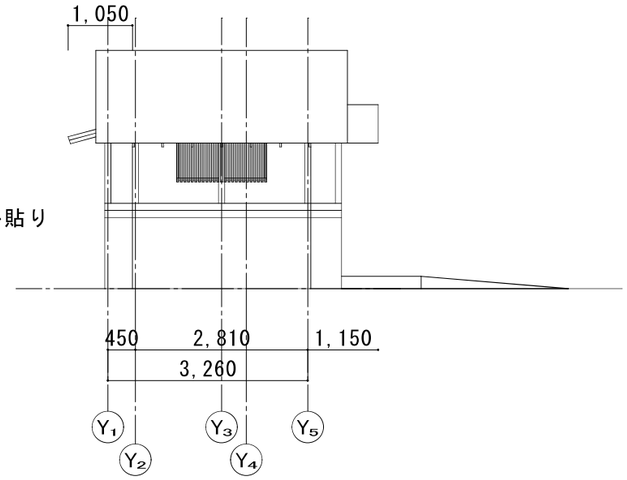
屋外トイレ



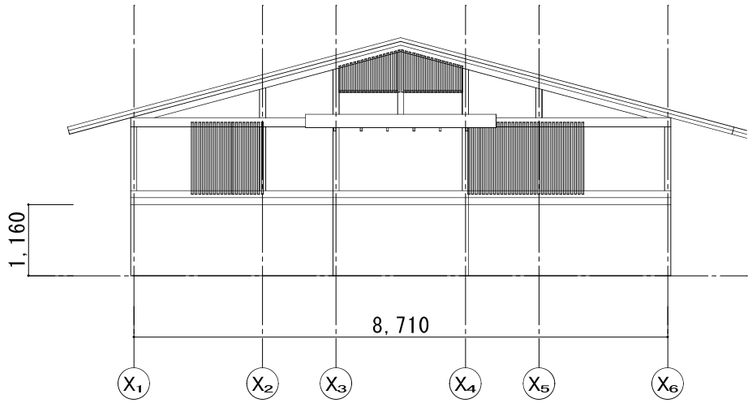
平面図　1：50



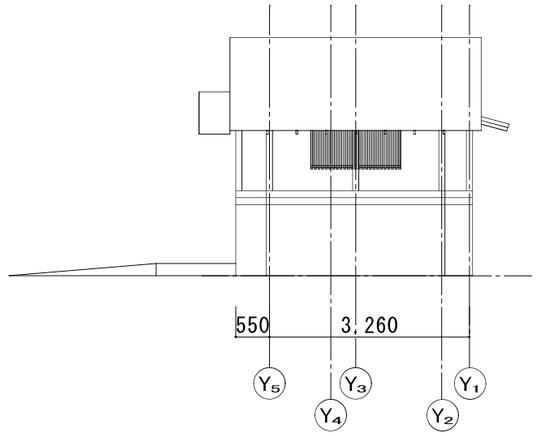
南面立面図　1：50



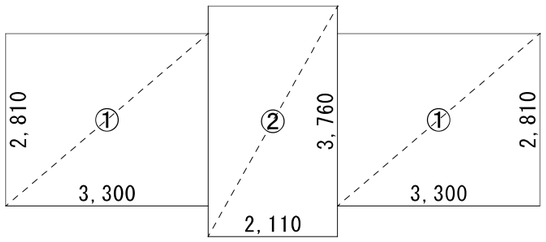
西面立面図　1：50



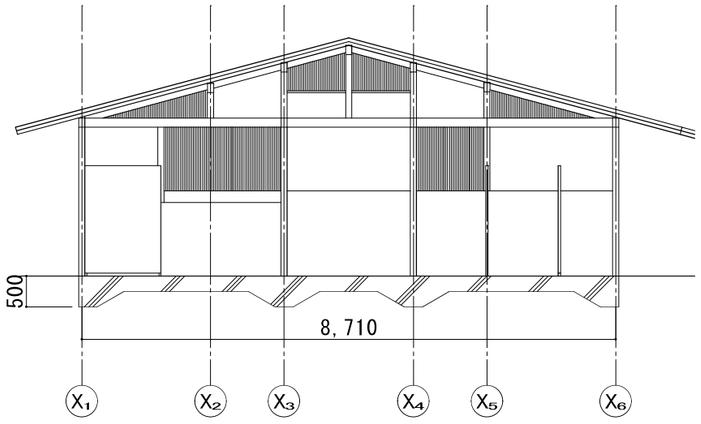
北面立面図　1：50



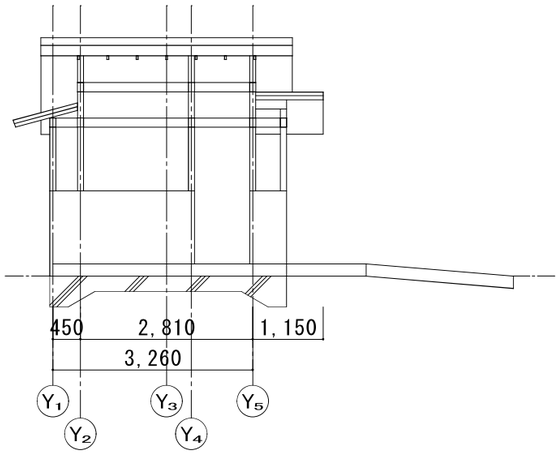
東面立面図　1：50



① 3.30×2.81=　9.2730
① 3.30×2.81=　9.2730
② 3.30×2.81=　7.9336
合計　26.4796
26.47 ㎡



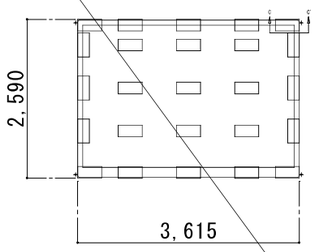
A-A'断面図　1：50



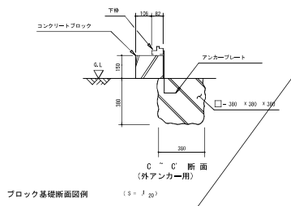
B-B'断面図　1：50

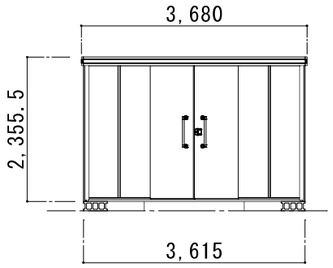
構造	木造真壁構造
外装	
屋根	シングル葺き
外壁	モルタルリシン仕上げ
外壁腰	コンクリートタイル貼り
内装	
内壁腰	タイル貼り
内壁	モルタル仕上げ
天井	ケイ酸カルシウム板

倉庫1

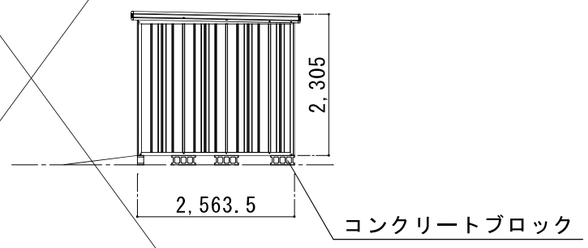


基礎図　1：50

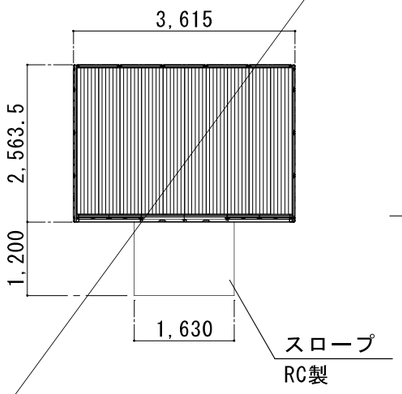




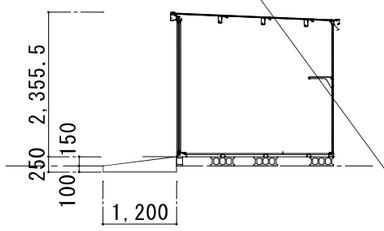
正面図　1：50



側面図　1：50

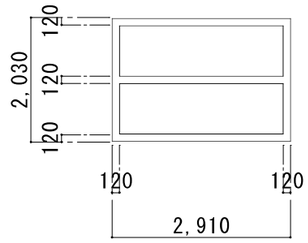


平面図　1：50

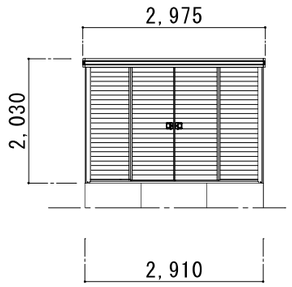


断面図　1：50

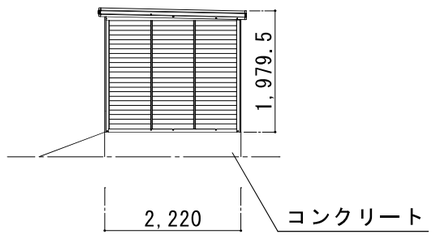
倉庫2



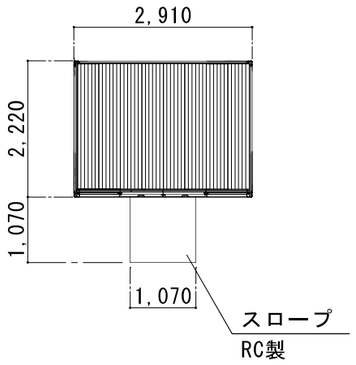
基礎図　1：50



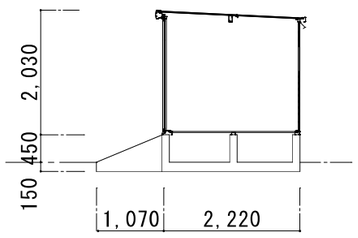
正面図　1：50



側面図　1：50



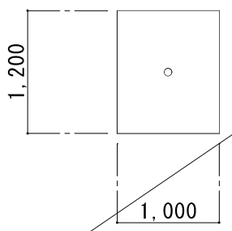
平面図　1：50



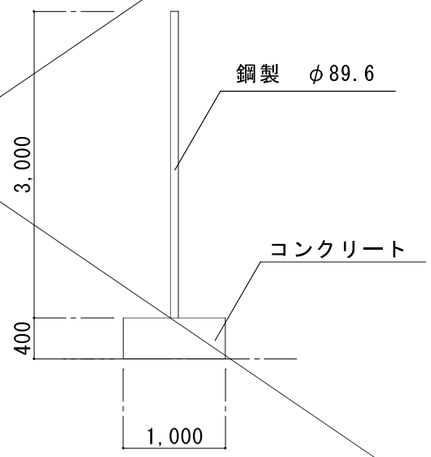
断面図　1：50

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 解体図（倉庫）	図面 NO. A－１０８
	日付 令和７年６月		新図 望月			縮尺 A1：1/50 A3：1/100	

ネットポール

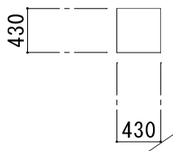


平面図　1:30

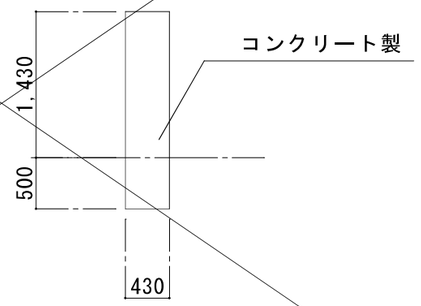


立面図　1:30

門柱

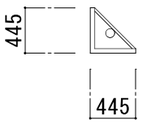


平面図　1:30

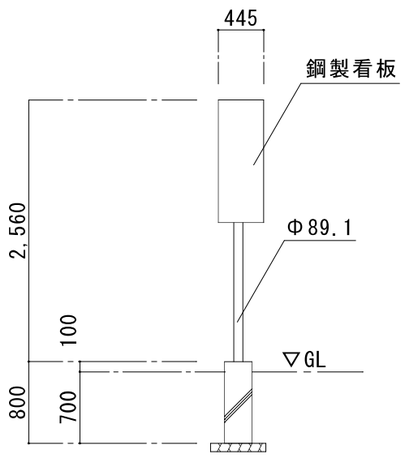


立面図　1:30

鋼製看板

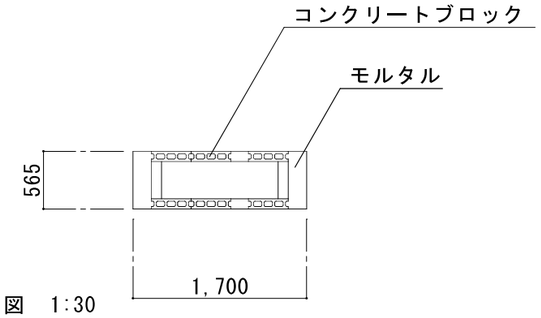


平面図　1:30

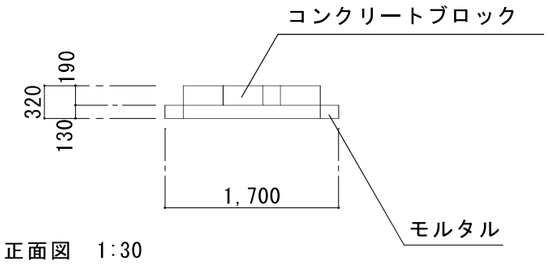


立面図　1:30

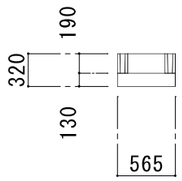
ブロック積み



平面図　1:30



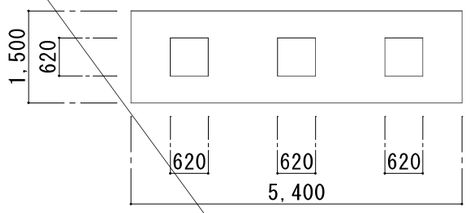
正面図　1:30



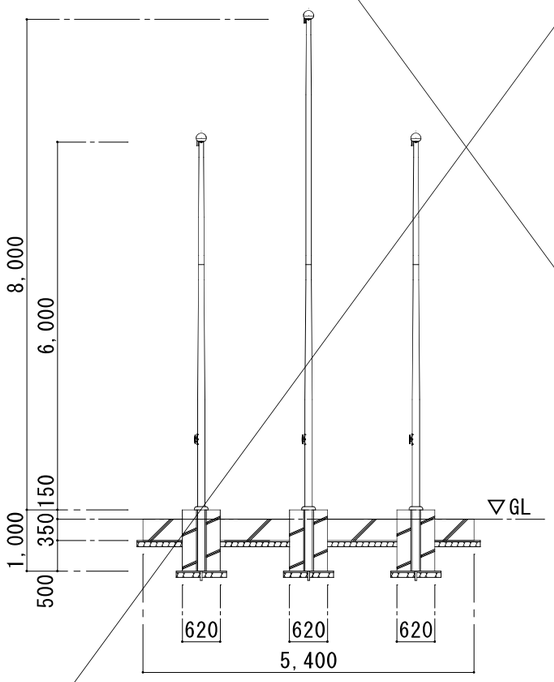
側面図　1:30

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	設計 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 焼津市焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 解体図（その他1）　縮尺 A1：1/30 A3：1/60
	日付 令和7年6月		新図 望月			図面 NO. A－109

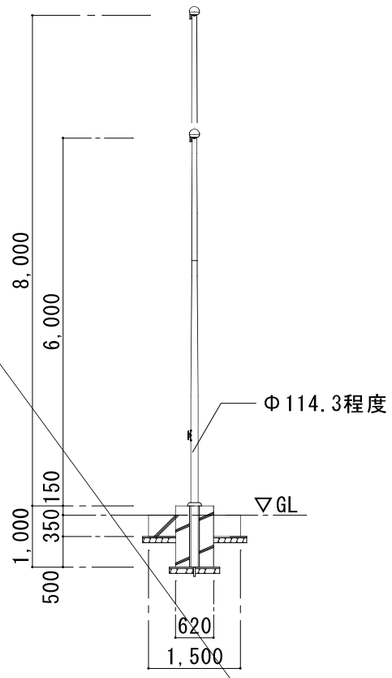
掲揚台



平面図　1：50

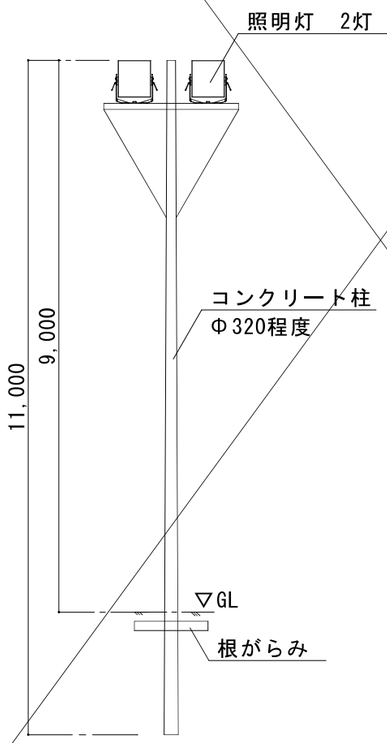


立面図　1：50

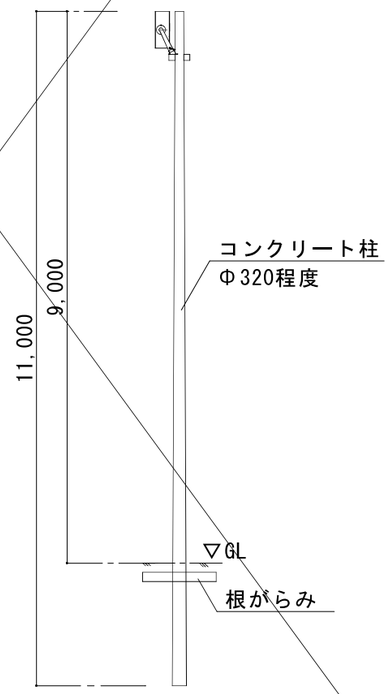


立面図　1：50

夜間照明灯



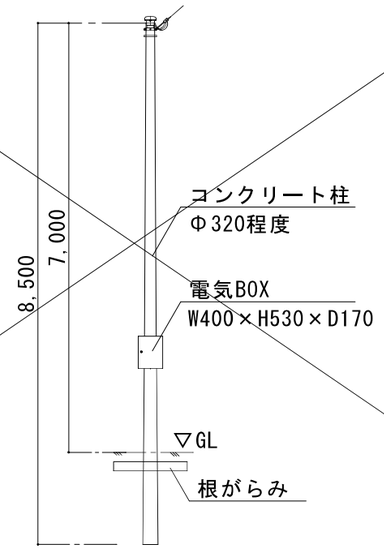
正面図　1：50



側面図　1：50

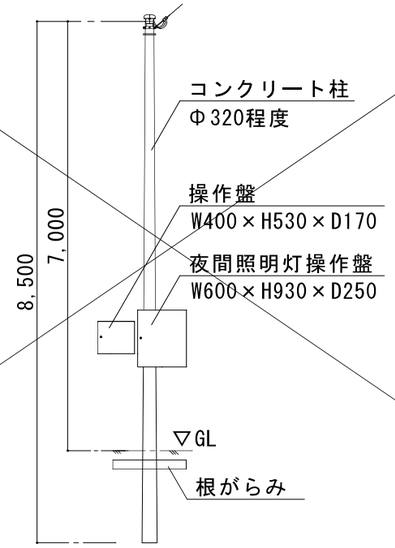
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	経緯 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 解体図（その他2） 縮尺 A1：1/50 A3：1/100
	日付 令和７年６月		製図 望月			図面 NO. Ａ－１１０

引き込み柱（RC製）
+電気BOX



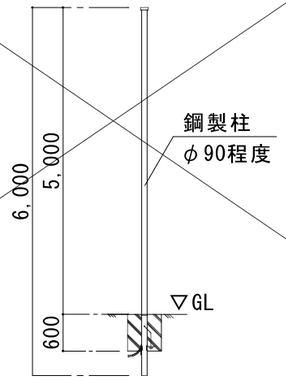
正面図　1：50

引き込み柱（RC製）
+照明灯操作盤



正面図　1：50

引き込み柱（鋼製）



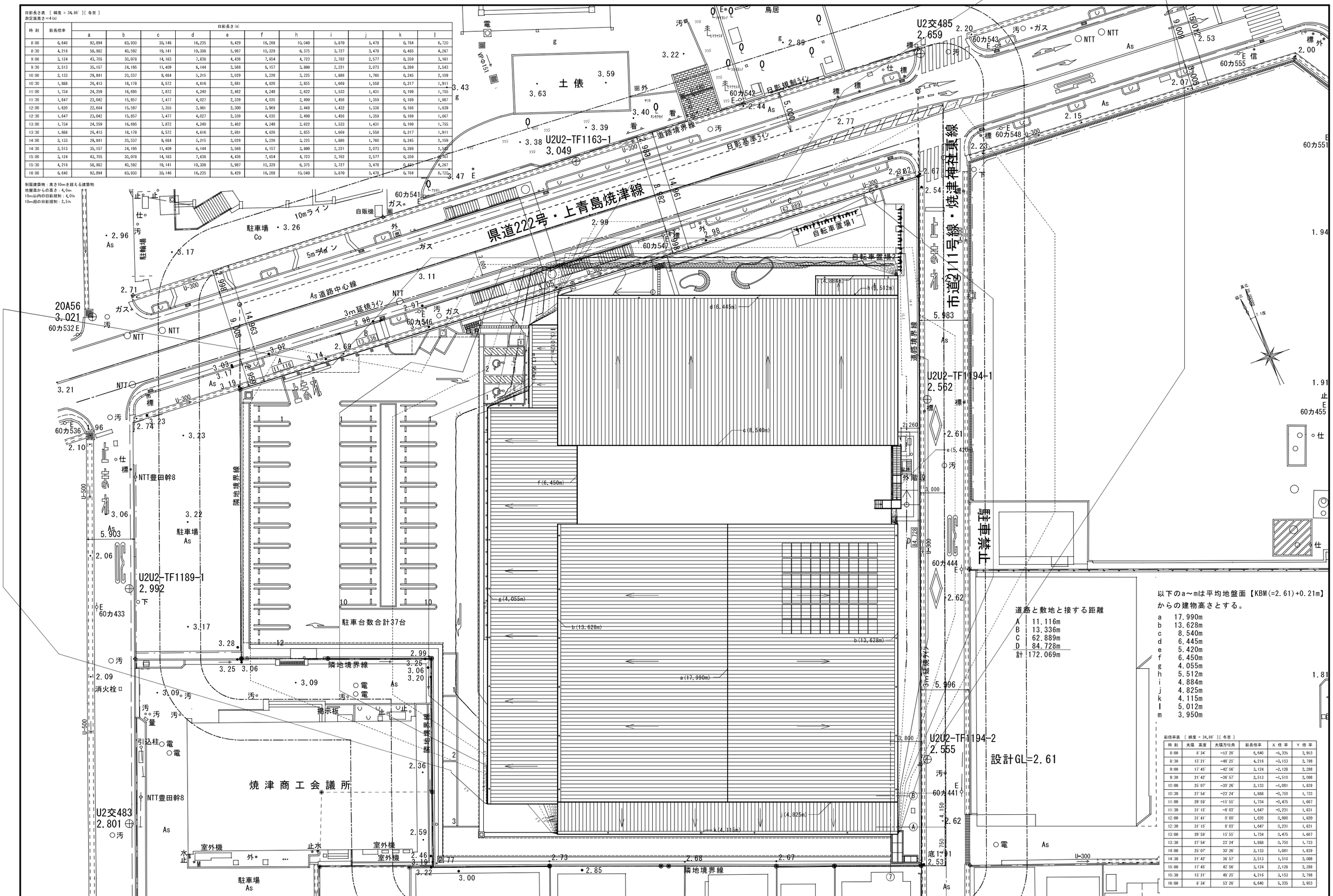
正面図　1：50

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	設計 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 解体図（その他3） 縮尺 A1：1/50 A3：1/100
	日付 令和７年６月		製図 望月			図面 NO. Ａ－１１１

日影長さ表 [緯度 = 34.86°][冬至]
測定面高さ＝4(m)

時刻	影長倍率	日影長さ(m) a	b	c	d	e	f	h	i	j	k	l
8:00	6.640	92.894	63.930	30.146	16.235	9.429	16.268	10.040	5.870	5.478	0.764	6.720
8:30	4.216	58.982	40.592	19.141	10.308	5.987	10.329	6.375	3.727	3.478	0.485	4.267
9:00	3.124	43.705	30.078	14.183	7.638	4.436	7.654	4.723	2.762	2.577	0.359	3.161
9:30	2.513	35.157	24.195	11.409	6.144	3.568	6.157	3.800	2.221	2.073	0.289	2.543
10:00	2.133	29.841	20.537	9.684	5.215	3.029	5.226	3.225	1.886	1.760	0.245	2.159
10:30	1.888	26.413	18.178	8.572	4.616	2.681	4.626	2.855	1.669	1.558	0.217	1.911
11:00	1.734	24.259	16.695	7.872	4.240	2.462	4.248	2.622	1.533	1.431	0.199	1.755
11:30	1.647	23.042	15.857	7.477	4.027	2.339	4.035	2.490	1.456	1.359	0.189	1.667
12:00	1.620	22.664	15.597	7.355	3.961	2.300	3.969	2.449	1.432	1.336	0.186	1.639
12:30	1.647	23.042	15.857	7.477	4.027	2.339	4.035	2.490	1.456	1.359	0.189	1.667
13:00	1.734	24.259	16.695	7.872	4.240	2.462	4.248	2.622	1.533	1.431	0.199	1.755
13:30	1.888	26.413	18.178	8.572	4.616	2.681	4.626	2.855	1.669	1.558	0.217	1.911
14:00	2.133	29.841	20.537	9.684	5.215	3.029	5.226	3.225	1.886	1.760	0.245	2.159
14:30	2.513	35.157	24.195	11.409	6.144	3.568	6.157	3.800	2.221	2.073	0.289	2.543
15:00	3.124	43.705	30.078	14.183	7.638	4.436	7.654	4.723	2.762	2.577	0.359	3.161
15:30	4.216	58.982	40.592	19.141	10.308	5.987	10.329	6.375	3.727	3.478	0.485	4.267
16:00	6.640	92.894	63.930	30.146	16.235	9.429	16.268	10.040	5.870	5.478	0.764	6.720

制限建築物：高さ10mを超える建築物
地盤面からの高さ：4.0m
10m以内の日影規制：4.0h
10m超の日影規制：2.5h



道路と敷地と接する距離

A	11.116m
B	13.336m
C	62.889m
D	84.728m
計	172.069m

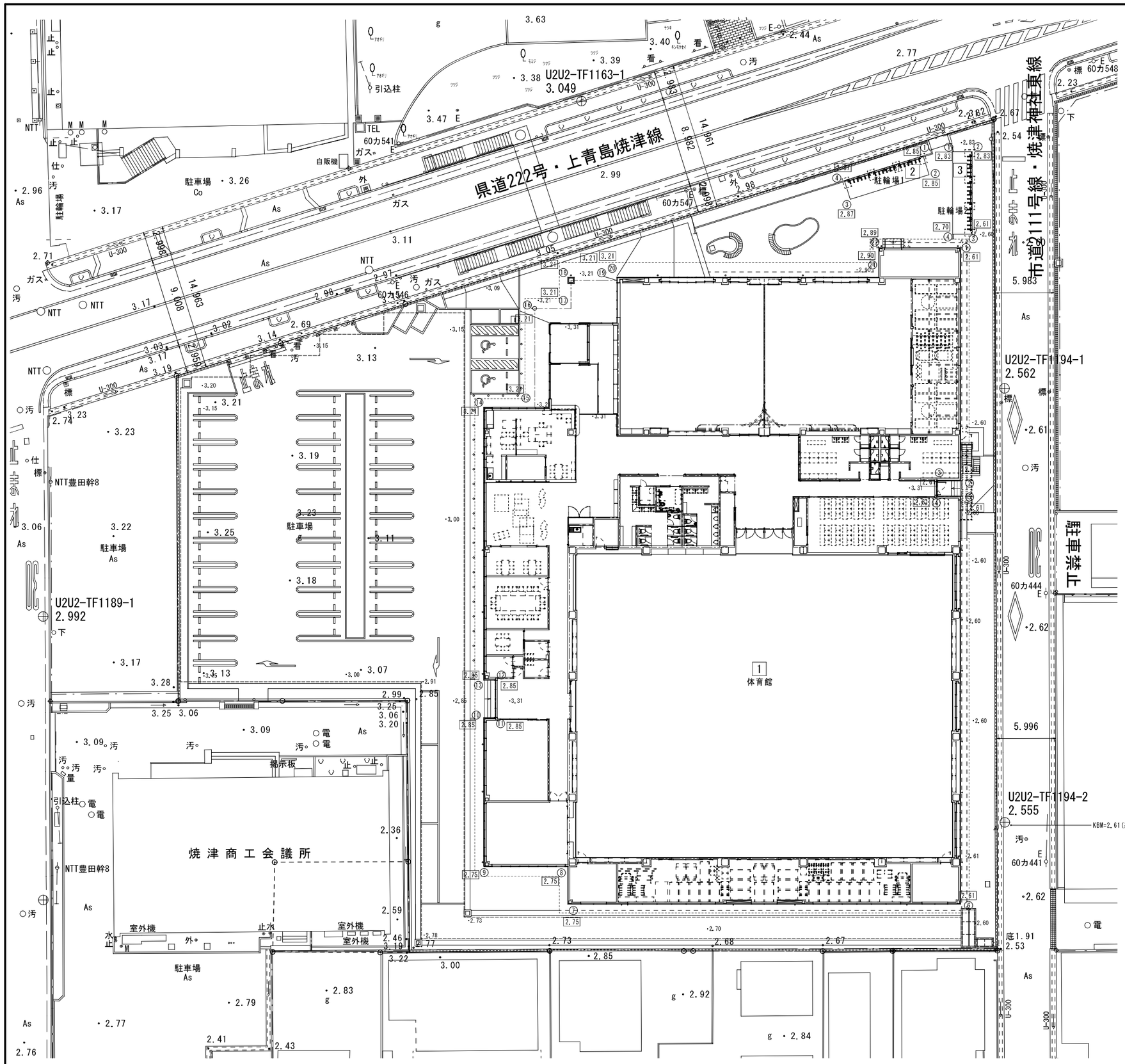
以下のa～mは平均地盤面【KBM(=2.61)+0.21m】からの建物高さとする。

a	17.990m
b	13.628m
c	8.540m
d	6.445m
e	5.420m
f	6.450m
g	4.055m
h	5.512m
i	4.884m
j	4.825m
k	4.115m
l	5.012m
m	3.950m

影倍率表 [緯度 = 34.86°][冬至]

時刻	太陽 高度	太陽方位角	影長倍率	X 倍 率	Y 倍 率
8:00	8°34′	−53°28″	6.640	−6.335	3.953
8:30	13°21′	−48°25″	4.216	−3.153	2.798
9:00	17°45′	−42°56″	3.124	−2.128	2.288
9:30	21°42′	−36°57″	2.513	−1.510	2.008
10:00	25°07′	−30°26″	2.133	−1.081	1.839
10:30	27°54′	−23°24″	1.888	−0.750	1.733
11:00	29°59′	−15°55″	1.734	−0.475	1.667
11:30	31°15′	−8°03″	1.647	−0.231	1.631
12:00	31°41′	0°00″	1.620	0.000	1.620
12:30	31°15′	8°03″	1.647	0.231	1.631
13:00	29°59′	15°55″	1.734	0.475	1.667
13:30	27°54′	23°24″	1.888	0.750	1.733
14:00	25°07′	30°26″	2.133	1.081	1.839
14:30	21°42′	36°57″	2.513	1.510	2.008
15:00	17°45′	42°56″	3.124	2.128	2.288
15:30	13°21′	48°25″	4.216	3.153	2.798
16:00	8°34′	53°28″	6.640	6.335	3.953

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	監督 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 日影図	縮尺 A1：1/200 A3：1/400
	日付 令和７年６月	新図 望月					図面 NO. A－112



1.体育館

範囲	面積計算					辺長
① - ②	0.00	×	23.700	=	0.000	23.700
② - ③	0.00	×	2.000	=	0.000	2.000
③ - ④	0.00	×	1.600	=	0.000	1.600
④ - ⑤	0.00	×	2.000	=	0.000	2.000
⑤ - ⑥	0.00	×	41.550	=	0.000	41.550
⑥ - ⑦	(0.00+0.14)	×	40.000/2	=	2.800	40.000
⑦ - ⑧	0.14	×	3.825	=	0.536	3.825
⑧ - ⑨	0.14	×	8.500	=	1.190	8.500
⑨ - ⑩	(0.14+0.24)	×	15.075/2	=	2.864	15.075
⑩ - ⑪	0.24	×	1.100	=	0.264	1.100
⑪ - ⑫	0.24	×	4.000	=	0.960	4.000
⑫ - ⑬	0.24	×	1.100	=	0.264	1.100
⑬ - ⑭	(0.24+0.60)	×	27.600/2	=	11.592	27.600
⑭ - ⑮	0.6	×	5.100	=	3.060	5.100
⑮ - ⑯	0.6	×	10.200	=	6.120	10.200
⑯ - ⑰	0.6	×	3.700	=	2.220	3.700
⑰ - ⑱	0.6	×	2.850	=	1.710	2.850
⑱ - ⑲	0.6	×	4.700	=	2.820	4.700
⑲ - ⑳	0.6	×	0.300	=	0.180	0.300
⑳ - ㉑	(0.6+0.29)	×	26.700/2	=	11.882	26.700
㉑ - ㉒	(0.29+0.28)	×	3.000/2	=	0.855	3.000
㉒ - ①	(0.28+0.00)	×	8.300/2	=	1.162	8.300
合計					50.479	236.900
面積÷周長					0.213081	
地盤面					設計GL + 0.21m	

2.駐輪場1

範囲	面積計算					辺長
① - ②	0.24	×	1.926	=	0.462	1.926
② - ③	(0.24+0.26)	×	8.100/2	=	2.025	8.100
③ - ④	0.26	×	1.926	=	0.501	1.926
④ - ①	(0.26+0.24)	×	8.100/2	=	2.025	8.100
合計					5.013	20.052
面積÷周長					0.250000	
地盤面					設計GL + 0.25m	

3.駐輪場2

範囲	面積計算					辺長
① - ②	0.22	×	1.926	=	0.424	1.926
② - ③	(0.22+0)	×	8.100/2	=	0.891	8.100
③ - ④	(0+0.09)	×	1.926/2	=	0.087	1.926
④ - ①	(0.09+0.22)	×	8.100/2	=	1.256	8.100
合計					2.657	20.052
面積÷周長					0.132500	
地盤面					設計GL + 0.13m	

全体平均地盤算定表

建物名称	高低差面積(㎡)	周長(m)
体育館	50.479	236.900
駐輪場1	5.013	20.052
駐輪場2	2.657	20.052
合計	58.149	277.004
面積÷周長		0.209921156
平均地盤面		設計GL+0.21m

※設計GL=2.61

凡例

2.61 … □内の数値の数値はTPからの高さを示す。KBM＝(TP+2.61)

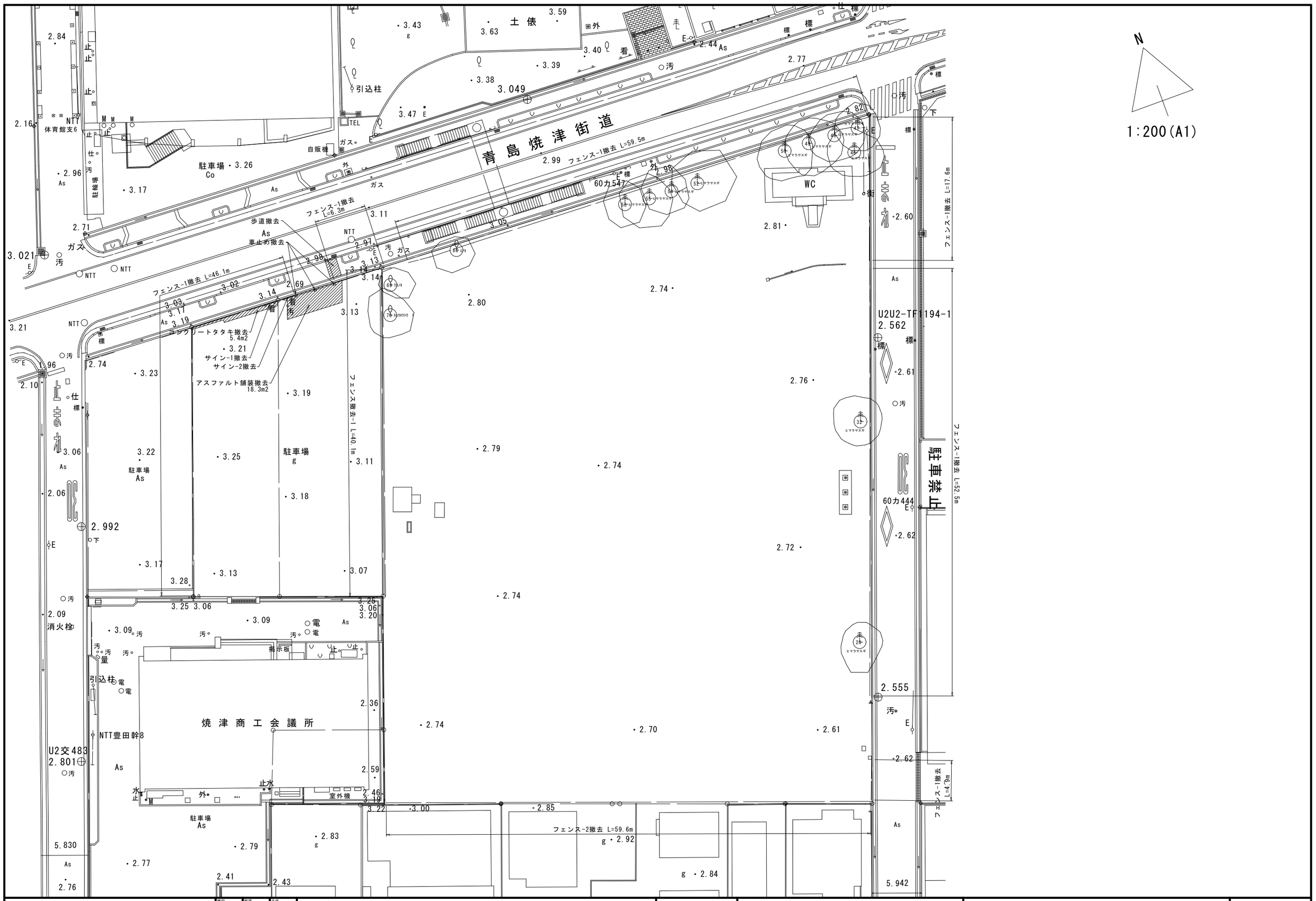
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	監督 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)
	日付 令和７年６月		製図 望月		

図面名	縮尺	図面 NO.
平均地盤算定図	A1：1/200 A3：1/400	A－１１３

公　図　写　　焼津市焼津四丁目

令和6年9月2日
静岡県地方法務局藤枝支局謄写

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 公図写　縮尺 A1：1/250 A3：1/500
	日付 令和7年6月		設図 望月			図面 NO. A－１１４



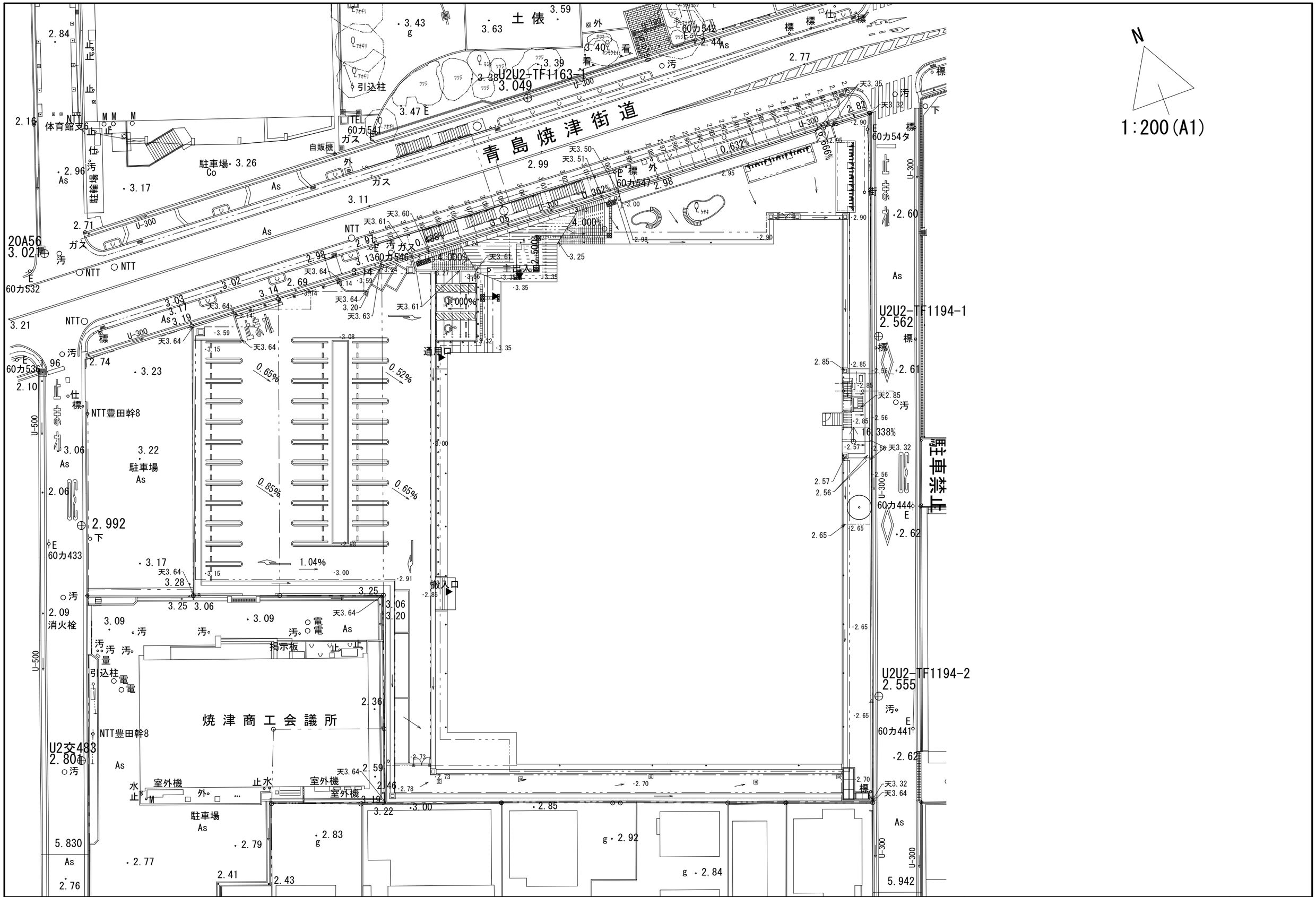
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検図 大橋	設計 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 撤去・伐採平面図	縮尺 A1：1/200 A3：1/400
	日付 令和７年６月	製図 望月					図面 NO. C－００１

樹木数量表

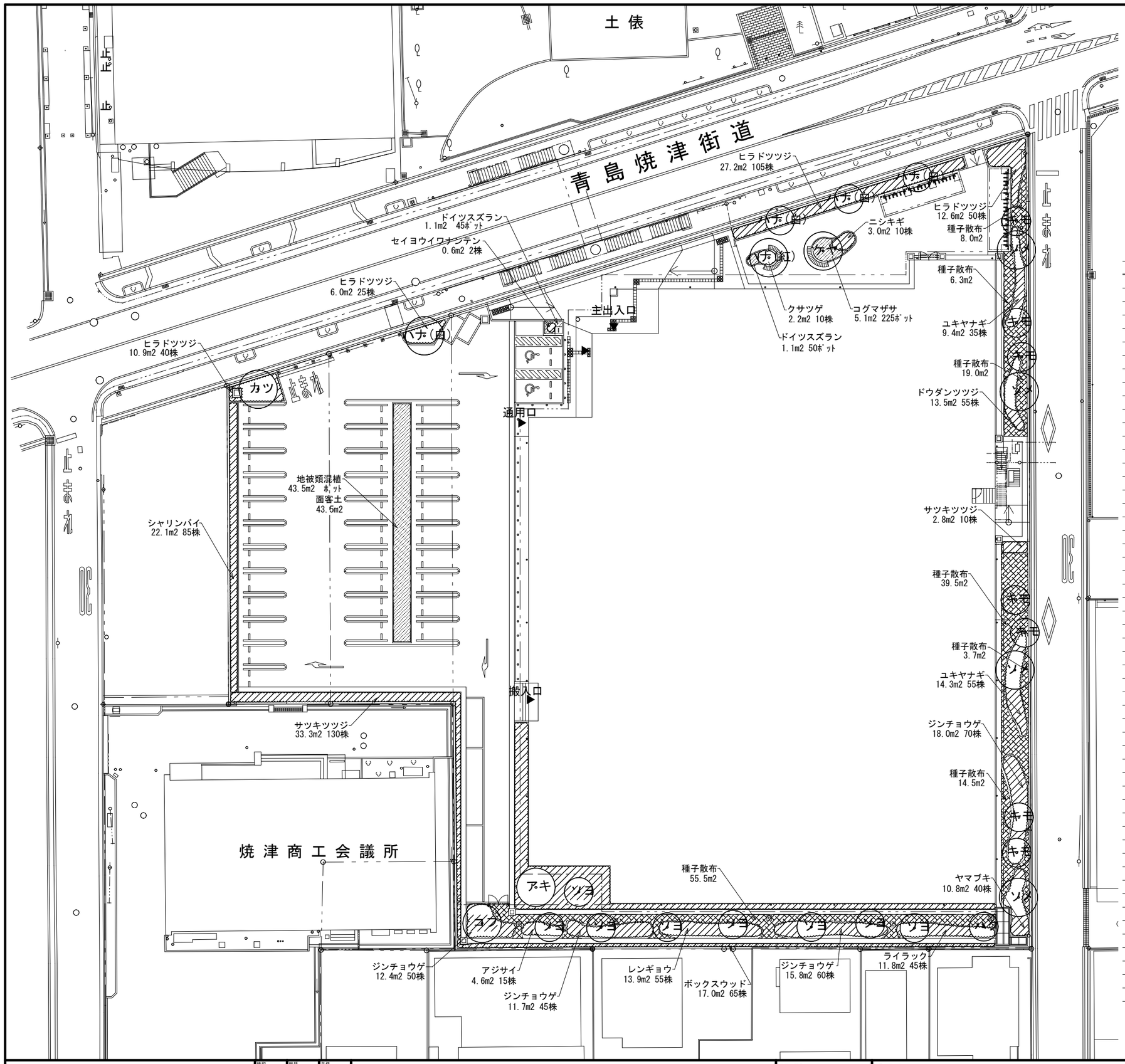
記号	名　　称	規　格			伐採	伐根	数量	単位	備　考
		H	C	W					
20	ヒマラヤスギ	8.0	0.95	6.0		○	1.-	本	(伐採済)
32	ヒマラヤスギ	8.0	0.95	6.0		○	1.-	本	(伐採済)
46	ヒマラヤスギ	8.0	0.95	6.0		○	1.-	本	(伐採済)
47	ヒマラヤスギ	8.0	0.95	6.0		○	1.-	本	(伐採済)
48	ヒマラヤスギ	8.0	1.25	6.0		○	1.-	本	(伐採済)
49	ヒマラヤスギ	8.0	1.25	6.0		○	1.-	本	(伐採済)
50	ヒマラヤスギ	8.0	1.35	6.0		○	1.-	本	(伐採済)
52	ヒマラヤスギ	8.0	1.30	7.0		○	1.-	本	(伐採済)
54	ヒマラヤスギ	8.0	1.20	5.0		○	1.-	本	(伐採済)
55	ヒマラヤスギ	8.0	1.10	6.0		○	1.-	本	(伐採済)
56	ヒマラヤスギ	8.0	1.10	5.0		○	1.-	本	(伐採済)
66	エノキ	5.0	0.60	4.0		○	1.-	本	(伐採済)
69	クスノキ	4.5	1.10	4.0		○	1.-	本	(伐採済)
70	キョウチクトウ	4.0	1.50	6.0		○	1.-	本	(伐採済)

数量表

記号	名　　称	規　格	数量	単位	備　考
	フェンス-1撤去	H=1200	186.9	m	
	フェンス-2撤去	H=3000	59.6	m	
	車止め撤去	ステンレス	3.-	基	
	サイン-1撤去	施設名称	1.-	基	
	サイン-2撤去	利用案内	1.-	基	
	アスファルト舗装撤去	t=50	18.3	m2	
	コンクリートタタキ撤去	t=70	5.4	m2	
	歩道撤去		1.-	ヶ所	
	樹木伐根-1	C=0.29以下	0.-	本	
	樹木伐根-2	C=0.30～0.59以下	0.-	本	
	樹木伐根-3	C=0.60～0.89以下	1.-	本	
	樹木伐根-4	C=0.90～1.19以下	7.-	本	
	樹木伐根-5	C=1.20～1.49以下	5.-	本	
	樹木伐根-6	C=1.50～1.99以下	1.-	本	
	樹木伐根-7	C=2.00～	0.-	本	
	樹木伐根-8	H=0.29～0.99	0.-	本	
	樹木伐根-9	H=1.00～1.99	0.-	本	
	樹木伐根-10	H=2.00～	0.-	本	



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋 / 総括 大橋 / 主任 大橋 日付 令和7年6月 / 製図 望月	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 計画高さ平面図	縮尺 A1：1/200 A3：1/400 / 図面 NO. C－００３



N

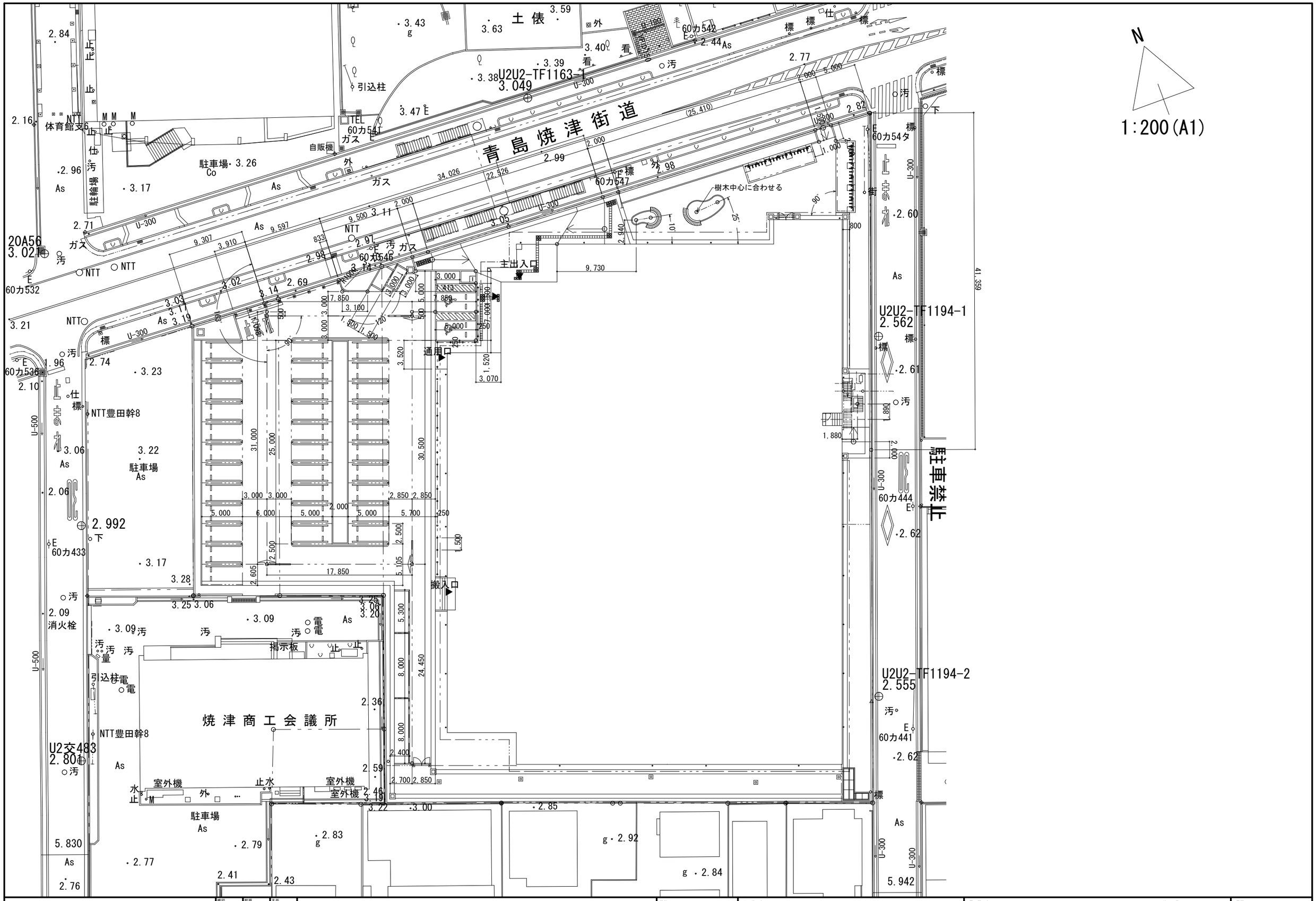
1:200(A1)

数量表

記号	名　　称	規　格			数量	単位	備　考
		H	C	W			
キモ	キンモクセイ	3.0	－	1.0	7.－	本	竹三本支柱
ソヨ	ソヨゴ	2.5	－	－	8.－	本	竹三本支柱
アキ	アキニレ	5.0	0.30	2.0	1.－	本	二脚鳥居支柱(添木なし)
カツ	カツラ	5.0	0.30	2.0	1.－	本	二脚鳥居支柱(添木なし)
ケヤ	ケヤキ	5.0	0.40	株立ち	1.－	本	八ツ掛支柱（丸太）
コブ	コブシ	4.0	0.21	1.5	1.－	本	二脚鳥居支柱(添木付)
ソメ	ソメイヨシノ	4.0	0.21	1.8	4.－	本	二脚鳥居支柱(添木付)
ハク	ハクモクレン	3.0	0.12	1.0	1.－	本	二脚鳥居支柱(添木付)
ハナ(白)	ハナミズキ（白）	3.0	0.12	1.0	4.－	本	二脚鳥居支柱(添木付)
ハナ(紅)	ハナミズキ（紅）	3.0	0.12	1.0	1.－	本	二脚鳥居支柱(添木付)
	クサツゲ	0.2	－	0.15	10.－	株	4株/m2
	サツキツツジ	0.4	－	0.5	140.－	株	4株/m2
	シャリンバイ	0.5	－	0.4	85.－	株	4株/m2
	ジンチョウゲ	0.5	－	0.4	225.－	株	4株/m2
	セイヨウイワナンテン	0.5	－	0.4	2.－	株	4株/m2
	ヒラドツツジ	0.5	－	0.5	220.－	株	4株/m2
	ボックスウッド	0.5	－	0.25	65.－	株	4株/m2
	アジサイ	0.5	－	3本立	15.－	株	4株/m2
	ドウダンツツジ	0.5	－	0.25	55.－	株	4株/m2
	ニシキギ	0.5	－	0.3	10.－	株	4株/m2
	ヤマブキ	0.5	－	3本立	40.－	株	4株/m2
	ユキヤナギ	0.5	－	3本立	90.－	株	4株/m2
	ライラック	0.5	－	0.2	45.－	株	4株/m2
	レンギョウ	0.5	－	2本立	55.－	株	4株/m2
		H	状態	ｺﾝﾃﾅ径			
	コグマザサ	－	3芽立	12.0	225.－	ﾎﾟｯﾄ	44ﾎﾟｯﾄ/m2
	ドイツスズラン	－	3芽立	10.5	95.－	ﾎﾟｯﾄ	44ﾎﾟｯﾄ/m2
	地被類混植				43.5	m2	
	アジュガ			9.0	93.－	ﾎﾟｯﾄ	36ﾎﾟｯﾄ/m2 6.0%
	イカリソウ			10.5	93.－	ﾎﾟｯﾄ	36ﾎﾟｯﾄ/m2 6.0%
	ギボウシ			10.5	93.－	ﾎﾟｯﾄ	36ﾎﾟｯﾄ/m2 6.0%
	クサソテツ		1本立	12.0	93.－	ﾎﾟｯﾄ	36ﾎﾟｯﾄ/m2 6.0%
	宿根バーベナ		3芽立	9.0	93.－	ﾎﾟｯﾄ	36ﾎﾟｯﾄ/m2 6.0%
	セイヨウイワナンテン	0.15		10.5	93.－	ﾎﾟｯﾄ	36ﾎﾟｯﾄ/m2 6.0%
	ヒペリカムカリシナム		3芽立	10.5	93.－	ﾎﾟｯﾄ	36ﾎﾟｯﾄ/m2 6.0%
	フイリヤブラン		3芽立	10.5	93.－	ﾎﾟｯﾄ	36ﾎﾟｯﾄ/m2 6.0%
	フッキソウ		3芽立	9.0	93.－	ﾎﾟｯﾄ	36ﾎﾟｯﾄ/m2 6.0%
	ヤブコウジ		3芽立	9.0	93.－	ﾎﾟｯﾄ	36ﾎﾟｯﾄ/m2 6.0%
	ユキノシタ		株	9.0	93.－	ﾎﾟｯﾄ	36ﾎﾟｯﾄ/m2 6.0%
	ノシバ	ベタ貼り			14.7	m2	34.0%
	種子散布	ダイカンドラ			146.5	m2	
	竹三本支柱				15.－	基	
	二脚鳥居支柱（添木なし）				2.－	基	
	二脚鳥居支柱（添木付）				11.－	基	
	八ツ掛支柱（丸太）				1.－	基	
	植穴客土				32.9	m3	
	面客土	t=150			43.5	m2	

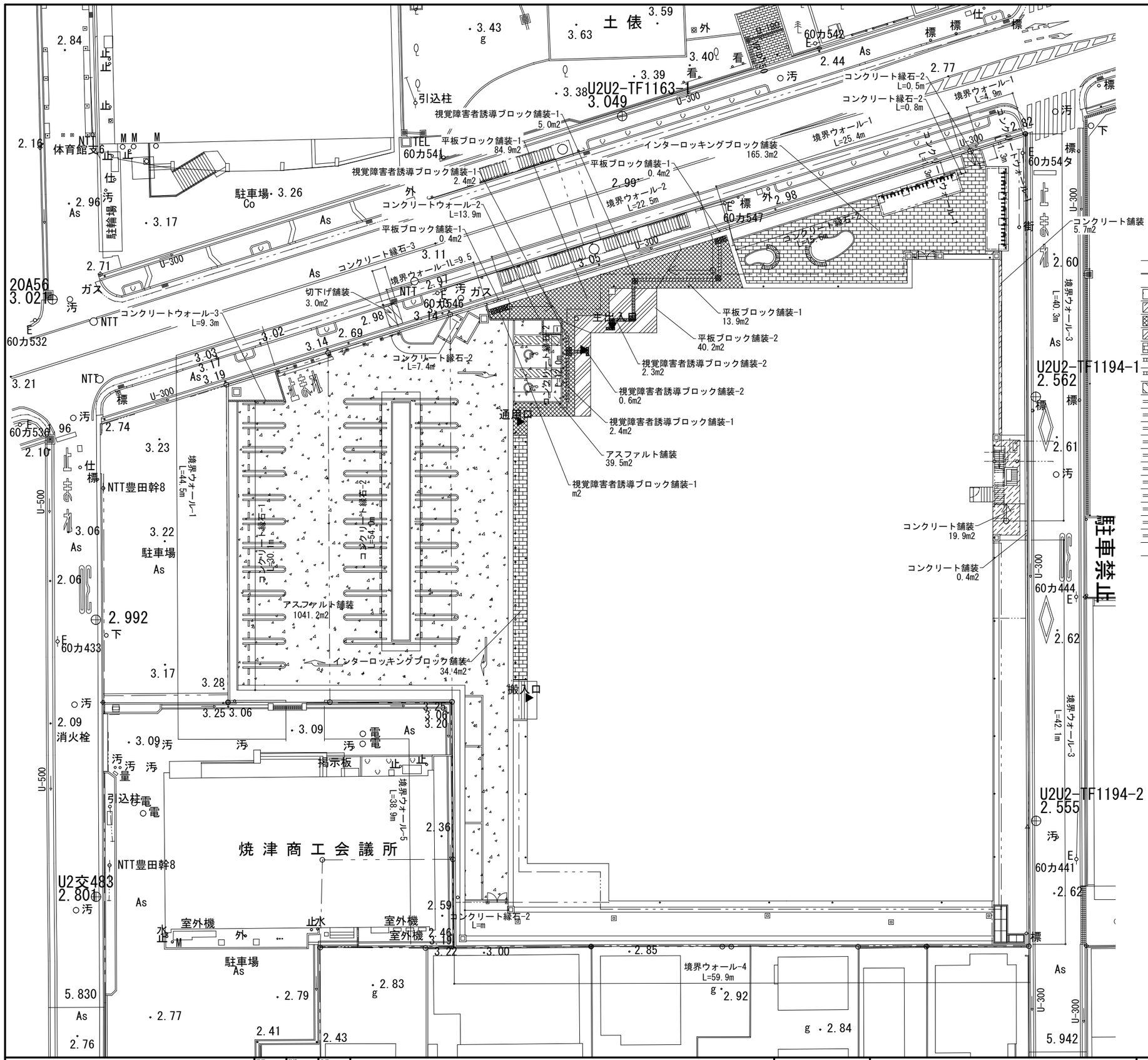
特記事項
・地被類混植は監督員に植栽プランを提出し、了承を得ること。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 植栽平面図	縮尺 A1：1/200 A3：1/400	図面 NO. C－００４
	日付 令和７年６月		製図 望月				



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検図 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 割付平面図
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/200 A3：1/400

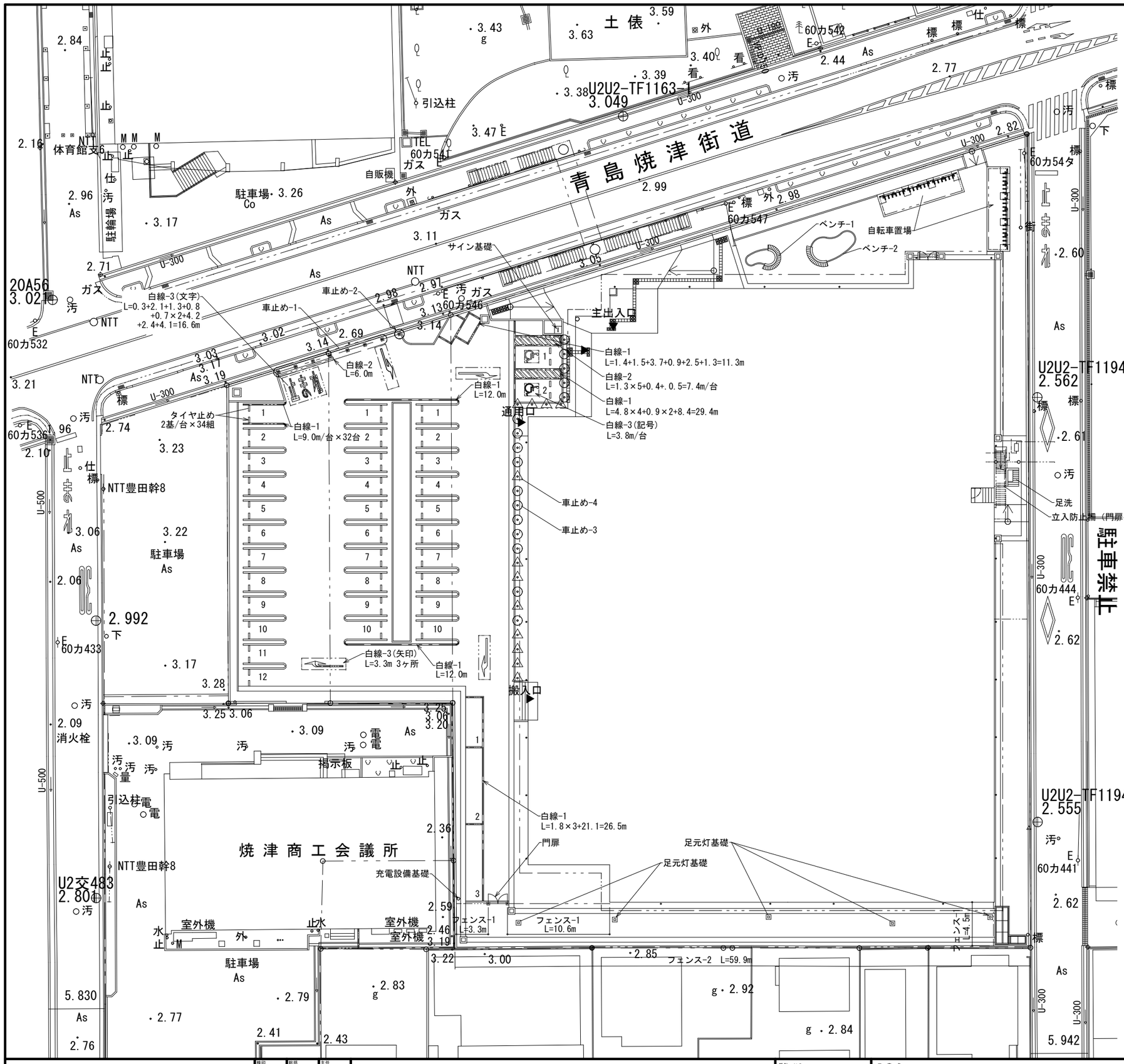
図面NO. C－００５



数量表

記号	名　　称	規　　格	数量	単位	備　考
	アスファルト舗装	車両対応	1080.7	m2	t=200
	コンクリート舗装	歩行者対応	26.0	m2	t=170
	平板ブロック舗装-1	歩行者対応	99.6	m2	t=190
	平板ブロック舗装-2	建築スラブ上	40.2	m2	t= 80
	ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装	歩行者対応	199.7	m2	t=190
	視覚障害者誘導ﾌﾞﾛｯｸ舗装-1	歩行者対応	8.4	m2	t=190
	視覚障害者誘導ﾌﾞﾛｯｸ舗装-2	建築スラブ上	2.9	m2	t= 80
	切下げ舗装	車両対応	3.0	m2	t=200
	コンクリート縁石-1	150/170×200×600	30.1	m	
	コンクリート縁石-2	100×100×600	89.7	m	
	コンクリート縁石-3	歩車道境界切下げ	1.-	ヶ所	
	コンクリートウォール-1	W=150	2.6	m	
	コンクリートウォール-2	W=150	13.9	m	
	コンクリートウォール-3	W=150	9.3	m	
	境界ウォール-1	W=200	84.3	m	
	境界ウォール-2	W=200	22.5	m	
	境界ウォール-3	W=200	82.4	m	
	境界ウォール-4	W=200	59.9	m	
	境界ウォール-5	W=200	38.9	m	

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	監督 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 舗装・縁石平面図	縮尺 A1：1/200 A3：1/400
	日付 令和７年６月		製図 望月				図面 NO. C－006



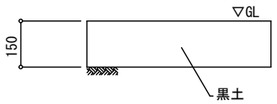
数量表

記号	名　　称	規　　格	数量	単位	備　考
	ベンチ-1	合成木材(ﾃﾝﾀﾞｰｳｯﾄﾞ)	2.-	ヶ所	※1
	ベンチ-2	合成木材(ﾃﾝﾀﾞｰｳｯﾄﾞ)	3.-	ヶ所	※1
	足洗	合成木材(ﾃﾝﾀﾞｰｳｯﾄﾞ)	1.-	基	
	立入防止柵	H=1800	1.-	ヶ所	門扉共
	フェンス-1	H=2000 独立基礎	18.4	m	
	フェンス-2	H=2000 ウォール上	59.9	m	
	門扉	H=2000 W=2000	1.-	ヶ所	
	車止め-1	ステンレス	7.-	基	チェーン付き
	車止め-2	ステンレス	1.-	基	
	車止め-3	固定式	16.-	基	
	車止め-4	固定式	12.-	基	
	タイヤ止め	120×120×600	34.-	組	
	白線-1	W=150	379.2	m	
	白線-2	W=300	14.8	m	
	白線-3	記号・文字・矢印	34.1	m	
	自転車置場	ラックとも	2.-	ヶ所	
	サイン基礎		1.-	ヶ所	
	充電設備基礎		1.-	ヶ所	
	足元灯基礎		5.-	ヶ所	

特記事項
・足元灯の配置はランダムとなるため、植栽の配置に考慮すること。具体的な位置については監督員に配置プランを提出し、了承を得ること。
・※1ベンチ-1、ベンチ-2のヶ所数については、監督員と協議の上、決定すること。

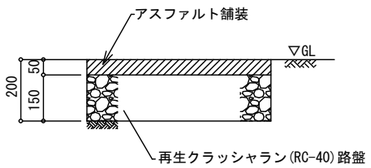
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 施設平面図	図面 NO. C－００７
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/200 A3：1/400	

面客土　S=1/10



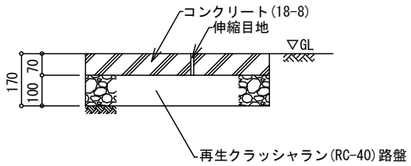
断面図　S=1/10

アスファルト舗装　S=1/10



断面図　S=1/10

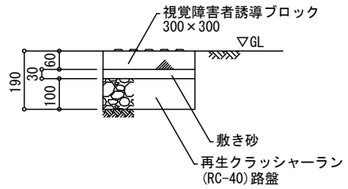
コンクリート舗装　S=1/10



断面図　S=1/10

特記事項
・コンクリート部には伸縮目地（@10mを標準とする）　を入れること。
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

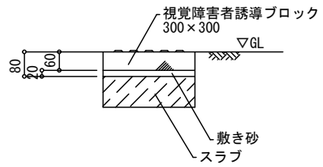
視覚障害者誘導ﾌﾞﾛｯｸ舗装-1　S=1/10



断面図　S=1/10

特記事項
・通行部分は線状、屈曲部および出入口部は点状とする。

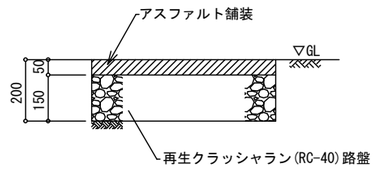
視覚障害者誘導ﾌﾞﾛｯｸ舗装-2　S=1/10



断面図　S=1/10

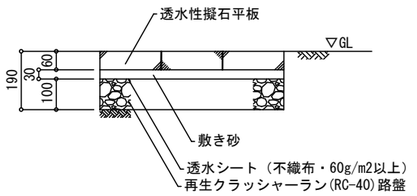
特記事項
・通行部分は線状、屈曲部および出入口部は点状とする。

切下げ舗装　S=1/10



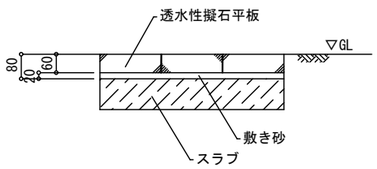
断面図　S=1/10

平板ブロック舗装-1　S=1/10



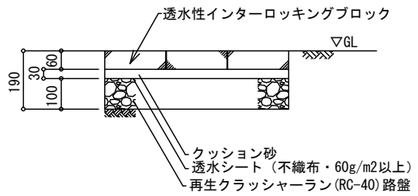
断面図　S=1/10

平板ブロック舗装-2　S=1/10



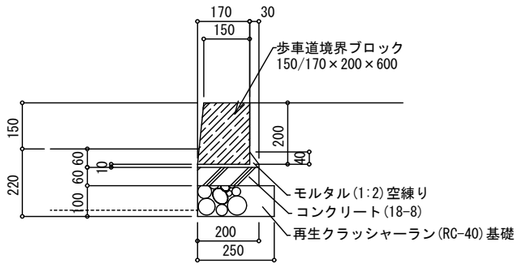
断面図　S=1/10

ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装　S=1/10



断面図　S=1/10

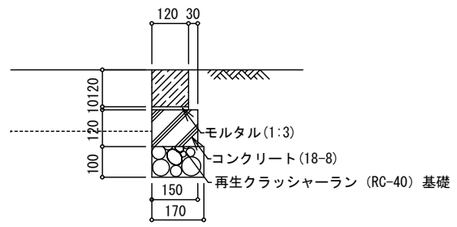
コンクリート縁石-1　S=1/10



断面図　S=1/10

特記事項
・コンクリート部には伸縮目地（@10mを標準とする）　を入れること。
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

コンクリート縁石-2　S=1/10

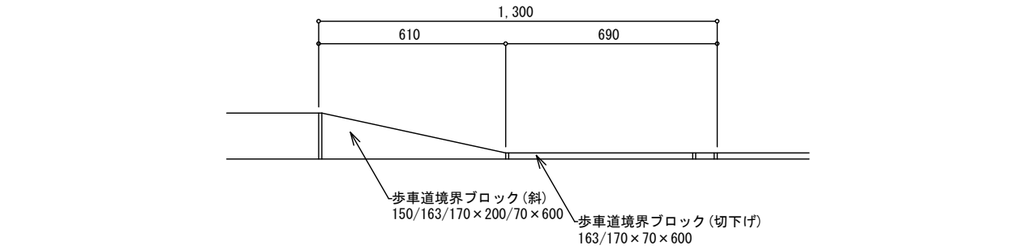


断面図　S=1/10

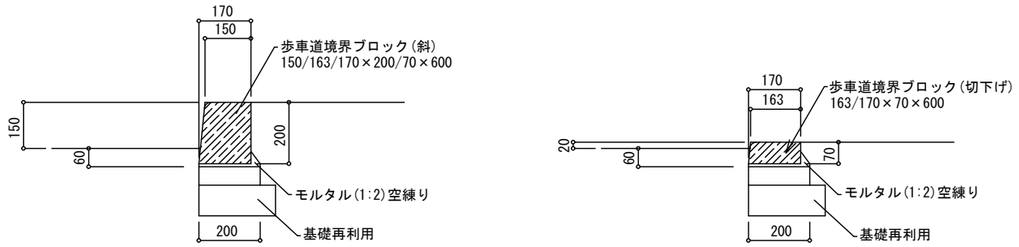
特記事項
・コンクリート部には伸縮目地（@10mを標準とする）　を入れること。
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 詳細図-1	縮尺 A1：1/10 A3：1/20
	日付 令和７年６月		製図 望月				図面 NO. C－００８

コンクリート縁石-3　S=1/10

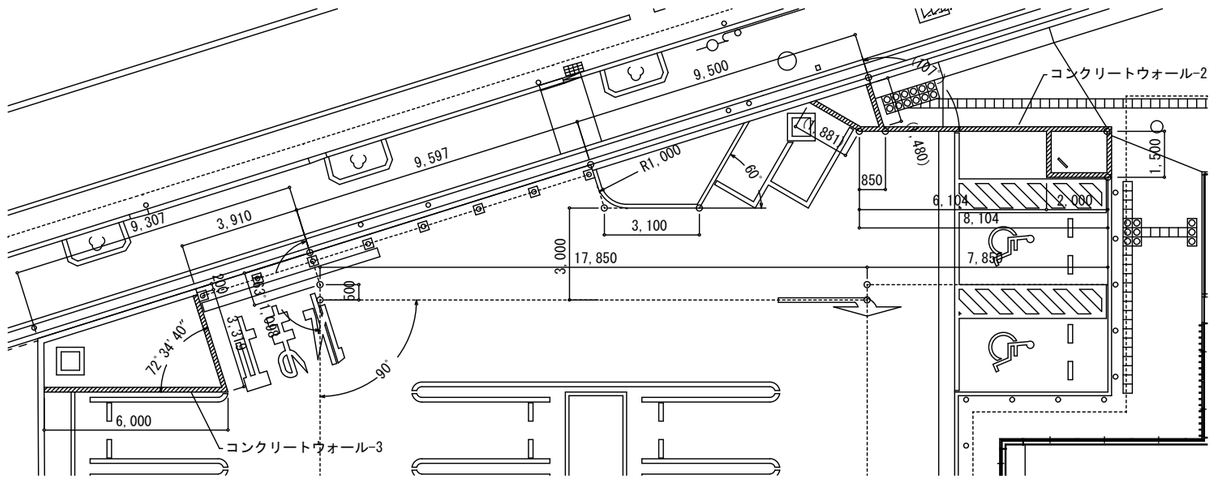


立面図　S=1/10



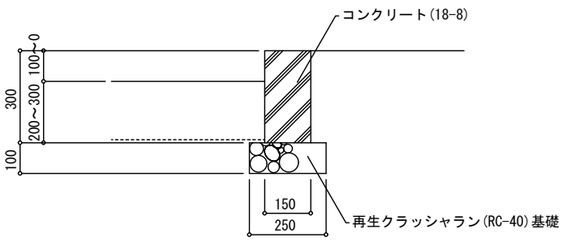
断面図　S=1/10

コンクリートウォール-2、3割付図　S=1/100



割付平面図　S=1/100

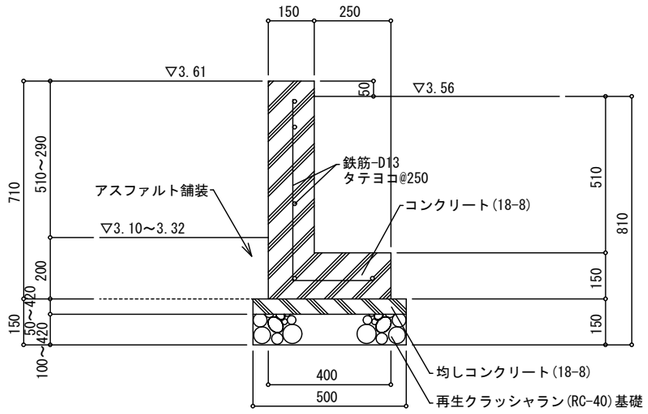
コンクリートウォール-1　S=1/10



断面図　S=1/10

特記事項
・コンクリート部には伸縮目地（@10mを標準とする） を入れること。
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

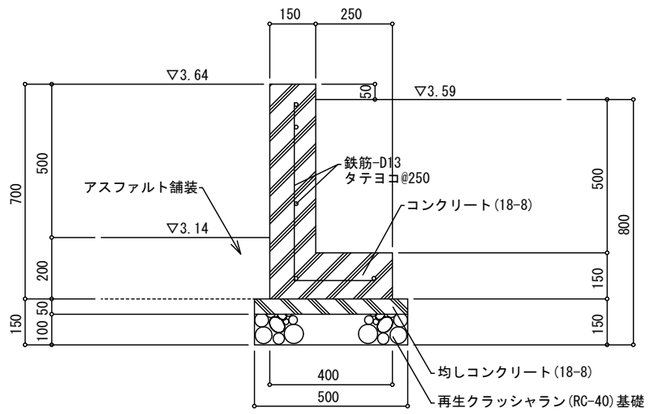
コンクリートウォール-2　S=1/10



断面図　S=1/10

特記事項
・コンクリート部には伸縮目地（@10mを標準とする） を入れること。
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

コンクリートウォール-3　S=1/10

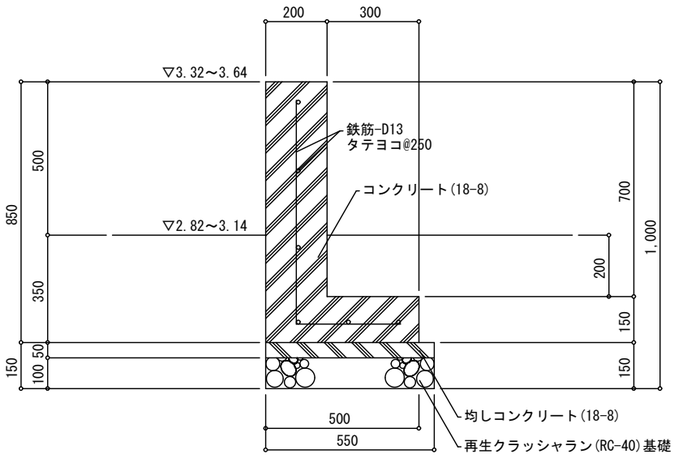


断面図　S=1/10

特記事項
・コンクリート部には伸縮目地（@10mを標準とする） を入れること。
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 詳細図-2	縮尺 A1：1/10 A3：1/20	図面 NO. C－００９
	日付 令和７年６月		製図 望月				

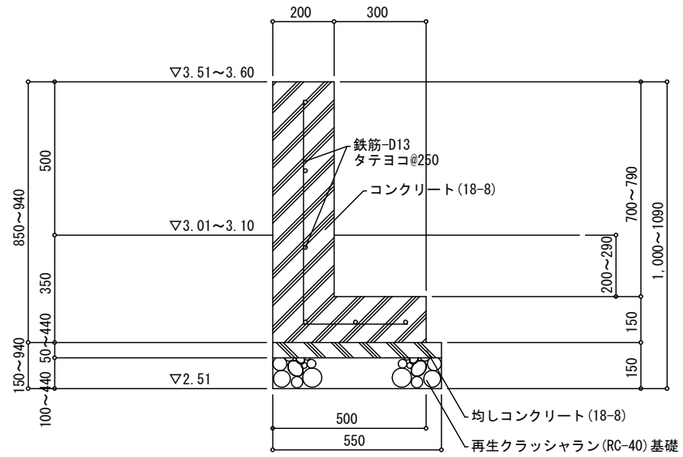
境界ウォール-1　S=1/10



断面図　S=1/10

特記事項
・コンクリート部には伸縮目地（@10mを標準とする）　を入れること。
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

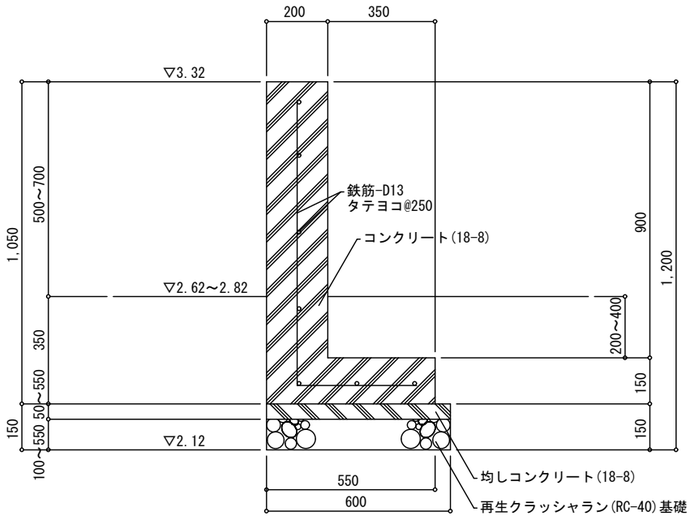
境界ウォール-2　S=1/10



断面図　S=1/10

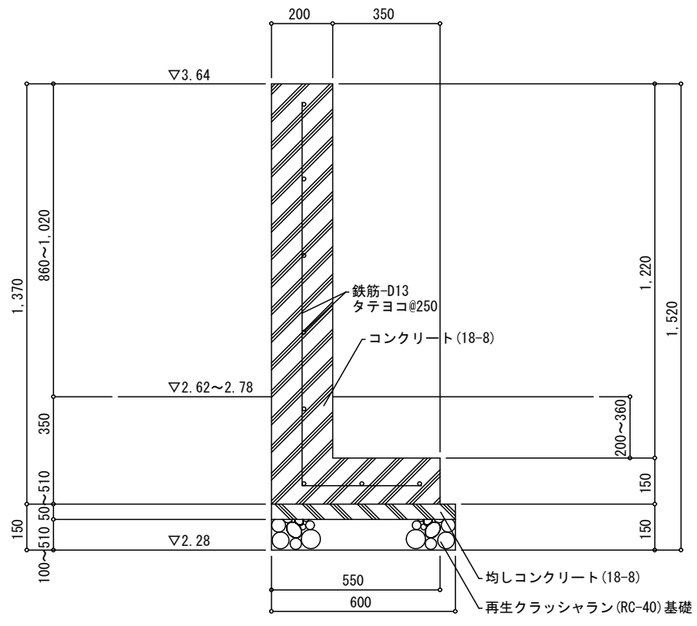
特記事項
・コンクリート部には伸縮目地（@10mを標準とする）　を入れること。
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

境界ウォール-3　S=1/10



特記事項
・コンクリート部には伸縮目地（@10mを標準とする）　を入れること。
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

境界ウォール-4　S=1/10

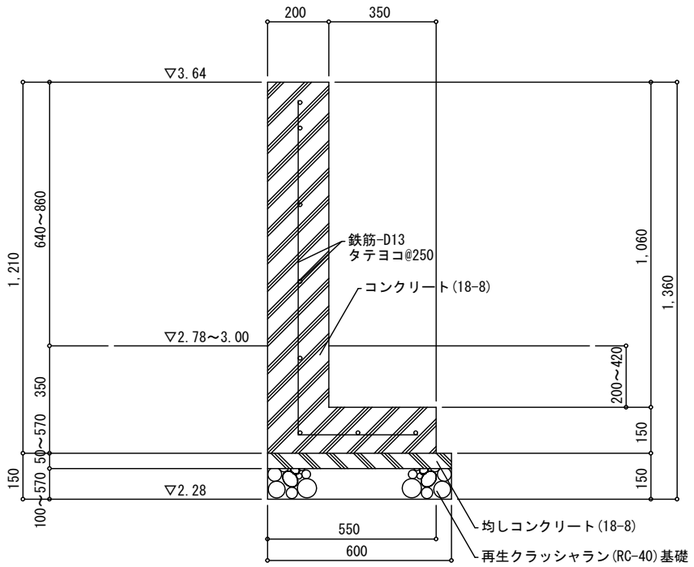


特記事項
・コンクリート部には伸縮目地（@10mを標準とする）　を入れること。
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 詳細図-3
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/10 A3：1/20

図面NO. C－010

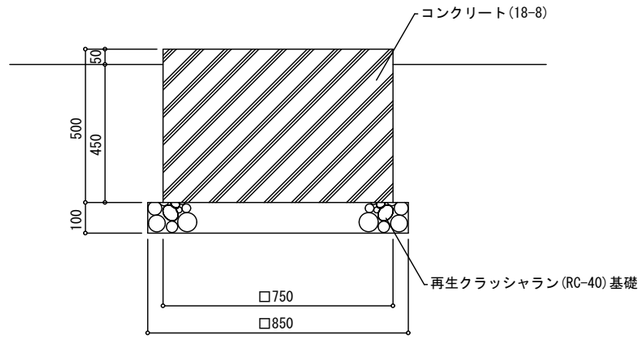
境界ウォール-5　S=1/10



断面図　S=1/10

特記事項
・コンクリート部には伸縮目地（@10mを標準とする） を入れること。
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

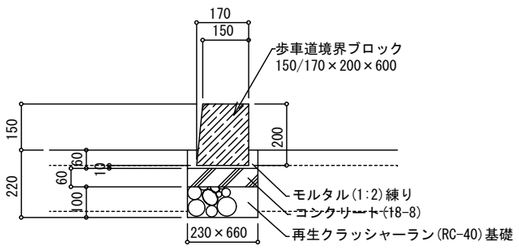
サイン基礎　S=1/10



断面図　S=1/10

特記事項
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

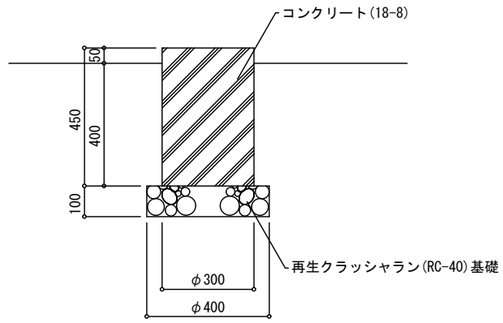
タイヤ止め　S=1/10



断面図　S=1/10

特記事項
・駐車場1台当たり、2基設置で一組とする。
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

充電設備基礎　S=1/10

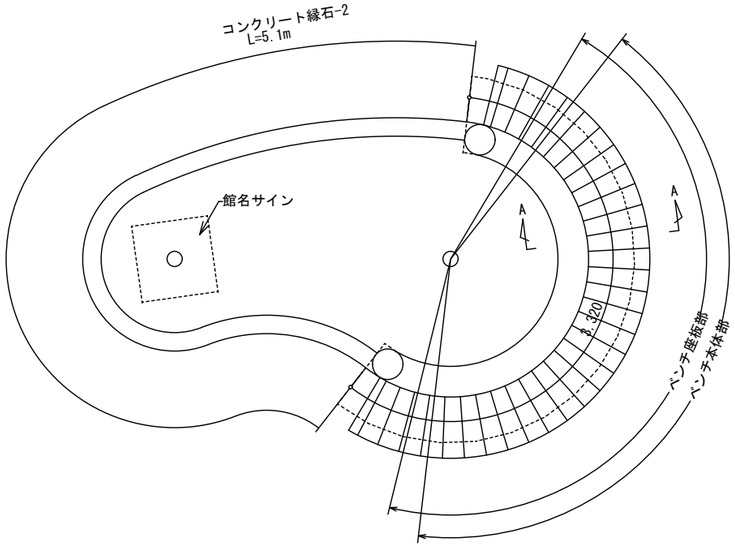


断面図　S=1/10

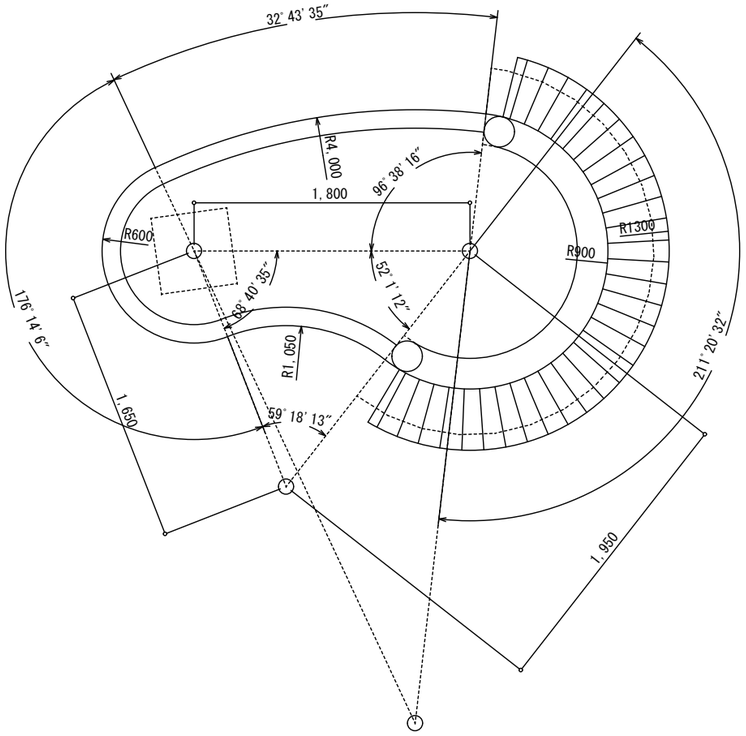
特記事項
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 詳細図-4
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/10 A3：1/20

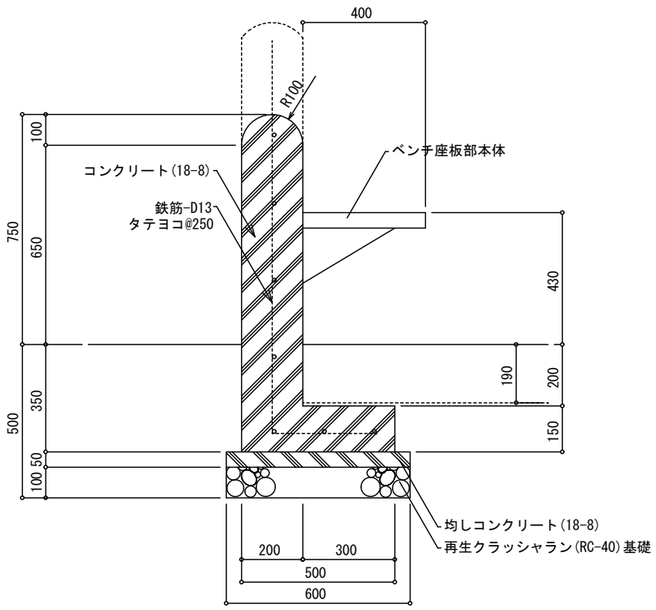
図面 NO. C－０１１



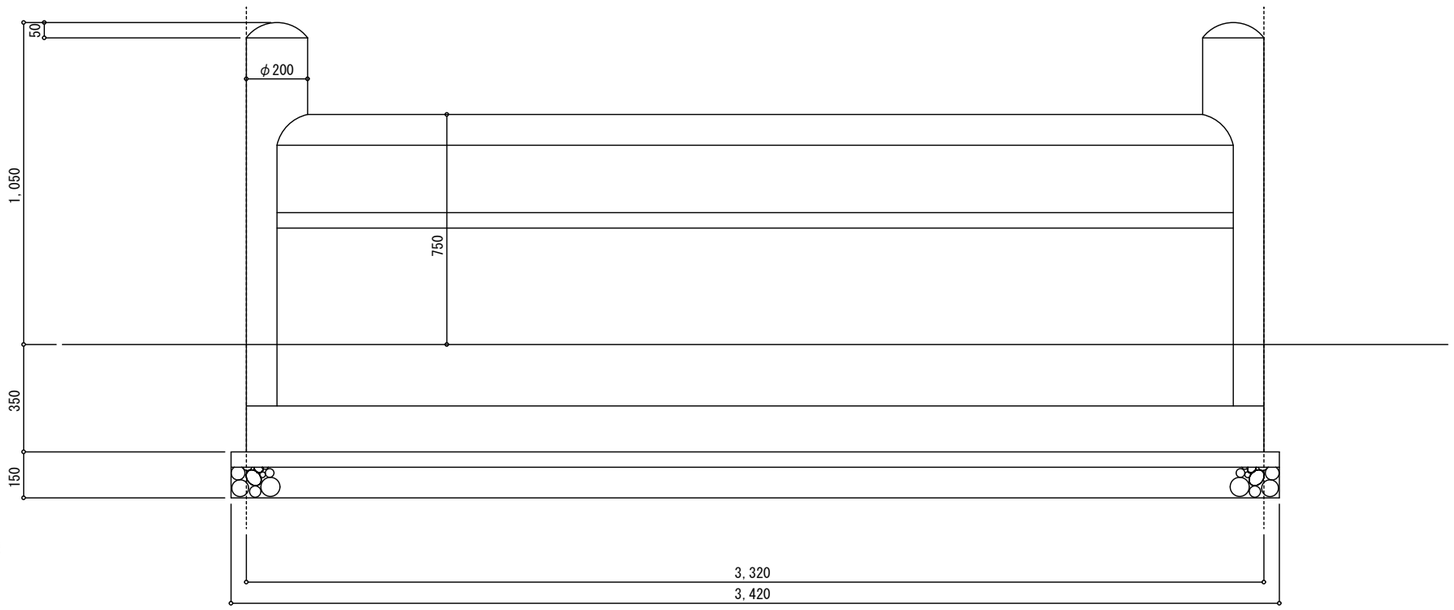
平面図　S=1/20



割付図　S=1/20



A-A断面図　S=1/10

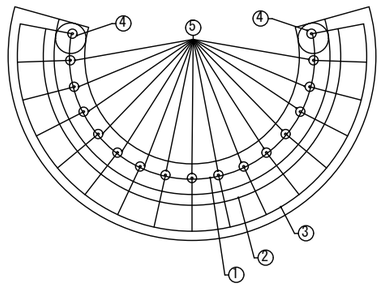


展開図　S=1/10

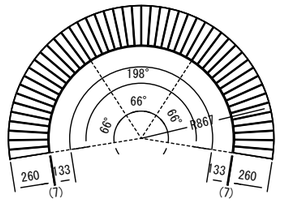
特記事項
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 詳細図-5
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/20,10 A3：1/40,20

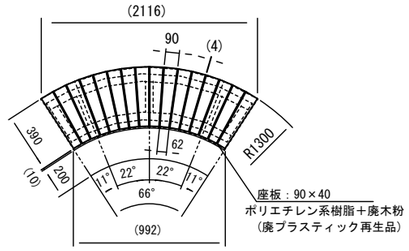
図面 NO. C－０１２



配筋図　S=1/20



平面図(S=1/30)
(3ユニット使用時)



1ユニット詳細図(S=1/20)

部材数量表(1ユニット当たり)

	部材名	規格	材質	数量	摘要
①	KF OWEB-ザブBトク	90×40×390	廃木粉入りポリエチレン系樹脂	16	オレンジウッド(廃プラ再生品仕様)
②	KF OWB-フレームCトク	t4.5 , t6	SGHC Z27 , SGH Z27	1	亜鉛めっき+静電粉体塗装
③	KF OWB-フレームSLトク	t6	SGH Z27	3	亜鉛めっき+静電粉体塗装
④	KF 6カクタッピンM6×35SUS	M6×35	SUS	32	
⑤	KF 6カクBTM10×30ASUS	M10×30	SUS	6セット	B,N1,N2,SW1
⑥	KF OWB-フレームCジョイント-N	□-50×30×t1.6	STKM-11A 相当	1	亜鉛めっき+静電粉体塗装
⑦	KF 6カクBTM10×60ASUS	M10×60	SUS	2セット	B,N1,N2,SW1
⑧	KF アンカーBTM10×90	M10×90	溶融亜鉛めっき	6セット	後施エアンカー(芯棒打込み式)

*① ～② は(#)印のボルトにより工場出荷時に取付済みです。
＊複数の製品を連結する場合、フレームジョイントが必要です。
＊不陸調整のライナープレートは、現地手配とします。

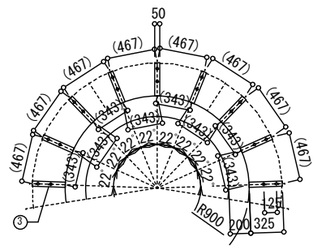
{座部断面図(2層構造)}
外層
内層
＊内層：廃プラスチック再生品使用。
＊外層：バージン樹脂使用。(耐候劣化防止のため)

※特注項目

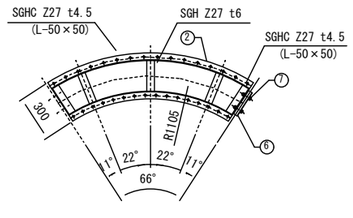
1	SLフレームトク
2	R1300
3	3ユニット

鉄筋表 (D13)

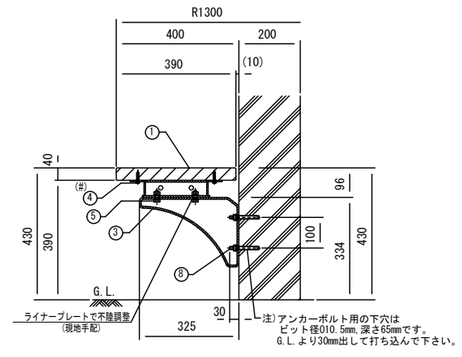
番号	形状	算出式	数量	単位	D13延長	単位
①	2.812	2.812	5	本	14.060	m
②	3.410	3.410	1	本	3.410	m
③	4.008	4.008	1	本	4.008	m
④	0.340 1.280	0.340+1.280=1.620	2	本	3.240	m
⑤	0.340 0.980	0.340+0.980=1.320	15	本	19.800	m
合計					44.518	m
数量	合計延長×単位重量(0.995kg/m)				44.295	kg



基礎図(S=1/30)
(3ユニット使用時)

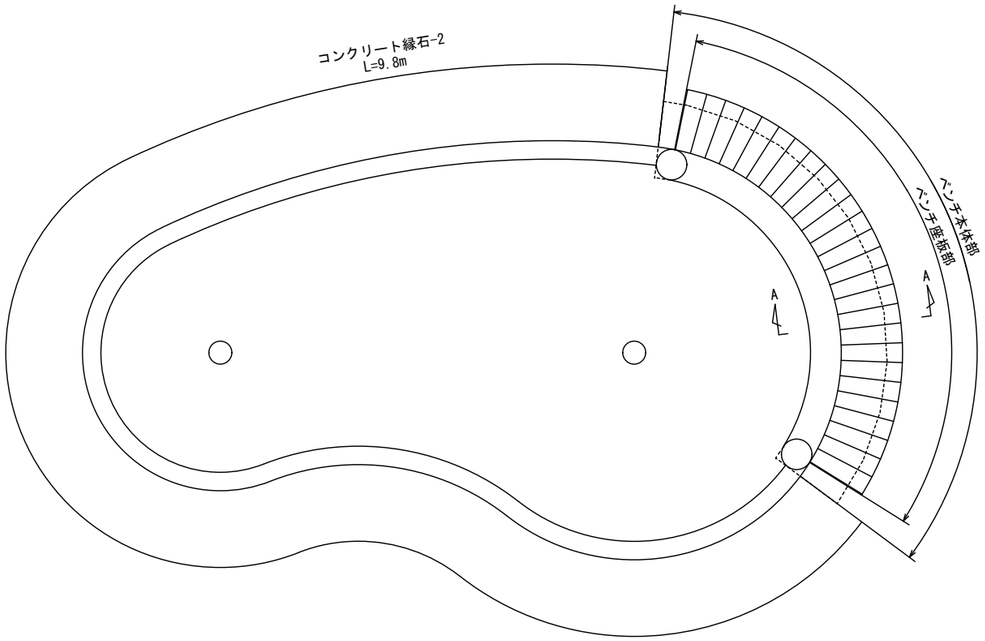


1ユニット詳細図(S=1/20)

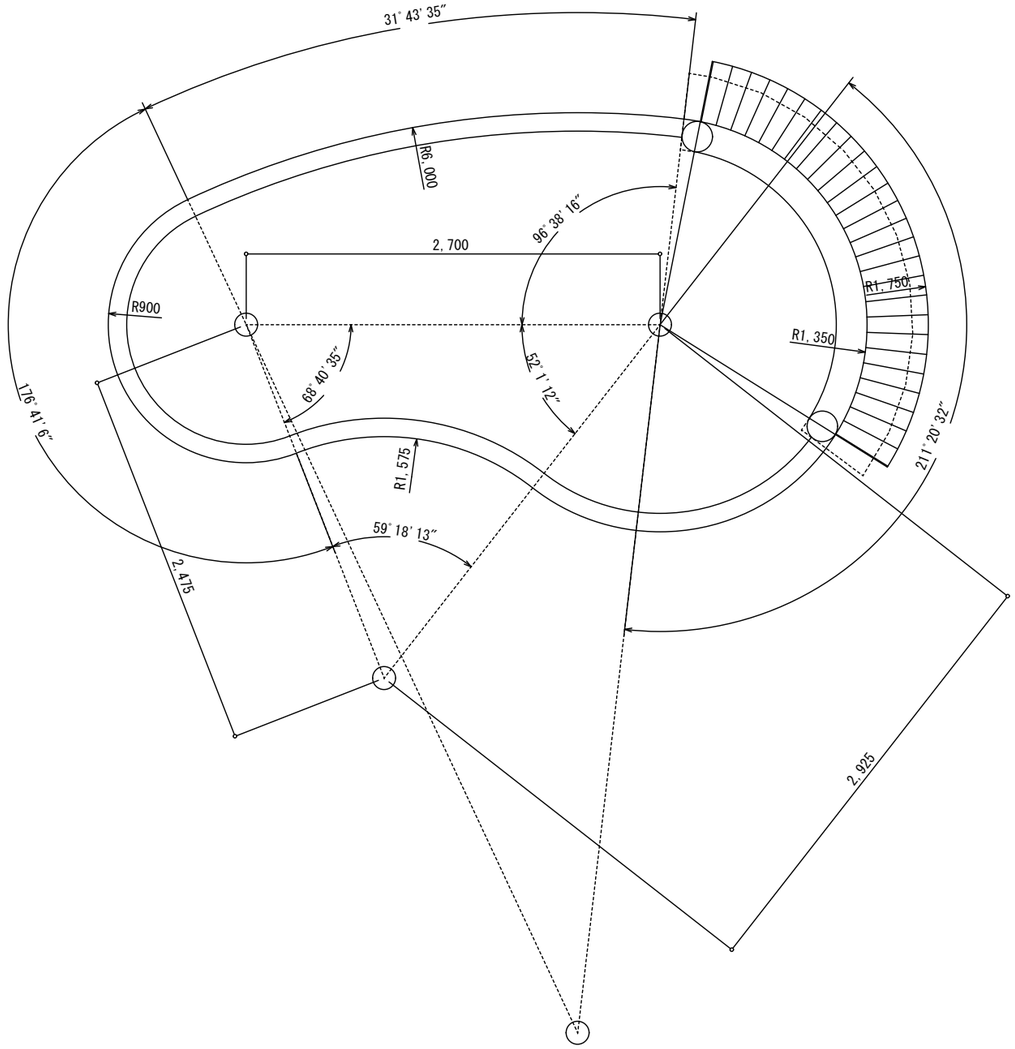


組付断面図(S=1/10)

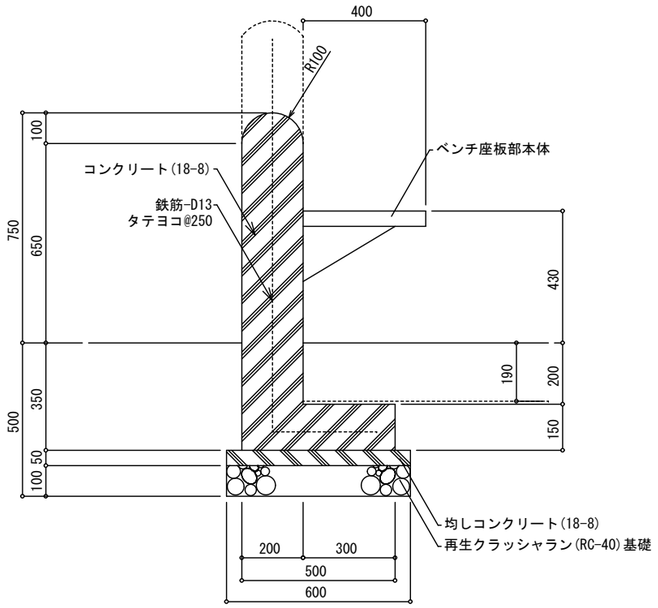
特記事項
・施工の際は配筋図を作成し、監督員の承認を得ること。



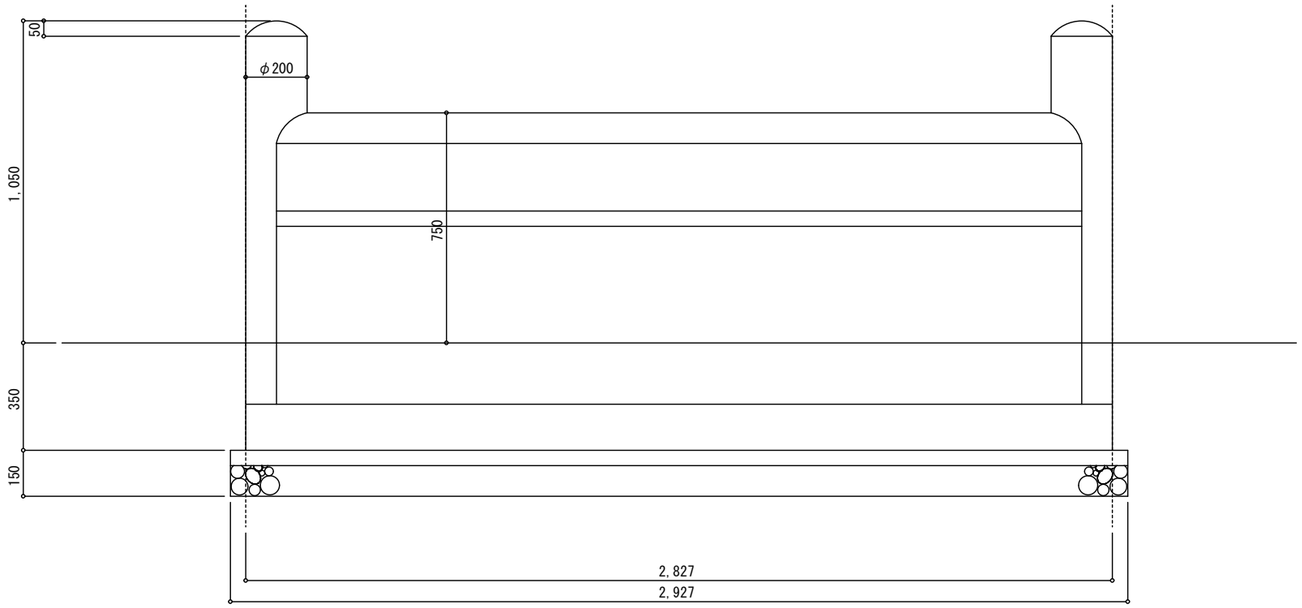
平面図　S=1/20



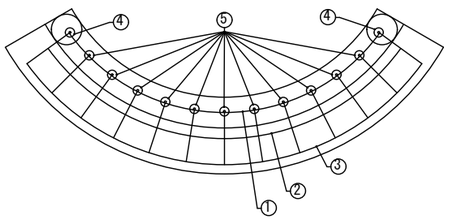
割付図　S=1/20



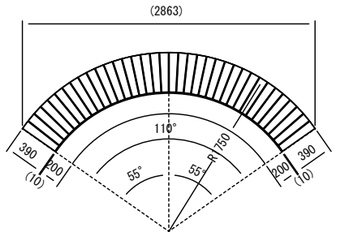
A-A断面図　S=1/10



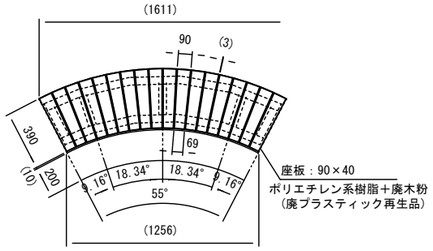
展開図　S=1/10



配筋図　S=1/20



平面図(S=1/30)
(2ユニット使用時)



1ユニット詳細図(S=1/20)

部材数量表(1ユニット当たり)

	部材名	規格	材質	数量	摘要
①	KF OWEB-ザブBトク	90×40×390	廃木粉入りポリエチレン系樹脂	18	オレンジウッドE(廃プラ再生品仕様)
②	KF OWB-フレームCトク	t4.5, t6	SGHC Z27, SGH Z27	1	亜鉛めっき+静電粉体塗装
③	KF OWB-フレームSLトク	t6	SGH Z27	3	亜鉛めっき+静電粉体塗装
④	KF 6カクタッピンM6×35SUS	M6×35	SUS	36	
⑤	KF 6カクBTM10×30ASUS	M10×30	SUS	6セット	B,N1,W2,SW1
⑥	KF OWB-フレームCジョイント-N	□-50×30×t1.6	STKM-11A 相当	1	亜鉛めっき+静電粉体塗装
⑦	KF 6カクBTM10×60ASUS	M10×60	SUS	2セット	B,N1,W2,SW1
⑧	KF アンカーBTM10×90	M10×90	溶融亜鉛めっき	6セット	後施工アンカー(芯棒打込み式)

*① ～② は(#)印のボルトにより工場出荷時に取付済みです。
* 複数の製品を連結する場合、フレームジョイントが必要です。
* 不陸調整のライナープレートは、現地手配とします。

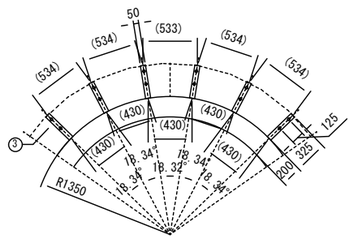
[座部断面図(2層構造)]
外層
内層
*内層：廃プラスチック再生品使用。
*外層：バージン樹脂使用。(耐候劣化防止のため)

※特注項目

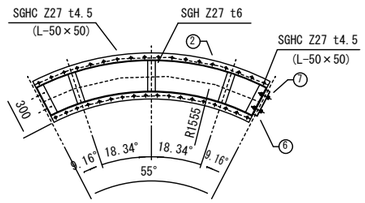
1	SLフレームトク
2	R1750
3	2ユニット

鉄筋表 (D13)

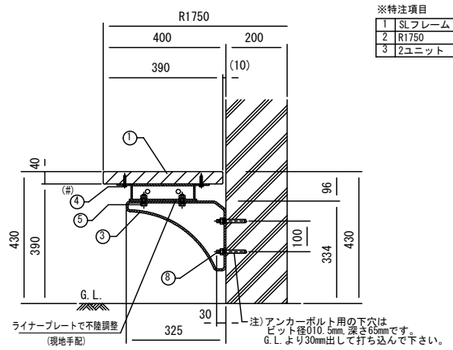
番号	形状	算出式	数量	単位	D13延長	単位
①	2.360	2.360	5	本	11.800	m
②	2.682	2.682	1	本	2.682	m
③	3.003	3.003	1	本	3.003	m
④	0.340 1.280	0.340+1.280=1.620	2	本	3.240	m
⑤	0.340 0.980	0.340+0.980=1.320	11	本	14.520	m
合計					35.245	m
数量	合計延長×単位重量(0.995kg/m)				35.068	kg



基礎図(S=1/30)
(2ユニット使用時)



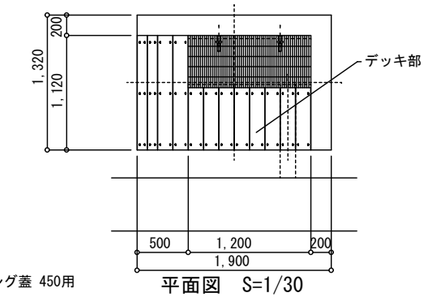
1ユニット詳細図(S=1/20)



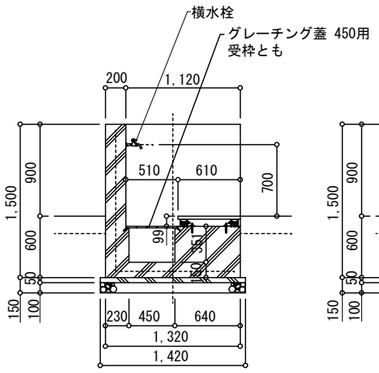
組付断面図(S=1/10)

特記事項
・施工の際は配筋図を作成し、監督員の承認を得ること。
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

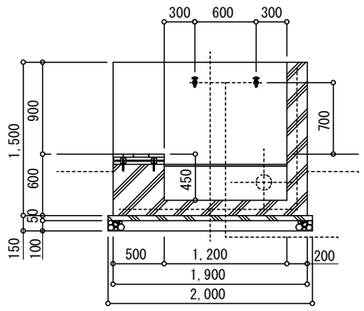
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	縮尺 A1：1/10,20,30 A3：1/20,40,60
	日付 令和７年６月		製図 望月		図面名 詳細図-8	図面 NO. C－015



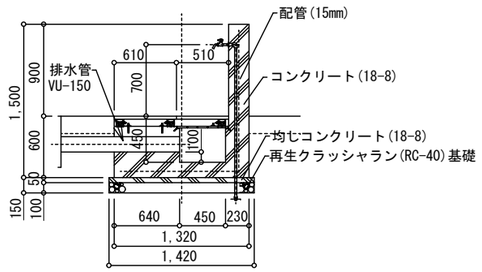
平面図　S=1/30



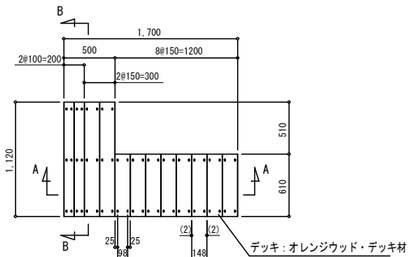
断面図　S=1/30



断面図　S=1/30



断面図　S=1/30

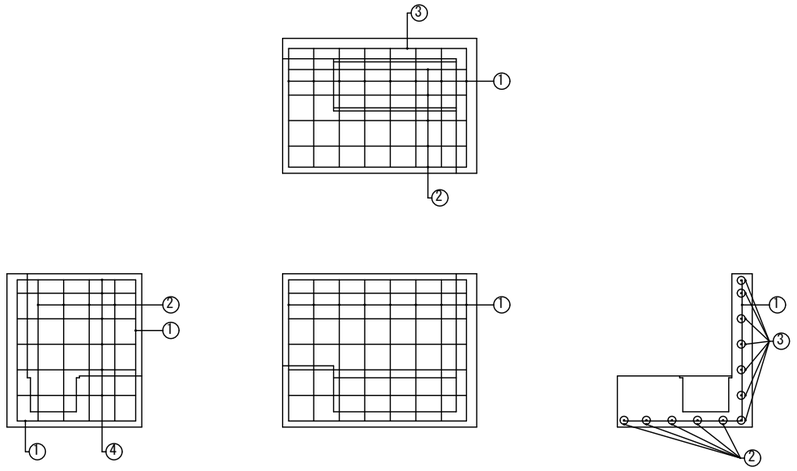


平面図(S=1/30)

部材表

	部材名	規格	材質	摘要
1	デッキ：オレンジウッド・デッキ材	148×29	木粉入り特殊オレフィン	オレンジウッド
2	根太：アルミ根太材	70×70	A6063S-T5	アルミ+ブロンズ
3	デッキ固定ねじ	04×40	SUS(チンバー処理)	ドリルネジ
4	固定金具	t2.3	SS400	溶融亜鉛めっき
5	根太固定ボルト	M10×30	強度区分4.6	S,N1,W1,SW1
6	アンカーボルト(スリーブ式)	M10×60		溶融亜鉛めっき
7	カバー材	t1.6	SS400	亜鉛めっき+静電粉体塗装
8	ナベ頭十字穴付タッピンネジ	3.5×16 2種みぞ付	SUS	

＊この図面は、参考図です。現地確認の上手配とします。
＊オレンジウッド・デッキ材は全てL=2030(呼び寸法L=2000)にて出荷します。カット等は現場加工とします。
＊アルミ・根太材は全てL=1990(1490)にて出荷します。カット等は現場加工とします。
＊デッキ材及び根太材は温度変化等により伸縮いたしますので、施工直前に現場カットしてください。
＊固定の際にはオレンジウッドにϕ3程度の下穴をあけてください。工具はインパクトドライバーの使用をお奨めします。
＊デッキ材の幅(148mm)をカットする場合は、左右均等にカットしてください。
＊デッキ材の目地間隔は2mmを基本としています。

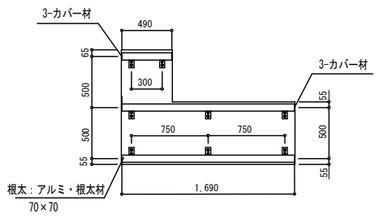


配筋図　S=Nonscale

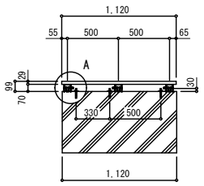
鉄筋表（D13）

番号	形状	算出式	数量	単位	D13延長	単位
①	1.160 1.380	1.160+1.380=2.540	8	本	20.320	m
②	1.740 1.380	1.160+1.740=2.900	5	本	14.500	m
③	1.740	1.740	7	本	12.180	m
④	1.160	1.160	6	本	6.960	m
合計					53.960	m
数量	合計延長×単位重量(0.995kg/m)				53.690	kg

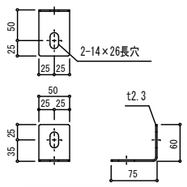
特記事項
・施工の際は配筋図を作成し、監督員の承認を得ること。
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。



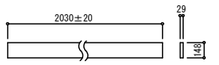
根太配置図(S=1/30)



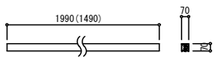
B-B矢視図(S=1/30)



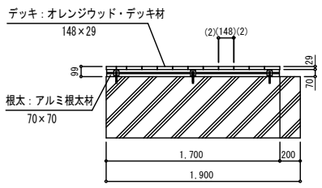
固定金具図(S=1/5)



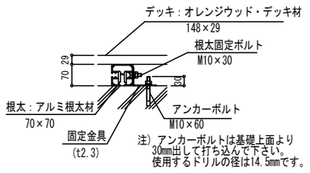
オレンジウッド・デッキ材図(S=1/30)



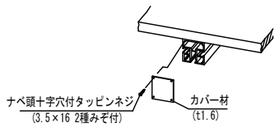
アルミ・根太材図(S=1/30)



A-A断面図(S=1/30)



A部詳細図(S=1/10)



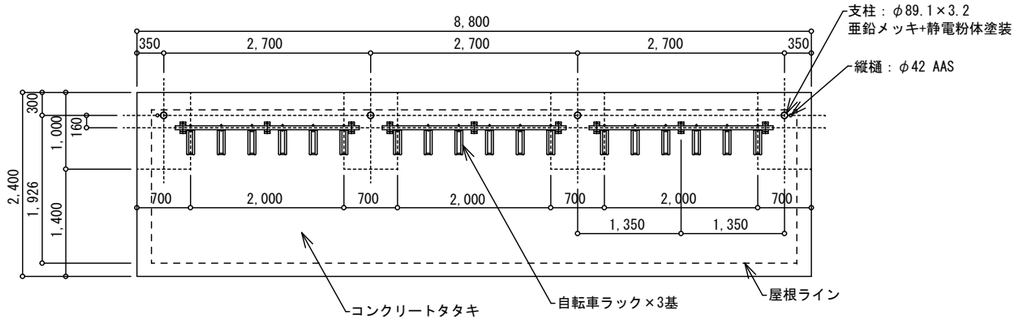
根太材端部フタ取付図

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 詳細図-9
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/10,30 A3：1/20,60

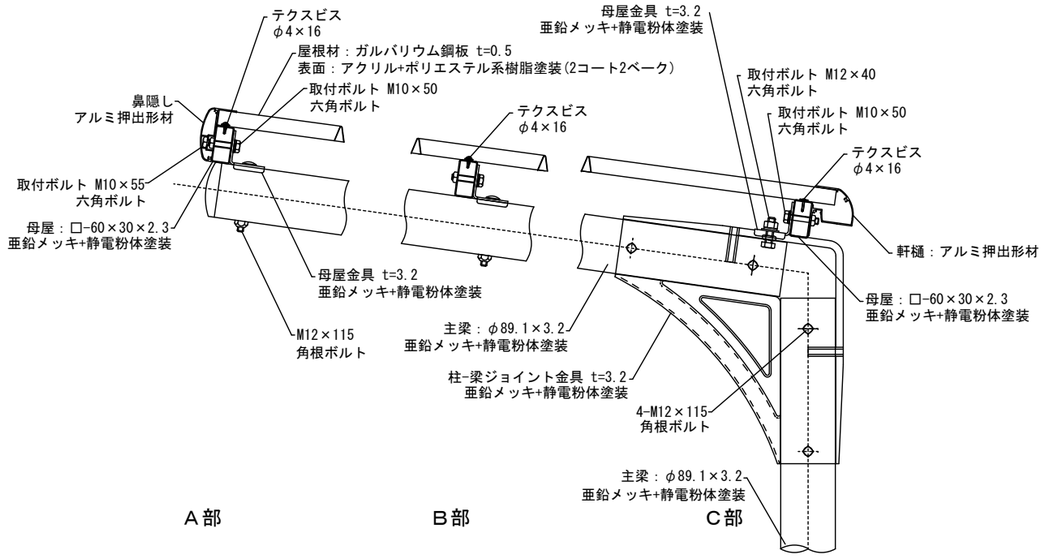
図面 NO. C－016

自転車置場(1)

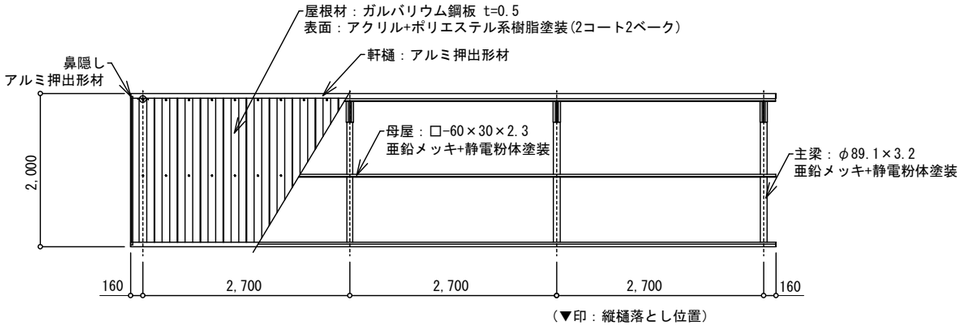
S=図示



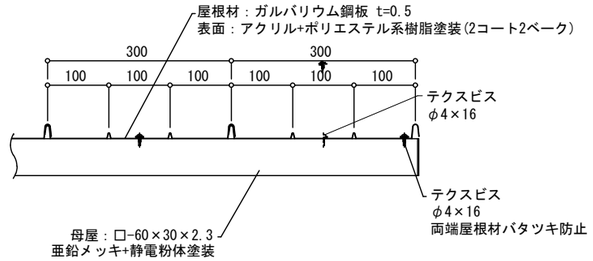
基礎伏図　S=1/40



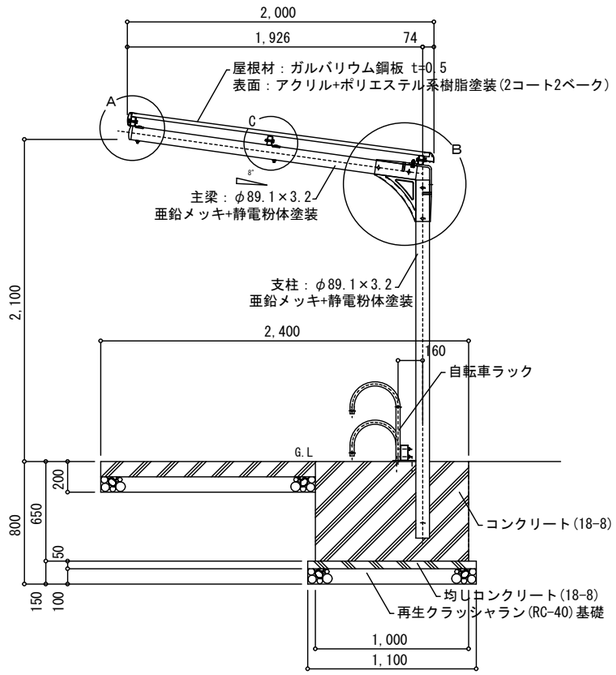
各部詳細図　S=1/5



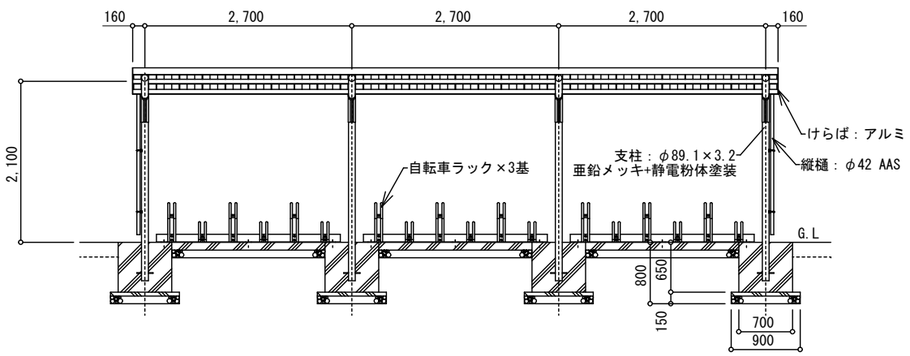
平面図　S=1/40



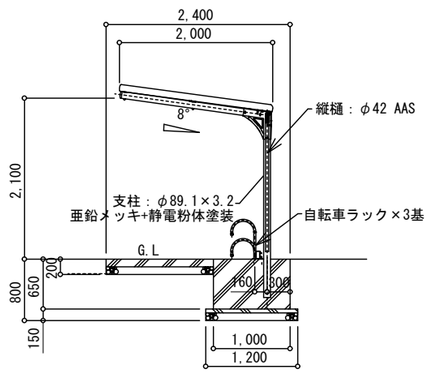
屋根材取付詳細図　S=1/5



断面図　S=1/20



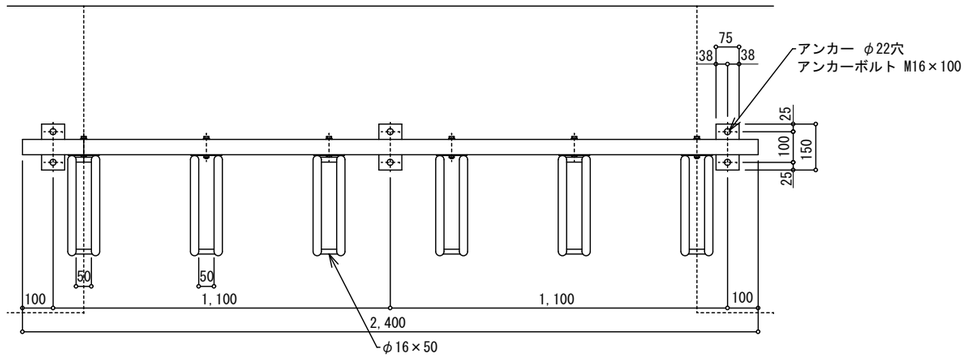
正面図　S=1/40



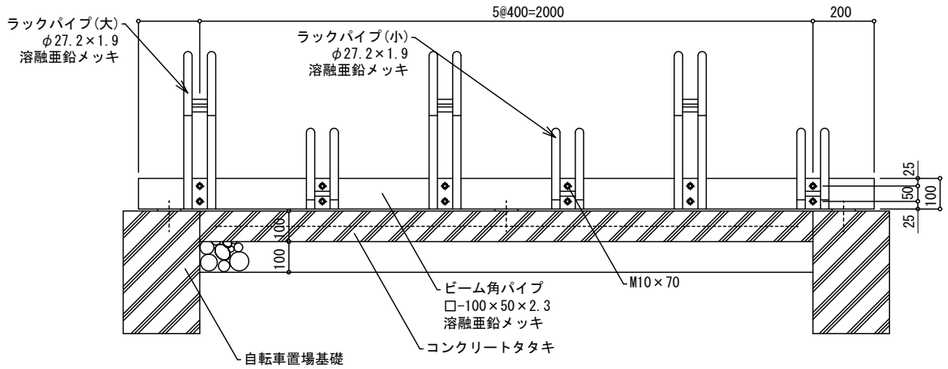
側面図　S=1/40

特記事項
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

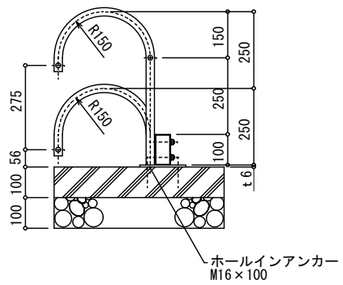
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 詳細図-10	縮尺 A1：1/5,20,40 A3：1/10,40,80
	日付 令和７年６月		製図 望月				図面 NO. C－０１７



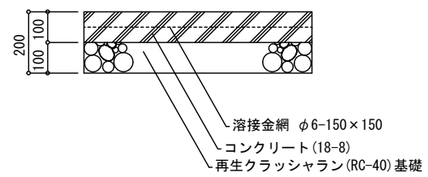
平面図　S=1/10



断面図　S=1/10



断面図　S=1/10



特記事項
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

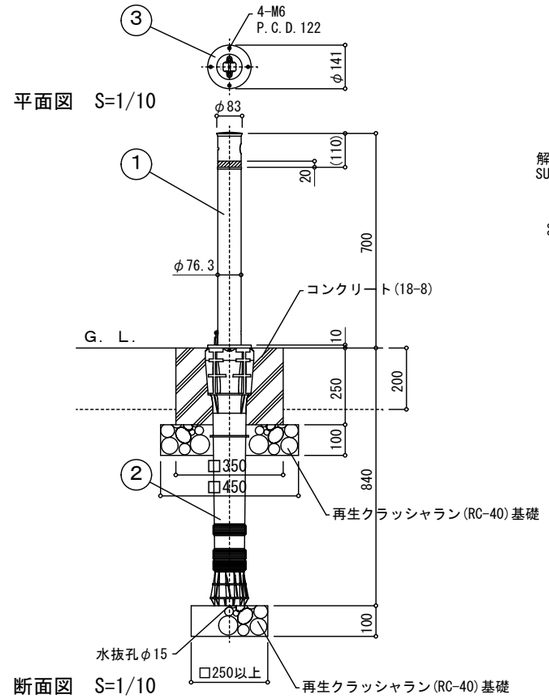
断面図　S=1/10

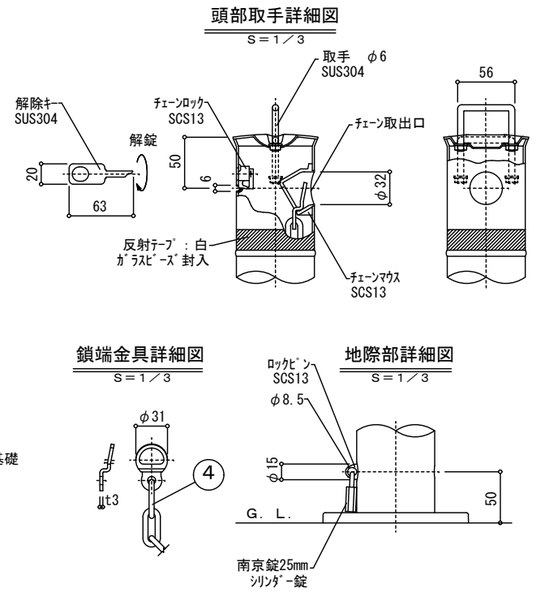
自転車ラック

コンクリートタタキ

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋 / 日付 令和7年6月	総括 大橋	主任 大橋 / 製図 望月	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 詳細図-11 / 縮尺 A1：1/10 A3：1/20	図面 NO. C－０１８

車止め-1　　S=図示

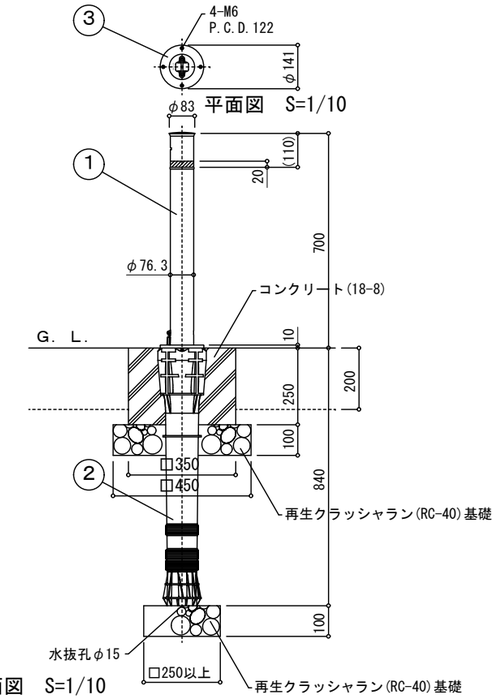


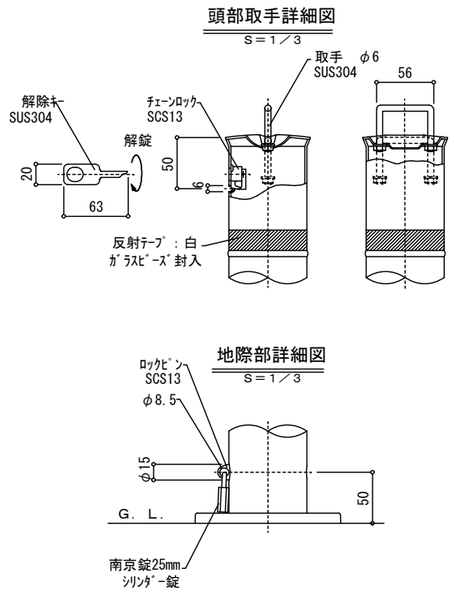


番号	品名	数量	材質	備考	
4	クサリ・クサリ端金具	1	ステンレス　SUS304	φ5×2.0M	支柱間ピッチ
3	化粧カバー	1	ステンレス　SUS304	φ141×t1.5	#400
2	埋込スリーブ	1	ポリプロピレン　P.P.	最大幅寸法158	ガラス繊維入り（20%）
1	パイプ	1	ステンレス　SUS304	φ76.3×t2.0	#400

特記事項
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

車止め-2　　S=図示

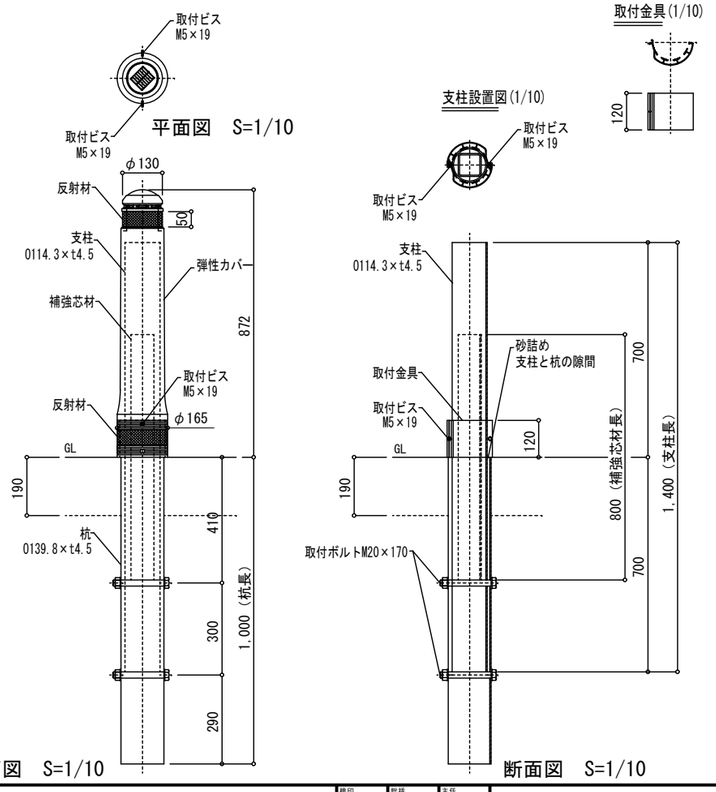


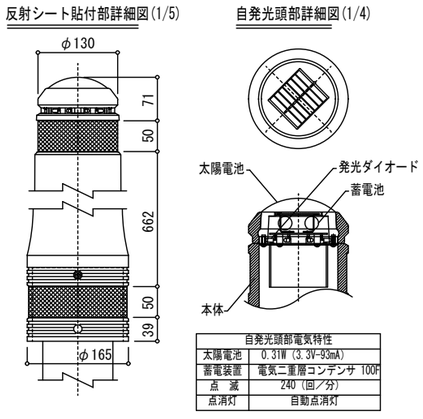


番号	品名	数量	材質	備考	
3	化粧カバー	1	ステンレス　SUS304	φ141×t1.5	#400
2	埋込スリーブ	1	ポリプロピレン　P.P.	最大幅寸法158	ガラス繊維入り（20%）
1	パイプ	1	ステンレス　SUS304	φ76.3×t2.0	#400

特記事項
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

車止め-3　　S=図示



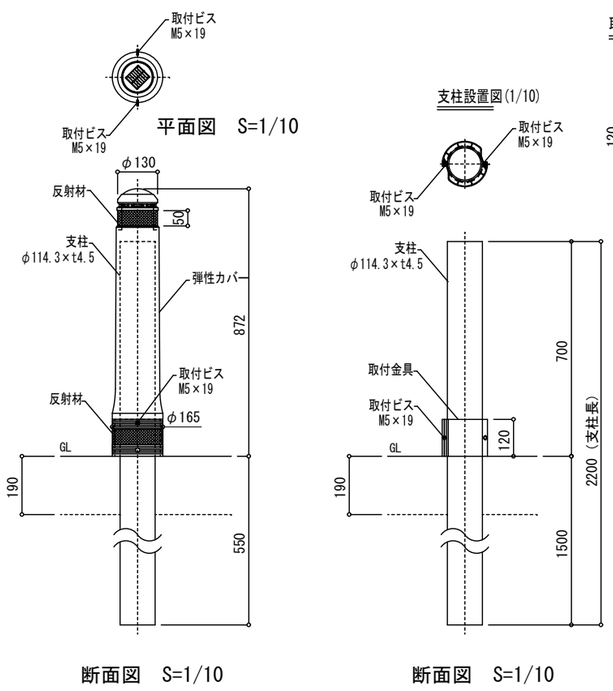


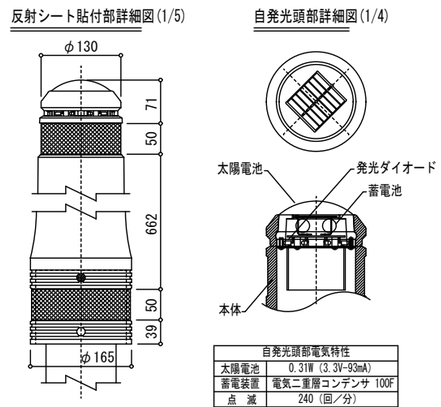
自発光頭部電気特性	
太陽電池	0.31W (3.3V-93mA)
蓄電装置	電気二重層コンデンサ 100F
点　滅	240（回／分）
点消灯	自動点消灯

※特記事項
・打込前に舗装が0200以上開いていることを確認する。
・打込後に支柱の位置を調整し、杭と支柱の間をGLまで砂を詰める。
・砂を詰めた後に、支柱の周りをモルタルで充填する。

品名	材質	摘要
弾性カバー	再生ゴム（工場廃材）	弾性アクリルウレタン塗装
反射材	マイクロプリズム型反射シート	シルバー色
取付金具	アルミニウム合金	弾性カバー固定用
取付ビス	SUS410	M5×19
支　柱	STK400相当	高耐食溶融めっき+静電粉体塗装
杭	STK400相当	高耐食溶融めっき+静電粉体塗装
補強芯材	STKR400	亜鉛めっき+静電粉体塗装
	SGH400	
取付ボルト	8.8相当	溶融亜鉛めっきM20×170
太陽電池	単結晶シリコン	PCセルカバー付
発光ダイオード		赤色発光、径φ5
蓄電池	電気二重層コンデンサ	

車止め-4　　S=図示





自発光頭部電気特性	
太陽電池	0.31W (3.3V-93mA)
蓄電装置	電気二重層コンデンサ 100F
点　滅	240（回／分）
点消灯	自動点消灯

品名	材質	摘要
弾性カバー	再生ゴム（工場廃材）	弾性アクリルウレタン塗装
反射材	マイクロプリズム型反射シート	シルバー色
取付金具	アルミニウム合金	弾性カバー固定用
取付ビス	SUS410	M5×19
支　柱	STK400相当	高耐食溶融めっき+静電粉体塗装
太陽電池	単結晶シリコン	PCセルカバー付
発光ダイオード		赤色発光、径φ5
蓄電池	電気二重層コンデンサ	

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋
	日付 令和7年6月		製図 望月

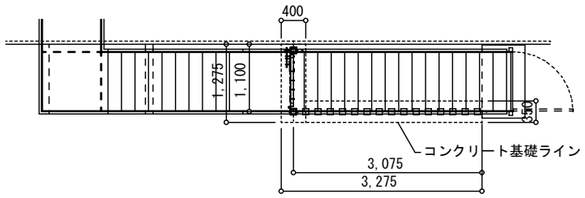
設計 NO.	工事名	図面名	縮尺	図面 NO.
	令和7年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	詳細図-12	A1：1/3,4,5,10 A3：1/6,8,10,20	C－019

立入防止柵

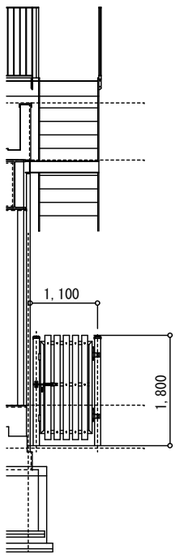
S=図示

タイプ	角型テンダーウッド 横木子柵
品　番	TKC-318C-1.0Sモンビトク
図面番号	ARE240038/AFT240515

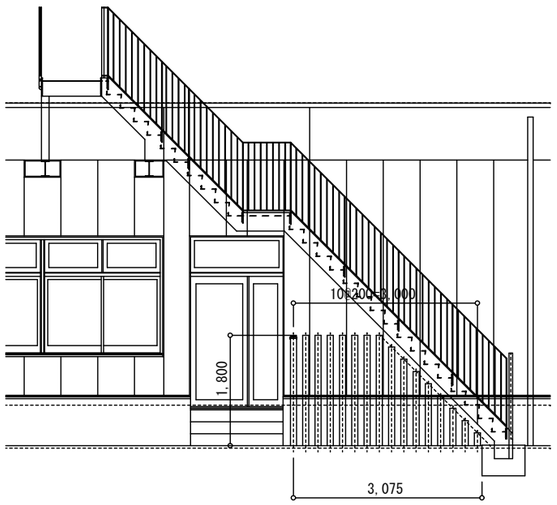
片開き	外　開　き
	外　貫　抜
	右　吊　元



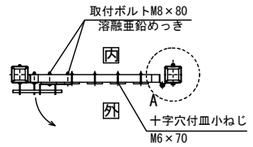
割付平面図　S=1/50



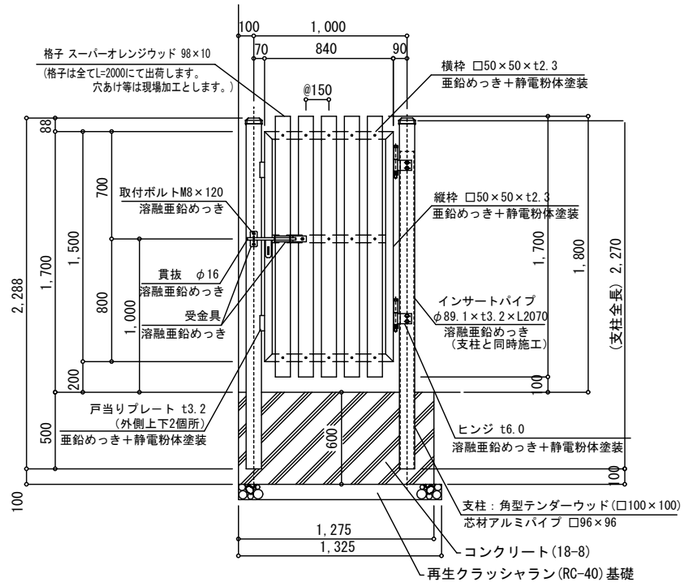
割付側面図　S=1/50



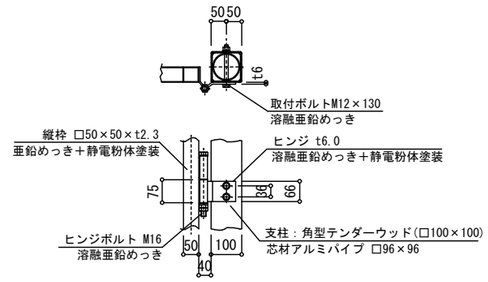
割付立面図　S=1/50



平面図　S=1/20

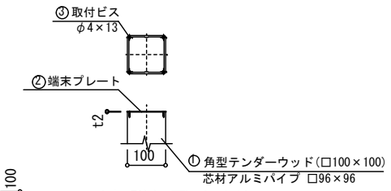


断面図　S=1/20



A取付部詳細図　S=1/10

タイプ	角型テンダーウッド 目隠柵
品　番	TK100×100-Pトク
図面番号	ARE240037



A部詳細図　S=1/8

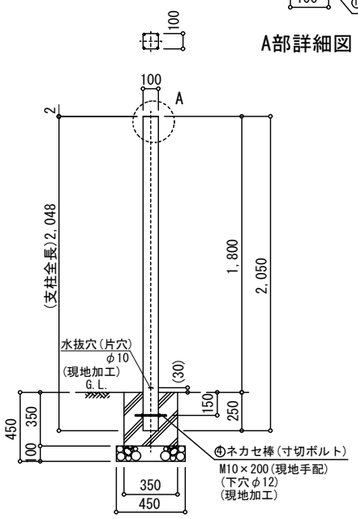
部材表

部番	部材名	材質	摘要
①	支柱	A6063S-T5+木粉入り変性PE	アルミ＋樹脂被覆
②	端末プレート	アルミ t2	アクリル焼付塗装
③	キャップ取付ビスφ4×13	SUS	十字穴付皿ドリルねじ(小頭)
④	ネカセ棒(寸切ボルト)	M10×200	(現地手配)

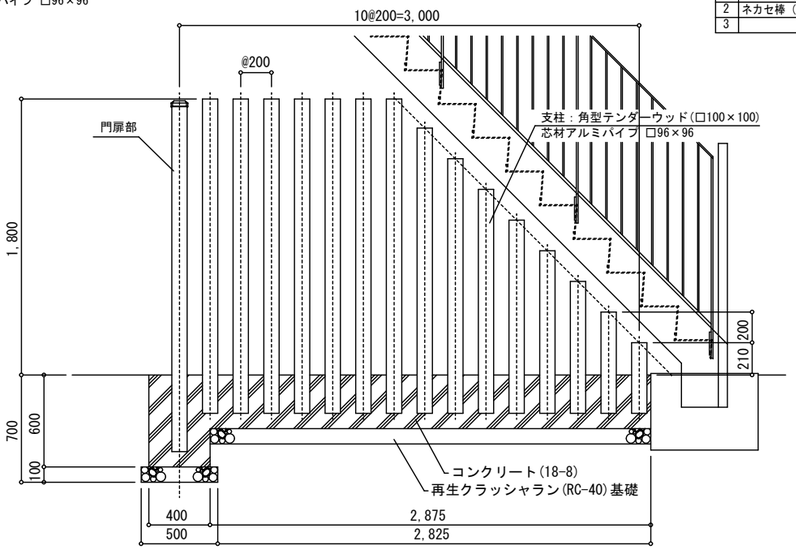
※・外径は凸部の平均値です。
ネカセ棒(現地手配)のルーバーへの穴あけは、現地加工とします。

※特注項目

1	ルーバー材
2	ネカセ棒（現地手配）
3	



断面図　S=1/20



断面図　S=1/20

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋
	日付 令和7年6月		製図 望月

設計 NO.

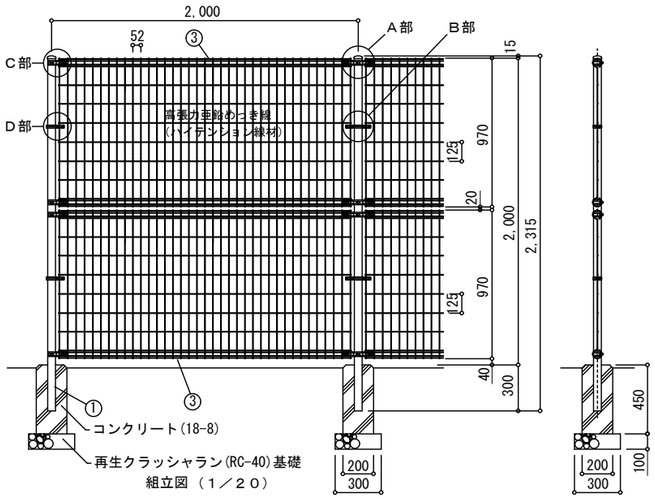
工事名　令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

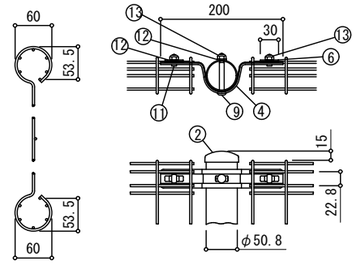
図面名　詳細図-13

縮尺　A1：1/10, 20, 50　A3：1/20, 40, 100

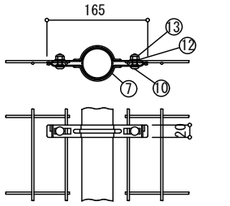
図面 NO.　C－０２０

フェンス-1　　S=図示

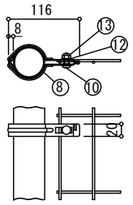




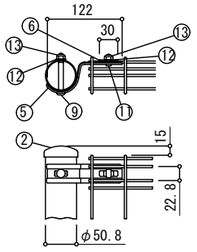
本体パネル詳細図（１／５）　　Ａ部詳細図（１／５）



Ｂ部詳細図（１／５）



Ｄ部詳細図（１／５）



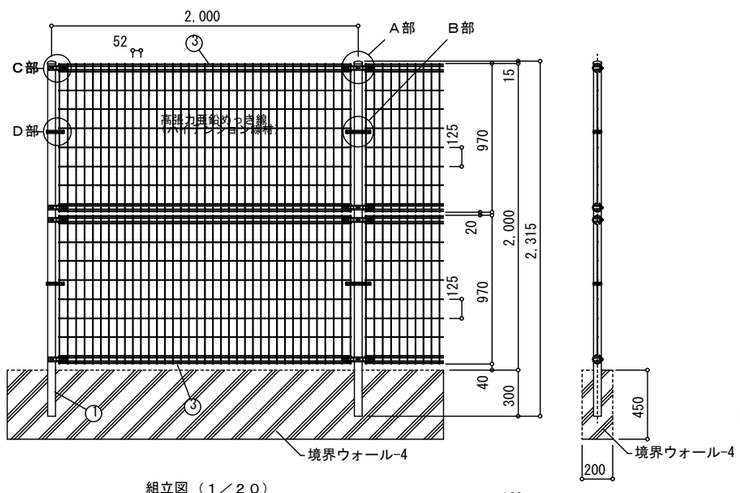
Ｃ部詳細図（１／５）

部番	部材名	形格（mm）	材質	摘要
1	支柱 #2000	φ50.8×t2.3	STK 400	静電粉体塗装（下地 亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっき）
2	支柱キャップ	t1.6	SPCC・KZ7	〃
3	本体 #1000	φ3.6	亜鉛めっき鉄線	流動浸漬塗装（下地亜鉛めっき）
4	固定金具	t1.6	SGH・ZZ7	静電粉体塗装（下地亜鉛めっき）
5	固定金具端末用	〃	〃	〃
6	押え金具	〃	〃	〃
7	中間金具	〃	〃	〃
8	中間金具端末用	〃	〃	〃
9	角根ボルト	M8×64	4.6相当	溶融亜鉛めっき
10	〃	M8×20	〃	〃
11	〃	M8×15	〃	〃
12	平座金	呼び径8	SPCC	〃
13	六角飾りナット	M8	4.6相当	〃

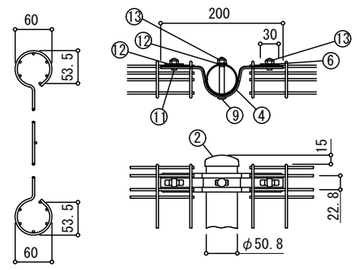
（注）商品仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

特記事項
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

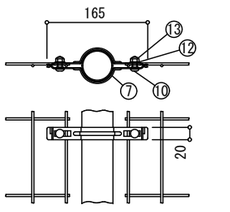
フェンス-2　　S=図示



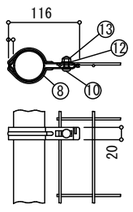
組立図（１／２０）



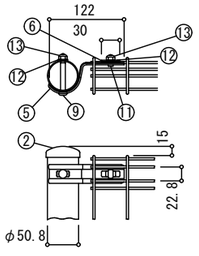
本体パネル詳細図（１／５）　　Ａ部詳細図（１／５）



Ｂ部詳細図（１／５）



Ｄ部詳細図（１／５）

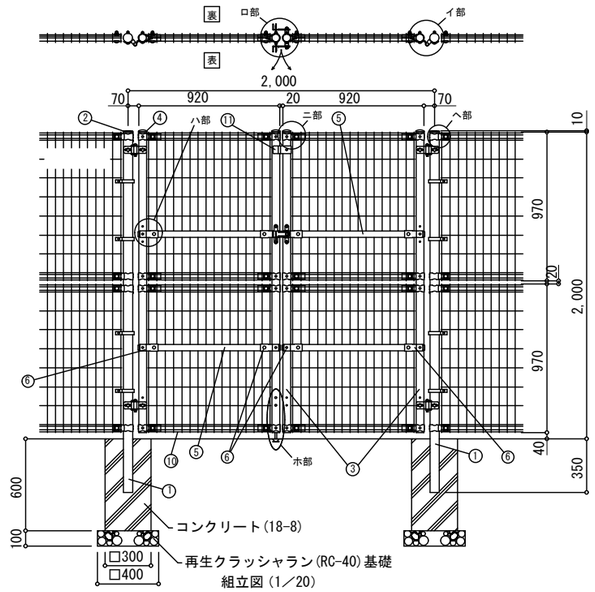


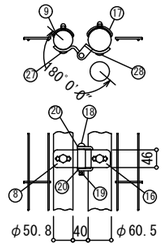
Ｃ部詳細図（１／５）

部番	部材名	形格（mm）	材質	摘要
1	支柱 #2000	φ50.8×t2.3	STK 400	静電粉体塗装（下地 亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっき）
2	支柱キャップ	t1.6	SPCC・KZ7	〃
3	本体 #1000	φ3.6	亜鉛めっき鉄線	流動浸漬塗装（下地亜鉛めっき）
4	固定金具	t1.6	SGH・ZZ7	静電粉体塗装（下地亜鉛めっき）
5	固定金具端末用	〃	〃	〃
6	押え金具	〃	〃	〃
7	中間金具	〃	〃	〃
8	中間金具端末用	〃	〃	〃
9	角根ボルト	M8×64	4.6相当	溶融亜鉛めっき
10	〃	M8×20	〃	〃
11	〃	M8×15	〃	〃
12	平座金	呼び径8	SPCC	〃
13	六角飾りナット	M8	4.6相当	〃

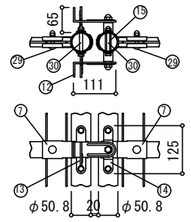
（注）商品仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

門扉　　S=図示

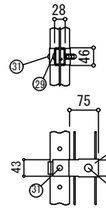




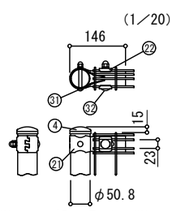
イ部詳細図(1／8)



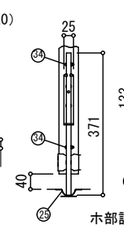
ロ部裏面詳細図(1／8)



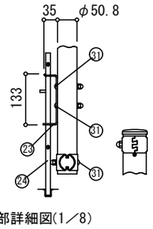
ハ部裏面詳細図(1／8)

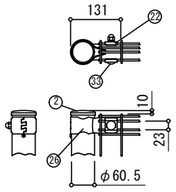


ニ部詳細図(1／8)



ホ部詳細図(1／8)





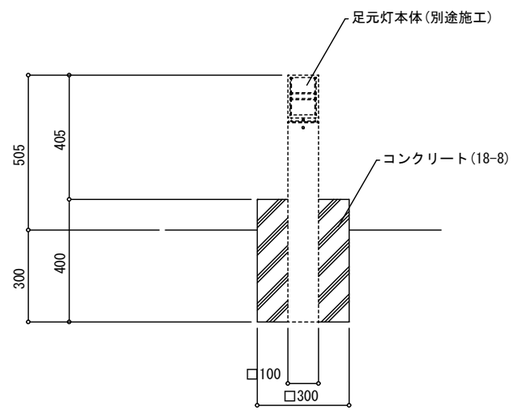
ヘ部詳細図(1／8)

部番	部材名	形格（mm）	材質	摘要
1	門柱	φ60.5×t3.2	STK400	静電粉体塗装（下地 亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっき）
2	門柱キャップ	t1.6	SPCC	〃
3	門扉縦枠	φ50.8×t1.6	STK400	〃
4	縦枠キャップ	t1.6	SPCC	〃
5	門扉横枠	t1.6	SGH	静電粉体塗装（下地亜鉛めっき）
6	横枠固定金具	〃	〃	〃
7	横枠固定金具B	〃	〃	〃
8	ヒンジボ	φ20	SPHC	※1 〃
9	支柱カバー（縦枠用）	t2.3	SGH	〃
10	メッシュパネル	φ3.6、φ4.5	亜鉛めっき鉄線	流動浸漬塗装（下地亜鉛めっき）
11	戸当たりプレート	t3.2	SGH	静電粉体塗装（下地亜鉛めっき）
12	掛金具	t4	ステンレス	
13	錠受金具	〃	〃	
14	軸受金具	t3	〃	
15	スピンドル	φ15	〃	
16	ヒンジ	t6	SPHC	※1 静電粉体塗装（下地亜鉛めっき）
17	支柱カバー（門柱用）	t2.3	SGH	〃
18	ヒンジ芯棒	φ12	SGD	溶融亜鉛めっき
19	割りピン	4×20	ステンレス	
20	扉金	呼び径12	黄銅	
21	パネル取付金具	t2.3	SGH	静電粉体塗装（下地亜鉛めっき）
22	押え金具	t3.2	〃	〃
23	落し棒受金具	〃	SPHC	溶融亜鉛めっき
24	落し棒	φ12	SGD	〃
25	落し受(下用)	t1.5	ステンレス	
26	門柱端末金具	t2.3	SGH	静電粉体塗装（下地亜鉛めっき）
27	取付ボルト	M8×70	4.6相当	溶融亜鉛めっき
28	〃	M8×80	〃	〃
29	〃	M8×40	〃	〃
30	〃	M8×70	ステンレス	
31	〃	M8×67	4.6相当	溶融亜鉛めっき
32	〃	M10×67.5	〃	〃
33	〃	M10×70	〃	〃
34	ナベホネジ	M4×18	ステンレス	

（注）※1は特注色：グレイ35の場合、溶融亜鉛めっき品とする。
（注）商品仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

特記事項
・コンクリートの「18」は強度、「8」はスランプ量を示す。

足元灯基礎　　S=1/10



断面図　S=1/10

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号　大橋康孝

検印	総括	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和７年６月		製図 望月

設計 NO.

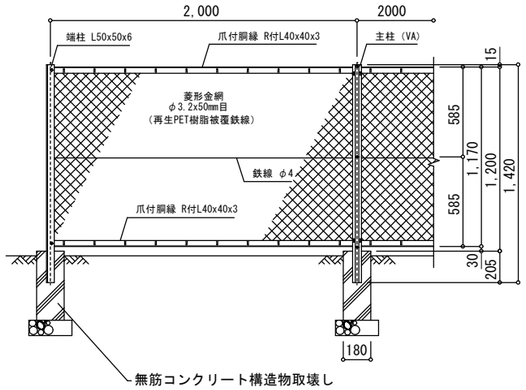
工事名　令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名　詳細図-14

縮尺　A1：1/5,20　A3：1/10,40

図面 NO.　Ｃ－０２１

フェンス-1撤去　S=1/20

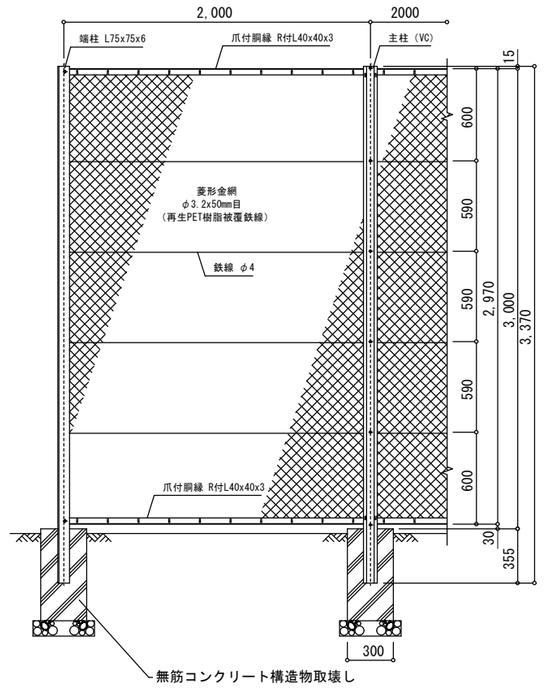


断面図　S=1/20

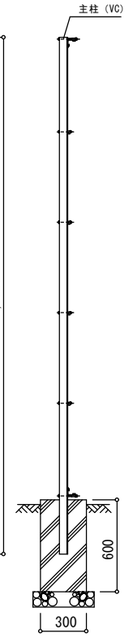
断面図　S=1/20

特記事項
・図は参考図とする。
・撤去作業の際は監督員に確認を得ること。

フェンス-2撤去　S=1/20



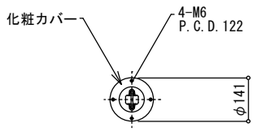
断面図　S=1/20



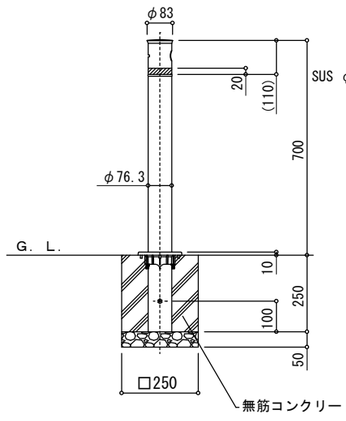
断面図　S=1/20

特記事項
・図は参考図とする。
・撤去作業の際は監督員に確認を得ること。

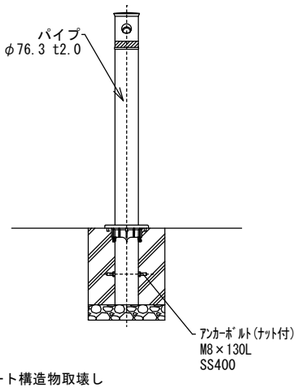
車止め撤去　S=1/10



平面図　S=1/10



断面図　S=1/10

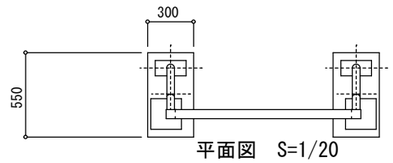


断面図　S=1/10

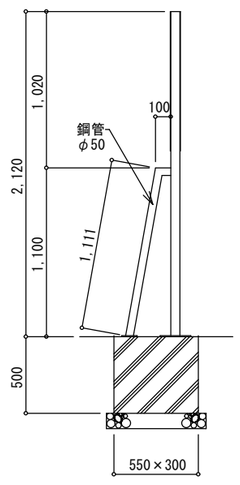
特記事項
・図は参考図とする。
・撤去作業の際は監督員に確認を得ること。

サイン-1撤去　S=1/20

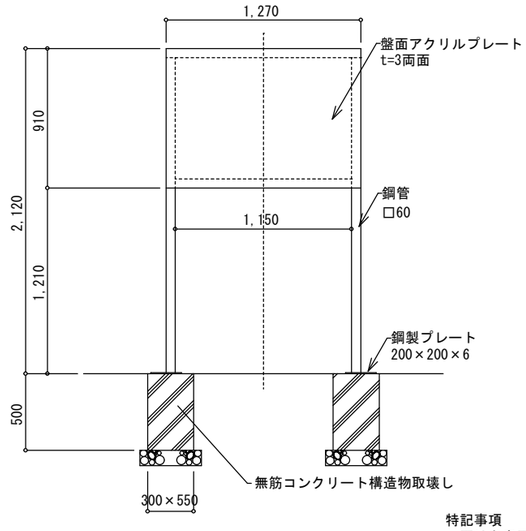
サイン-1撤去



平面図　S=1/20



断面図　S=1/20



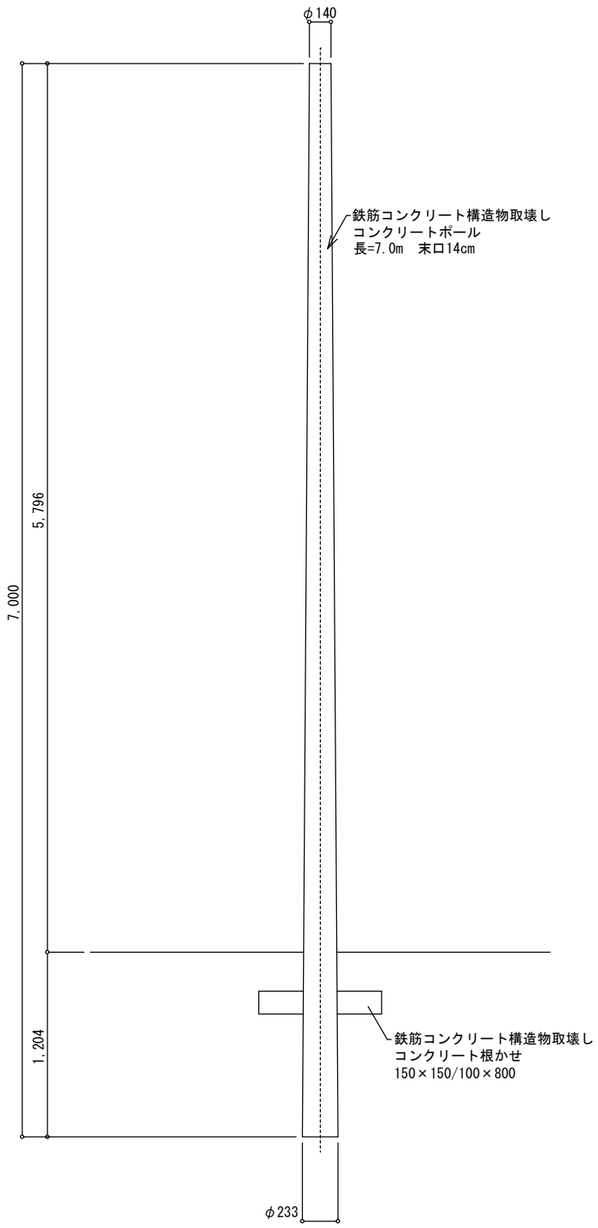
断面図　S=1/20

特記事項
・図は参考図とする。
・撤去作業の際は監督員に確認を得ること。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 撤去詳細図-1
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/10,20 A3：1/20,40

図面NO. C－０２２

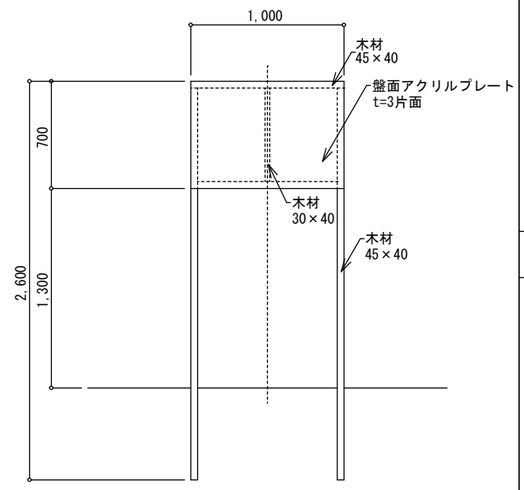
コンクリート柱撤去　S=1/20



断面図　S=1/20

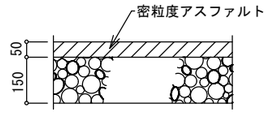
特記事項
・図は参考図とする。
・撤去作業の際は監督員に確認を得ること。

サイン-2撤去　S=1/20



断面図　S=1/20

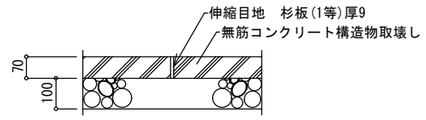
アスファルト舗装撤去　S=1/10



断面図　S=1/10

特記事項
・図は参考図とする。
・撤去作業の際は監督員に確認を得ること。

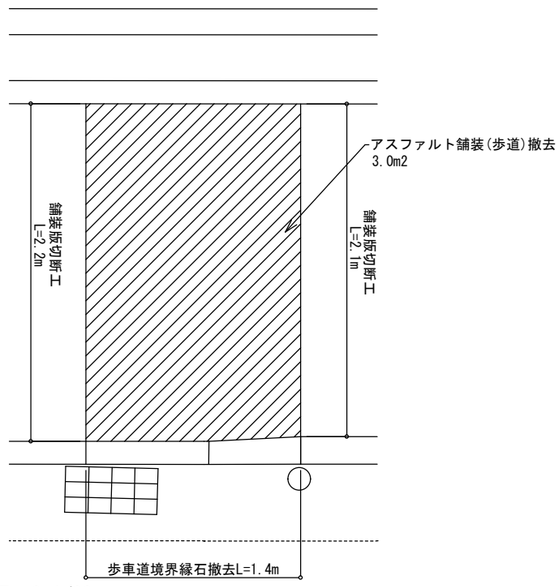
コンクリートタタキ撤去　S=1/10



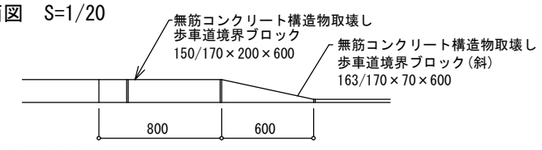
断面図　S=1/10

特記事項
・図は参考図とする。
・撤去作業の際は監督員に確認を得ること。

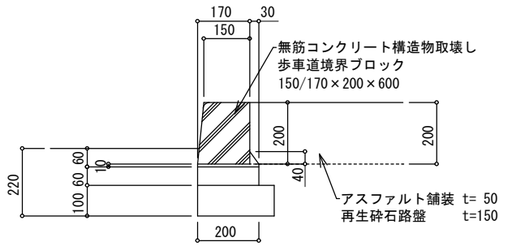
歩道撤去　S=図示

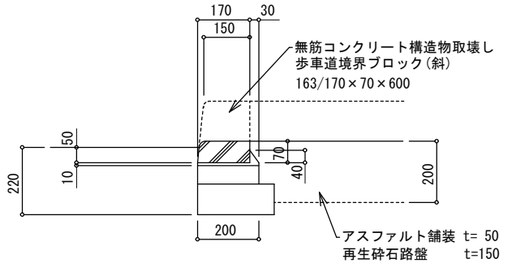


平面図　S=1/20



立面図　S=1/20

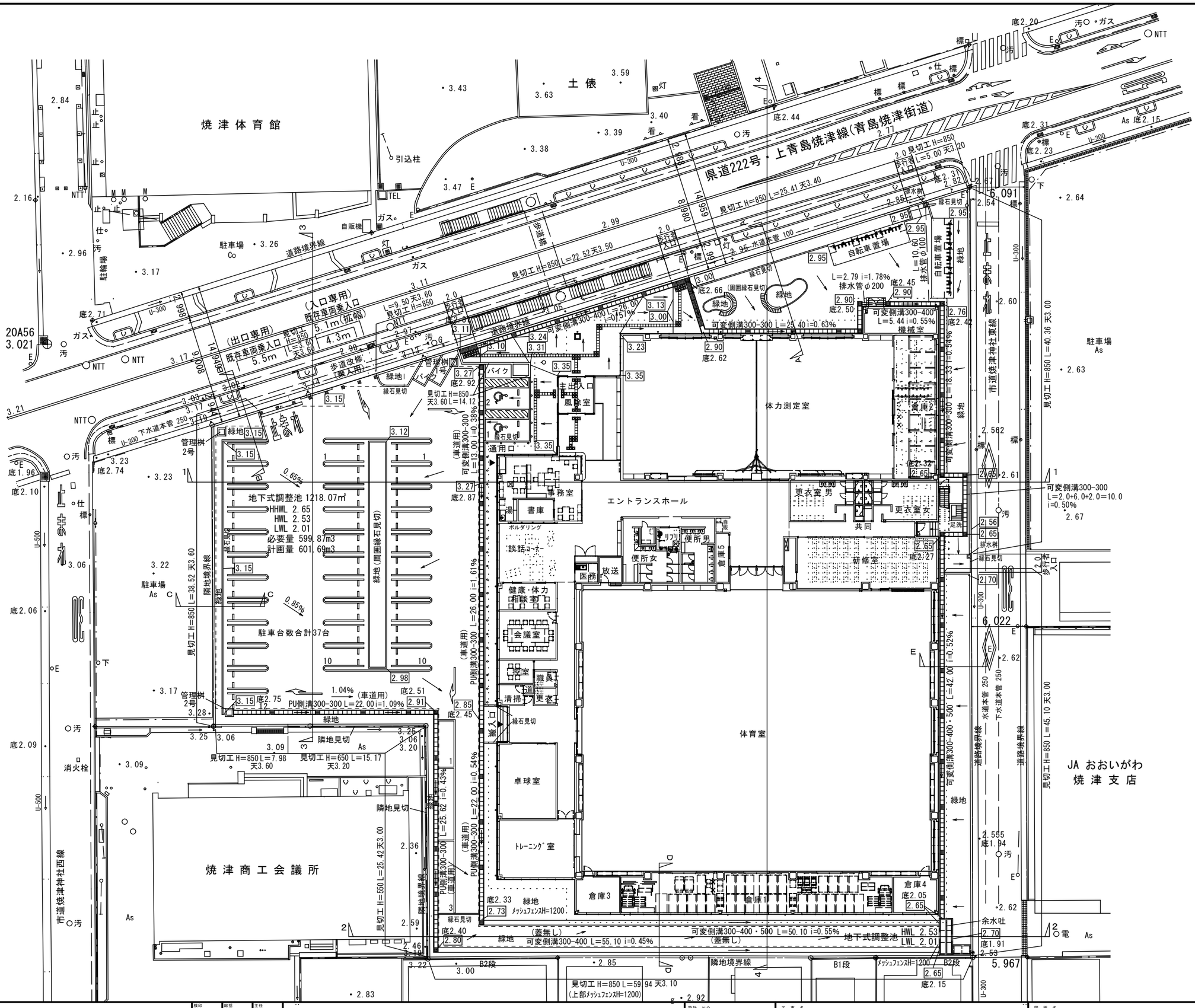




断面図　S=1/10

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和7年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 撤去詳細図-2
	日付 令和7年6月		製図 望月			縮尺 A1：1/10,20 A3：1/20,40

図面NO. C－023



用途	面積	割合
体育館	3029.73 ㎡	56.27 %
自転車置場	16.84 ㎡	0.31 %
駐車場	1187.40 ㎡	22.05 %
通路等	558.34 ㎡	10.37 %
緑地	592.40 ㎡	11.00 %
地下式調整池	(1218.07 ㎡)	
土地利用面積	5384.71 ㎡	100.00 %

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号 大橋康孝

総印	総括	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和7年6月	製図 望月	

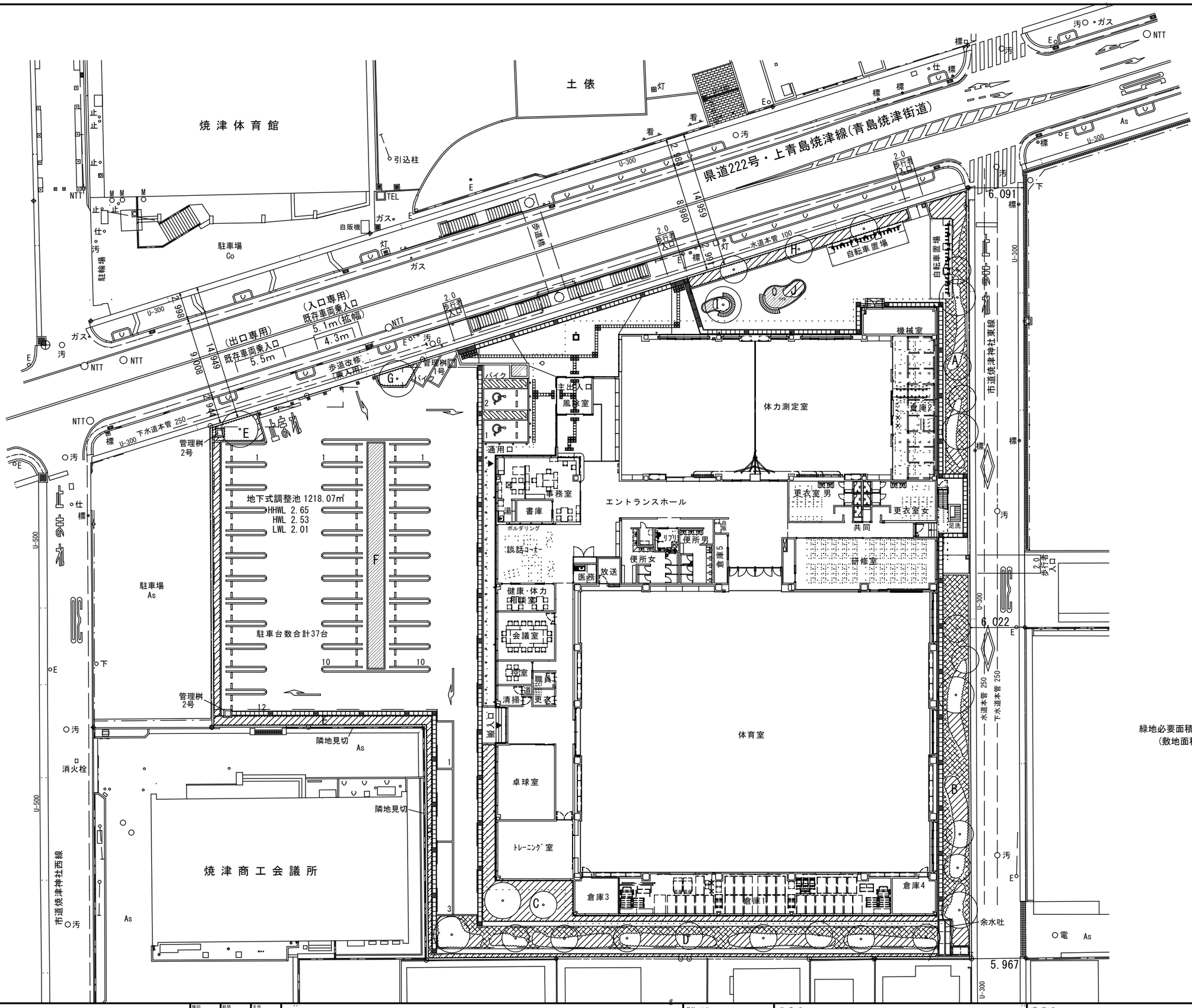
設計 NO.

工事名 令和7年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名 土地利用計画平面図

縮尺 A1：1/200 A3：1/400

図面 NO. C－024



	面　積
A	69.91　m2
B	112.54　m2
C	92.46　m2
D	141.98　m2
E	95.69　m2
F	43.57　m2
G	6.62　m2
H	29.63　m2
I	緑地面積不算入
J	緑地面積不算入
計	592.40　m2

敷地面積：5384.71m2

緑地必要面積：538.47m2 ＜ 緑地計画面積：592.40m2 ・・ ＯＫ
(敷地面積の10%)　　(敷地面積の11.0%)

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.
	日付 令和7年6月		製図 望月	

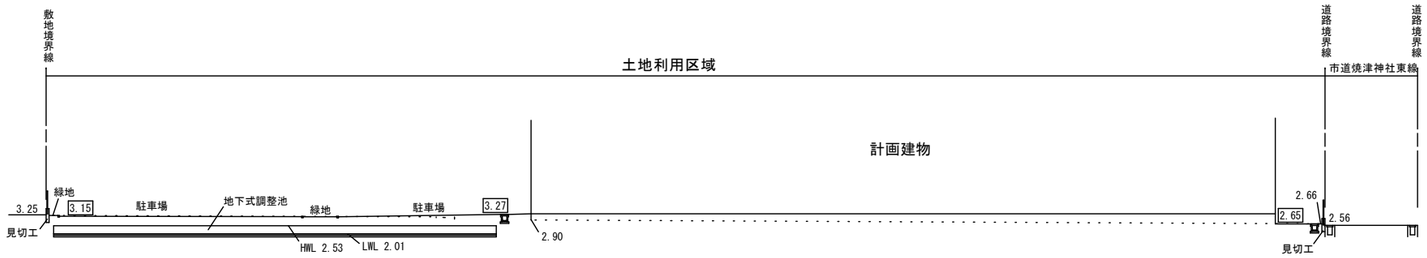
工事名：令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名：緑化計画平面図

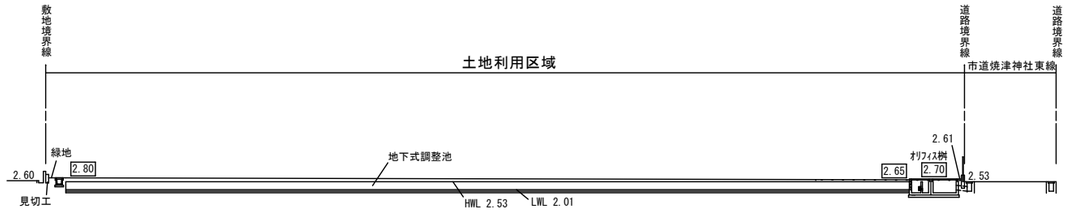
縮尺：A1：1/200　A3：1/400

図面 NO.：C－025

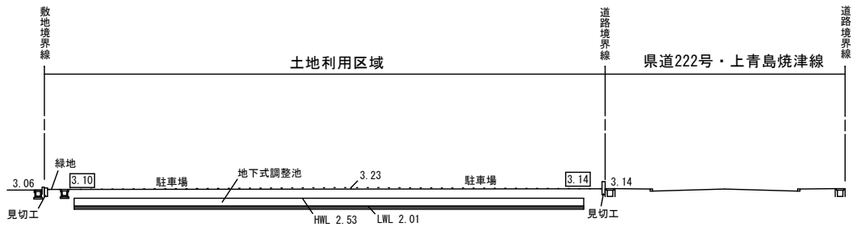
1－1



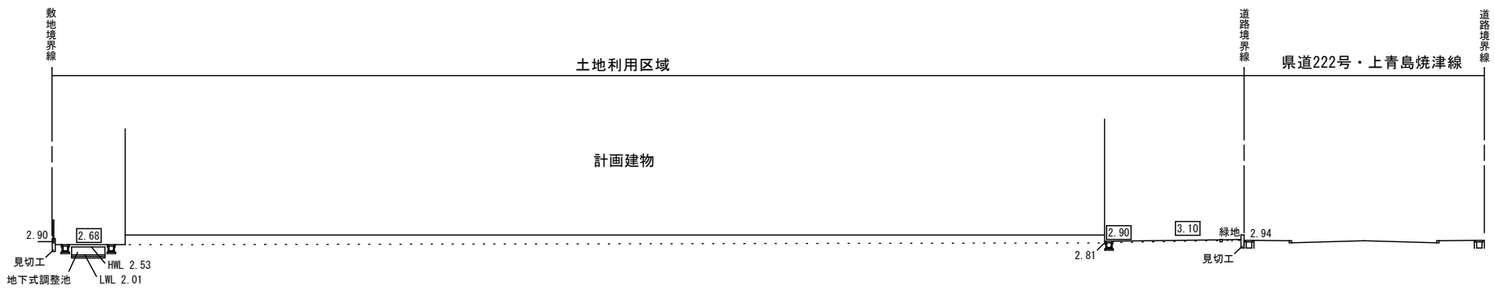
2－2



3－3

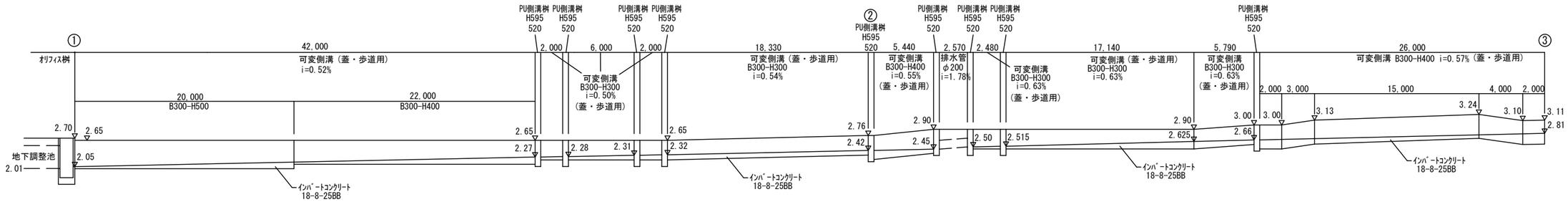


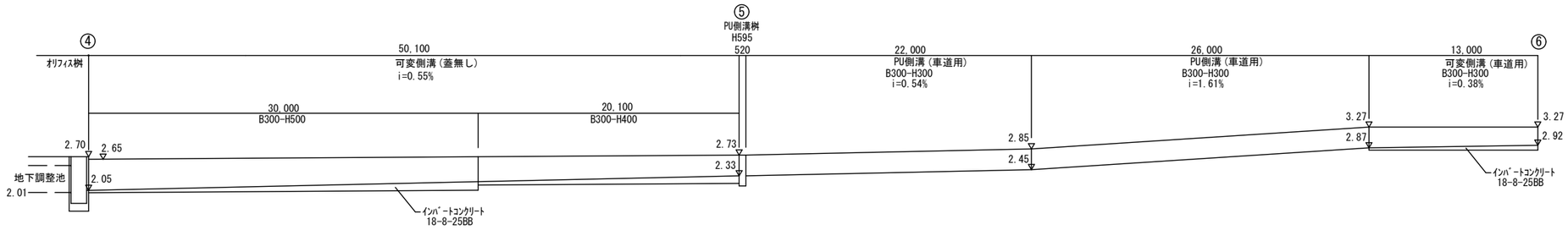
4－4

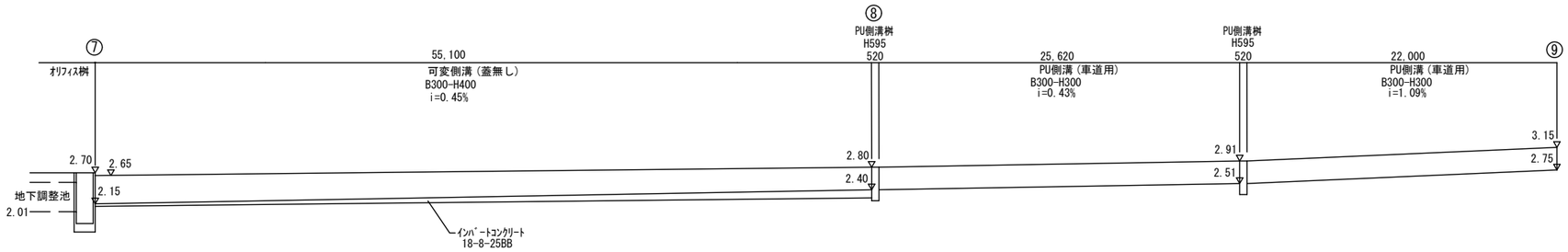


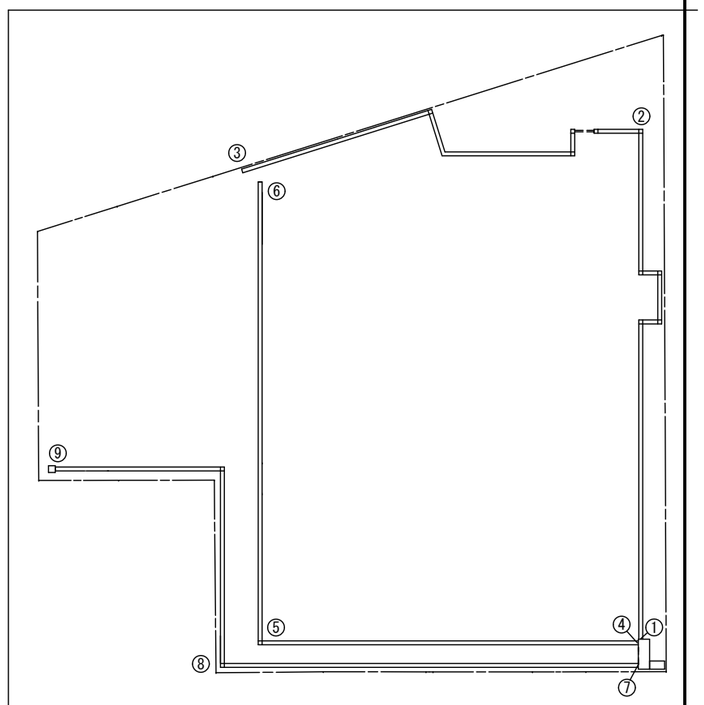
———	計画線
- - - - - - -	現況線
3.00	計画高
3.00	現況高
▭	盛土ヶ所
▭	切土ヶ所

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 造成計画断面図	縮尺 A1：1/200 A3：1/400	図面 NO. C－０２６
	日付 令和７年６月		製図 望月					









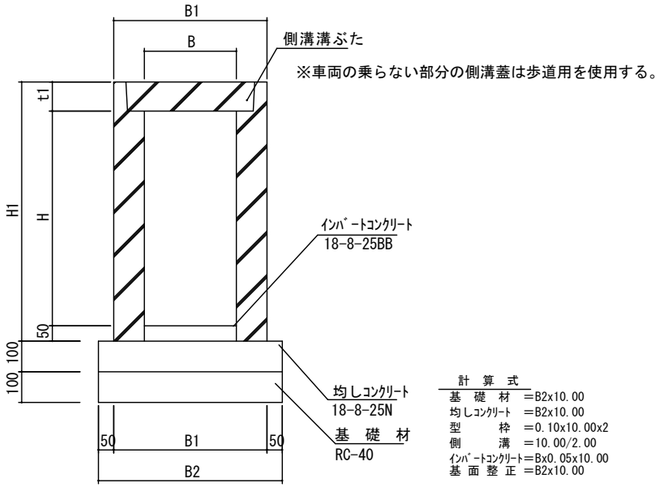
V=1: 50 H=1:200(A1)
V=1:100 H=1:400(A3)

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 外構設備構造図（側溝展開図）
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/50,200 A3：1/100,400

図面 NO. A－０２７

自由勾配側溝標準図

S=1:10(A1)
S=1:20(A3)



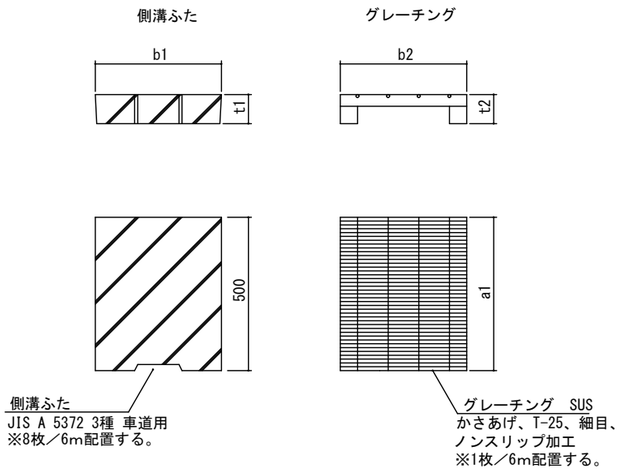
計 算 式	
基 礎 材	=B2x10.00
均しコンクリート	=B2x10.00
型 枠	=0.10x10.00x2
側 溝	=10.00/2.00
インバートコンクリート	=Bx0.05x10.00
基 面 整 正	=B2x10.00

自由勾配側溝 標準,3種 寸法表

	名 称	H	H 1	B	B 1	B 2	t 1	摘 要
3-1 ●	B300-H 300	300	445	300	520	620	95	参考質量 340kg
3-2,3 ●	B300-H 400	400	545	300	520	620	95	参考質量 400kg
3-4,5 ●	B300-H 500	500	645	300	520	620	95	参考質量 450kg
	B300-H 600	600	745	300	520	620	95	参考質量 510kg
	B300-H 700	700	845	300	520	620	95	参考質量 570kg
	B300-H 800	800	945	300	520	620	95	参考質量 630kg
	B300-H 900	900	1045	300	520	620	95	参考質量 750kg
	B300-H1000	1000	1145	300	520	620	95	参考質量 820kg

※ ●印は、本設計で使用する。

車道用側溝蓋



側溝ふた 寸法表　　単位：mm

	名 称	b1	t 1	摘 要
	PC4-B250	362	90	参考質量 37kg、JIS呼び250
●	PC4-B300	412	95	参考質量 45kg、JIS呼び300
	PC4-B400	512	110	参考質量 66kg、JIS呼び400
	PC4-B500	622	125	参考質量 91kg、JIS呼び500

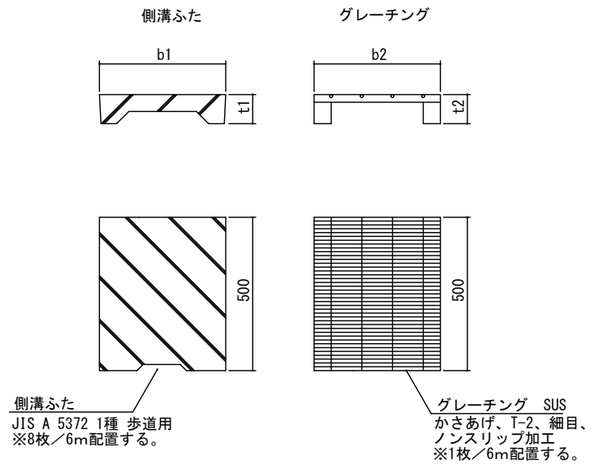
※ ●印は、本設計で使用する。

グレーチング 寸法表　　単位：mm

	名 称	a1	b2	t 2	摘 要
	B250-L500-H90	494	360	90	参考質量 18.6kg
●	B300-L500-H95	500	410	95	参考質量 21.4kg
	B400-L500-H110	501	510	110	参考質量 40.7kg
	B500-L500-H125	501	620	125	参考質量 52.8kg

※ ●印は、本設計で使用する。

歩道用側溝蓋



側溝ふた 寸法表　　単位：mm

	名 称	b1	t 1	摘 要
	PC3-B250	362	90	参考質量 27kg、JIS呼び250
●	PC3-B300	412	95	参考質量 35kg、JIS呼び300
	PC3-B400	512	110	参考質量 47kg、JIS呼び400
	PC3-B500	622	125	参考質量 65kg、JIS呼び500

※ ●印は、本設計で使用する。

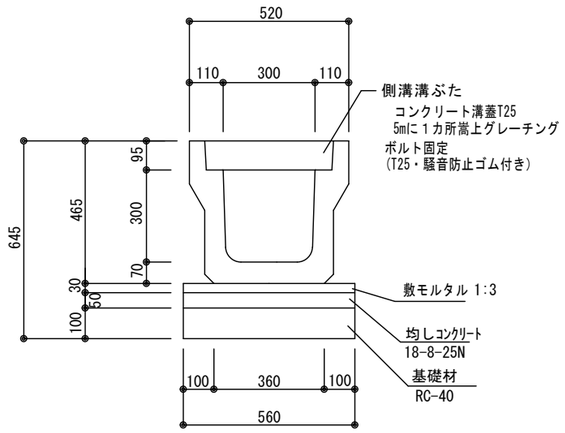
グレーチング 寸法表　　単位：mm

	名 称	b2	t 2	摘 要
	B250-L500-H90	360	90	参考質量 12.1kg
●	B300-L500-H95	410	95	参考質量 15.4kg
	B400-L500-H110	510	110	参考質量 18.6kg
	B500-L500-H125	620	125	参考質量 23.5kg

※ ●印は、本設計で使用する。

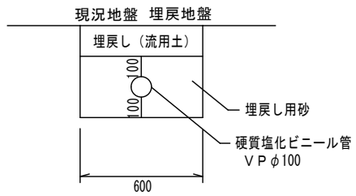
3-6 ＰＵ側溝（3種）300×300

S=1:10(A1)
S=1:20(A3)



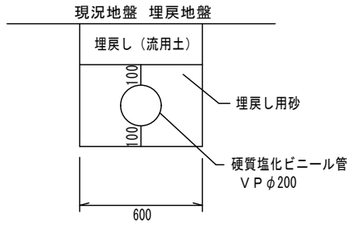
4-2 排水管φ100

S=1:15(A1)
S=1:30(A3)



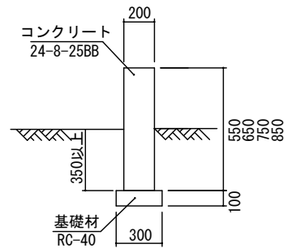
4-1 排水管φ200

S=1:15(A1)
S=1:30(A3)



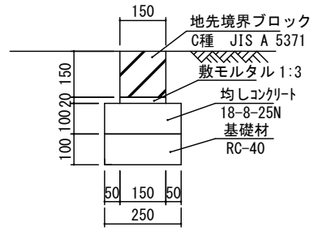
見切工（標準図）

S=1:20(A1)
S=1:40(A3)



地先境界ブロック

S=1:10(A1)
S=1:20(A3)



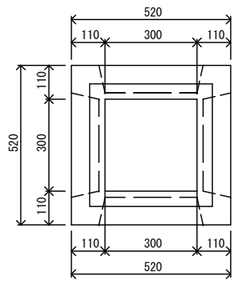
※曲線部には曲線用ブロックを用いること。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 外構施設構造図(側溝・見切工)	図面 NO. C－０２８
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/10,20 A3：1/20,40	

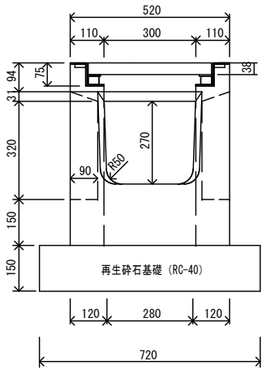
PU側溝桝（110° 開閉型ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ） 1型 300A

S=1:10(A1)
S=1:20(A3)

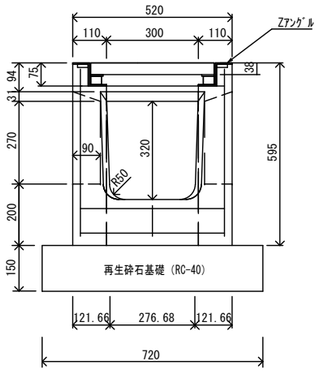
平面図



正面図

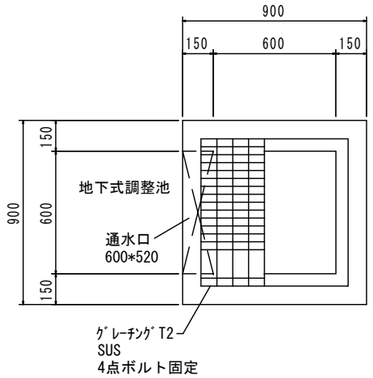


側面図

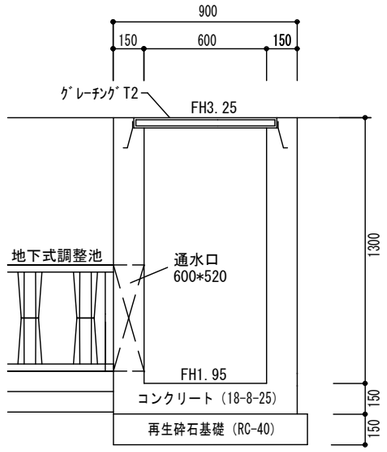


管理桝

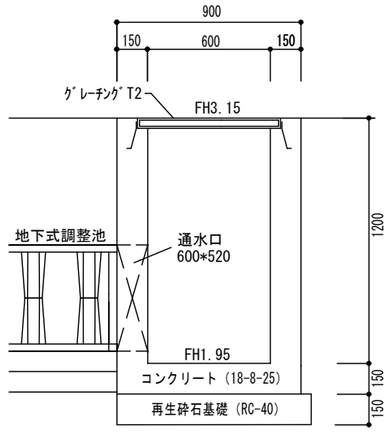
S=1:15(A1)
S=1:30(A3)



1号

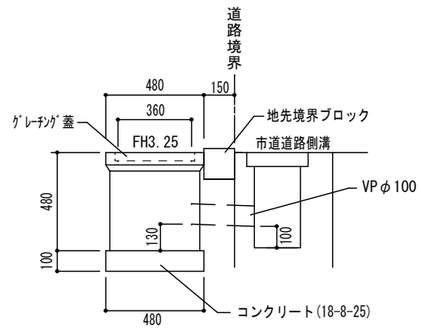


2号



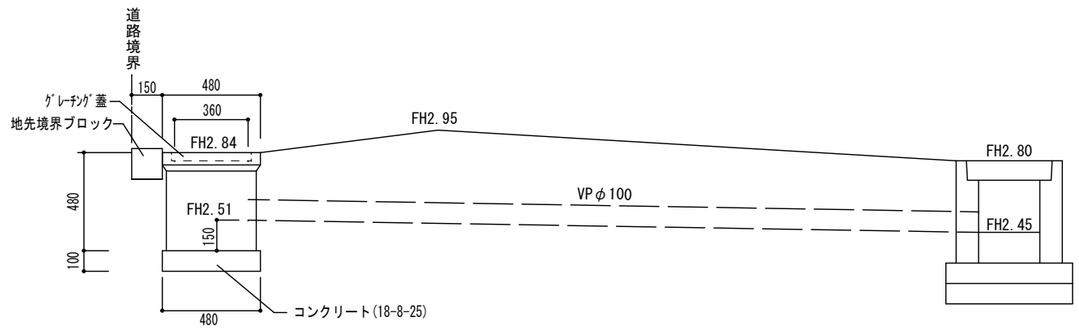
排水桝(東側歩行者入口)

S=1:15(A1)
S=1:30(A3)



排水桝(北東側歩行者入口)

S=1:15(A1)
S=1:30(A3)

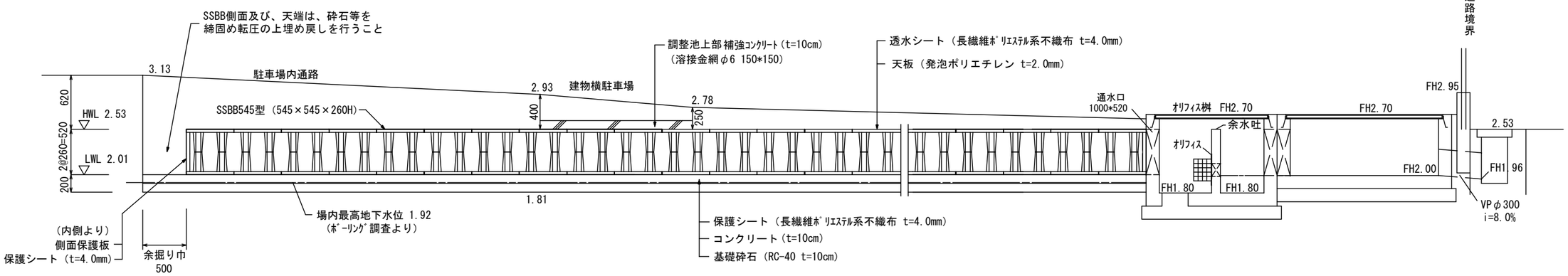


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 外構施設構造図(集水桝) 縮尺 A1：1/10,15 A3：1/20,30
	日付 令和７年６月		製図 望月			図面 NO. C－０２９

※必要最低土被り：0.4m(活荷重T6)
(車載箇所で土被り0.4m以下はｺﾝｸﾘｰﾄにて補強)

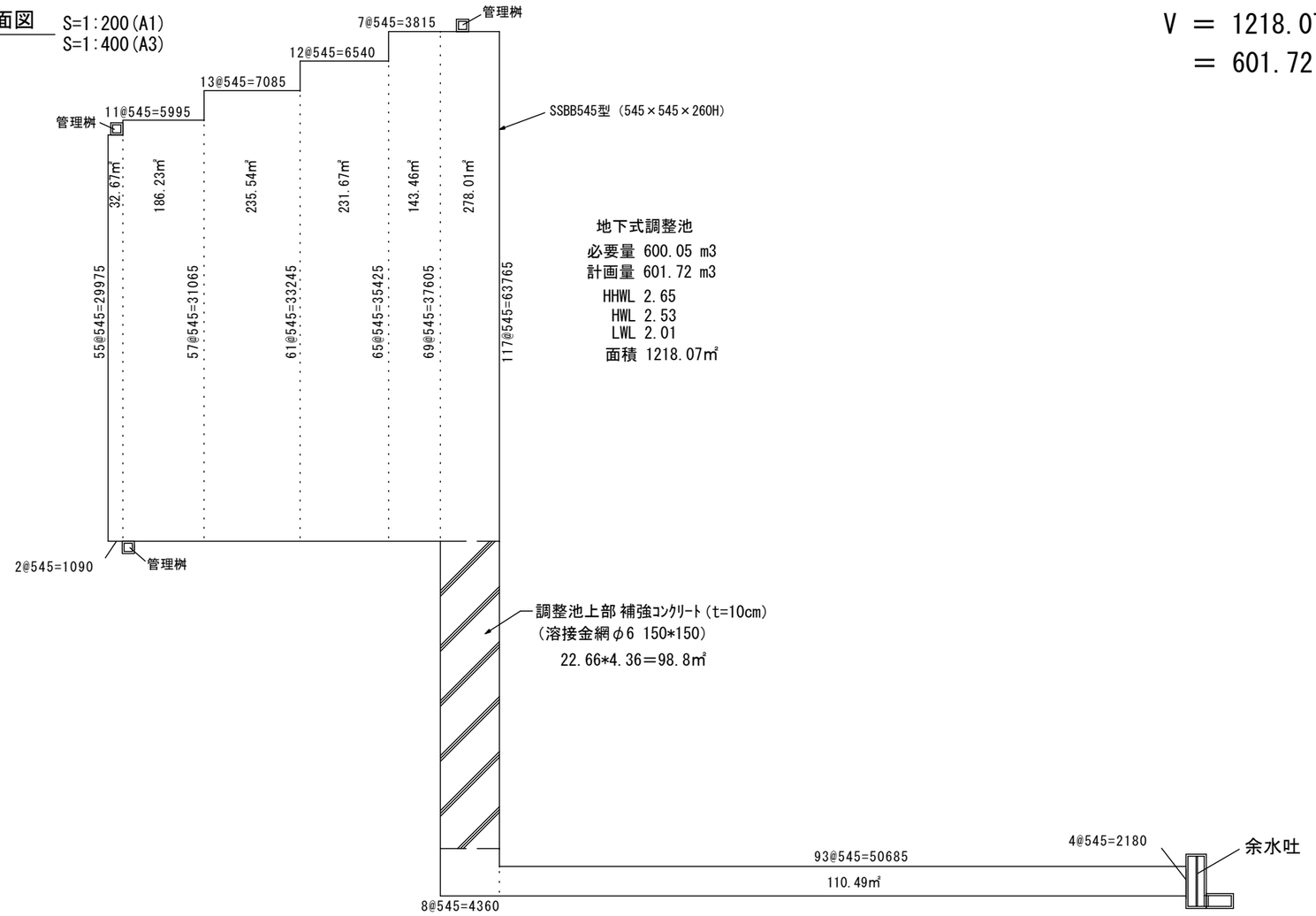
断面図

S=1:25(A1)
S=1:50(A3)



平面図

S=1:200(A1)
S=1:400(A3)



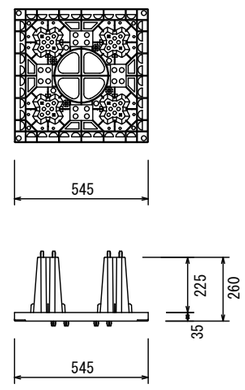
【貯留容量計算】

V ＝ 1218.07㎡(調整池面積)×0.52(調整池高さ)×0.95(空隙率)
＝ 601.72 m3 ＞ 600.05 m3(必要調整量)

(熱可塑性ポリプロピレン樹脂製品)

SSBB545型詳細図

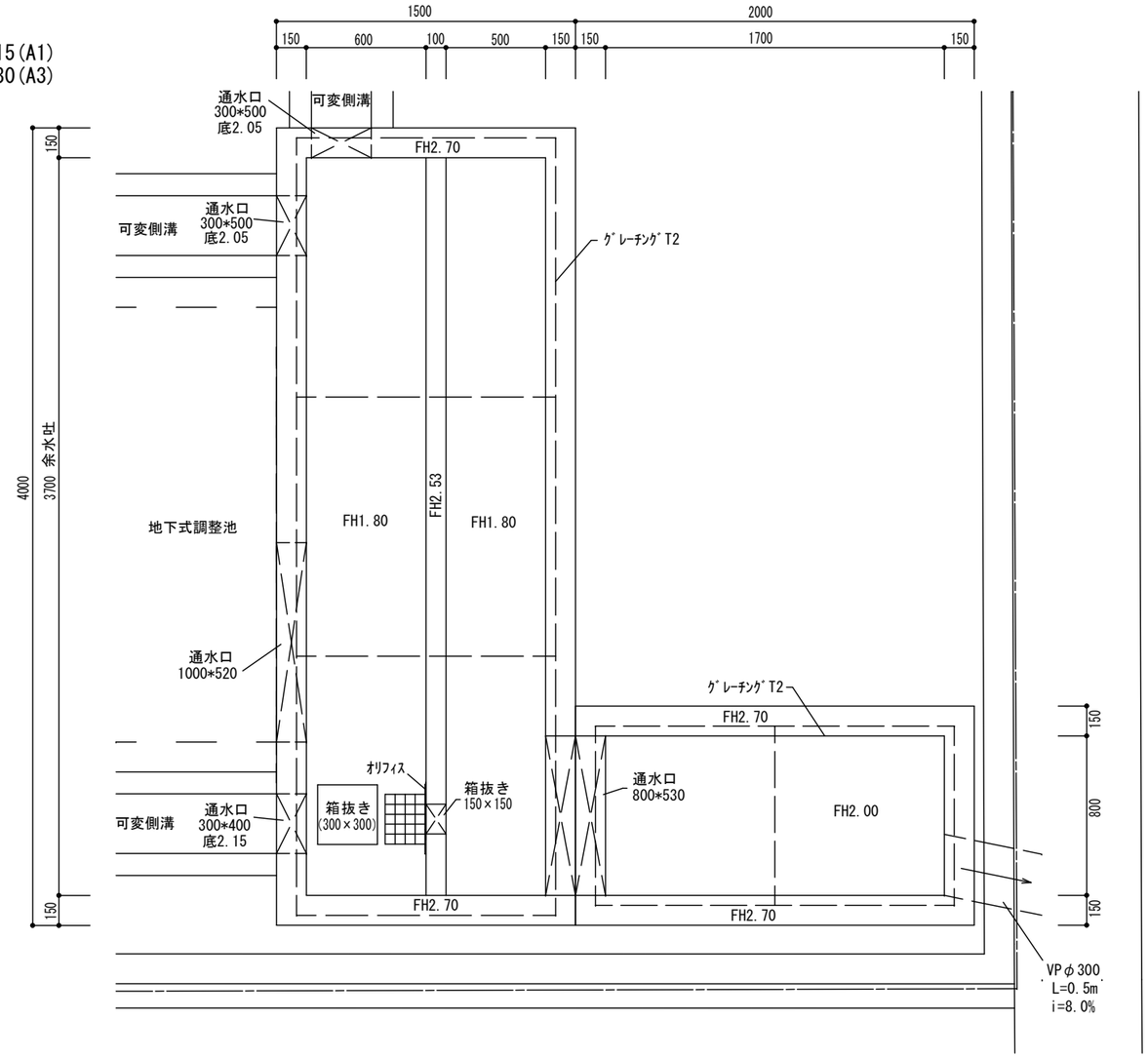
S=1:12.5(A1)
S=1:25(A3)



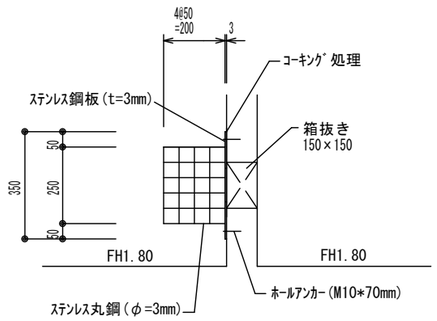
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	部長 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 防災施設構造図(地下式調整池)	図面NO. C－030
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 図示	

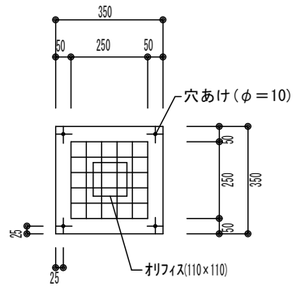
余水吐

平面図 S=1:15(A1) S=1:30(A3)

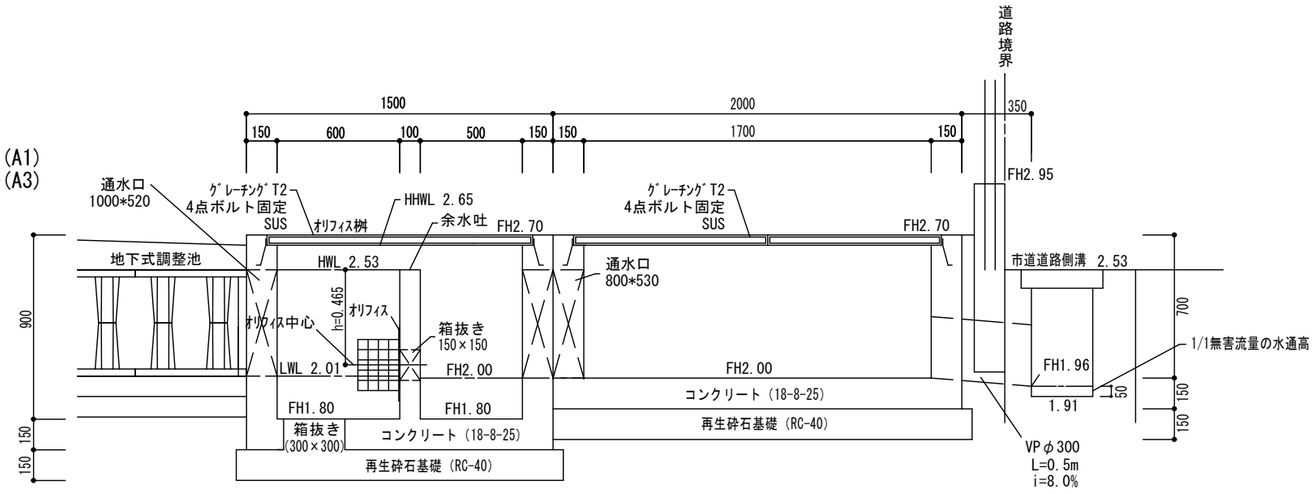


オリフィス詳細図 S=1:10(A1) S=1:20(A3)





断面図 S=1:15(A1) S=1:30(A3)



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 防災施設構造図(余水吐・管理桝)
	日付 令和７年６月	製図 望月				縮尺 A1：1/15,10 A3：1/30,20

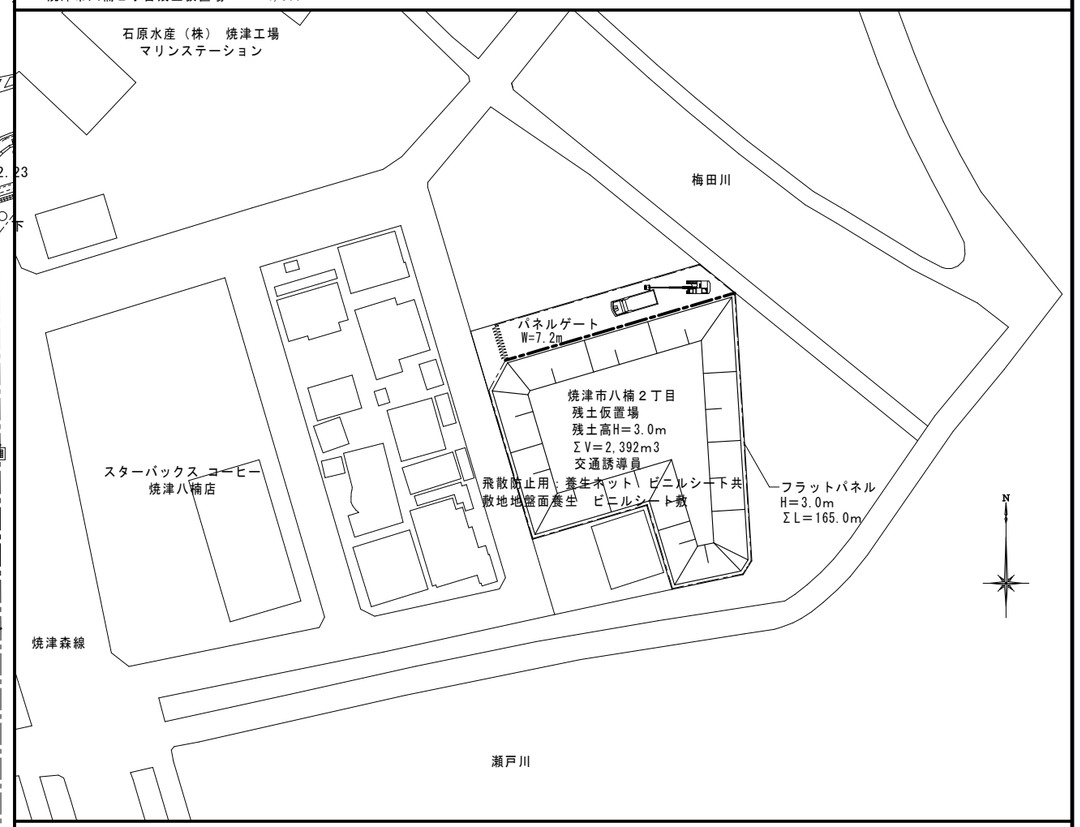
図面NO. C－031

青島焼津街道

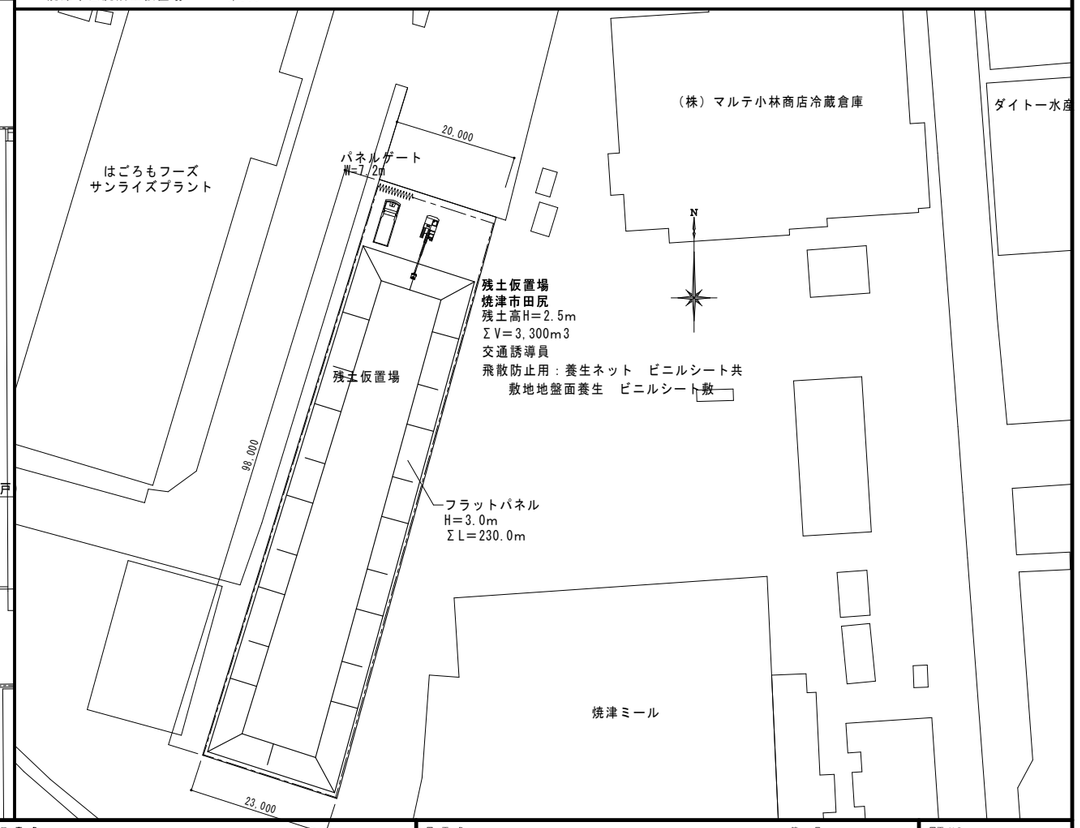
焼津商工会議所

表層改良範囲外周に固化材飛散防止養生をすること。
固化材飛散防止養生：楔緊結足場W600　H3.6m　30日
養生シート張り　防炎Ⅰ類　運搬共　873㎡

焼津市八楠２丁目残土仮置場　1/500

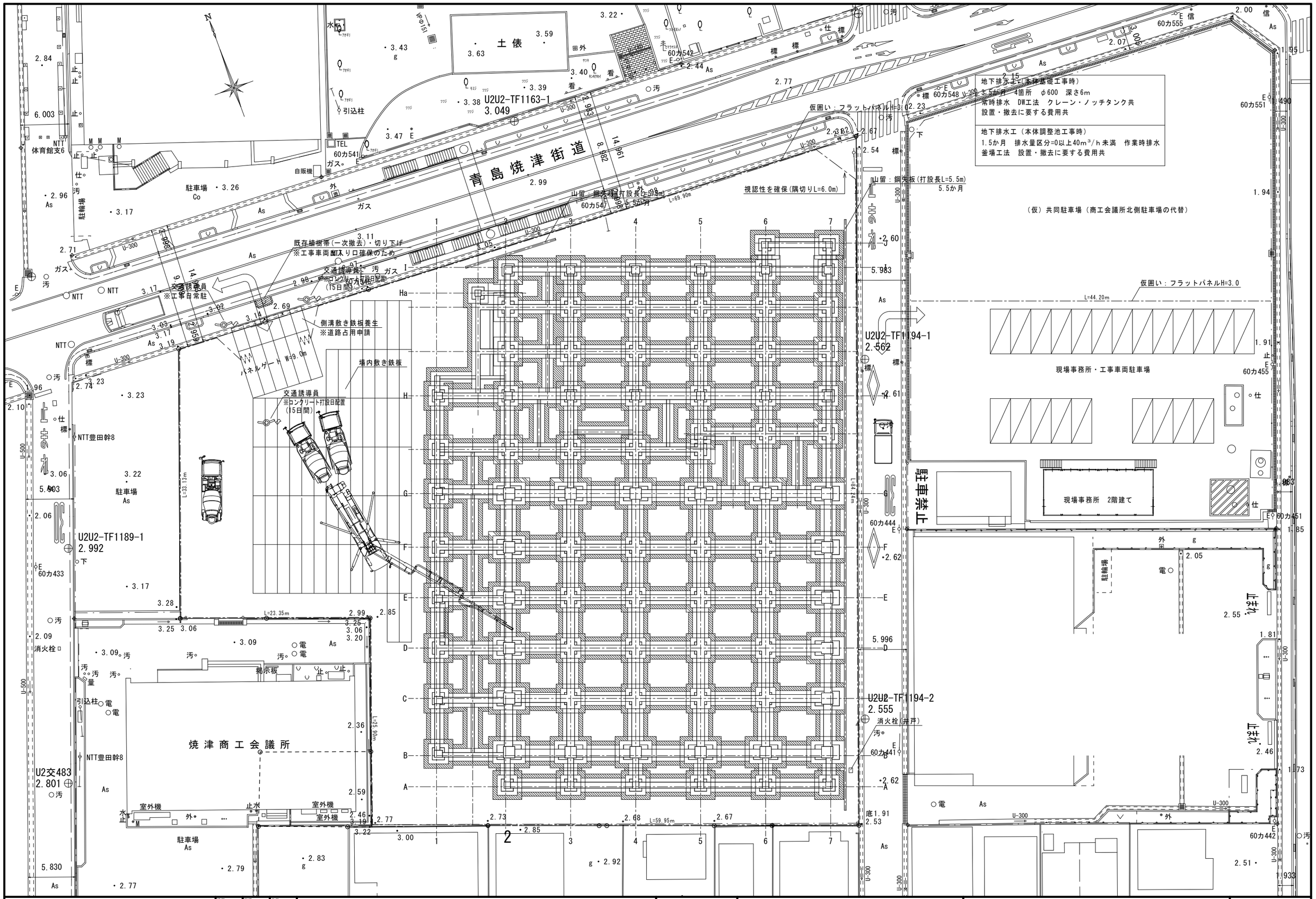


焼津市田尻残土仮置場　1/500

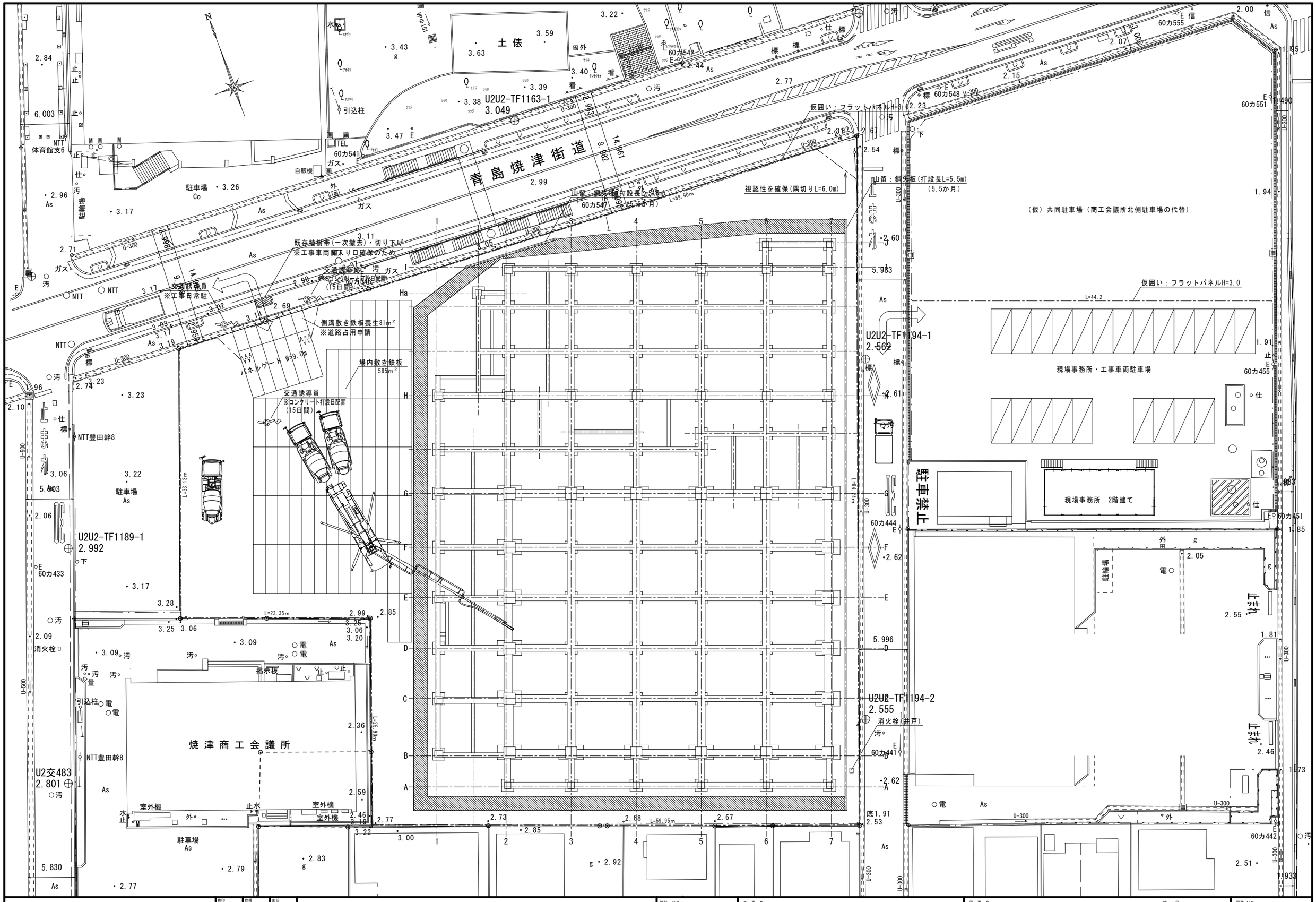


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	組織 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 仮設計画図1（杭工事準備表層改良範囲）（残土仮置場）
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/200 A3：1/400

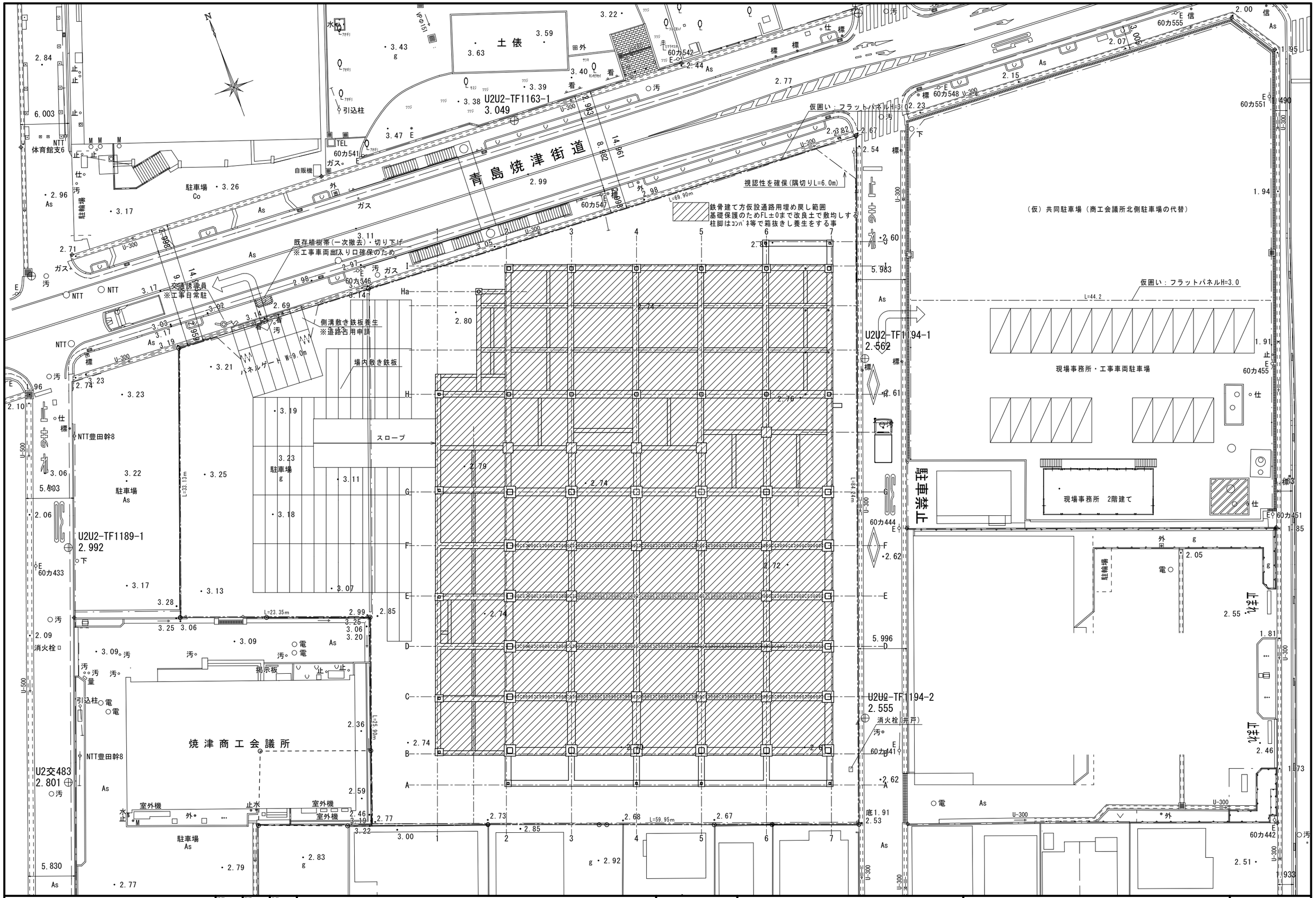
図面NO. K－００１



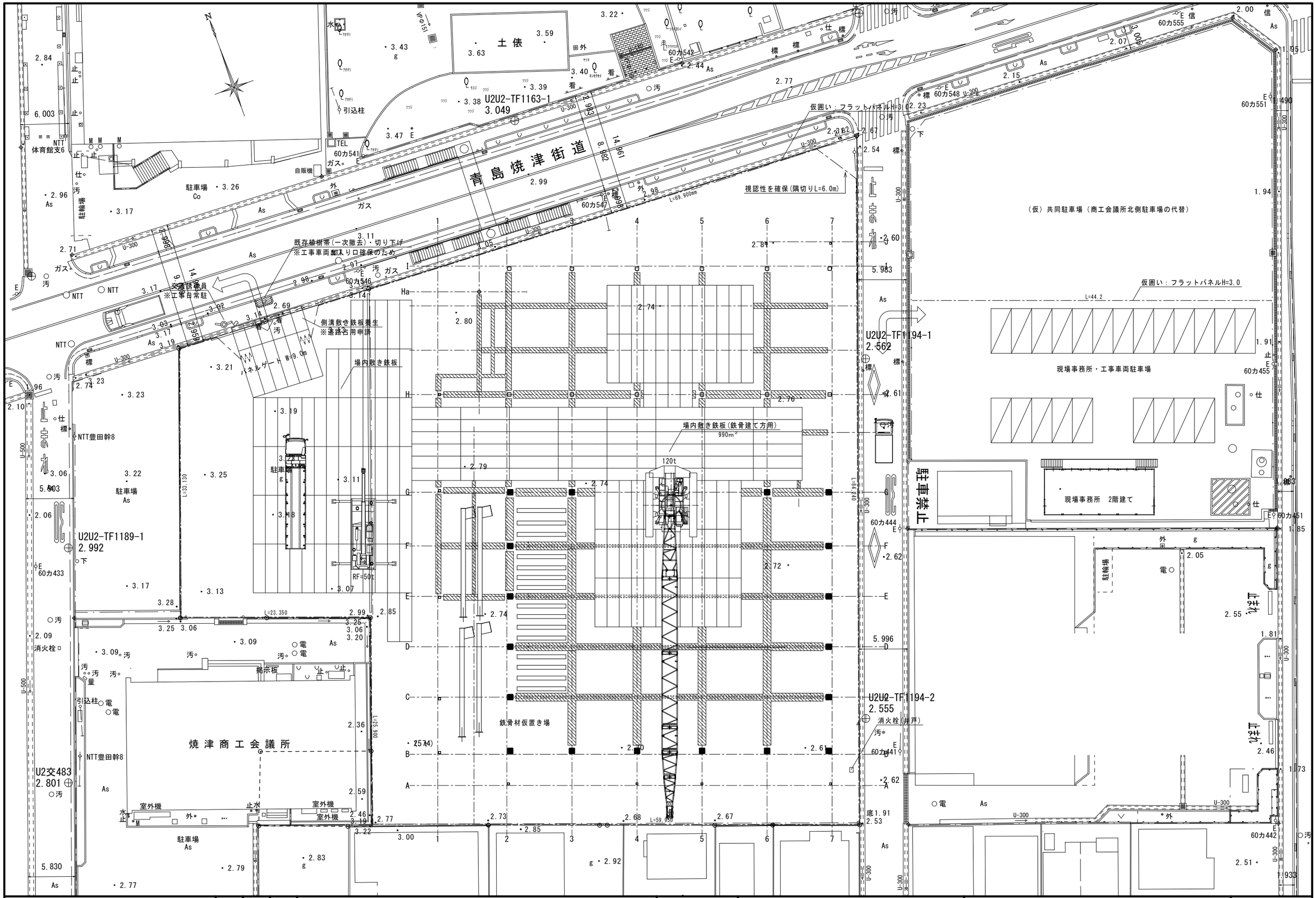
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 仮設計画図2（基礎工事）　縮尺	図面 NO. K－002
	日付 令和７年６月		製図 望月				



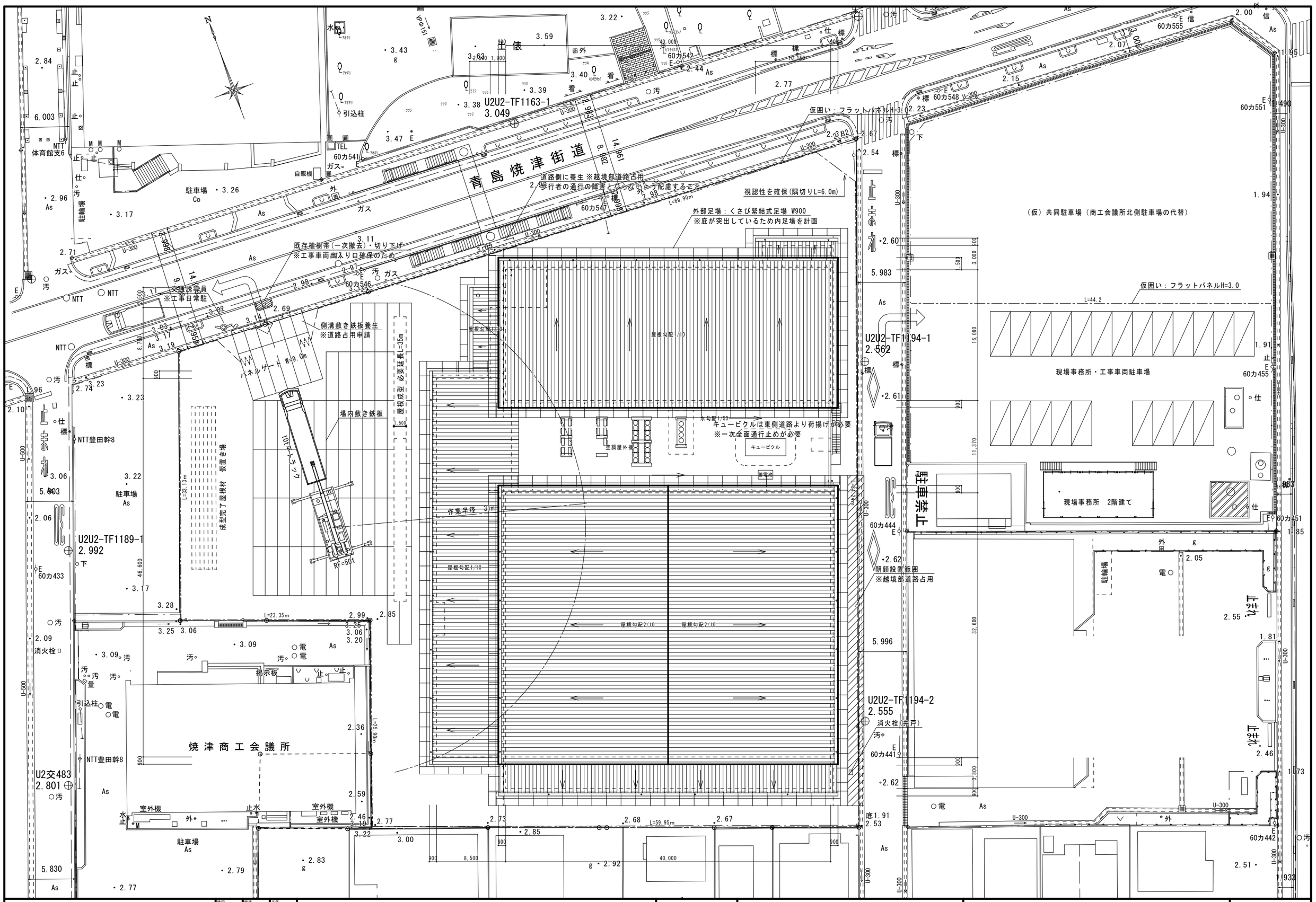
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	監督 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 仮設計画図3（基礎工事）	図面 NO. K－００３
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/200 A3：1/400	



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名　縮尺 仮設計画図4（鉄骨建て方時　通路用埋戻し範囲図）	図面 NO. K－004
	日付 令和７年６月		製図 望月				



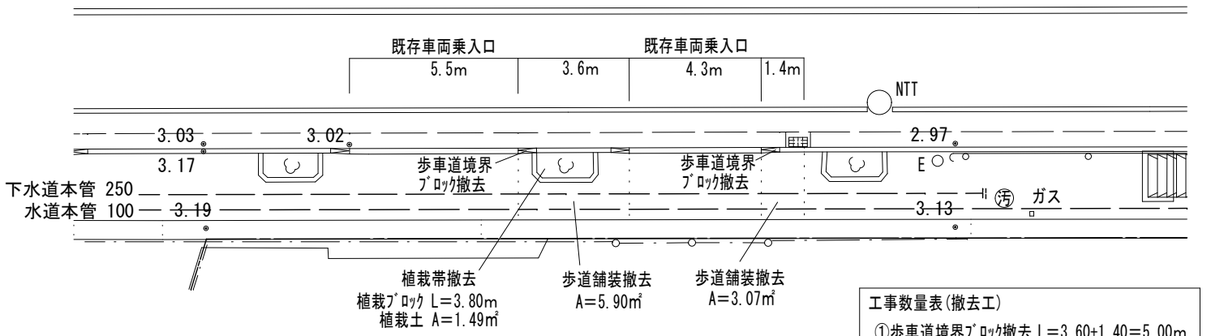
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）	図面名 仮設計画図5（鉄骨工事）	図面NO. K－005
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/200 A3：1/400	



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	監督 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 仮設計画図6（屋根工事）	図面NO. K－006
	日付 令和７年６月		製図 望月			縮尺 A1：1/200 A3：1/400	

平面図 S=1:200

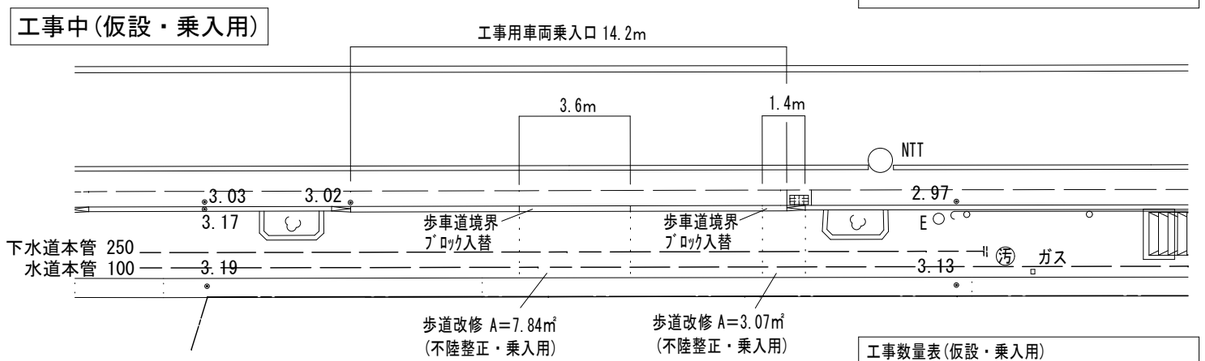
現況(撤去工事)



工事数量表(撤去工)

①歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ撤去 L=3.60+1.40=5.00m
②歩道舗装撤去 A=5.90+3.07=8.97㎡ (T300)
③植栽ﾌﾞﾛｯｸ撤去 L=3.80m
④植栽土撤去 A=1.49㎡(T300)
⑤街路樹撤去(1本・伐根含む)

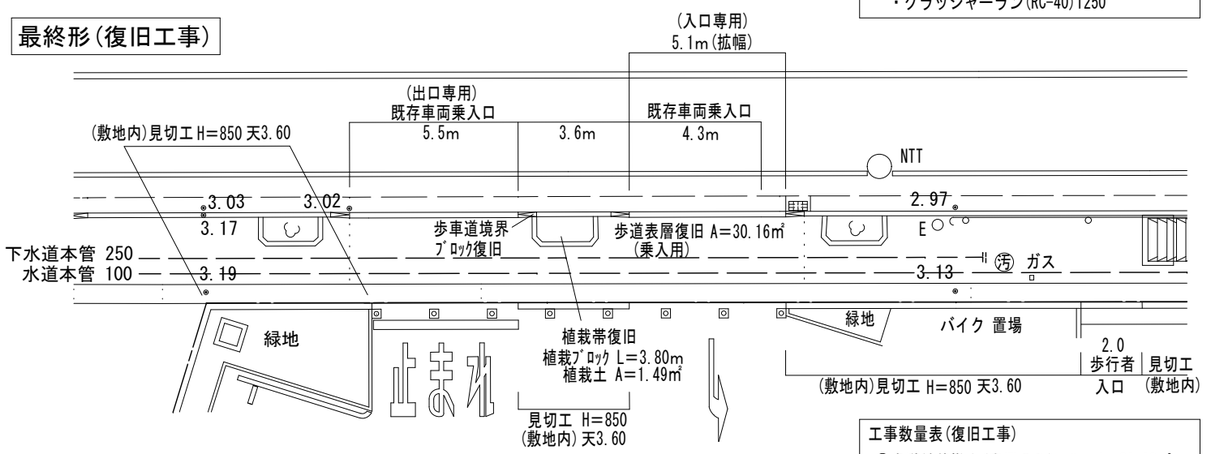
工事中(仮設・乗入用)



工事数量表(仮設・乗入用)

①歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ設置 L=3.60+1.40=5.00m
(B種 0.60m・C種 4.40m)
②歩道舗装(乗入用) A=7.84+3.07=10.91㎡
・密粒アスコン(TOP20) T50
・クラッシャーラン(RC-40)T250

最終形(復旧工事)

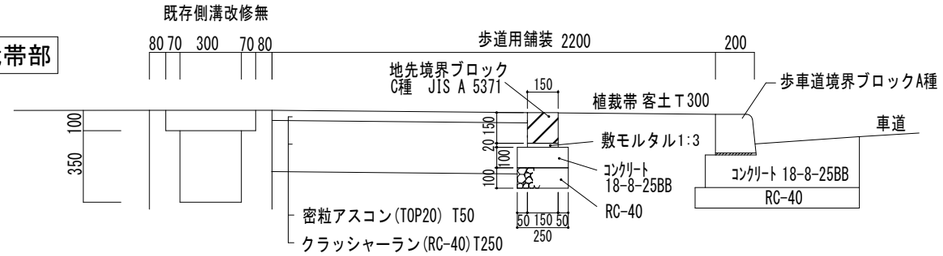


工事数量表(復旧工事)

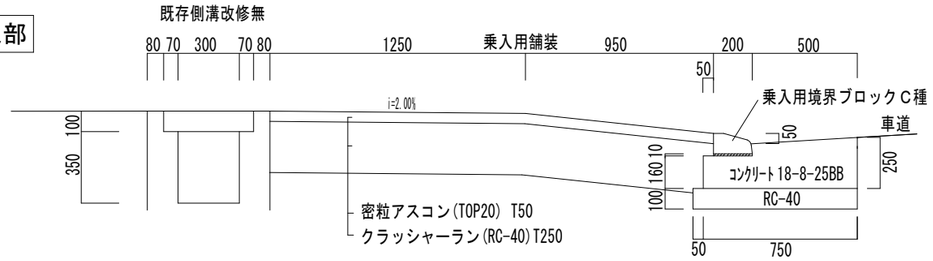
①歩道舗装撤去(表層のみ)T50 A=32.20㎡
②歩道舗装(乗入用・表層のみ) A=30.16㎡
・密粒アスコン(TOP20) T50
③歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ設置 L=3.60m
(A種 2.40m・B種 1.20m)
④植栽ﾌﾞﾛｯｸ設置 L=3.80m
⑤植栽土設置 A=1.49㎡(T300)
⑥低木植樹(ｻﾂｷﾂﾂｼﾞ等・5本)

横断図 S=1:30

植栽帯部

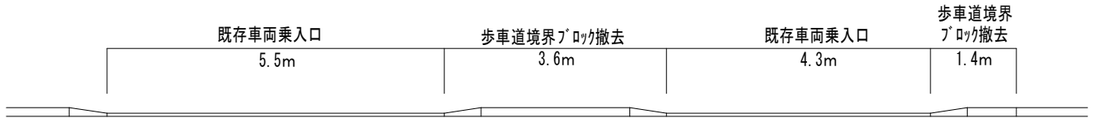


乗入部

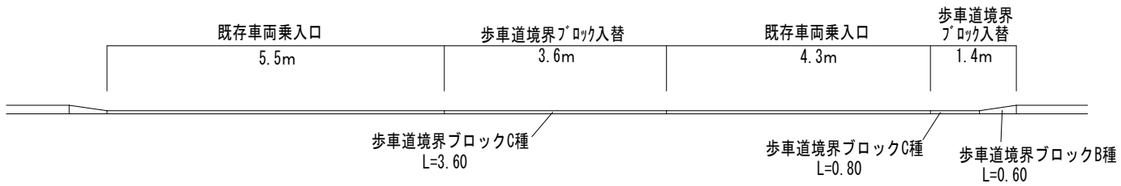


縦断図 S=1:100

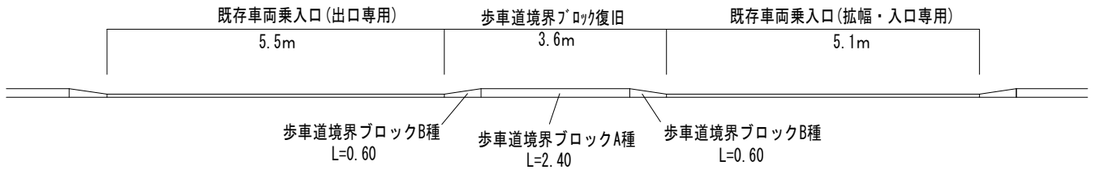
現況(撤去工事)



工事中(仮設・乗入用)

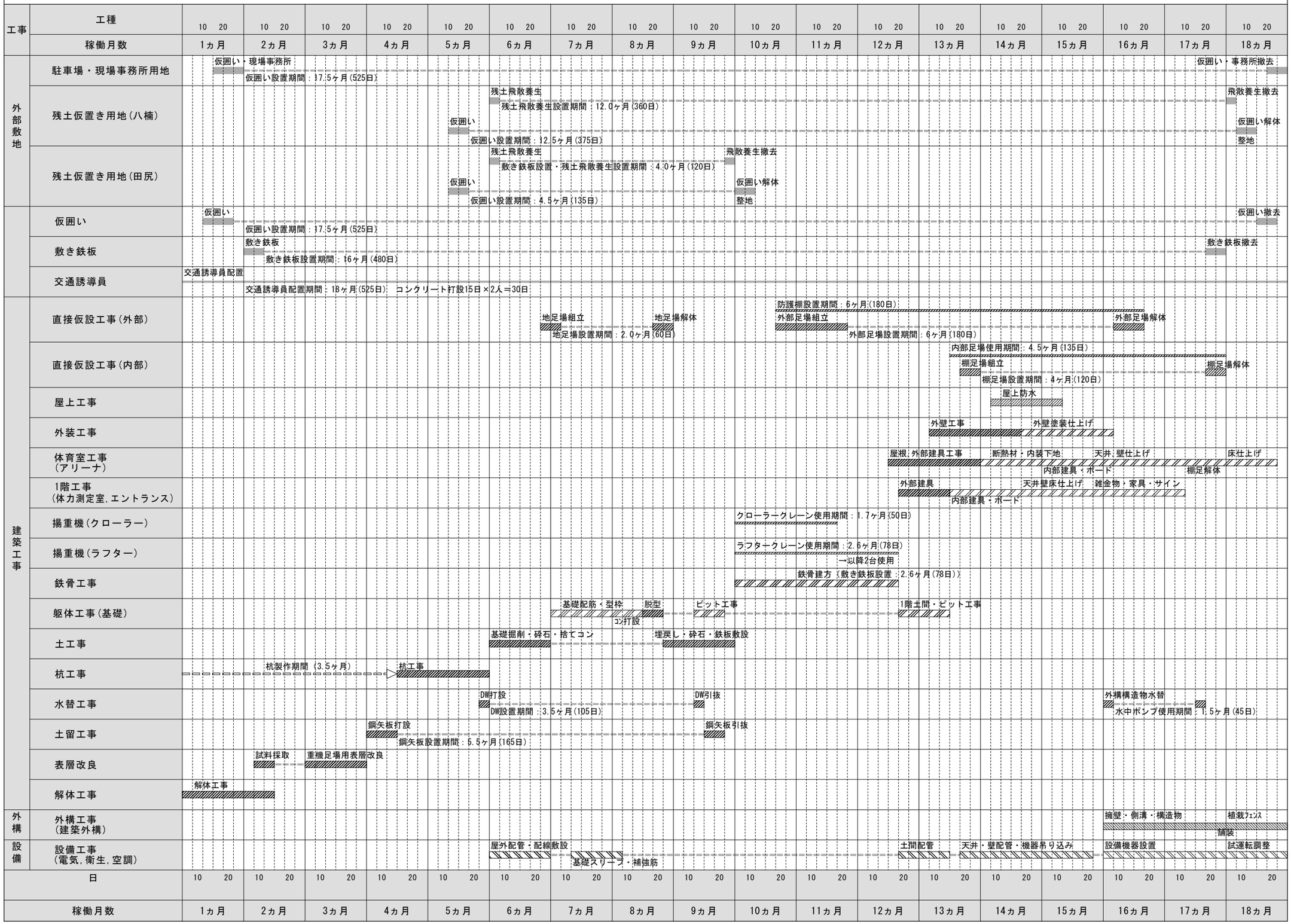


最終形(復旧工事)



焼津体育館建設工事　概略工程表

※工期について、以下を見込み19.5か月とする
準備工期間（1.0か月）
法定検査、完成図書整理期間（0.5か月）



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 / 総括 / 主任 / 日付 令和７年６月 / 製図	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 概略工程表　縮尺	図面 NO. K－００８

構 造 設 計 特 記 仕 様 書

※1　構造設計図に記載された事項は本仕様書に優先して適用する。
※2　当仕様書に記載無き事項は、建築工事共通仕様書(令和 4 年版)による。

1．建築概要・構造設計条件・地盤・地業工事

（1）建物概要・構造設計条件

※記入なき場合は別資料参照

建築物の所在地	焼津市焼津四丁目15-12の一部,15-13,15-14	計算ルート	
建築物の名称	焼津体育館	X方向	□ 1－(1)
及び用途	体育館又はスポーツの練習場		□ 2－(＊)
建築面積	3,029.72 m²		☑ 3
延べ面積	2,961.31 m²		
高さ	1 最高の高さ 17.99 m	Y方向	□ 1－(1)
	2 最高の軒の高さ 13.44 m		□ 2－(＊)
階数	地上 1 階 地下 階		☑ 3
構造	鉄骨 造 一部 造		

	部位	床用	小梁用	梁・柱用	地震用	部位	床用	小梁用	梁・柱用	地震用
積載荷重 (N/m²)	屋根	300	300	200	100	エントランス	3, 500	3, 500	3, 200	2, 100
	陸屋根	900	900	650	500	会議室・研修室	3, 500	3, 500	3, 200	2, 100
	体育室	3, 500	3, 500	3, 200	2, 100	体力測定室	3, 500	3, 500	3, 200	2, 100
	倉庫	3, 900	3, 900	2, 900	2, 000	卓球室	3, 500	3, 500	3, 200	2, 100

地震力	地震地域係数Z（Zs）	☑ 1.2
	用途係数 I	□ 1.0　☑ 1.25
	標準せん断力係数 C_0	☑ 0.2　□ 0.3
風圧力	地表面粗度区分	□ Ⅰ　□ Ⅱ　☑ Ⅲ　□ Ⅳ
	国土交通大臣が定める風速	V_0 = 32 m/S
	速度圧	q = 1,075 N/m²
積雪荷重	垂直最深積雪量	31 cm　単位重量 20 N/(m²・cm)
	積雪荷重の割り増し係数	特定緩勾配屋根部分　☑ 有（α = 1.032）　□ 無

（2）地業工事

支持地盤	☑ GL － 19.45 m 細砂 層（N = 17） □ 摩擦杭 GL- m ～ - mの地層の摩擦力により支持させる。
□ 直接基礎	長期地耐力 Lqa = kN/m²（ 短期地耐力 sqa = kN/m² ） □ 独立基礎　□ 布基礎　□ ベタ基礎　GL － m 載荷試験　□ 有　☑ 無
□ 地盤改良	□ 柱状改良　□ 表層改良　設計基準強度 Fc = ** kN/m² ※ 詳細は別図参照
☑ 杭基礎	長期杭耐力 LRa = 1,150 1,450 kN/本 ☑ PHC杭　□ 鋼管杭　□ CPRC杭　□ 現場打杭 □ その他 ※ 詳細は別図参照
□ その他	

（3）地質調査結果

※記入なき場合は別資料参照

深度	土質	N値	標準貫入試験 10 20 30 40 50 60	設計GL
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				

2．鉄筋コンクリート工事

（1）コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc	品質基準強度 Fq	調合管理強度 Fm	スランプ
捨てコンクリート	☑普通	18 N/mm²	18 N/mm²	18 N/mm²	18 cm
基礎、基礎梁	☑普通	24 N/mm²	max(Fc,Fd)	Fq+ 28S91	15 cm
柱・梁・床・壁	☑普通、□軽量	24 N/mm²	max(Fc,Fd)	Fq+ 28S91	15 cm
デッキ上コン	☑普通、□軽量	24 N/mm²	max(Fc,Fd)	Fq+ 28S91	15 cm
押えコンクリート					

耐久設計基準強度 Fd(N/mm²)	□短期=18N/mm²　☑標準=24N/mm²　□長期=30N/mm²　□超長期=36N/mm²
構造体強度補正値 28S91 の標準値(N/mm²) 注：日平均気温の平年値が25℃を超える場合は28S91 = 6N/mm²とする。	θ：ｺﾝｸﾘｰﾄの打ち込みから28日までの期間の予想平均気温(℃) 早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ　5≦θ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ　8≦θ 混合セメントＡ種　8≦θ 中庸熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ　11≦θ 低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ　14≦θ 高炉ｾﾒﾝﾄＢ種　13≦θ → 28S91 = 3 0≦θ＜5 0≦θ＜8 0≦θ＜8 0≦θ＜11 0≦θ＜14 0≦θ＜13 → 28S91 = 6
混和材料の種類(JIS　)	☑AE減水剤　□高性能AE減水剤　□　□
呼び強度を保証する材齢、養生	☑材齢　（☑28日　□91日　□　□　）
	☑養生　（□現場封かん　☑現場水中　☑標準　□　）

単位水量≦ 185 kg/m³
単位セメント量≧ 270 kg/m³
塩化物イオン量≦ 0.3 kg/m³
コンクリートの所要空気量の目標値 4.5 %
アルカリ骨材反応を生じるおそれのない事

水セメント比の最大値
早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ
普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ
混合セメントＡ種
中庸熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ
→ 65%
低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ
高炉ｾﾒﾝﾄＢ種
→ 60%

- コンクリートはJIS A 5308(レディーミクストコンクリート)に適合するJIS認定工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS5を基本とする。
- セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
- 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承諾を得ること。
- ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技師または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分以内、25℃以上の場合は120分以内とする。
- コンクリート打込み中及び打込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下回らないように養生を行う。
- 乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。
- 打継ぎ面はレイタンス及びぜい弱なコンクリートを当日のうちに取り除き、健全なコンクリートを露出させる。再打込み前には十分な水湿しを行う。

（2）型枠

- 材料は、合板厚12mmを標準とする。金属製型枠パネルはJIS A8652に規定するものを用いる。
- 施工は、JASS5を基本とする。
- 型枠の在置期間は下記の最小存置期間以上とする。

種類	せき板			支柱			
部位	基礎、梁側、柱、壁			スラブ下			梁下
セメントの種類 / 存置期間の平均気温	早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ	普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 混合ｾﾒﾝﾄＡ種	混合ｾﾒﾝﾄB種	早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ	普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 混合ｾﾒﾝﾄＡ種	混合ｾﾒﾝﾄＢ種	左記のすべてのｾﾒﾝﾄ
コンクリートの材令(日) 15°C以上	2	3	5	8	17	28	28
5°C以上	3	5	7	12	25		
0°C以上	5	8	10	15	28		
ｺﾝｸﾘｰﾄの圧縮強度	5.0N/mm²以上			ｽﾗﾌﾞ下　圧縮強度がFcの85%以上又は12N/mm²以上 梁下　圧縮強度がFc以上 施工中の荷重及び外力について、構造計算により確認要			

- スラブ下及び梁下のせき板は、原則として、支柱を取り外したのちに取り外す。
- 片持ばり、庇、スパン9.0m以上の梁下、大型スラブ等の支柱の在置期間は、工事監理者の指示による。
- 大梁の支柱の盛りかえは行わない、また、その他の梁の場合も原則として行わない。
- 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
- 盛りかえの後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
- 支柱の盛りかえは、小梁が終ってから、スラブを行う。
  一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
- 直上階に著しく大きい施工荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛りかえを行わないこと。
- 支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。

（3）鉄筋・継手

	種類	径	使用箇所	備考
異形鉄筋	☑SD295	D10～D16		JIS G3112
	☑SD345	D19～D25		JIS G3112
	☑SD390	D29		JIS G3112
	□			
高強度せん断補強筋	□785鋼	12.6φ		大臣認定
	□1275/1420鋼	12.6φ		JIS G3137
溶接金網	□			JIS G3551

鉄筋定着	☑「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)」による □定着金物使用(　)

鉄筋継手	継手の位置等の設計条件による仕様・等級 (1)引張力最小部位	(2) (1)以外の部位(注) A級	B級	SA級	鉄筋の径
☑重ね継手	☑40d　□35d　□(　)d				D(16)以下
☑圧接継手	☑告示1463号第2項各号	□			D(29)以下
□溶接継手	□告示1463号第3項各号	□	□		D(　)以下
□機械式継手	□告示1463号第4項各号	□	□	□	D(　)以下

注)(1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書2015）」によって検討した部材の条件・仕様によること。

継手部の検査方法	外観検査	☑有　□無　全数対象
	引張試験	□有　☑無　３本/１ロット
	超音波探傷試験	☑有　□無　３０ケ所/１ロット
柱の帯筋の加工方法	☑H型(タガ型)　□W型(溶接型)　□S型(スパイラル型)	

- 鉄筋は、JIS G3112の規格品を標準とする。施工は標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様にJASS5 を基本とする。
- 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは、上記表または「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)(3)による。
- 継手部分の施工要領は社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）を基本とする。

（4）提出書類

提出書類	提出の要否	備考	提出時期
コンクリート工事施工計画書	☑要　□否		作業前
鉄筋工事施工計画書	☑要　□否		
コンクリート施工図	☑要　□否		
鉄筋施工図	☑要　□否		
コンクリート調合計画書	☑要　□否		
コンクリート打設計画書	☑要　□否		
鋼材検査証明書(ミルシート)	☑要　□否		鋼材搬入後
継手部の検査結果	☑要　□否		継手施工後
コンクリート品質管理表	☑要　□否		コンクリート打設後

（5）検査項目

検査項目	検査の有無	備考	立会時期
配筋検査	☑有　□無		配筋工事終了後
型枠検査	☑有　□無		型枠工事終了後
コンクリート受入検査	☑有　□無		コンクリート打設時
出来形検査	☑有　□無		コンクリート打設後

- コンクリート及び鉄筋の試験は原則として公的機関にて行い、工事監理者の承諾を受けること。
- フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を1回の測定ごとに撮影した写真（ｶﾗｰ）を保管し、承諾を得る。
  測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
- 構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法はJASS5T-603によることとし、供試体は現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込みエ区ごと、打ち込み日ごととする。
  また、打ち込み量が150m³を越える場合は、150m³ごとまたは、その端数ごとに１回を標準とする。
  一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を縦割り採取する。
  尚、供試体の数量は、特別な指示なき場合は、1回あたり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。

3．鉄骨工事

（1）鉄骨及びその他周辺材料

	種類	認定	備考
形鋼・鋼板	☑SS400(白1)	JIS G3101	
	□SM490A(黄1)	JIS G3106	
	□SN400A(緑1)　☑SN400B(緑2)　□SN400C(緑3) ☑SN490B(黄2)　☑SN490C(黄3)	JIS G3136	
丸形鋼管	□STK400　□STK490	JIS G3444	
	□STKN400W　☑STKN400B　□STKN490B	JIS G3475	
角形鋼管	☑STKR400　□STKR490	JIS G3466	
	☑BCR295　□TSC295　□UBCR365	大臣認定	
	□BCP235　☑BCP325	大臣認定	
軽量形鋼	☑SSC400	JIS G3350	

高力ボルト	☑F10T　☑S10T　☑F8T	認定品(□M12　☑M16　☑M20　☑M22　□M24)
中ボルト	☑六角ﾎﾞﾙﾄ　JIS B 1180,　ﾅｯﾄ　JIS B 1181,　座金 JIS B 1256	
頭付ｽﾀｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄ	☑JIS B 1198	
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ	☑SS400　□SS490　□ABR400　□ABR490　□ABM400　□ABM490	
柱脚	☑ 露出型柱脚　□ 根巻型柱脚　□ 埋込型柱脚 ☑ 既製品使用　※詳細は別紙参照	
デッキ	□Vﾃﾞｯｷ　□ｷｰｽﾄﾝﾃﾞｯｷ　□合成ｽﾗﾌﾞ用ﾃﾞｯｷ → ※詳細は別図参照 ☑床型枠用鋼製ﾃﾞｯｷ → ※詳細は別図参照	
組立工場	□Hｸﾞﾚｰﾄﾞ　☑Mｸﾞﾚｰﾄﾞ以上　□Rｸﾞﾚｰﾄﾞ以上　□Jｸﾞﾚｰﾄﾞ以上	
防錆塗装	☑JIS K 5674（□1種　☑2種）　工場塗装回数　外部鉄骨(　2　回) 内部鉄骨(　2　回)	

- 形鋼・鋼板項の(　)内は鋼種識別色を示す。特別な場合を除きこの識別色とする事が望ましい。
- 鉄骨工事は指示のない限り下記を基本とする。
  ①日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度測定指針」「鉄骨工事技術指針」
  ②社)日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
  ③一社）鉄骨建設業協会「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
- 接合部の溶接は下記を基本とする。
  ①日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
  ②日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工場製作編・工事現場施工編」

（2）提出書類

提出書類	提出の要否	備考	提出時期
工場製作施工計画書	☑要　□否		作業前
現場作業施工計画書	☑要　□否		
工作図	☑要　□否		
鋼材検査証明書(ミルシート)	☑要　□否		鋼材搬入後
製品社内検査記録(社内UTを含む)	☑要　□否		社内検査後
鉄骨工事現場施工管理記録	☑要　□否		建方終了後

（3）検査項目

検査項目	検査の有無	備考	立会時期
現寸検査	☑有　□無		作業前
組立・開先検査	☑有　□無		鉄骨作成中
製品検査	☑有　□無		鉄骨作成後
建方検査	☑有　□無		鉄骨建方後
スタッド溶接後の検査	□有　☑無		スタッド溶接完了後

（4）接合部の検査

- 溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）
- 割れの疑いのある表面欠陥には、浸透探傷試験(JIS Z 2343-1)又は磁粉探傷試験(JIS Z 2320-1)を行う。

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	備考
☑完全溶込み溶接部	超音波探傷試験	100 % 個	AOQL 4.0 % 第6水準	% 個	※平成12年建設省省告示第1464号第二号による(目視及び計測)
□	外観検査　※	100 %	%	%	
□		個	個	個	
☑部分溶込・隅肉溶接部	外観検査　※	100 %	%	%	
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者または工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注）現場溶接部については、原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと。

- 高力ボルト締め付けの確認(結果を後日工事監理者に報告すること。)
  ①一次締め後にマーキングを行い、本締め後そのずれを見て、共回り等の異常がないことを確認する。
  ②トルシア形高力ボルトは本締め後、ピンテールが破断していることを確認する。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第34367号　大橋康孝

検印	総括	主任
大 橋	大 橋	大 橋
日付 令和７年６月		製図 原 田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

設計 NO.	工事名	図面名	縮尺	図面 NO.
	令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	構造設計特記仕様書	A1：NS A3：NS	S－００１

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 （１）

１．一般事項

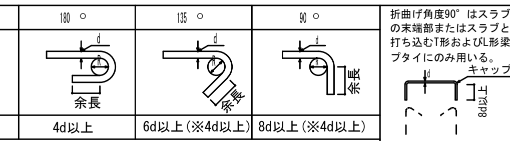
(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用し、特記無き事項は「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書」平成（３１）年度版に準ずる。
住宅瑕疵担保履行法による設計施工基準に準拠する必要がある場合はこれを優先する。

(2) 記号

d・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値　d_0・・・異形棒鋼の最外径　D・・・部材の成　R・・・直径
@・・・間隔　r・・・半径　℄・・・中心線　l_0・・・部材の内寸法距離　h_0・・・部材間の内法高さ
ST・・・あばら筋　HOOP・・・帯筋　S.HOOP・・・補強帯筋　φ・・・直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状



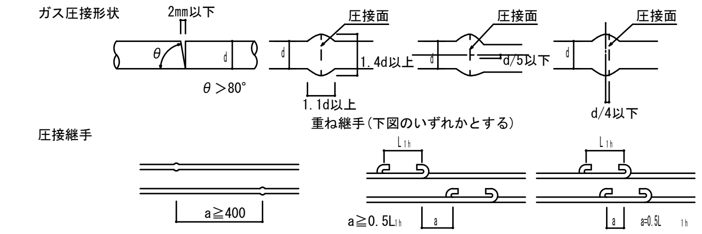
折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	※片持スラブ、L配筋の先端
折曲げ内法寸法R	SD295A・SD295B・SD345：(D16以下)R≧3d，(D19以上)R≧4d SD390 ： R≧5d (90°未満は特記による)			

(2) 鉄筋の重ね継手の長さ（表１）

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (Fc)(N/mm²)	L_1 (フックなし)	L_{1h} (フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24,27	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24,27	40d	30d
SD390	21	50d	35d
	24,27	45d	35d

継　手

1, 末端のフックは、重ね継手の長さに含まない
2, 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3, 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継ぎ手長さとする
4, 主筋及び耐力壁の重ね継手の長さは特記による。特記が無ければ、40d(軽量コンクリートの場合は50d)と表の重ね継ぎ手長さのうち大きい値とする
5, D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
6, 鉄筋の種類が異なる場合、形状が著しく異なる場合及び径の差が5mmを超える場合は圧接としてはならない。
7, 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする



(3) 鉄筋の定着の長さ（表２）　　投影定着長さ（表３）

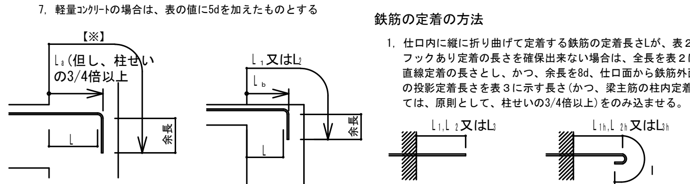
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (Fc)(N/mm²)	直線定着の長さ L_1	L_2	L_3 小梁	L_3 スラブ	フックありの定着の長さ L_{1h}	L_{2h}	L_{3h} 小梁	L_{3h} スラブ	L_a	L_b
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d (片持小梁の場合は25d)	10d かつ150mm以上 (片持スラブの場合は25d)	35d	30d	10d	—	20d	15d
	21	40d	35d			30d	25d			15d	15d
	24,27	35d	30d			25d	20d			15d	15d
SD345	18	50d	40d			35d	30d			20d	20d
	21	45d	35d			30d	25d			20d	20d
	24,27	40d	35d			30d	25d			20d	15d
SD390	21	50d	40d			35d	30d			20d	20d
	24,27	45d	40d			35d	30d			20d	20d

定　着

1, L_1, L_{1h}：2, 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
2, L_2, L_{2h}：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3, L_3：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。但し、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4, L_{3h}：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5, 末端のフックは、定着の長さに含まない。又、中間部での折曲げは行なわない
6, 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さは特記による。特記が無ければ、40d(軽量コンクリートの場合は50d)と表の定着長さのうちの大きい値とする(壁式構造も同様とする。)
7, 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする

鉄筋の定着の方法

1, 仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、表２のフックあり定着の長さを確保出来ない場合は、全長を表２に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表３に示す長さ(かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上)をのみ込ませる。

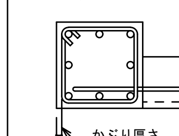


【※】表の長さを全長で確保する

(4) かぶり厚さ（単位：mm）

部材の種類		最小かぶり厚さ 短期 屋内・屋外	標準・長期 屋内	標準・長期 屋外[2]	超長期 屋内	超長期 屋外[2]	設計かぶり厚さ 短期 屋内・屋外	標準・長期 屋内	標準・長期 屋外[2]	超長期 屋内	超長期 屋外
構造部材	柱・梁・耐力壁	30	30	40	30	40	40	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	20	20	30	30	40	30	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	20	20	30	30	40	30	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材[1]	20	20	30	(20)	(30)	30	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立上り部		40					50				
擁壁・耐圧スラブ(土に接しない部分)		40					50[3]				
基礎・擁壁・耐圧スラブ		60					70				

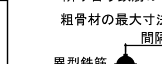
［注］1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
2) 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で耐久性状有効な仕上げを施す場合は、屋外側では、最小かぶり厚さを10mm減じることができる。
3) コンクリートの品質及び施工法に応じ、工事管理者の承認を受けて40mmとすることができる。



・鉄筋加工時の被り厚さは、設計かぶり厚さを採用し、最小かぶり厚さを下回ることのないようにする
・ひびわれ誘発目地部など鉄部のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所に付いても最小かぶり厚さを確保する。

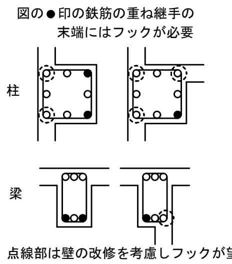
(5) 鉄筋のあき

隣り合う鉄筋の平均径の１．５倍
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mm以上



(6) 鉄筋のフック　(a-dに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

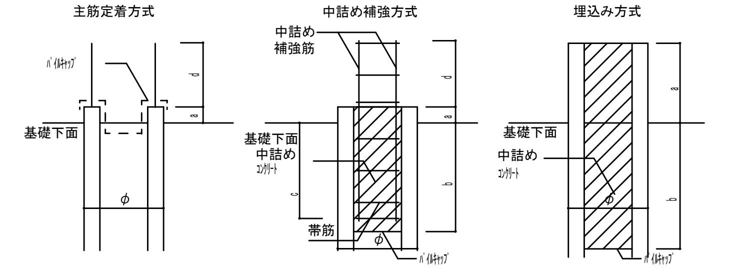
a, あばら筋,帯筋
b, 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
c, 単純梁の下端筋
d, その他、本配筋標準に記載する箇所



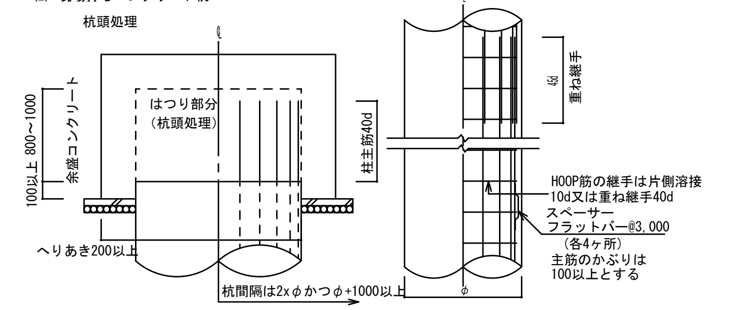
点線部は壁の改修を考慮しフックが望ましい

３．杭 (採用する杭種別を明記し、詳細および下記寸法 a～d は設計図書の特記による。)

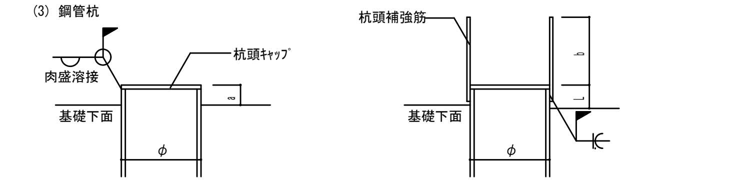
(1) PC杭、又はPHC杭全てに補強を行う



(2) 現場打ちコンクリート杭



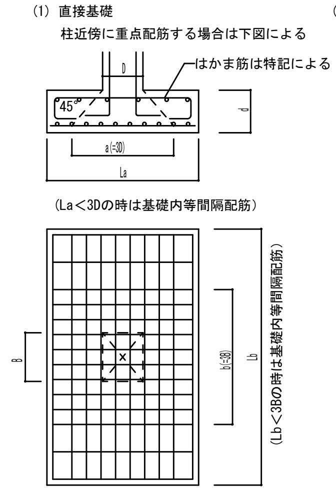
(3) 鋼管杭



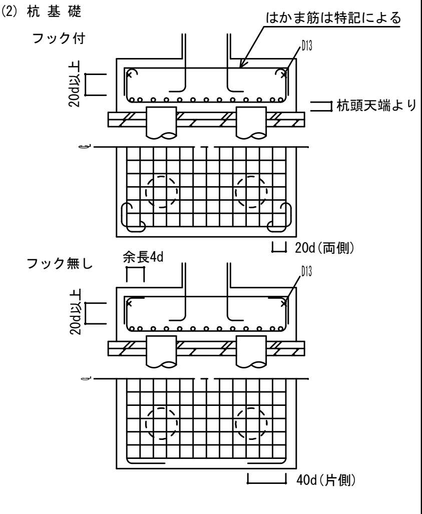
４．基　　礎

(1) 直接基礎

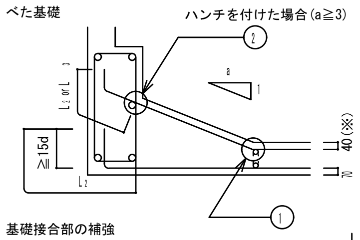
柱近傍に重点配筋する場合は下図による



(2) 杭 基 礎

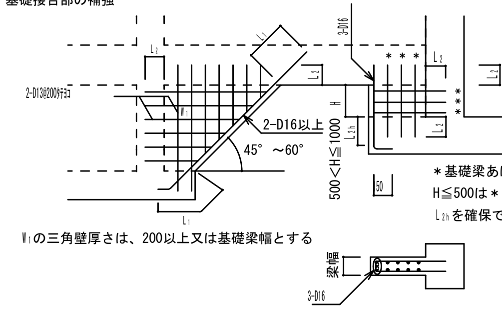


(3) べた基礎



1, 耐圧版鉄筋の継手位置は 8.床版 にならう
但し上端と下筋を読みかえる
2, ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3, ②の鉄筋はD13以上
4, 埋戻し土のある場合は（※）を70とする

(4) 基礎接合部の補強

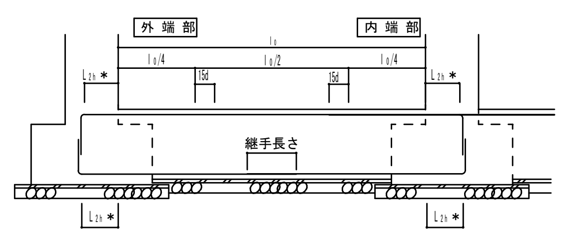


＊基礎梁あばら筋と同径・同間隔
H≦500は＊印筋は不用とする
L_{2h}を確保できない場合は、2、(3)による

W_1の三角壁厚さは、200以上又は基礎梁幅とする

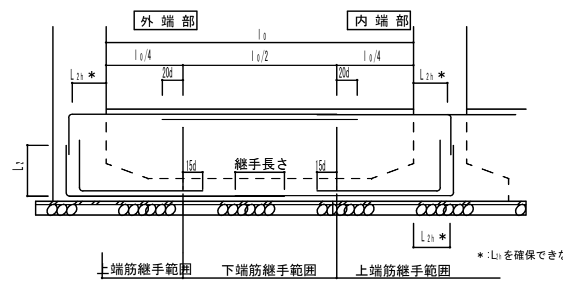
５．　基礎梁　(梁主筋カットオフ位置は設計図書の特記による。特記のない場合は下図による。)

(1) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継ぎ手、定着及び余長



＊:L_{2h}を確保できない場合は、2、(3)による

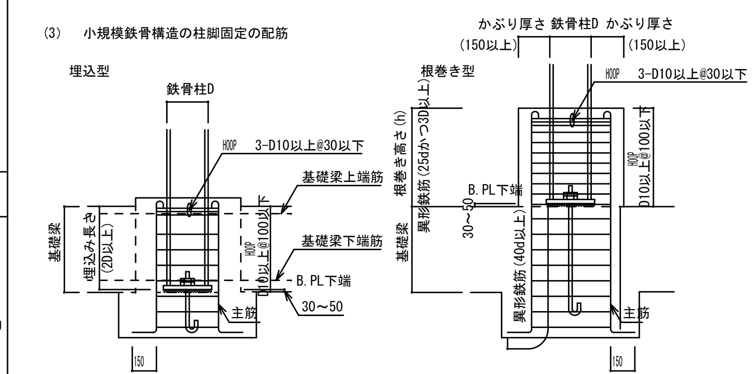
(2) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



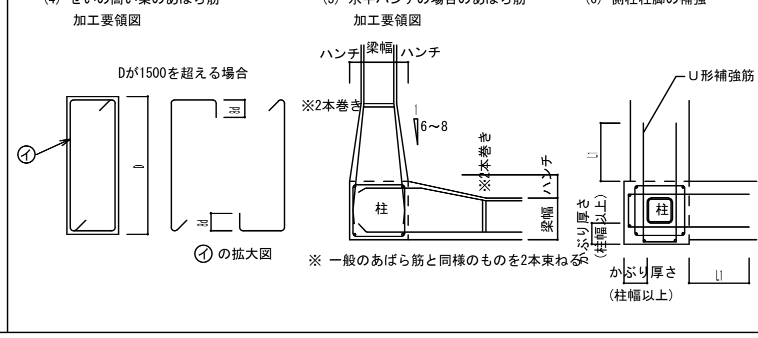
＊:L_{2h}を確保できない場合は、2、(3)による

(独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合は標準仕様書414頁参照)

(3) 小規模鉄骨構造の柱脚固定の配筋



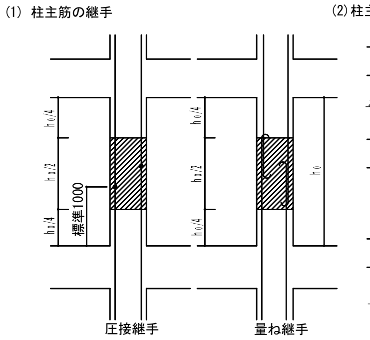
(4) せいの高い梁のあばら筋加工要領図　(5) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領図　(6) 側柱柱脚の補強



※ 一般のあばら筋と同様のものを2本束ねる

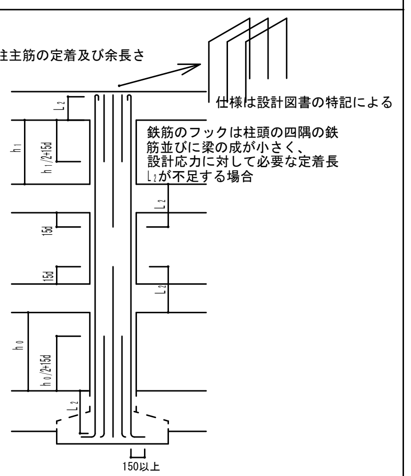
６．柱

(1) 柱主筋の継手

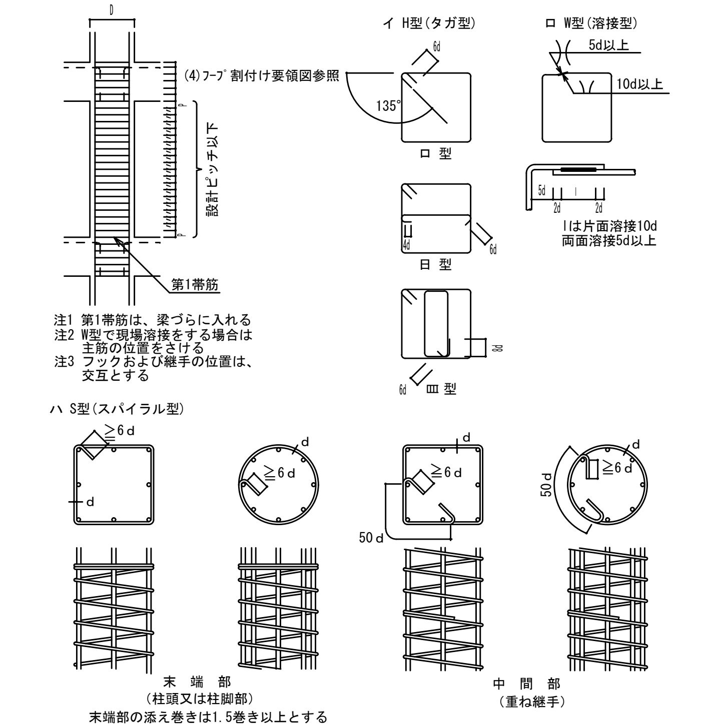


継手の好ましい位置

(2) 柱主筋の定着及び余長さ



(3) 帯筋



注1 第1帯筋は、梁づらに入れる
注2 W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける
注3 フックおよび継手の位置は、交互とする

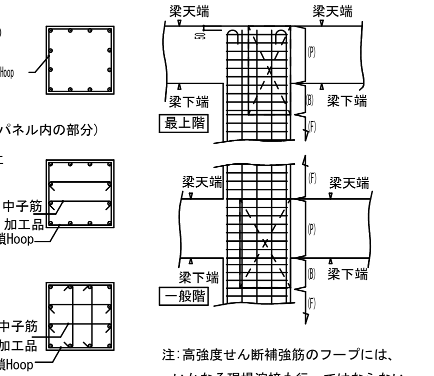
末端部の添え巻きは1.5巻き以上とする

(4) フープ割付け要領図

(P)：パネルゾーン(両方向共にパネル内の部分)
形　状：□-100@
Hoop径：柱リスト参照

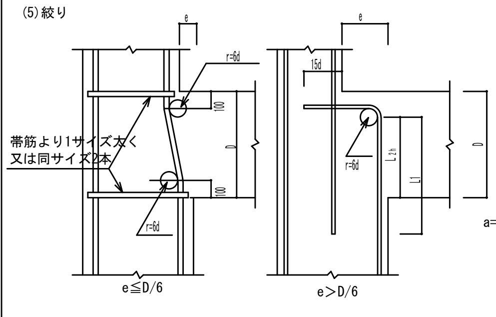
(B)：境界ゾーン(一方向が梁内法間で他方向がパネル内の部分)
Hoop材：各方向ごとに梁内のり間は柱リストに示されたHoopとし、右図の場合、紙面直交方向については中子筋不要。
形　状：柱リスト参照

(F)：可とうゾーン(両方向共梁内法間の部分)
Hoop材：柱リストに示されたHoop
形　状：柱リスト参照

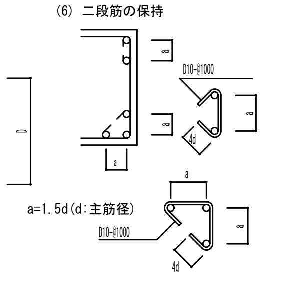


注：高強度せん断補強筋のフープには、いかなる現場溶接も行ってはならない。

(5) 絞り



(6) 二段筋の保持



a=1.5d(d：主筋径)

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋 / 総括 大橋 / 主任 大橋 日付 令和７年６月 / 製図 原田	一級建築士登録第270124号 構造設計一級建築士登録第 2066号 原田 和彦	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	縮尺 A1：NS A3：NS	図面NO. S－００２

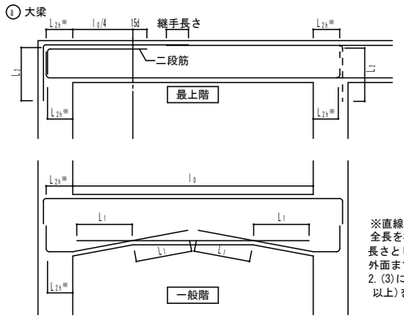
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 （2）

7. 大梁、小梁、片持梁

（大梁主筋定着およびカットオフ位置は設計図書の特記による。
特記のない場合は下図による。）

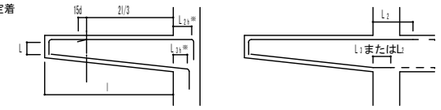
(1) 定着

ⓐ 大梁

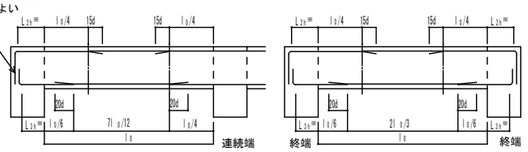


※直線部でL_1が確保できない場合は全長を標準図(1).2.(3)の直線定着の長さとし、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを標準図(1).2.(3)に示す長さ(かつ、柱せいの3/4倍以上)をのみ込ませる。

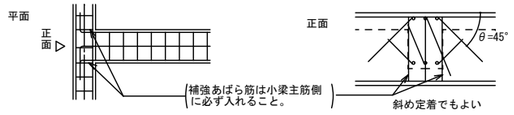
ⓑ 片持梁の定着



ⓒ 小梁の定着
斜め定着でもよい

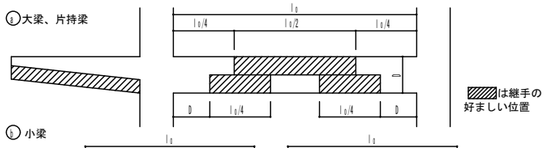


※L_1が確保できない場合は標準図(1).2.(3)による。

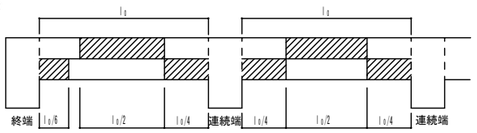


(2) 大梁、片持梁、小梁主筋の継手

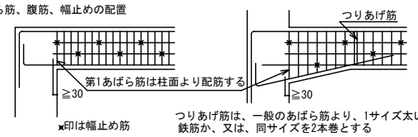
ⓐ 大梁、片持梁



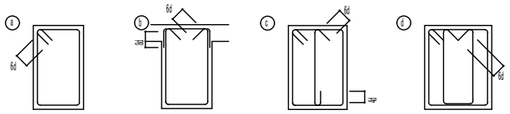
ⓑ 小梁



(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



(4) あばら筋の型 （注、床板がない場合は135° 以上のフックとする）

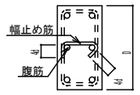


(イ) 原則として ⓐ のフック先曲げとする。 両側床版付(T型) 梁で ⓑとすることができる。

(ロ) フックの位置は ⓐ にあっては交互とする。

(5) 幅止め筋の本数、加工

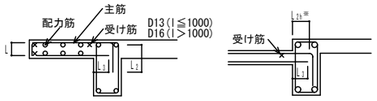
腹 筋	D< 600 不要 600≦D< 900 2-D10 1段 900≦D<1200 4-D10 2段 1200≦D<1500 6-D10 3段 1500≦D D10@300以内
幅止め筋	D10@1000位内で割り付ける



8. 床版

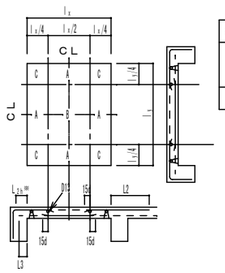
(1) 定着および継手

ⓐ 片持ち床スラブ



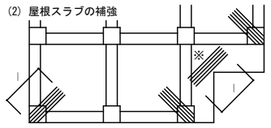
隣接スラブと同一レベルの場合　　梁の中間にスラブが取り付く場合

ⓑ 一般床スラブ



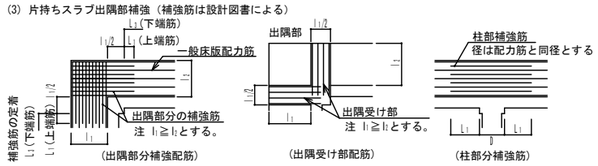
継手位置		標準継手位置
上端筋	短辺方向	B
	長辺方向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A C

(2) 屋根スラブの補強

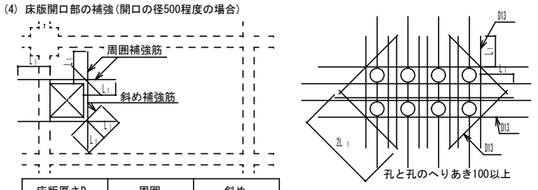


ⓐ 補強筋は各5-D10又はスラブ主筋の同一径でl=1,500とし、上端筋の下に配筋する
ⓑ ※の箇所(入隅)は各階補強する

(3) 片持ちスラブ出隅部補強 （補強筋は設計図書による）



(4) 床版開口部の補強(開口の径500程度の場合)

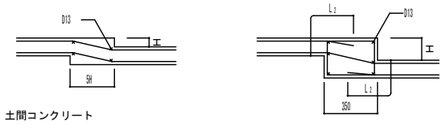


床版厚さD	周囲	斜め
D≦150	各2−D13	各1−D13
150<D≦200	各2−D13	各2−D13
200<D≦300	各2−D19	各2−D16

注) 設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

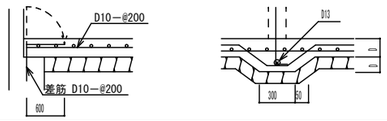
(5) 床版段差

ⓐ H≦70の場合　　ⓑ 70<H≦150の場合

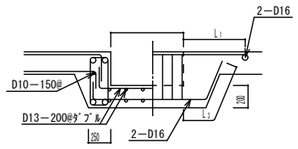


(6) 土間コンクリート

ⓐ 軽作業の土間　　ⓑ 間仕切壁との交差部

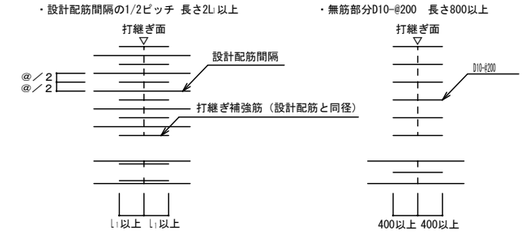


(7) 釜場



(8) 打継ぎ補強(ダメ穴打継面について)

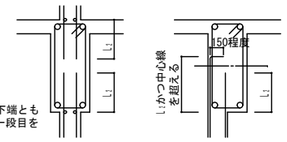
・設計配筋間隔の1/2ピッチ 長さ2L1以上　　・無筋部分D10−@200 長さ800以上



9. 壁

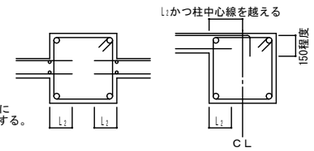
(1) 定着及び継手

ⓐ 梁への定着



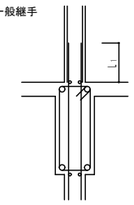
横筋の配置は上下端とも梁、又は床面に一段目を配置する。

ⓑ 柱への定着

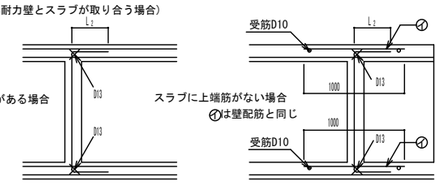


縦筋は、柱面に一本目を配置する。

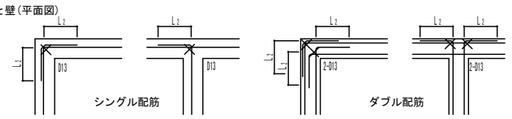
ⓒ 一般継手



ⓓ 床への定着(非耐力壁とスラブが取り合う場合)

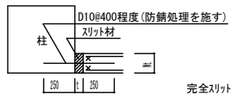


ⓔ 壁と壁(平面図)



(2) スリット部(設計図に記入のあるとき)

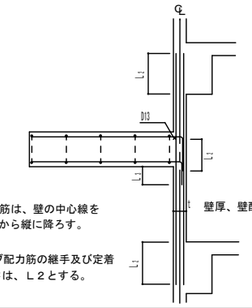
スリット部の鉄筋の被り厚さは2-(4)がかぶり厚さの表、最小かぶり厚さ以上とする。



10. 階段

片持ちスラブ形基準配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図	D10@200 D10@200	2-D13 D10@200 D10@200



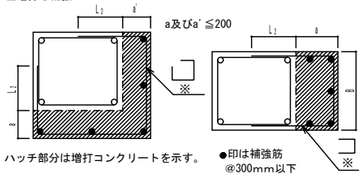
(注) 1. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に降ろす。
2. スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、L2とする。

壁厚、壁配筋は設計図書による

11. 柱、梁増打コンクリート補強

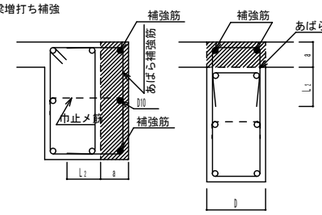
（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打ち合わせのこと）

(1) 柱増打ち補強



柱の打増し補強は、打増し幅が70mm以上かつ200mm以下の場合に適用する。
200mmを越える場合は、特記による。
なお梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、増し打ち部分を除いて計算する。
※帯筋と同径同ピッチ

(2) 梁増打ち補強

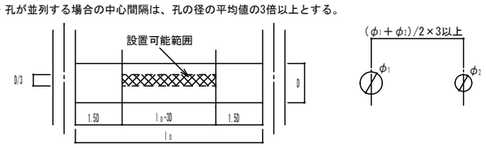


・補強筋は、梁主筋の1段落し径(D16以上)とする。
・あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
・腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合わせる。
・D≧400の場合は補強筋を3本とする。
・aは70～200程度。
・梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
・ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

12. 梁貫通孔補強

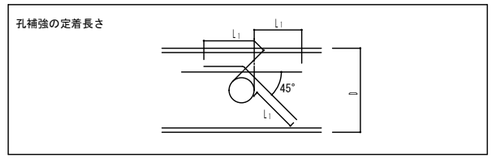
(1) 設置可能範囲

・孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
・孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3の範囲には設けてはならない。
・孔は、柱面から原則として、1.5D (Dは梁せい) 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
・孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。



(2) 鉄筋標準配筋

・縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
・補強筋は、主筋の内側とする。また、定着長さは下図による。



・孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
・溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
・溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
・溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

(3) 既製品(使用する場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと)
(既製品の適用範囲を準拠し、承認を得ること)

□リング型　□パイプ型　□金網型　□プレート型

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号 大橋康孝

検印	総括	主任
大 橋	大 橋	大 橋
日付 令和７年６月		製図 原 田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

設計 NO.

工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

縮尺 A1：NS A3：NS

図面 NO. S−003

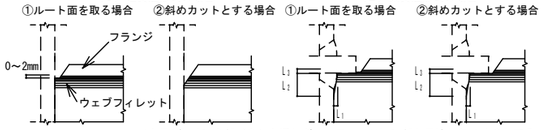
鉄骨構造標準図（１）

１．一般事項

適用範囲：構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用し、特記無き事項は
「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書」平成（ 31 ）年度版に準ずる。
本標準図は国土交通大臣認定のＲグレードの適用範囲程度の規模の一般的な建物に適用する。
（ 参考：Ｒグレード規模範囲　５階建て以下［ 延べ床面積3,000㎡以内、高さ20m以下 ］）

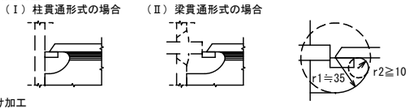
(1) 材料
使用構造材料は構造設計仕様による。

(2) 工作一般
(a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」,「工作図」等を提出し工事監理者の承認を得る事。
(b) 鉄骨の製作精度
告示1464号（鉄骨造の継手又は仕口の構造方法を定める件）
日本建築学会JASS6及び鉄骨精度測定度指針による。
(c) 歪みの矯正は、材質を損なわないように、常温加圧もしくは加熱（点状加熱、線状加熱）で矯正する。
加熱で矯正する場合の温度はJASS6による。
(d) スカラップ加工
複合円形スカラップ加工は専用スカラップカッターによるものとし、加工が困難なサイズのＨ形鋼についてはノンスカラップ工法を採用する事。
スカラップの加工はつぎのいずれかによる。
(イ) ノンスカラップ工法



＊L及びL1は接合部パネルと通しダイアフラムの溶接部と干渉しない寸法とする。
＊L1は、通しダイアフラムと干渉しない寸法とする。

(ロ) 複合円型スカラップ工法



(e) 孔あけ加工
高力ボルト・ボルト及びアンカーボルトの公称軸径に対する孔径

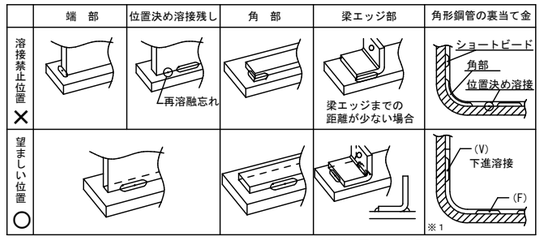
ボルトの種類	孔径 d	公称軸径 d	備考
高力ボルト	d1+2.0	d1＜27	
	d1+3.0	27≦d	
ボ　ル　ト	d1+0.5	――	母屋・胴縁等軽微な部分は除く
アンカーボルト	d1+5.0	――	

(3) 組み立て溶接
(a) 溶接技能者
組立て溶接に従事する溶接技能者は、JIS Z 3801またはJIS Z 3841の少なくとも基本となる級（下向き溶接）の試験に合格した有資格者とする。
(b) 組立て溶接ビード長さ

板　厚	組立て溶接の最小ビード長さ (mm)
t≦6	30
6＜t	40

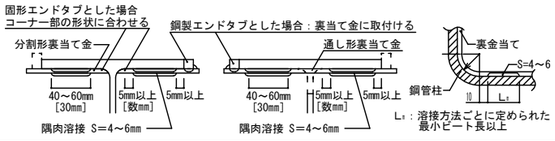
(c) 裏あて金，鋼製エンドタブ
(イ) 裏あて金
材質は母材と同質材料とし厚さは9mm以上とする。
裏あて金の長さは、鋼製エンドタブ・固形エンドタブ側面から5mm程度突出する長さを標準とする。
裏当て金は母材に密着させ、健全なルート部の溶け込みが得られるようにする。
(ロ) 鋼製エンドタブ
鋼製エンドタブを用いる場合、鋼製エンドタブの長さLeは、MCで35mm程度、GC,NGCで40mmかつフランジ板厚tの２倍程度とする。

(d) 組立て溶接位置
組立て溶接は溶接の始終端・隅角部など、強度上・工作上問題となり易い箇所は避ける。
組立溶接の前に施される位置決めのための点付け溶接は組立溶接のビード内に施し、組立溶接の際に十分に再溶融させ、母材表面に残さない事。

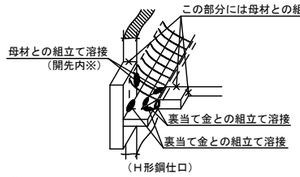


※１：組立て溶接は下向き溶接又は立向き溶接とする。

裏当て金、エンドタブの組立溶接位置
裏当て金を用いた柱梁接合部の裏当て金の組立溶接。
下図［　］内はフランジ幅が125mm未満の場合を示す。
（Ⅰ）Ｈ型鋼仕口部　ノンスカラップ工法
（Ⅱ）Ｈ型鋼仕口部　複合円型スカラップ工法
（Ⅲ）角形鋼管柱仕口部



(e) 柱梁接合部に鋼製エンドタブを用いた場合の組立て溶接



※構造上、やむを得ず開先内に組立て溶接を行う場合は、本溶接時に組立溶接を再溶融させ、欠陥が残らない様に施工する事。

(4) 溶接接合
(a) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適用するJIS Z3801（手溶接:MC）又はJIS Z3841（半自動溶接:GC,NGC）の溶接技術検定試験に合格し、引き続き半年以上溶接に従事している者とする。

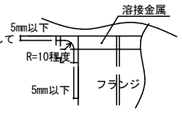
(b) 溶接姿勢
［下向:Ｆ,上向:Ｏ,横向:Ｈ,立向:Ｖ］の各溶接は各姿勢に関する技量資格を有する技術者が行なうものとする。

(c) 溶接施工
(イ) 溶接部の形状
溶接の仕上り形状はJASS6付則6鉄骨精度検査基準により、溶接継手の性能を損なうような有害な欠陥があってはならない。

(ロ) 溶接順序
部材の組立および溶接の順序は、溶接変形が最小となるように考えて施工する。
溶接変形が製品の精度に影響を与えることが予想される場合には、溶接の順序と変形の防止方法を「鉄骨工事施工要領書」に示し、工事監理者と協議すること。

(ハ) エンドタブ
エンドタブは、固形エンドタブを標準とする。
ただし、溶接を行う技能者は固形エンドタブ工法（代替エンドタブ）のための溶接技能者技量付加試験等に合格した者であり、工事監理者に承認された者が行う事。
また、始終端部（梁フランジ幅最端部より25mmかつフランジ板厚の大きい方の値までの範囲に側面余盛を含めた部分）の範囲は溶接部の性能を左右する重要な部分である事から、溶接施工、超音波探傷試験ともに細心の注意を払って行う事。

(ホ) 鋼製エンドタブの処理
梁材が400N/mm²級鋼の場合は特記なき限り切断しなくて良い。
梁材が490N/mm²級鋼の場合は本溶接完了後母材から5mm程度残してガス切断し、切断面をグラインダーで平滑に仕上げる事。



(ヘ) 鋼材種類と溶接材料及び溶接条件

鋼材の種類	溶接材料の規格	溶接材料の種類	入熱	パス間度差
400N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-11, YGW-15	40kJ/cm以下	350℃以下
		YGW-18, YGW-19	30kJ/cm以下	450℃以下
	JIS Z 3313	T490T1-y(A-U) T490T1-y(M-U) T550T1-y(A-U) T550T1-y(M-U)	40kJ/cm以下	350℃以下
			30kJ/cm以下	450℃以下
	JIS Z 3211	引張強さが570MPa以上のものを除く。	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3214	引張強さが570N/mm²以上のものを除く。		
	JIS Z 3315	YGA-50M, YGA-50P		
490N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-11, YGW-15	30kJ/cm以下	250℃以下
		YGW-18, YGW-19	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3313	T490T1-y(A-U) T490T1-y(M-U)	30kJ/cm以下	250℃以下
		T550T1-y(A-U) T550T1-y(M-U)	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3211	引張強さが570MPa以上のものを除く。	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3214	引張強さが570N/mm²以上のものを除く。		
	JIS Z 3315	YGA-50M, YGA-50P		
400N級炭素鋼 STKR・BCR及びBCPに限る	JIS Z 3312	YGW-11, YGW-15	30kJ/cm以下	250℃以下
		YGW-18, YGW-19	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3313	T490T1-y(A-U) T490T1-y(M-U)	30kJ/cm以下	250℃以下
		T550T1-y(A-U) T550T1-y(M-U)	40kJ/cm以下	350℃以下
490N級炭素鋼 STKR及びBCPに限る	JIS Z 3312	YGW-18, YGW-19	30kJ/cm以下	250℃以下
	JIS Z 3313	T550T1-y(A-U) T550T1-y(M-U)		
溶融亜鉛メッキ鋼板	溶融される溶融亜鉛メッキ鋼板に応じて、それに適合する溶着金属としての性能を有する溶接材料を使用する事。			

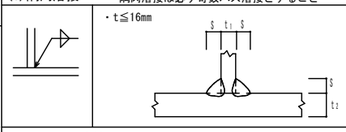
(5) 高力ボルト接合
(a) 仮ボルト
高力ボルト接合は、仮ボルトによって予め部材接合面を密着させた上で一次締めを始めなければならない。
仮ボルトは油分を除去したものを用い、本締めに用いるボルトを仮ボルトとして使用してはならない。
仮ボルトはやボルトなどを用い、ボルト１群に対して1/2程度かつ２本以上を本締め工程に支障無い位置を選んでバランスよく配置し締め付ける。但し、ウェブのボルトが２列以上の場合は、安全性の検討をした上で、ボルト本数を1/2程度に減じてよい。上記「ボルト１群」とはフランジ、ウェブを別々に扱う事。

(b) 高力ボルトの締め付け
建起し精度確認後、仮ボルトによってプレート間が密着している状態で本締めボルトの手締めを行う。
接合面全体に本締めボルトが適度に設置された後、仮ボルトを取除き残りの本締めボルトを設置する。
ボルト群の締付け手順（中央から板端へ）に従って一次締めを行い、マーキングの後、本締めを一次締め同様の締付け手順に従って行う。なお、一次締めの増締めは行ってはならない。

２．溶接規準図

(1) 隅肉溶接

隅肉溶接は必ず奇数パス溶接とすること　（注）S：脚長（単位 mm）

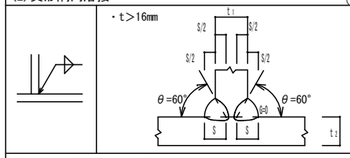


t	6	9	12	14	16
S	6	7	9	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする
・tはt1、t2の小なる方とする
余盛は(4mm かつ 0.4S)以下とする
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

(2) 異形隅肉溶接

（注）S:脚長 G:ルート間隔 R:フェース（単位 mm）

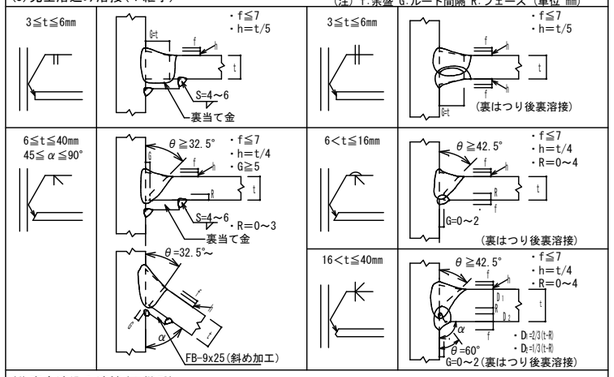


t	19	22	25	28	32
S	11	13	15	17	19

・tはt1、t2の小なる方とする

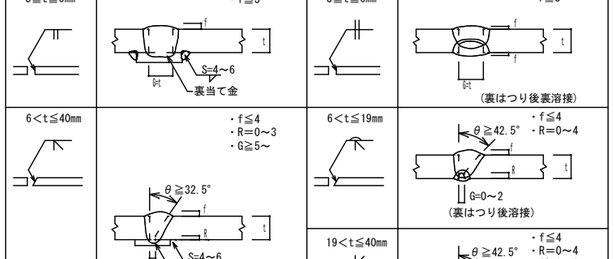
(3) 完全溶込み溶接（Ｔ継手）

（注）f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース（単位 mm）



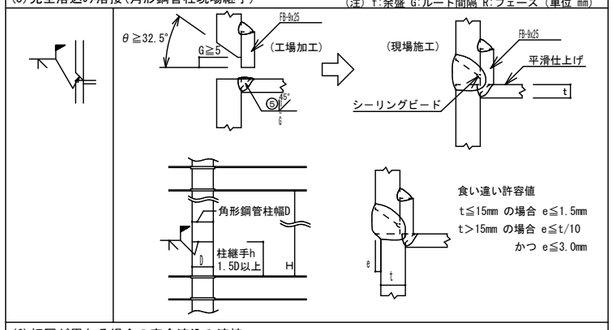
(4) 完全溶込み溶接（平継手）

（注）f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース（単位 mm）



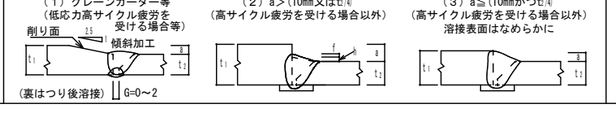
(5) 完全溶込み溶接（角形鋼管柱現場継手）

（注）f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース（単位 mm）



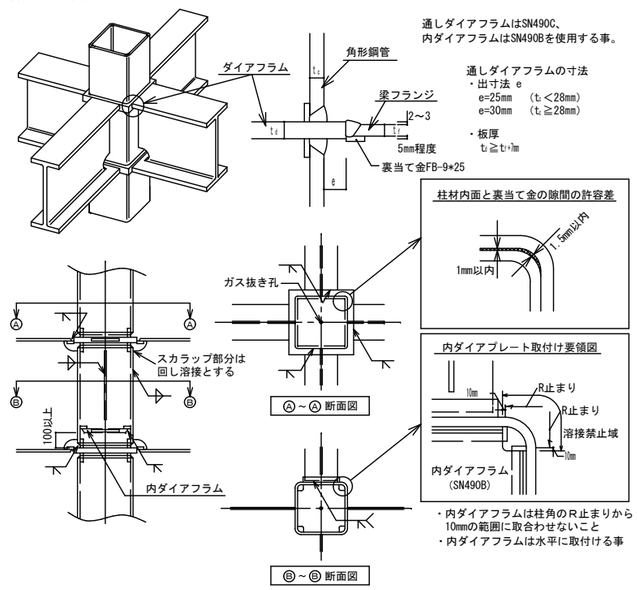
(6) 板厚が異なる場合の完全溶込み溶接

（注）f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース（単位 mm）



３．角形鋼管柱-Ｈ形鋼梁接合部標準図

(1) ダイアフラム

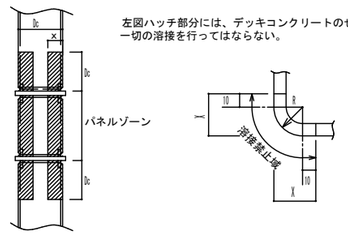


内ダイヤフラム納りが可能な梁幅と柱幅の関係

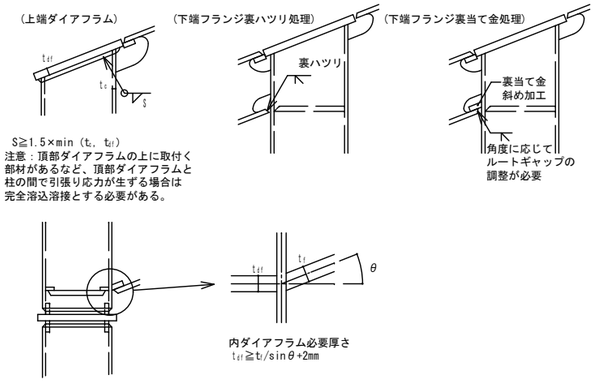
梁幅＼柱幅	200	250	300	350	400	450～
100	9mm以下					
125					可能	
150		9mm以下				
175						
200			9mm以下			
250		不可		9mm以下		
300					9mm以下	

表内の「○○mm以下」は、柱材の板厚制限を示す。
当表で「不可」あるいは柱材板厚制限を超える組合わせの場合は通しダイアフラム納まりとするか、梁端ハンチ処理とする。

(2) 角形鋼管柱の溶接施工禁止範囲



(3) 登り梁仕口部（天端ダイアフラムを傾斜取合いとする場合）



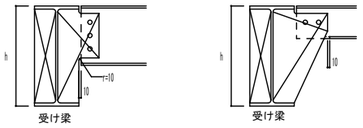
鉄骨構造標準図（２）

鉄骨構造標準図(2)は、各部の望ましいと考えられる納まり案を示した参考図です。★マークは重要項目を示す。

４．小梁接合部

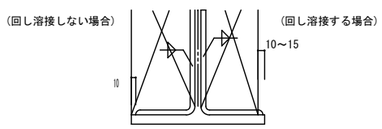
(1) ガセットプレートの形状 ★

(a) 小梁下端フランジ切欠無し　(b) 小梁下端フランジ片側切欠きあり



・(a)タイプの形状を標準とし、接合ボルト配列や受け梁と小梁の段差等によって無理な形状となる場合に(b)タイプを採用する。
・接合ボルトの仕様は特記による。
・ガセットプレート厚さは9mm以上かつ小梁のウェブ厚さ以上とする。
・ガセットプレート,ステフナープレートの鋼材は母材同等以上の強度のものとする。

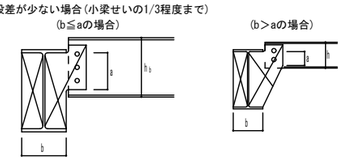
(2) ガセットプレート,バックスチフナープレートの溶接 ★



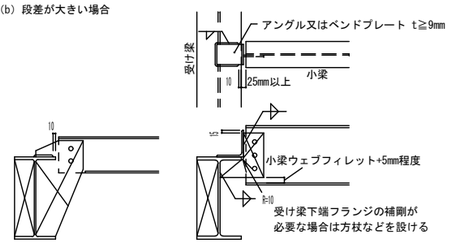
・いずれの場合も受け梁フランジ面の溶接終端は外端部に置かず、スイッチバックしてクレーター処理する事。

(3) 受け梁よりも小梁の方が高い位置になる場合 ★

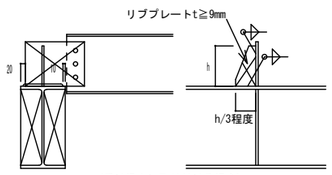
(a) 段差が少ない場合(小梁せいの1/3程度まで)



(b) 段差が大きい場合

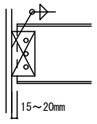


(フランジ上下面に溶接する場合)　(補強材で振れ止めする場合)



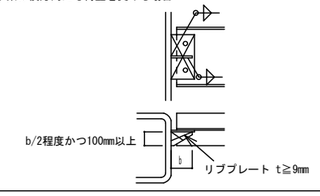
(受け梁上に取り付ける場合)

(4) 柱面など、直交する部材面に取合う場合

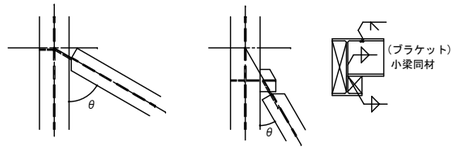


ガセットプレートの溶接ビードが小梁ウェブと干渉しない程度の離間距離を確保する。
ボルト接合面は平滑に仕上げる事。

(5) 小梁の横方向にも荷重を受ける場合



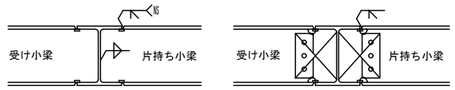
(6) 小梁が受け梁に対して鋭角に取合う場合



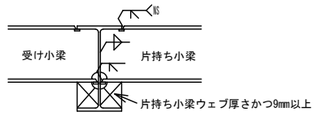
θ=45°～90°の場合　θ=45°より鋭角な場合

５．片持ち小梁の接合部

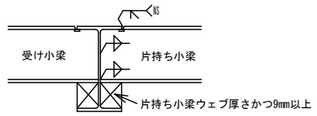
(1) 片持ち小梁と受け梁のサイズが同じ場合



(2) 片持ち小梁よりも受け梁の方が大きい場合



(3) 片持ち小梁下フランジに生じる引張力が小さい軽微な片持ち小梁の場合

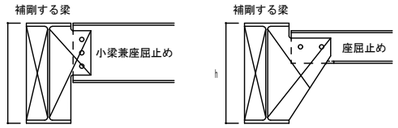


注:使用の可否は監理者に確認する事。

※ NSはノンスカラップ工法を示す

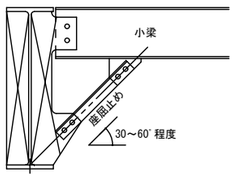
６．大梁の座屈止め

(1) ガセットPLを利用して下端フランジを拘束する場合

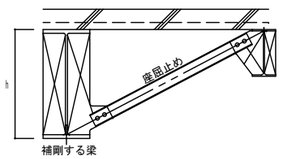


・補剛する梁のせいhが500mm未満の場合に限る。
・接合ボルトの仕様は特記による。

(2) 大梁との段差が大きい場合

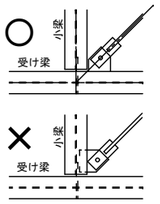


(3) 上端フランジを床で拘束する場合



７．水平ブレース接合部　★

(1) 水平ブレースの取付位置

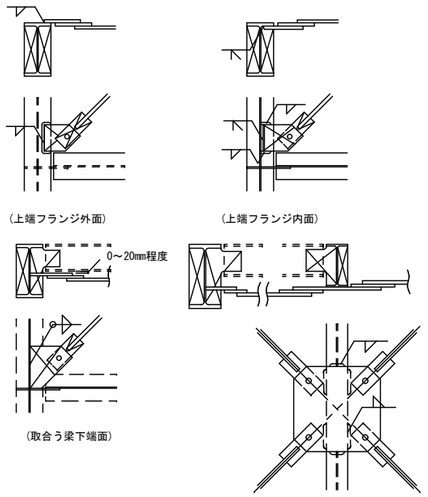


・水平ブレースの軸心は取合う梁交点に一致させる事が望ましい。
交点に一致させる事が困難な場合は監理者と協議の上決定する事。

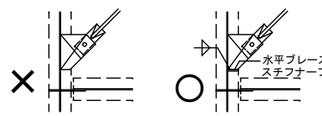
・水平ブレースのガセットプレートは受け梁側に取付ける事。

(2) 水平ブレースの取付高さ

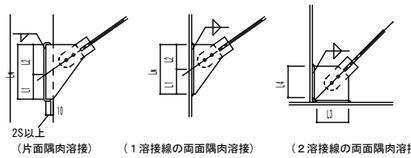
・大梁フランジ側面には溶接しない事。(大梁ブラケット内)



・水平ブレースのガセットプレートを受け梁ウェブ面に取合わせる場合は、小梁のガセットプレートまたはスチフナープレートにも取合わせ、そちら側にも必要な溶接が出来る幅を確保する事。



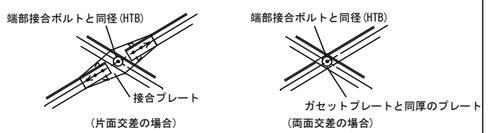
(3) 水平ブレースのガセットプレートの溶接



(片面隅肉溶接)　(１溶接線の両面隅肉溶接)　(２溶接線の両面隅肉溶接)

・サイズ S は溶接基準による。
・溶接長さLwは特記による。L1,L2は最小必要溶接長さの1/2以上とする。
・溶接長さL3,L4は特記による。

(4) アングルブレース交差部

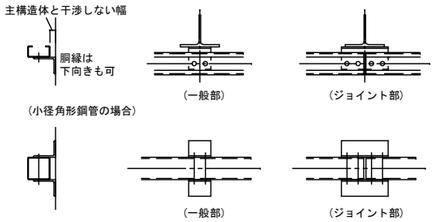


(片面交差の場合)　(両面交差の場合)

８．胴縁

(1) 一般部

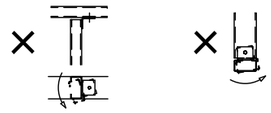
・壁材または壁下地目地部胴縁はダブルとする。
(リップ付き軽量溝形鋼の場合)



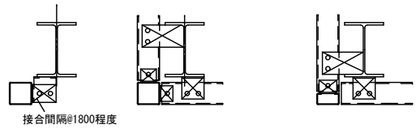
・角形鋼管による胴縁の接合プレートは鋼管の両面に配置する。
・ボルトは通しボルトとし、鋼管を潰さない様に注意して締付ける事。

(2) 他胴縁との取合い

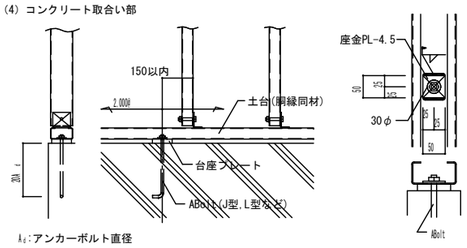
・設計図に特記なき場合、接合はPL-4.5以上,1-M12(中ボルト)以上とする。
・既製品の接合ピースを使用する場合は板厚4.5mm以上のものを使用する。
・構造耐力･剛性上支障が無く、緩み止め処置を施す場合に限り接合ボルトは１本で良い。
・接合ボルトを１本とする場合、部材の回転を伴うような接合としてはならない。



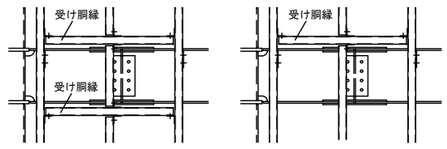
(3) コーナー部



(4) コンクリート取合い部

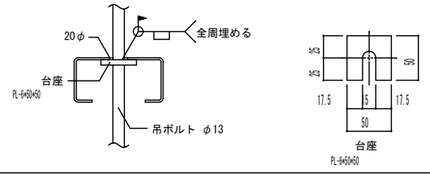


(5) 梁継手に掛かる部分の納まり



(胴縁、受け胴縁の強度に余力が無い場合)
ウェブ接合ボルトの本締めが容易
(胴縁、受け胴縁の強度に余力がある場合)

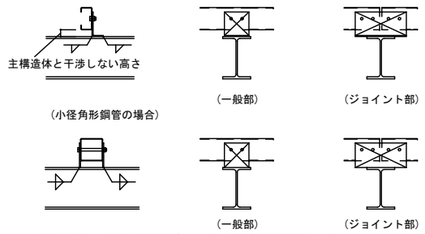
(6) 吊ボルトを使用する場合の納まり



９．母屋

(1) 一般部

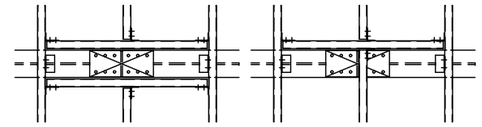
・屋根葺き材下地目地部母屋はダブルとする。
(リップ付き軽量溝形鋼の場合)



・角形鋼管による胴縁の接合プレートは鋼管の両面に配置する。
・ボルトは通しボルトとし、鋼管を潰さない様に注意して締付ける事。

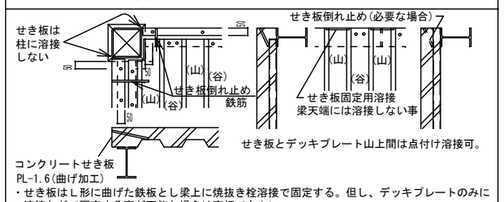
・設計図に特記がなく、緩勾配屋根の場合の接合はPL-4.5,2-M12(中ボルト)とする。
また、急勾配屋根の場合の接合はPL-6,2-M12(中ボルト)とする。
・上記条件を満たす場合は既製の接合ピースを使用してよい。

(2) 梁継手に掛かる部分の納まり



(梁継手ボルトと干渉が想定される場合)
上端フランジ接合ボルトの本締めが容易
(母屋、受け母屋の強度に余力がある場合)

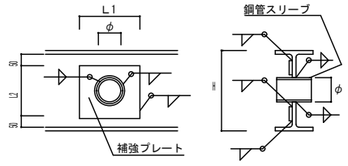
１０．合成床版　★



・せき板はL形に曲げた鉄板とし梁上に焼抜き栓溶接で固定する。但し、デッキプレートのみに溶接などで固定する事が可能な場合は直板でもよい。
・せき板の振れ止め鉄筋はデッキプレート山上に固定し、梁天端フランジへの点付け溶接は禁止。
・柱まわりのせき板は折り曲げ加工し柱に溶接固定は禁止。

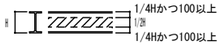
１１．梁貫通孔補強　★

・既製品（大臣認定品）を使用してもよい。
・梁貫通孔位置は設計者及び工事監理者と協議のうえ決定する事。
・梁貫通孔の位置は梁端部（スパンの1/10以内かつ2D以内）の範囲は避ける事。
但し、既製品使用の場合は認定条件に従うものとする。



補強プレート厚(tp)は下式による。
tp≧（φ＋２ts）tw／（Ｈ－２t_F-140－φ－２ts）
ts：鋼管スリーブ厚
t_F：フランジ厚
tw：ウッブ厚

・Ｌ１は、３φまたは、Ｌ２のうち小さい方とする。
・補強プレートが16mm以上となる場合は必要な厚さの1/2の補強プレートをウェブ両面に溶接する。
・補強プレートは、丸形としてもよい。また、上下フランジとのあき50mmについては、設計者と協議の上 施工性を考慮して小さくすることができる。
・特記なき限り補強方法は上図によるが、孔径（φ）はH/2以下とし、各孔の間隔は 2.0φ以上とする。
・スリーブは梁成の中央１／２の範囲とする。



・貫通孔部分は、必要に応じて鋼管スリーブを取り付ける。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号　大橋康孝

検印	総括	主任
大 橋	大 橋	大 橋
日付 令和７年６月		製図 原 田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

設計 NO.

工 事 名　令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図 面 名　鉄骨構造標準図（２）

縮 尺　A1：NS　A3：NS

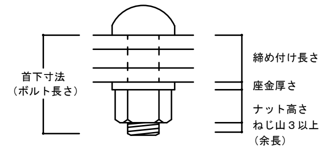
図面 NO.　S－005

鉄骨構造標準図（３）

３．継手規準図

(1)　ボルト接合　ＨＴＢ

トルクコントロールボルトの場合はメーカーの規格による。



（　）内Ｆ１０Ｔ

HTB	締め付け長さに加える長さ
M16	25　以上　(30)
M20	30　以上　(35)
M22	35　以上　(40)
M24	40　以上　(45)

〇ＨＴＢはすべてＳ１０Ｔ・Ｆ１０Ｔを使用し、スベリ係数は０．４５とする。
〇ボルト接合面の処理
　締め付け摩擦面は母材に於いては平グラインダー掛け、スプライスプレートに
　於いてはショット掛けを行ない、黒皮を除去し一様に赤さびを生じさせる。
〇本締めに使用するボルトと仮締めボルトの併用はしてはならない

(2)　ボルトピッチ(P)、ボルト穴径・最小縁端距離（mm）

呼　び	ボルト穴　径	最小縁端距離(e) (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ(P) 最　小	標　準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	32	45	60	70

〔注〕(1)　引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
　(2)　せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
　(3)　圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

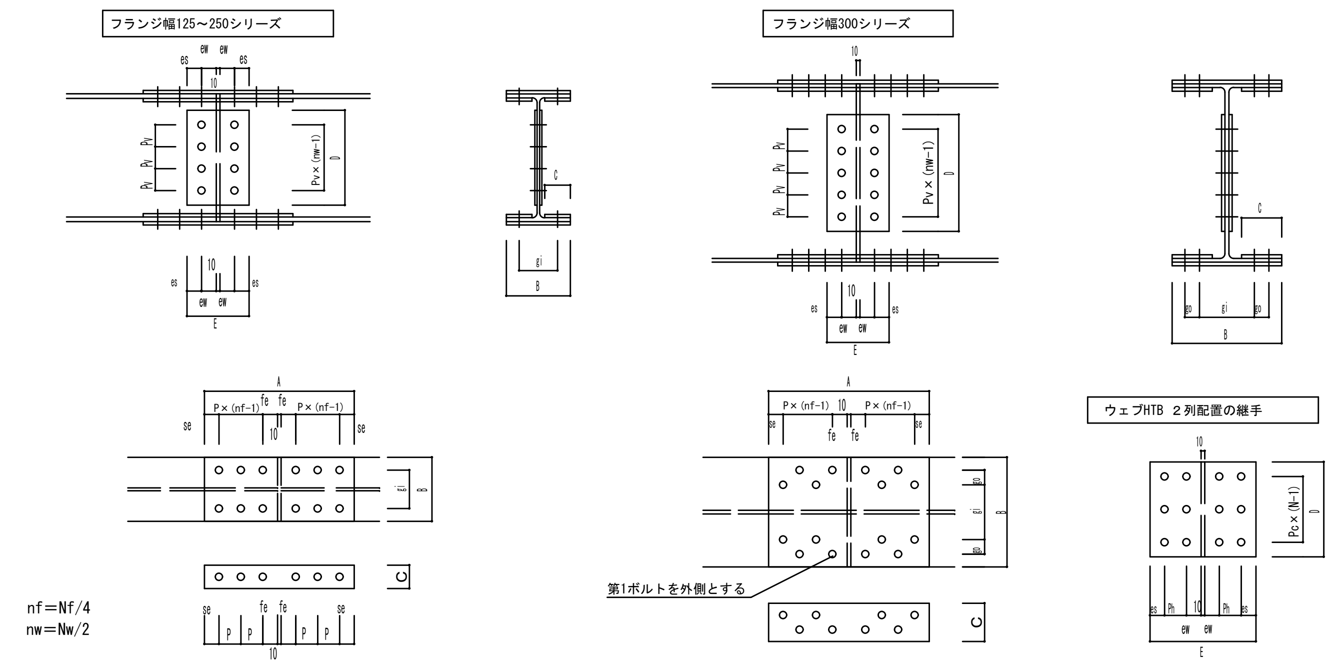
(3) 大梁継手標準図　（ＳＮ４００Ｂ、ＳＳ４００・ＨＴＢ Ｓ１０Ｔ/Ｆ１０Ｔ）

※ 大きな塑性否みが生じる領域に用いない事

梁サイズ	フランジHTB 数量 Nf	径	P (mm)	gi (mm)	go (mm)	fe (mm)	se (mm)	添え板外フランジ 数量	厚さ	A (mm)	B (mm)	添え板内フランジ 数量	厚さ	A (mm)	C (mm)	ウェブHTB 数量 Nw	径	Pv (mm)	Ph (mm)	ew (mm)	es (mm)	添え板ウェブ 数量	厚さ	D (mm)	E (mm)	せん断耐力(kN) 終局	短期	Mj/Mp
H−350×175×7×11	24	M20	60	105		40	40	1	9	410	169	2	9	410	64	12	M20	90	60	70	40	2	9	260	350	1793	811	1.26
H−400×200×8×13	24	M20	60	124		40	40	1	9	410	194	2	12	410	70	12	M20	90	60	70	40	2	12	260	350	1549	762	1.28
H−450×200×9×14	24	M20	60	124		40	40	1	12	410	194	2	12	410	70	9	M20	60		70	40	2	12	380	230	1681	811	1.25
H−340×250×9×14	24	M20	60	150		40	40	1	9	410	244	2	12	410	94	6	M20	60		70	40	2	9	200	230	841	261	1.25
H−390×300×10×16	32	M20	45	150	40	40	40	1	12	440	294	2	12	440	104	12	M20	90	60	40	40	2	9	260	290	1793	744	1.26
H−588×300×12×20	40	M22	45	150	40	40	40	1	16	530	294	2	16	530	104	20	M22	90	70	70	40	2	12	440	370	3475	1634	1.26
H−700×300×13×24	40	M22	45	150	40	40	40	1	19	530	294	2	19	530	104	24	M22	90	70	70	40	2	16	530	370	3191	1934	1.31
H−800×300×14×26	48	M22	45	150	40	40	40	1	22	620	294	2	22	620	104	28	M22	90	70	70	40	2	16	620	370	3616	2249	1.30

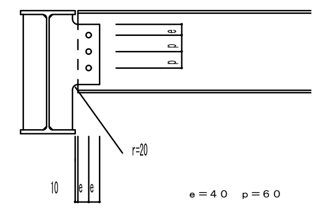
（ＳＮ４９０Ｂ、ＳＭ４９０・ＨＴＢ Ｓ１０Ｔ/Ｆ１０Ｔ）

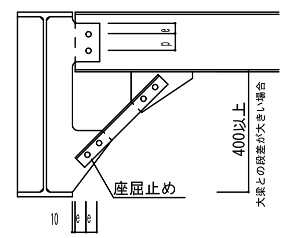
梁サイズ	フランジHTB 数量 Nf	径	P (mm)	gi (mm)	go (mm)	fe (mm)	se (mm)	添え板外フランジ 数量	厚さ	A (mm)	B (mm)	添え板内フランジ 数量	厚さ	A (mm)	C (mm)	ウェブHTB 数量 Nw	径	Pv (mm)	Ph (mm)	ew (mm)	es (mm)	添え板ウェブ 数量	厚さ	D (mm)	E (mm)	せん断耐力(kN) 終局	短期	Mj/Mp
H−800×300×14×26	64	M22	45	150	40	40	40	1	22	800	294	2	22	800	104	42	M22	90	70	70	40	2	16	620	510	6325	3296	1.15
H−900×300×16×28	72	M22	45	150	40	40	40	1	25	890	294	2	25	890	104	36	M22	120	70	70	40	2	16	680	510	3990	2506	1.11

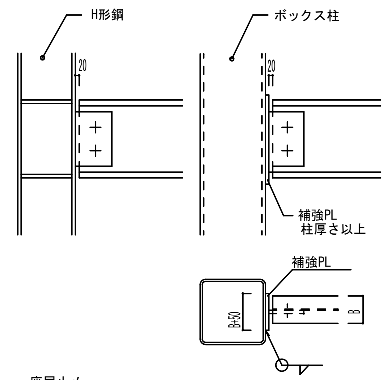


継ぐ部材の板厚の差（製品許容誤差）や食い違いによって生じた差が
１mmを超える場合はフィラープレートを挿入する。

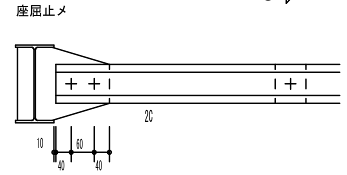
(4) 小梁継手

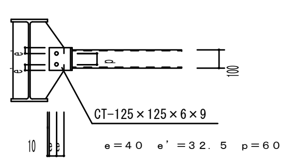






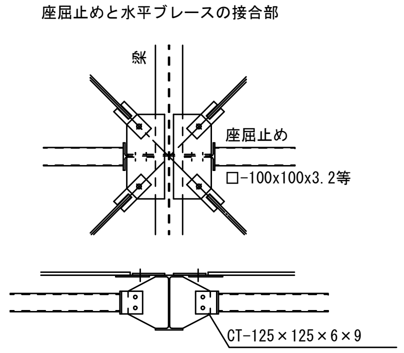
座屈止メ



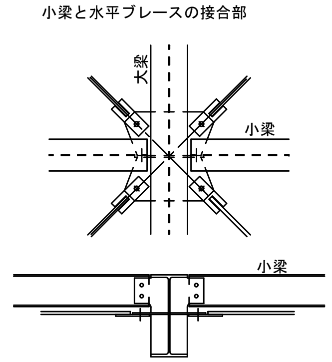


採用	H形鋼サイズ	ガセットPL	H·T·B (F10T)
	H-150x 75x5 x 7	PL-9	2-M16
○	H-175x 90x5 x 8	PL-9	2-M16
○	H-194x150x6 x9	PL-9	2-M16
	H-200x100x5.5x8	PL-9	2-M16
○	H-250x125x6 x 9	PL-9	2-M16
○	H-300x150x6.5x9	PL-9	3-M16
○	H-350x175x7 x11	PL-9	4-M16
○	H-400x200x8 x13	PL-9	4-M20
○	H-450x200x9 x14	PL-12	5-M20
○	H-488x300x11 x18	PL-12	6-M20
	H-500x200x10x16	PL-12	6-M20
	H-600x200x11x17 H-588x300x12x20	PL-16	7-M20
	2C-100x50x20x2.3 2C-100x50x20x3.2	PL-6	2-M16
	□−100×100×4.5	PL-9	2-M16

座屈止めと水平ブレースの接合部



小梁と水平ブレースの接合部

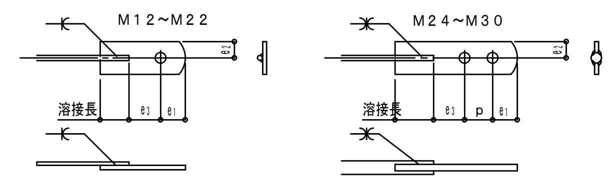


※必ず大梁側に水平ブレースガセットを取り付ける事

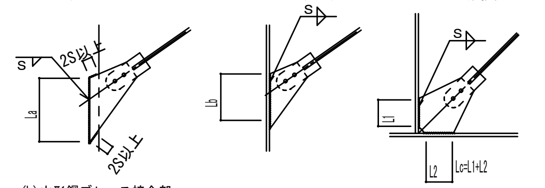
(5) ブレース接合部

(a)建築用ターンバックルブレース接合部(JIS A5540)

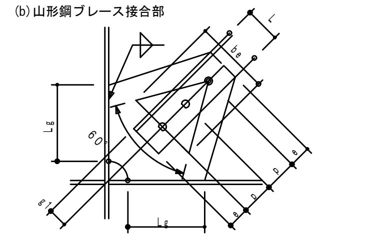
採用	サイズ	e_1 (mm)	e_2 (mm)	e_3 (mm)	溶接長 (mm)	H·T·B (F10T)	ガセットＰＬ	S (mm)	La (mm)	Lb (mm)	Lc (mm)
	M12	40	25	52	40	1−M16	PL − 6	6	60	42	54
	M14	40	25	52	50	1−M16	PL − 6	6	61	43	55
V2	M16	45	25	59	55	1−M16	PL − 9	8	80	56	72
V3	M18	50	32.5	66	60	1−M20	PL − 9	8	80	56	72
	M20	50	32.5	66	75	1−M20	PL − 9	8	97	65	81
V4	M22	55	37.5	73	85	1−M22	PL − 9	10	100	70	90
	M24	50	38.0	70	85	2−M20	PL − 9	10	112	76	96
	M27	50	45	72	90	2−M20	PL − 9	10	145	93	113
	M30	55	45	83	95	2−M22	PL −12	10	177	109	129
	M33	55	50	90	110	2−M22	PL −12	10	177	109	129



溶接凡例　S：スミ肉サイズ　La、Lb、Lc:ガセットプレート溶接長



(b)山形鋼ブレース接合部



辺長　L	75	90	100
ゲージ　g1	40	50	55

	e mm	p mm 標準	最小
M16	40	60	40
M20	40	60	50
M22	40	60	55

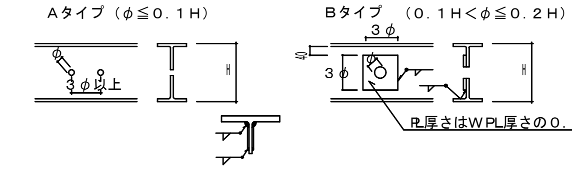
ガセットプレートの有効幅は、上図のｂｅを参考に、　Ｌｇ≧ｂｅとなるよう現寸図で決定する。
ガセットプレートの厚さは９mm以上とする。　ブレースの仕様は、特記による。

４．その他

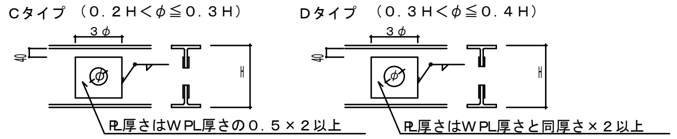
・梁貫通補強

・位置に関しては事前に設計者，及び工事監理者と打ち合わせのこと
・計算で確認された場合は下記の位置，寸法によらなくて良い．
・梁端部（スパンのl/10以内かつ2D以内）は避ける

Ａタイプ（ϕ≦０．１Ｈ）　Ｂタイプ　（０．１Ｈ＜ϕ≦０．２Ｈ）

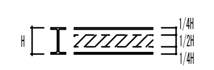


Ｃタイプ　（０．２Ｈ＜ϕ≦０．３Ｈ）　Ｄタイプ　（０．３Ｈ＜ϕ≦０．４Ｈ）



パイプ補強（小径の場合）

・特記なき限り補強方法は上図によるが、孔径（ϕ）は
　０．４Ｈ以下とし、そのピッチは３．０ϕ以上とする。
・スリーブは梁成の中央１／２の範囲とする。



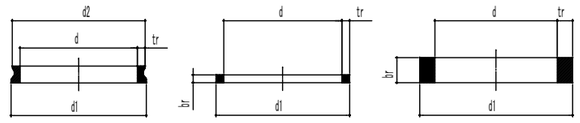
鉄骨梁貫通孔補強工法　ＯＳリング®工法設計施工標準図

一般財団法人日本建築ｾﾝﾀｰによる一般評定　「BCJ評定-ST0135-13」（2023年10月19日付）

岡部株式会社
TEL:03(3624)6201
2023年10月作成

1. 形状寸法及び鋼種

標準貫通孔径(do)	適用貫通孔径(dw)*1	品名	形状	寸法 (mm) d*3	d1	d2	br	tr	すみ肉溶接サイズ(S)*4
φ100	φ 75～φ100	100SS *5	B	102	122	—	10	10	5(6)
		100S	A	100	122	120	20	11	5(6)
		100L		100	144	140	33	22	9
φ125	φ101～φ125	125SS *5	B	127	151	—	12	12	5(6)
		125S	A	125	151	149	24	13	5(6)
		125L		125	177	171	39	26	9
φ150	φ126～φ150	150SS *5	B	152	178	—	13	13	5(6)
		150S	A	150	178	176	27	14	5(6)
		150L		150	208	202	44	29	9
φ175	φ151～φ175	175SS *5	B	177	205	—	14	14	6
		175S	A	175	207	203	30	16	6
		175L		175	241	233	50	33	9
φ200	φ176～φ200	200SS *5	B	202	232	—	15	15	6
		200S	A	200	234	230	32	17	6
		200L		200	270	262	53	35	9
φ250	φ201～φ250	250SS *5	B	252	288	—	18	18	6
		250S	A	250	290	286	39	20	6
		250L		250	332	322	63	41	9
φ300	φ251～φ300	300SS *5	B	302	342	—	20	20	7
		300S	A	300	346	340	43	23	7
		300L	B	300	374	—	70	37	12
		300L *2	C	313 *3	391	—	64	39	12
φ350	φ301～φ350	350SS *5	B	352	396	—	22	22	7
		350S	A	350	400	394	47	25	7
		350L	B	350	430	—	78	40	12
		350L *2	C	363 *3	448	—	73	42.5	12
φ400	φ351～φ400	400S	B	400	446	—	51	23	7
		400S *2	C	413 *3	461	—	48	24	7
		400L	B	400	490	—	89	45	13
		400L *2	C	413 *3	508	—	84	47.5	13
φ450	φ401～φ450	450S	B	450	504	—	51	27	7
		450S *2	C	463 *3	525	—	44	31	7
		450L	B	450	552	—	90	51	13
		450L *2	C	463 *3	568	—	88	52.5	13
φ500	φ451～φ500	500S	B	500	558	—	55	29	8
		500S *2	C	513 *3	575	—	51	31	8
φ600	φ501～φ600	600S	B	600	664	—	63	32	8
		600S *2	C	613 *3	683	—	57	35	8



形状(A)　形状(B)　形状(C)

鋼材の種類および製造方法

形状(A) 建築基準法第37条二号 国土交通大臣認定材
認定番号:MSTL-0558,0561,0601(SNR490B相当)　ﾛｰﾘﾝｸﾞ鍛造加工

形状(B) 建築基準法第37条二号 国土交通大臣認定材
認定番号:MSTL-0558,0561,0601(SNR490B相当)　ﾛｰﾘﾝｸﾞ鍛造加工

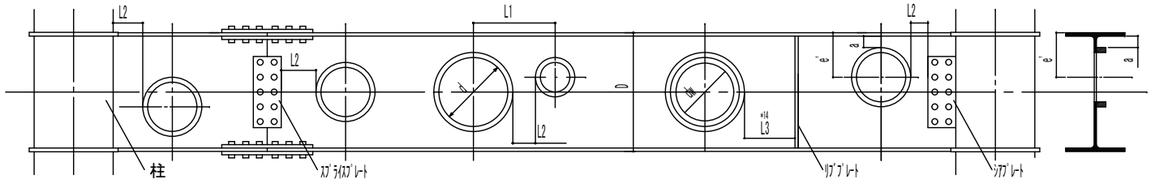
形状(C) STKN490B 鋼管切断加工 または SN490B 厚板切断加工

2. 設計 （OSﾘﾝｸﾞの採用を検討の際は,「OSﾘﾝｸﾞ工法設計ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ」を必ず確認すること）

■検討および使用の決定

貫通孔無しで構造設計を行った結果から得られる貫通孔位置の存在応力に対して,OSﾘﾝｸﾞ工法を用いた貫通孔部分の耐力が上回る事を確認する必要があるので,OSﾘﾝｸﾞの使用の決定は構造設計者により行う。

■適用範囲



記号の説明
tf:ﾌﾗﾝｼﾞ厚, De:De=D(ただし, D>1200の場合De=1200)
d:D-2･tf, d':D-2･tf-2･r(ﾋﾞﾙﾄHの場合は,D-2･tf)
r:ﾛｰﾙH形鋼のﾌｨﾚｯﾄ又はﾋﾞﾙﾄH形鋼の溶接ｻｲｽﾞ
F:梁の許容応力度の基準強度, L:ｽﾊﾟﾝ
A:無孔梁断面積, Aw:無孔梁ｳｪﾌﾞ断面積, E:梁のﾔﾝｸﾞ係数
dw:貫通孔径, d:OSﾘﾝｸﾞ内径, tr:OSﾘﾝｸﾞ肉厚
N:作用軸力(=A･F), Ny:無孔梁降伏軸力
S:OSﾘﾝｸﾞのすみ肉溶接ｻｲｽﾞ

■H形鋼梁

梁せい(D)/梁幅(B)/ｳｪﾌﾞ厚(tw)	1800mm以下/600mm*6 /以下/32mm*7 /以下
梁幅/梁せい比(D/B)	はりの部材種別がFA･FBﾗﾝｸは1/4以上*8
ｳｪﾌﾞ幅厚比(d/tw)	96 $\sqrt{235/F}$ 以下*9

鋼種	SS400,SM400,SN400Ø ,SM490,SN490,SM520, 及び,F≦440N/mm² の大臣認定建築構造用鋼材*10

■貫通孔径(dw)

2/3×D以下*11 ,かつ,
D-2(tf+a+tr)以下

■連続孔間隔(L1)

1.5×dw以上(dwは大きい方),かつ,
OSﾘﾝｸﾞ同士のあきは70mm以上

■偏心量(e')

1/2×D-(1/3×De-1/2×dw)≦e'≦1/2×D+(1/3×De-1/2×dw) *12
かつ、tf+a+tr+1/2･dw ≦ e' ≦ D-(tf+a+tr+1/2･dw)

■OSﾘﾝｸﾞとﾌﾗﾝｼﾞとのあき(a)

600mm＜B	a=max(70mm, r+1.8S)
400mm＜B≦600mm	a=max(40mm, r+1.8S)
150mm＜B≦400mm	a=max(30mm, r+1.8S)
B≦150mm *13	a=max(24mm, r+1.8S)

■SSﾀｲﾌﾟ適用ｽﾊﾟﾝ比(L/D)

孔径比	小梁	片持梁
1/2＜dw/D≦2/3	10.0 以上	5.0 以上
1/4＜dw/D≦1/2	6.4 以上	3.2 以上
1/6＜dw/D≦1/4	2.0 以上	1.0 以上

■OSﾘﾝｸﾞと他部材のあき

L2	70mm以上	L3	30mm以上*14

●軸力が作用する場合*15 の付加事項(適用軸力比[作用軸力/無孔梁降伏軸力]≦0.25)

■H形鋼梁(幅厚比)

	塑性化が予想される領域*16 内	塑性化が予想される領域*16 外
ﾌﾗﾝｼﾞ	B/(2･tf)≦0.33･$\sqrt{E/F}$	B/(2･tf)≦0.53･$\sqrt{E/F}$
ｳｪﾌﾞ	d/tw≦2.4$\sqrt{E/F}$-0.9･$\sqrt{E/F}$･A/Aw･N/Ny	d'/tw≦2.4$\sqrt{E/F}$-0.8$\sqrt{E/F}$･A/Aw･N/Ny

■H形鋼梁(鋼種)

SS400,SM400,SN400,SM490,SN490,及びF≦325N/mm² の大臣認定建築構造用鋼材*10

■貫通孔径(dw)

1/2×D以下、かつ、
D-2(tf+a+tr)以下

■適用ｽﾊﾟﾝ比(L/D)*17

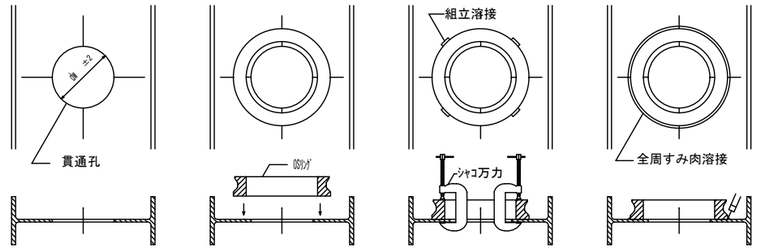
Sﾀｲﾌﾟ または Lﾀｲﾌﾟ片面	6.0 以上
Lﾀｲﾌﾟ両面	4.0 以上

*1:原則,梁ｳｪﾌﾞ貫通孔径は標準貫通孔径とする。
ただし,適用貫通孔径(dw)の範囲内で小さくすることができる。
*2:形状(C)において梁ｳｪﾌﾞ貫通孔径をOSﾘﾝｸﾞ内径(d)まで拡げたい場合は
必ず事前に岡部㈱に問い合わせること。
*3:形状(C)は製造上,最大11mm小さくなる事があるので納まりに注意すること。
*4:括弧内の数値は,梁鋼種がSA440の場合のすみ肉溶接ｻｲｽﾞを示す。
*5:SSﾀｲﾌﾟは大梁には適用不可とする。
*6:梁せい(D)が750mm以上で、かつ,梁幅＜0.9･Dの関係を満たせば,1000mm。
*7:鋼種がSS材,SM材又はSN400Aの場合は25mm以下とする。
*8:塑性化しない場合は制限なし。
*9:FC･FD,または,鋼種がSN400Aの場合は塑性化部に適用不可とする。
*10:適用可能鋼材ﾘｽﾄは,設計ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸの5ﾍﾟｰｼﾞを参照すること。
*11:F>385N/mm² は1/2･D以下。
*12:F>385N/mm² は1/2･D-(1/4･De-1/2･dw)≦e'≦1/2･D+(1/4･De-1/2･dw)。
*13:すみ肉溶接ｻｲｽﾞが6mm以下の仕様に限る。
*14:仮設金物等も含む。但し,他部材よりOSﾘﾝｸﾞを後付けする場合は,
B>600mmならば70mm以上,400mm＜B≦600mmならば40mm以上とする。
*15:ﾌﾞﾚｰｽ付ﾗｰﾒﾝ構造等,梁に作用する軸力を梁の断面算定に考慮する場合。
*16:梁の材端からL/10,又は,2Dのうち大きい方の範囲。
*17:塑性化が予想される領域に設ける場合の補強仕様毎の適用ｽﾊﾟﾝ比(L/D)。

3. 施工 （鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者による施工管理のもと,溶接施工を行うこと。OSﾘﾝｸﾞを溶接施工する際は,納品時に付属している「OSﾘﾝｸﾞ溶接施工ﾏﾆｭｱﾙ」を必ず確認すること）

■施工手順

(1)けがき・孔あけ　(2)OSﾘﾝｸﾞ位置決め　(3)組立溶接　(4)本溶接



梁ｳｪﾌﾞに貫通孔径(dw)をけがき、円形貫通孔(許容差±2mm)をあける。貫通孔の切断ﾊﾞﾘはｸﾞﾗｲﾝﾀﾞｰ等で除去する。貫通孔径は適用貫通孔径(*1)の範囲とする事ができる。

OSﾘﾝｸﾞは最外径側を下にして貫通孔の中心と合うように位置決めをする。OSﾘﾝｸﾞと貫通孔の中心のずれの管理値は「OSﾘﾝｸﾞ溶接施工ﾏﾆｭｱﾙ」による。

OSﾘﾝｸﾞをｼｬｺ万力等によりｳｪﾌﾞ面に密着させる。OSﾘﾝｸﾞ外周に組立溶接を行う。組立溶接は等間隔に3～4箇所,1箇所の長さは40mm以上1ﾊﾟｽとし,ｼｮｰﾄﾋﾞｰﾄﾞにならないように注意する。

ｼｬｺ万力等を外し,本溶接を行う。OSﾘﾝｸﾞの溶接部とH形鋼のﾌｨﾚｯﾄ部またはﾋﾞﾙﾄH形鋼のﾌﾗﾝｼﾞとｳｪﾌﾞの溶接部が重ならないように十分注意する。

(注)OSﾘﾝｸﾞの重量は、500S･300Lが約23kg、600S･350Lが約35kg、400Lは約50kg、450Lは約60kgと
重量物のため,移動の際はｸﾚｰﾝを用いる等、取扱には十分に注意する。

■溶接方法

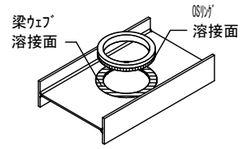
溶接はOSﾘﾝｸﾞ外周の全周すみ肉溶接とし,溶接姿勢は水平すみ溶接とする。必ず鉄骨ｳｪﾌﾞ面を上面に向け、溶接条件(溶接姿勢・溶接環境等)を確保する。OSﾘﾝｸﾞの予熱温度は「OSﾘﾝｸﾞ溶接施工ﾏﾆｭｱﾙ」による。

■溶接材料 下記の表に示す規格を満たし、かつ、490N/mm 級高張力鋼に適用可能なものを使用する。

溶接方法	種　　類
被覆ｱｰｸ溶接	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆ｱｰｸ溶接棒(JIS Z 3211)
ｶﾞｽｼｰﾙﾄﾞｱｰｸ溶接	軟鋼、高張力鋼および低温用鋼用ﾏｸﾞ溶接及びﾐｸﾞ溶接ｿﾘｯﾄﾞﾜｲﾔ(JIS Z 3312)
	軟鋼、高張力鋼および低温用鋼用ｱｰｸ溶接ﾌﾗｯｸｽ入りﾜｲﾔ(JIS Z 3313)

■溶接面の清掃

OSﾘﾝｸﾞおよび梁ｳｪﾌﾞ溶接面は溶接に先立ち、水分･ｽﾗｸﾞ･ごみ･さび･油･塗料はがれやすいｽｹｰﾙ、および、その他溶接に支障となるものは、あらかじめ適切な方法で除去する。

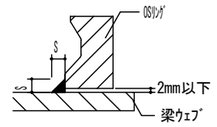


■検査

本溶接のすみ肉溶接ｻｲｽﾞは、OSﾘﾝｸﾞそれぞれに定められた必要すみ肉溶接ｻｲｽﾞ(S)以上でなければならない。また,OSﾘﾝｸﾞと梁ｳｪﾌﾞすき間は2mm以下とする。

OSﾘﾝｸﾞとｳｪﾌﾞ貫通孔の中心のずれの管理値は「OSﾘﾝｸﾞ溶接施工ﾏﾆｭｱﾙ」による。

その他,外観･表面欠陥検査の合否判定は,「日本建築学会：鉄骨精度検査基準」による。不合格となった欠陥箇所は適切な処置を行う。



＜特記事項＞
・スリーブ位置、径や箇所数については、設備図（施工図等）を参照し、梁貫通の仕様及び使用条件（別紙）に基づき設置する。
・施工前に検討書と施工図を作成の上、監督職員の承諾を得ること。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	一級建築士登録第270124号 構造設計一級建築士登録第 2066号 原田 和彦	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 鉄骨梁貫通孔補強工法　ＯＳリング工法設計施工標準図
	日付 令和７年６月		製図 原田				縮尺 A1：NS A3：NS

図面 NO. S－００７

S造向け 型枠用デッキプレート　　ＳＦデッキ（セーフティフラット）設計・施工標準

※ ■印を適用する

（一社）公共建築協会 R4.3 評価 第941-0100A005号

１．製品・材料

（１） 質量および断面性能

☑	品名	板厚 (mm)	質量 (Z12の場合) kg/m	質量 (Z12の場合) kg/m²	断面二次 I (10⁴mm⁴/m)	断面係数 Z (10³mm³/m)
□	SF08	0.8	7.90	12.5	120	18.7
□	SF10	1.0	9.80	15.6	150	24.4
■	SF12	1.2	11.7	18.6	180	29.4
□	SF14	1.4	12.6	21.6	206	34.4
□	SF16	1.6	15.4	24.4	232	38.3
□	KP-ES-T	0.8	5.89	10.1	12.2	9.8
備考	断面二次モーメントは全断面有効の値である。 断面係数は、有効幅（=50t）を考慮した値である。					

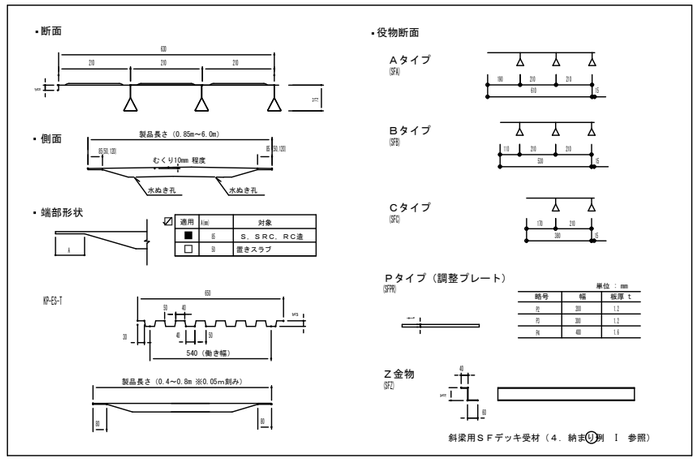
（２） 使用材料

☑	表面処理	最小付着量 (g/m²)	使用材料	適用板厚
■	Z12	120	SGCC-Z12	1.4mm以下
			SGHC-Z12	1.6mm
□	Z27	275	SGCC-Z27	1.4mm以下
			SGHC-Z27	1.6mm

＊SFについて、Z27をご希望の場合は予め御相談下さい。
＊KP-ES-T及びSFZについては、Z27の製品はありません。

（３） 形状寸法

（単位：mm）



☑	適用 (mm)	対象
■	65	S，SRC，RC造
□	50	置きスラブ

単位：mm

略号	幅	板厚 t
PA	200	1.2
PB	300	1.2
PC	400	1.6

＊溝部換算スラブ厚さは、KP-ES-T 12mmです。
※改良等のため予告なく仕様を変更する場合がありますのでご了承下さい。

２．設計・資料

（１）断面応力およびたわみの算定

a．断面応力の算定

フラットデッキに作用する最大曲げモーメント（M）の算定式は下式による。

$M = (1/8)\cdot W\cdot L^2 \times 10^6$　(N·mm/m)

W：施工時の鉛直荷重　(N/m²)

L：スパン長さ　(m)

断面応力（σ）の算定式は下式による。

$\sigma = M / Zt$　(N/mm²)

M：最大曲げモーメント　(N·mm/m)

Zt：正曲げ用断面係数（有効幅考慮）(mm³/m)

b．たわみの算定

たわみ（δ）の算定式は下式による。

$\delta = (C\cdot 5\cdot W\cdot L^4) / (384\cdot E\cdot I) \times 10^6$(mm)

C：たわみ算定用係数(C=1.6)

E：鋼材のヤング係数(205,000N/mm²)

I：断面二次モーメント（全断面有効）(mm⁴/m)

【スラブ厚さ別許容スパン早見表】

（施工時作業荷重1,470N/m²）　単位：mm（ただし10mm単位で切捨て表示）

スラブ厚さ (mm)	支持区分 / 施工状況の種類 / 板厚 (mm)	許容スパン（mm）【中間支保工なし】 S造の１間 0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	KP-ES-T	許容スパン（mm）【中間支保工あり】 S造の１間 0.8	1.0	1.2	KP-ES-T
普通コンクリート ρ=24kN/m³	120	2,610	2,870	3,040	3,180	3,270	800	4,370	4,900	4,900	800
	130	2,540	2,830	2,990	3,110	3,220	↑	4,150	↑	↑	↑
	140	2,480	2,780	2,940	3,060	3,170		3,950			
	150	2,420	2,750	2,900	3,020	3,130		3,770			
	160	2,370	2,700	2,860	2,980	3,080		3,600			
	170	2,320	2,640	2,820	2,940	3,040		3,450	↓		
	180	2,270	2,590	2,780	2,900	3,010		3,310	4,900		
	190	2,220	2,540	2,750	2,870	2,970		3,180	4,750		
	200	2,180	2,490	2,720	2,830	2,940		3,060	4,570	↓	
	250	2,000	2,290	2,500	2,690	2,790	↓	2,570	3,850	4,900	↓
	300	1,860	2,120	2,330	2,510	2,660	800	2,220	3,330	4,420	800
軽量コンクリート ρ=20kN/m³	120	2,760	2,980	3,140	3,270	3,380	800	4,900	4,900	4,900	800
	130	2,700	2,930	3,100	3,220	3,340	↑	4,670	↑	↑	↑
	140	2,640	2,880	3,050	3,180	3,290		4,450			
	150	2,580	2,850	3,010	3,130	3,250		4,260			
	160	2,520	2,810	2,970	3,090	3,200		4,080			
	170	2,470	2,780	2,940	3,060	3,180		3,920			
	180	2,420	2,750	2,900	3,020	3,130		3,770			
	190	2,380	2,710	2,870	2,980	3,090		3,630	↓		
	200	2,340	2,680	2,840	2,950	3,060		3,500	4,900		
	250	2,150	2,450	2,690	2,810	2,910	↓	2,970	4,420	↓	↓
	300	2,000	2,280	2,500	2,690	2,790	800	2,570	3,850	4,900	800

（２）許容スパン表算定条件

（１）許容応力度　：fb=205N/mm²　　σ/fb≦1/α
（２）たわみ許容値　：δa=1000·L/180+5.0mm　δ≦δa
（３）たわみ算定用係数　：C=1.6
（４）断面係数（Ｚｔ）　：有効幅(50t)を考慮した値
（５）断面二次モーメント（Ｉ）　：全断面有効とした値
（６）作業荷重（Ｗ３）　：W3 = 1,470 又は2,450(N/m²)（「労働安全衛正規則」より）
※ ホッパーやバケット打設工法の場合
（７）エンドクローズ強度：デッキ端部の反力がエンドクローズ強度ePaを上回らないことを確認して下さい。Pe=W×L/2≦ ePa
（８）許容支圧荷重　：デッキリブ許容支圧荷重は右表の通りとする。

デッキ板厚 (mm)	0.8	1.0	1.2
許容支圧荷重 (N/m)	8,800	14,700	19,600

※スパン（Ｌ）の取り方

－S造の場合－　　－中間支保工を用いる場合－

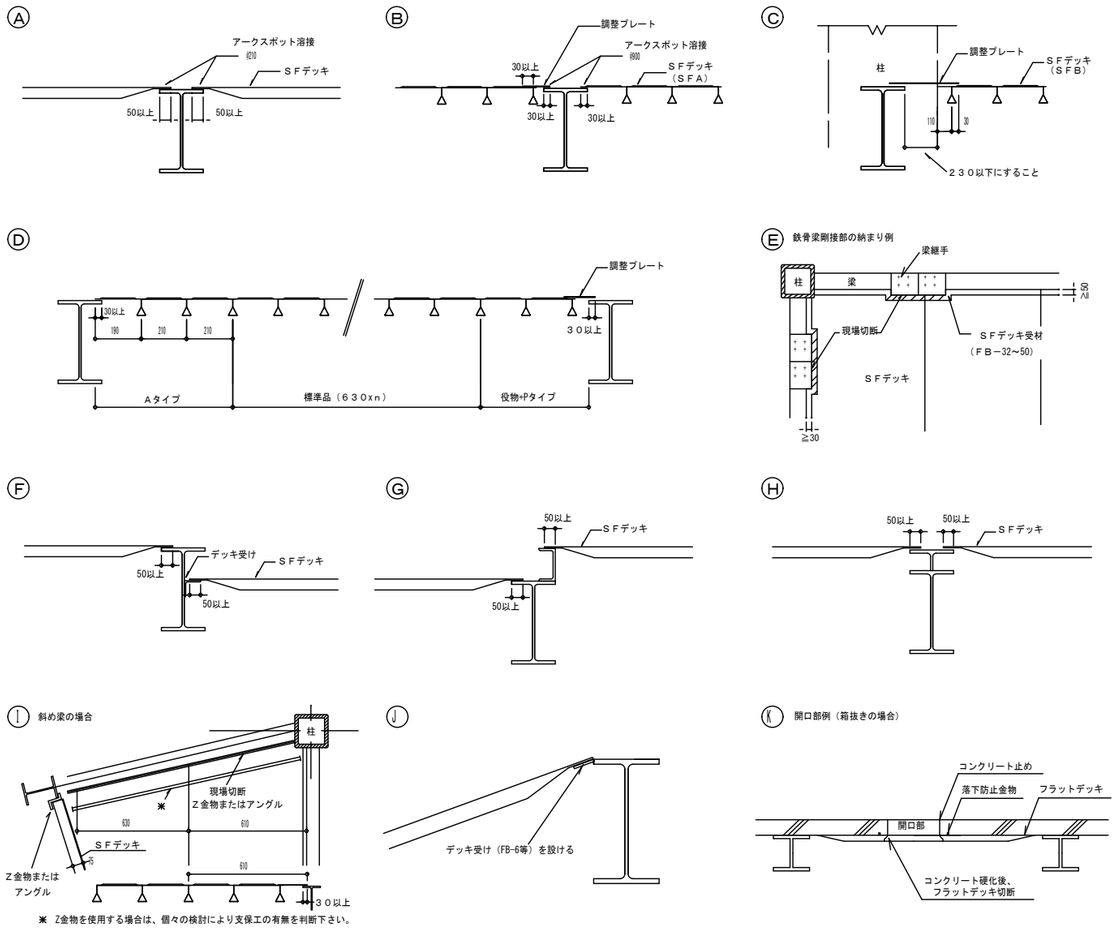
※　詳細は、『床型枠用鋼製デッキプレート（フラットデッキ）設計施工指針・同解説』による。

３．施工手順

項　目	施　工　要　領
１．計画	（１）工法、応力、たわみを確認し、割付図（施工図）を作成する。 （２）鉄骨や型枠の工程を十分考慮して施工計画を立てる。
２．搬入・養生	（１）ＳＦデッキにワイヤー傷、あて傷がつかないように、また、ＳＦデッキの形状保持、防錆、安全に十分注意を払って搬入、養生する。 （２）鉄骨梁や型枠の上に仮置きする場合、過度の荷重がかからないように分散配置し、また、梁から落下しないように十分養生する。
３．敷き込み	<S造> （１）敷込み前に必ず梁上を清掃する。 （２）柱回り、梁接合部、梁段差部にてデッキ受け材が施工図通り取付けられているか確認する。 （３）割付図に従いＳＦデッキを不陸のないように敷込む。 （４）ＳＦデッキをアークスポット溶接により梁へ接合する。 （５）ＳＦデッキ（標準品）相互の接合は差込み方式になるので通常の場合、溶接は必要ないが、スパンが大きい場合や、デッキ相互の馴染みが良くない場合は必要に応じて溶接する。 （６）ＳＦデッキ（標準品）と役物・調整プレートとの接合部はアークスポット溶接する。

項　目	施　工　要　領
４．切断・孔明け	（１）切断はガス、プラズマ、電動のこ、グラインダー等を、また、孔明けはホールソー、ドリル等を使用してＳＦデッキの材質・形状 を損なわないよう行う。 （２）ＳＦデッキを切断する場合、下部作業の安全、他デッキ・梁等の養生に十分留意する。 （３）スリーブ等の開口は原則箱抜き型枠とし、コンクリート硬化後にＳＦデッキを切断する。
５．その他	（１）中間サポートをする場合、大引きがデッキのむくりを拘束しないよう設置する （２）デッキスパンが短くスラブが極厚の場合、デッキ端部の強度や中間サポートする場合の大引きに対するデッキリブ底面の支圧強度を事前に確認する。

４．納まり例(S造)



※ Z金物を使用する場合は、個々の検討により支保工の有無を判断下さい。

改訂：2022年5月

FD1

<特記事項>
・デッキに不要にあけた穴は、コンクリート打設前に必ず穴埋めをすること。
・コンクリート打設前には、デッキ裏面にコンクリートのろが付着しないよう対策を講じること。（デッキ見え掛かり部に限る）

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号　大橋康孝
検印 大橋　総括 大橋　主任 大橋
日付 令和７年６月　製図 原田
一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

設計 NO.

工事名：令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名：S造向け 型枠用デッキプレート　ＳＦデッキ(セーフティフラット)設計･施工標準

縮尺：A1：NS　A3：NS

図面 NO.：Ｓ－００８

ベースパックＮＴ

角形鋼管　ＦＸ３シリーズ「保有耐力接合タイプ」
　　Ｓ３シリーズ「柱脚ヒンジタイプ」
F値325N/mm²以下
□-300×300 ～ □-750×750 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0054-11」（令和4年5月20日付）

ベースパックＮＴ柱脚工法 設計 施工 標準図 1/3

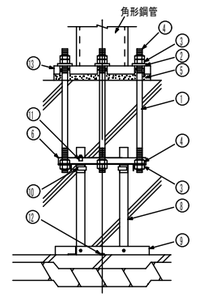
●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。
●本標準図は1/3～3/3で構成されている。

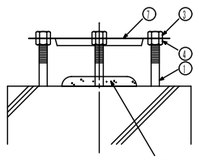
岡部株式会社　TEL03（3624）5336
旭化成建材株式会社　TEL03（3296）3515

2023年9月作成

1．工法概要

1．1 構成部材



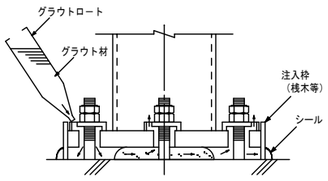


①ハイテンアンカー（アンカーボルト）
②注入座金
③NTナット
④Sナット
⑤ベースパックグラウト（グラウト材）
⑥定着ベルト
⑦テンプレート
⑧フレームポスト
⑨フレームベース
⑩ベルト受け金物
⑪ベルト固定具
⑫ステコンアンカー
⑬ベースプレート

(注)上記①～⑪の構成部材は
ベースパック構成部品として供給される。

(注)上記⑦～⑫は現場状況により
仕様が異なる場合がある。

1．2 柱脚の定着方法概要



2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	
	TSC295	
325	BCP325	○
	STKR490	

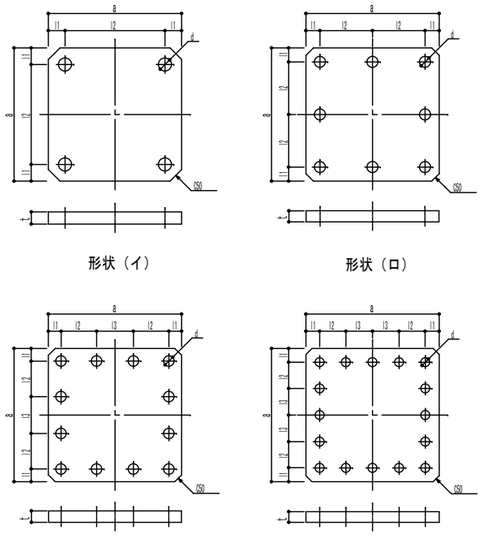
（注）組立柱は適用外

3．構成部材・寸法

3．1 ベースプレート

●材質
TMCP325B（基準強度325N/mm²）　【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

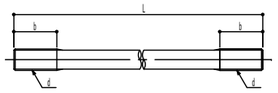
●形状寸法
各寸法は、各仕様毎に「ベースパックNT柱脚工法設計施工標準図2/3・3/3」に記載の値とする。



3．2 ハイテンアンカー（アンカーボルト）

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

●引張強さ：880N/mm² 以上
（転造ねじ 降伏比75%以下）

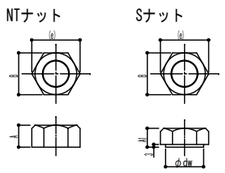


※bは不完全ねじ部を除く完全ねじ部ねじ長さ

単位 mm

呼びd	L	b
M36	870	140
M39	880	140
M42	940	150
M45	950	150
M48	1010	160
M52	1030	170
M56	1100	180
M60	1170	200
M64	1220	200

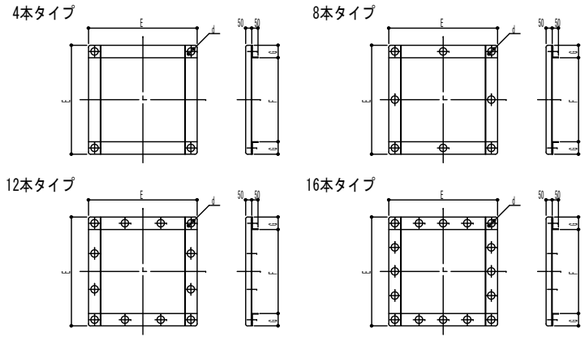
3．3 NTナット【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】・Sナット



単位 mm

呼び	A	A1	B	(e)	dw
M36	29	21	55	64	44
M39	31	23	60	69	44
M42	34	25	65	75	59
M45	36	27	70	81	59
M48	38	29	75	87	59
M52	42	31	80	92	59
M56	45	34	85	98	74
M60	48	36	90	104	74
M64	51	38	95	110	74

3．4 定着ベルト【材質：SS400】



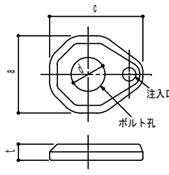
単位 mm

記号	E	F	G	d
S300Z04	530	330	100	45
300Z08	530	330	100	45
S350N04	530	330	100	60
S350Z06	560	360	100	45
350Z04Q08	620	420	100	45
350N04Q08	620	420	100	60
400N08	660	460	100	60
S450Z06	690	490	100	45
S450N06	690	490	100	60
450N08	720	520	100	60
450B08	770	510	130	75

記号	E	F	G	d
S500N08	740	540	100	60
500N08	760	560	100	60
500B08	830	570	130	75
S550N08	810	610	100	60
S550B08	860	600	130	75
550B08	880	620	130	75
550B12	880	620	130	75
S600N08	880	660	100	60
600B08	910	650	130	75
600N12	880	680	100	60
600B12	930	670	130	75

記号	E	F	G	d
S650N12	930	730	100	60
650B12	980	720	130	75
700N12	980	780	100	60
700B12	1030	770	130	75
700N16	980	780	100	60
700B16	1030	770	130	75
S750N12	1030	830	100	60
S750B12	1130	870	130	75
750N16	1070	870	100	60
750B16	1120	860	130	75

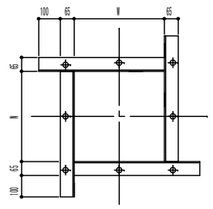
3．5 注入座金【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料, S45C】



単位 mm

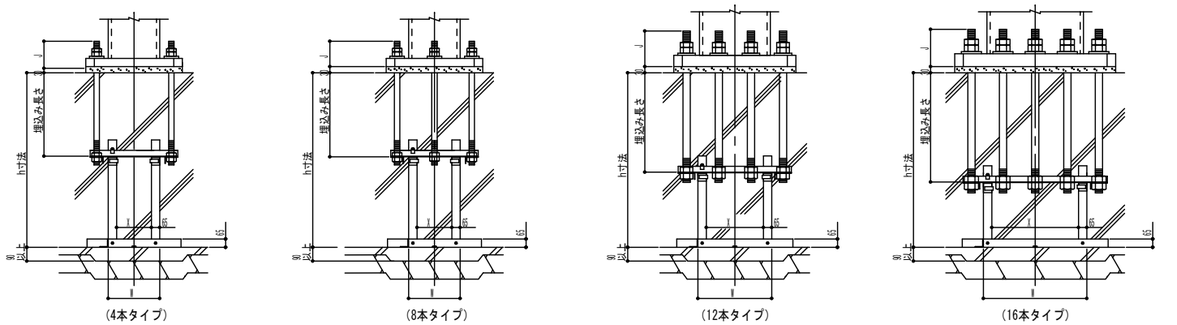
適用アンカーボルト	a	c	t	d
M36	86	115	25	37
M39	94	122	25	40
M42	98	125	25	43
M45	106	133	25	46
M48	112	138	25	49
M52	120	145	25	53
M56	128	153	25	57
M60	138	161	25	61
M64	146	168	25	65

3．6 フレームベース



3．7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

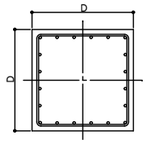
●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。
据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は「ベースパックNT柱脚工法設計施工標準図2/3・3/3」表に記載の値とする。



単位 mm

4．コンクリート柱型

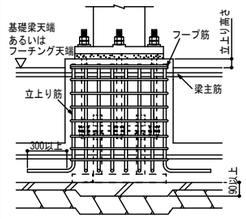
4．1 形状・材質



●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は「ベースパックNT柱脚工法設計施工標準図2/3・3/3」に記載の値とする。

●鉄筋
立上り筋：SD345
フープ筋：SD295

4．2 配筋・基礎立上り



●立上がり筋の下部折り曲げは300mm以上とする。

●基礎立上がり高さは、200mm以下とする。
ただしブレースが接合する場合は50mm以下とする。

●立上り筋の頂部にはフックをもうけなくてよい。

●トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4．3 特記事項

左記内容によらない場合、および「ベースNT柱脚工法設計施工標準図2/3・3/3」によらない場合は下記による。

採用

□ 「ベースNT柱脚工法設計施工標準図2/3・3/3」表標準配筋仕様からの変更あり

□ 立上り筋に頂部フックが必要

5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●特記なき場合は「ベースパックＮＴ標準施工要領書」による。

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6　鉄骨工事 2007年版より）

図	溶接方法	適用板厚T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α1(°) 標準値	開先角度α1(°) 許容差	溶接姿勢
ベースプレート	被覆アーク溶接	6～	7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			9	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。
・「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（左：管理許容差、右括弧内：限界許容差）を示す。

●溶接条件

溶接材料

柱材の引張強さ	溶接材料の規定及び種類
400N/mm 級	JIS Z 3211　（軟鋼用被覆アーク溶接棒）D43XX JIS Z 3212　（高張力鋼用被覆アーク溶接棒）D50XX JIS Z 3312　（軟鋼及び高張力鋼用マグ溶接ソリッドワイヤ）YGW-1X JIS Z 3313　（軟鋼、高張力及び低温用鋼用被覆アーク溶接フラックス入りワイヤ）YFW-X430X ,YFW-X50XX 等
490N/mm 級	JIS Z 3212　（高張力鋼用被覆アーク溶接棒）D50XX JIS Z 3312　（軟鋼及び高張力鋼用マグ溶接ソリッドワイヤ）YGW-11, YGW-12 YGW-13(CO₂ 用), YGW-15, YGW-16(Ar-CO₂ 用) JIS Z 3313　（軟鋼、高張力及び低温用鋼用被覆アーク溶接フラックス入りワイヤ）YFW-X50XX 等

（注）表中のX印は、記号あるいは数字の省略を表す。

■ベースプレートの予熱
●気温(鋼材表面温度)が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。
その他必要に応じて適切な予熱をする。

ベースプレートの予熱温度の標準

溶接方法 ＼ 材質・板厚(mm)	TMCP鋼 40≦t≦75	TMCP鋼 75<t≦100
低水素系被覆アーク溶接	50 ℃	80 ℃
CO₂ガスシールドアーク溶接	予熱なし	50 ℃

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。探傷は柱側から行う。
■不良溶接部の補正：有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。
■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号　大橋康孝

検印	総括	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和７年６月		製図 原田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

設計 NO.

工事名　令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名　ベースパックＮＴ柱脚工法設計施工標準図１

縮尺　A1：NS　A3：NS

図面 NO.　S－００９

ベースパックＮＴ
ＦＸ３シリーズ
「保有耐力接合タイプ」

角形鋼管
F値325N/mm²以下
□-300×300 ～ □-750×750 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0054-11」（令和4年5月20日付）

ベースパックＮＴ柱脚工法 設計施工 標準図 2/3

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。
●本標準図は1/3～3/3で構成されている。

岡部株式会社
TEL03（3624）5336

旭化成建材株式会社
TEL03（3296）3515

2023年9月作成

６．工事場施工

６．１ 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

６．２ アンカーボルトの据付け

●ハイテンアンカー（アンカーボルト）の据付けは、予め捨てコン上にセットされたフレーム上に、定着ベルト・ハイテンアンカー・テンプレート等でアンカーユニットを組立て、フレームに固定する。
●フレームベースは、ステコンアンカーにより水平に固定する。
●位置決めは、テンプレートの中心位置と地墨等の柱心を合致させることにより行う。
標準許容差は下図による。

６．３ 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーユニットおよびフレームとの取り合いを考慮する。
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

６．４ 建方

●レベルモルタル施工は、ベースパックグラウト(グラウト材)を使用し大きさは下図による。

６．５ アンカーボルトの本締め(弛み止め)

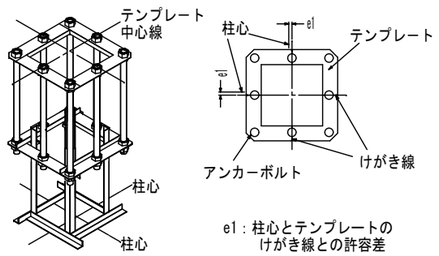
●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。なお、余長は20mm以上確保する。

６．６ ベースパックグラウト（グラウト材）の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(25kg)に対して、計量カップで4.0～4.6ℓ の水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。
●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

６．７ ベースパックにおける標準許容差

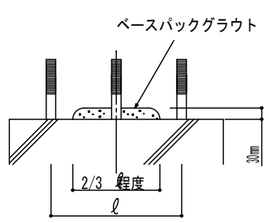
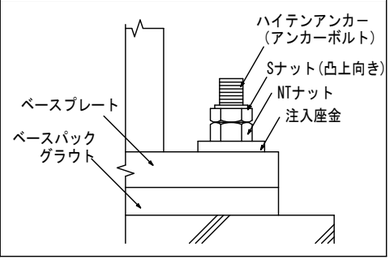
図



e1：柱心とテンプレートの
けがき線との許容差

標準許容差

-2≦e1≦2
ボルト天端の基準高さより誤差は
-10≦e≦10

レベルモルタル施工方法	ナット弛み止め
	

７．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。
●本工法のうち６．２アンカーボルトの据付け及び６．６ベースパックグラウトの注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。
●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

種別	採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	l1	l2	l3	d	ハイテンアンカー 本数-呼び	埋込み長さ(mm)	定着ベルト 記号	コンクリート柱型 寸法(mm) D	配筋 立上り筋(注1)	フープ筋(注1)	設計基準強度(N/mm²)	フレームベース内法 寸法(mm) W	フレームポスト間 寸法(mm) X	最低h寸法(mm)	J寸法(mm)
柱材F値325以下用		30-19FK3	□-300×300	t≦19	TMCP鋼	(ロ)	650	50	100	225	-	φ55	8-M36	600	300Z08	850	20-D22	D13@125(D16@150)	21以上	270	140	850	175
		35-16FK3	□-350×350	t≦16	TMCP鋼	(ロ)	700	50	80	270	-	φ55	8-M36	600	350Z5400Z08	900	24-D22	D13@125(D16@150)	21以上	360	230	900	175
		35-19FK3	□-350×350	t≦19	TMCP鋼	(ロ)	700	55	80	270	-	φ60	8-M39	600	350Z5400Z08	900	24-D22	D13@125(D16@150)	21以上	360	230	900	175
		35-22FK3	□-350×350	t≦22	TMCP鋼	(ロ)	700	60	80	270	-	φ60	8-M42	650	350A5400A08	900	20-D25	D13@125(D16@150)	21以上	360	230	900	190
		35-25FK3	□-350×350	t≦25	TMCP鋼	(ロ)	700	60	80	270	-	φ60	8-M42	650	350A5400A08	900	24-D25	D13@125(D16@150)	21以上	360	230	900	190
		40-16FK3	□-400×400	t≦16	TMCP鋼	(ロ)	750	60	85	290	-	φ65	8-M42	650	400A08	950	20-D25	D13@100(D16@150)	21以上	400	270	950	190
		40-19FK3	□-400×400	t≦19	TMCP鋼	(ロ)	750	60	85	290	-	φ65	8-M45	650	400A08	950	24-D25	D13@100(D16@150)	21以上	400	270	950	190
		40-22FK3	□-400×400	t≦22	TMCP鋼	(ロ)	750	65	85	290	-	φ70	8-M48	700	400A08	950	24-D25(20-D29)	D13@100(D16@150)	21以上	400	270	950	200
		40-25FK3	□-400×400	t≦25	TMCP鋼	(ロ)	750	65	85	290	-	φ70	8-M48	700	400A08	950	28-D25(24-D29)	D13@100(D16@150)	21以上	400	270	950	200
		45-16FK3	□-450×450	t≦16	TMCP鋼	(ロ)	800	65	80	320	-	φ70	8-M45	650	450A08	1000	24-D25	D13@100(D16@150)	21以上	460	330	1000	190
		45-19FK3	□-450×450	t≦19	TMCP鋼	(ロ)	800	65	80	320	-	φ70	8-M48	700	450A08	1000	28-D25(24-D29)	D13@100(D16@150)	21以上	460	330	1000	200
		45-22FK3	□-450×450	t≦22	TMCP鋼	(ロ)	800	70	80	320	-	φ70	8-M52	700	450A08	1000	28-D25(24-D29)	D13@100(D16@150)	21以上	460	330	1000	220
		45-25FK3	□-450×450	t≦25	TMCP鋼	(ロ)	800	75	80	320	-	φ75	8-M52	700	450A08	1000	32-D25(28-D29)	D13@100(D16@150)	21以上	460	330	1000	220
		45-28FK3	□-450×450	t≦28	TMCP鋼	(ロ)	800	75	80	320	-	φ75	8-M56	750	450B08	1050	36-D25(28-D29)	D13@100(D16@150)	21以上	460	330	1000	230
		50-19FK3	□-500×500	t≦19	TMCP鋼	(ロ)	860	65	90	340	-	φ70	8-M52	700	500A08	1050	28-D25(24-D29)	D13@100(D16@150)	21以上	510	380	1100	220
		50-22FK3	□-500×500	t≦22	TMCP鋼	(ロ)	900	75	100	350	-	φ75	8-M56	750	500B08	1100	32-D25(28-D29)	D13@100(D16@150)	21以上	510	380	1100	230
		50-25FK3	□-500×500	t≦25	TMCP鋼	(ロ)	900	75	100	350	-	φ75	8-M56	750	500B08	1100	40-D25(28-D29)	D13@100(D16@150)	21以上	510	380	1100	230
		50-28FK3	□-500×500	t≦28	TMCP鋼	(ロ)	900	80	100	350	-	φ80	8-M60	800	500B08	1150	40-D25(32-D29)	D13@100(D16@150)	21以上	510	380	1100	250
		50-32FK3	□-500×500	t≦32	TMCP鋼	(ロ)	900	85	100	350	-	φ85	8-M64	850	500B08	1150	44-D25(40-D29)	D13@100(D16@150)	21以上	510	380	1100	250
		55-19FK3	□-550×550	t≦19	TMCP鋼	(ロ)	950	75	100	375	-	φ75	8-M56	750	550B08	1150	32-D25(28-D29)	D13@100(D16@150)	24以上	570	440	1100	230
		55-22FK3	□-550×550	t≦22	TMCP鋼	(ロ)	950	75	100	375	-	φ80	8-M60	800	550B08	1150	36-D25(28-D29)	D13@100(D16@150)	24以上	570	440	1100	250
		55-25FK3	□-550×550	t≦25	TMCP鋼	(ロ)	950	75	100	375	-	φ80	8-M60	800	550B08	1150	44-D25(32-D29)	D13@100(D16@150)	24以上	570	440	1100	250
		55-28FK3	□-550×550	t≦28	TMCP鋼	(ホ)	950	85	100	250	250	φ75	12-M56	750	550B12	1200	44-D25(32-D29)	D13@100(D16@150)	24以上	570	440	1100	230
		55-32FK3	□-550×550	t≦32	TMCP鋼	(ホ)	950	85	100	250	250	φ75	12-M56	750	550B12	1200	48-D25(40-D29)	D13@100(D16@150)	24以上	570	440	1100	230
		60-19FK3	□-600×600	t≦19	TMCP鋼	(ホ)	1000	70	100	265	270	φ70	12-M48	700	600A12	1200	36-D25(28-D29)	D13@100(D16@150)	24以上	620	490	1100	200
		60-22FK3	□-600×600	t≦22	TMCP鋼	(ホ)	1000	80	100	265	270	φ75	12-M52	700	600A12	1200	40-D25(32-D29)	D13@100(D16@150)	24以上	620	490	1100	220
		60-25FK3	□-600×600	t≦25	TMCP鋼	(ホ)	1000	80	100	265	270	φ75	12-M56	750	600B12	1200	44-D25(36-D29)	D13@100(D16@150)	24以上	620	490	1100	230
		60-28FK3	□-600×600	t≦28	TMCP鋼	(ホ)	1000	85	100	265	270	φ80	12-M56	750	600B12	1250	48-D25(40-D29)	D13@100(D16@150)	24以上	620	490	1100	230
		60-32FK3	□-600×600	t≦32	TMCP鋼	(ホ)	1000	85	100	265	270	φ80	12-M60	800	600B12	1250	56-D25(44-D29)	D13@100(D16@150)	24以上	620	490	1100	250
		65-22FK3	□-650×650	t≦22	TMCP鋼	(ホ)	1050	80	100	280	290	φ80	12-M56	750	650B12	1300	44-D25(36-D29)	D16@150	24以上	670	540	1100	230
		65-25FK3	□-650×650	t≦25	TMCP鋼	(ホ)	1050	80	100	280	290	φ80	12-M60	800	650B12	1300	48-D25(40-D29)	D16@150	24以上	670	540	1100	250
		65-28FK3	□-650×650	t≦28	TMCP鋼	(ホ)	1050	85	100	280	290	φ85	12-M60	800	650B12	1350	52-D25(44-D29)	D16@100	24以上	670	540	1100	250
		65-32FK3	□-650×650	t≦32	TMCP鋼	(ホ)	1050	85	100	280	290	φ85	12-M64	850	650B12	1350	64-D25(48-D29)	D16@100	24以上	670	540	1100	250
		70-22FK3	□-700×700	t≦22	TMCP鋼	(ヘ)	1150	80	125	225	225	φ75	16-M52	700	700A16	1400	48-D25(36-D29)	D16@100	24以上	720	590	1100	220
	○	70-25FK3	□-700×700	t≦25	TMCP鋼	(ヘ)	1150	80	125	225	225	φ75	16-M56	750	700B16	1400	56-D25(44-D29)	D16@100	24以上	720	590	1100	230
		70-28FK3	□-700×700	t≦28	TMCP鋼	(ヘ)	1150	90	125	225	225	φ80	16-M56	750	700B16	1450	60-D25(48-D29)	D16@100	24以上	720	590	1100	230
		70-32FK3	□-700×700	t≦32	TMCP鋼	(ヘ)	1150	90	125	225	225	φ80	16-M60	800	700B16	1450	68-D25(52-D29)	D16@100	24以上	720	590	1100	250
		75-22FK3	□-750×750	t≦22	TMCP鋼	(ヘ)	1250	90	130	245	250	φ75	16-M52	700	750A16	1500	52-D25(40-D29)	D16@100	24以上	810	680	1100	220
		75-25FK3	□-750×750	t≦25	TMCP鋼	(ヘ)	1250	90	130	245	250	φ75	16-M56	750	750B16	1500	56-D25(44-D29)	D16@100	24以上	810	680	1100	230
		75-28FK3	□-750×750	t≦28	TMCP鋼	(ヘ)	1250	95	130	245	250	φ85	16-M60	800	750B16	1550	64-D25(48-D29)	D16@100	24以上	810	680	1100	250
		75-32FK3	□-750×750	t≦32	TMCP鋼	(ヘ)	1250	95	130	245	250	φ85	16-M64	850	750B16	1550	68-D25(56-D29)	D16@100	24以上	810	680	1100	250

注1)（ ）表記ある場合は、（ ）内寸法も使用できる。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号 大橋康孝

検印	総括	主任
大 橋	大 橋	大 橋
日付 令和７年６月		製図 原 田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

設計 NO.

工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名 ベースパックＮＴ柱脚工法設計施工標準図２

縮尺 A1：NS A3：NS

図面 NO. Ｓ－０１０

ベースパックⅡ型

角形鋼管
F値295N/mm 以下
□-350×350 ～ □-550×550 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-18」（令和4年11月17日付）

ベースパック柱脚工法 設計 施工 標準図

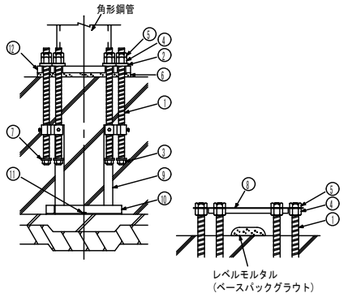
●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社 TEL03（3624）5336
旭化成建材株式会社 TEL03（3296）3515

2023年9月作成

1．工法概要

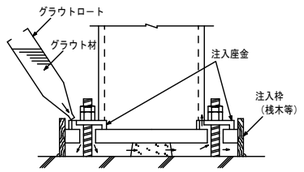
1．1 構成部材



①アンカーボルト
②注入座金
③Dナット
④Dナット
⑤Dナット(S)
⑥ベースパックグラウト（グラウト材）
⑦定着座金
⑧テンプレート
⑨フレームポスト
⑩フレームベース
⑪ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑫ベースプレート

(注)上記①～⑫の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑧～⑪は現場状況により仕様が異なる場合がある。
(注)アンカーボルト12本の場合はつなぎプレートが取り付く。

1．2 柱脚の定着方法概要



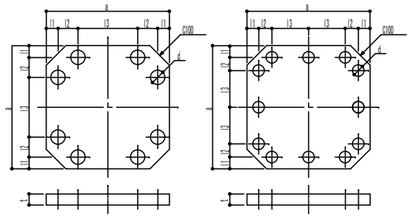
2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	○
	JIS R295	
	TS295	

3．構成部材・寸法

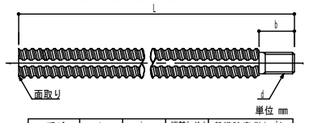
3．1 ベースプレート

●材質
SM490B 【JIS G 3136】
BT-HT440B-SP 【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
（建築構造用高溶接性高性能５９０N/mm² 鋼材）



3．2 アンカーボルト（Dアンカーボルト）

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

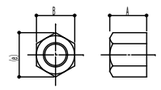


単位 mm

呼び	L	b	端部ねじd	基準強度(N/mm²)
D38	650	46	M33	390
D41	900	49	M36	390
D41H	995	49	M36	490
D51	1110	57	M45	390
D51H	1215	57	M45	490

3．3 Mナット・Dナット

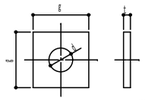
【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】



単位 mm

	呼び	A	B	(h)
Mナット	M33	26	50	58
	M36	29	55	64
	M45	36	70	81
Dナット	D38	45	65	75
	D41	48	70	80
	D51	60	80	92
Dナット(S)	D38	30	65	75
	D41	32	70	80
	D51	40	80	92

3．4 定着座金

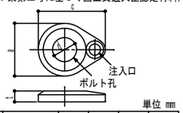


単位 mm

適用アンカーボルト	g	t	d	材質
D38	65	12	37	SS400
D41, D41H	70	12	37	SS400
D51, D51H	85	12	46	

3．5 注入座金

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料, SS490】

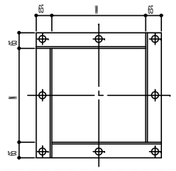


単位 mm

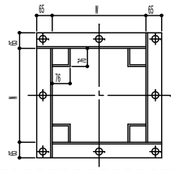
記号	適用アンカーボルト	a	c	t	d
PS38	D38	96	122	20	43
PS41	D41, D41H	100	127	20	46
PS51	D51, D51H	110	140	20	58

3．6 フレームベース

i）Cタイプ



ii）特Cタイプ

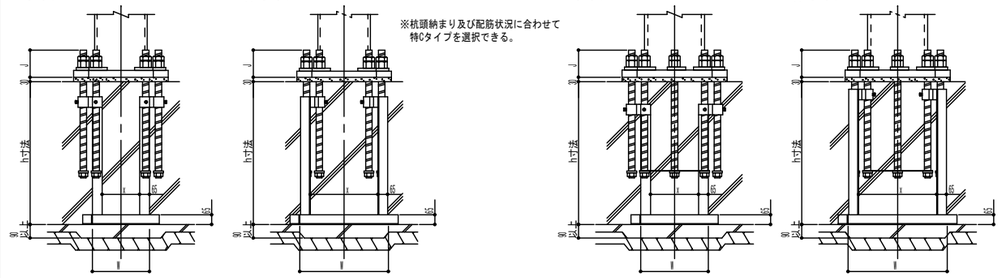


3．7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は下表に記載の値とする。

〈 Cタイプ ※〉 〈 特Cタイプ 〉 〈 Cタイプ ※〉 〈 特Cタイプ 〉

※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。



（アンカーボルト8本） （アンカーボルト12本）

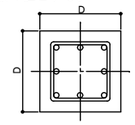
単位 mm

採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	l1	l2	l3	d	アンカーボルト 本数-呼び	基準強度(N/mm²)	標準アンカーボルト	コンクリート柱型 寸法 D(mm) 標準フレーム	特C	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度(N/mm²)	フレームベース 寸法 W(mm) 標準フ	特C	フレームポスト間 寸法 x(mm) 標準フ	特C	最低h寸法(mm)	J寸法(mm)
	35-16R	□-350×350	t≦16	SM490B	(ハ)	630	45	65	85	330	φ70	8-D38	390	C	800	840	12-D25	D13@100	21以上	380	590	250	450	750	180
	35-19R	□-350×350	t≦19	BT-HT440B-SP	(ハ)	630	44	65	85	330	φ70	8-D38	390	C	800	840	12-D25	D13@100	21以上	380	590	250	450	750	180
	35-22R	□-350×350	t≦22	BT-HT440B-SP	(ハ)	630	44	65	85	330	φ75	8-D41	390	C	800	830	16-D22	D13@100	21以上	380	590	250	450	800	190
	35-25R	□-350×350	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	650	48	75	85	165	φ70	12-D38	390	C	850	-	16-D25	D13@100	21以上	380	-	250	-	800	180
	40-16R	□-400×400	t≦16	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	44	65	85	400	φ75	8-D41	390	C	870	910	12-D25	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	190
	40-19R	□-400×400	t≦19	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	48	65	85	400	φ75	8-D41	390	C	870	900	16-D22	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	190
	40-22R	□-400×400	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	700	48	65	85	200	φ70	12-D38	390	C	900	910	16-D25	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	180
	40-25R	□-400×400	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	710	48	70	85	200	φ75	12-D41	390	C	900	910	16-D25	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	190
	45-19R	□-450×450	t≦19	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	48	65	85	225	φ70	12-D38	390	C	950	960	16-D25	D13@100	21以上	500	710	370	570	800	180
○	45-22R	□-450×450	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	52	65	85	225	φ75	12-D41	390	C	1000	1000	20-D25	D13@100	21以上	500	710	370	570	800	190
	45-25R	□-450×450	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	52	65	85	225	φ75	12-D41H	490	C	1000	1000	24-D25	D13@100	24以上	500	710	370	570	850	200
	45-28R	□-450×450	t≦28	BT-HT440B-SP	(ニ)	770	60	75	110	200	φ75	12-D51	390	C	1000	-	24-D25	D13@100	24以上	460	-	330	-	950	220
	50-19R	□-500×500	t≦19	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	52	65	85	260	φ75	12-D41	390	C	1000	1030	20-D25	D13@100	21以上	570	780	440	640	800	190
	50-22R	□-500×500	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	65	85	260	φ75	12-D41H	490	C	1050	1050	24-D25	D16@100	21以上	570	780	440	640	850	200
	50-25R	□-500×500	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	75	110	225	φ75	12-D51	390	C	1050	1050	24-D25	D16@100	24以上	510	750	380	610	950	220
	50-28R	□-500×500	t≦28	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	75	110	225	φ75	12-D51H	490	C	1140	-	32-D25	D16@100	24以上	510	-	380	-	1050	235
	55-19R	□-550×550	t≦19	BT-HT440B-SP	(ニ)	840	52	65	85	270	φ75	12-D41H	490	C	1100	1100	24-D25	D16@100	24以上	590	800	460	660	850	200
	55-22R	□-550×550	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	60	65	85	300	φ75	12-D41H	490	C	1100	1120	24-D25	D16@100	24以上	650	880	520	720	850	200
	55-25R	□-550×550	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	60	75	110	265	φ75	12-D51	390	C	1100	1100	32-D25	D16@100	24以上	590	830	460	690	950	220
	55-28R	□-550×550	t≦28	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	65	75	110	265	φ75	12-D51H	490	C	1150	-	36-D25	D16@100	24以上	590	-	460	-	1050	235

4．コンクリート柱型

4．1 形状・材質

●形状
形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。

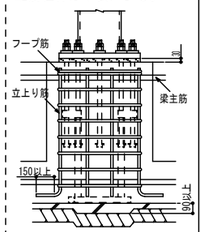


●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は下表に記載の値とする。

●鉄筋
SD295(D13, D16)
SD345(D22, D25)

4．2 配筋

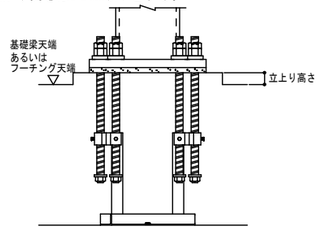
配筋仕様は下表による。



※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4．3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。



4．4 特記事項 上記内容によらない場合は下記による。

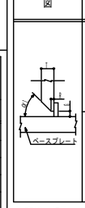
採用
□ 下表標準柱型寸法からの変更あり （「柱型寸法最大・最小値一覧」による）
□ 下表標準配筋仕様からの変更あり
□ 立上り筋に頂部フックが必要

5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ｹｶﾞｷ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6 鉄骨工事 2007年版より）

図	溶接方法	適用板厚t(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	許容差	ルート面R(mm) 標準値	許容差	開先角度α1(°) 標準値	許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			9	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱
●気温(鋼材表面温度)が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) 40≦t≦50	50＜t≦75
低水素系被覆アーク溶接	SM490B	50 ℃	
	BT-HT440B-SP	予熱なし	予熱なし
CO2ガスシールドアーク溶接	SM490B	予熱なし	
	BT-HT440B-SP	予熱なし	予熱なし

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

6．工事場施工

6．1 基礎工事

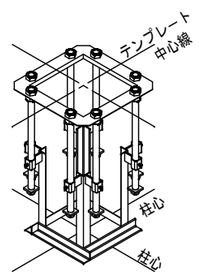
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6．2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本(8本)で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



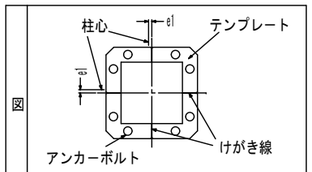


図	e1 ：柱心とテンプレートのけがき線との許容差
標準許容差	-2≦e1≦2 基準高さより誤差は -3≦e≦10

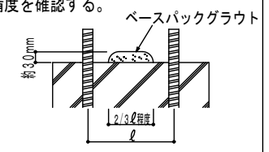
6．3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6．4 建方

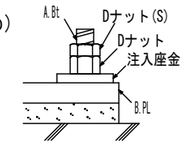
●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6．5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

●Dナット(S)による弛み止めは右図による。



6．6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋(6kg)に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち６．２アンカーボルト据付け及び６．６ベースパックグラウトの注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号 大橋康孝

検印	照査	主任
大 橋	大 橋	大 橋
日付 令和７年６月		製図 原 田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

設計 NO.

工事名：令和７年度 焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

図面名：ベースパック柱脚工法設計施工標準図（Ⅱ型）

縮尺：A1：NS A3：NS

図面NO.：S－011

ベースパックⅠ型

角形鋼管
F値295N/mm 以下
□-150×150 ～ □-300×300 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-18」（令和4年11月17日付）

ベースパック柱脚工法 設計 施工 標準図

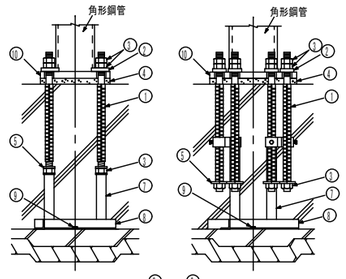
●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社 TEL03（3624）5336
旭化成建材株式会社 TEL03（3296）3515

2023年9月作成

1．工法概要

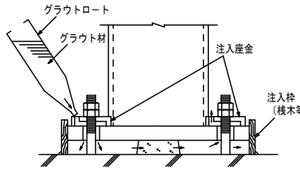
1．1 構成部材



①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④ベースパックグラウト(グラウト材)
⑤定着座金
⑥テンプレート
⑦フレームポスト
⑧フレームベース
⑨ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑩ベースプレート

(注)上記①～⑩ の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記ⓐ～ⓖは現場状況により仕様が異なる場合がある。

1．2 柱脚の定着方法概要



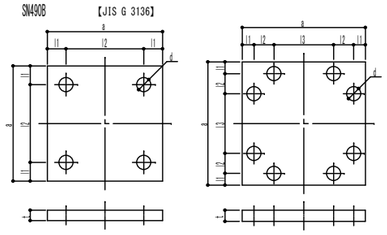
2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCP295	○
	TSC295	

3．構成部材・寸法

3．1 ベースプレート

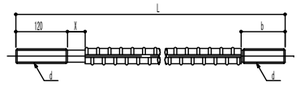
●材質
SM490B 【JIS G 3136】



形状（イ）　形状（ハ）

3．2 アンカーボルト（Mアンカーボルト）【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i）アンカーフレーム Aタイプの場合

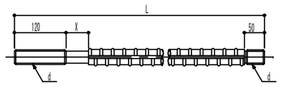


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	b 注1)	基準強度 N/mm²
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690,725	45	95,140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770,810	60	90,135	490

注1)据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

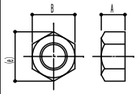


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L	X	基準強度 N/mm²
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

3．3 Mナット

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

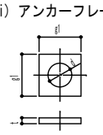


単位 mm

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3．4 定着座金

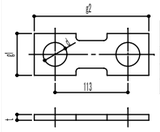
i）アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm

適用アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

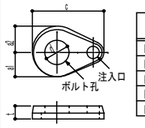


単位 mm

適用アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

3．5 注入座金

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

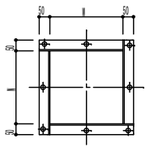


単位 mm

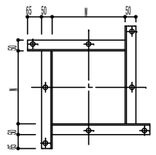
記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	16	28
PM30	M30	32	42	101	16	31
PM33	M33	35	45	110	16	34
PM36	M36	35	45	110	16	37
PM39	M39	38	48	118	16	40

3．6 フレームベース

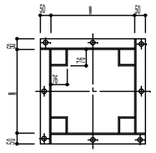
i）Aタイプ



ii）Cタイプ



iii）特Cタイプ

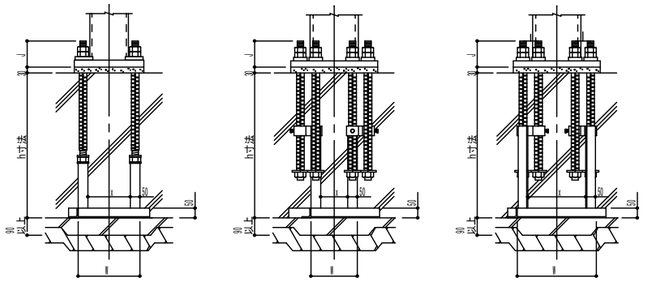


3．7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は下表に記載の値とする。

〈 Aタイプ 〉　〈 Cタイプ ※〉　〈 特Cタイプ 〉

※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

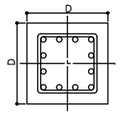


単位 mm

4．コンクリート柱型

4．1 形状・材質

●形状
形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。

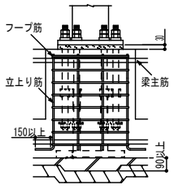


●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm 以上とする。

●鉄筋
SD295(D13,D16)
SD345(D19,D22)

4．2 配筋

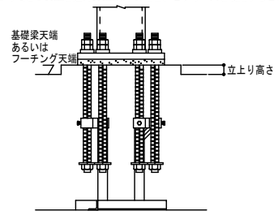
配筋仕様は下表による。



※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4．3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



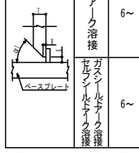
4．4 特記事項 上記内容によらない場合は下記による。

採用
□ 下表標準柱型寸法からの変更あり （「柱型寸法最大・最小値一覧」による）
□ 下表標準配筋仕様からの変更あり
□ 立上り筋に頂部フックが必要

5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ｶﾞｲｾﾝ）に柱材軸心を合わせる。
■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6 鉄骨工事 2007年版より ）

図	溶接方法	適用板厚 t(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α1(°) 標準値	開先角度α1(°) 許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1：45	−2.5,+∞ (−5,+∞)	下向き
			9	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1：45	−2.5,+∞ (−5,+∞)	下向き
			7	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1：35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱
●気温(鋼材表面温度)が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) t<32	32≦t<40	40≦t≦50
低水素系被覆アーク溶接	SM490B	予熱なし	50 ℃	50 ℃
CO2ガスシールドアーク溶接	SM490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

6．工事場施工

6．1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6．2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。
●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。
●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

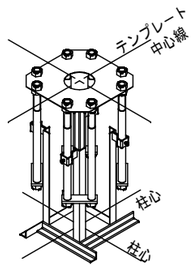
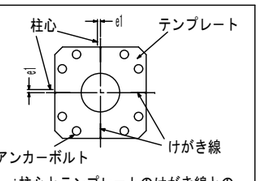


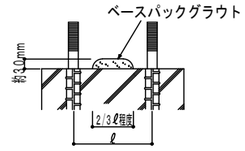
図	 e1 ：柱心とテンプレートのけがき線との許容差
標準許容差	-2≦e1≦2 基準高さより誤差は -3≦e≦10

6．3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6．4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6．5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6．6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋（6kg）に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。
●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。
●本工法のうち６．２アンカーボルト据付け及び６．６ベースパックグラウトの注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。
●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	l1	l2	l3	d	アンカーボルト 本数-呼び	基準強度 (N/mm²)	アンカーフレームタイプ	コンクリート柱型 寸法D(mm) 標準フレーム	特C	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度 (N/mm²)	フレームベース 寸法W(mm) 標準フレーム	特C	フレームポスト間 寸法X(mm) 標準フレーム	特C	最低h寸法 (mm)	J寸法 (mm)
	15-12V	□-150×150	t≦12	SM490B	(イ)	300	28	50	200	-	φ45	4-M27	490	A	500	-	12-D16	D13@100	21以上	250	-	150	-	550	135
	17-12V	□-175×175	t≦12	SM490B	(イ)	320	32	45	230	-	φ45	4-M30	490	A	530	-	12-D19	D13@100	21以上	280	-	180	-	600	135
	20-09V	□-200×200	t≦9	SM490B	(イ)	360	28	50	260	-	φ45	4-M30	490	A	560	-	12-D16	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
	20-12V	□-200×200	t≦12	SM490B	(イ)	360	32	50	260	-	φ50	4-M33	490	A	560	-	12-D19	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
	25-09V	□-250×250	t≦9	SM490B	(イ)	420	32	55	310	-	φ55	4-M36	490	A	610	-	12-D19	D13@100	21以上	360	-	260	-	650	150
○	25-12V	□-250×250	t≦12	SM490B	(イ)	420	36	55	310	-	φ55	4-M39	490	A	630	-	12-D19	D13@100	21以上	370	-	270	-	650	150
	25-16V	□-250×250	t≦16	SM490B	(ハ)	450	32	50	80	190	φ50	8-M33	490	C	620	640	12-D19	D13@100	21以上	240	440	140	300	650	135
	30-09V	□-300×300	t≦9	SM490B	(イ)	480	36	60	360	-	φ55	4-M39	490	A	680	-	12-D22	D13@100	21以上	420	-	320	-	650	150
	30-12V	□-300×300	t≦12	SM490B	(ハ)	520	32	50	80	260	φ50	8-M30	490	C	700	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	650	135
	30-16V	□-300×300	t≦16	SM490B	(ハ)	520	40	50	80	260	φ55	8-M36	490	C	710	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	700	150
○	30-19V	□-300×300	t≦19	SM490B	(ハ)	550	50	50	80	290	φ55	8-M36	490	C	740	740	12-D22	D13@100	21以上	340	540	240	400	700	150

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号 大橋康孝

検印	照査	主任
大 橋	大 橋	大 橋
日付 令和７年６月		製図 原 田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

設計 NO.

工事名：令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名：ベースパック柱脚工法設計施工標準図(Ⅰ型)

縮尺：A1：NS　A3：NS

図面NO.：S－012

円形鋼管用
ベースパック

円形鋼管
F値235N/mm² φ190～φ812 用
F値325N/mm²以下 φ190～φ812 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-18」（令和4年11月17日付）

ベースパック柱脚工法 設計 施工 標準図 1/2

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。
●本標準図は1/2～2/2で構成されている。

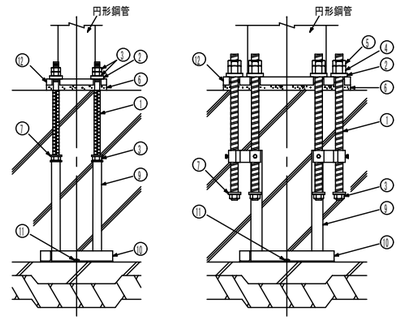
岡部株式会社
TEL03（3624）5336

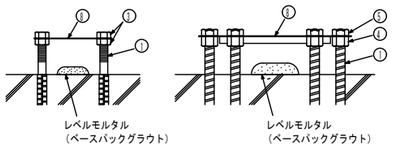
旭化成建材株式会社
TEL03（3296）3515

2023年9月作成

1．工法概要

1．1 構成部材



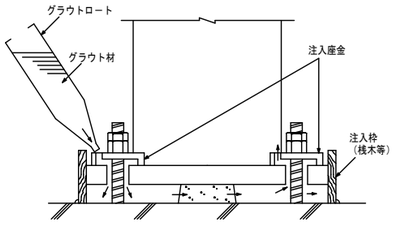


（Mアンカーボルト）　（Dアンカーボルト）

①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④Dナット
⑤Dナット(S)
⑥ベースパックグラウト(グラウト材)
⑦定着座金
⑧テンプレート
⑨フレームポスト
⑩フレームベース
⑪ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑫ベースプレート

(注)上記①～⑦ の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑧～⑪ は現場状況により仕様が異なる場合がある。
(注)アンカーボルト12本の場合はつなぎプレートが取り付く。

1．2 柱脚の定着方法概要



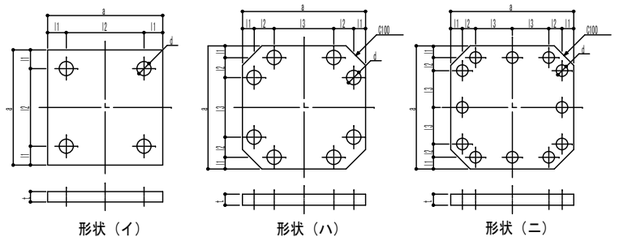
2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	STK400	
	STKM400	○
325	STK490	
	STKM490	

3．構成部材・寸法

3．1 ベースプレート

●材質
SN490B 【JIS G 3136】
TMCP325B 【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
BT-HT440B-SP 【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
（建築構造用高溶接性高性能５９０N/mm² 鋼材）

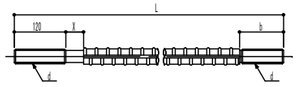


形状（イ）　形状（ハ）　形状（ニ）

3．2 アンカーボルト【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

●Mアンカーボルト

i）アンカーフレーム Aタイプ の場合

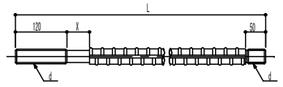


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	b 注1)	基準強度 (N/mm²)
M20	D22	695	45	133	490
M33	D35	690,735	45	95,140	490

注1)据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

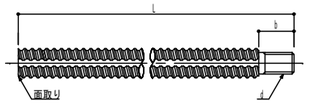


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L	X	基準強度 (N/mm²)
M20	D22	695	45	490
M33	D35	720	45	490

●Dアンカーボルト

iii）アンカーフレーム Cタイプ・Dタイプ の場合

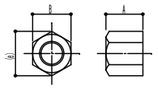


単位 mm

呼び	L	b	端部ねじd	基準強度(N/mm²)
D38	650	46	M33	390
D41	900	49	M36	390
D41H	995	49	M36	490
D51	1110	57	M45	390
D51H	1215	57	M45	490

3．3 Mナット・Dナット

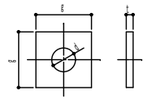
【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】



単位 mm

	呼び	A	B	(B)
Mナット	M20	24	46	53
	M33	26	50	58
	M36	29	55	64
	M45	36	70	81
Dナット	D38	45	65	75
	D41	48	70	80
	D51	60	80	92
Dナット(S)	D38	30	65	75
	D41	32	70	80
	D51	40	80	92

3．4 定着座金



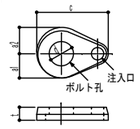
単位 mm

適用アンカーボルト	E	t	d	材質
M20	55	9	31	SS400
M33	60	9	34	
D38	65	12	37	
D41,D41H	70	12	37	SS400
D51,D51H	85	12	46	

3．5 注入座金

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料,SS490】

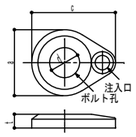
i）Mアンカーボルト用



単位 mm

記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM20	M20	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34

ii）Dアンカーボルト用

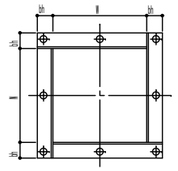


単位 mm

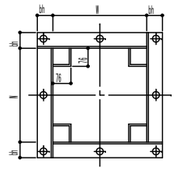
記号	適用アンカーボルト	a	c	t	d
PD38	D38	96	122	20	43
PD41	D41,D41H	100	127	20	46
PD51	D51	110	140	20	58

3．6 フレームベース

i）Aタイプ・Cタイプ



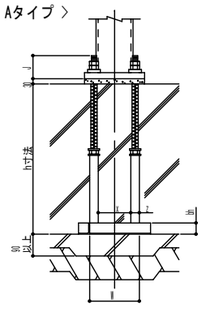
ii）Dタイプ



3．7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

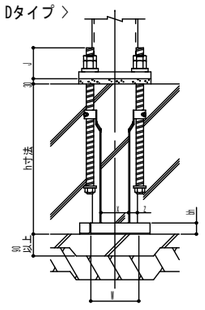
●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は「円形鋼管用ベースパック柱脚工法設計施工標準図2/2」（以下「標準図2/2」と記す）の表に記載の値とする。

〈 Aタイプ 〉



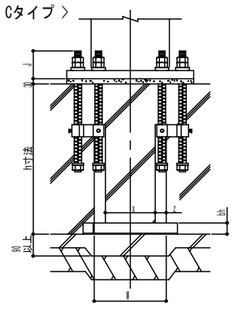
（Mアンカーボルト4本）

〈 Dタイプ 〉



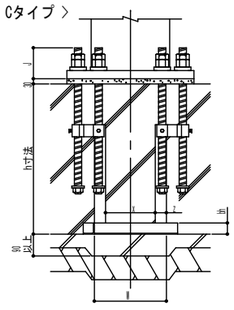
（Dアンカーボルト4本）

〈 Cタイプ 〉



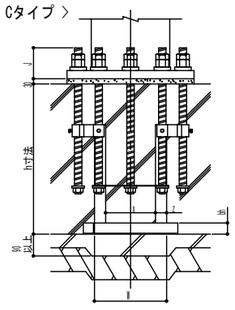
（Mアンカーボルト8本）

〈 Cタイプ 〉



（Dアンカーボルト8本）

〈 Cタイプ 〉



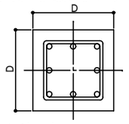
（Dアンカーボルト12本）

単位 mm

4．コンクリート柱型

4．1 形状・材質

●形状
形状は正方形とし、寸法は「標準図2/2」表に記載の値とする。

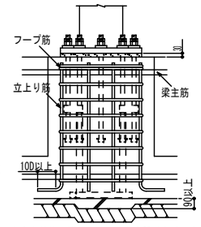


●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は「標準図2/2」表に記載の値とする。

●鉄筋
SD295(D13,D16)
SD345(D19,D22,D25)

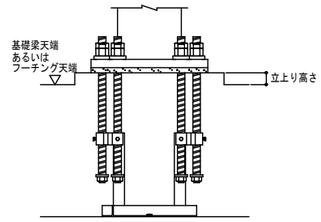
4．2 配筋

配筋仕様は「標準図2/2」の表による。



※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4．3 基礎立上がり ●基礎立上がり高さは50mm以下とする。



4．4 特記事項 上記内容によらない場合は下記による。

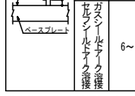
採用
□ 「標準図2/2」表標準柱型寸法からの変更あり（「柱型寸法最大・最小値一覧」による）
□ 「標準図2/2」表標準配筋仕様からの変更あり
□ 立上り筋に頂部フックが必要

5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ｹﾀﾞｷ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6 鉄骨工事 2007年版より）

図	溶接方法	適用板厚T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α1(°) 標準値	開先角度α1(°) 許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	−2, +∞ (−3, +∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1：45	−2.5, +∞ (−5, +∞)	下向き
			9	−2, +∞ (−3, +∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	−2, +∞ (−3, +∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1：45	−2.5, +∞ (−5, +∞)	下向き
			7	−2, +∞ (−3, +∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1：35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱
●気温(鋼材表面温度)が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) 32≦t<40	40≦t≦50	50<t≦75
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	50 ℃	50 ℃	
	BT-HT440B-SP		予熱なし	予熱なし
	TMCP325B		50 ℃	
CO2ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし	
	BT-HT440B-SP		予熱なし	予熱なし
	TMCP325B		予熱なし	

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

円形鋼管用
ベースパック

円形鋼管

F値235N/mm² φ190～φ812 用
F値325N/mm²以下 φ190～φ812 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-18」（令和4年11月17日付）

ベースパック柱脚工法 設計 施工 標準図 2/2

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。
●本標準図は1/2～2/2で構成されている。

岡部株式会社 TEL03（3624）5336
旭化成建材株式会社 TEL03（3296）3515

2023年9月作成

6．工事場施工

6．1 基礎工事

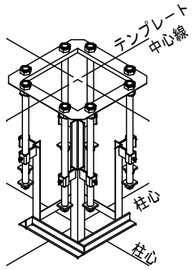
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6．2 アンカーボルト据付け

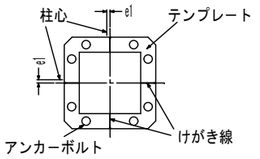
●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本(8本)で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



図



e1 ：柱心とテンプレートのけがき線との許容差

標準許容差
-2≦e1≦2
基準高さより誤差は
-3≦e≦10

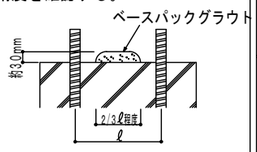
6．3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6．4 建方

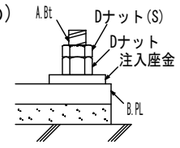
●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6．5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

●Dナット(S)による弛み止めは右図による。



6．6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋(6kg)に対して、計量カップで1.0～1.ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6．2アンカーボルト据付け及び6．6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

種別	採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	l1	l2	l3	d	アンカーボルト 本数-呼び	基準強度 (N/mm²)	コンクリート柱型 寸法(mm) D	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度 (N/mm²)	アンカーフレームタイプ	フレームベース 寸法(mm) ℓ	bh	フレームポスト間 寸法(mm) x	z	最低h寸法 (mm)	J寸法 (mm)
V2 柱材F値235用		216-13V2	φ190.7, φ216.3	t≦12.7	SN490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ45	4-M30	490	540	12-D16	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		216-16V2	φ190.7, φ216.3	t≦16.0	SN490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ50	4-M33	490	540	12-D19	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		267-13V2	φ267.4	t≦12.7	SN490B	(イ)	400	36	55	290	-	φ50	4-M33	490	590	12-D19	D13@100	21以上	A	340	50	240	50	600	135
		267-16V2	φ267.4	t≦16.0	SN490B	(イ)	420	40	65	290	-	φ60	4-D38	390	580	12-D19	D13@100	21以上	D	324	50	184	50	800	180
		318-13V2	φ300.0, φ318.5	t≦12.7	SN490B	(イ)	460	40	65	330	-	φ60	4-D38	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	180
		318-16V2	φ300.0, φ318.5	t≦16.0	SN490B, TMCP325B	(イ)	460	50	65	330	-	φ65	4-D41	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	190
		318-25V2	φ300.0, φ318.5	t≦25.0	SN490B, TMCP325B	(ハ)	530	50	65	85	230	φ60	8-D38	390	690	12-D22	D13@100	21以上	C	280	65	150	65	800	180
		355-13V2	φ350.0, φ355.6	t≦12.7	SN490B	(ハ)	540	36	55	85	260	φ45	8-M30	490	700	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	600	135
		355-16V2	φ350.0, φ355.6	t≦16.0	SN490B	(ハ)	540	40	55	85	260	φ50	8-M33	490	710	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	650	135
		355-22V2	φ350.0, φ355.6	t≦22.0	SN490B, TMCP325B	(ハ)	560	50	65	85	260	φ60	8-D38	390	720	20-D19	D13@100	21以上	C	310	65	180	65	800	180
	○	406-13V2	φ400.0, φ406.4	t≦12.7	SN490B	(ハ)	600	40	65	85	300	φ45	8-M30	490	750	16-D19	D13@100	21以上	C	350	50	250	50	600	135
		406-19V2	φ400.0, φ406.4	t≦19.0	SN490B, TMCP325B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ60	8-D38	390	760	16-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	180
		406-22V2	φ400.0, φ406.4	t≦22.0	SN490B, TMCP325B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ65	8-D41	390	760	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	190
		406-25V2	φ400.0, φ406.4	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	610	44	70	85	300	φ65	8-D41H	490	800	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	850	200
		457-13V2	φ450.0, φ457.2	t≦12.7	SN490B	(ハ)	610	40	55	85	330	φ50	8-M33	490	790	20-D19	D13@100	21以上	C	380	50	280	50	650	135
		457-19V2	φ450.0, φ457.2	t≦19.0	SN490B, TMCP325B	(ハ)	630	50	65	85	330	φ65	8-D41	390	800	20-D22	D13@100	21以上	C	380	65	250	65	800	190
		457-25V2	φ450.0, φ457.2	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	740	48	65	120	185	φ60	12-D38	390	930	20-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	800	180
		457-36V2	φ450.0, φ457.2	t≦36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	740	60	65	120	185	φ65	12-D41H	490	980	24-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	850	200
		508-14V2	φ500.0, φ508.0	t≦14.0	SN490B, TMCP325B	(ハ)	700	50	65	85	400	φ60	8-D38	390	860	20-D19	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	800	180
		508-22V2	φ500.0, φ508.0	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	52	65	85	400	φ65	8-D41H	490	920	24-D22	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	850	200
		508-32V2	φ500.0, φ508.0	t≦32.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	810	60	65	135	205	φ65	12-D41H	490	1000	24-D22	D13@100	21以上	C	460	65	330	65	850	200
		508-40V2	φ500.0, φ508.0	t≦40.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	830	65	75	135	205	φ75	12-D51	390	1050	28-D22	D16@100	24以上	C	470	65	340	65	950	230
		558-16V2	φ550.0, φ558.8	t≦16.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	710	48	65	85	410	φ65	8-D41H	490	900	20-D22	D13@100	24以上	C	460	65	330	65	850	200
		558-28V2	φ550.0, φ558.8	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	850	60	65	135	225	φ65	12-D41H	490	1050	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	850	200
		558-36V2	φ550.0, φ558.8	t≦36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	870	65	75	135	225	φ75	12-D51	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-22V2	φ600.0, φ609.6	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	820	52	80	110	440	φ75	8-D51	390	1000	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	950	230
		609-28V2	φ600.0, φ609.6	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	910	60	75	155	225	φ75	12-D51	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-36V2	φ600.0, φ609.6	t≦36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	910	65	75	155	225	φ75	12-D51	390	1150	24-D25	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		660-28V2	φ650.0, φ660.4	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	970	65	75	160	250	φ75	12-D51	390	1150	28-D22	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	950	230
		660-36V2	φ650.0, φ660.4	t≦36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	970	70	75	160	250	φ75	12-D51H	490	1200	28-D25	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	1050	235
		711-28V2	φ700.0, φ711.2	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1030	65	75	175	265	φ75	12-D51	390	1250	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	950	230
		711-32V2	φ700.0, φ711.2	t≦32.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1030	70	75	175	265	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	1050	235
		762-25V2	φ750.0, φ762.0	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1070	65	75	185	275	φ75	12-D51	390	1270	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	950	230
		762-28V2	φ750.0, φ762.0	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1070	70	75	185	275	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	1050	235
		812-22V2	φ800.0, φ812.8	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1150	65	75	200	300	φ75	12-D51	390	1350	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	950	230
		812-28V2	φ800.0, φ812.8	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1150	70	75	200	300	φ75	12-D51H	490	1400	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	1050	235
V3 柱材F値325以下用		216-10V3	φ190.7 φ216.3	t≦12.7 t≦9.5	SN490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ45	4-M30	490	540	12-D16	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		216-13V3	φ216.3	t≦12.7	SN490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ50	4-M33	490	540	12-D19	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		267-09V3	φ267.4	t≦9.3	SN490B	(イ)	400	36	55	290	-	φ50	4-M33	490	590	12-D19	D13@100	21以上	A	340	50	240	50	600	135
		267-13V3	φ267.4	t≦12.7	SN490B	(イ)	420	40	65	290	-	φ60	4-D38	390	580	12-D19	D13@100	21以上	D	324	50	184	50	800	180
		318-09V3	φ300.0, φ318.5	t≦9.0	SN490B	(イ)	460	40	65	330	-	φ60	4-D38	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	180
		318-13V3	φ300.0, φ318.5	t≦12.7	TMCP325B	(イ)	460	50	65	330	-	φ65	4-D41	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	190
		318-19V3	φ300.0, φ318.5	t≦19.0	TMCP325B	(ハ)	530	50	65	85	230	φ60	8-D38	390	690	12-D22	D13@100	21以上	C	280	65	150	65	800	180
		355-10V3	φ350.0, φ355.6	t≦9.5	SN490B	(ハ)	540	36	55	85	260	φ45	8-M30	490	700	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	600	135
		355-13V3	φ350.0, φ355.6	t≦12.7	SN490B	(ハ)	540	40	55	85	260	φ50	8-M33	490	710	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	650	135
		355-16V3	φ350.0, φ355.6	t≦16.0	TMCP325B	(ハ)	560	50	65	85	260	φ60	8-D38	390	720	20-D19	D13@100	21以上	C	310	65	180	65	800	180
		406-10V3	φ400.0, φ406.4	t≦9.5	SN490B	(ハ)	600	40	65	85	300	φ45	8-M30	490	750	16-D19	D13@100	21以上	C	350	50	250	50	600	135
		406-13V3	φ400.0, φ406.4	t≦12.7	TMCP325B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ60	8-D38	390	760	16-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	180
		406-16V3	φ400.0, φ406.4	t≦16.0	TMCP325B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ65	8-D41	390	760	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	190
		406-19V3	φ400.0, φ406.4	t≦19.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	610	44	70	85	300	φ65	8-D41H	490	800	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	850	200
		457-10V3	φ450.0, φ457.2	t≦9.5	SN490B	(ハ)	610	40	55	85	330	φ50	8-M33	490	790	20-D19	D13@100	21以上	C	380	50	280	50	650	135
		457-13V3	φ450.0, φ457.2	t≦12.7	TMCP325B	(ハ)	630	50	65	85	330	φ65	8-D41	390	800	20-D22	D13@100	21以上	C	380	65	250	65	800	190
		457-19V3	φ450.0, φ457.2	t≦19.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	740	48	65	120	185	φ60	12-D38	390	930	20-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	800	180
		457-28V3	φ450.0, φ457.2	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	740	60	65	120	185	φ65	12-D41H	490	980	24-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	850	200
		508-10V3	φ500.0, φ508.0	t≦9.5	TMCP325B	(ハ)	700	50	65	85	400	φ60	8-D38	390	860	20-D19	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	800	180
		508-16V3	φ500.0, φ508.0	t≦16.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	52	65	85	400	φ65	8-D41H	490	920	24-D22	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	850	200
		508-22V3	φ500.0, φ508.0	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	810	60	65	135	205	φ65	12-D41H	490	1000	24-D22	D13@100	21以上	C	460	65	330	65	850	200
		508-32V3	φ500.0, φ508.0	t≦32.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	830	65	75	135	205	φ75	12-D51	390	1050	28-D22	D16@100	24以上	C	470	65	340	65	950	230
		558-13V3	φ550.0, φ558.8	t≦12.7	BT-HT440B-SP	(ハ)	710	48	65	85	410	φ65	8-D41H	490	900	20-D22	D13@100	24以上	C	460	65	330	65	850	200
		558-22V3	φ550.0, φ558.8	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	850	60	65	135	225	φ65	12-D41H	490	1050	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	850	200
		558-28V3	φ550.0, φ558.8	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	870	65	75	135	225	φ75	12-D51	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-16V3	φ600.0, φ609.6	t≦16.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	820	52	80	110	440	φ75	8-D51	390	1000	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	950	230
		609-22V3	φ600.0, φ609.6	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	910	60	75	155	225	φ75	12-D51	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-25V3	φ600.0, φ609.6	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	910	65	75	155	225	φ75	12-D51	390	1150	24-D25	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		660-22V3	φ650.0, φ660.4	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	970	65	75	160	250	φ75	12-D51	390	1150	28-D22	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	950	230
		660-25V3	φ650.0, φ660.4	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	970	70	75	160	250	φ75	12-D51H	490	1200	28-D25	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	1050	235
		711-22V3	φ700.0, φ711.2	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1030	65	75	175	265	φ75	12-D51	390	1250	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	950	230
		711-25V3	φ700.0, φ711.2	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1030	70	75	175	265	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	1050	235
		762-19V3	φ750.0, φ762.0	t≦19.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1070	65	75	185	275	φ75	12-D51	390	1270	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	950	230
		762-22V3	φ750.0, φ762.0	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1070	70	75	185	275	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	1050	235
		812-19V3	φ800.0, φ812.8	t≦19.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1150	65	75	200	300	φ75	12-D51	390	1350	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	950	230
		812-22V3	φ800.0, φ812.8	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1150	70	75	200	300	φ75	12-D51H	490	1400	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	1050	235

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号 大橋康孝

検印	総括	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和７年６月		製図 原田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

設計 NO.

工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名 ベースパック柱脚工法設計施工標準図(円型)２

縮尺 A1：NS A3：NS

図面 NO. S－０１４

Ver. 20200917

－既製コンクリート杭の杭頭接合技術－

パイルスタッド工法　設計・施工　標準図

（一財）日本建築センターによる建設技術審査証明（２０２０年度版）　ＢＣＪ－審査証明－７

パイルスタッド工法研究会

日本スタッドウェルディング株式会社
株式会社大谷工業
岡部株式会社

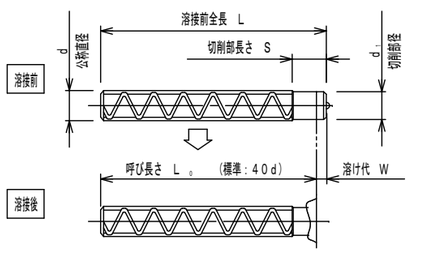
１．パイルスタッド工法概要

パイルスタッド工法は、溶接性に優れた異形棒鋼ＫＳＷ４９０を杭頭端板に直接スタッド溶接することにより、抗体に悪影響を及ぼすことがなく、抗体と基礎スラブとを接合する技術である。

２．使用材料

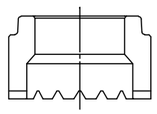
◯　１　パイルスタッド　（スタッド溶接専用異形棒鋼）

ＫＳＷ４９０（ＪＩＳ　Ｇ　３１１２　ＳＤ３４５）



◯　２　フェルール

セラミック製の溶接補助材



パイルスタッドおよびフェルールの種類　　（括弧内の寸法は、標準の呼び長さ４０ｄの場合）

サイズ	呼び名	各部寸法				適用フェルール　*		
		d_1	L	W	S	岡部（株）	（株）大谷工業	日本スタッドウェルディング（株）
D13	D13×L。（ 520）	13.0	L。+6（ 526）	2~6	18	Ａ－１３	Ｄ－１３	１００－１０１－１１４
D16	D16×L。（ 640）	16.0	L。+6（ 646）	2~6	20	Ａ－１６	Ｄ－１６	１００－１０１－０１２
D19	D19×L。（ 760）	19.1	L。+7（ 767）	3~7	28	Ａ－１９	Ｄ－１９	１００－１０１－１５２
D22	D22×L。（ 880）	22.2	L。+7（ 887）	3~7	30	Ａ－２２	Ｄ－２２	１００－１０１－１４０
D25	D25×L。（1000）	25.4	L。+9（1009）	5~9	37	Ａ－２５	Ｄ－２５	１００－１０１－０４５

※　スタッドメーカーとフェルールの組合せは限定しない

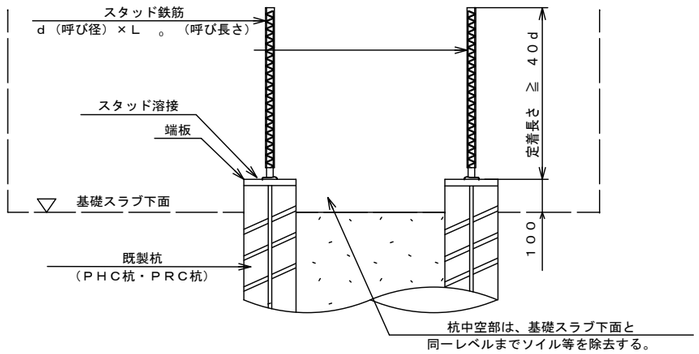
パイルスタッド（ＫＳＷ４９０）の化学成分および機械的性質

化学成分　（%）						機械的性質		
C	Ｓｉ	Ｍｎ	P	S	C+Mn／6	降伏点（N／mm²）	引張強さ（N／mm²）	伸び（%）
０．２０以下	０．１５～０．３５	０．３０～０．９０	０．０３５以下	０．０３５以下	０．３５以下	３４５～４４０	４９０以上	２０以上

３．杭頭接合仕様

杭仕様			パイルスタッド仕様			備考
杭径	杭種	杭本数	鉄筋径	呼び長さ	本／１杭	
500φ	PHC杭(C種)	98	D19	40d	8	
600φ	PHC杭(C種)	15	D19	40d	8	

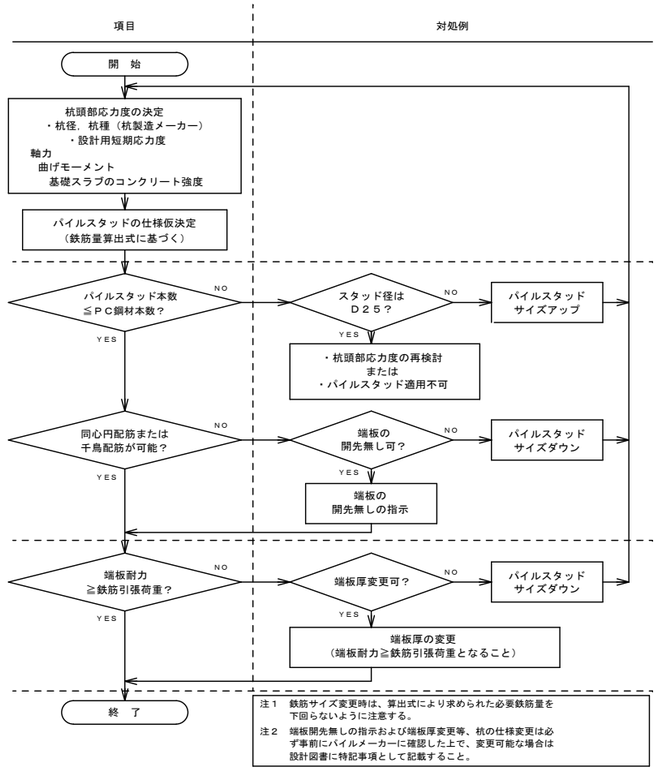
４．杭頭接合構造図



５．設計に関する考え方の一例

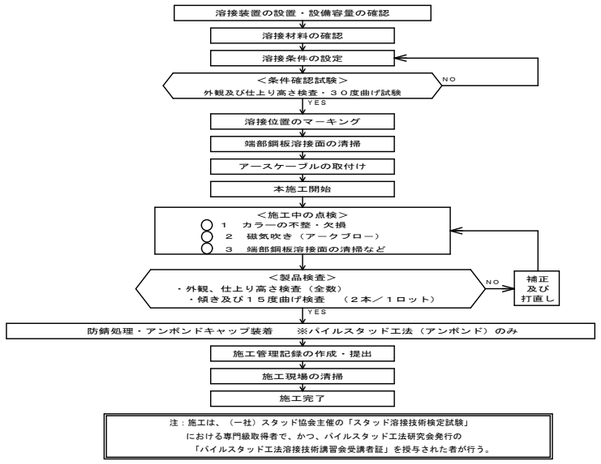
下図設計手順例は、適用にあたっての一つの参考例であり、構造設計者の考え方に基づく適切な設計法により杭頭接合鉄筋量を算出することが望ましい。
詳細は、本工法建設技術審査証明（建築技術）報告書付録による。

設計手順例



６．パイルスタッド工法　標準施工フロー

（詳細は、本工法建設技術審査証明（建築技術）報告書の「施工要領」による）



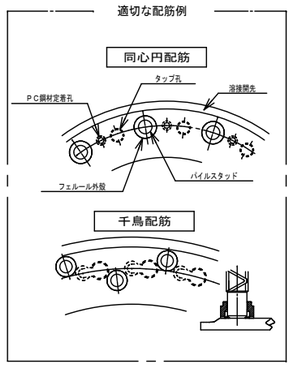
７．製品検査規定

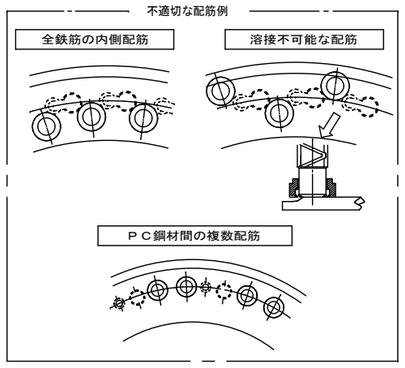
頻度	検査項目	検査方法	判定基準
全数検査	外観検査	目視	カラーが軸部全周に包囲して、アンダーカットの無いこと
	仕上り高さ	ゲージ等による	設計寸法－０ｍｍ～＋４ｍｍ
抜取検査	傾き検査	ゲージ等による	θ≦５°
	曲げ検査	パイプ曲げ等による	溶接部に割れなどの欠陥が生じないこと

８．パイルスタッドの配筋規定

（詳細は、本工法建設技術審査証明（建築技術）報告書付録の「配置計画」による）

１）　フェルール外殻が端板の開先やＰＣ鋼材孔と重ならない位置に溶接する。
２）　ＰＣ鋼材径と同心円上の位置への配筋を基本とする。（同心円配筋）
３）　同心円配筋ができない程ＰＣ鋼材間が狭隘な場合、フェルールをＰＣ鋼材孔の同心円上の外側、内側と交互に配筋する。（千鳥配筋）
４）　杭当たりの配筋本数は、６本以上かつＰＣ鋼材本数以下を原則とする。
５）　ＰＣ鋼材孔間に２本以上配筋しないことを原則とする。
６）　パイルスタッドのあきは、基礎スラブコンクリート粗骨材最大寸法の１．２５倍以上かつパイルスタッド公称直径の１．５倍以上とする。
また、パイルスタッド中心とＰＣ鋼材中心は２０ｍｍ程度離す。





株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号　大橋康孝

検印	総括	主任
大　橋	大　橋	大　橋
日付		製図
令和７年６月		原　田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第　2066号
原田　和彦

設計　ＮＯ．

工　事　名　令和７年度　焼津体育館建設工事（建築工事）（債務負担）

図　面　名　パイルスタッド工法 設計･施工 標準図

縮　尺　A1：NS　A3：NS

図面ＮＯ．　Ｓ－０１５

梁貫通孔補強材　ダイヤレンＮＳ設計・施工標準仕様書

BCJ評定-RC0124-08，BCJ評定-SS0056-01

コーリョー建販株式会社

2023.11.1作成

１．一般事項

（１）　本仕様書は、ダイヤレンＮＳの標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。

（２）　本設計仕様に記載のない事項については、建築基準法・同施行令、（一財）日本建築センター及び（一社）日本建築学会の関連する諸指針や諸規準、ダイヤレンＮＳ技術マニュアルによる。

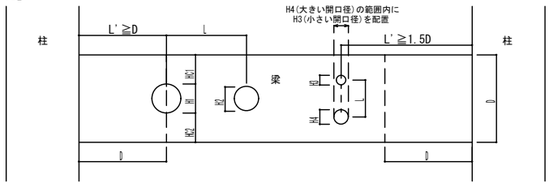
２．使用材料・貫通孔の適用範囲

（１）　各評定の適用範囲

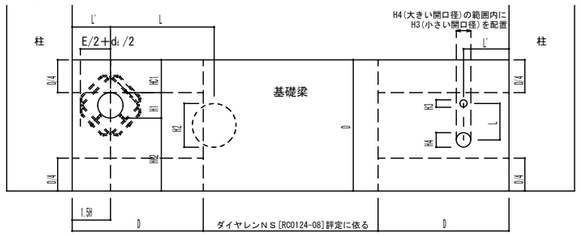
	ダイヤレンＮＳ	ダイヤレンＮＳを用いた基礎梁端部小開口補強
評定番号	[RC0124-08]	[SS0056-01]
対象とする部材	ＲＣ造及びＳＲＣ造の梁	有効な柱梁接合部に接続する非降伏のＲＣ造の基礎梁
コンクリート	Fc＝21N/mm²～100N/mm²	Fc＝21N/mm²～45N/mm²
鉄筋	主筋　：基準強度295～490N/mm² のJIS鉄筋、490を超え685N/mm² 以下の大臣認定品 あばら筋　：基準強度295～490N/mm² のJIS鉄筋、490を超え1275N/mm² 以下の大臣認定品 ダイヤレンＮＳ：KSS785-K（MSRB-0004）、MK785（MSRB-0067）	
梁せい（D）	-	D≧750mm
開口形状	円形または多角形とする（多角形の場合はその外接円を開口とみなす）	
開口径(外径)（H）	H≦750mm　かつ　H≦D/3	H＜350mm　かつ　H≦D/5
上下に複数開口を設ける場合の合計径（ΣH）	ΣH≦D/3	ΣH≦D/3.75
柱際から開口中心までの距離（L'）	L'≧D 上下に複数開口を設ける場合はL'≧1.5D	L'＜D　かつ　L'≧1.5H　かつ L'≧E/2+d_l/2
隣接する開口の水平及び鉛直方向中心間距離（L）	隣接する開口径の平均値の3倍以上	
へりあき（HC1,HC2）	HC1,HC2≧(E-H)/2+d_l/2+d_b+t_c	HC1,HC2≧(E-H)/2+d_l/2+d_b+t_c　かつ HC1,HC2≧D/4

E：ダイヤレンＮＳのE寸法　　d_b：あばら筋の呼び径
d_l：ダイヤレンＮＳの鉄筋の呼び径　　t_c：コンクリートのかぶり厚さ(40mm以上)

【RC0124-08】



【SS0056-01】



３．開口部あばら筋の配筋要領

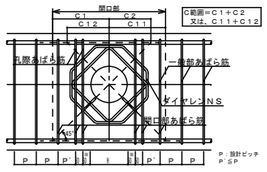
（１）　開口部に配筋されるあばら筋の組数は、開口が無いとした場合に配置されるあばら筋組数以上とする。

（２）　孔際あばら筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とする。［SS0056-01］

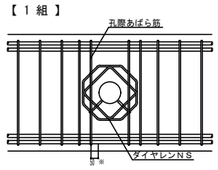
（３）　孔際あばら筋の組数は、下表の標準組数以上とする。

【開口に対して片側に配置する孔際あばら筋の標準組数】

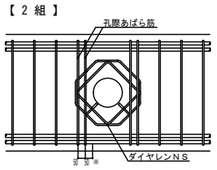
開口径	一般部あばら筋比（p_t）	
	1%未満	1%以上
H＜150	1組	2組
150≦H＜300	2組	3組
300≦H	3組	3組



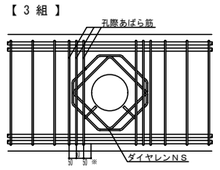
【１組】



【２組】



【３組】

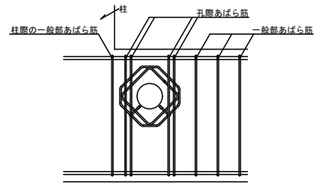


※必要なかぶり厚さを確保した位置とし、標準は50mmとする。

４．仕様規定

（１）　ダイヤレンＮＳの使用枚数は、開口１箇所当たり２枚以上とする。

（２）　柱際には、孔際あばら筋の他、少なくとも１組の一般部あばら筋（第一あばら筋）を配筋する。［SS0056-01］



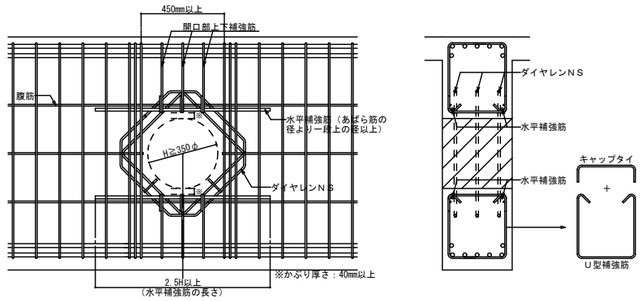
５．開口部上下補強要領（350φ以上の場合）

（１）　開口の左右に配筋する1組目の孔際あばら筋の間隔が梁せいの1/2以上または450mm以上（開口径で350mm以上）になる場合は、開口部上下補強筋と水平補強筋により主筋を拘束するための補強を行う。
ただし、水平力による応力を負担しない梁（小梁等）の場合は梁せいの1/2は考慮しなくともよい。

（２）　開口部上下補強筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とし、一般部あばら筋のピッチ以下となるように配筋する。（丸鋼及びインデントは不可）

（３）　形状にはコ型・Ｕ型・Π型等があり、コ型補強筋の梁主筋側の重ね長さは「梁幅-2×かぶり厚さ」または35d以上とし、水平補強筋側（梁内側）の重ね長さは12d以上とする。ただし、梁幅が400mm未満もしくはコ型補強筋の梁主筋側重ね長さが25d（dは鉄筋の呼び径）以下の場合は、Ｕ型またはΠ型の形状で補強を行う。

（４）　水平補強筋は、一般部あばら筋より1段上の径以上とし（SD295A程度）、開口径の2.5倍以上の長さとする。



【開口上下部分の補強要領（Ｕ型補強筋で補強する場合の例）】

６．施工要領例

（１）　型枠上に開口の位置と開口径等を墨出しする。

（２）　補強設計上必要な孔際あばら筋と一般部あばら筋を配筋する。孔際あばら筋は、1組目は必要なかぶり厚さを確保した所定の位置に配置し、2組目以降はそれぞれ50mmピッチで配筋する。孔際あばら筋と一般部あばら筋の間隔は、設計ピッチ以下とする。

（３）　孔際あばら筋を配筋するのが困難な場合は、束ね配筋にすることができる。
（束ね配筋は、2組までは束ねることができるが、3組以上は束ねてはならない。）

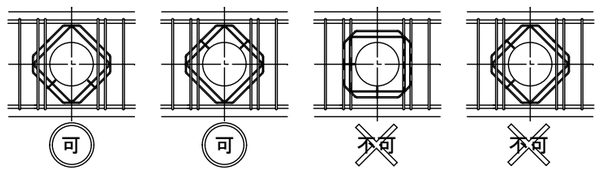
（４）　ダイヤレンＮＳを左右の孔際あばら筋の間から挿入し、孔際あばら筋等に4か所以上結束する。

（５）　スリーブをダイヤレンＮＳのスリーブ受け筋にセットし、針金等で固定する。

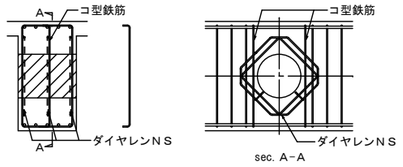
（６）　開口部周囲のそれぞれの鉄筋のかぶり厚さが適正に確保されていることを確認する。

７．施工における注意事項

（１）　ダイヤレンＮＳはあばら筋に対して斜め45度の傾きをもって必要な耐力が期待できるため、下図の「可」の向きになるように施工すること。



（２）　補強設計によって中子筋が無い梁に対して3枚以上のダイヤレンＮＳが必要になった場合は、下図のようにコ型鉄筋等を開口の左右にそれぞれ1本以上配筋し、この鉄筋にダイヤレンＮＳを結束して固定する。



８．ダイヤレンＮＳ標準製品寸法表

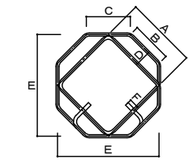
（特記外単位：mm）

スリーブ径（対応径）	型	サイズ	寸法 A	B	C	D	E	F	形状	重量（kgf/枚）	Ho
100φ（H≦115）	Ⅰ	6	205	115	127	45	289	45	①	0.55	204
	Ⅱ	8	205	115	127	45	289	45	①	0.85	205
	Ⅲ	10	205	95	155	55	289	45	②	1.14	206
	Ⅳ	13	210	80	183	65	296	48	②	2.01	211
	Ⅴ	16	230	100	183	65	325	55	③	3.46	227
	Ⅴ-3R	16	230	154	237	65	455	57	⑤	6.14	262
125φ（H≦141）	Ⅰ	6	230	140	127	45	325	45	①	0.60	222
	Ⅱ	8	230	140	127	45	325	45	①	0.94	223
	Ⅲ	10	235	125	155	55	332	48	②	1.27	227
	Ⅳ	13	240	110	183	65	339	50	②	2.26	232
	Ⅴ	16	240	110	183	65	339	50	③	3.57	234
	Ⅴ-3R	16	240	164	237	65	469	49	⑤	6.31	269
150φ（H≦166）	Ⅰ	6	255	165	127	45	360	45	①	0.66	239
	Ⅱ	8	255	165	127	45	360	45	①	1.03	240
	Ⅲ	10	260	150	155	55	367	47	②	1.38	245
	Ⅳ	13	260	130	183	65	367	47	②	2.41	246
	Ⅴ	16	265	135	183	65	374	50	③	3.88	251
	Ⅴ-3R	16	265	189	237	65	504	49	⑤	6.78	316
175φ（H≦191）	Ⅰ	6	280	190	127	45	395	45	①	0.71	257
	Ⅱ	8	280	190	127	45	395	45	①	1.12	258
	Ⅲ	10	285	175	155	55	403	47	②	1.50	263
	Ⅳ	13	285	155	183	65	403	47	②	2.61	264
	Ⅴ	16	290	160	183	65	410	50	③	4.19	269
	Ⅴ-3R	16	290	214	237	65	540	49	⑤	7.25	334
200φ（H≦216）	Ⅰ	6	305	215	127	45	431	45	①	0.77	275
	Ⅱ	8	305	215	127	45	431	45	①	1.20	276
	Ⅲ	10	310	200	155	55	438	47	②	1.61	280
	Ⅳ	13	310	180	183	65	438	47	②	2.81	282
	Ⅴ	16	320	190	183	65	452	50	③	4.57	290
	Ⅴ-3R	16	320	244	237	65	582	52	⑤	7.82	355
250φ（H≦270）	Ⅰ	6	360	270	127	45	509	45	①	0.89	314
	Ⅱ	8	360	270	127	45	509	45	①	1.40	315
	Ⅲ	10	360	250	155	55	509	45	②	1.83	316
	Ⅳ	13	370	240	183	65	523	50	②	3.29	324
	Ⅴ	16	370	210	226	80	523	50	②	5.21	326
	Ⅴ-3R	16	370	278	292	80	693	50	④	8.11	408
300φ（H≦320）	Ⅰ	6	410	320	127	45	579	45	①	1.01	349
	Ⅱ	8	410	320	127	45	579	45	①	1.57	350
	Ⅲ	10	410	300	155	55	579	45	②	2.05	351
	Ⅳ	13	420	290	183	65	593	50	②	3.69	359
	Ⅴ	16	420	260	226	80	593	50	②	5.93	361
	Ⅴ-3R	16	420	326	292	80	753	50	④	10.04	441
350φ（H≦370）	Ⅰ	6	460	370	127	45	650	45	①	1.12	384
	Ⅱ	8	460	370	127	45	650	45	①	1.75	385
	Ⅲ	10	460	350	155	55	650	45	②	2.28	386
	Ⅳ	13	470	340	183	65	664	50	②	4.09	395
	Ⅴ	16	470	310	226	80	664	50	②	6.55	396
	Ⅴ-3R	16	470	376	292	80	824	50	④	10.98	476
400φ（H≦420）	Ⅰ	8	510	420	127	45	721	45	①	1.92	421
	Ⅱ	10	510	400	155	55	721	45	②	2.50	422
	Ⅲ	13	520	380	183	65	735	50	②	4.48	430
	Ⅳ	16	530	370	226	80	749	55	②	7.31	439
	Ⅳ-3R	16	530	438	292	80	909	55	④	12.11	519
450φ（H≦470）	Ⅰ	8	560	470	127	45	791	45	①	2.10	456
	Ⅱ	10	560	450	155	55	791	45	②	2.73	457
	Ⅲ	13	570	440	183	65	806	50	②	4.88	466
	Ⅳ	16	580	430	226	80	820	55	②	7.94	474
	Ⅳ-3R	16	580	486	292	80	980	55	④	13.04	554
500φ（H≦520）	Ⅱ	10	610	500	155	55	862	45	②	2.95	492
	Ⅲ	13	620	490	183	65	876	50	②	5.28	501
	Ⅳ	16	630	470	226	80	890	55	②	8.56	509
	Ⅳ-3R	16	630	536	292	80	1050	55	④	13.98	589
550φ（H≦570）	Ⅱ	10	660	550	155	55	933	45	②	3.17	528
	Ⅲ	13	670	540	183	65	947	50	②	5.68	536
	Ⅳ	16	680	520	226	80	961	55	②	9.18	545
	Ⅳ-3R	16	680	586	292	80	1121	55	④	14.92	625
600φ（H≦630）	Ⅱ	10	720	610	155	55	1018	45	②	3.44	570
	Ⅲ	13	730	600	183	65	1032	50	②	6.16	579
	Ⅳ	16	750	590	226	80	1060	60	②	10.07	584
	Ⅳ-3R	16	750	656	292	80	1220	60	④	16.24	674
650φ（H≦680）	Ⅱ	10	770	660	155	55	1088	45	②	3.67	605
	Ⅲ	13	780	650	183	65	1103	50	②	6.55	614
	Ⅳ	16	800	640	226	80	1131	60	②	10.69	630
	Ⅳ-3R	16	800	706	292	80	1291	60	④	17.17	710
700φ（H≦730）	Ⅱ	10	820	710	155	55	1159	45	②	3.89	641
	Ⅲ	13	830	700	183	65	1173	50	②	6.95	649
	Ⅳ	16	850	690	226	80	1202	60	②	11.32	665
	Ⅳ-3R	16	850	756	292	80	1362	60	④	18.11	745
750φ（H≦750）	Ⅱ	10	870	760	155	55	1230	45	②	4.11	676
	Ⅲ	13	880	750	183	65	1244	50	②	7.35	685
	Ⅳ	16	900	740	226	80	1272	60	②	11.94	700
	Ⅳ-3R	16	900	806	292	80	1432	60	④	19.05	780

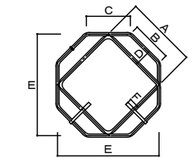
※対応径は、スリーブ面とダイヤレンＮＳ内リング筋の内側面までのかぶり厚さを40mmとした場合の開口外径
※表中Hoは、かぶり厚さ40mm、あばら筋16mmとした場合の梁上下端から開口芯までの距離
※寸法は、鉄筋の芯－芯間とする

【ダイヤレンＮＳ　標準形状】

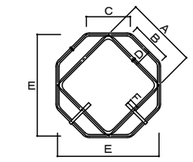
①一筆型（2重リング）



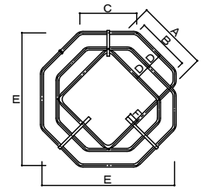
②1箇所溶接型（2重リング）



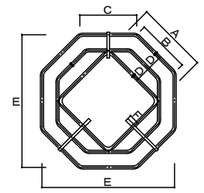
③2箇所溶接型（2重リング）



④1箇所溶接型（3重リング）

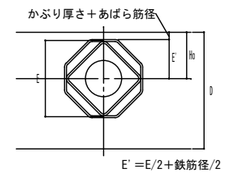


⑤3箇所溶接型（3重リング）



【へりあきの最小寸法】

ダイヤレンＮＳを使用した場合の梁上下端から開口芯までの距離（Ho）を左表に示す。
（かぶり厚さ40mm、あばら筋径を16mmと仮定した数値）



E'＝E/2＋鉄筋径/2
Ho＝かぶり厚さ＋あばら筋径＋E'

【型式の表記について】

Ⅴ-3R　⇒　Ⅴ（型式）-3R（リング形状※）
※リング形状は「2R（2重リング）」と「3R（3重リング）」（上記の形状①～⑤）があり、3Rの表記以外は2Rとする。

＜特記事項＞

・スリーブ位置、径や箇所数については、設備図（施工図等）を参照し、梁貫通の仕様及び使用条件（別紙）に基づき設置する。
・施工前に計算書と施工図を作成の上、監督職員の承諾を得ること。
　尚、基礎梁の場合は、かぶり厚さ50mmにて検討を行うこと。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	照査 大橋	主任 大橋	一級建築士登録第270124号 構造設計一級建築士登録第 2066号 原田 和彦	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 梁貫通孔補強材 ダイアレンＮＳ設計･施工標準仕様書
	日付 令和７年６月		製図 原田				縮尺 A1：NS　A3：NS

図面 NO. Ｓ－０１６

ボーリング柱状図

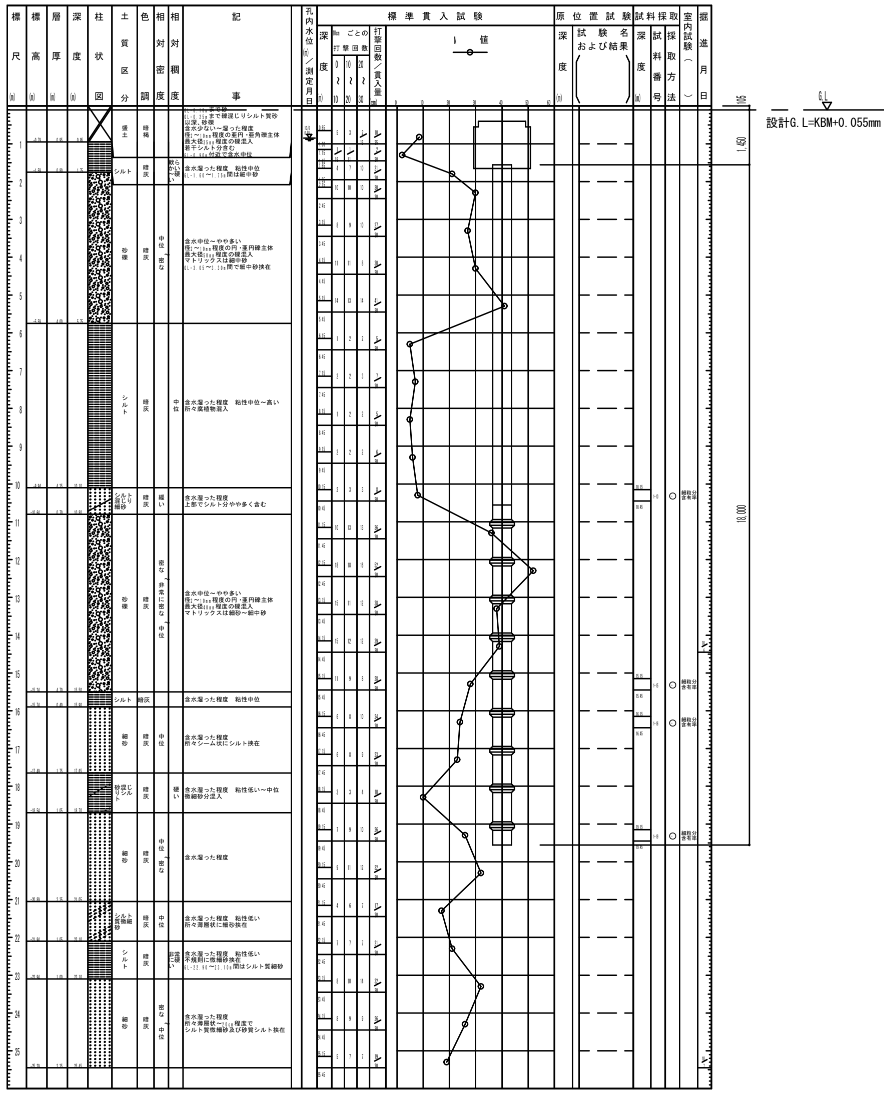
調　査　名　焼津体育館建設工事設計業務委託（債務負担行為）[地質調査]

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.1	調査位置	静岡県焼津市焼津4丁目　地内			北　緯	34° 51′ 49.0″
発注機関	焼津市・株式会社　高橋茂弥建築設計事務所		調査期間	令和5年10月6日 ～ 5年10月7日		東　経	138° 18′ 48.7″
調査業者名	SGM株式会社 電話（054-295-5700）	主任技師	長神全洋	現場代理人	生駒裕哉	コア鑑定者	吉田卓司
						ボーリング責任者	吉田卓司
孔口標高	KBM +0.16m	角度	方向	地盤勾配	使用機種 試錐機	KR-100	ハンマー落下用具　半自動型
総掘進長	25.45m				エンジン	NFD9	ポンプ　V-6



設計G.L=KBM+0.055mm

ボーリング柱状図

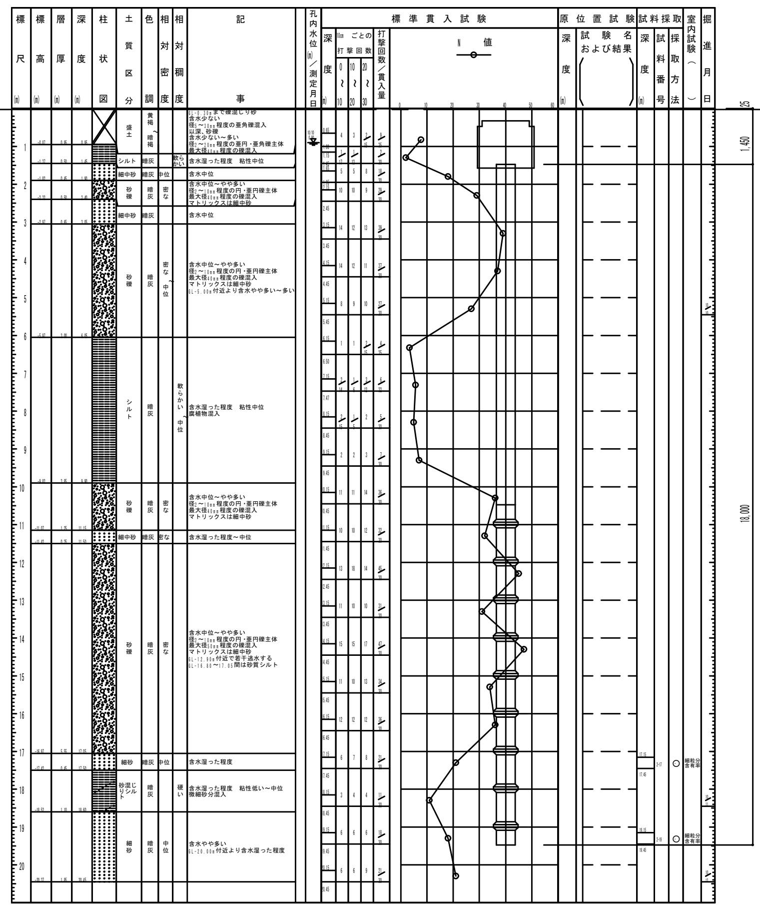
調　査　名　焼津体育館建設工事設計業務委託（債務負担行為）[地質調査]

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.2	調査位置	静岡県焼津市焼津4丁目　地内			北　緯	34° 51′ 49.0″
発注機関	焼津市・株式会社　高橋茂弥建築設計事務所		調査期間	令和5年10月10日 ～ 5年10月12日		東　経	138° 18′ 48.7″
調査業者名	SGM株式会社 電話（054-295-5700）	主任技師	長神全洋	現場代理人	生駒裕哉	コア鑑定者	吉田卓司
						ボーリング責任者	吉田卓司
孔口標高	KBM +0.08m	角度	方向	地盤勾配	使用機種 試錐機	KR-100	ハンマー落下用具　半自動型
総掘進長	20.45m				エンジン	NFD9	ポンプ　V-6



ボーリング柱状図

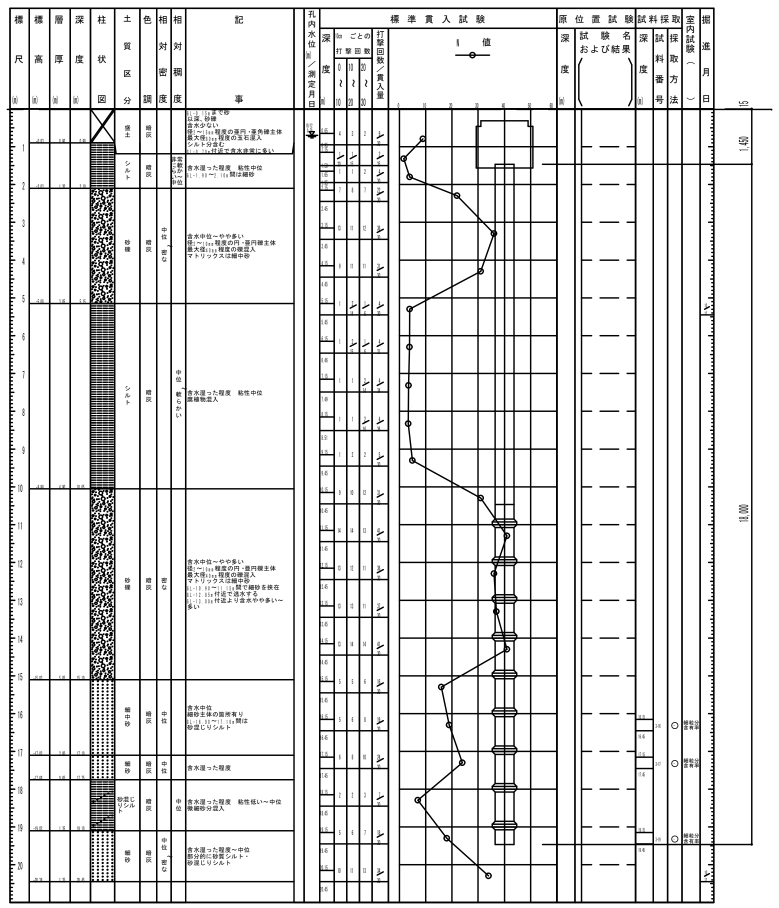
調　査　名　焼津体育館建設工事設計業務委託（債務負担行為）[地質調査]

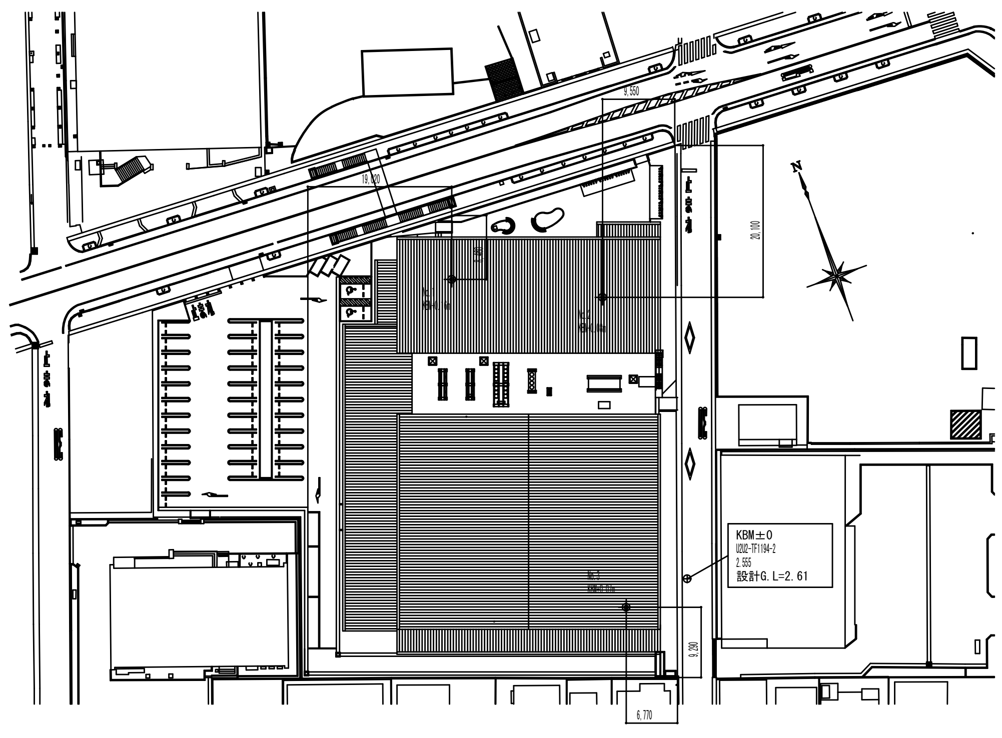
ボーリングNo.

事業・工事名

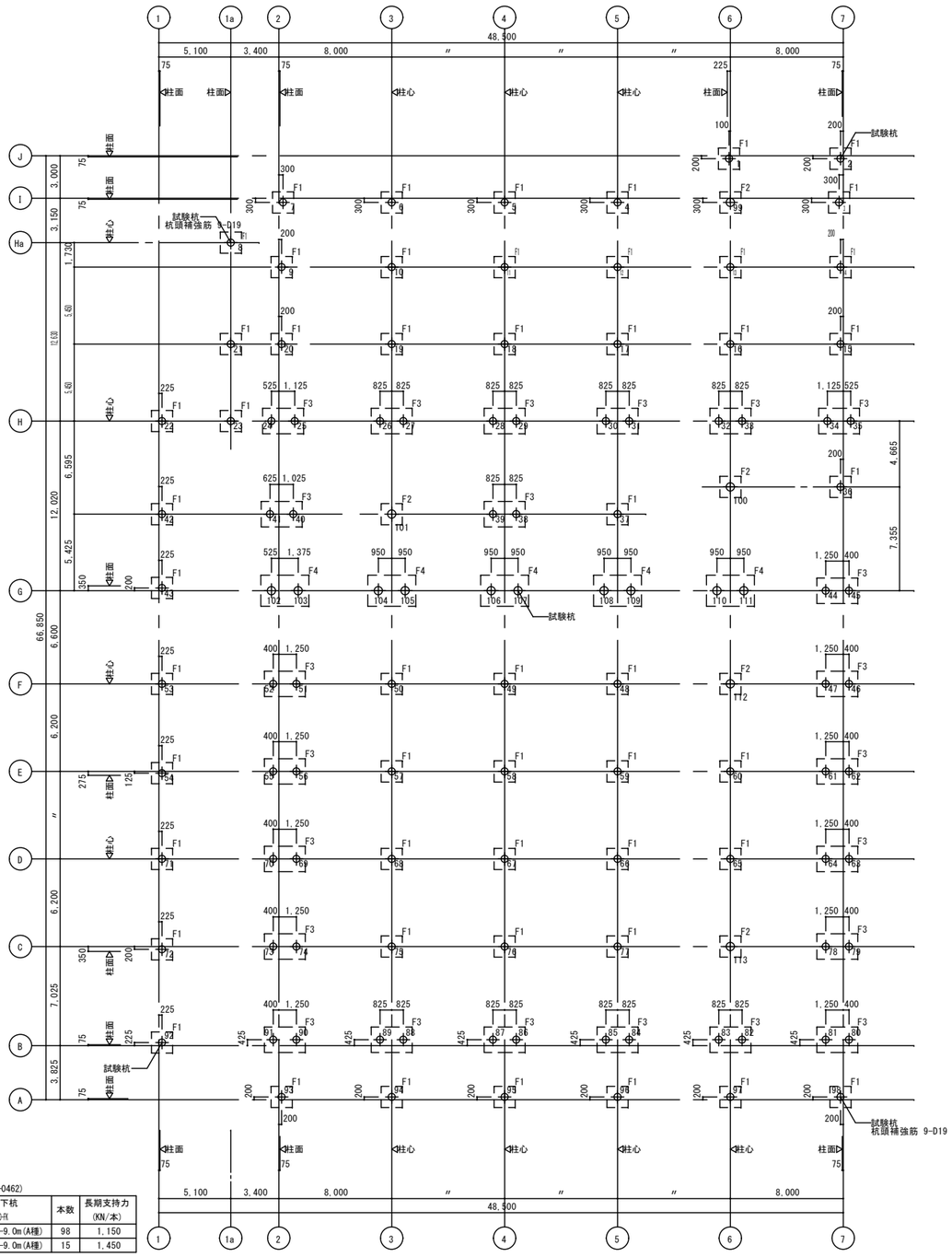
シートNo.

ボーリング名	No.3	調査位置	静岡県焼津市焼津4丁目　地内			北　緯	34° 51′ 49.0″
発注機関	焼津市・株式会社　高橋茂弥建築設計事務所		調査期間	令和5年10月12日 ～ 5年10月13日		東　経	138° 18′ 48.7″
調査業者名	SGM株式会社 電話（054-295-5700）	主任技師	長神全洋	現場代理人	生駒裕哉	コア鑑定者	吉田卓司
						ボーリング責任者	吉田卓司
孔口標高	KBM +0.07m	角度	方向	地盤勾配	使用機種 試錐機	KR-100	ハンマー落下用具　半自動型
総掘進長	20.45m				エンジン	NFD9	ポンプ　V-6





株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	一級建築士登録第270124号 構造設計一級建築士登録第 2066号 原田 和彦	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 土質柱状図
	日付 令和７年６月		製図 原田			縮尺 A1：1/100 A3：1/200	図面NO. S－017



杭伏図 1/200

杭伏図 共通事項

工法　ＮＥＷスーパーＦＫ工法(TACP-0462)

符号	上杭 TAP20-PHC	下杭 TAP20-FH	本数	長期支持力 (KN/本)
P1 ⊕	500φ-9.0m(C種)	5065φ-9.0m(A種)	98	1,150
P2 ⊕	600φ-9.0m(C種)	6075φ-9.0m(A種)	15	1,450

杭頭レベル　G.L-1.45m

杭頭補強　パイルスタッド　8-D19(KSW490) 端板厚 19mm
9-D19(KSW490) 端板厚 19mm　(杭No.8,No.98)

杭継手　トリプルプレートジョイント　(BCJ評定-FD0183-08)

許容施工誤差　水平方向 100mm以下、鉛直方向50mm以下

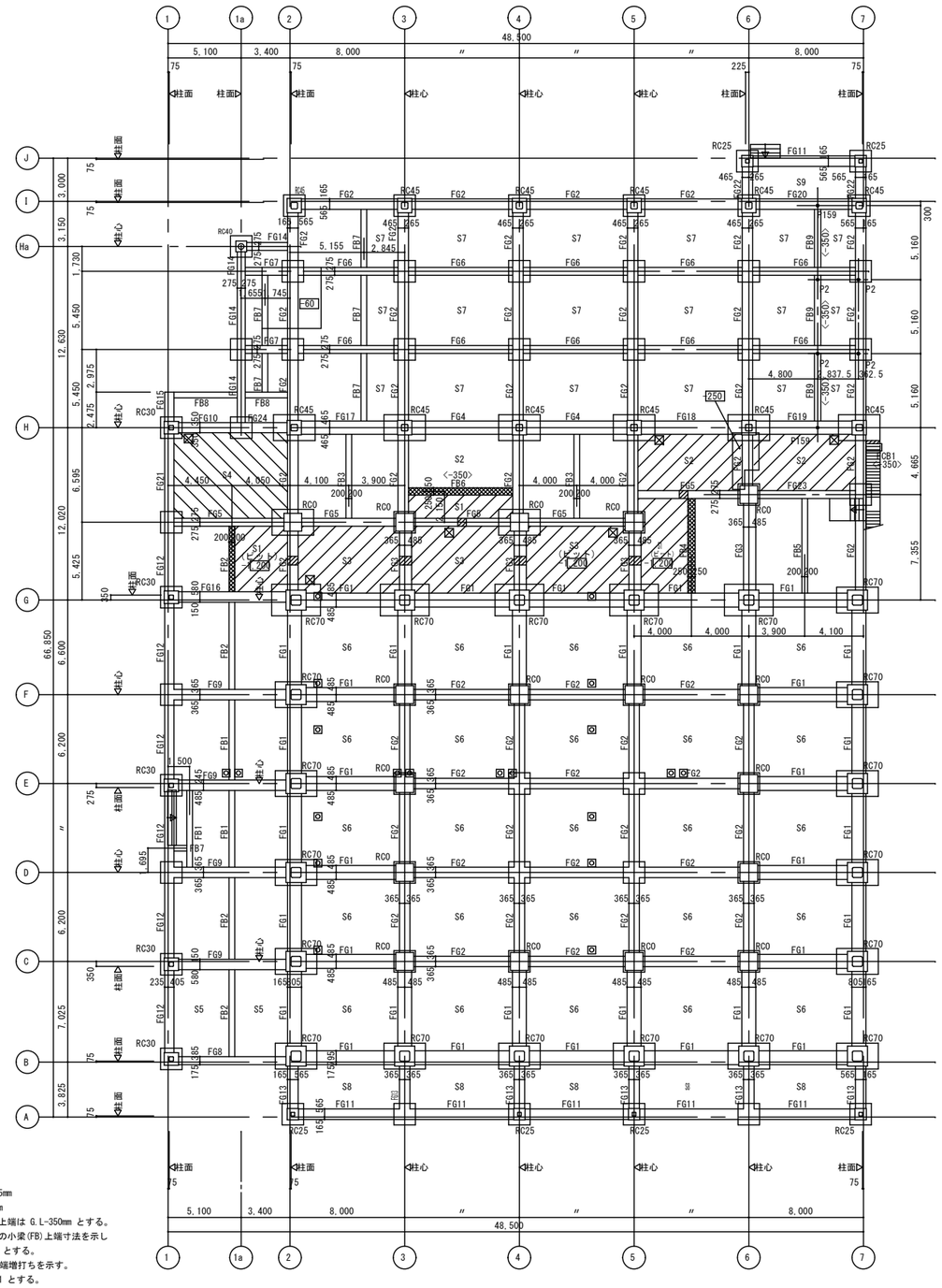
杭の仕様に関しては、メーカー仕様による。

既成コンクリート杭施工管理指針の必須事項を遵守すること。

(平成28年3月・(一社)日本建設業連合会)

試験杭は本杭と兼用し、位置は協議を行い決定する。

(記載位置は想定とする。5ヶ所)



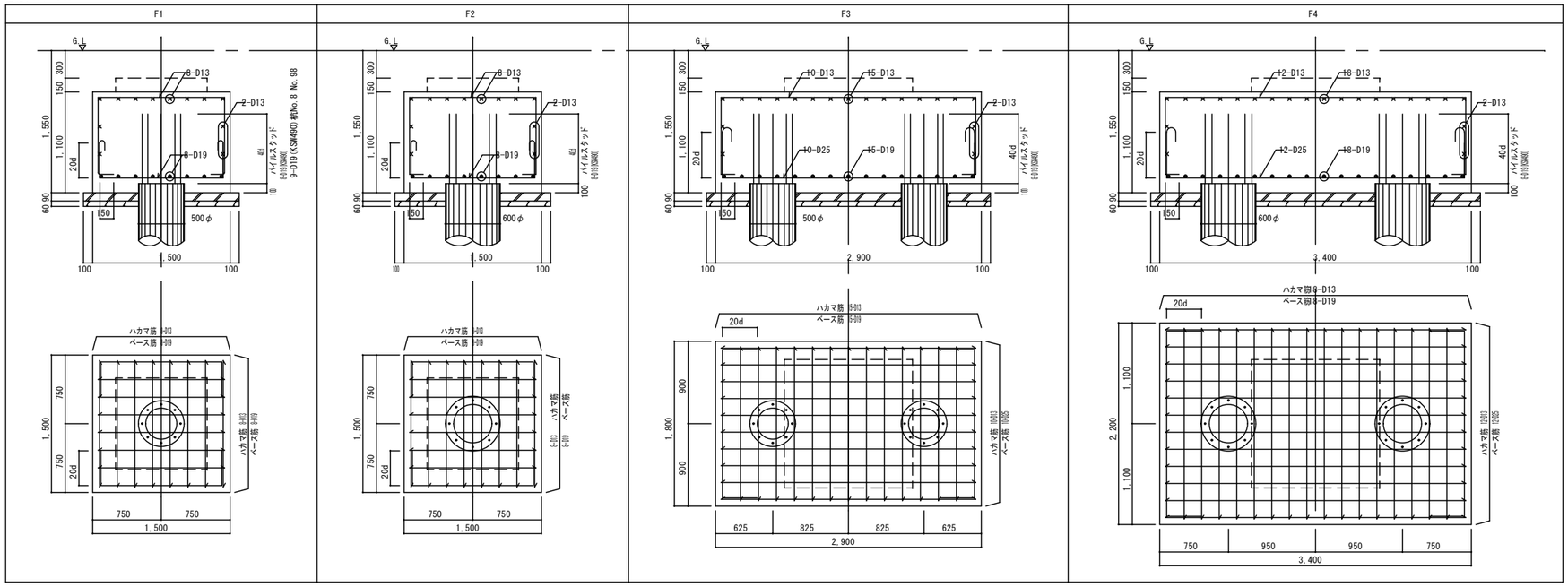
基礎伏図 1/200

基礎伏図 共通事項

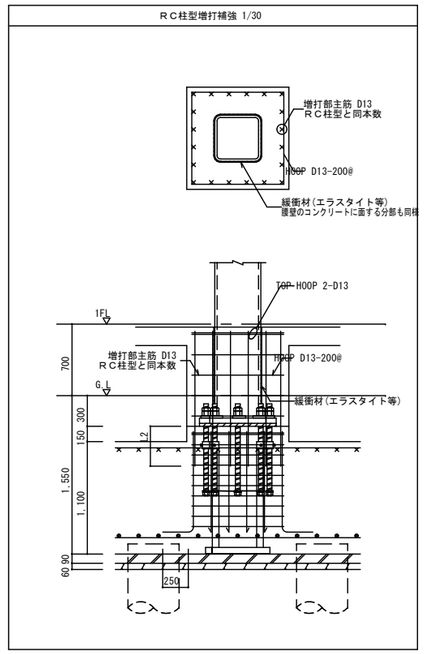
1. 設計G.L = KBM+0.055mm
   1FL = 設計G.L+700mm
2. 特記外の地中梁(FG)上端は G.L-350mm とする。
   <　>内は G.L からの小梁(FB)上端寸法を示し
   特記外は G.L+490mm とする。
   ▩ は小梁(FB)下端増打ちを示す。
4. 特記外のスラブは S1 とする。
   ▨ は FS1 を示す。
   ▧ は FS2 を示す。
3. □ 内は 1FL からのスラブ上端寸法を示し、
   特記外は下記による。
   S1・S2・S3・S4・S5・S9　1FL-30mm
   S6・S7・S8　1FL-700mm
   FS1・FS2　1FL-1,680mm
4. ⊠ は床下点検口を示す。また釜場は点検口直下とする。(6ヶ所)
5. ⊡ は体育器具基礎を示し、詳細は体育器具図1による。
6. ▨ は人通口を示す。(6ヶ所)

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋 / 日付 令和７年６月	総括 大橋	主任 大橋 / 製図 原田	一級建築士登録第270124号 構造設計一級建築士登録第 2066号 原田 和彦	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 杭伏図・基礎伏図 / 縮尺 A1：1/200 A3：1/400	図面 NO. S－０１８

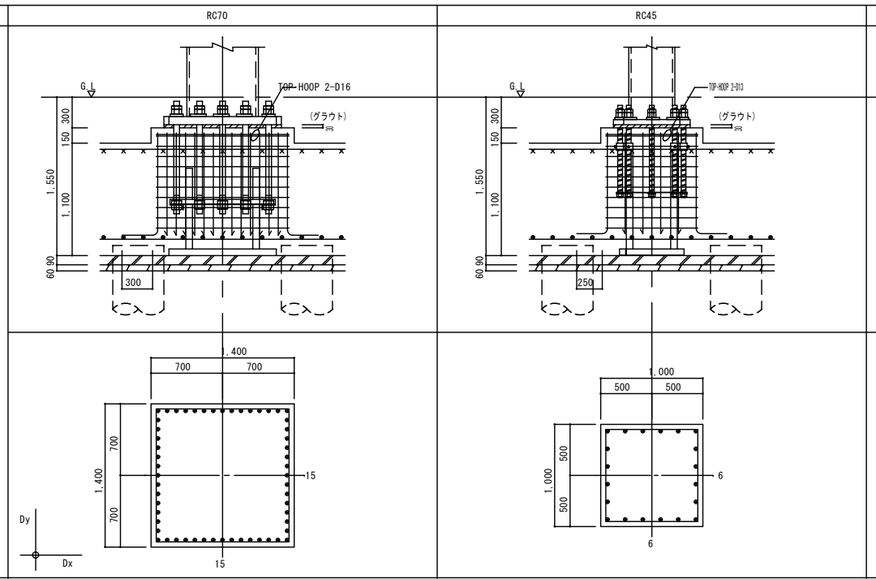
基礎リスト 1/30



RC柱型増打補強 1/30



RC柱型リスト 1/30

符号		RC70	RC45	RC30	RC25	RC40	RC0
断面							
柱符号		C7025	C4522	C3019	C2512	C406	
部材		□-700×700×25 (BCP325)	□-450×450×22 (BCR295)	□-300×300×19 (BCR295)	□-250×250×12 (BCR295)	○-406.4×12.7 (STKN400B)	
柱脚		ベースパックNT70-25FX3	ベースパック 45-22R	ベースパック 30-19V	ベースパック 25-12V	ベースパック 406-13V2	
Dx × Dy		1,400 × 1,400	1,000 × 1,000	1,000 × 880	790 × 790	750 × 750	1,250 × 1,250
主筋	X方向	15 - D25	6 - D25	4 - D25	5 - D22	5 - D19	8 - D25
	Y方向	15 - D25	6 - D25	5 - D25	5 - D22	5 - D19	8 - D25
	全本数	56 - D25	20 - D25	14 - D25	16 - D22	16 - D19	28 - D25
HOOP		2/D16 - 100@	2/D13 - 100@	2/D13 - 100@	2/D13 - 100@	2/D13 - 100@	2/D13 - 100@
備考							

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号 大橋康孝

検印	総括	主任
大 橋	大 橋	大 橋
日付 令和７年６月		製図 原 田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

設計 NO.

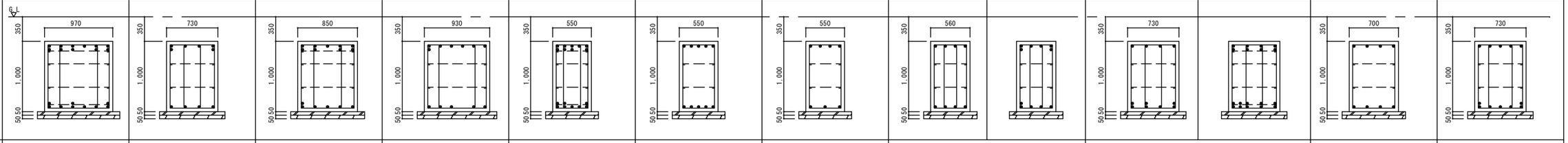
工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

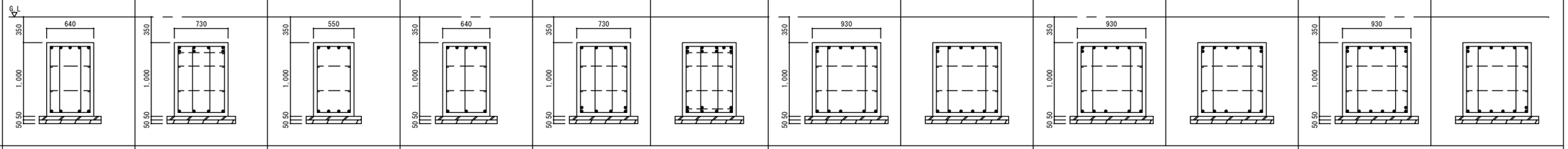
図面名 基礎リスト･RC柱型リスト

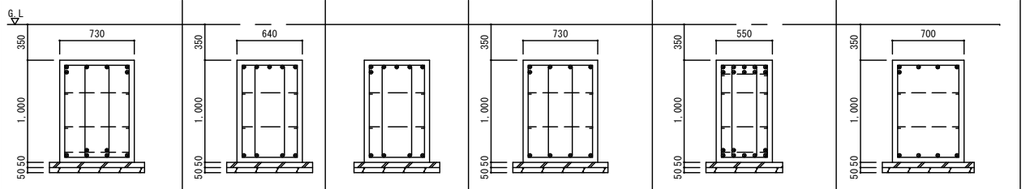
縮尺 A1：1/30 A3：1/60

図面 NO. S－０１９

地中梁リスト 1/30

符号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5	FG6	FG7	FG8		FG9		FG10	FG11
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	1通端	中央･2通端	1通端	中央･2通端	全断面	全断面
断面													
b × D	970 × 1,000	730 × 1,000	850 × 1,000	930 × 1,000	550 × 1,000	550 × 1,000	550 × 1,000	560 × 1,000		730 × 1,000		700 × 1,000	730 × 1,000
上端筋	6/5 - D29	4/2 - D29	5/4 - D29	6/1 - D29	5/4 - D29	5 - D29	4 - D29	4 - D29	4/2 - D29	4 - D29	4/4 - D29	4 - D29	5 - D25
下端筋	6/3 - D29	4 - D29	5/1 - D29	5 - D29	5/3 - D29	5 - D29	3 - D29	4 - D29	4/1 - D29	4/3 - D29	5/5 - D29	4 - D29	5/2 - D25
S.T	4/D13 - 150@	4/D13 - 150@	4/D13 - 150@	4/D13 - 150@	4/D13 - 150@	2/D13 - 150@	2/D13 - 150@	4/D13 - 150@		4/D13 - 150@		2/D13 - 150@	4/D13 - 150@
腹筋	4 - D10	4 - D10	4 - D10	4 - D10	4 - D10	4 - D10	4 - D10	4 - D10		4 - D10		4 - D10	4 - D10
備考													

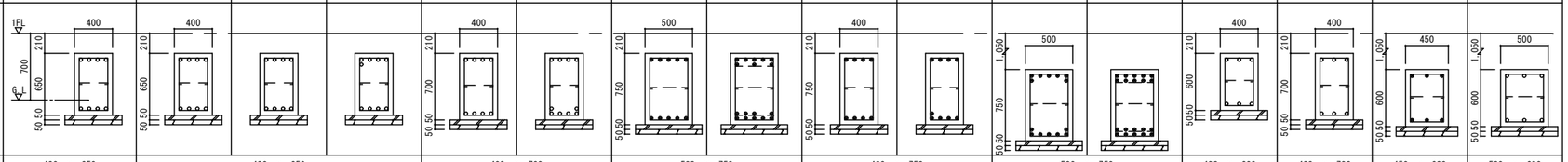
符号	FG12	FG13	FG14	FG15	FG16		FG17		FG18		FG19	
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	1通端	中央･2通端	端部	中央部	5通端･中央	6通端	6通端	中央･7通端
断面												
b × D	640 × 1,000	730 × 1,000	550 × 1,000	640 × 1,000	730 × 1,000		930 × 1,000		930 × 1,000		930 × 1,000	
上端筋	5 - D25	4/3 - D25	4 - D25	5 - D25	4 - D29	5/4 - D29	6/1 - D29	6/1 - D29	6/1 - D29	6/2 - D29	6/2 - D29	6/1 - D29
下端筋	4 - D25	4 - D25	4 - D25	3 - D25	4/2 - D29	4/3 - D29	5 - D29	6 - D29	5 - D29	5 - D29	6/1 - D29	6/1 - D29
S.T	4/D13 - 150@	4/D13 - 150@	2/D13 - 150@	3/D13 - 150@	4/D13 - 150@		4/D13 - 150@		4/D13 - 150@		4/D13 - 150@	
腹筋	4 - D10	4 - D10	4 - D10	4 - D10	4 - D10		4 - D10		4 - D10		4 - D10	
備考												

符号	FG20	FG21		FG22	FG23	FG24
位置	全断面	G通端+5,425･中央	H通端	全断面	全断面	全断面
断面						
b × D	730 × 1,000	640 × 1,000		730 × 1,000	550 × 1,000	700 × 1,000
上端筋	4/2 - D29	5 - D25	5/1 - D25	4/1 - D25	5/5 - D29	4/1 - D29
下端筋	4/2 - D29	4 - D25	4 - D25	4 - D25	5/3 - D29	4 - D29
S.T	4/D13 - 150@	4/D13 - 150@		4/D13 - 150@	4/D13 - 150@	2/D13 - 150@
腹筋	4 - D10	4 - D10		4 - D10	4 - D10	4 - D10
備考						

スラブリスト

符号	t	位置	短辺方向（主筋） 中央部 端部(A)	中央部 中央(B)	中央部 両端部 全域(C)(D)	長辺方向（副筋） 中央部 端部(D)	中央部 中央(B)	中央部 両端部 全域(A)(C)	備考
S1･S5	180	上	D13-200@			D13-200@			
		下	D10-200@			D10-200@			
S2	180	上	D13-150@			D13-200@			
		下	D10-150@			D10-200@			
S3	200	上	D13-150@			D13-150@			
		下	D10-150@			D10-150@			
S4	250	上	D13-125@			D13-150@			
		下	D10-125@			D10-150@			
S6	250	上	D16-200@			D16-200@			
		下	D10･D13-200@			D10･D13-200@			
S7	220	上	D13-150@			D13-200@			
		下	D10-150@			D10-200@			
S8	180	上	D13-200@			D10･D13-200@			
		下	D10-200@			D10-200@			
S9	180	上	D10･D13-200@			D10･D13-200@			
		下	D10-200@			D10-200@			
FS1	200	上	D13-200@			D13-200@			
		下	D10-200@			D10-200@			
FS2	220	上	D13-150@			D13-150@			
		下	D10-150@			D10-150@			
FD1	160	上	D10･D13-200@			D10-200@			
		下	D10-200@			D10-200@			

地中小梁リスト 1/30

符号	FB1	FB2			FB3		FB4		FB5		FB6		FB7	FB8	FB9	FCB1
位置	全断面	B･D･F･外端部	中央	C･G通端部	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	全断面	全断面	全断面	全断面
断面																
b × D	400 × 650	400 × 650			400 × 700		500 × 750		400 × 750		500 × 750		400 × 600	400 × 700	450 × 600	500 × 600
上端筋	4 - D22	4 - D22	4 - D22	4/1 - D22	4 - D22	4 - D22	5 - D25	5/3 - D25	4 - D25	4 - D25	5/2 - D25	5/5 - D25	3 - D22	3 - D22	3 - D25	3 - D22
下端筋	4 - D22	4 - D22	4 - D22	4 - D22	4 - D22	4/2 - D22	5 - D25	5/4 - D25	4 - D25	4/1 - D25	5/2 - D25	5/5 - D25	3 - D22	3 - D22	3 - D25	3 - D22
S.T	2/D13 - 200@	2/D13 - 200@			2/D13 - 200@		2/D13 - 200@		2/D13 - 200@		2/D13 - 200@		2/D13 - 200@	2/D13 - 200@	2/D13 - 200@	2/D13 - 200@
腹筋	2 - D10	2 - D10			2 - D10		2 - D10		2 - D10		2 - D10		2 - D10	2 - D10	2 - D10	2 - D10
備考																

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号 大橋康孝

検印	総括	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和７年６月		製図 原田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

設計 NO.

工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

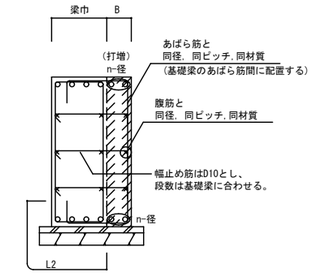
図面名 地中梁リスト･地中小梁リスト･スラブリスト

縮尺 A1：1/30 A3：1/60

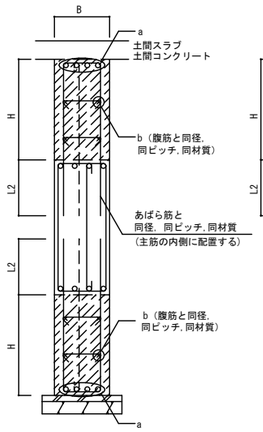
図面 NO. S－０２０

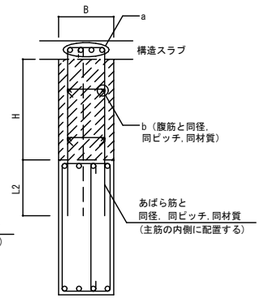
基礎梁打増配筋図

特記事項
・軸方向補強筋の定着は L2 とする。
・軸方向補強筋は主筋径以下とする。
・B、Hが70mm未満の場合は、補強不要とする。
・補強あばら筋比Pwは0.2%以上を確保する。
・腹筋端部には開き止め（ 図、重ね継手、腹筋と同等）を設ける。
・配筋の都合により基礎梁等を増打ち場合は、受注者の負担とする。



B寸法 (mm)	n (本)	径
70≦B≦200	1	D16
200＜B≦300	2	D19
300＜B	2	D22

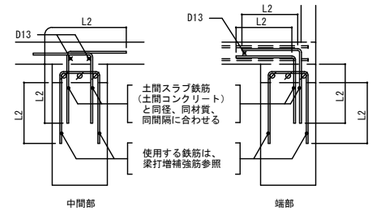




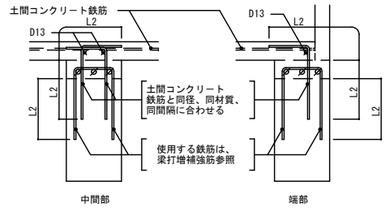
H ＼ B		300≦B	B＞300
70≦H≦200	a	2-D16	D16-@150以下
	b	--	--
200＜H≦500	a	2-D19	D19-@150以下
	b	@300以下	@300以下
500＜H	a	2-D22	D22-@150以下
	b	@300以下	@300以下

土間コンクリート等打継ぎ補強配筋図

特記事項
・土間コンクリートがダブル配筋の場合は、スラブ打継ぎ補強配筋を採用する。
・地中梁上端打増部分は補強を行う為、差し筋の定着長さは土間下端からとし、
土間コンクリート鉄筋間に配置する。定着長さはL2以上を確保する。
重ね接手の場合は、L1以上とする。



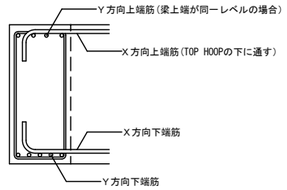
※スラブ打継ぎ補強配筋



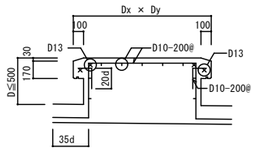
※土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

梁主筋配置要領図

特記事項
・同一レベル梁主筋の配置は、以下の通りとする。
上端筋：Y方向主筋をX方向主筋の下側に配置
下端筋：Y方向主筋をX方向主筋の下側に配置



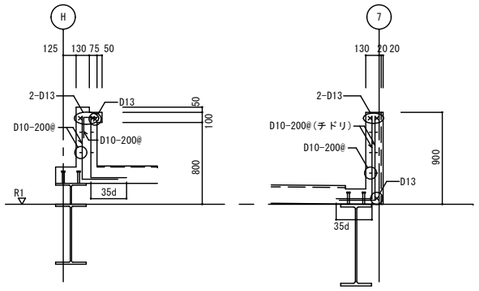
屋外機基礎等



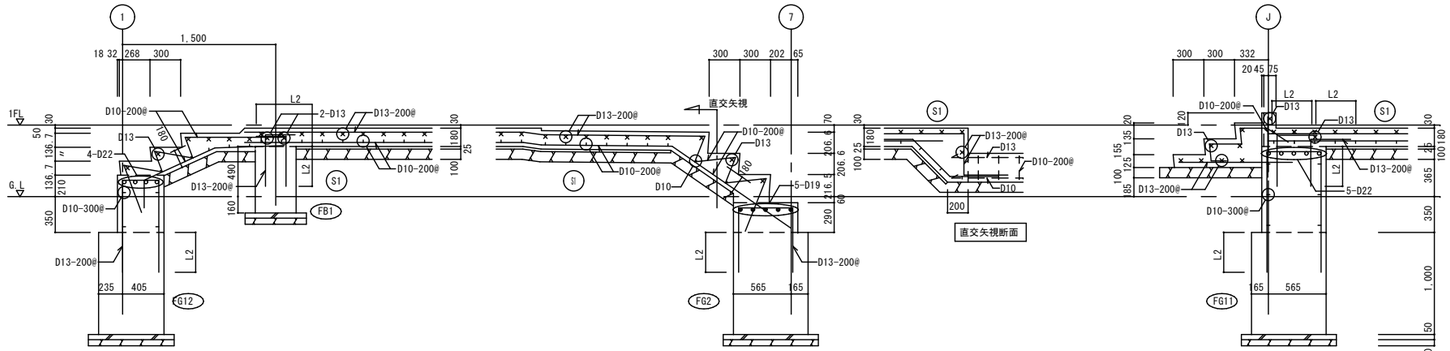
Dx	Dy	個数
5,400	500	2
2,300	1,090	1
2,450	400	3
1,350	400	5
1,295	400	3
800	400	2
900	900	3
600	600	1
500	1,340	1

屋外階段基礎
も準ずる
(D≒800)

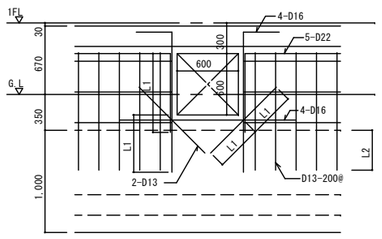
パラペット



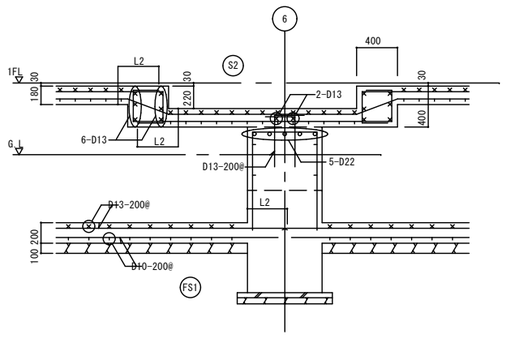
階段



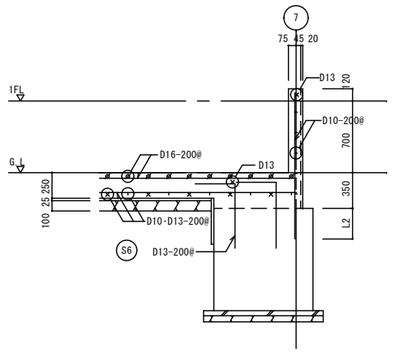
人通口



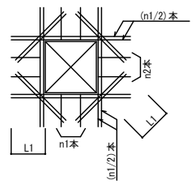
更衣室スラブ段差



腰壁

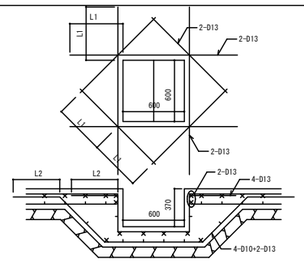


床スラブ開口部補強筋要領



スラブ開口の最大径が700mm以下または開口廻りを鋼材補強した場合は、
開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、
隅各部に斜め方向に2-D13(L=2L1)シングルを上下筋の内側に配筋する。
また、Φ150以下のスリーブ補強の場合、斜め筋は不要とする。

釜場



株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大 橋	総括 大 橋	主任 大 橋
	日付 令和７年６月		製図 原 田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

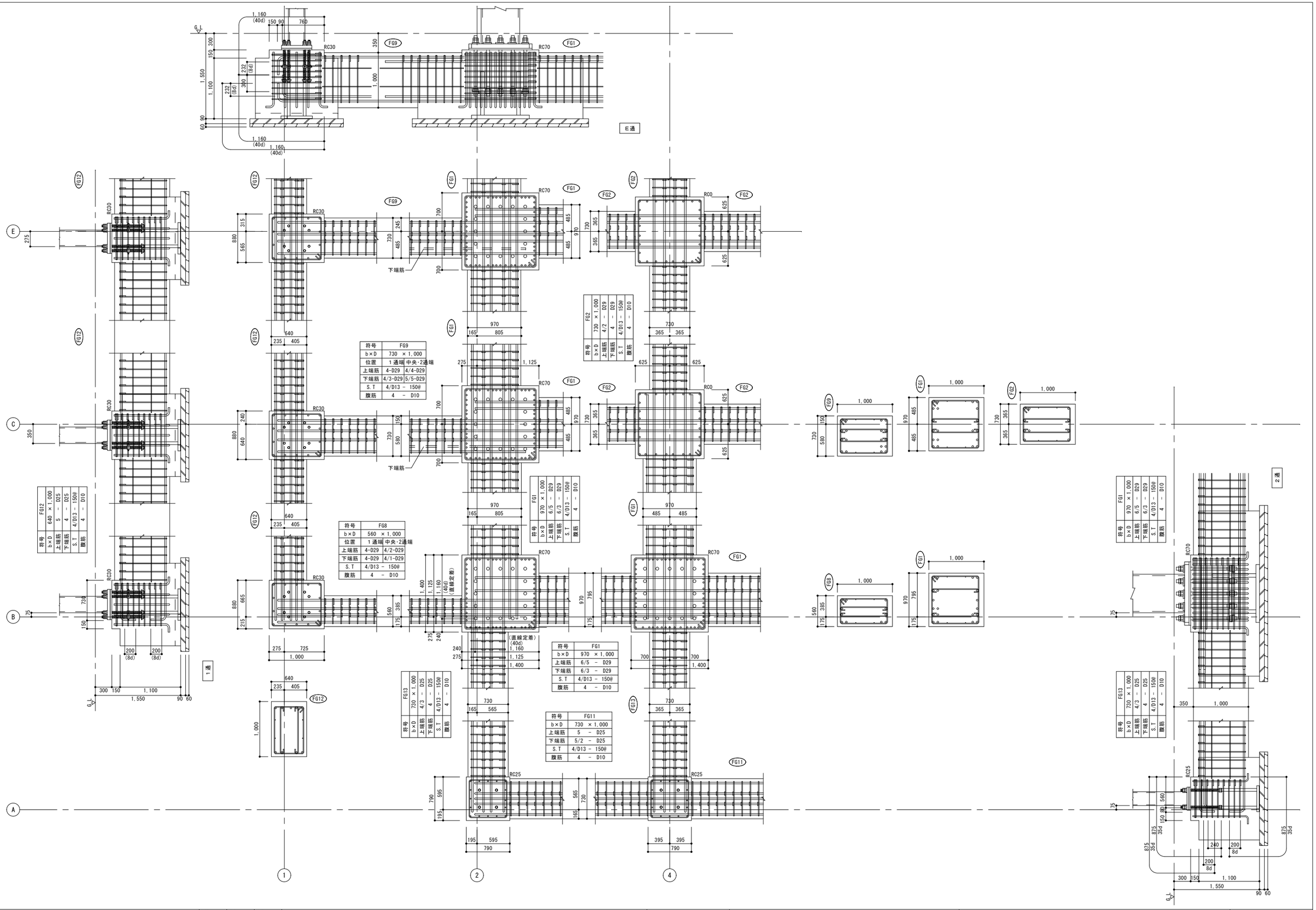
設計 NO.

工事名：令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名：補強筋・雑配筋図

縮尺：A1：1/30　A3：1/60

図面 NO.：Ｓ－０２１



符号	FG9	
b×D	730 × 1,000	
位置	1通端	中央・2通端
上端筋	4-D29	4/4-D29
下端筋	4/3-D29	5/5-D29
S.T	4/D13 - 150@	
腹筋	4 - D10	

符号	FG8	
b×D	560 × 1,000	
位置	1通端	中央・2通端
上端筋	4-D29	4/2-D29
下端筋	4-D29	4/1-D29
S.T	4/D13 - 150@	
腹筋	4 - D10	

符号	FG1
b×D	970 × 1,000
上端筋	6/5 - D29
下端筋	6/3 - D29
S.T	4/D13 - 150@
腹筋	4 - D10

符号	FG11
b×D	730 × 1,000
上端筋	5 - D25
下端筋	5/2 - D25
S.T	4/D13 - 150@
腹筋	4 - D10

符号	FG12
b×D	640 × 1,000
上端筋	5 - D25
下端筋	4 - D25
S.T	4/D13 - 150@
腹筋	4 - D10

符号	FG13
b×D	730 × 1,000
上端筋	4/3 - D25
下端筋	4 - D25
S.T	4/D13 - 150@
腹筋	4 - D10

符号	FG2
b×D	730 × 1,000
上端筋	4/2 - D29
下端筋	4 - D29
S.T	4/D13 - 150@
腹筋	4 - D10

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋
一級建築士登録第343672号 大橋康孝	日付 令和７年６月		製図 原田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

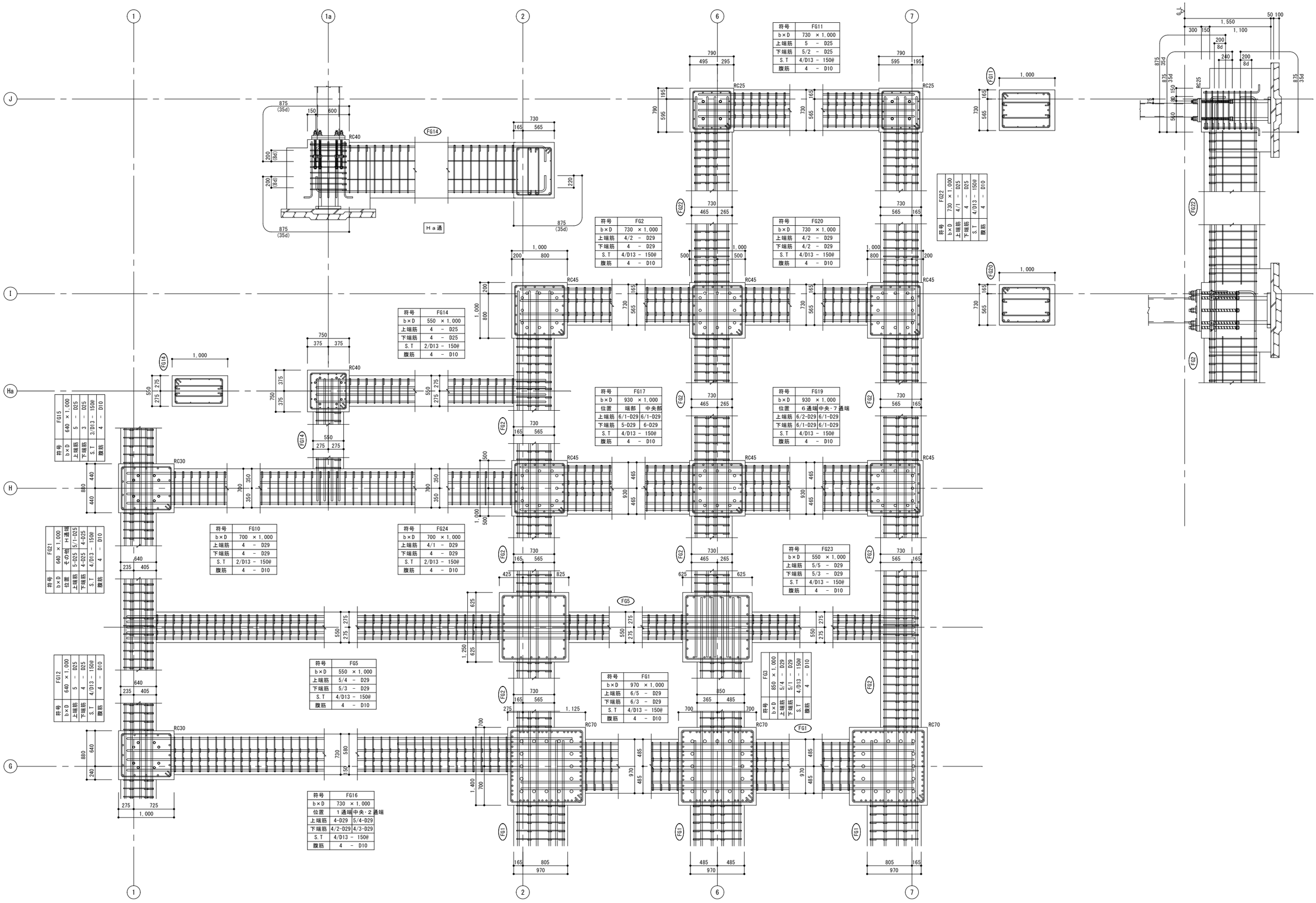
設計 NO.

工事名：令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名：基礎詳細図１

縮尺：A1：1/30　A3：1/60

図面 NO.：S－０２２



符号	FG11
b×D	730 × 1,000
上端筋	5 － D25
下端筋	5/2 － D25
S.T	4/D13 － 150@
腹筋	4 － D10

符号	FG2
b×D	730 × 1,000
上端筋	4/2 － D29
下端筋	4 － D29
S.T	4/D13 － 150@
腹筋	4 － D10

符号	FG20
b×D	730 × 1,000
上端筋	4/2 － D29
下端筋	4/2 － D29
S.T	4/D13 － 150@
腹筋	4 － D10

符号	FG22
b×D	730 × 1,000
上端筋	4/1 － D25
下端筋	4 － D25
S.T	4/D13 － 150@
腹筋	4 － D10

符号	FG14
b×D	550 × 1,000
上端筋	4 － D25
下端筋	4 － D25
S.T	2/D13 － 150@
腹筋	4 － D10

符号	FG17	
b×D	930 × 1,000	
位置	端部	中央部
上端筋	6/1-D29	6/1-D29
下端筋	5-D29	6-D29
S.T	4/D13 － 150@	
腹筋	4 － D10	

符号	FG19	
b×D	930 × 1,000	
位置	６通端中央・７通端	
上端筋	6/2-D29	6/1-D29
下端筋	6/1-D29	6/1-D29
S.T	4/D13 － 150@	
腹筋	4 － D10	

符号	FG15
b×D	640 × 1,000
上端筋	5 － D25
下端筋	3 － D25
S.T	3/D13 － 150@
腹筋	4 － D10

符号	FG10
b×D	700 × 1,000
上端筋	4 － D29
下端筋	4 － D29
S.T	2/D13 － 150@
腹筋	4 － D10

符号	FG24
b×D	700 × 1,000
上端筋	4/1 － D29
下端筋	4 － D29
S.T	2/D13 － 150@
腹筋	4 － D10

符号	FG21	
b×D	640 × 1,000	
位置	その他	Ｈ通端
上端筋	5-D25	5/1-D25
下端筋	4-D25	4-D25
S.T	4/D13 － 150@	
腹筋	4 － D10	

符号	FG23
b×D	550 × 1,000
上端筋	5/5 － D29
下端筋	5/3 － D29
S.T	4/D13 － 150@
腹筋	4 － D10

符号	FG12
b×D	640 × 1,000
上端筋	5 － D25
下端筋	4 － D25
S.T	4/D13 － 150@
腹筋	4 － D10

符号	FG5
b×D	550 × 1,000
上端筋	5/4 － D29
下端筋	5/3 － D29
S.T	4/D13 － 150@
腹筋	4 － D10

符号	FG1
b×D	970 × 1,000
上端筋	6/5 － D29
下端筋	6/3 － D29
S.T	4/D13 － 150@
腹筋	4 － D10

符号	FG3
b×D	850 × 1,000
上端筋	5/4 － D29
下端筋	5/1 － D29
S.T	4/D13 － 150@
腹筋	4 － D10

符号	FG16	
b×D	730 × 1,000	
位置	１通端中央・２通端	
上端筋	4-D29	5/4-D29
下端筋	4/2-D29	4/3-D29
S.T	4/D13 － 150@	
腹筋	4 － D10	

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所	検印 大 橋	総括 大 橋	主任 大 橋
一級建築士登録第343672号 大橋康孝	日付 令和７年６月		製図 原 田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

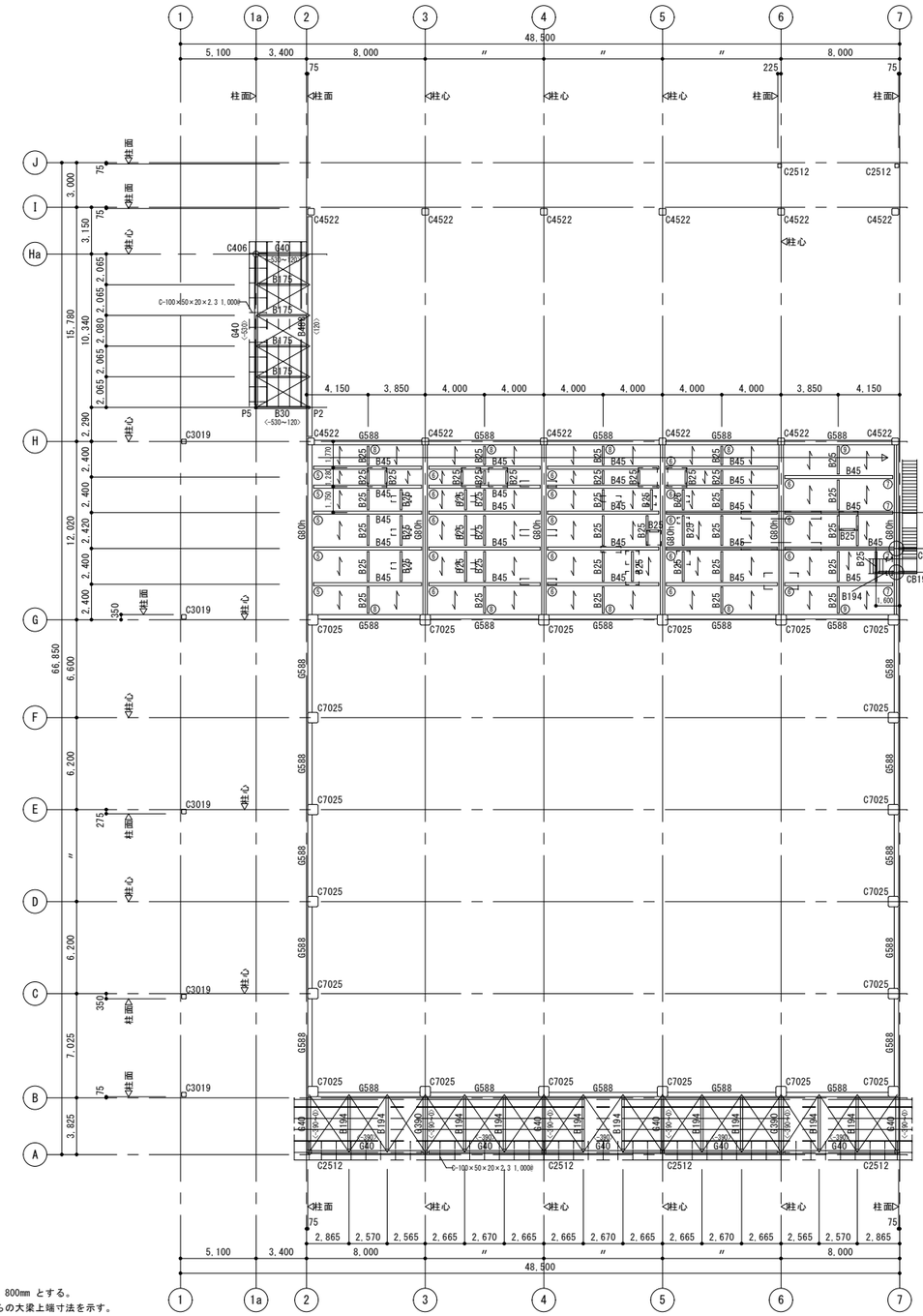
設計 NO.

工事名：令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名：基礎詳細図２

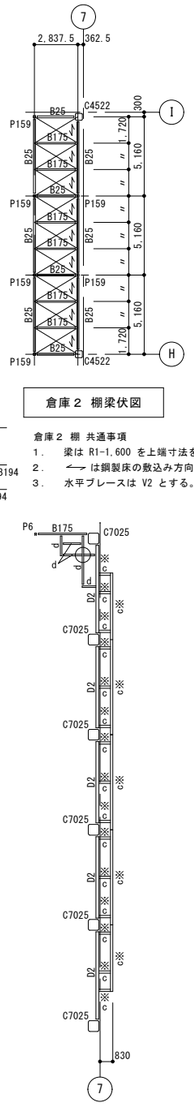
縮尺：A1：1/30　A3：1/60

図面 NO.：S－０２３



R１階 共通事項
1. 梁継手は柱面から 800mm とする。
2. 〈　〉内は R1 からの大梁上端寸法を示す。
特記外の小梁は大梁に沿ったレベルとする。
3. ⟷ はデッキプレートの敷込み方向を示す。
デッキプレートは FD1 とする。
大梁はR1を梁上端とし CT材(一部溝形)により嵩上する。
ただし、小梁はデッキ下を梁上端とする。
4. 水平ブレースは V2 とする。
5. ┅┅ は母屋 C-100×50×20×2.3 750#を示す。
2,250# 毎ダブルとする。(庇は特記による)
6. ◯ は剛接合を示す。
7. ○内の符号は梁接合部を示す。鉄骨リスト参照

R１階梁伏図 1/200

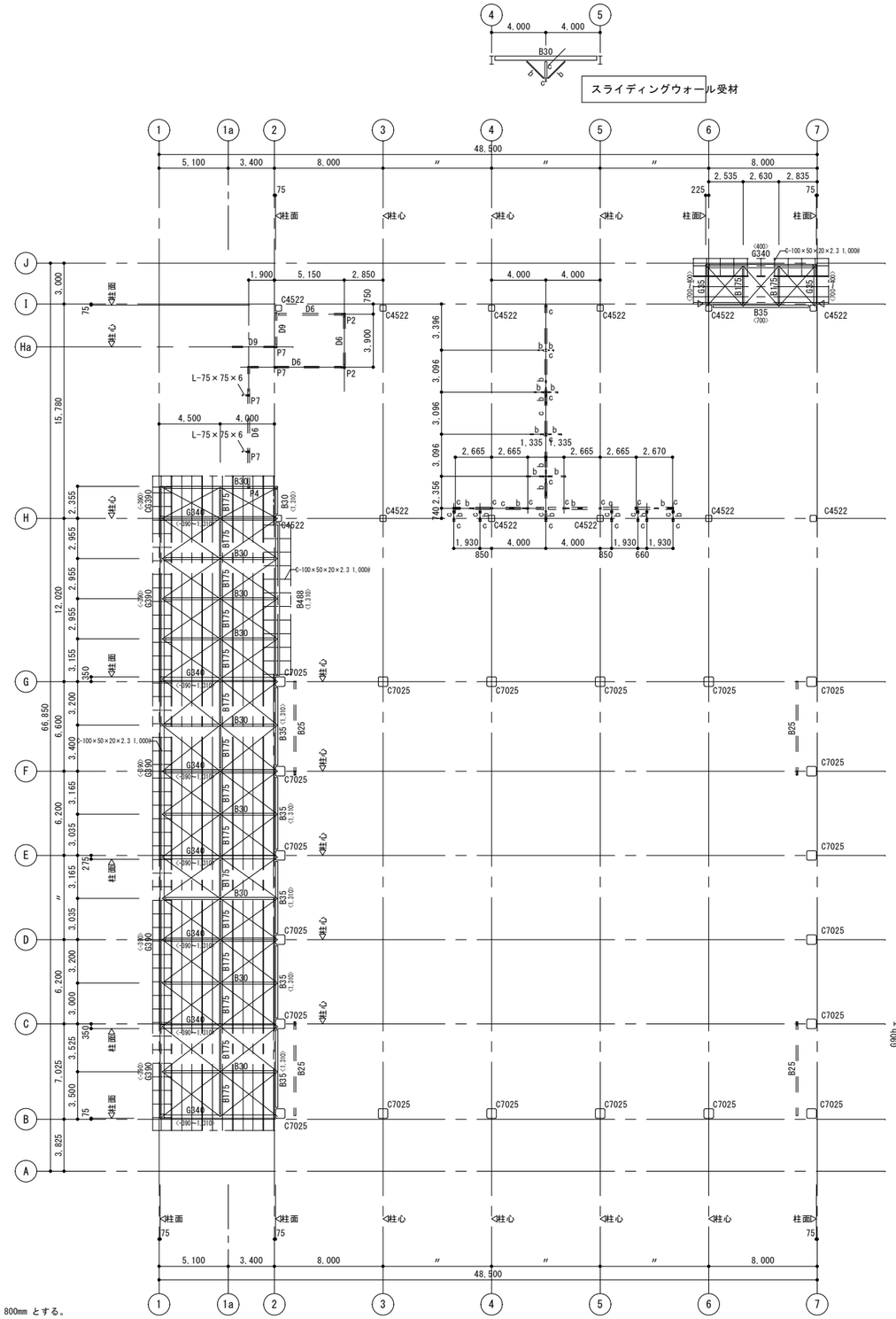


倉庫２ 棚梁伏図

倉庫２ 棚 共通事項
1. 梁は R1-1,600 を上端寸法を示す。
2. ⟷ は鋼製床の敷込み方向を示す。
3. 水平ブレースは V2 とする。

メンテナンスバルコニー

1. 1・7通りは同部材とする。
2. ※は溶融亜鉛メッキを施す。



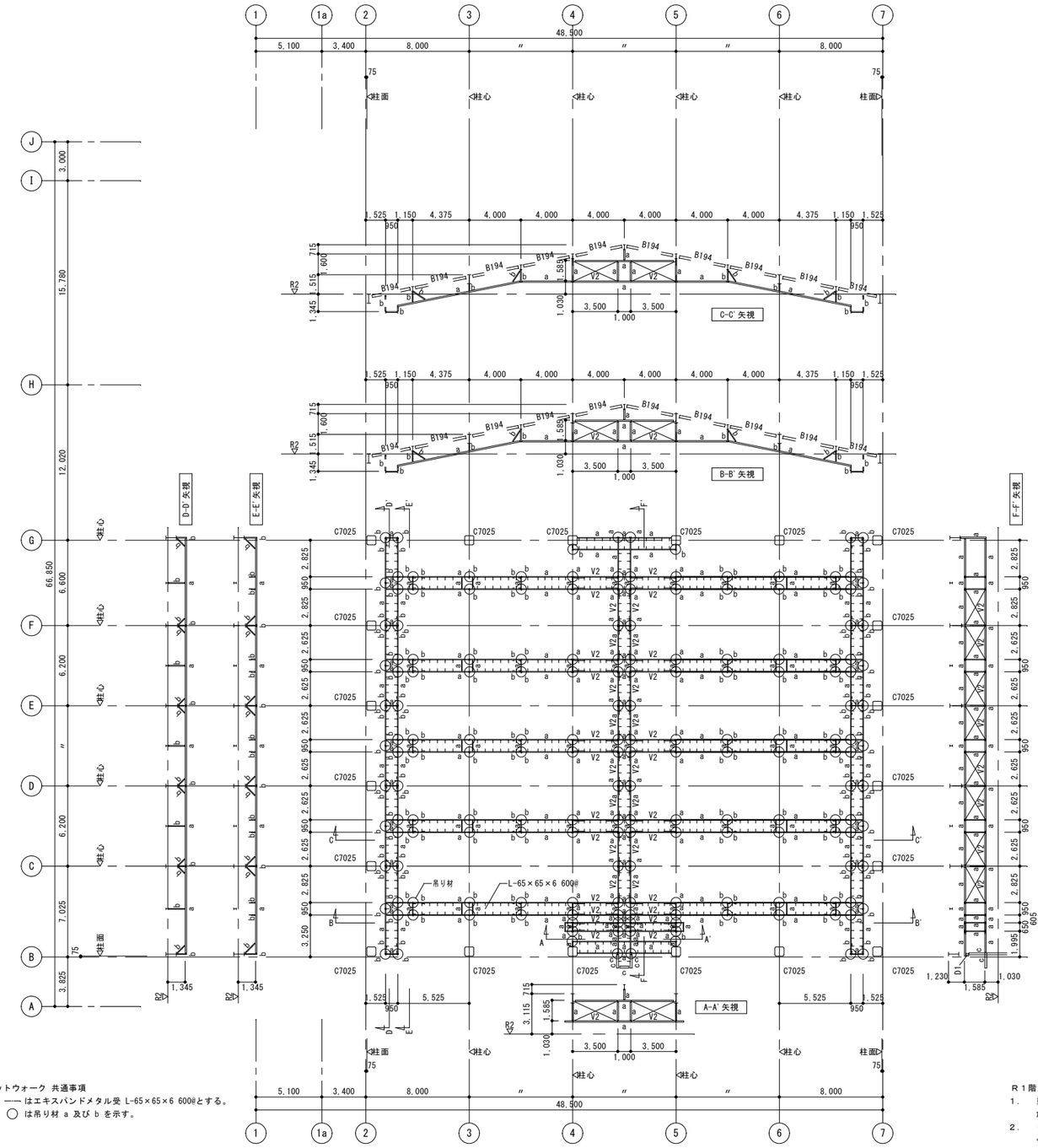
スライディングウォール受材

R１(上部)階 共通事項
1. 梁継手は柱面から 800mm とする。
2. 〈　〉内は R1 からの大梁上端寸法を示す。
特記外の小梁は大梁に沿ったレベルとする。
3. 水平ブレースは V2 とする。
4. ┅┅ は母屋 C-100×50×20×2.3 750#を示す。
2,250# 毎ダブルとする。(庇は特記による)
5. ▷ は柱に取付く大梁がピン接合を示す。
6. ○内の符号は梁接合部を示す。鉄骨リスト参照

R１(上部)階梁伏図 1/200

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	一級建築士登録第270124号 構造設計一級建築士登録第 2066号 原田 和彦	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 R１階梁伏図・R１(上部)階梁伏図
	日付 令和７年６月		製図 原田				縮尺 A1：1/200 A3：1/400

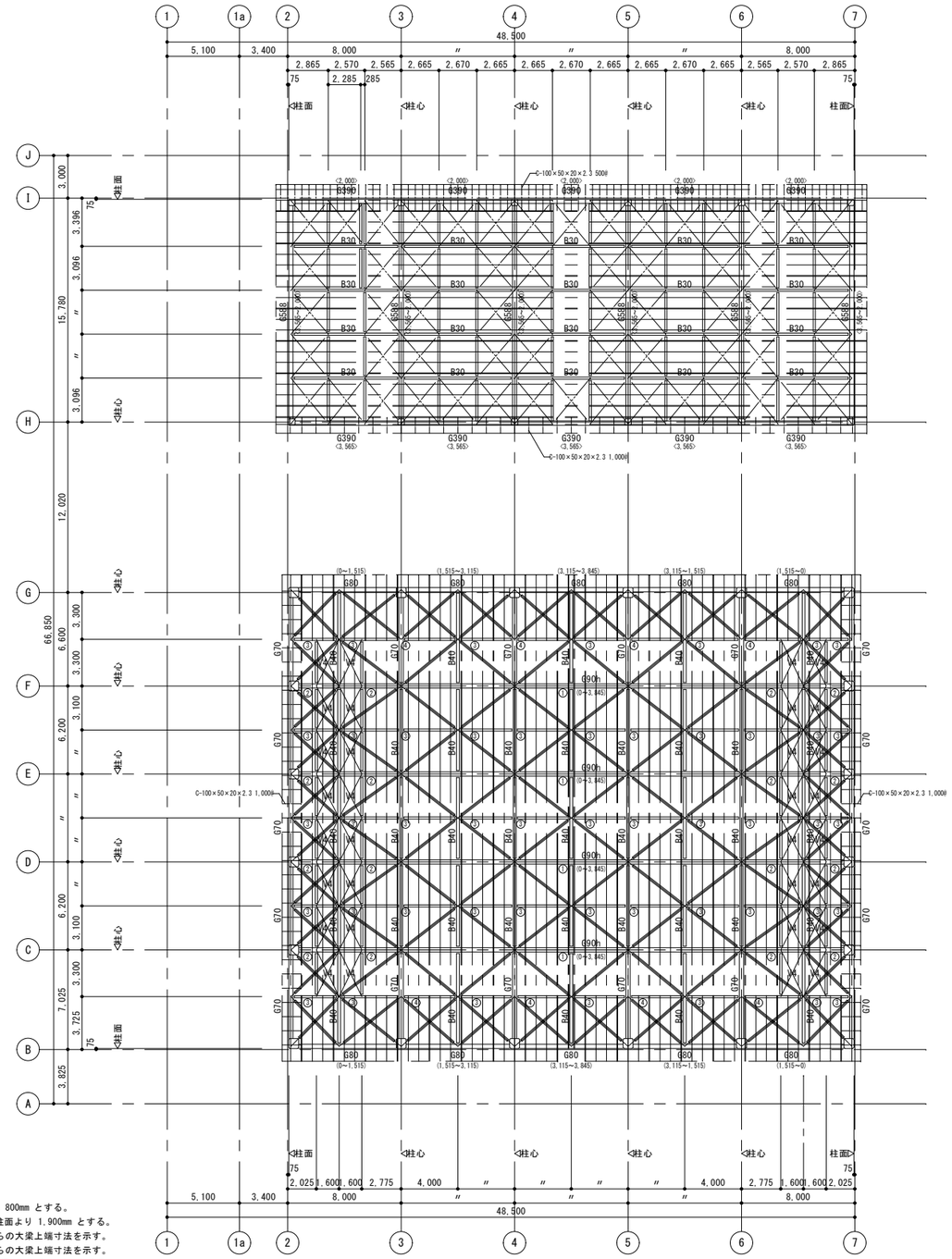
図面 NO. S－０２４



キャットウォーク 共通事項

1. ── はエキスパンドメタル受 L-65×65×6 600#とする。
2. ○ は吊り材 a 及び b を示す。

キャットウォーク伏図 1/200



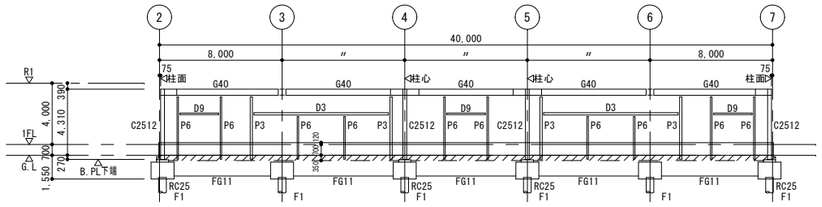
R１階 共通事項

1. 梁継手は柱面から 800mm とする。
   ただし、G90h は柱面より 1,900mm とする。
2. (　)内は R1 からの大梁上端寸法を示す。
   <　>内は R2 からの大梁上端寸法を示す。
   特記外の小梁は大梁に沿ったレベルとする。
3. 特記外の小梁は B194 とする。
4. ═══ の水平ブレースは V1 とする。(体育室屋根)
   ─·─ の水平ブレースは V3 とする。(体力測定室屋根)
   ─── の水平ブレースは V1 とする。(体育室一部屋根)
5. ── は母屋 C-100×50×20×2.3 750#を示す。
   2,250# 毎ダブルとする。(庇は特記による)
6. ○内の符号は梁接合部を示す。鉄骨リスト参照
7. 切妻屋根は仕上げ特性等を考慮の上、各業種と協議を行いフレームのキャンバー角度を決定する。

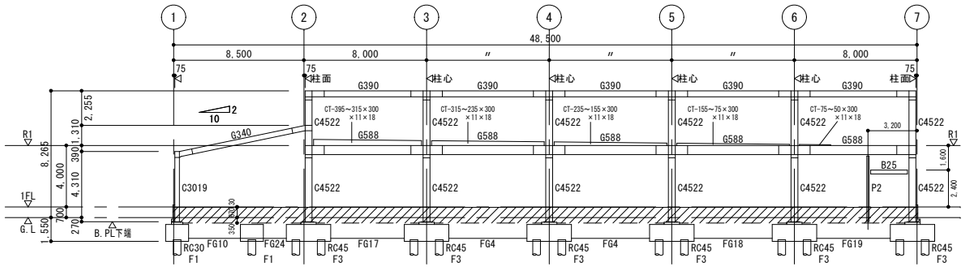
R２階梁伏図 1/200

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号　大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	一級建築士登録第270124号 構造設計一級建築士登録第 2066号 原田 和彦	設計 NO.	工事名 令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 キャットウォーク伏図･R２階梁伏図
	日付 令和７年６月		製図 原田				縮尺 A1：1/200 A3：1/400

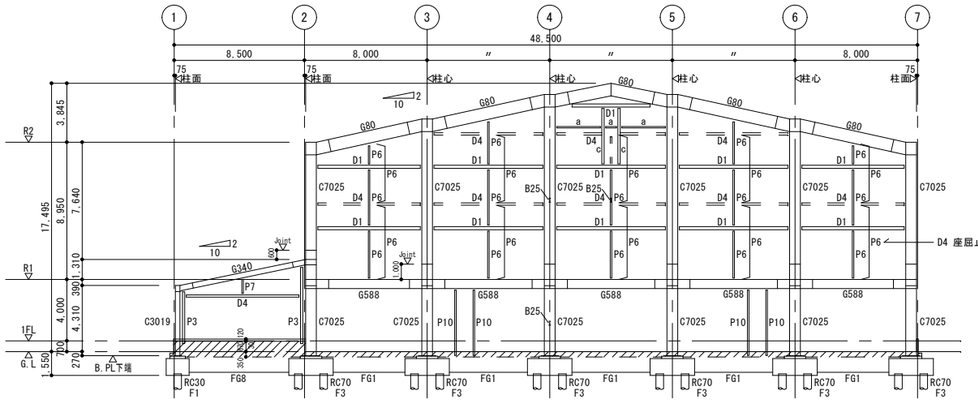
図面 NO. S－０２５



A通軸組図 1/200



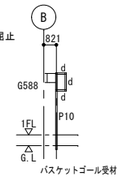
H通軸組図 1/200

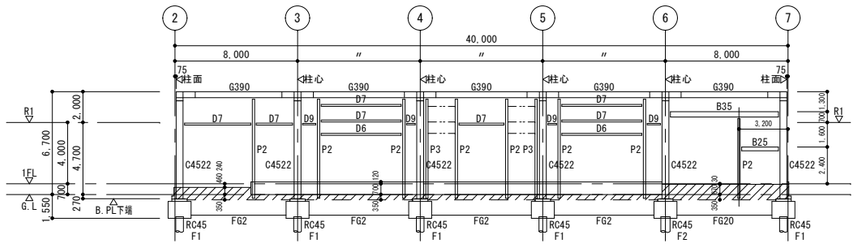


B通軸組図 1/200

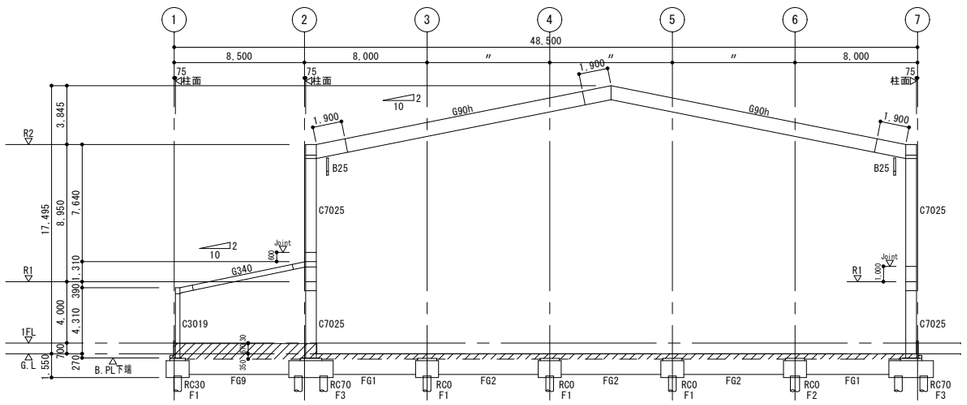
軸組図 共通事項

1. 梁継手は柱面から 800mm とする。
   ただし、G90h は柱面より 1,900mm とする。
2. ― ―は開口部補強材 L-75×75×9 を示す。
   ―・・―は開口部補強材 L-75×75×6 を示す。
3. ＝ ＝は内壁受け材を示す。
4. ▨は基礎・地中梁の増打ちを示す。
5. □は腰壁を示す。
6. ▷は柱に取付く大梁がピン接合を示す。
7. 梁端部のハンチは1/3以上の勾配とする。

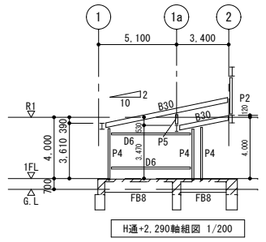




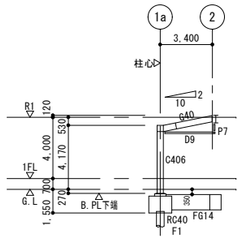
I通軸組図 1/200



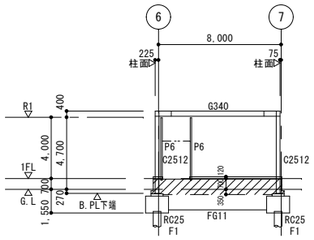
C通軸組図 1/200



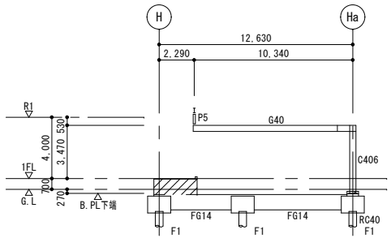
H通+2,290軸組図 1/200



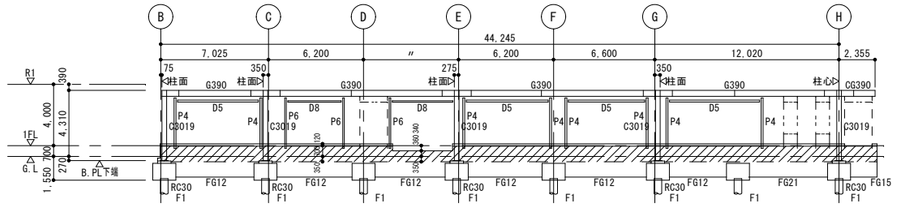
Ha通軸組図 1/200



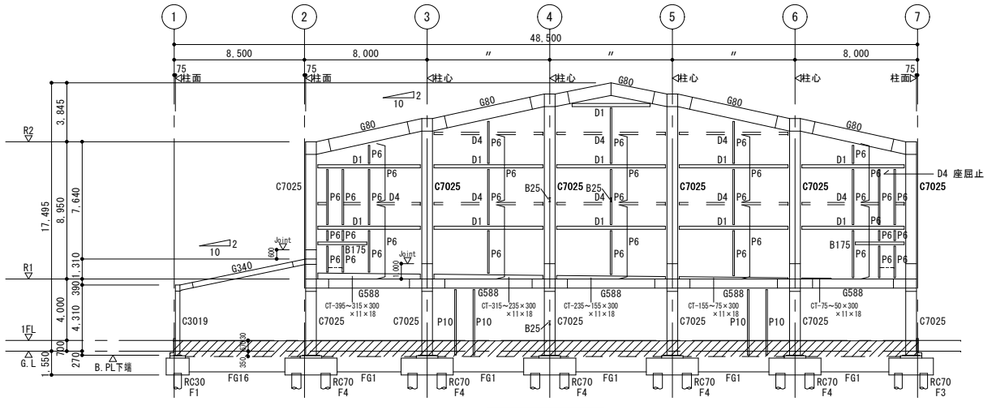
J通軸組図 1/200



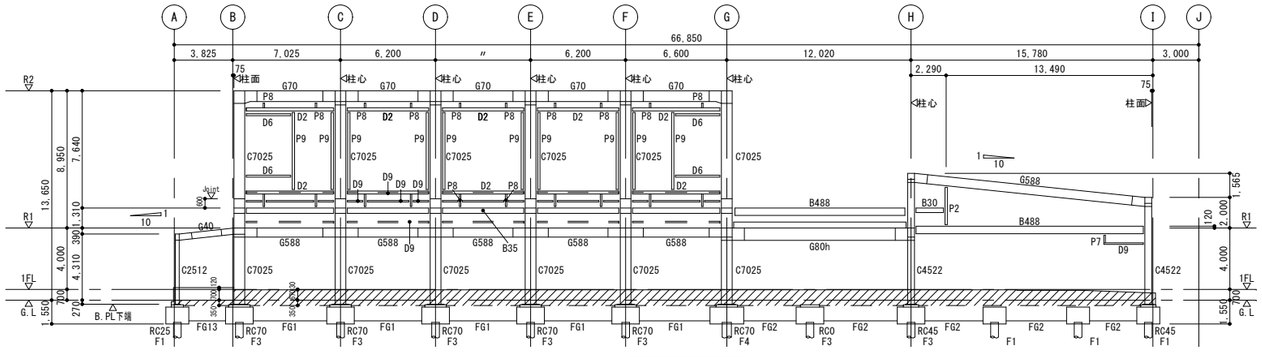
1a通軸組図 1/200



1通軸組図 1/200



G通軸組図 1/200



2通軸組図 1/200

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号 大橋康孝

検印	総括	主任
大 橋	大 橋	大 橋
日付 令和７年６月		製図 原 田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

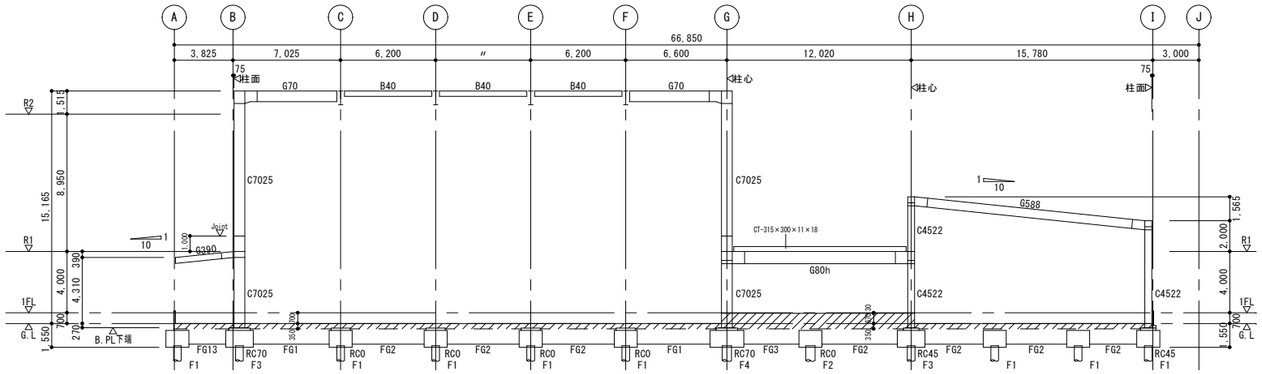
設計 NO.

工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

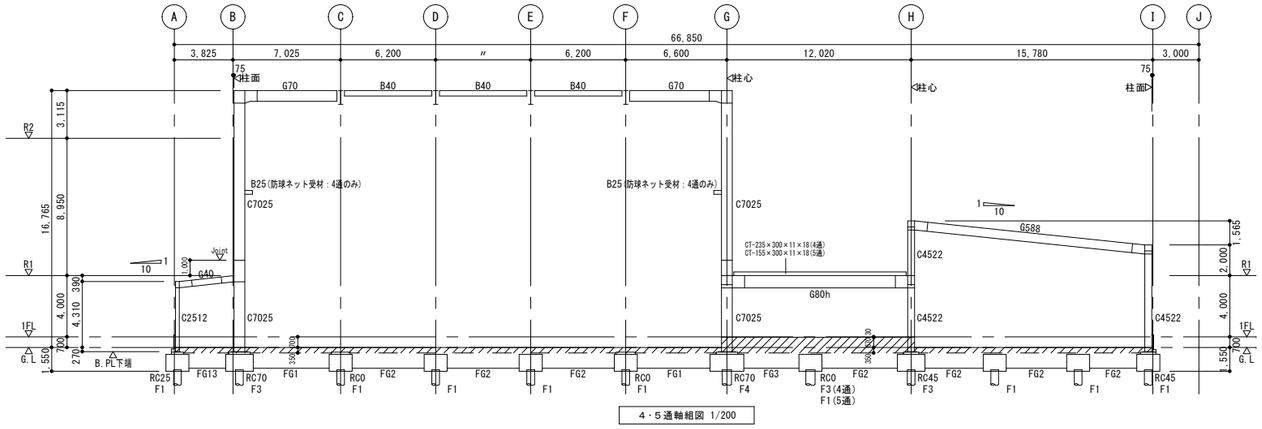
図面名 軸組図１

縮尺 A1：1/200 A3：1/400

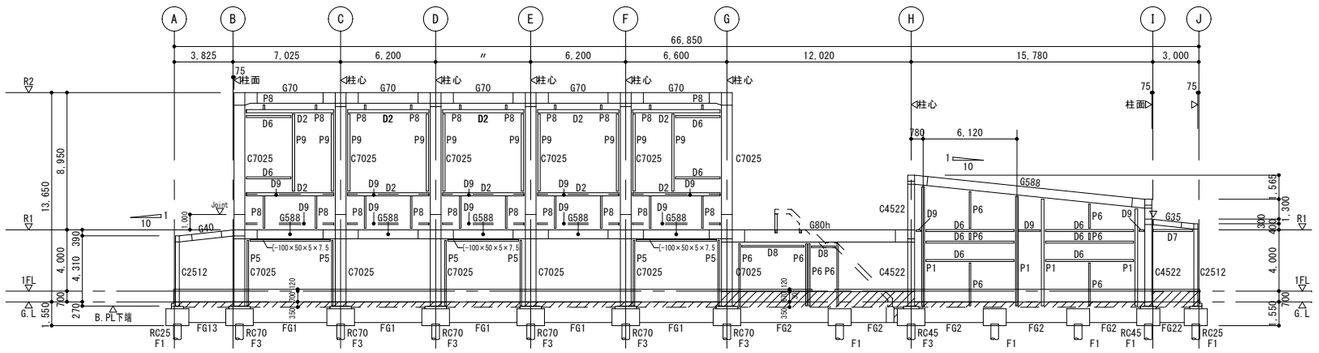
図面 NO. S－０２６



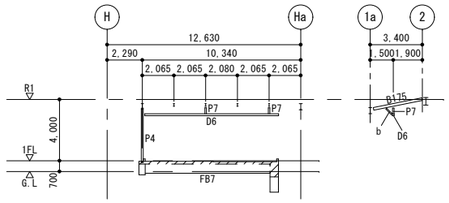
3通軸組図 1/200



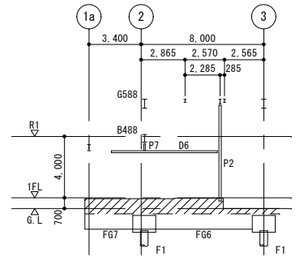
4・5通軸組図 1/200



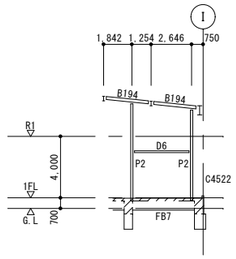
7通軸組図 1/200



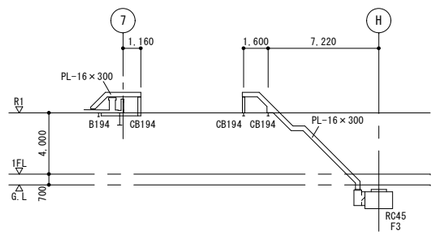
2通-1,900軸組図 1/200



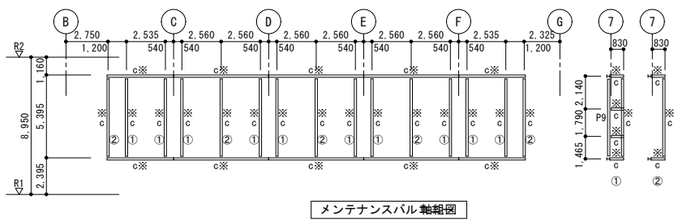
Ha通-1,500軸組図 1/200



2通+5,150軸組図 1/200

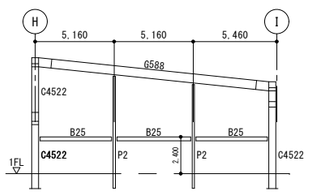


屋外階段 1/200



メンテナンスバル軸組図

※は溶融亜鉛メッキを施す。



7通 倉庫２棚 1/200

軸組図 共通事項

1. 梁継手は柱面から 800mm とする。
   ただし、G90h は柱面より 1,900mm とする。
2. ― ―は開口部補強材 L-75×75×9 を示す。
   ―・―は開口部補強材 L-75×75×6 を示す。
3. ＝ ＝は内壁受け材を示す。
4. ▨ は基礎・地中梁の増打ちを示す。
5. ▭ は腰壁を示す。
6. ▷ は柱に取付く大梁がピン接合を示す。
7. 梁端部のハンチは1/3以上の勾配とする。

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 軸組図２	縮尺 A1：1/200 A3：1/400	図面 NO. S－０２７
	日付 令和７年６月		製図 原田					

鉄骨部材リスト

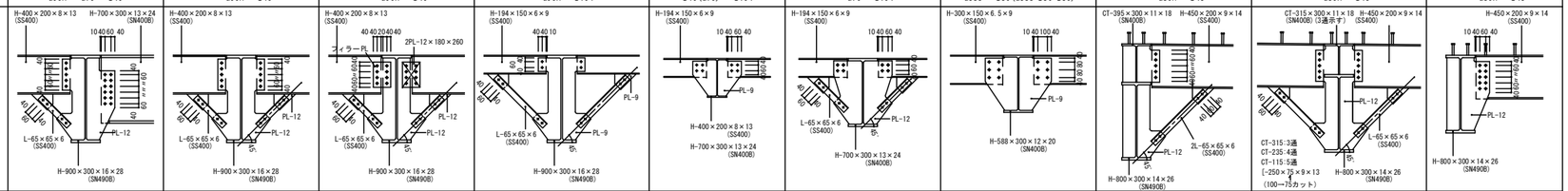
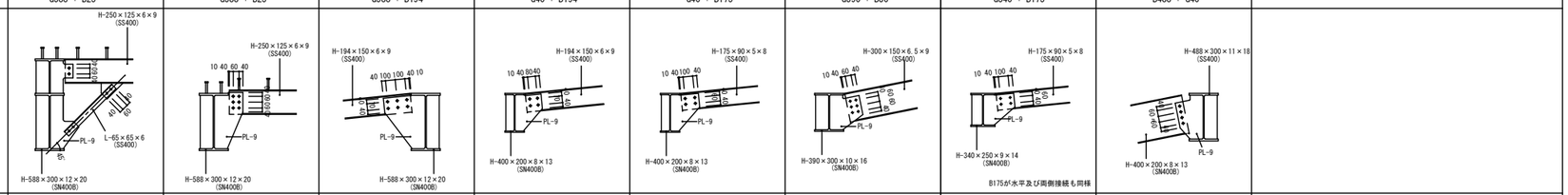
符　号	断面寸法	鋼材種別	接合部
C7025	□-700×700×25	BCP325	ベースバック NT70-25FX3
C4522	□-450×450×22	BCR295	ベースバック 45-22R
C3019	□-300×300×19	BCR295	ベースバック 30-19V
C2512	□-250×250×12	BCR295	ベースバック 25-12V
C406	○-406.4×12.7	STKN400B	ベースバック 406-13V2
G90h	H-900×300×16×28	SN490B	
G80h	H-800×300×14×26	SN490B	
G80	H-800×300×14×26	SN400B	
G70	H-700×300×13×24	SN400B	ピン接合部は小梁接合部リストによる
G588	H-588×300×12×20	SN400B	
G40	H-400×200× 8×13	SN400B	ピン接合部は小梁接合部リストによる
G390-CG390	H-390×300×10×16	SN400B	
G340	H-340×250× 9×14	SN400B	ピン接合部は小梁接合部リストによる
G35	H-350×175× 7×11	SN400B	
CB194※	H-194×150× 6× 9	SN400B	
B488	H-488×300×11×18	SS400	鉄骨構造標準図(3)による
B45	H-450×200× 9×14	SS400	小梁接合部リストによる
B40	H-400×200× 8×13	SS400	小梁接合部リスト、鉄骨構造標準図(3)による
B35	H-350×175× 7×11	SS400	小梁接合部リスト、鉄骨構造標準図(3)による
B30	H-300×150×6.5×9	SS400	小梁接合部リスト、鉄骨構造標準図(3)による
B25	H-250×125× 6× 9	SS400	小梁接合部リスト、鉄骨構造標準図(3)による
B194	H-194×150× 6× 9	SS400	小梁接合部リスト、鉄骨構造標準図(3)による
B175	H-175× 90× 5× 8	SS400	小梁接合部リスト、鉄骨構造標準図(3)による
a	[-100× 50× 5×7.5	SS400	PL-9　H.T.B 2-M16
b	L- 65× 65× 6	SS400	PL-9　H.T.B 2-M16
c(※)	H-150×150× 7×10	SS400	PL-9　H.T.B 2-M16
d	H-100×100× 6× 8	SS400	PL-9　H.T.B 2-M16
P1	□-175×175×12	STKR400	PL-9　CT-150×250×9×14　H.T.B 2-M16　B.PL-16×360×220　A.Bolt 2-M16 L=20d D.N
P2	□-150×150× 9	STKR400	PL-9　CT-150×200×8×13　H.T.B 2-M16　B.PL-16×340×200　A.Bolt 2-M16 L=20d D.N
P3	□-150×150× 6	STKR400	PL-9　CT-150×200×8×13　H.T.B 2-M16　B.PL-16×340×200　A.Bolt 2-M16 L=20d D.N
P4	□-125×125×4.5	STKR400	PL-9　CT-150×175×7×11　H.T.B 2-M16　B.PL-16×300×170　A.Bolt 2-M16 L=20d D.N
P5	□-100×100× 6	STKR400	2PL-6　2-16φ(普通ボルト)　B.PL-12×260×150　A.Bolt 2-M12 L=20d D.N
P6	□-100×100×3.2	STKR400	2PL-6　2-16φ(普通ボルト)　B.PL-12×260×150　A.Bolt 2-M12 L=20d D.N
P7	□-100×100×2.3	STKR400	2PL-6　2-16φ(普通ボルト)　B.PL-12×260×150　A.Bolt 2-M12 L=20d D.N
P8	H-200×100×5.5×8	SS400	PL-9　H.T.B 2-M16
P9	H-150×150×7×10	SS400	PL-9　H.T.B 2-M16
P10	H-100×100×6×8	SS400	PL-9　H.T.B 2-M16　B.PL-12×260×150　A.Bolt 2-M16 L=20d D.N
D1	□-200×200×12	STKR400	PL-9　CT-150×250×9×14　H.T.B 3-M16
D2	H-200×200× 8×12	SS400	PL-9　H.T.B 2-M16
D3	□-150×150×12	STKR400	PL-9　CT-150×200×8×13　H.T.B 2-M16
D4	□-150×150× 9	STKR400	PL-9　CT-150×200×8×13　H.T.B 2-M16
D5	□-125×125× 9	STKR400	PL-9　CT-150×175×7×11　H.T.B 2-M16
D6	□-125×125× 6	STKR400	PL-9　CT-150×175×7×11　H.T.B 2-M16
D7	□-125×125×3.2	STKR400	PL-9　CT-150×175×7×11　H.T.B 2-M16
D8	□-100×100×4.5	STKR400	2PL-6　2-16φ　(普通ボルト)
D9	□-100×100×2.3	STKR400	2PL-6　2-16φ　(普通ボルト)
V1	[-150×75×6.5×10	SS400	PL-9　H.T.B 8-M20
V2	1-M16	SS400	PL-9　H.T.B 1-M16　JISターンバックル筋違い
V3	1-M18	SS400	PL-9　H.T.B 1-M20　JISターンバックル筋違い
V4	1-M22	SS400	PL-9　H.T.B 1-M22　JISターンバックル筋違い
母屋	C-100×50×20×2.3 750@(2,250@)	SSC400	PL-6(曲げ加工)2-12φ(普通ボルト)
FD1	SF12	SGCC-Z12	頭付きスタッドボルト 19φ-16φ

耐風梁のPL-9はL-100×100×10に変更可能とする。
特記外の PL は SS400 としボルトは S10T とする。

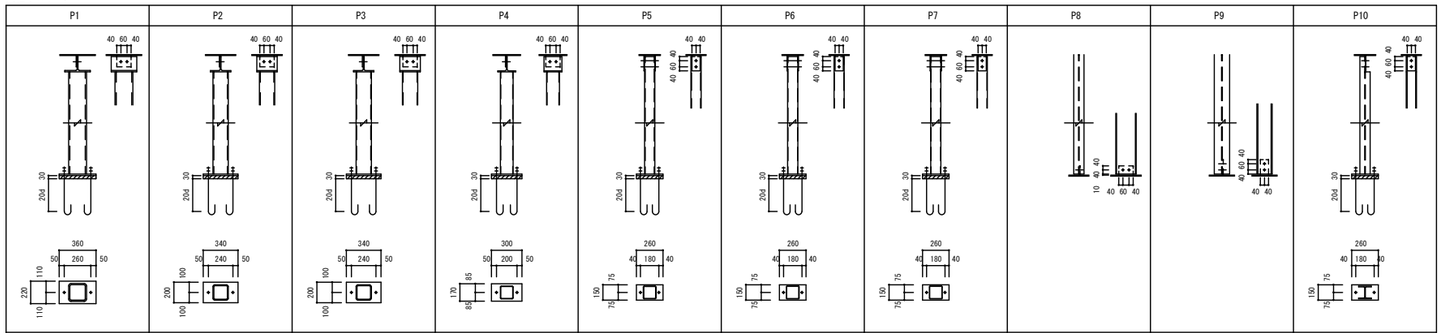
※表示は溶融亜鉛メッキを施しボルトは F8T とする。

小梁接合部リスト 1/30

特記外は(S-04)鉄骨構造標準図(3)による

	G90h + G70 + B40	G90h + B40	G90h + B40	G90h + B194	B40(G70) + B194	G70 + B194	G588 + B30(G588+B30+B30)	G80h + B45	G80h + B45	G80h + B45
断面										
小梁接合部	PL-12	PL-12	2PL-12×180×260	PL-9	PL-9	PL-12	PL-9	PL-12	PL-12	PL-12
	H.T.B 5-M20	H.T.B 5-M20	H.T.B 4-M20(2面)	H.T.B 2-M16	H.T.B 2×2-M16	H.T.B 2×2-M20	H.T.B 2×3-M20	H.T.B 5-M20	H.T.B 5-M20	H.T.B 2×5-M20
方杖接合部	L-65×65×6(SS400)	L-65×65×6(SS400)	L-65×65×6(SS400)	L-65×65×6(SS400)		L-65×65×6(SS400)		2L-65×65×6(SS400)	L-65×65×6(SS400)	
	PL-12	PL-12	PL-12	PL-9		PL-12		PL-12	PL-12	
	H.T.B 2-M16	H.T.B 2-M16	H.T.B 2-M16	H.T.B 2-M16		H.T.B 2-M16		H.T.B 2-M16	H.T.B 2-M16	
小梁接合部	H.T.B 6×2-M20									
位置	R2階伏図	R2階伏図	R2階伏図 ①	R2階伏図 ②	R2階伏図 ③	R2階伏図 ④	R2階伏図	R1階伏図 ⑤	R1階伏図 ⑥	R1階伏図 ⑦
	G588 + B25	G588 + B25	G588 + B194	G40 + B194	G40 + B175	G390 + B30	G340 + B175	B488 + G40		
断面										
小梁接合部	PL-9	PL-9	PL-9	PL-9	PL-9	PL-9	PL-9	PL-9		
	H.T.B 2-M16	H.T.B 2×3-M20	H.T.B 3×2-M20	H.T.B 2×2-M16	H.T.B 2×2-M16	H.T.B 2×3-M16	H.T.B 2×2-M16	H.T.B 4-M20		
方杖接合部	L-65×65×6(SS400)									
	PL-9									
	H.T.B 2-M16									
小梁接合部						G390+G340も同様とする				
位置	R1階伏図 ⑧	R1階伏図 ⑨	R1階伏図	R1階伏図	R1階伏図	R1(上部)階伏図	R1(上部)階伏図	R1階伏図		

間柱リスト 1/30

P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
									
□-175×175×12	□-150×150×9	□-150×150×6	□-125×125×4.5	□-100×100×6	□-100×100×3.2	□-100×100×2.3	H-200×100×5.5×8	H-150×150×7×10	H-100×100×6×8
PL-9　H.T.B 2-M16	PL-9　H.T.B 2-M16	PL-9　H.T.B 2-M16	PL-9　H.T.B 2-M16	2PL-6　2-16φ(普通ボルト)	2PL-6　2-16φ(普通ボルト)	2PL-6　2-16φ(普通ボルト)	PL-6　2-M16	PL-9　H.T.B 2-M16	PL-9　H.T.B 2-M16
CT-150×250×9×14	CT-150×200×8×13	CT-150×200×8×13	CT-150×175×7×11	-	-	-	-	-	-
B.PL-16×360×220	B.PL-16×340×200	B.PL-16×340×200	B.PL-16×300×170	B.PL-12×260×150	B.PL-12×260×150	B.PL-12×260×150			B.PL-12×260×150
A.Bolt 2-M16 L=20d D.N	A.Bolt 2-M16 L=20d D.N	A.Bolt 2-M16 L=20d D.N	A.Bolt 2-M16 L=20d D.N	A.Bolt 2-M12 L=20d D.N	A.Bolt 2-M12 L=20d D.N	A.Bolt 2-M12 L=20d D.N			A.Bolt 2-M12 L=20d D.N

共通事項

1．梁フランジ溶接部はノンスカラップ 溶接工法とする。

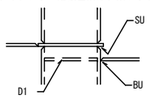
2．通しダイアフラムは、SN490C材とし、板厚は取付く梁フランジ厚の2サイズ(+6mm)以上とする。

3．内ダイアフラムは、SN490B材とし、板厚は取付く梁フランジ厚の2サイズ(+6mm)以上とする。

4．ハンチ部はビルドHも可とする。

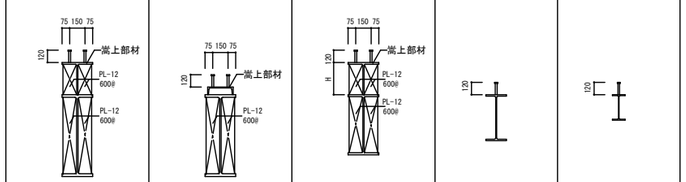
5．梁joint位置及び柱際にはデッキプレート受を設ける。

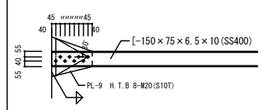
6．内ダイアフラム溶接箇所は、梁ブラケット取付前に第3者による超音波探傷試験を行うこと。



7．外壁受け下地材を鉄骨構造部材へ溶接にて取付ける場合は、溶接による母材の断面欠損を防ぐ為、事前に捨プレート(t≧6)等を設けること。

頭付きスタッド リスト 1/30

符号	G80h	G80h	G588	B45	B25
断面					
部材	H-800×300×14×26	H-800×300×14×26	H-588×300×12×20	H-450×200×9×14	H-250×125×6×9
嵩上部材	CT-395×300×11×18(2通) CT-315×300×11×18(3通) CT-235×300×11×18(4通) CT-155×300×11×18(5通)	[-250×75×9×13(6通) [-250×100×9×13をカット	CT-H×300×11×18 (395≧H>75) [-250×H×9×13 (75≧H)		
頭付きスタッド	2-19φ-300@	2-19φ-300@	2-19φ-300@	1-19φ-300@	1-16φ-300@

V1 接合部	
	
部材	[-150×75×6.5×10(SS400)
接合部	PL-9　H.T.B 8-M20
備考	V2,V3,V4接合部は鉄骨構造標準図(3)による

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所
一級建築士登録第343672号　大橋康孝

検印	聯絡	主任
大橋	大橋	大橋
日付 令和7年6月		製図 原田

一級建築士登録第270124号
構造設計一級建築士登録第 2066号
原田 和彦

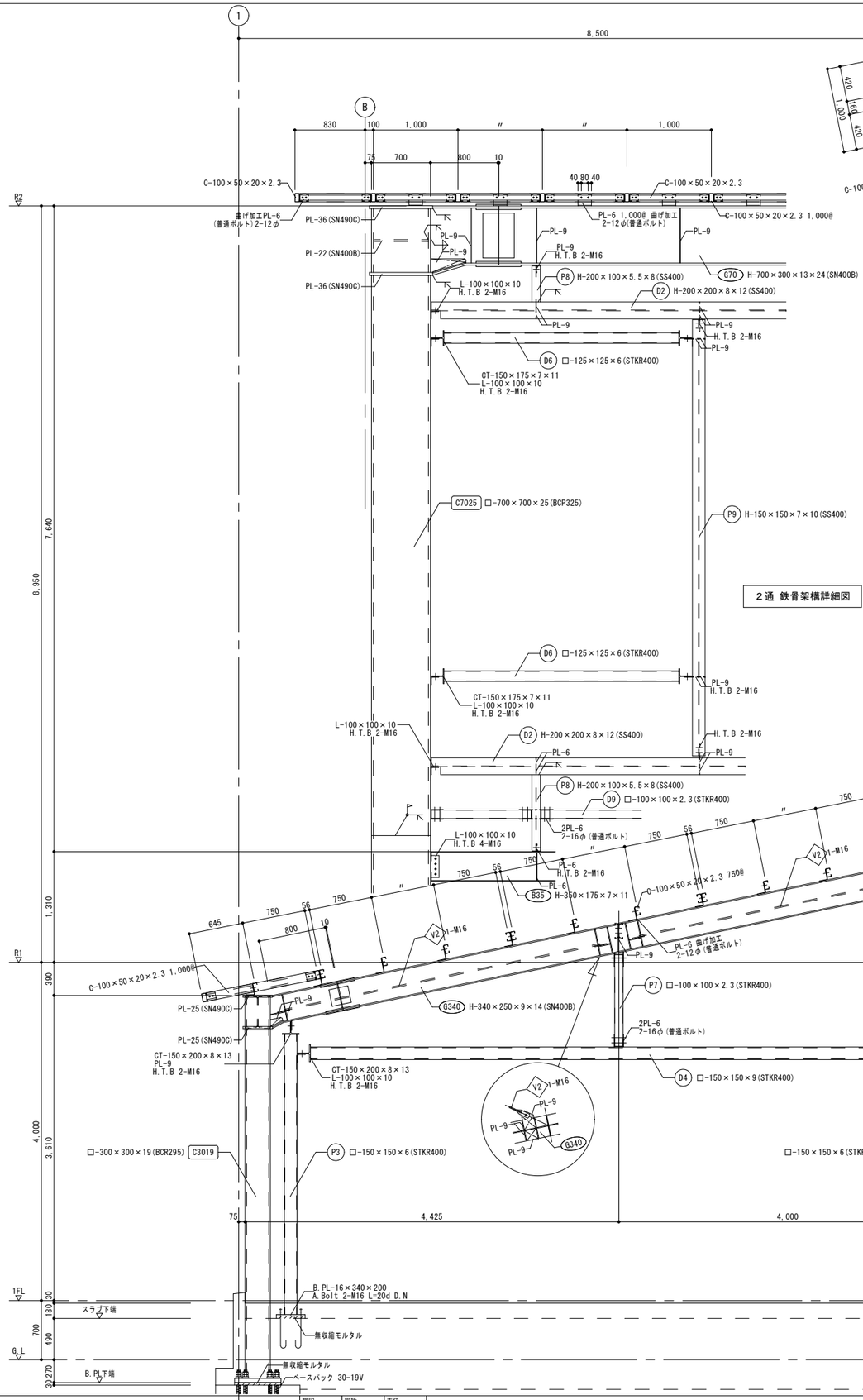
設計 NO.

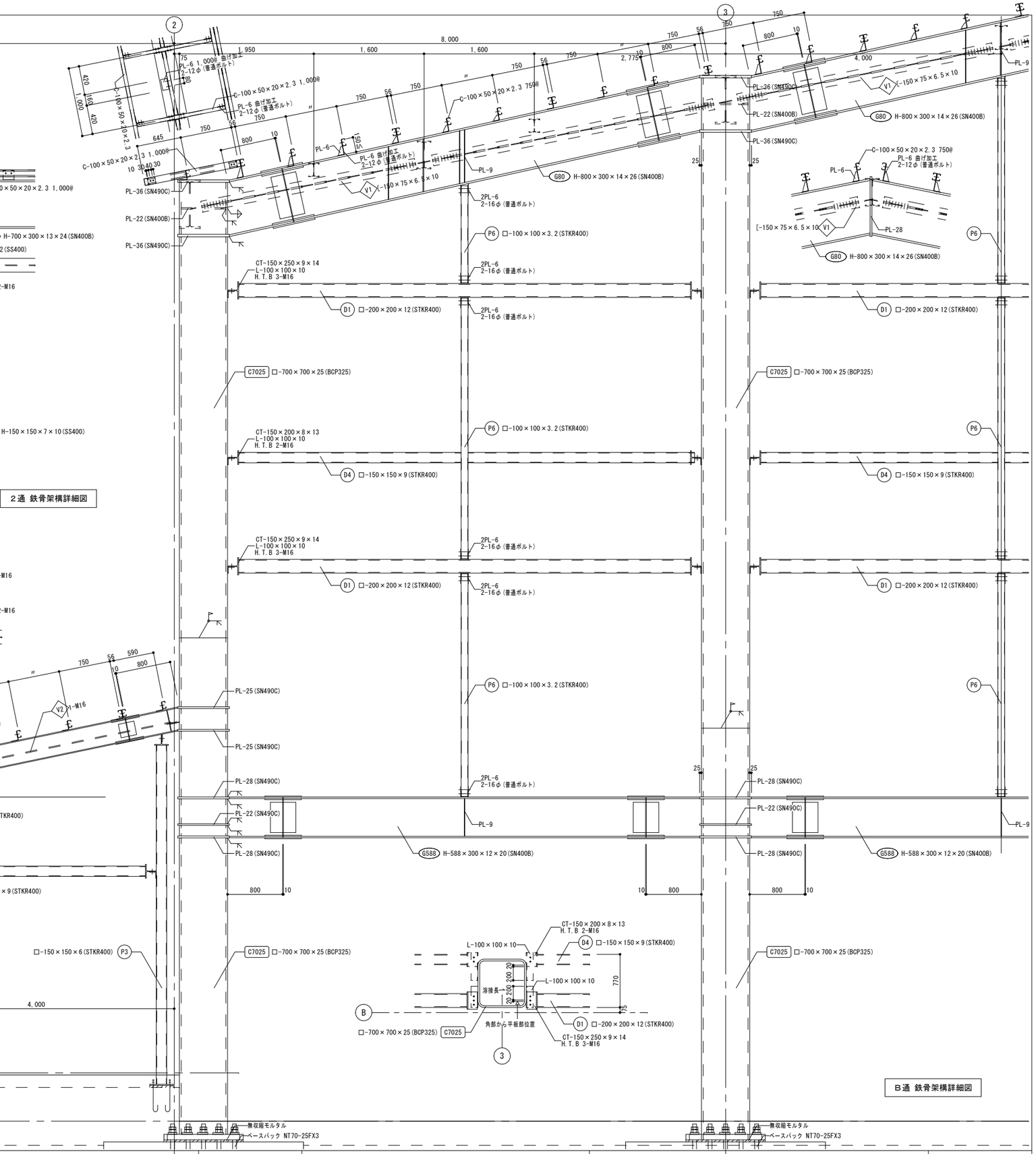
工事名　令和７年度　焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

図面名　鉄骨部材リスト

縮尺　A1：1/30　A3：1/60

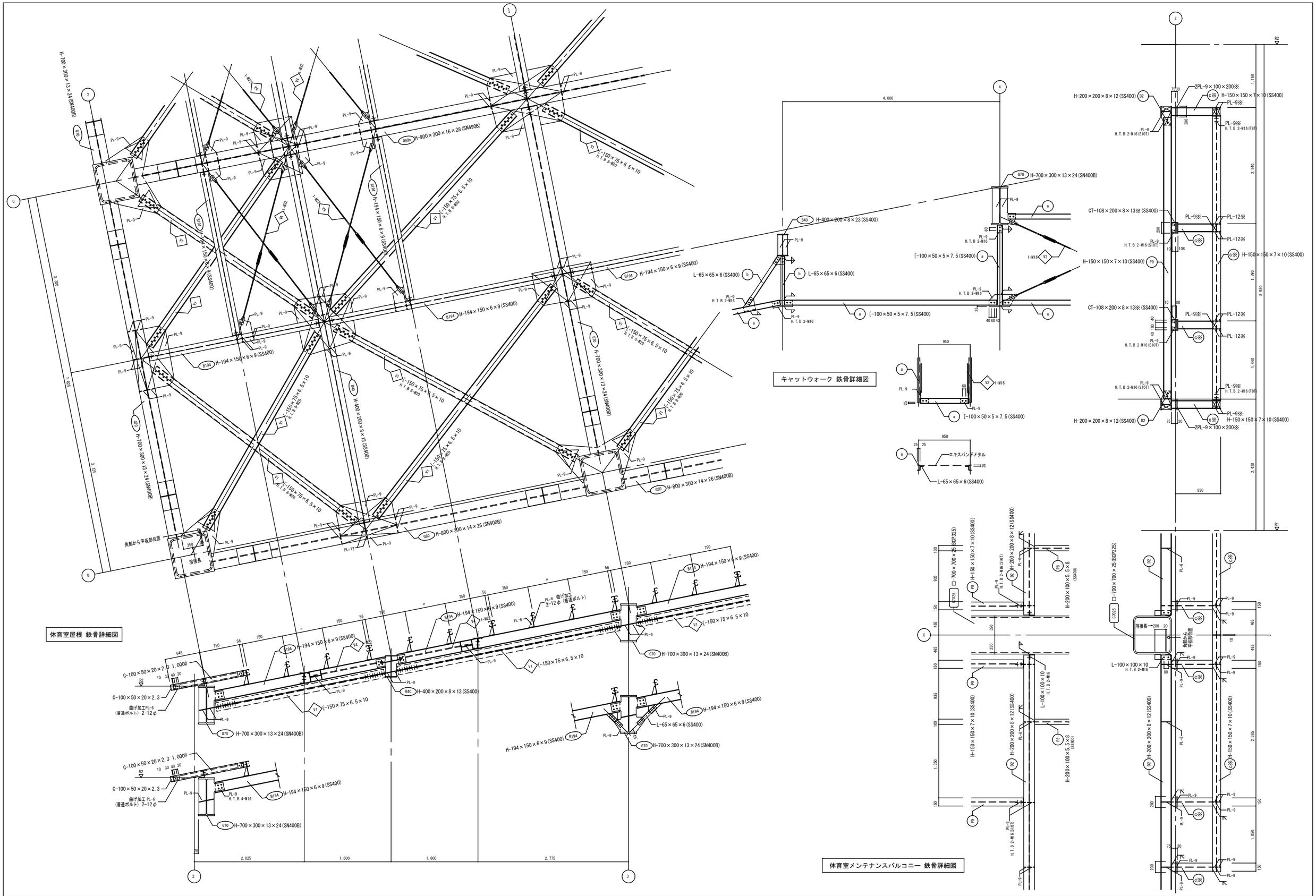
図面 NO.　S－０２８





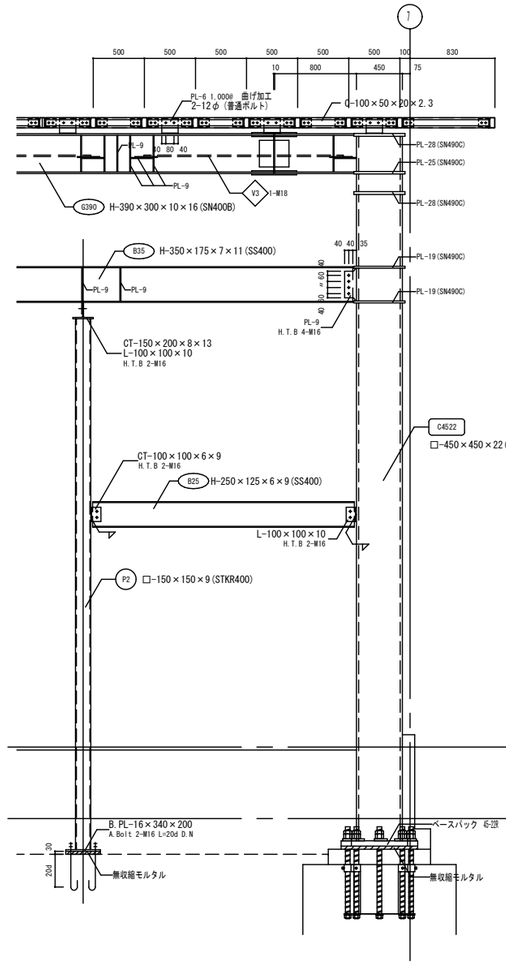
株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	一級建築士登録第270124号 構造設計一級建築士登録第 2066号 原田 和彦	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 鉄骨架構詳細図１
	日付 令和７年６月		製図 原田				縮尺 A1：1/30 A3：1/60

図面 NO. S－０２９

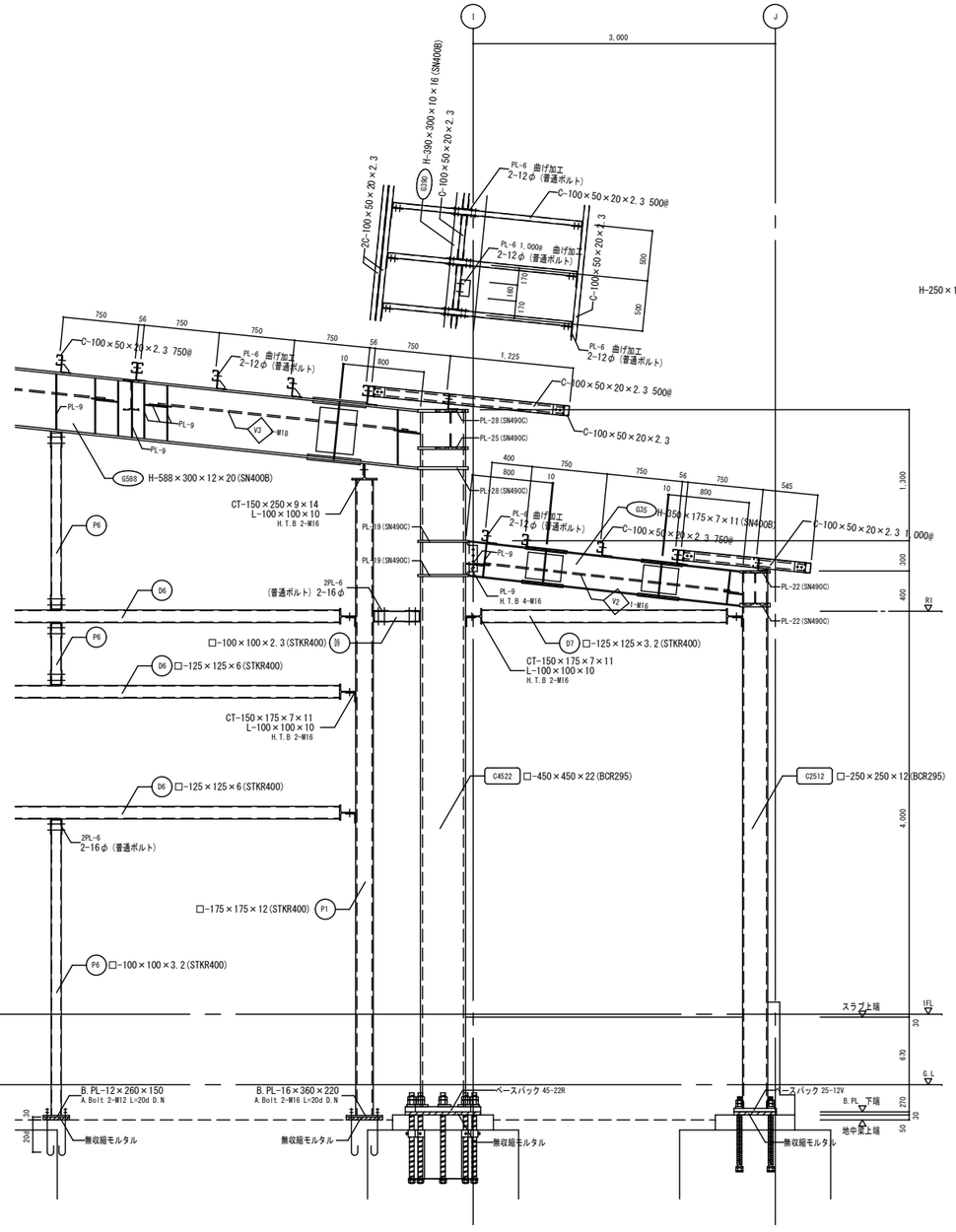


株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋 / 日付 令和７年６月	総括 大橋	主任 大橋 / 製図 原田	一級建築士登録第270124号 構造設計一級建築士登録第 2066号 原田 和彦	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)

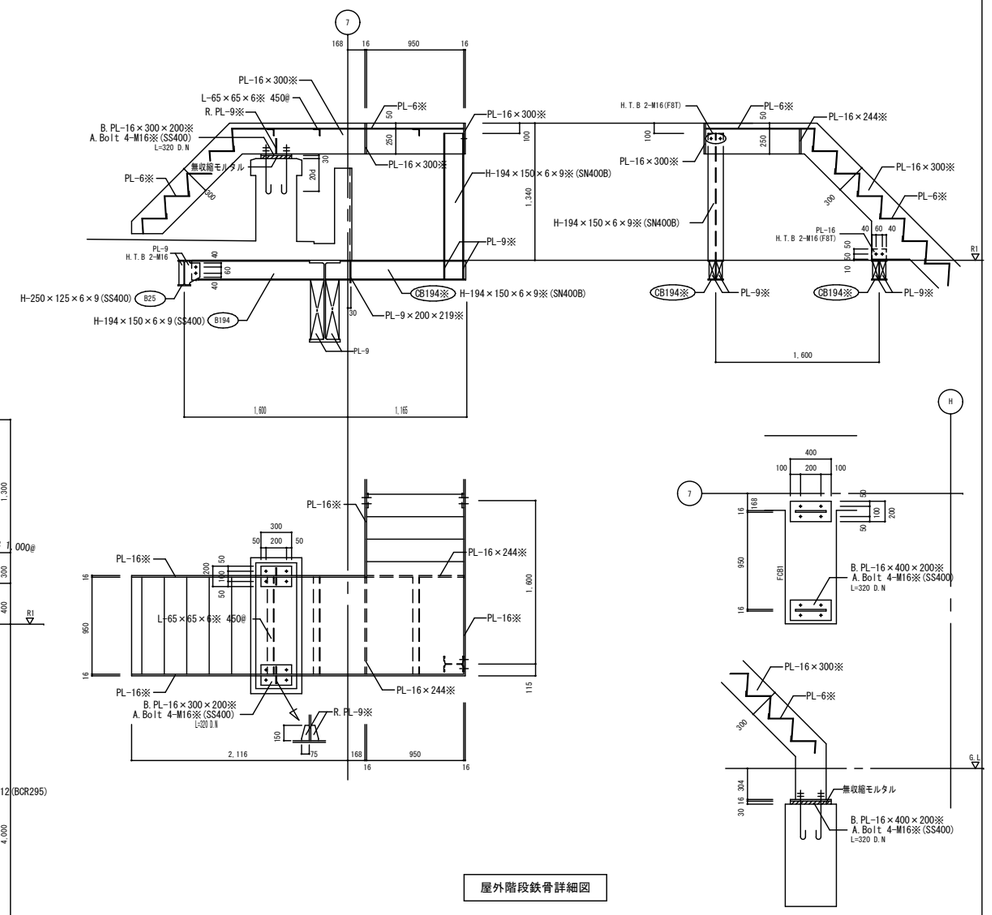
図面名	縮尺	図面NO.
鉄骨架構詳細図２	A1：1/30 A3：1/60	S－０３０



I通 鉄骨架構詳細図



7通 鉄骨架構詳細図



屋外階段鉄骨詳細図

株式会社 高橋茂弥建築設計事務所 一級建築士登録第343672号 大橋康孝	検印 大橋	総括 大橋	主任 大橋	一級建築士登録第270124号 構造設計一級建築士登録第 2066号 原田 和彦	設計 NO.	工事名 令和７年度 焼津体育館建設工事(建築工事)(債務負担)	図面名 鉄骨架構詳細図３	縮尺 A1：1/30 A3：1/60	図面 NO. S－０３１
	日付 令和７年６月		製図 原田						